

けもフレ異聞録 けも  
ののきろく ~現代人  
の知識と近代兵器で  
ジャパリパークを攻略  
してみた~

大きさの概念

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

【やさしくない世界のやさしいけものたち】

「あの3人」の旅が昔話として語られる時代にて…

ヒトに忘れ去られたジャパリパークでの

あなたの知らないフレンズ達の冒険の記録を見てみましょう

がんばれ！ ハナコ（主人公です）！ カラカル！

キリン（雑種）！ アードウルフ！

あなたの本能と知性を刺激する！

血沸き肉躍る！ 知恵と勇気と友情と理解の

バーリトウッド（なんでもあり） 娯楽小説！

【なにこれ？なにこれ？】

けもフレ1期のリスパクト二次創作ですが、動物原作&友情要素という、けもの賛歌精神や一部の人物や設定のみ引き継いでいるだけのほぼ別物「異説けものフレンズ」です。

戦闘シーン増し増し。絵本のような1期に対して、こちらは車・銃・爆発・格闘・ものづくりなどの描写多めのゲームっぽいシナリオ構成です。

動物解説も多めですので「動物のことをもっと知りたい方」にとくにオススメです。

【TIIPについて】

サブテキスト（欄外説明）です。自然科学知識、一般知識や雑学、国語辞典的な説明、訳あつて本編に入れにくい文章、銃器や格闘技など戦闘時の実況解説、別視点ヘザッピング、裏設定や考察、一発ネタなどなど。

テンポを重要視される人は全スルーで本編を読み進めても問題無し。興味ある項目のみ読んだりなど、読み方は読者さんのご自由です。

1期考察用やけもフレ二次創作、その他創作作用にTIIPのみ資料集として読むこと

も可能です。あなたの何かのお役に立てて下さい。

【注意】

R-15推奨。フレンズ関連の不快感描写は極力控えますが多少のダメージ描写あり。セルリアンや動物の場合はハードなシーンを含みます。下ネタ（少年誌レベル）もあり。  
☒。

「▲」回はフレンズや動物への暴力・残酷表現を含み、「♀」回では性的成分あり。

※申し訳ありませんが激遅不定期更新。

※内容は予告なく修正や変更される場合があります。

※好評価・推薦などありがとうございます。

【免責事項】

本小説はKFP公式と無関係の非営利・娯楽・教育・研究目的の二次創作であり、実在の人物・団体・事件・政治思想等とは一切無関係です。並びに作中の記述の正確性・合法性・安全性等は未保証で、本作を読んで生じる損害について作者は一切責任を負いません。また情報の出典となる参考図書や外部リンクを併記していますが、権利者の利益や著作権の侵害等の意図はなく引用表示や資料紹介の為です。以上ご了承の上でお楽

しみ下さい。

# 目次

Chapter 0 : 非現実の獣の王

国で

第1話 ようこそ、すべての愛と罪の

集まる地へ 「▲」 1

Chapter 1 | 1 : サバナナの

ルール

第1話 英雄カバンサンの伝説

61

第2話 喰うもの、喰われるもの

「▲」 91

第3話 ネバー・クライ・アードウルフ

「▲」 118

第4話 星は天にいまし、すべて世は

こともなし 147

第5話 熱帯草原の小さな一戸建て

182

Chapter 1 | 2 : 満月夜の動物

裁判

第6話 ニンゲン、ゲットだぜ!

215

第7話 こちらジャパリパークさぼん

な公園前拘置所 241

第8話 治外法権すぎるけものたち

「○+」 277

第9話 汚れっちまった悲しみに

〔▲〕

〔♀〕

最大の作戦

第10話 セルリアンが戦車でやって

第15話 戦争の猫たちを解き放て！

くる 〔▲〕

〔▲〕

Chapter 1—3：狩られるもの

第16話 地獄の道は獅子心で舗装さ

から、狩るものへ：

れているか？ 〔▲〕

第11話 無明の中に光が見えるとき

第17話 十五夜、盗んだバイク

〔▲〕

で走り出す

第12話 ヒトの証明 〔▲〕

第18話 小さな悪魔たちにさよな

第13話 平和を欲さば戦いへ備えよ

らを：

438

第19話 わたしはキリンであな

第14話 合言葉は「ふれんず！」

ヤギで 〔♀〕

「ふあいあ〜！」

第20話 麒麟よ心に獅子を抱け

Chapter 1—4：サバンナ地方

〔▲〕

475

680

311

347

379

402

438

475

583

544

509

651

617

第21話 普賢は大象に乗りて戦い



713

第22話 ハンニバルの戦車猟兵



740

Chapter 0 : 非現実の獣の王国で

第1話 ようこそ、すべての愛と罪の集まる地へ [▲]

……パオ——ンンン——ンンン……。

ゾウの鳴き声……？

少しして……それとも長い時間が経ったのだろうか……？

うだるような暑さと、耐えきれない喉の渇き。はてしなく疲れていながらも、おとなしく寝ていられなくなった私は、泥のような眠りから目を覚ます……。

どこか、埃っぽい場所に、寝そべっている……。

着ている服は水をかけられたように濡れている。それでも汗がじわじわと次から次へと流れ出てきては、重力に従って地面に落ちていく……。

絶え間なく噴き出る汗のせいで、顔と、露出した腕と脚の、砂まみれの肌。

例の動物の鳴き声が……近くや遠くから、断続的に聞こえてくる。

風変わりなモーニングコール。

(……それにしても喉が渇く……)

口の中がひどく砂っぽい。唾液で口の中を湿らそうとするが、乾いてくつついたままの唇。歯で砂利を噛む、不愉快な感触。顎の骨を伝わる耳障りな音。

——ああ、なんて暑いんだ……。日陰のここは、風通しも良いけれど、外のむわつとした昼の暑さが、ここまで入り込んでくる……。

ここは、どこなのだろう？

……外？ 外ということは、ここは建物の中らしいが……。

らしい、とは……？

……おかしい……おかしいぞ……ここはどこか、何故ここにいるのか、ということも含めて、件の「ゾウの鳴き声のようなもの」を聞く以前の記憶が、私の頭から真っ白に抜け落ちている。

自分の両手を目の前に持ってきて、じつと見る。

……こんな手、私は知らない……。

初めからぼんやりと存在していた不安が、確かな形になって、包帯を真っ赤に染める

血のように……頭の中にじわりと広がっていく。

心臓の鼓動が速さを増す。

速まる呼吸を抑えて、私は考える。土埃まみれの汚れた顔を両手で触り、砂がまみれの髪の毛を撫でる。……いつまで経っても拭い切れない違和感……。

この顔は、私のものではない……。

……そんな馬鹿なことがあるか……自分のことをすっかり忘れてしまうなんて……。

これは夢か？ ……未知の世界にポツンといる……未知の自分……。

全て白昼の悪夢に過ぎず、「現実の私」は自分の寝室のベッドの上にいるのでは……？

……いや、不幸にも？間違いなく、これは夢ではない。

不明瞭な記憶とこうつて変わって、明晰な現実感……鮮明な感覚と冷静な思考が、この世界が非現実であることを否定させる。

こう頭だけで考えていても、しょうがない。

思い切って上体を引き起こすと、体中の骨がバキバキと悲鳴をあげる。

イヤな音が身体を伝わって耳へ届く。肩甲骨や背骨、腰など、長らく床と接していたらしい部位の、骨と筋肉がきしむ音。首や腰を動かすたびに覚える鈍痛と不快感……。

では、私はずいぶん長い間、この場所で寝ていたのだろうか……？

( )は建物の中……？ その出口から熱い日差しが差し込んでいる……。昼か……？

思い切つて立ち上がると、下半身に奇妙な違和感……。……前々からうすうす気になつていたが、あるはずのもの。【あるはずのもの】端的に言う「男性器」と称される、排尿と射精の機能を有する下半身の体器官。読者の方の半分には説明不要なモノである。いや〜ん、プロローグからお品ね〜！ でもそこまで下世話な話が多いワケではないので、そういうのがニガテな方もこの先読んでみて下さいね！がやはり無い！

ショートパンツの内側に手を入れてみると……。……出っ張つてないどころか、むしろ引込んでいる【ひっこんでいる】フッフ、ちよつと下品なんです……。……まあ女性器のこと。やはり読者の方の半分には説明不要なモノである。なおここで「生物の基本形はメスである」ということに注目したい。生物進化史において「有性生殖」以前に「無性生殖」が存在した、つまり世界はかつて「メスだけであつた」という事実である。またヒトの場合の性決定だが、性染色体が「XX」だとメス、「XY」だとオスになるため、「ヒトのオスはメスの変形である」と言える（差別的な意味はありません、念のため）。これから続々登場するジャパリパークの「フレンズ」達が、みな女性の体であるのも……。……性質が穏やかで調和を好むという性格的な理由によるものだけでなく「ヒトの基本形が女性で

ある」という生物的理由があるから……なのかもしれない。もしフレンズが「超物質サンドスター」により個体数を調整される生命体なのであれば……「遺伝子の保存役」にすぎないオスの存在理由は無い。はないか！

私は大変なショックを受けた！

逆に胸の方には、大きな脂肪のカタマリが……ない？ いや、あるにはあるのだが、た

いへん薄い……。がつくり！

なぜ自分の体の構造【自分の体の構造】男女の性差について取り扱った古代神話は数多い。日本神話でのイザナギのイザナミへのセリフで『この吾が身の「成り余れる処」を以て、汝が身の「成り合はぬ処」に刺し塞ふたぎて、国土生み成さむ』という記述がある。この「国産み」神話は、東南アジア一帯で散見される「洪水型兄妹始祖神話」の一種である。また、ギリシャ神話などに伝わる「両性具有アンドロギュノス」という存在——ヒトはかつて男女が一体となった「完全な姿」であつたが、後にこれがふたつに分かれてしまい、そのために男女はお互いを求めあう……という神話。「不完全なもの」同士がお互いの欠落を補つて、ひとつの完璧なシステムを形成する……という、生物学性差に由来するこの考え方は、今後描かれる「フレンズ」の社会にも色濃く受け継がれている……。に対して、ここまで衝撃を受けるのか……？ 自分の性別に対する違和感の理由は不明だが……そのことばかりを、独りで考えていてもしかたがない。

気を取り直して身の回りを見渡す。

今まで私が寝転がっていた場所……そこはこじんまりとした「部屋」の床だった。刑務所の独房のような場所……。

そばの床には、かつて何本もの鉄格子があつたらしい丸い穴が、いくつも並んでいる。唯一のドアを開けると、隣接する洋式便器のような陶器製の物体があつた。しかし、それはからからに干からびている。貯水槽らしきものから垂れ下がる鎖を引くと、赤錆びた水がチョロチョロと流れた。

再び「部屋」に戻って、あたりを見る。殺風景さに似つかわしくない動物の絵が描かれた壁……。だが、ひどく荒廃している様子……。

鮮やかな色づかいのタイルが使われていたらしい床は、大部分が剥がれて、打ちつばなしのコンクリートが顔を見せる。出口に近づくほど、大量の乾いた土埃で赤茶色になっている。

ティンガティンガ【ティンガティンガ】1960年代、タンザニアの都市ダルエスラームにて活躍した画家。おもにゾウ、キリン、イボイノシシなどのアフリカの動物たちや自然を、生き生きとしたタッチでペンキで壁に描いた。正規の美術教育を受けていない自由奔放な作風が特徴。風の動物が描かれた壁は、だいぶ損傷が激しく、ほとんど崩れ

かけている箇所すらある。元々はビビッドな色使いであつたらしい、強いデフォルメが施された動物たち……全身が色あせて朽ちかけの、ゾウやカバ、シマウマ達が、大きな目をこちらに向けてくる。大の大人でも一瞬ギョツとするような不気味さ……。

出口や換気用の小窓の付近に目を向けると、そこは外からツタ植物が入り込み、それもかなり繁茂している。よく見ると、枯れた古いツタが相当な量ある。どうやら長期間、自然に晒され、手入れされないままになつていたようだが……。

私は「独房」の出口へ向かつた。

そこにあつたものは……小ぶりの簡易的な陶器製の洗面台と、鏡。おそろおそろ蛇口のレバーをキュツとひねる。表面が劣化し黒く錆ついたレバーは、案外軽く回つて……しばらくすると……やった！ 水が出てきた！ こちらでもまた、赤茶色の水が大量に出た後、透き通つた綺麗な水が滝のように勢いよく出始めた！ 太陽の光を受けて、キラキラと水しぶきが輝く！

だがこの水道水、はたして衛生的なのか、飲料水として適しているのか……一瞬そう逡巡したものの、意外なほどすぐに理性と嫌悪感は吹き飛び、我慢できなくなつて、小さな洗面台のシンクと蛇口との間に頭をねじ込む。私の後頭部で蛇口を抑えられて、行き場を失つた水道水が、噴水のように水平にほとばしる。

頭にたつぷり水を浴びて、髪の毛と顔の土埃を落としてから、顔を上に回してごくごく喉を鳴らして水を飲む。その二つの行動を、まるで動物の習性のように、何度も、何度も、繰り返し返す。

動物のような水浴びをひとしきり楽しみ、暑さと渴きで干乾びていた頭と体に、潤いを与えることができた。

ついでにこのまま服を脱いで行水をしたかったが、さすが躊躇われた。なにしろ自分の置かれている状況が不明なことを考えると、あまりリラックスすることもできない。もしかしたら、この水だつて貴重なものなのかもしれない。下着まで汗びっしょりで汗臭くてたまらないのだが、まあ我慢だ……。

落ち着いた私は、自分のことをさらに考える余裕が生まれた。

私は目の前の鏡を見た。洗面台の鏡は割れて半分以下の大きさになっており、四隅のひとつに、三角形の破片が固定されて残っているのみ。

外から乾いた土埃が入ってきて吹き付けるのだろうか……赤茶けた土の塊がカビのように表面にくっついていて、鏡としての役割を果たさないほど。

私は水を手ですくって鏡にかけて、シャツを脱いで折り畳んで鏡を吹く。

割れた鏡面の奥、逆光でうす暗い鏡面に現れたのは……肩の高さより下ぐらいの長さ

の亜麻色の髪を、水で滴らせた少女……。汗まみれで、土で汚れて、疲れ切つて、ひどく怯えた顔。灰色の瞳……。

人種はよく分からない……。

このとおり、思考は日本語によるものだが……鏡の中の人物は、何人にも見える。なたじん

……まるで身に覚えがない。

全く記憶にない顔……これが私の……？

おそらく歳のほどは、十代半ばくらい……だと思う。  
身長は……洗面台の高さなどと比較すると、平均的な中学生くらいなの、少女の背丈や体格だと思われる。

次に自分の衣服や所持品を詳しく調べることにした。

キャンバス地のスニーカーに、ウールや綿、化繊の混紡の厚手の靴下。

上下の女性下着。デニム生地の上着、ショーツパンツ。黒と白のボーダー柄シャツ。薄手の夏用ジャケット。厚手の耳当てつきのキャップ。黒と白のボーダー柄シャツ。薄手

全体的にサイズが大きめだが、ウエストや袖にはボタンやベルトがついており、ある程度のサイズ調整が可能だ……。

どれも動きやすく耐久性に優れ、地味な色合い……アウトドア用、あるいは軍用払い

下げ品の衣服だろうか？

そばには、防水用のビニール製の内張りがされたバックパックと、肩掛けの小さなバッグ（昔の学生がつかうような雑囊ざつものう）が落ちていた。

かばんの中にあつた物品は以下……予備の靴下が一足。ステンレス製の先割れスプーンホー「先割れスプーン」スポーク。スプーンとしてもフォークとしても使える便利なカトラリー。……だが逆に考えると、スプーンとしてもフォークとしても微妙に使い辛いとも言えるか？ 介護用食器、幼児用食器、そして刑務所内の食器としても（武器に加工しにくいプラスチック製のものが）使われる。コンビニなんかでも、もらえぬね。一般的には、フルーツを食べるときのタネ取りに向いているほか、「ラーメンフォーク」として（おもに名古屋の『スガキヤ』で）使われることも。がひとつ。カバール付きのステンレス製水筒が一個。ちびた鉛筆数本。子供の使う学習長のような古いメモ帳。

現金類や身分証、文明の利器の類は皆無だ。また、衣服や所持品には、ブランド名やイニシヤルなどの、身元の手掛かりになるような文字は一切な無い。

あとは……一枚の大きな布……これには紐と金属製の穴メがついていて、それを使うとコートのような形状にして着ることができぬ。

ここでいくら探索して自問自答していても、「私」に関する答えは出ないだろう。

私は、原始人よりは少しましな程度の持ち物をまとめたのち、強い日ざしを避けるためにコート羽織ってから、トイレの外に出ることにした。

さて、部屋を出るとサバンナであった。

さわやかな風。まぶしい太陽。

「シャバの空気は旨え……」

……つまり外は、あの動物図鑑やドキュメンタリー番組などで見るような、雄大なサバンナのあの風景なのであった。

青い空と、枯れたような色の草原を、一直線に隔てる水平線。まばらに生える草むら。点在するアカシア〔アカシア〕アカシアの仲間はたくさんあり、ケニアのサバンナだけでも40種以上ある。この周辺に多く生えているのは、マメ科ネムノキ亜科アカシア属のサバンナアカシア。学名：アカシア・トルテイリス (*Acacia tortilis*)。成長すると高さは20mにもなり、サバンナの風景としておなじみ。ゾウやキリンが低いところの葉を食べるので、高所の葉のみが残って傘のように横に広がるといった特徴的な形状になるので、別名アンブレラ・ソーン・アカシア。遠目だと分からないが、実は鋭いトゲだらけの木で、むしろトゲばかりの隙間に葉が生えていると言っている。ゾウやキリンは平然と葉を食べるが、トゲは平気なのだろうか？ 目や舌に刺さりそう

なものだが……。ちなみに「アカシア」という植物には文学的な印象があるが、実は日本語のアカシアは明治時代に輸入された北米原産の「ニセアカシア」を指していることが多い。インディアンの男女がこの木の下で愛の告白をしたという伝承に基づく、詩的なイメージ。だがアフリカやオーストラリアに1000種以上もある「本物のアカシア」は、多くが爪楊枝ほどの恐ろしく鋭いトゲが生えた、野生的な高木ばかりなのである。

このサバンナのような場所は……どこだ？ 外国だろうか？ アフリカなのか？

とりあえず、日本にはこんな場所があるはずが……いや、サファリパークのテレビCM【サファリパークのテレビCM】ここで「私」が脳裏に思い浮かべているのは「富士サファリパーク」のCM。「ホントにホントにライオンだ〜」「近すぎちゃってどおしくしよ〜」などの特徴的すぎるフレーズの、串田アキラ氏によるCMソングが有名。現地では撮影ロケされているハズなのだが……ゾウやキリンやライオンのイメージに引つ張られて、CM映像の背景もサバンナだったと間違つて覚えてしまったのだろうか……？ のような……。

遠くを見ると、地平線にそびえる山々……。

一番大きな山の山頂がキラキラと淡く、七色の虹の色【七色の虹の色】赤・橙・黄・緑・青・藍・紫、日本では虹はこの7色とされている。だが実際の虹の光学スペクトルは連

続しており、明確な境界があるわけではない。世界中どこでも「虹」という気象現象は同じモノだが、言語や民族によって「色」や「数」に対する考え方が異なるため、虹が何色かは文化によって異なるのだ。科学的な定義で虹を7色としたのは、かのアイザック・ニュートンだが、キリスト教の宗教音楽の7つの音階になぞらえて7色としたと言われている。だがアフリカの「アル部族」の間では7色に黄緑を加えて8色だとされる。アメリカでは7色から藍色を抜いて6色が一般的。ドイツではさらに紫を抜いて5色。インドネシアのフローレス島ではさらに橙を抜いて4色。台湾のブヌン族では赤・黄・紫の3色。南アジアのバイガ族では「赤と黒」つまりザツクリと明（暖色）と暗（寒色）の2色としている。ほかに、虹を「明暗の2色のみ」としている文化は世界中にかなり多い（アフリカのバサ語族、シベリアのエヴェンキ族、日本の沖縄ちほー、東南アジアのクキ・チン諸族、中国の少数民族イ族など）。また、その文化における「尊い数」はいくつか、というのも重要で、西洋では長らくキリスト教の聖なる数、「三位一体」の3色とされてきた。日本では「五行思想」の影響により5色とされた時代が長い。ロシアやペルーのように、明確に何色かに決まっていなくて個人の感性によって数が異なる国もある……。このように、異なる言語（異なる文化・思考）によって、同一の現実世界が異なって観測されるという考え方を、サピアールウオーフの仮説（言語的相対論）と言う。で、結論を言うと、この虹を七色と思う「私」は、単なる「日本語の話者」である

のみならず、「考え方や価値観も日本的」なのだと言える。に輝いているような……。

山（山頂部が噴火口になっている……？）から、虹色の角ばった輝く物体が上へと飛び出して、鍾乳石のような構造物を形成している。あれはビスマス結晶【ビスマス結晶】希少金属レアメタルの一種、ビスマス。原子番号83。元素記号は Bi。日本名：蒼鉛そうえん。比較的柔らかくて加工しやすく、また人体に毒性が低いため、アクセサリーに加工されたり、鉛の代替として釣り用の錘やショットガンの散弾として利用される。ビスマスの結晶が生成されると、空気中の酸素と化合して虹色の酸化被膜をつくる。きれいな色合いの被膜のビスマス結晶の標本は、観賞用や理科教材用として市販される。に似ている。

あれはブロッケン現象【ブロッケン現象】太陽光が山頂に差し込み、雲や霧の粒によって光線が拡散して、観測者の影の周囲に「虹の輪」が出現する気象現象。ドイツでは「ブロッケン山の怪物」と呼ばれ、日本の仏教や修験道では阿弥陀如来の「御来迎」などと呼ばれて、長らく神秘現象だと思われてきた。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する「天気輪」もコレだという説がある。基本的に山岳・航空機から観測できる気象現象だが、福島県・奥会津の只見町の名物になっているように、特殊な条件下においては平野部でも観察できる。また太陽光ではなく、自動車のヘッドライトによりブロッケン現象が起こることもある。なのか？ いや、あれは山で見られる現象だから違うか……。そ

れとも火山の噴出物のようなものかな? ……遠くは細部がぼやけて「遠くは細部がぼやけて」美術では「空気遠近法」と呼ばれる視覚現象。大気中の水蒸気により、遠くのモノほど輪郭が不明瞭になり、彩度が下がって見える現象。ルネサンス期にかのレオナルド・ダ・ヴィンチが発見し、研究して自身の作品に生かしたと言われている。いて、よく分からない。……あの怪現象については、とりあえず放っておこう。

突然、ぞつとするような視線を感じた。遠くを見つめていた視線を下ろして、近くの地面を見た。

その時初めて——いつからかは分からないが——すぐそばの地面に「それ」があったことに気が付いた。

異形の五つ眼とハサミ〔五つ眼とハサミ〕このように形容される生物が、過去の地球上にも実在した——節足動物門・オパビニアOpabinia (Opabinia regalis)。約5億年前の古生代カンブリア紀の生物、バージェス頁岩の分類不明化石である。この奇妙な化石生物は4〜7cm程度であったそうだが、ジャパリパークではそれがネコほどに巨大化し、さらに陸上活動までするとは……セルリアンの生態系は奇妙というほかない。が私を見つめている……。

それは……どう表現すべきか……地面から飛び出た「五つの眼」と「トゲの生えたのアゴ」である。

頭の五つの「眼」のそれぞれの眼の下には「柄」のようなものがある。それによって地面から生えている。

また幅広の「顎」の大きさは、ヒトの掌大のサイズほど。縁の内側には、植物のトゲを思わせる同じ形のキバが生えている。

食虫植物「ハエトリグサ」……あるいはパン屋のトングか……。

いや、狩猟罟の「トラバサミ」……というのが最も適切な例えかもしれない。そのガマ口が「鼻」によって、五つの眼のそばに、地面からよきつと飛び出しているのだ。

そしてその「物体」の、サバンナの青空を映したかのような鮮やかな青色……。

五つの眼がギョロギョロと四方八方を向いて辺りを観察している。「顎」のほうは、真昼のサバンナの風に揺られてフラフラ動いている。

……なんなんだ、これは？ 植物なのか、それとも動物……？

深海に潜む海洋生物のような、顕微鏡のレンズの中に棲む単細胞生物のような……。まるで、子供の落書きが現実化したような、開けっぴろげの不気味さ、グロテスクさ……。

いや案外、愛嬌があつて……。いや、やっぱり全然無いような……。とにかく「それ」に实在性を感じ無かつた私は、軽率にも……。好奇心の赴くままに、「それ」をもつと観察しようと、自ら近づいてしまった……。迂闊にも。

突然、私の頭を狙つて口吻を真つ直ぐに突き出す一撃！ まつたくの予備動作無しで放たれる奇襲！

そいつの観察に気を取られていて、反応が遅れて攻撃を避けることができなかつた！

だが、何とか致命傷を避けることはできた……。といつても私が取つた行動は、身を引つ込めて両手で頭をかばうという、本能的な反射行動にすぎず……。

頭に直撃していれば、バナナや柑橘類の皮を剥くように簡単に、鋭利な顎の歯によつて顔を丸ごと削ぎ取られていただろう……。そのかわりに――

左の前腕から先が、その触手の「顎」に食いつかれていた。

「うおおおッ!! 痛<sup>い</sup>アーーッ!!」

傷！ 血！ 左腕の傷口からの出血！ 顎の食い込んだ腕の皮膚が、安手のビニール素材のようにたやすく破れて、ぎりぎりとは広がっていく穴！ 壊れた万年筆から赤イン

クが噴き出すように、粘性のある赤い液体が乾燥した大地へ滴り落ち、すぐに大きな黒い染みになる。

同時に虹色の結晶のようなものが、傷口のまわりから滲出しんしゅつしている!!

オキシドール〔オキシドール〕医療用消毒液の一種。3%程度に希釈された過酸化水素水（H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>）のこと。傷口にかけると、多くの生物が細胞内に持つ酵素「カタラーゼ」の働きにより、過酸化水素はすぐに酸素と水に分解される。この酸素の殺菌作用により消毒を行う。を傷口にかけた時の泡のように、虹色の気体が立ちのぼっている……!?!?

なんなんだこれは？ 奴の唾液か？

鈍器で腕を叩かれるような激痛が続く。むせかえるような鉄の臭い。

混乱。後悔。焦燥——。

意識が混濁する私を「触手」で引っ張って、奴は容赦なく地面へ引きずり倒した！  
まずい！ 地面に転がされるのは！

敵はすでに地中から飛び出して、全身をこちらに晒していた。

猫ぐらいの大きさの……エビのような形の生き物？

だが、全身の不気味な青色。

五つの「眼」は、頭部の上側にくっついている。

あのゾウムシのような長い口吻が、犬の口に当たる部位から伸びている。その先端に備わっているのは、私の左腕に噛み付いている「顎」！

私が先ほど見たのは、体を地中に隠し眼と顎だけを地上に出した姿だったのだ！

「野郎……!! 離しやがれッ!!」

小さな体軀からは想像もできない敵の怪力で仰向けに倒されたが、急いで上体を引き起こす！

そのまま立ち上がりたいところだが、そうはさせまいと「顎」が食らいついた私の左腕を……敵は強靱な力で振り回す！

「くそオツ!! 化け物ッ……!!」

地面に落ちていた大きめの石を、右手でとつさに掴む！ 左腕の「顎」に、何度も何度も思い切り叩きつける！

だが、外れない……! 「顎」が硬いのだ!

左腕を力いっぱい引っ張り、どぼどぼと血が溢れる傷口を観察する……。

大きな「顎」のキバは、私の上腕と手首の骨・腱まで喰い込んでいる！

顎は二枚貝のようにガツチリと閉じて、腕を引っ張ると鋭い痛みが走る。

少ない出血量……。手首の動脈【手首の動脈】親指側の橈骨動脈と小指側の尺骨動脈。それぞれ前腕の骨、橈骨と尺骨から名前を取られている（親指側にある骨が橈骨。親指「父さん」などと覚えたりする）。皮膚に近く、骨のそばにあり、皮下脂肪が少なく、また衣服で覆われにくい動脈。以上の理由により、よく脈拍の測定に利用されたり、リストカットで傷つけられるのもココ。が傷つけられたか……。!?

「汚ねえ口を開けやがれッてんだよッ!!」

握り込んだ石を叩きつけ続けるが……打撃の衝撃で自分の右手のほうがだんだん麻痺してくる。

とうとう振りかぶった拍子に、付着した血で滑ってすっぽ抜けて、石が遠くへ飛んで行ってしまった。

空手になったか……。上等だぜクソ化け物が!!

右手の掌底や鉄槌【掌底や鉄槌】どちらも格闘技の打撃技。手首の「手根骨」と呼ばれる部位を当てる「掌底打ち」。握り拳の小指側で打撃する「鉄槌打ち」。どちらのワザも正拳でのパンチよりリーチが短い、肉厚なため固い目標に当てても手を痛めにく

く、頭蓋骨や関節などへの攻撃に適している。……ちなみに、こういう殴り方を工夫する技法は実はヒトの習性に反する動きである。人間の指は「闘争時に握り拳で殴りやすい形に進化した」という学説もあるほどだ。危機がせまるとヒトは、まるで類人猿の動きと同じように、がむしやらに握り拳でロングフック気味の大振りパンチを出してしまう本能がある。かなり格闘技を修めた人間でも、路上の喧嘩での高いストレス下では、スキだらけの「テレフォンパンチ」を無意識に出してしまうことが多いと言われるが……。このフレンズ「私」の、素体オリジナルとなったヒトの個体は……極限状態での「闘争」に非常に慣れた人間だったのだろうか……？で打撃を続ける！

さらに肘「肘」ヒジ打ち。エルボー。空手や拳法では猿臂えんびとも言う。横か縦の軌道で、ヒジを回すように打ちつける技。ヒジの骨は非常に固く鋭いため、人体であればどこに当てても打ち負けない必殺技になる。ただし肩関節の回転しか活用できないので、拳のように広い範囲を攻撃できないし、リーチも短く、腕関節の構造上前方に攻撃しにくい、といった欠点がある。ルールでヒジ打ちが認められているムエタイの試合では、ヒジと頭蓋骨ではさまれた額の血管が、カミソリのようにスパツと切れるのを見ることができ。を回して「顎」に打ちつける攻撃！

だが、この座り込んだ姿勢での手打ち「手打ち」唐突に麺類の話を始めただけではない。いわゆる、腰が入っていない「速いが弱い」打撃のこと。どの打撃系格闘技でもそ

うだが……地面で踏ん張って、背骨や足腰などの下半身と体幹の回転力をしっかり伝えるか、あるいは体重移動による力を利用しなければ、攻撃は威力が発揮されない。不安定な姿勢で、肩甲骨から先の腕関節だけしか使えないヒトは……驚くほど非力なのだ。の攻撃では、とても歯が立たない！

頭突きを食らわせると、自分の額のほうが割れそうでフラフラになる。

……くそつ、これではらちが開かない〔らちが明かない〕漢字で書くと「埒」……意味は馬を囲った柵のことらしい。確かに競馬場なんかではゲートらちが開かないとレースにならない……。ちなみにこういうゲートが開かない事故のことを、競馬用語でカンパイ（カンバイ）と言う。英語の「カムバック」に由来するとか。

……発想を変えるんだ!! どうすれば……!!

左腕に食らいついた「顎」を引き剥がすのを諦め、私は敵の「身体」を攻撃することにした。

化け物の「鼻」を右腕に巻きつけ、上半身の体重をかけて引つ張って「本体」をこちらへ引き寄せてようと試みるが……。

だが力いっぱい引つ張っても、相手はしつかり踏ん張って、その体はびくとも動かない。猫程度のサイズのくせに、大型犬くらいのパワーはあるように思える。しかも、私

の腕に巻き付けた「鼻」をさらに締め上げて、逆に私のほうを引っ張って引きずろうとする！

いったい何分……いや、ほんの数秒程度だろうか？

戦いが続き、消耗する私は、とうとう完全に地面に引き倒されてしまった。

完全に仰向けの……まずい体勢！

ほとんど抵抗らしい抵抗ができない！

両足と右腕で踏ん張ろうとするも効果が無い！

くそ……左腕は……もう麻痺して痛みが無くなってきた。

いつそのこと、この左腕が引き裂けてしまえば、自由にもなるのだが……。やはり怪物の「牙」が完全に骨の間まで食い込んでしまつて……!! 磔刑たっけい【磔刑】処刑方法の一

種。はりつけの刑。「キリストの磔刑」を描いた宗教画では、よく掌に釘が打たれている姿が描かれるが、これでは受刑者の自重ですぐに掌の肉が裂けて体が落下してしまうため、実際には手首の「手根骨」に釘が打たれた。に処された罪人の手首に穿たれる釘のように、外れることは決して無いだろう……!!

右手で地面を掻きむしるが、指の爪は剥がれ、指先の肉が裂け、赤黒い五本の線が砂

地に残るのみ。

固い砂利の上を引き回されて、出血量が著しい。

体重の1/3分の1【体重の1/3分の1】ヒトの全血液の重量は体重の1/3分の1である。「私」は平均的な中学生女子の体格をしているので、体重47kg（13歳女子の平均体重）として計算すると……血液量は約3.6Lとなる。の……どれぐらいを失った？ 一升瓶【一升瓶】外見は中学生のくせしてシブい例えである。1升≒約1.8L。ちなみに1斗≒10升。一升瓶はみなさんご存じ、もっぱら日本酒の保存や鈍器として使われるものです。に近い量の血が流れたと思う……。

大地の赤黒い染みが、着実に失血死【失血死】全血液量の20%を短時間で失うと出血性ショックの症状。30%を失った時点から死の危険が迫り……全血液の半分を失えば確実に死に至る。……と、以上は「ヒト」の生理学だが……「フレンズ」の場合でも体力の差はあれど、おそらく同様。彼女らはヒトと同じように汗や涙を流すのだから、きっと血が流れ続ければ同じく死ぬのだろう。を形作りつつある……。

なんとか立ち上がらなければまずいのだが、「怪物」の力は強力すぎて、いいように地面を転がされるがまま……!!

こいつは……獲物をこうやって弱らせてから……喰うのか……。

意識が朦朧としてくる。ここで気を失ったら、本当に一貫の終わり……。

クソッ……！

わけも分からず死ぬ……そんなのゴメンだツツ!!

「ぎっけんナツ!! お前なんかにつ!! 喰われてたまるかアツ!!」

私は敵に対して、そして自分に対して、けものさけび獣の咆哮を上げる。

「……食べられるために、生まれたんじゃないっ!! こうして!! ここに生まれてきたのはツツ!!」

だが、どうすれば……!? どうすればいい!?

薄れゆく意識の中で、私は考える。

……こいつの「顎」の「外側」は丈夫だが、「内側」はそうでもないのかも……「内側」を攻撃できれば……!?

ふと見ると、地面に先割れスプーンが落ちている。

転げまわるうちに、バックパックのサイドポケットの中に入れていたのが、飛び出してしまったのか……。

それを掴み上げる。これでヤツの「顎」をこじ開ければ……!! いや、無理だ……がつちりと左腕に食い込んで、わずかばかりの隙間すらない……。

……いや、ここに隙間がある!!

大きな「傷口」!!

自分の左前腕の肉……。先割れスプーンの鋭利な先端を、そこへ力いっぱい刺す……。

麻痺して痛覚がない腕の肉。ヤツに噛まれたままさんざん引きずり回されていたおかげで、長く引き裂かれた傷口。それをさらにフォーク部分でえぐって開き、前腕のピンク色の肉の中へと、力いっぱい押し込む……。

死ねばもろともだ!!

そんなに私が喰いたければ、片腕をくれてやる……ついでのスプーンで肉を喰わせてやるツツ!!

先割れスプーンが、左腕の肉を突き破り、その勢いで「顎」の内部へ突き刺さる感覚。

最後の晩餐だ。

ヤツの顎の「内側」を、左腕ごしにひたすら刺す。何度も何度も刺す。

刺激臭のする青い体液と虹色の結晶が、「顎」からよだれのように流れ出てくる。

五ツ眼の怪物が初めて怯んだ。

おぞましい叫び。

生物の声とは思えない、無機質な、作業機械の警告音のような。それでいて人間の声のような感じもする。甲高くて耳障りな電子音。生理的嫌悪感。

五つの眼がバツテンのようになった———というのと、可愛げがあるように聞こえるが、痛みへの神経生理的反射で瞳孔に亀裂が入って、十字の形になったという印象……。

目の中の十字架。耐えきれない責め苦を受けている表情に見える。

攻撃は効いているはず……!!

それでも、こいつは食らいついた「顎」を離さない……!!

生まれたての小鹿のようによろけながら立ち上がりながら、私は考える。

ヤツのほうが力はあるとしても、体重ならこちらのほうが圧倒的に上だ。

……痛みで悶える怪物の「鼻」を右腕でしっかりと掴んで……後ろに倒れ込む!

……その勢いで、こちらへ飛んでくる「怪物」の本体!

飛んできた「怪物」の「鼻」の上に倒れ込んで、逃げられないように全身で押さえつけ、頭でも胴でも、手あたり次第にめちやくちやに足やヒザで蹴りつける。

五つある「眼」が潰れ、白濁した液体が飛び散る。大顎の中から「げえつ」と、重油じみた空色の液体が流れ出す……。内臓が破裂したのかもしれない。

例の虹色結晶が、怪物の体液から大量の煙となって出てくる。

私と「怪物」の血と肉と、すべてが混ざって、ものすごい臭いがする。

私は思わず吐き戻す。

砂の大地に広がる黒い染み。胃液ではない……。血だ。

地べたを転がって戦っているうちに、内臓を打ったのだろうか……？

わたしの体液からも、虹色の煙が立ち上る。

すると、糸が切れたように私の体中から力が抜けていく。

右腕も足腰もそれまでの力を失って……。

……ダメだ……。ここで、力尽きてしまつては……。

だが……。意識が……。途切れていく……。

その場にどさつと仰向けに倒れ込んだ。

眠い……。

……暗くて……見えない……。  
寒い……。

生生生暗生始 死死死死冥死終【生生生暗生始 死死死死冥死終】「生まれ生まれ生まれ生まれて生のはじめに暗く 死に死に死に死んで死の終わりに冥し」弘法大師（空海）の『秘藏宝鑰』の一節。人は生まれたときには世界の真理を理解せず、死にゆく時にも真理の理解とは程遠い。何度生死を繰り返せば、生死の真理を理解できるのか？  
……といった意味の言葉。

澄んだ青い空。

昼下がりの風が心地よい。

ここは……。

少女が……空を飛んでいる……。

天使が宙を舞っていた記憶……。それが私の最後の――

流れる川の中に、私は仰向けに浮かんでいる。

「……起き……セ……リア……傷は……った……から……」

水面に出した顔に、天使がその顔を近づけてくる。

少女の顔、青い目、赤い髪、獣の耳……!?

「——さっさと起きなさいよ……」

透き通った声。

先ほどから、陽の光は穏やかで、涼しげな風がどこからともなく吹いて、顔に当たる。とても快い。

これが死【死】世界で初めて手話を習得しヒトと会話ができたというゴリラ、ニシローランドゴリラのココ（ハナビコ）。彼女と心理学者F・パターソン博士と交わした、「死」に関する会話。「Q：ゴリラはいつ死ぬの？ A：年をとり、病気で」「Q：その時何を感じるの？ A：眠る」「Q：死んだゴリラはどこへ行くの？ A：苦痛のない穴に、さようなら」しかし、この研究は不確かな部分も多いとの批判がある。本当にココがどのように考えていたのかどうかは、今となっては定かではない。そしてココは2018年6月19日、「苦痛のない穴にさようなら」した。か？

天使はラツパのような声【ラツパのような声】新約聖書の巻末にある『ヨハネ黙示録』の「最後の審判」において、天使がラツパを吹く場面がある。タロットカードの21番「審判」はこのシーンであり、描かれている天使は大天使ガブリエル。生前の行いを審判され、死という通過儀礼イニシエーションを乗り越えることで、終末後の新たな世界での復活を許される

人々……という場面。で、目を覚ませと私に命令した。

しかし私はひどく疲れていた。

そしてそのまま、心地よい惰眠に身を任せることにした……。

「……起きないなら、このままアンタを食べちゃうわよ。がおう……」

それはさすがに困るな、と私は思った。

突然に、天使は自分の唇を私のそれに重ねる……口づけの、とても甘い味……。

……私の喉に、甘い乳と蜜が流れ込んでくる。

「——ぶおっほえあえツツ……!」

気道に乳と蜜が流れて「乳と蜜が流れて」古代中東、神がアブラハムの子孫に与えると言った約束の地「カナン」は、旧約聖書では乳と蜜の流れる場所と記述されている。地中海・ヨルダン川・死海に挟まれた古代「カナンちほー」には、ミルクとハチミツの川が存在した! ……とか、そういうわけではなくってえ……。土壌の豊かさを、荒野を旅する遊牧民がそうたとえたのだ。溺れた私は、咳き込んだ。

「やあ〜と起きたわね。……もう、ダメかと思ったじゃない」

目を覚ますと……やはり動物の恰好をした、赤い長髪の少女ある。

「アンタ、ねぼすけね〜」

彼女の言う通り。

急な目覚めゆえか、思考がぼんやりとしている。

木陰に横たわる私。太陽が眩しい。風が爽やかである。

「げほっ……げほっ……」

咳き込むと、口から、びちゃびちゃと虹色の液体が垂れた。

「……あなたは天使ですか？　ここは天国でしょうか？」

開口一番、思っていたままのことを尋ねた。

「はあ？　なにそれ？　違うわよ、その『てんし？』って、何だか分からないけど……こ

こは『ジャパリパーク』よ。あたしはカラカルキヤットのカラカル「カラカル」大天使カラカル。旧約聖書『ミンミ記』に登場する守護天使……。嘘です。アフリカ・中東に広く分布するネコ科ネコ属のけもの。体長は1m弱、体重は10〜20kg程度と小柄だが、ネコ科らしいジャンプ力と優れた運動神経を持つ「サバンナの小さな殺し屋」。警戒心が非常に強いと言われ、ほとんど人前に姿を見せない動物。ちなみに「カラカル」とは「黒い耳」という意味。古代エジプトでは神様のモデルになっていたり、ミイラになつて埋葬されていたりする。」

「ジャパリパーク……カラカル……」

ジャパリパーク……遠い昔にその言葉を聞いたことがあるような……懐かしい響き

……。

獣の服の少女は、そっぽを向いて、本物の動物のように地べたでゴロゴロし始めた。

……自分の今置かれた状況を……私は脳細胞を総動員して考える。

記憶を探る。

さっきの部屋の中で目覚めた私。記憶喪失……。

外へ出ると、「怪物」に襲われて……。

私はがばつと跳ね起きた。

「あつー！ あ、あの怪物は!? 化け物っ!? 眼が五つの、伸びる顎を持った化け物!!」

「ああ、アンタが戦ってた『セルリアン』のこと。それなら、あそこにあるわよ」

獣の服の少女……カラカルが振り向いた方向には、先ほど私を襲った「怪物」——彼

女いわく「セルリアン」の、死骸が横たわっている。

その青い身体は、液状の様相を呈している。死骸の全身から、例の「虹色の結晶」が

しゅうしゅうと音を立てて噴き出て気化している。

高い気温のせいで、もう腐敗が始まったのだろうか……。

「あれは……カラカルさんが、ヤツを倒してくれた……」

「ん？ 違うわよ。……アタシがトドメを差したけど、その時にはアイツもう死にかけ

てたから」

「私が……………」

「アンタ、すごいわねえ！ あんなに傷だらけになって、根性あるわ！ どうみても強そうには見えないのに！」

カラカルがびつくりした調子で、私を褒めた。

膝を折り曲げて前かがみになって、興味しんしんといった面持ちで私を見つめるカラカル。

「そ、その姿勢【その姿勢】パンチラ。パンティー・チラリズムの略。1986年から『現代用語の基礎知識』にも記載が見られる、由緒ある美しい文化的な言葉である。70年代から使用例が見られる。日本においては、国内初の高層ビル火災で、脱出時にノーパン和服女性が陰部を見られるのを嫌がったために犠牲者が増えたと言われる、1932年（昭和7年）の「白木屋百貨店の火事」以降に広がった概念。相原コージ先生と竹熊健太郎先生の共著『サルでも描けるまんが教室』（小学館）に、「パンティー・チラリ」進化論に関する学術的な記載がある。はちよつと……………」

「ん？ 何の話よ？」

彼女は隠そうともしないので、正直目のやり場に困る。心臓の鼓動が速くなる。

……なぜこれほど、同性の身体に対して必要以上に意識してしまうのだろうか？

視線を下へ向けると、自分の左腕の……手首から前腕の中ほどにかけて、大きく裂けたような傷口が見える。だが、それは古傷のように塞がりかけているのだ！

「……アツ！ 腕の傷が……!？」

あの怪物「セルリアン」に嘯まれて……自分でも武器を突き刺して……かなりの重傷を負ったはずの左腕。

その裂けんばかりであった傷口が、今はもうかなり塞がり始めている！

……太陽の角度〔太陽の角度〕ご存じのとおり、太陽は1日で360度、つまり1時間間で15度動いて見える。これは地球上どこでも同じ。時計の短針を太陽の向きに合わせて、12時との間を取ると現在時刻となる……という豆知識が有名。は、最後に覚えていた時より20〜30度ほどしか動いていない……つまり、あの戦いから1、2時間しか経っていないはず！ まるで、まだ白昼夢を見ている気分だ！

「……確かに、左腕に大ケガをしたはず……」

「ああ、あれ痛かったでしょ……。もう治りかけだけど、大丈夫？ あたしの『サンドスター』で傷を治したから。よく効くでしょ？ 前にももらったの最後のヤツだけだね」

彼女の言う「サンドスター？」とは、治療薬の一種らしい。それを私の怪我に投与し

て……ほんの短時間であの酷い外傷が回復するのだから、凄まじい効果だ！

「あとは、『先生』が教えてくれた通り……こうやって傷口を押さえて【傷口を押さえて】直接圧迫止血法。清潔な布、滅菌ガーゼなどを傷口にあてがって、掌で押さえたり包帯を巻いたりして圧力をかけて出血を抑える。最も単純な止血方法で、あらゆる負傷に適用可能。医学知識が無い者でも確実な止血効果を上げることができる。……」

彼女は両手を私の左腕の上に置いて、まるでネコのように、揉むような動きをする。「それにサンドスターの余ったのを、さつき飲ませてあげてたから。疲れも取れたでしよー！」

カラカルは、小さなボトルを私に見せる。アンプルやバイアルのような、見たこともない形状の、硬質プラスチックでできた容器。そのフタが乱暴な力で取り外されていて、中身はカラツポである。

彼女は、ネコの首輪のようなチョーカーを指先で引っ張って私に見せてきた。

首輪には、小さなプラスチック片がぶら下がっている。「サンドスター」容器は、そこにつけていたらしい。

「アンタが起きないから、こうやって飲ませてあげたの」

そう言ってカラカルは、私の顔に大きく開けた口を近づけて、肉食獣を思わせる長い犬歯を見せた。最初は天使などと思ったが、童話にでてくるような悪魔【悪魔】天使や

神を見たという人は、あまりいない。しかし悪魔や死神のほうは確実に大量に存在していて、有史以来、世界中いたるところでその姿を容易く観察することができる。もしや、あなたのすぐ近くにも……? のようである。

私は起き上がって正座する。

こちらの作法に気を遣ってか、あるいはただ単に真似をしたかっただけか、向こうも同じく正座した。

「ありがとうございます……私の命の恩人です。本当に。カラカルさんがいなかったらと思うと……」

「いいってことよ〜! 『なーばり』で襲われている子を見つけたら、助けるのは当たり前だもの」

あつけらかんと答える。

カラカル……彼女は、このサバンナの地元の住民なのだろう。

日本語を喋っているが……私自身と同じく、人種がよく分からない。

猛獣に襲われた人間を助けるのに慣れて……地元のレンジャーのような立場の人間だろうか?

自分の「ナーバリー?」(日本語の「縄張り」に由来する用語か?)というのは、担当地区のことか?

気分が落ち着いてくると、カラカルの服装の違和感が気になります。

その猫のような恰好……。

赤い髪……頭上には、先端に房が付いた黒い「猫の耳」がある！ ウェイトレスの制服【ウェイトレスの制服】アンミラ服。アメリカのレストランチェーン店『アンナミラーズ』の制服。エプロンでバストを強調する独特のデザインが人気。1973年の開店時からこのデザインがほぼ完成されているのがスゴイ！のような、白いブラウスと赤色のミニスカート、手袋とソックス。極めつけにお尻には尻尾がついていて、風で左右気ままに動くのだ！

「カラカル」という、彼女と同名の「アフリカに生息するネコ」をモチーフにした衣装に見える。

……現地の部族の民族衣装……と呼ぶには現代的すぎる……。

ではやはりこのサバンナで、動物たちに紛れる「カモフラージュ」用スーツか何かなのだらうか……？

カラカルは地べたでうつ伏せになって、腕を組んだ姿勢になって、私を見つめる。

何だよその姿勢？ あなたは猫か？

いや、ここは外国っぽいけれど……ここには、そういう文化が？

「落ち着いてきたようだから聞くけど……。アンタ、この辺では見かけないカオよね。昨日のサンドスターの噴火で生まれた子？ 火山から出たサンドスターで、まだ辺りが少しキラキラしててでしょ？」

香箱座り〔香箱座り〕ネコのポーズの一種。意外にも、多くの辞書には載っていない言葉。前脚を体の下に折りたたむ独特の姿勢。英語では、loaf（パン1斤）にたとえて、cat loafやmeat loafと言う。ネコは足裏の肉球に汗をかくので、暑い時にはこの「足裏が蒸れる」姿勢をとらなくなる。実はネコ科以外にも、イヌ・ヤギ・ヒツジ・クマなどの四足動物が「香箱を作る」。のカラカルが言う。

「サンドスター」は、ハミガキみたいな名前〔ハミガキみたいな名前〕サンスター株式会社。1932年創業。歯ブラシや歯みがき粉、洗口液などのオーラルケア用品がとくに有名。他には、ヘアケア用品やスキンケアグッズに、『健康道場』という野菜ジュースもつくってます。だが、どうやら薬の名前ではないらしい……。

化学物質の一種なのか？ それに「生まれる」とはどういう意味だ？

「あつ、つまりね動物や動物だったものが、『サンドスター』に当たると『フレンズ』になるのよ。サンドスターは、あの大きな火山が噴火すると出てくるし。アンタの傷を治

したのもサンドスター。『フレんズ』が生きていくために、絶対な必要なものなの。周りをよく見てみて！ キラキラ輝いてるのがサンドスターよ！」

……理解できない。

「サンドスター」が火山性鉱物であり、ある種の生物の生命維持に必要な物質であるのは分かるが……。

目を凝らして観察すると、たしかに周囲には、虹色の結晶のようなものがかすかな煙となつて、あちこちからほのかに立ち上っている。太陽の日差しが強くて今まで気が付かなかつた……。

これが「サンドスター」か。私が先ほど飲ませてもらったものも、腕の傷を治した薬も。

記憶を探ると、あの「セルリアン」の嘔みつきを受けた時や、ヤツを攻撃した時に、傷口や血液から同じような虹色の「サンドスター」が、気体のように立ち上っていたのを思い出す。サンドスターは、特定の生物の血液にも含まれる必須成分？ ミネラル【ミネラル】ももとは英語で「鉱物」の意味だが、ここでは生物の必須栄養素のひとつのこと。タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミンと合わせて五大栄養素。厚生労働省の定義では、亜鉛・カリウム・カルシウム・鉄分・ナトリウム・ヨウ素・リンなどの13元素と定められている。ミネラルは動物の体内では合成できないので、日々の食事から

取る必要がある。欠乏すると病気になるが、摂取しすぎても過剰症になる。サンドスターは（フレンズにとつて）ミネラルの一種……という「私」のこの第一印象は、のちに分かるが、実はかなりの的を射ている考察である。のようなもの？

……私の体にもそんなものが存在し、私の傷を治した……？

「アンタは何のフレンズ？ 動物だった時のキオクはある？」

カラカルがわけのわからないことを尋ねる。

私は困惑した。

……いや、さつきからその「フレンズ」って言葉、なんなんだ？ フレンズ——友達

——英語から由来する専門用語らしい。あるいは、何かの隠語か？ 当たり前のように

言われても……。

カラカルの要領を得ない発言を、私はとりとめなく考えた。

……考えていると、急に尿意に襲われた。

「あの……話の途中なんです、ちよつと失礼します……トイレに行きたくて……」

『『といれ』って何？』

カラカルはサラリと言った。

……いや、彼女は日本語を喋るが、ここがアフリカあたりの外国なら……つまり、そういう施設が無い文化なのか？ いや、さっきの「部屋」に便器があったではないか。「いや……あの、木みたいな建物がトイレなんだけど……まあ、あの、平たく言うところちよつと、オシッコに……」

「ああ、トイレって木の穴のこと。オシッコなら、その辺の砂場ですれば？」

カラカルは事も無げに言った。

女の子の言うセリフかそれ……。ワイルドライフすぎひん……？

困惑する私に対して、彼女は背中をピンと立てて「三角座り」のようなポーズをして見せた。

い、いや……やり方とか、スカートの中とか、見せなくていいから……。

うぐうツ……そんなこと言ってるうちに……膀胱さんのガマンの限界が……。

ダム放流の前触れのサイレンが、頭の中で鳴り響く。やばいッ……！

私は焦ってトイレに駆け出す。半ズボンを下ろす準備をしながら……。

いかん、汗で張り付いて脱げない。

あ、間に合わないや。出まーす。

それは、今まで蓄積されてきた疲労からか、緊張感から解放された安心からか、ある

いは、「女性の身体」に慣れていなかったからか……。

ふー……。

きもちいいー。あはは、風が涼しいや。

空気が乾燥してるから、気化熱で下半身がよく冷えるなー。

「アンタはオシッコを脚にかけるのがすきなフレンズなのね。ラクダのフレンズ？」

おうおう、なにいつてんだこいつ。コッチは下半身と自尊心の堤防が決壊しているというのに。

慰めのつもりか。

あ、やば。

腹の音がぎゆるぎゆると鳴る。

汗でお腹が冷えてきたら、大きい方も……。

もしやさつき飲んだ水が悪いのか……。

「えー！ なになに！ そっちも脚にかけるの？ アンタはコアラのフレンズ？ パツブが——」

じゃかあしい！

こうして私とカラカルとの出会いは、くそみそな結果【くそみそな結果】山川純一先

生の名作漫画『くそみそテクニック』のセリフ。プロローグから、すごく……汚いです……。小説をバキュームカーとまちがえてそうな展開ですが、「汚いネタ」は今後は（そんなに）無いので、どうぞお上品な内容の続きの回も読んでくださいね♪ ちなみに『くそみそテクニック』は、某有名A V レーベルから公式のアダルトビデオ版が出てます。だが、なぜ女性なのだっ……!?!に終わったのでしたあく……。

「……先ほどは大変お見苦しい姿をお見せしました」

下半身に関する個人的な問題が解決したあと、私はカラカルに言った。

なお私の名譽のため言っておくが、つまり間に合ったということである……。

ふう。

ちなみに「紙」が無かったので、「水」による、インドやイスラムの「伝統的な洗浄方法」を採用した。

不浄であるとされる「左手」を使って、よく水洗いするのである……。なんだか口くな目に合わないな、私の左手……。

それにしても、もう左手の握力がかなり復活しているらしい。「サンドスター」の異常なまでの回復力。

下着なども水道水で軽く洗っておく。排泄された尿はほぼ無菌状態と言われている

ので、これは精神衛生上の問題だが。

衣服に付着した血もぎつと水洗いして、元通り身につけておく。こうすれば服は太陽光や体温で自然乾燥だろう。

なお、樹木の「葉っぱ」を持ってきてもらって「紙の代わり」に使用することも考えたのだが、思いとどまった。肌がかぶれたり、中毒を起こすような植物かもしれないからだ。

現地住民のカラカルに「外の木の葉っぱは毒は無いのか」と一応聞いたが、「葉っぱなんて食べないから知らない」という、いまいちズレた答えが返って来た。

この下痢も、幸いなことに一時的な体調不良や疲労困憊によるものらしくて良かった。張り詰め続けた緊張が解けたこともあったのだろう。

……もし感染症による下痢だったら、脱水症状等の重篤な症状に陥っていたところだ。

「水の流れる音がしたけど、いったいアンタ何したの？」

用事を済ませた私に、カラカルが尻尾を振りながら聞いてくる。

やはり、彼女は「トイレ」という概念を知らないらしい。

外国の乾燥したサバンナ地帯では、そういう事もある……のか？

さらに、私が洗面台で手を洗おうとすると、「ええええー!! 水が湧いた!? すごい、まほうみたいだね!!」などと驚いていた。

流水をバシヤバシヤと手で叩いて遊んでいる。

あの、カラカルさん……私、手を洗いたいです。お願いだから邪魔しないで……。

……だが、どういうことだ? 彼女はこの辺の住人じゃないのか? 現にこうやって

ここに存在する、トイレも水道も使ったことが無いのか?

……そういうことは、あとでゆつくりと聞くとしよう。

今は、もっと優先すべき行動がある。野生動物より凶悪な「セルリアン」などという怪物（カラカルいわく、色々な種類がいるらしい）がいる……。

「敵」に対抗するためには、武器どうぐが必要だ……。

私は洗面台の「割れた鏡」に、スプーンをねじ込んで取り外す。接着剤で簡易的に固定されていただけだったので、簡単に外れた。一辺が十数センチほどの三角形の、手のひら大のサイズの鏡の破片。これはきつと役に立つと思う。

さらに、水筒にたつぷりと水道水を入れておく。

私は外へ出て、手ごろな大きさの石を拾い集めて、予備の靴下の中に押し込む。靴下の口をキュツときつく縛っておく。これは即席の武器「ブラックジャック」「ブラック

ジャック」無免許医やトランプゲームのことではなく、簡易鈍器の一種。サップとも呼ばれる。砂や石、硬貨、電池、缶詰などの重量物を、革や布の袋（靴下やストッキングやポリ袋など、強度があれば何でもいい）につめて、口を縛って閉じたもの。ただのこん棒と違って柔軟性があるため、攻撃目標に張り付く。つまり衝突時間が長いため、目標に衝撃力を伝えやすい武器と言える。中世ヨーロッパの武器のフレイルや、中国のヌンチャクや多節棍、古武道の契木ちぎりぎ、護身武器のスラッパと似た性質を持つ。利点としては、遠心力により「頭部」が高速で動くため非力な者でも破壊力を出せる、攻撃時の衝撃が手に伝わらないために疲労しにくい、相手の防御を「回り込む」ように攻撃できる……など。しかし跳ね返ったり空振りした「頭部」が制御しにくく、勢い余って自分や味方に当たりやすいという欠点もある。敵の攻撃を受けるのも棒状武器より難しいだろう。推理小説などでは犯行後に「消失する凶器」としてたまに登場。刑務所映画でも見かける。」だ。

カラカルは、そんな私の行動をチラチラと見ながら、木の上で微睡まどろんでいる模様……いつの間にそんな所に登ったんだ？ ……私の為に、外敵を警戒してくれているのか？ ……彼女は何者で、一体何を考えているのだろうか……？

上記の作業中、私は以下のような質問をした。

「自分の記憶が無いのだが、それに関して何か知らないか？」

「この『ジャパリパーク』はどこにあるのか？」

「あなたはどこの何をしている人なのか？」

「あなたは日本人【日本人】デリケートな言葉である。文化的・民族的な定義もあるが……生物学的には、旧石器時代以来日本列島に生息してきたヒトの個体群、としておくが、差別的な意味合いは無い。分類的には、日本人（アイヌ人・本土人・琉球人）はモンゴロイドの一種（なお、「黄色人種」などの肌の色による人種の分類は、現代科学の遺伝子解析において、類縁関係は完全に否定されている。「肌の色」は遺伝もするけれど、居住環境の影響も大きい）。遺伝子調査の結果では日本人は……アイノイド（北方系古モンゴロイド）と、北部モンゴロイド・中部モンゴロイド・南部モンゴロイド（どれも新モンゴロイド）の混血であり、他の東アジアの人種とは遺伝子構成が異なるという結果が出ている。その祖先は有史以前から何度かにわたって、北方ルート（樺太から）、北西ルート（朝鮮半島や山東半島から）、南方ルート（沖縄南西諸島や東南アジアから）などの複数の渡来経路で日本列島に入ってきたと考えられている。なのか？」

カラカルの回答は――

「あたしもあまり動物の時の思い出がないのよ。そういう子のほうが多いわ」

「パークは『うみ』という水場の中にあるらしい」

「あたしは『さばんなちほー』で暮らしてるフレンズ！」

『「ニホンジン」て何？ 食べ物？』『しんりんちほー』の『「ニホンジカ」なら知ってる』などと……何とも呑気な口調で、非常に反応に困る答えが返ってきた。

ところで、彼女の言う「フレンズ」とは、「ジャパリパーク住民の自称【自称】「人間」「仲間」「自分たち」を意味する「自称」が、そのまま外部からも呼称される一般的な民族名となる例は、世界に多々ある。北海道の「アイヌ」民族、北極海沿岸に住む「イヌイット」、アマゾン川流域の「ヤマノミ」族など。実は「ドイツ」なんかもそうで、「Teut<sup>ト</sup>sch<sup>イ</sup>」の元の意味は「人々」だ。ジャパリパークに生息する、動物がヒト化した住人は「フレンズ」（もちろん英語のFr<sup>フ</sup>ie<sup>イ</sup>nd<sup>ン</sup>sからの借用語）と呼称される。かつては「アニマルガール」という呼び名も使われていたそうだ。その「友人」精神を重要視するという命名の仕方からは、彼女らが交友関係や協調性を最上のものとして尊ぶ社会生活を営んでいることが伺える。旧社会主義圏などの「同志<sup>タウアーリシチ</sup>」も同様……なのかな？」らしい。

さて、物色を続けるか。

この「部屋」は、古い金網に囲まれている。

サバンナの「避難場所」とでも呼べるような隔離スペースだ。

防護フェンスは錆び付いてはいるものの、私が掴んでガシャガシャと揺らしてもビクともしない程度の強度はある。さすがに大型動物の突進には耐えられそうにないが……。

柵の入口には錠前や門かんばんが存在していた形跡があるあ。雨風でサビて壊れたというような経年劣化ではなく、暴力的な力で破壊されてしまったように見える。

入口が開けっ放しなので、さっきの猛獣「セルリアン」なども入り放題。とても安全とは言えない。

いつまでも、ここにこうしているわけにはいかない。

避難所内を搜索すると、つる植物に覆われた「公衆端末」があった。錆びた金属製の防護蓋を開けて、機能が使えるかどうか試してみたが……。半ば予想していたことが、何の反応もなかった。

ピクトグラムによる注意書きが描かれている。カンヅメやペットボトルの絵や、「スター・オブ・ライフ」「スター・オブ・ライフ」ギリシャ神話の名医（そしてへびつかい座の）「アスクレピオスおじさん」の持っていた、へび（モデルはクスシヘビ・Zamehis longissimus）の巻きついた「アスクレピオスの杖」。その周りに青い6本柱をくわえた星型のマークが「スター・オブ・ライフ」である。この「6本柱」もそれぞれ意味がある。条約や法律が関係する「赤十字」と異なり、救命救急のシンボル

として制限なく使用できるようにと、アメリカで1973年にデザインされたマーク」が描かれている。

どうやら、非常食や薬品が、端末に同時敷設されたボックスに備蓄されているらしいが……。だが、やはりというか、描かれた常備品はそこには無い……。

またボックス付近にはAED〔AED〕Automated External Defibrillator（自動体外式除細動器）。心停止時の蘇生のため電気ショックを与える「除細動」を行う機械。手順が半自動化されているため、専門知識の無い人間でも使用できる。不整脈の一種である「心室細動」が起るとヒトは数秒で意識を失い、5分後には死に至る。そして日本では救急車が来るまで平均8分と言われている。救急車到着前にAEDで「除細動」できれば、救命率は数倍に跳ね上がると言う。やけど・止血帯など救急用品を収納する金属製ケースが設置されていた。が、これも中はもぬけのカラであった。

しかし中に割れたガラス〔ガラス〕二酸化ケイ素（SiO<sub>2</sub>）を主成分とする板状の素材。色々種類があるが、鉛などの金属元素を含む場合は金属並みの硬度になる。また金属のような研磨ではなく「割る」加工によって、先端が非常に鋭利な刃にもなる。しかし、弾性・靱性では金属に劣る（刃が割れやすい・欠けやすい）ため、一般的に日用の刃物としてはあまり使われない。の大きな欠片が何枚か残っていたので回収して

おく。

加工して「シヤンク」【シヤンク】英語で「道具の柄」の意味だが、刑務所隠語では即席武器インプロヴァイズド・ウェポンの刺突凶器のこと。「シヴ」とも。使いようによっては、ドライバー、アイスピック、テーブルフォーク等の日用品も凶器と化するのだ。ほかにも鉄板や鉄パイプや歯ブラシなどの先端を尖らせたモノや、カミソリの刃やガラス片を「柄」に固定したモノなども。「にするなどの使い道がありそうだ……」。

カラカルが木の枝からびよんと、ひとつ飛びで降りる。

すごい身体能力……！　まるでレンジャー部隊や、パルクール【パルクール】走る・跳ぶ・登るなど、アクロバティック・ダイナミックに身体機能をフル活用した移動動作を実践するスポーツ。フランスで軍事訓練として生まれたもの。映画などのスタントシーンや、アクションゲームのモーション・キャプチャーとも関わり合いがある。選手！　いや、それ以上……!?

「まあ、ずいぶんいろいろ集めたわね。全部持つていくつもり？」  
近寄ってきた彼女が尋ねる。

その口調は別段責めるような調子ではないし、皮肉でも無いように思える。

「はい。すみません……泥棒になってしまうのは、気が引けますが……」

これから先、何があるか分からない。用心のためだ、持ち物は多ければ多いほうがいい。  
捨てていくのは不注意さだけ……。

だが、私の行為は平時であれば、窃盗か器物破損か……何らかの罪に当たるだろうか……今は非常事態とはいえ、やはり気が咎める。

「どろぼう……？」　って、元々だれの物でもないでしょ……？　……あつ、べつにね、あたし、怒ってるわけじゃないのよ、アンタがオモチャにもならないようなガラクタを集めてるから、気になっただけ」

……謝ろうと思つたら、なんだか気を遣わせてしまった。

「それにしても……」

話題を変えるようにカラカルが言う。

「アンタ、何も覚えていないんですよ。自分の名前も分からない。……名前が無いと不便よね。あたしが名前をつけてあげようか？」

それは自分でも思っていたことだ。現地に馴染むような、適当な名前をつけてくれるのであれば、非常に助かる。私は、ぜひお願いします、と頼み込んだ。

「アンタは……けもの耳や尻尾が無いのが珍しいわよね……。『ふーど』が無いから、

へビの子ではないし。翼もないから、鳥の子でもない」

彼女はまたおかしな話をした。

「ウム！『ミミナシ』という名前は、どうかしらっ？」

「きや、却下……。お経書き忘れて耳無くなりそうですし……」

「え、え〜？ 何のことよ？ ……『なまけものてき』ってのは!？」

「な、なんじゃそりや……」

「むむ、わがままね〜。……ねえ、アンタが背中につけてる『それ』は何？」

「……バックバックとか、リュックサックかな……？」

「じゃ、『ぼつくぼつく』って名前は？」

「へ、変じゃないですかね……？」

「そうかしら？ 妙に名前にこだわるわね、アンタ。べつに、何でもいいと思うけどなあ

……」

「……それじゃ、アンタは何かいい考えは無いの？ 自分がこう呼ばれたら、感じての

名前？」

そう言われて、私は……半ば無意識にこう答えた。

「……あの、『ハナコ』という名前はどうぞでしょうか？」

『ハナコ』か。変わった名前ねえ。それ、何か意味があるの?」

「……仮の名前だったり、誰だか分からない人のことも、そう呼びますね」

「へえ、そうなの。ピッタリじゃない。じゃあ決まりね。よろしく、ハナコ」

……なんだかよく考えると、動物の名前っぽくもあるな、と私は思った。

ヤギとかウシとか。

「んで、ハナコ、これからどうするの?」

カラカルが聞いた。

「いえ、とくに何も考えていません。どこにも行く当てはないし……これから、どうしたらいいでしょうか?」

「そうね……ちよつと行ったところに、フレンズが集まる『むら』があるんだけど、一緒に行かない? そこに行けば水場もあるし、『ジャパリまん』も食べられるわよ」

「ありがとうございます、カラカルさん。ぜひお供させて下さい」

助かった、現地住民の集落が近くにあるらしい。

利用可能な水源があるうえ「ジャパリマン?」なる食べ物が入手できるという。ついて行かないという手は無い。

「命を救ってもらったうえに、何から何まで……本当にありがとうございます……」

「ええ、よしてよく、照れくさいわね」

我々は「さばんなの村」に行くことになった。

ふと見ると、私が殺したあの怪物「セルリアン」が、半分溶けたような姿になっていた。例の「サンドスター」の煙が立ち昇っている。

天へ昇って、土へ染み込んで、消えていく屍……こいつは一体何なんだろう？ この「ジャパリパーク」の生態系で、「セルリアン」はどういう役割を担っているのだろうか？

「……こいつには、かわいそうなことをしたかもしれない」

「え？ どういうこと？」

カラカルが怪訝な顔をして尋ねる。

「実は、元はと言えば、私が不用意に近づいたから、こいつは襲ってきたみたいで……。適当な距離を取って、逃げていけば、殺さないで済んだかもしれないな、と……」

自衛のためとは言え……不注意に接近した私も悪いのだ。

私は、何も残すこと無く消えていくセルリアンのことを哀れに思った。

「土は土に、灰は灰に、塵は塵に——」  
「土は土に、灰は灰に、塵は塵に——」  
この言葉は、旧約聖書『創世記』の第3章19節、以下の文章に由来する。『あなたは顔に汗してパン

を食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る』『聖書 口語』（日本聖書協会発行）初版（1955年版）

「なにそれ？ まほうのじゅもん？」

「そうですね……土から生まれたものは、土に還って……。今度会うときには、仲良くなくなるように……」

「……ハナコはヘンなフレンズね。ずっと眉をつり上げて、冷や汗流して……。難しい顔して、色んなことを考えて」

カラカルはそう、出し抜けに言った。

「何も知らないかと思ったら、色々な事を知っている。何も無い所から水を出したり止めたりしたり、変なガラクタを集めだす。自分がめちやくちやにしたセルリアンのことを、かわいそうだとか言い出す……。ハナコ、アンタは一体何者なの？」

『何も分からないいけもの』なの、『頭のいいいけもの』なの？ 『怖いけもの』なの、『優しいけもの』なの？」

何もかも見透かしているような青い瞳。

暑さによるものではない、冷たい汗が頬を流れ落ちる。

それは私にまつわる問題だけではなく、「ヒト」とはと何か、「人間」とは何か、と問

いかけてるように思えた。

この大自然と融和して暮らす、彼女たち「フレンズ」から、私のような「文明人」への疑問……「お前は何者なのか？」……。

だが、そう聞かれても、私は何も分らない。

私という存在が、この世界に受け入れられてもいい存在なのか……。

「……んんん、ゴメン！ そんなこと聞いても、分からないわよね。なんにも分からないから、そうやってハナコは、こわい顔をして、ずっと悩んでいるんだもの。ゴメンなさい」

カラカルは大きく息を吐いて、そう謝った。

……自分では気が付かなかったが……周りから見ても、私はそれほどまでに「こわい顔」をしているのだろうか？ そんなに「せつぱつまった顔」をし続けていたのだろうか？ 「まあ、『むら』のフレンズにはアタマのいい子もいるから、きつとハナコの助けになつてくれるわよ。それに……」

カラカルは言葉を続ける。

「あそこの、暗い場所の中で生まれて。何にも分からなくて、死にそうになって……。きつと『ここは、すごくいやな、なんていやな所なんだ』って思ったかもしれない。で

も、そうじゃないのよ。このジャパリパークには、そりやあ、いやなことや悲しいことだつてあるけれど……。でも、それだけじゃなくて……。たくさん、楽しいことも、嬉しいことも、気持ちがいいことも、あるんだつて。あたし、ハナコに、教えたいの。他のフレンズも、みんな良い子だから……。だから、私と、一緒に行きましょう？ ね？」

彼女はあまり、言葉を慎重に選んで喋るのが上手な人ではなくて、全てを言うのに時間がかかったけれど、その素朴な気持ち言葉の端々から伝わって来た。

そして……。いたずらに言葉を重ねるよりも、この手に限る！ とばかりに、泥や血で汚れた身なりの私を、彼女はぎゅつと抱きしめてくれた……。私を受け入れる、柔らかい身体。カラカルの綺麗な長い赤い髪は、太陽の匂いがした。

……。いつのまにやら、まるで母親に甘える子供のように……。彼女の「無償<sup>ア</sup>の愛<sup>ガ</sup>」を、私は全身で受け入れていた。

私は泣いていた。

このペースでは、本当に脱水症状になりそうだ。

全く、老廃物の排出器官が著しく忙しい日である。

それから、ふと眺めると、あの「セルリアン」の死骸は消えていた。ほんの少しばかり「サンドスター」の虹色の結晶が、線香の煙のように立ち昇っていたが、それもやが

て、サバンナの心地よい一陣の風がびゅうと吹くと、かき消えていった。

この世界に生まれて、何も残さずに消えていったセルリアン。

……お前は、何のために生まれてきたんだ？

この世界に本当に生まれるために、私の「身体」が欲しかったのか？

哀れな奴らだとは思うが、しかしせつかく生まれたこの体……死んで蘇らせてもらっ

たこの肉体……お前らに捧げるつもりは無い！

私自身や、彼女達本当の愛をもつ「フレンズ」達を襲うなら……いくらでも返り討ちにしてやる、セルリアンども！

私は、セルリアンのように、何も残さずに消えたりしないぞつ！！

ヤツらの目玉に喰らいつついても……絶対に生き残ってやるッ……！！

## Chapter 1-1: サバンナのルール

### 第1話 英雄カバンサンの伝説

未知の世界にひとり生まれた、未知の私の名前は「ハナコ」に決定した。

現地の住人のカラカルと私は「避難所」を出発して、フレンズ達の「大きな村」へと向かう。

鉛筆でメモ帳に、気になる事を書き留めていこう……。

カラカル、セルリアン、ジャパリパーク、サバンナ地方、サンドスター……。

それはただ単に、自身の喪失した記憶の手掛かりを探るプロセスというだけではなく、「手記」という物質的な形にすることで——後に残る記録という、確かな証拠を積み重ねていくことで——この何も分からぬ世界で、精神的な安心感を得ようとする作業でもあるのだ。

カラカルと一緒に昼下がりの熱帯草原を歩き続ける。

真昼を数時間過ぎて、太陽光による地熱の放射が一番激しい時間帯を過ぎた。

しかしまだまだ乾季らしきサバンナ〔サバンナ〕サバナとも。雨季・乾季のある、乾

燥に強い低木・疎林・イネ科植物などで構成される熱帯地方の草原を指す。もしくは、その気候のこと。ケツペンの気候区分での記号では「Aw」。Aは熱帯（低緯度）を表し、wはドイツ語で冬季乾燥（winter trocken）の意味。年間の気温の変化は少ない。夏に雨季、冬に乾季と降雨量がハッキリと変化する。雨季は豊かな緑の大地だが、乾季には一面が枯草の草原となる。ちなみに「熱帯夏季少雨気候（As）」という、降雨パターンが真逆だがそれ以外はサバナ気候とよく似たレアな気候のちほーも、地球上にわずかに存在する。国内では、日本最東端の小笠原諸島南部の「南鳥島」がサバナ気候である。は熱く、埃っぽく、そして乾燥していた……。

熱中症には気を付けて、木陰や岩場の陰で休憩しながら、歩きやすいルートを構築して進む。

道中の観察で特筆すべきは、カラカルのジャンプ力う……ですかねえ……。

時折彼女は木の上に跳び上がって、周囲の地形の確認や、野生動物や、異形の怪物「セルリアン」を警戒してくれる。

数mは軽くひとつ飛びの、すさまじき跳躍。人間、過酷な環境で鍛えればああいう芸当もできるのか……!?

水筒に汲んだ水道水を飲んで、適度に水分補給しておく。水分不足には注意だ。

カラカルにも分けて上げると、ぺちやぺちやと舌をすすって猫のように飲んでいた。

移動中もずっと空と木の影を観察していたのだが、太陽が時計回りに動いている〔太陽が時計回りに動いている〕北半球では太陽は右回り（東↓南↓西）に動いて見え、南半球では左回り（東↓北↓西）である。なお、何故時計の針が右回りなのかと言うと……「機械仕掛けの時計」は中国やヨーロッパなどで発達した技術であるから、北半球での「日時計」の影の動き（右回り）が、時計の針の動きとして採用されたから。ちなみにあまり関係無いが、仏教では右邊うづまと呼ばれる、対象に自分の右側を向け続ける（＝右回りをする）マナーがある。チベット仏教のマニ車も、右回りで回さないと功德が積めないと言われる。この仏教の「向きのしきたり」は、古代インドの右手を浄なるものとする概念や、利き腕を相手に見せて敬意や敵意の無さを示すことに由来するらしいが、北半球に位置するインドの古代農耕社会が太陽の動きを尊んでいたから、という説もある！

つまり、この「ジャパリパーク」は北半球に位置しているということになる！

さっきの「避難所」の洗面台の水の渦の回り方〔水の渦の回り方〕水の渦には地球の自転による「コリオリの力」が働き、北半球では左回り（反時計回り）、南半球では右回り（時計回り）になる……というのは、実は俗説である。「台風」ぐらいの大きな規模に

なるとそうなるけれど、洗面台レベルの渦だと、影響するかどうかは全然分からん、らしい。は……全然アテにならないか。

それよりも、日が落ちたら星を観察したいな。もしここが日本から離れていれば、変わった星座〔変わった星座〕例えば、みなみじゅうじ座。国内では時期によつては、小笠原諸島や沖繩で観察可能。とくに日本の有人島では最南端の「波照間島」でよく観測できることが有名。ギリシャ神話ではとくに語られていない（だつて見えないんだから）。実は歴史は浅く、大航海時代の16世紀につくられた星座である。南半球における「南極星」として、この天の十字架サザンクロスの加護が、闇の海に迷える船乗りたちを導いたのである。が見られるはずだ……。

私たちは西に向かっていますね、目的地まであと何kmくらいですか？ と私が尋ねると、カラカルは「にし」とか「なんきろ」とかいう言葉が分からないけど、お日様の沈む方へあと少し行けば水場よ、と答えた。

この土地に慣れていれば動物やセルリアンがさほど恐ろしくもないのも納得できるが、それにしても、彼女は恐怖心や警戒心が乏しそうに……というか、やたらに嬉しそう、機嫌が良さそうに見える。

怪訝に思い、何故かと理由を尋ねたら「面白そうな子を見つけたからね」と、子どもが珍しい昆虫でも発見したかのように言った……。

「面白そうな子」ってやっぱり私のことだよな……。

カラカルが木陰の草むらにうつ伏せになり、腕立て伏せをする姿勢のように両腕を伸ばした。……肩甲骨や背骨、股関節の凄まじい柔軟性。

やっぱりすごく猫っぽいで、この人……!?

「ハナコはやっぱり面白いわよ。自分のことは何一つ分からないのに、他のことは色々知ってるなんて」

ハナコ……と、先ほど決定した仮名かめいで呼びかけられて一瞬戸惑ったが、彼女の疑問はもつともである。むしろ、当人である私が一番不思議に感じているのだ。

私の記憶喪失は、目覚める以前の「自分」に関する記憶が完全に抜け落ちているという症状……。

人の記憶を、ひとつの「本棚」に例えるならば、私の記憶の本棚には、一般的な知識——動物図鑑やドキュメンタリー番組のビデオなどは存在する。しかし、日記や写真アルバムなどの「個人の記録」が抜き取られている……。

いや、無くなってしまったわけではなくて、何らかの理由によって「隠されていて」思い出せないだけなのでは? ……そうだとしたら、今後何かの拍子に思い出せるのだから

うか……。

「なんで、思い出せないんでしょうか……？ 他の色々なことは覚えてるのに……」  
「さあ？ ただ単に、思い出したくないから、とかじゃない？ なんかイヤなことでもあつたんじゃないの？ アンタ、ツメもツノもキバもなく弱そうだし、イジめられたとか？」

カラカルは冗談めいた口調で言う。……私自身が思い出したくないから……。  
意外と事実は、案外そんな単純明快な理由かもしれない。

道中で、一体のセルリアンに出会った。

極彩色の、大きくて角ばった不気味な物体……大型車両ぐらいの大きさの、公園の遊具のような、まるっこいもの……が横倒しになっている。

かと思つたら、下から蹄の有る脚（厚底のブーツを履いた人間の脚にも見える）が何十本と出てきて、そのまままぞろぞろと、ムカデなどの多足類のような規則的な脚の動きで歩いて、動き回るのである。

まるで巨大ダンゴムシ……。

あるいは、草原を走る戦車といったところか……。

その上部には「眼」……戦車の球形砲塔〔球形砲塔〕英語では「ボールターレット」と

言う。第二次大戦中にアメリカ軍の爆撃機に使われていたものが（戦争映画好きの間で）有名。すごく狭いしパラシュートも無いし、乗組員にめちゃくちゃ嫌がられたそう。それとは全然違うものだが、このセルリアンの眼球は、WW2ドイツ軍の対空戦車「クーゲルブリッツ」の球形砲塔に似ているモノだ。のように、直径1m以上もありそんな大きな眼球が鎮座している……!?!?

「眼球」が三六〇度ぐるぐる回転しながら、「眼」がぎよろり、ぎよろりと動いて、周囲を警戒している。

生物とも非生物ともつかない外見の、おぞましい怪物……。

私は見るだけで私は鳥肌が立つのだが、カラカルはあまり気にしていないようだ。

「アイツはべつに危険じゃないよ。放っておいて、離れた所を行きましょう」

あれは草食性のセルリアンらしい。

レンズや動物を襲うことはまれで、いつも地面に生えている草を食べるのだという。たしかに、あの横長の瞳孔……視野は広いようだが、距離感は分かりにくそうである。

前部の装甲?には、ハコガメのようなフタ構造が有って、そこが蝶番のように開いて一本の触手が出てきた。

その触手の先端に大きな「顎」がついているが、それは以前に私を襲ったセルリアン

のように犬歯があるのではない。

前歯は無く、平たい奥歯が発達した構造を。「顎」自体も幅広で下向きについており、地面の草を食べやすい造り。

シロサイやジュゴンなどの、下草や海底の海草【海底の海草】誤字ではないです、海藻ではなく海藻。飼育下のジュゴンが食べるのは、北半球の温帯・亜寒帯の沿岸に生える「アマモ」という海藻で、日本各地の沿岸部にも生えている（野生のジュゴンはアマモの分布と生息域が異なるので食べない）。オモダカ目アマモ科の種子植物なので藻類ではない。「リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ（龍宮の乙姫の元結の切り外し）」（最も長い植物名！）という別名もあり、人魚のモデルと言われるジュゴンが、そんな雅な名前の草を食べるのって……なんだか、ろまんちつく！しかしジュゴンは偏食でアマモしか食べないため、国内で唯一ジュゴンのいる三重県の鳥羽水族館の「セレナちゃん」は、新鮮なアマモを韓国から空輸してもらうしかなかったのです。食費はなんと年2, 000万円！シドニー水族館の子も同様に偏食だったのですが、最近はずたりともロメインレタスも食べてくれるようになったそうです。を食べる動物の口に似ている。

あれは基本的には大人しくて緩慢なセルリアンだが、怒らせたり驚かせたりすると、脚を引っ込めて突進してサイやゾウも跳ね飛ばしてしまうという。

本気での走りはけっこう速いし、口から大きな何かを飛ばして攻撃してくる。死角へと回り込んでも、尻尾？から、細かい何かを飛び散らせて反撃もするらしい。

「のろまそうだからって、アイツにイタズラしないほうがいいわよ。ひどい目にあうから」

「そ、それはまるで……前にチョツカイかけたことがある【前にチョツカイかけたことがある】ここで回想シーン。カラカルと小型のネコ科フレンズ（そのうち登場します）。「よくし、からかってやりましょっ！」「うにゃ〜、面白そうなのにな〜」↓「うわ〜、セリリアンが怒った〜！」「にげるのにゃ〜」ような口ぶりですな〜……」

「よく分かるわね〜」

そうこうするうちに、二人目のジャパリパークの住人——「フレンズ」に遭遇した。

我々が立ち寄った水場、そこで水を飲んでいる先客……だが、その飲みっぷりがまた変わっているのである。

脚を大きく開いて立った状態から、両手を地面について、そのままの姿勢で首を下へ伸ばすようにして、湧き水をごくごくと飲んでいる……何故そんな苦しそうなポーズを？

そして、開脚して前のめりになるその体勢だと、自然とスカートの中が露わになるで

はないか!? ……非常に目のやり場に困る。

「こんにちは、キリン【キリン】クジラ偶蹄目キリン科の大型けもの（同じキリン科には他にオカピがいる）。アフリカ、サハラ砂漠以南の熱帯草原に広く分布。10〜20頭の群れをつくる。通説では1種で複数の亜種があると分類されてきたが……近年のDNA解析によると、キタキリン・ミナミキリン・アミメキリン・マサイキリンなどの複数の「種」に分類する仮説も提唱されている。なお、なぜキリンの頭は小さく首は長いのかと言うと……カンタンに言う、「高所の葉っぱを食べつつ水場の水も飲める」ように進化した結果。同じ目的に対して、ゾウは「頭は大きいままで、鼻を長くする」進化をした（進化の過程では、アゴも長くなった絶滅種のゾウもいる）。キリン科のけものは中新世（約2300万年前〜500万年前）のころに熱帯雨林に出現し、オカピに似た姿の偶蹄類「シヴァテリウム」に似たけものだったようだ。それが鮮新世・更新世（およそ530万年前〜1万年前）に、サバンナに適應して進化していった。キリンとオカピの中間の首の長さの、「サモテリウム」などのミッシングリンク化石が近年発見されている。他にもキリンには謎が多く、脳の血圧緩衝器官「奇驚網」ワンダーネットや、首―心臓―ノドという一見ムダに遠回りするルートを通る迷走神経の一種「反回神経」など、進化的に興味深い動物だ。うーん！ みすてりいくなけものなんだね〜！」

「むぐ……あら、いきげんよう、カラカル」

そのキリンと呼ばれたフレレンズ……私やカラカルより頭一つ分以上は大きい長身……。170cm以上はあるだろうか？

さらさらの金髪、パツチリとして切れ長の、知性の光を宿した青い目、長いまつ毛、首に巻いた長いマフラー（日除けや砂除け用だろう）……。

裕福な家庭に生まれた品行方正の深窓の令嬢、といった第一印象の少女だ……。今さっきの奇行に目をつぶればの話だが。

髪の毛や、学生服のような衣装には、サバンナを象徴する動物、キリンのアミメ模様の装飾が施されている。

さらにキリン特有のツノ、タテガミ、耳、尻尾などのアクセサリ。

「フレレンズ」は、動物をモチーフとした衣服をまとうようだが……。

自然の風景に溶け込む、擬態目的のためと思っていたが……それとも自然のパワーを得るといった呪術的な意味合いがあるのだろうか……？

「こんにちは、キリン。アンタ、水飲むのにも大変ね。普通に飲めばいいのに」

そう言うカラカルのほうは、身を屈め舌を伸ばして、ぴちやぴちやと猫のようにすすって水を飲んだ。

「やっぱり動物だったところの癖が抜けないのよね……そちらのお連れ様はどなたかしら？ この辺で見かけないお顔だけど？」

キリン少女が私に話しかけた。その前に、何やらよく分からないことを言ったが……。

「どうも初めまして。私は『ハナコ』と言います」

「初めまして。私はふつうの『ただのキリン』[ただのキリン]動物園の名前プレートにはアミメキリン、マサイキリンと書いてあるが、実はこれらは「ただの自称」である。模様が混ざっていて、種類がハッキリと分からない子も結構いるのだ。これは、日本の動物園のキリンの多くは出自が米国なのだが……アメリカの動物園では「展示数の確保」のために異種どうしの交雑が進み過ぎて、明確に種類が区別できなくなったキリンが多からなのだ。なおヒト界におけるこの「血統」の差は大きく、キリン純血種の「価値」が約1, 200万円に対して、交雑種は400万円程度だと言われている。』よ。『ざつしゅ?』とか、『こうざつ?』とか、言うらしいけど……」

やはりキリンは不可解な事を言う。

「昔はキリンも色々な【昔はキリンも色々な】現代の動物園での繁殖は「亜種同士は交雑させない」のが原則である。この「ジャパリパーク」もそうであり、この（実際のアフリカの生息環境と比べて）比較的狭い「さばんなちほー」で放し飼いされる以上、異なる遺伝子構成の動物を隔離しておく見えない檻のような手段があったはずだが……」

ヒトが退去して長期間パークが放置されて……その隔離手段が無くなってしまつて欲しいと考えられる。らしいけどね。今は、博士が言うには、キリンはみんなただのキリンなの。よろしくね」

このジャパリパークでは「トーテム信仰」「トーテム信仰」自分の部族や祖先と特定の動植物などを宗教的に結び付けて、信仰対象「トーテム」とする信仰形態のこと。南アフリカのツワナ語だと「シボコ」という。例えばキリンをトーテムとする部族では、キリンを殺すこと＝殺人と同じでタブーとなる。部族社会ではトーテムイズムは重要な役割があり、お互いのトーテムさえ分かれば出身部族が分かつて近親婚が防げるし、また特定の動植物の保護にも役立つっていると考えられる。北米インディアンや南アフリカの部族など世界中で、類似するトーテム文化が見られ、かつてはヒトと動物とを区別できない愚かな「未開の価値観」だと考えられてきたが……人類学者レヴィ＝ストロースによれば、「世界を分かりやすく考えるため」に合理的で身近なたとえとして、動植物が用いられているのだとされる。たとえば、対立する部族のA族とB族がいたとして、そのA族とB族の内部でもA1族・A2族、B1族・B2族と各派閥が対立して分かれていたとしよう。この社会構造を動物で考えた場合……クマ(A1)族・ヤギ(A2)族・タカ(B1)族・ハト(B2)族……となる。まずA族とB族の対立関係1(陸と空の対立関係)があり……A1族とA2族の、そしてB1族とB2族の対立関係2(それぞ

れ自然界での捕食・非捕食の関係)があつて……これだとすぐ分かりやすいでしょ？  
そう考えると、この「野性の思考」は野蛮人の未熟な考え方……などではなくつてえ  
……たいへん合理的で発達した思考形式だと言える。」が、言語や習慣に根付いているの  
だろうか？

彼女ら「フレンズ」の、動物を模した衣服も……動物と自分達を同一視する文化なの  
か……？

そして、日本語の日常会話でも——私は×の動物、動物だった頃の記憶——などの、共  
同体の外部の人間には理解できない表現が含まれているのでは……？

「で、ハナコ、あなたは何の動物なの？」

私が返答に困っていると……。

「それがね、キリン。ハナコは、前の記憶が全然無いんだって」

カラカルが気を利かせて説明した。

「そうなの……アナタ、『みすてりいー』なフレンズね……。じゃあ、私がああなたの過去  
について推理してあげる！」

キリンの「推理」……？ 彼女は、私の過去のことを何か知っているのだろうか……  
？

キリンは整った顔を近づけて、私を時間をかけてじっくりと眺めた。

髪の毛がふわりと風に揺れるたびに、良い匂いがする。大きい胸が近づく……。

どうしてだろう、女の子どうしなのにドキドキする。

それに、自分の手入れされていない髪の毛や、ぼろぼろの汚れた地味な服が、彼女のものと比べられるようで……なんだか恥ずかしいが……。

観察が終わると、キリンはしばし考え込んで……「さて」探偵がよく使う言葉。

「名探偵 皆を集めて さてと言いな」という詠み人知らずの川柳もあつたり。キリンは『優秀な探偵ほど、まどろっこしく芝居がかった話し方をするものだ』と、なぜかそう思っている。「い込んでいる。」と言った。

「私が真実を突き止めるまでの筋道には……三つの証拠があつたのです」などと、しかつめらしい顔「しかつめらしい顔」探偵がよくしている表情。真面目ぶつた、もつともらしい表情という意味。漢字だと「鹿爪らしい」と書くが当て字で、しかつべらし（然る十つ十べし十らし）「いかにもそうらしい」という古語から来ている。「しかめつらは、響きが似ているだけの全然関係ない言葉で、元の「響める」は縮こまるの意味。で言つて、指を三本立てた。

「まず、第一の証拠は……あなたのあごのあたりに垂れ下がっている毛皮、それが大きな

ヒント……」

私の帽子に付属してる、後頭部から口元までを覆える「日除け用の布地」のことらしい。今はボタンを締めていないので、首のあたりにぶら下がっている。

「第二に、体の毛皮。全身の毛がそれなりに長い……。つまり、ある程度寒いちほーに住むけものという、明らかなしようさ【ししようさ】漢字だと「証左」。証拠のこと。なぜ「左」なのかと言うと、これは↑方向の意味はなく、「左」の象形文字の「右手を支える」という語源に由来し、「根拠を支えるもの」という意味。と言えるわ……」

私は一枚の布をポンチョのようにして、日除けのために着ている。確かに、カラカルやキリンと比べると重装備だが……。

「そして、第三にして最も大きな証拠オ！ あなたが常に持っている、好物の『紙』い!! これらの証拠をそうごうすれば、導かれる真実は一つ!! ひつきようするに【ひつきようするに】畢竟するに。「畢」「竟」のどちらの漢字も「終わり」の意味があり「要するに」「結論を言う」との意味。キリンはこういうもつたいぶつた言い回しをとても好む。それに対して、短く簡潔な表現を好むカラカルは「何に影響されたか知らんけど、いつも話が長いよね〜」と思いつながら推理を拝聴している。……あなたの正体はヤギね!!」

「ぜ、全然違うわい!!」

……シャーロック・ホームズ「シャーロック・ホームズ」みなさまご存じ、19世紀  
 ヴィクトリア朝時代英国の稀代の名探偵。実は「この帽子は大きい↓持ち主の頭蓋骨は  
 大きい↓だから知能が高い人間だ!」（「青い紅玉」より）、「へびにミルクを飲ませて飼っ  
 ていたのだ!」「○○で○○を操っていたのだ!」（「まだらの紐」より）など……現代の  
 科学から見ると、いや当時からしても超ガバガバな推理が結構ある。……あるいはまさ  
 か、この辺の描写は一流の英国紳士の冗談だったりするのだからか? そういう考証は  
 ともかく、見事な人物描写や手に汗握る物語展開、テンポの良さ、後世への影響なども  
 ふまえての、元祖・名探偵シャーロック・ホームズなのである! ……イヤ、ホントは  
 「オーギュスト・デュパン」という人が世界最初の名探偵なだけどね……。が依頼人の  
 服装からその職業を推理するような、真面目な推理を期待していたのだが……。突拍子  
 もないことを言われたので、思わず大人げなく突っ込みを入れてしまった。

「ぐぬぬうつ……!! しょ、証拠は? 確かな証拠が無いじゃない!! ヤギじゃないな  
 なんて……そんなの、あなたの身勝手な思い込みよ!! ヤギじゃない証拠があれば、あ  
 なたの推理は認められないわ!!」

キリンは、推理小説での真犯人の最後の抵抗「真犯人の最後の抵抗」いろんなパター

ンがあります。「あははは……そんな突拍子もない考えを思いつくなんて、あなたは小説家に向いてらっしゃる……」「いい加減にしてよ！ あの人が犯人に決まってるじゃない！」「それはあなたの憶測じゃない！ 証拠は……確かな証拠はあるの!？」↓このへん、よくあるパターンですね。「ふふふ……たかが●●人で、俺を逮捕できると思つたか……こうなりや一人殺すのも全員殺すのも同じよツ!!」↓これは犯人がすつごい強くて関係者を皆殺しにして証拠隠滅、という本当に滅多にないパターン。のごとく意地を見せた。

「それは悪魔の証明【悪魔の証明】「無いこと」の証明が非常に困難であること。たとえば「白いカラス」がいるかどうかを証明したいとして……聞き込みで目撃者を探す、古い文献を調べる、生物学者に聞くなど、「いること」の証明は色々な手がかりがあるが、「いないこと」の証明は有効な手がかりが無く非常に難しい。また、この言葉とは関係ないが「私はコレコレ言い出したが……その確かな証拠はそつちが示せ！」と、相手に立証責任を迫るキリンの理屈は、完全に詭弁である。今回はハナコは「合理的な疑い（法律用語）」を投げかけているので、「疑わしきは罰せず（疑わしきは被告人の利益に）」のルールにのっとり、「ヤギだと立証できないいけものは、ヤギでないと判断する」のが、名探偵的には正しいっ！（一体なんのこつちや……）ですよ！」と、私はムキになつて反論した。

「なんだとお!? クマがどうしたのよっ!?」

「仮に『白いキリン』『白いキリン』い ま す。「参考資料」のリンク先の画像を参照。だが、ハナコはそんなこと（多くの動物種で白化<sup>アルビノ</sup>個体や白変種が出現すること）は分かっている、前述の「ヤギでないこと証明の難しさ」や「言い出した側の説明責任」について話したいのだが、頭に血が上ったキリンがそうはさせないのである。がいるか』と考  
えたら——」

「うるさい! 白いキリンはいるもん! あくま! おにひとで【おにひとで】ヒトデ綱アカヒトデ目オニヒトデ科オニヒトデ属の一種。日本では沖繩のほか本州でも確認されている。サンゴ礁に生息し、大きなものは30cmにもなる大型のトゲだらけのヒトデで、ヒトでも死に至らしめる毒を持つ。成体はサンゴまでも捕食するので、サンゴ礁の消滅と形成のサイクルに大きく関わっている。しかし、大量発生して完全にサンゴ礁を食いつくしてしまうという環境問題があり、これは肥料や生活排水などによる「サンゴ礁の富栄養化が原因」という説が有力である。……さて、あまり海に縁が無さそうなキリンがなぜこんな発言をしたかと言うと、ハナコの発言につられて『悪魔!』と言ったあとに、悪口を言い慣れていないのでまちがえて『鬼!』と『人でなし!』が混ざっただけなので……この長い解説はぜんぜん意味が無いんじゃない?」

「そ、それはそれとして……証拠は、あなたの方が出さないといけないんですっ!」

「証拠ならあるもん！ うわあーん！ うわあーん！ はんにん！ ようぎしや！ うれないさつか！」

ううう……この子、泣いちゃったよ……。

そして、そばのカラカルは、おろおろと泣くキリンと、おろおろしながら反論する私とを見比べるようにして、ただ無言でにやにや笑いを浮かべるのみ。

あーあ、泣かせちゃって……と、目が語っているように思える……。

イヤ、なんで私が悪者みたいな雰囲気になってるの？

「うあつはっは！ ういっひっひ！ 二人とも……すっごいおもしろー！」

議論が完全な膠着状態を迎えた私たちに、だしぬけにカラカルが吹き出した。

「ぐすんっ！ なな、なによう！ じゃえっ、全然おもしろくないんだがらあつ！ こんのヤギい、自分の非を認めないのようっ！」

キリンが鼻水をすすりながら訴えた。

「ひ、『非』って……私、何か悪いことした……？」

「ああ、キリンの『すいり』は……違うと思うけどなあ。私もヤギの子には何人か会ったことあるけど、みんなツノが生えてたし、瞳の形【瞳の形】瞳孔の形状は動物によつて異なる（筋肉である虹彩に囲まれている「穴」の部分が瞳孔。光はココを通過して、

眼球内側の網膜に投射される)。ヒトの瞳孔は円形、ネコやヘビやワニでは縦長の楕円形、ヤギやヒツジなどは横長の楕円形である。楕円形の瞳孔は円形のものより開閉差が多く、夜行性動物が夜間に「少ない光量をできるだけ取り込む」ためではないか？との説がある。また「縦長」の瞳孔は、物体の距離感を把握しやすく、肉食動物の多くがそうであることの説明がつく（ライオンやトラの瞳孔は丸いけれど、サイズの違いによるものか？）。それに対して「横長」瞳孔は視野を広く取れる。多くの動物が、草を食べるため頭を下げてても瞳孔は水平のままにでき、さらにヤギなどは50度以上も眼球を回転できるため、つねに周りを警戒できる。このように、瞳孔の形には、動物の生態と進化が深く関わっている。そして野生動物がヒトに変化した「フレンズ」の瞳孔の形はヒトのそれではなく、「元の動物と同様の形」を受け継いでいる。が私とは違う感じだし。それに、あの子たちは山に棲んでるわけだから、このさばんなちほーでフレンズになるのはおかしいわよく。だいたい、キリンの『すいり』は、今まで合ってた試しがないし……」

「ぐうつ……なんてろんりてきな反論っ……！」

「ハナコ、アンタ、あたまが固いわね……。あたまでつかちよ！　こういう子には、マジメに突つかかるんじゃないやなくて、テキトーにごまかしたり、聞こえの良いことを言ったりしないよ……」

「そうよ！　ぐすつ！　私には、テキトーにごまかして、聞こえの良いことを言いなさい

！」

……そ、それでいいの、キリン……。結構ヒドイ感じに言われているけど……。

それにしても、カラカルは……。頼りになるなあ……。

あ、でももうちよつと早く仲裁して欲しかったかなあ？

……楽しんでたでしょ、あなた。

「すみません……熱くなつてしまつて……」

「(こ)ち(ら)こ(そ)、頭に血が上つちやつて「頭に血が上つちやつて」キリンの心臓は、体重に對してそれほど重いわけではない(体重に對する比率で心臓が最も重い動物は実はイヌ)。しかしキリンの心臓の構造は特殊で、肺に血液を送る「右心室」の壁が厚さ1.5 cmに對して、全身に血を送り出す「左心室」の壁は8 cmもある！これは、2 m以上も高いところにある頭部へと血液を登らせるため。最高血圧が260 mmHg、最低血圧が160 mmHgと、キリンは超血圧！こんなに高血圧だと脚部や下げた頭の血管が破裂してヤバいのでは……と思えるが、枝分かれした頸動脈、静脈にはたくさんの逆流を防ぐ弁、うっ血(むくみ)を防ぐ脚の皮膚と筋肉、そして脳の急激な血圧変化を防ぐ緩衝機構「ワンダーネット」など、高血圧からカラダを守るしくみがたくさんある。「フレンズのキリン」もそんな特徴を受け継いで、ヒトより長時間逆立ちできたりする。

また、怒る時は一気に怒る、泣く時はものすごい勢いで泣くなど「頭に血が上りやすい」性格も、元動物の生態に由来するものなのだろうか？、ごめんなさい。認めたくなかったけど……この私も、時には間違うことがあるのよね……」

「どうぞ、これからよろしくお願いしますね」

「こちらこそ、仲良くしてね」

こうしてキリンと私は、カラカルが間に入ってぶじに仲直りした。

「ハナコ、私の『すいり』を言ってもいいかしら？ 何の動物か当ててあげるの」

「え……？」

「おもしろいわ！ 私とカラカルの推理合戦ね！」

私が面食らったのも無理はない！

今度はカラカルがそんなことを言うのだ。

「ハナコ、アンタは頭の上に耳が無いのが珍しいわよね。ナマケモノとか、ゴリラとか、上の耳の無いフレンズもいるらしいけど、みんな『じゃんぐるちほー』に棲む子なのよね」

ジャングル地方……？ やはりジャパリパークには「サバンナ」以外の気候区分も存在するらしい。

そして、カラカルの推理だが、キリンのそれより、真つ当なものである予感が……。

「サバンナ生まれの、上の耳の無いフレンズと言ったら……アンタ、もしかして『ヒト』【ヒト】現代人類、ホモ・サピエンス・サピエンスのこと。この『けものきろく』では、それなりに書き方を区別している。「ヒト」とカタカナで書くと、生物種としての現生人類かあるいは化石人類を指していることが多い。「人間」だと、文化・民族・人格などの部分に着目している。「人」「ひと」は、一般的にフレンズの間で、誰かを指す時に使われる言葉である。ハナコのセリフでは「伝説の人」、フレンズ達のセリフは『伝説の「ヒト』』と書かれている。こういう意識の違いによる細かい言葉遣いに注意すると、今後面白いかも知れません。……ところで、ジャパリパークのフレンズ達にとっては、「自分たちのこと」を指す「一般名詞」が、同時に「伝説上の神話生物」の呼び名でもあるのが興味深い。「フレンズによく似ているらしい『ヒト』……それにしても、変な名前く!!」と多くのフレンズ達は思っているのだろうか？ 我々人間の感性で言う……南極のUMA「ニンゲン」と同じような語感か？」なんじゃない？」

……。

はい、分かってます。私は人間です。

I a m a human……

……何を言うかと思つたら……真つ当すぎた。期待していたら、当たり前すぎる事実が返つて来たので、なんだか拍子抜けしてしまった。

だが、キリンが大変驚いた様子で言う。

「ええっ!! そんなまさか!! 『ヒト』つて言つたら、あの『かばんさん』の仲間じゃない!!」

つていうか、カバンサン……つて、何?

「なーんだ、全然ビックリしないわね、ハナコ。ああ、そりやそうか、アンタ生まれたばかりだから、『かばんさん』のこと、ぜんぜん知らないものね」

『かばんさん』はねえ、偉大なのよ! すごいフレンズなのよ! 伝説の『ヒト』なのよ、『パークのえいゆう』なんだから!」

そう……なのか……?

いったい何者なんだろう、『カバンサン』つて人は?

それから、ふたりに『カバンサン』のことをたつぷりと聞かせてもらった。

かばんさんというのは、ジャパリパークに伝わる、『伝説の人』らしい。

いや、もしかしたら大昔に実在したかもしれないのだが、その英雄的な活躍ぶりがま

た、凄まじいものなのである。

私がふたりのフレンズから聞いたのは、以下のような伝説である。

まず、「ばす」という、ゾウよりもクジラよりも巨大な動物に「命」を与えて、上に飛び乗って、これを自由に従えたという（「ばす」とは何の動物だろうか？ 口伝えするうちに名前が変わってしまったとか？ そしてゾウやクジラよりも大きいというのは、さすがに「尾ひれ」が付き過ぎた伝説である）。

たぶん、ウシだかウマだかの乗用になる野生動物の病気を治して、飼い慣らしたというのが実際のところではないだろうか。いや、それでもかなりすごい人間だ……。

さらに、平原を通りかかった時に、悪しき心を持った獣たちが襲い掛かったが、これを調伏せしめたという。

サイの突進を片手で受け止めると、サイは疲れ果てて斃れた。

姿を消す能力を持ったヒョウが飛びかかったが、これを心眼で見破り、逆にこん棒の一撃でその頭を叩き潰した。

また、はるか遠くの草むらに隠れる巨大シカに向かってこん棒を投げ、首の骨を折って絶命せしめた。

クマの頭を狙って木の実を投擲すれば、その頭が半分消し飛んだ。

ライオンが眠り込んだすきに、これを寝技で絞め殺した……などの数々の武勇伝。

うち倒された「悪の心をいだく獣」たちは、改心して生まれ変わって善い心を持ったフレンズになり、以後はカバンサンの忠実なしもべになったという……。

うーん、まるでヘラクレス「ヘラクレス」めつき強いギリシャ神話の英雄。いろいろな武勇伝があり、平たく言うことやたら戦ってばかりの筋肉モリモリ、マツチヨマンのヘント……神様（c v 玄田哲章）。イメージで言うのと、アーノルド・シュワルツェネツガー氏……っていうか、実際に『SF超人ヘラクレス』（1970）でシユワちゃんが演じているし！ 英語で言うとはーキユリーズで、フランス語だとエルキュール……こちらにはベルギー人の名探偵だ。暴力ではなく「叡智」に優れ、「灰色の脳細胞」を持つ「小さな英雄」である。である。まあ、仮に実際に起こった事件に由来しているとしても、その事実はそのごく誇張されているはずだ。

暴走する様々な野生の猛獣を、銃などの武器を使って戦って倒した……というのが真実だろうか。カバンサンが実在したとすれば……レンジャー部隊の軍人かなんかなのは？

そして、自分の信頼する仲間が、山よりも大きな（これも誇張表現……だと思うが）セルリアンに食べられそうになった時には激怒し、フレンズの大軍勢を率いて、炎を起こして敵を焼き、火山を噴火させて溶岩で敵を沈めたと伝えられている。

これはなんだか、一番ありえそうな話である。やはり実際のカバンサンは軍の指揮官

で、現地の部族を率いてセルリアンと戦ったのであろう。炎や火山というのは、銃火器や爆弾など、パークに存在しなかった近代兵器を身近な例えを使って描写しているに違いない。

他にも……大きな川に差し掛かった時に、道よあれ、とカバンサンが言うのと、目の前に道が現れた。高い山を登るときに、魔法で空を飛んだ。地下洞窟で襲ってきたセルリアンが、カバンサンの唱えた呪文により、突然の地割れに飲み込まれた。雪崩のように突撃するセルリアンの群れが、カバンサンの魔力により、二手に分かれて通り過ぎていった。亡霊の正体を魔眼で見破って封印した。火山を三日三晩殴って噴火を止めた。海の上をすごい速さで走った……云々。

誇張と曲解「誇張と曲解」イヌイットの言葉には100個もの雪の名前がある」という有名な話がある。よく「サピアールウオーフ仮説」(※第0章の「虹色」の話参照)とともに語られるが、実はコレ……真っ白な嘘なのである。人類学者フランツ・ボアズのリジナルの論文では「イヌイットの言葉には4個の雪の名前がある」としか書かれていないし、イヌイットの雪を表す言葉は実際は、少なくとも4〜6個で、多めに見積もっても16〜20個ほどらしい。だが！ 伝言ゲームで雪だるま式にドンドコ話が盛られて、その数がとうとう100にまで膨れ上がってしまったのだ！ イヌイットの専門家がほとんどいなかったため、言語学者でさえ正確な事実を把握できなかったのであ

る。つまり現代の知識層でさえも「身近ではないことがら」については、いともたやすく事実が誇張曲解されてしまうのである。誰も見たことが無い「ヒト」などは、フレンズ達によつて、そりやもう際限なく武勇伝を盛られまくりののです……。がここまでくると……完全に多神教の神や一神教の聖人のレベルである。

さすがに、こういうエピソードは荒唐無稽すぎて、とてもじゃないが事実に基づくとは考えられない。故意かどうかは分からないが、後の世になつて付け加えられた、英雄性を高めるためだけの、根も葉もない創作だろう……。

「キリンは、かばんさんのこと、詳しいのよ」

「そうよ！ かばんさんはすつごく強くて賢かつたんだから！ それよりもね、なによりもフレンズ達のことをいつも考えて、自分のことより、みんなを幸せにするために行動したの！ カバンサンのまわりには、いつも笑顔のフレンズ達がいたのよ！」

……嬉しそうに話すキリン。

その熱意に押されて、私もカバンサンの実在を信じ始めた。

彼は過去に、近代文明からこのジャパリパークにやってきた漂流者で、この未開の地を開拓して、フレンズ達に文明をもたらした人物なのだろう。その上陸した場所が、サバンナ地方だったのだ。

Kavanson? Cabansan?……どこの国の人なんだろう?

きつと、人一倍体力があり、勇敢で、どんな武器でも使いこなす、何でもひとりで解決してしまおうような仲間思いの聡明な男性……偉大な指導者。

「それでカバンサンは最後にはどうなったんですか?」

「うーん。それがよく分からないんだなあ……。自分の仲間を探して別の場所へ旅立ったって言うけど、その後の話が全然分からないのよ……」

「自分の仲間を見つけることが出来て、一緒に暮らしたのかしら……」

「あるいは、今もまだ探していて、旅をしているのかもしれないわね!」  
「だとしたら、夢のある話ですね!」

カバンサンは偉大なのだ。英雄なのだ。

……外の地からやってきて、現地の住民「フレンズ」として生きて、献身的な人間——逞しき異邦人——カバンサン。

私は彼の足元にも及ばないひ弱な人間だが、それでもこのジャパリパークでこれから生きていくためには、彼のチカラのほんの少しでも、あやかりたいものだ……。

私はカバンサンの話を聞いて勇気づけられ、そしてこの「野生の世界」で生き抜いていく決意を新たにするのだった……。

## 第2話 喰うもの、喰われるもの [▲]

枯れたような草や低木ばかりの、乾いた砂ぼこりの舞う「サバンナ地方」……。だがこの水場だけは、青々とした高木や草やぶで周囲をまばらに囲まれている。

この湧き水が一時的なものではなくて、さらに水脈の規模も大きいという証拠だろう。雨季に降った雨や遠くの山々を流れる水が、地下深くの固い岩盤の上を流れて、このように乾季でも枯渇することのない湧き水となっているのだろうか……？

いや、雑草が多くて分かりにくいのが、周辺にきれいに植えられたオリーブの木などの果樹の配置には、人工的な幾何学さが見て取れる。自然にできた沼ではなく、ここは人間によって整備されていた溜め池のようだが……？

へんな金髪碧眼少女、キリンと出会ったこの「サバンナの水場」[サバンナの水場]現在の「さばんなちほー」は乾季、草木は枯れ果て、とにかく空気は埃っぽく乾燥している。そんな乾季でも枯れることのない水場は貴重で、多くのフレンズ、そして動物たちが集まる。肉食獣も水を飲みに来るため、草食獣にとっては命がけの水分補給になる。同種、または異種同士の草食動物たちが、かわるがわる水面から頭を上げて見張りをす

る光景が見られる。アフリカの水場の水は黄色っぽかったりするが、これは周りの植物から渋み成分のタンニンが溶け出しているためで、飲んでみるとお茶のような味がするそうだ。」では、私たちの他にも三人の地元住民——「フレンズ」の姿が見受けられた。

ひとりには、半袖のサフアリシャツを着たショートパンツの少女……。

彼女が「何の動物か」は実に分かりやすい。サフアリシャツの中の長袖のインナーと半ズボンとソックス……それらすべてが、細い白黒のシマ模様。さらに髪の毛まで、白黒カラーの細密なボーダー模様のメッシュが入っている。頭の上には、ウサギのような丸っこい「けもの耳」……。

シマウマ〔シマウマ〕ウマ目ウマ科のけもの。実はあのシマ模様は黒い地肌に白黒の毛が生えているぞ。シマ「ウマ」という名前だが、ウマっぽくない大きな耳といい、分類的にはロバに近い。鳴き声もロバに似ているらしい。家畜化されたウマよりも、気性が荒いのが特徴。サバンナシマウマ・グレビーシマウマ・ヤマシマウマの3種類がいて、体長やシマ模様パターンによって区別が可能。なお「あのシマ模様は何のため？」なかは、生物学的にけっこうナゾに包まれており、個体識別説、草原迷彩説、輪郭誤認誘導説、体温調節説、寄生バエ忌避説など……昔からさまざまな学説がある（今では否定されている説もある）。なお、この水場にいるシマウマの子は「グレビーシマウマ」のフレンズ。シマウマの仲間でも最大種で、非常に細いシマシマ模様（お腹は白）が特徴。

他種よりも水を飲むのが大好きだが、渇きにも強くて、乾燥地帯を好んで生息。さらに地下水脈を感じて掘る能力もあるとか。グレビーシマウマは他種より単独性が強めで、他の2種のシマウマのように典型的なハーレムを作らない。オスのみにキバ(犬歯)があつて、これでライバルの前脚の腱を狙って噛み付く、という熾烈しれつなナーバリ争いをする。のフレンズだ!

しかしあのシマシマ模様染めた髪の毛のせいで、後ろ姿はまるで別の生き物【別の生き物】サバンナシマシマオオナメクジ。軟体動物門腹足綱に属する、有肺目オオナメクジ科の陸棲貝類。学名: *Equus quagg* はラテン語で「白黒のシマ模様」の意味。アフリカ大陸、サハラ以南の熱帯草原・半乾燥地域に広く分布するナメクジ。カラが完全に退化している種であり、その柔らかい体で石の下、木の洞うらなどに入り込み、乾燥を防ぎ外敵から逃れることで、アフリカの多くの地域で繁栄している生物。アフリカに棲む大型ナメクジといえば、体長20cmの「バナナスラッグ」が有名だが……本種はさらに大型で丸みを帯びた体をしており、体長は数十cmから1、2mにもなる。この大型化はサバンナ乾燥環境に適応した結果だと言われている……「ベルクマンの法則」と同様の「2乗3乗の法則」により、サイズが大きいほど体内に水分を溜めることができるからだ。分厚い外套膜を持ち、体表の白黒のコントラストのはっきりした明瞭なシマ模様が、名前の由来である。遠目で見ると、現地の視力の高い人間でもシマウマ

と間違えるほどによく似ている。のようだ！

そして向こうのフレンズは……茶髪をうなじの辺りでリボンで二つに結んでまとめている女の子。淡褐色のツートンカラーのシャツ、白のミニスカート、短い丈のソックスやリストバンド……活動的な印象。頭頂部の「けものの耳」のそばには、黒い髪の毛が弓なりに沿ってびよんと突き出していて……ウシのツノのようだ！

後ろ姿しか見えないが……耳と尻尾がびよこびよこしていて可愛い……彼女は何の動物だろうか？ ウシやヤギを思わせる耳の形。ツノのような形をした毛髪。サバンナに生息するレイヨウ〔レイヨウ〕ウシ科の中で「ウシ族」と「ヤギ亜科」を除いたけものの総称。アンテロープとも言う。漢字だと「羚羊」だが、「かもしか」とも読むので紛らわしい。ウシ科約130種のうち大部分（約90種）がレイヨウだが、家畜種は存在しないのが特徴。なので、ヒトにはちよつとなじみのうすいけものたち。多くがアフリカ大陸に棲んでいるが、アラビアオリックス・サイガ・チルー・ニルガイ・ヨツツノレイヨウ……など、ユーラシア大陸に生息するものもある。なお北米大陸にはプロングホーン科の「プロングホーン（エダツノレイヨウ）」というレイヨウの親戚みたいなものが棲んでいる。ガゼル〔ガゼル〕レイヨウの仲間。もつと細かく言うと、「ブラックバツク亜族」に属するガゼル属・トムソンガゼル属・ダマガゼル属の3属のけものを指す……のが一般的な説。そして、ここで水を飲んでいるフレンズは「インパラ」の子

で、正確にはガゼルではないので注意！……余談だが、聖書に登場する名前、ドルカス（男っぽい名前だけ女性名）とタバサ（こっちは女の子らしい名前）はギリシヤ語やアラム語で「ガゼル」を意味する名である。

のフレンズだろうか？

よほど喉がかわいていたのだろう、一心不乱に水を飲んで……。

だがこの子も、なぜキリンと同様変わった水の飲み方をするのだろうか……？

肉付きの良いお尻を背後に突き出して、水を飲んで……動物のガゼルが水を飲むように……。

ああ、女の子なんだから、もう少し気を使ってもらわないと困る……と、チラチラわき目で見ながら、私は罪悪感を覚えた。

「お尻を観察しているようだけど、どうしたの？」

だしぬけに後ろからキリンが言った。

臀部と太ももの筋肉の付き方の観察にふけていた私は、どきっとした。

「エツ……!!? ……いい、いや……!! ああ……尻尾のアクセサリーが……興味深いわけ  
で、それを観察しているんです！」

「あ、あくせ……? 何の話なのよ？」

「ハナコ、どうしたのよ？　ここのお水は、おいしいわよ」

そばで水を飲んでいるカラカルが言った。

ぴちやぴちやと音を立てて飲みながら「おいしいから飲みなさいよ」と、私を促すカラカル。

周りのフレンズをしげしげと注意深く眺めるばかりで、水を飲もうとしない私を、気にしていたらしい。

……この水は飲めるのかと、疑っているのだと思われるのかもしれない……。

いや、それどころか……この湧き水はたいへん魅力的だ。

透明感溢れるほの暗い水を湛<sup>たた</sup>える池……。青緑色の水底と、水面<sup>みなも</sup>に映るサバンナの空のブルーのとコントラストが、いかにも涼しげで……長距離を歩いた後の渇き切った喉の奥を刺激するのだが……。

しかし、こんなキレイな水でも、顕微鏡で覗けば微生物【微生物】細菌、菌類、寄生虫など。たとえば未消毒の水に含まれる可能性のある細菌は……病原性大腸菌、サルモネラ菌、カンピロバクター、腸炎ビブリオ菌、赤痢菌、コレラ菌、腸チフス菌、セレウス菌、ウエルシユ菌、エルシニア菌、黄色ブドウ球菌、e t c……。多くは熱に弱いので「煮沸消毒」がとても有効だが、セレウス菌などは高熱にもアルコール消毒にも強く、塩素系の消毒薬を使用するしかない。がうようよという可能性も……。

うーん、消毒薬〔消毒薬〕水道水やプールの消毒と同様に、塩素系漂白剤（ブリーチやハイターとか）によって飲料水を消毒できる。布やコーヒーフィルターなどでゴミをろ過してから1分沸騰させて冷ました水、2Lに対して「次亜塩素酸ナトリウム」5〜6%の漂白剤（洗剤や香料が入っていないもの）を8滴加えて30分置いておく……塩素っぽい臭いがしていればOK、そうでなければまた8滴加える。……以上はアメリカ赤十字社の推奨する方法。また、希ヨードチンキやルゴール液、イソジン等に含まれる「ヨウ素」でも水を消毒できる。約2%のヨードチンキならば、水1Lに5滴（濁った水なら10滴）加えて30分放置するというのが、米陸軍でも推奨されている方法。ただしメーカーは全く保証していない方法だし、妊婦さんや甲状腺障害、ヨードアレルギーの人などにはヨウ素は有毒である。ここで紹介した方法は、あくまで緊急時の非常用……アンド実行は自己責任で！はないので、煮沸消毒〔煮沸消毒〕原始的だが大変有効な飲料水の消毒方法。ナベなどで最低1分間水を沸騰させる。気圧によって水の沸点は異なるため、高地ほど火にかける時間が延びることになる。厚生労働省検疫所によると、『標高2,000m以上の高地では最低3分間の沸騰』が推奨されている。他にも、発展途上国で行われる薬品を使用しない消毒方法がある——ビンやペットボトルに水を入れて太陽光に最低6時間（天気が悪くもりなら2日間）当てて、紫外線で殺菌する「SODIS（Solar water disinfection）法」という、WHO

やUNICEFや赤十字が推奨するやり方。時間はかかるが、透明容器があればどこでも実行できる、お手軽な方法。日本でも、ネコが多い地域でコレをやっているのを、ひと昔前はよく見かけたものです（たぶん違う）。したいところだが……。古びた水筒を、これを火であぶるか？ライターもマッチも無いので、木でもこすって火を起こすしかないが……。

しばし悩んだ後で、私は、フレンズたちに倣ならうことにした。

ジャパリパークに入ればフレンズに従え。

水際で前屈みになり、両手ですくい上げて水をごくごくとがぶ飲みすると、乾いた肉体に水分が深く染み渡った……。

「どう？ おいしい？」

「はい！ シャバの水はうめえ！ 五臓六腑にしみわたる〜！」

「あはは！ へんなの！ よかった！」

……ああ、そういえば……水場にはもう一人フレンズがいたけど……。

あれ？ いないな？ さきほどまで、青白い服を着た、白い髪のパレンズが確かにいたはずだが……。いつのまにか、いなくなってしまったらしい。

一息ついてから、水場の周辺を探索してみることにする。

さっきのシマウマとガゼルのフレレンズは、いつのまにかどこに行ってしまって、水場にはカラカルとキリンと私の3人だけだ。

周りに植えられた樹木の周辺を、何か役立つものがないか探してみる。

すると、槍〔槍〕有史以前よりヒトが使ってきた狩猟用・対人用の武器。銃器に取って代わられるまで世界中で使われ続けた。その長所はリーチの長さ。敵との距離を取りながら攻撃できることは、戦術的にも心理的にも大きなメリットだ。片面、狭い場所ですぐに攻め込んで、長くても重くてもかさ張るのが欠点。柄の部分は基本的に木製で、強度の高い重厚な木材が使われた。手持ちの普通の槍のほかにも、手や槍投げ器で投擲するための短い「投げ槍」がある。として使うのにちょうどいい木の枝を見つけた。真つすぐな若木だ。私の身長ほどの長さで、ちょうど握りやすい程度の太さ。重さや耐久性や柔軟性も申し分ない。

樹になっっている実や、その細長い葉の形からすると、どうやらこれはオリーブ〔オリーブ〕シソ目モクセイ科の常緑樹。北アフリカ原産。果実はオリーブオイルの原料。生で食べるとニガイので、加熱したり塩漬けにして食べたりする。葉が小さく厚く乾燥に強いいため、イタリア、スペイン、ギリシャ、北アフリカなどの地中海沿岸の乾燥地域で果樹として古代より栽培されている。ヨーロッパや中東の果樹用オリーブは幹が細いため、木材用のものはケニアやタンザニアなどのアフリカからの輸入材が多い。オリーブ

材はツメで押ししても傷つかないほど硬く、とても重い——比重：0.85。赤樫アカガシや紫檀シタン並みの密度。まな板やボウル等、調理器具や高級家具などに……そして武器の柄としても使われた。ギリシャ神話の英雄ヘラクレスは「オリーブのこん棒」で洞窟に棲む獅子の怪物（モデルは「ホラアナライオン」と戦ったという。……なお、こん棒での打撃は全然効かなかったたので、絞め技で倒したもよう。その大獅子はのちに夜空に輝く「しし座」になりました。そして日本では、香川県の県花・県木であり主要農産物。さらに四国全域や小豆島のほか、東北・北海道を含む日本全国で栽培されている。また香川県はハマチ（ニブリ）養殖の発祥の地だが、「オリーブハマチ」というオリーブの葉の粉末を与えて育てられたハマチが名産品。さっぱりしていておいしいらしい。のようだ。

この枝の先端を岩に打ちつけて裂け目をつくり、先ほど拾った「窓ガラスの破片」の、出来るだけ尖ったものを挟み込む。そしてシャツの端を細く引き裂き、ねじって紐状にする。これで槍の裂け目に挟んだガラス片にしつかりと巻き付けて固定する。石器時代の石槍【石器時代の石槍】人類最古の石槍は約50万年前のもの。これは現生人類（ホモ・サピエンス）やネアンデルタール人より昔の人類……ホモ・ハイデルベルゲンシス（ホモ・エレクトスの別種）の発明であるらしい。我々「ヒト」は、彼らから槍の作り方を教わったのか？ あるいは独自に槍を発明したのか？ それは定かではないが、木の棒の先端に刃を固定する「着柄チャクヘイ」のためには……動物の腱や植物でできた「ひも」の作

成、樹脂や膠の「接着剤」とそれを溶かす「火の使用」など、高度な知識・技術が必要とされる。身振り、手振りだけではとても技能を伝達できないため、「槍の発明」は「言語の使用の証拠」であると言われている。と何も変わらない、原始武器……。

それでも素手や石を入れた靴下などよりは、だいぶ頼もしいものだ。

オリーブの木の下で涼むカラカルとキリンは、上記の作業を行う私の姿を所在ない様子で眺めている。

「なにしてるの？」面白いい？」

と、カラカルが聞いた。地べたをごろごろと寝転がり、落ちたオリーブの実を転がしたり口に入れたりして遊んでいる。

「オリーブ……な、生で食べて苦くないですか？」

「にやあ？ 『おりいぶ』っていうのコレ……？ まあ、アブラっぽくてけっこうおいしい【けっこうおいしい】実はネコはオリーブを好む。観葉植物のオリーブの葉っぱや実をムシヤムシヤ食べてしまうし、オリーブオイルだって舐める……行灯の油を舐める怪談の化け猫みたいだ。基本的に害は無いが、食べ過ぎると下痢になることも。でも酢漬けや塩漬けなどの「加工品」のオリーブは塩分過多だから、ネコに与えてはいけないのだ！ オリーブの実って、とくに栄養分があるわけではないが、ネコは油分が好きなのだろうか？ あるいはマタタビのような効果があるという説も？ なお地中海沿岸の

国々ではポピュラーなネコのオヤツらしい。NHKの番組『岩合光昭の世界ネコ歩き』のトルコ・イスタンブール編でも、市場のネコちゃん（オルジャンくん）がオリーブの実を食べていた。正直クツソかわいい！！わよ」

「むむ！ どうやら……何か作ってるわね？ きつと『きょうき』にちがいない……。ハナコ、あなた、わるいことするつもりでしょ！」

キリンがまた自分の推理を述べた。

「べ、べつに悪いことはしませんよ……」

「ううう、ほんとかしら〜？」

木の棒とガラスの「槍」が完成すると、私はふたりのフレンズから離れて、それを軽く振り回してみる。

重すぎず、重心のバランスも良くて取り回ししやすい。

「へえ、アンタ、器用なのねえ〜。それは、あそびどうぐ？」

「武器ですよ、武器。セルリアンが来たら、これでこう、槍で突つつく【槍で突つつく】日本の槍術は、流派や得物にもよるが、「突き」攻撃がメインだ。槍術を簡略化した戦時中の「竹槍術」では、突ツきツしかツ教ツえツなツかつたツほどだ。「左足前」オーソドックスに構え、左手でゆるく槍を支えた状態で、右手で後端を押して突くのが基本動作。ボクシングなどと同様に、利

き腕の右腕のチカラを活かして、精密な突きができることが利点。しかし、敵が刀などを持つて「右足前」<sup>サウスボ</sup>で構えている場合は、相手の手元が見えやすいように、こちらも同様の右足前で構えたほうがよい。また槍での「斬撃」「打撃」を効果的に使いたい場合も、利き腕の腕力が生かしやすい右足前のほうが有利。さらに右足前からの、相手の右手の武器を狙い「内側から外側へ払う攻撃」のほうが、人間の腕と手首の構造上、「武器弾き」をしやすいというメリットもある。わけです」

フレンズ達から「おお！ すごいっ！」という反応が返つて来た。

「まるでレイヨウのツノみたい……！ 自分で『ぶき』をつくつちやうなんて、すごいわねえ！」

「あなた、ただのヤギかと思つてたら……ひづめの器用なヤギかつ！」

「な、なんじゃそりや……。そもそも私、ヤギと違いますしっ！」

「うくむ、ハナコは変わったけものね……。あのね、アタシたちの場合、武器は自分で最初から持つているものを使うのよ」

「うん。動物も、フレンズも、ふつうはそうよね……」

「……武器か……。あの、じゃあ、おふたりは、どんな武器を持つているんですか？」

私はふたりに尋ねてみる。

あの「セルリアン」とかいう冒流的な生物が跳梁跋扈ちやうりやうぼこ【跳梁跋扈】「跳梁」は梁はりで跳

ねること、「跋」は飛び越える、「扈」は魚を採るカゴのこと。というわけで、悪いものがあちこちでジャンプ力う……で飛び回るように悪さをする、という意味の四字熟語……ですかねえ……。する、この危険なジャパリパークである。

やはり銃だろうか……。？　しかし、あんな連中が相手では拳銃【拳銃】片手で射撃できる銃器のこと。英語ではそのまま「ハンドガン」。古くから存在する回転式拳銃と、19世紀末から開発された自動式拳銃の2種類に大きく分類できる（「ピストル」は、正確にはオートマチックのみを指す）。それぞれの特徴は……。単純な構造ゆえに手入れが簡単で装弾不良に強いが、装弾数が少ないリボルバー。可動部分が多く手入れが難しくジャムると面倒だが、装弾数が多いオートマチック。どちらも一長一短。なおハナコはサラッと「ハジキ」という言葉を思い浮かべたが、これは拳銃を指す暴力団・警察関係者の古めの隠語だ。ほかにもチャカ、レンコン（リボルバー）、ヒキダシ（オートマチック）、道具、腰道具……。などの、拳銃を意味する隠語がある。では力不足だ……。

さつき道中でカラカルに聞いたところによると、色々な種類のセルリアンがいるらしいが、最低でもライフルやショットガンなど「ライフルやショットガンなど」つまり拳銃以上のサイズの、両手持ちの銃器。「長物」とも言う。狩猟用ライフルや軍用自動小銃、散弾銃などは……。強力な弾薬、反動を抑え込めるだけの重量、弾丸を加速させる長い銃身、精密射撃のための銃床があり……。拳銃など比較にならないほど遥かに強

力な武器である。そもそも拳銃は威力で大幅に劣るだけでなく、非常に命中率の低い武器だ。世界で最も射撃訓練を積んでいて、最も実戦で拳銃を使い慣れているであろうN.Y.P.D.<sup>ニューヨーク市警</sup>の警官でさえ……事件現場の犯人に対しては、2 m以内の射撃距離でさえ命中率は約40%、距離3〜7 mでは約20%、そしてそれ以上離れると命中率は10%以下に低下するという統計結果が出ている（参考資料を参照）。つまりこつちも相手も動きながらの状況では、拳銃は格闘できる距離より離れるとほとんど当たらない武器……ナイフやこん棒と同様の接近戦用武器だと言っている。が無いと対抗できないと思うのだが……。

「私は、この手が武器かな。ジャンプしてツメを出せば、ちよつとしたセルリアンならばつくり切り裂けるからね」

「私の場合、脚で蹴つ飛ばしてもいいけど、やっぱり一番の武器はこの『マフラー』よ！

ぶんぶん振り回しちやえばムテキよツ！」

……カラカルとキリンは、おかしなことを言った。

さっぱり分からないのだが……いったいどういう事だろうか？

「きやあああああつ!!」

青天の霹靂【青天の霹靂】突然のびつくりするようなできごと。800年ほど前の中

国、南宋の時代の陸游りくゆうという人が詠んだ詩に由来する故事成語。「霹靂」とはカミナリのこと、「晴れ渡った空に突然雷鳴が響く」という、いきなり衝撃的なことが起こるというシチュエーションのたとえだ。意味が同じ「晴天の——」と書くとは本当は誤字なのだが、中国や台湾などの漢字圏ではコチラを使うこともあるらしい。この時、乾季サバンの青空に、少女の悲鳴が雷鳴のように聞こえたので……ちようどイメージ的にもピッタリの言葉と言える。!

突然サバンナの空に響き渡る声!

その少女の悲痛な悲鳴は……私たちがいる水場の近くから聞こえてきた!

カラカルとキリンのけもののが、ぴくぴくと断続的に動いて、声の方向に反応している(どういう原理なんだ?) ……!!

「フレンズの悲鳴……!! ということは、まさか、またセルリアン!」

「ええッ……!?!」

「ハナコみたく、誰かがセルリアンに食べられちゃってるのかも……!」

「そ、そんな……!!」

「よーし! 人助けなら、このキリンにおまかせよ!」

事態は急を要する!!

カラカル、キリン、私の3人はその要救助者のもとへと走った!!

カラカルは初めこそ非常に俊敏であったが、スタミナが乏しいらしく、すぐにバテてしまっていた。

そしてキリンの持久走が得意なこと……まるで陸上選手のように、この熱帯草原を素早く駆け抜けていくのだ……。

その走り方……二人ともまるで、本物のけものようだが……。

これまでの言動といい……いや、まさか……。

ええい！ そんなバカげた妄想はどうでもいい！

今は人命がかかっているんだ、そちらに集中しないとっ！

悲鳴の主のもとへと急ぐ道すがら、焦った様子で逃げ惑うフレンズに遭遇した。

彼女は草むらから、ぴよんと軽快に跳ねて私たちの前に跳び出てきた。

淡褐色のブラウスやスカートを着ていて、一見すると学生服のようだが……案の定、尻尾やら耳やらがあるのがフレンズらしいところ。それに、前髪の一部がツノのように跳ね上がっているのも特徴。さきほど水場にいた「レイヨウのフレンズ」によく似ている。

「あなたは確か……ど、どちら様だったかしら……？ ええつと……あなた、トムソングゼルね！」

顔見知りらしいキリンが声をかける。

「ガゼルじゃないの、わたしスプリングボック!」【スプリングボック】和名トビカモシカ。クジラ偶蹄目ウシ科に属する、ガゼルのよーなけもの。学名「*Antidorcas marsupialis*」の示す通り、ガゼル(*Dorcas*)ではない……。そして *marsupialis* はラテン語で「袋」の意味で、その通りにお尻に袋状の白い毛が生えている。コレがガゼル類との大きな違いだ。生息地はアフリカ大陸の南西部なので、おもに北アフリカ・東アフリカ・アラビア半島に生息するガゼル類とは棲んでいる所が違うもの。なの! ああつ、そんなことより、セルリアンがたくさん出てきて大変なの!」

「わ……ちよつと! 落ち着いて、話して!」

もともと色白の顔をさらに蒼白にして、半ばパニック状態で話すスプリングボックを、カラカルが落ち着かせる。

やはり、状況は穏やかなものではないようだ……!

「……このままじゃアードウルフが食べられちゃうの! おねがい、助けてあげて!」

「もちろん!」

二つ返事でそう答えた我々は、スプリングボックに案内されてさらに道を急ぐ!

そこには奇妙な風景が広がっていた。

2、3階建ての建物ほどの高さはあるアリ塚〔アリ塚〕アリが地面に巣を掘る際の盛り土のこと。だがしかし熱帯地方では「シロアリの巣」を指す場合が多い（アリとシロアリは全く違う昆虫だが）。アリのつくるアリ塚に比べて、シロアリのものは非常に複雑で大規模。小さな高層建造物のように、地下と地上に通路と通気口が張り巡らされて、動物の肺のような換気・湿度調整システムを完備し、崩れるとすぐに修復が可能だという。「キノコシロアリ」などはスゴイことに、内部で「キノコ農園」を経営している！ 2、500万年前のキノコシロアリの化石がタンザニアで発見されており、彼らはヒトより先んじて「農業」をおこなっていた生物なのだ。ちなみキノコシロアリは沖繩にも生息していて、彼らの作る「オオシロアリタケ」は地元では大変な珍味らしい……。さて、このシロアリのアリ塚の硬さは相当なもので、モルタルくコンクリート程度の硬度を有しているとか。そんなアリ塚を破壊できる動物、ツチブタやオオアリクイのツメ、キツツキの一種であるアリツカゲラのクチバシなどは、たいしたものである……。が、草藪の中にいくつも林立している……。

アリ塚の傍そばに、イヌかオオカミのような格好をしたフレンズが倒れている。彼女が「アードウルフ」らしい。

その腹部に体長2、30cm弱の……ドブネズミ〔ドブネズミ〕人家に巣くつて被害の原因となる家ネズミは3種類いる。体が大きく、尻尾（肌色）が体長に対して短めの、水場を好むドブネズミ。ドブネズミより体が小さく、耳や顔のサイズが大きめで、尻尾（黒色）が長めのクマネズミ。手のひらサイズで丸っこいハツカネズミ。高層建築が発達し下水が整備されている現代日本では、高い所を好むクマネズミの被害が一番多い。ほどの大きさのセルリアンが、大量に群がっている。

何十匹……いや、何百匹いるのだろうか……？ 数が多すぎて、彼女の下半身を覆わんとするほどに……。まるで、生きた毛布を被っているようだ。その毛布が、太陽の光を金属のように反射して、絶え間なく動いている……。

そのセルリアンは……タコ糸のついたソーセージのような姿形のおぞましい怪物……。

あるいは……オナガウジ〔オナガウジ〕へんないきもの。ハナアブ類の幼虫。ハナアブ類は非常に一般的な外見のアブだが、その水生幼虫は、長い呼吸管をお尻にくつつけたイモムシのような珍妙な外見をしている。英語名：rat-tailed maggot（ネズミの尾を持つ蛆虫）が分かりやすい。ハナアブは日本全国に生息しているので、こいつら実はその辺の汚い水たまりに大量にいたりする。……見つけるとビックリすること間違いなし！ 幼虫の見た目はたいへん気持ち悪いが、成虫はヒトを刺したり

するわけではないし、ごく一部が農作物を食べるほかは、たいしてヒトに実害は無いきもの。似ているだろうか？ 海棲生物のサルパ〔サルパ〕へんないきもの *Parrot*。 「尾索動物」という聞きなれぬ生物だが、ホヤの仲間。透明のへんなヤツで、クラゲみたいな生物だが、分類的には我々「セキツイ動物」に近い連中。ゼリー状の透明部分は実は「殻」で、不透明部分が本体。しかも仲間（自分のクローン）同士で連結する習性があり、その「電車ごっこ？」は長いものだといふ15mにもなるという……。H. P. ラブクラフトが見たら、まちがいにキライと言いついそうなる海棲生物。のようでもある。

だが、頭部にあたる部位に存在する単眼……。トビネズミ〔トビネズミ〕大きな耳、真つ黒で丸々とした目、そしてカンガルーじみた長い後ろ脚を持つげっ歯類。北アフリカ、東アジアの乾燥地帯や砂漠といった、過酷な環境に生息。夜行性。20cmにも満たない体で、3mも飛び跳ねるジャンプ力……。は、エサとなる昆虫などをすばやく捕食し、また外敵から逃げる際に大いに役に立つ。そして本種と酷似した長い後ろ脚を持つげっ歯類として、北アメリカには「カンガルーネズミ」、オーストラリアには「ホツピングマウス」という動物がいる。彼らは互いに近縁類のネズミではないが、似通った環境下で最適解を求めて同様のすがたにたどりついたわけだ。これは「収斂進化」といって生物界でよくあることだ。の長い脚を思わせる数組の付属肢など……。単細胞生物めいた単純な外見に反して、高等動物の特徴を併せ持っている……。

その色彩の、青や紫の極彩色の鮮やかさ……。

鮮やかな色合いのセルリアン達が、アードウルフの腹部の衣服を喰い破つて、みつしりと吸い付いている……。

らんらんと輝く太陽光で照らされて、ぬらぬらと重油のように、虹色の反射を放ち、孵化する卵塊めいて、もぞもぞと蠢<sup>うごめ</sup>き、それに合わせて細長い尻尾が機敏に動き続けている……。

セルリアンどもの体は半透明で、胴体には曲がりくねったチューブ状の器官が皮膚から透けて見える。……つまり、ふつうの生物と同様に、こいつらにも内臓が存在するところが確認できる。

その腹部の消化管らしき内臓が、赤黒い液体で満たされている……。

身体が風船のように、丸々と膨らんでいる個体もある……。

彼女の腹に喰らいついて吸血しているのだ……。消化された血液が、セルリアンの長い尻尾の後端から排泄されて、周囲の草むらやアリ塚の壁に赤黒く撒き散らされている……。

ぎしぎし……ずるずる……という、絶え間なく聞こえる耳障りな咀嚼音が、辺りの空間を支配する。

その合間に弱々しく聞こえる「たすけて……」という、生きながら捕食されつつある

フレンズの、悲痛な生への叫び。

彼女「アードウルフ」は、意識はしつかりしているようだが、体力はだいぶ落ちている……。

腹に喰らいついたセルリアンを引きはがす力も、ほとんど残っていない。セルリアンに対して体をよじって必死に抵抗しつつ、ゆっくり這いずり回って動くのが精一杯のようだ。

酸鼻極まる光景……。

「……あああつ……！ アードウルフが死んじやう！ は、早く助けないと！」

「待って下さい！ 数が多すぎる！ みんな一斉に助けに行けば、すぐにあいつらに全員囲まれてしまいます……！」

私は焦るスプリングボックに言った。

「たしかに。囲まれて、逃げられなくなるのはマズイわねえ……ちじょうのもつれ【ちじょうのもつれ】痴情の纏れ。異性（同性でもいいけど）間の恋愛関係のイザコザ、とくに「痴話喧嘩」よりも程度がひどいものを指す。「修羅場」とも呼ばれる。「みすてりく」や「さすぺんすげきじょく」に発展することもよくある、フィクションの世界でも現実でも。だが、キリンは「地上での乱戦状態」のことだと思っっているため、こんな場

違いな言葉が出てきたというワケ。状態はキケンよ……」

「小さなセルリアンだから、一匹一匹ずつならなんとかなるけど……あんなに数がある  
とね……」

アードウルフの痛々しい呻き声うめが聞こえる中……すぐにでも助けに行きたい衝動を  
おさえ、私たちは限られた時間で救出作戦を練った。

「あの……私たちのうち、二人がオトリになってセルリアンの群れを引き付けて……そ  
のうちにもう二人であの子を助けるといふのは？」

私は、思いつくうちで最も成功する可能性が高いであろう襲撃作戦を提案する。陽動  
＋救助で、二手に分かれる方法だ。

「全員で突っ込むより、だいたい感じね！ よーし、ハナコの『さくせん』で行きましよ  
う！ 私がオトリになるわ！」

勇敢なカラカルが、より危険なオトリ役を自ら買って出る。

「じゃ、私も！ とにかく大暴れして目立てばいいのよね！ ふふふ、首が鳴る【首が鳴  
る】こんな慣用句はありません。間違つて覚えなくてね。なおホントに首が鳴つて困  
時は、接骨院や整体院、カイロプラクティックに行きましょう。わね……！」

どうやらキリンは腕つぶしが強いらしい。

しかし首が鳴るとは……？ 頭突き「頭突き」人体でも非常に固い部位、額をぶつける打撃技。ヘッドバットとかパチキとかトペとも言う。アゴや鼻つ面、鼻の下（人中と呼ばれる急所）などの柔らかい標的を狙うのが基本。できれば、相手を掴むほうがよい。非常に強力なため多くの格闘技では禁止だが、相撲やプロレスなどではOK。さらに、相手のパンチを頭突きで防御して指の骨を破壊するという、変則的な防御方法もある。……と、以上はヒトの使うワザだが、ヒト以外でも頭突きを得意とする獣は多い。「四足動物」による突進＋頭突きの威力は、ヒトの比ではない！でもするのか？

私ができるだけ平易な言葉を使い、作戦の詳細を話した。木の枝で地面に絵図を描き、小石を駒に使って説明する。

『オトリ組』のお二人は、右と左に分かれて、同時に攻撃を仕掛けて下さい。この時、できるだけセルリアンを外側へと引き付けて下さい」

「みぎ？ ひだり？ ……とにかく、こうやって、囲まれないように動けばいいのね……。アンタ、アツタマ良いわねー！」

「なかなか見事なトリックね……」

「で、しばらくして、彼女を襲っているセルリアンの数が減ったら……。スプリングボックさんと私の『救助組』が、手薄になった真ん中を突き抜けて行って……。残りのセルリ

アンがいれば倒して……アードウルフさんを助けます。そのままの勢いで、私たち『救助組』は走って逃げます。二人も、私たちと一緒にの方向へ逃げてください。全員で合流して安全な場所まで逃げます」

「……ハナコさんと私で……!? ううう……わたし、セルリアンから逃げることはあっても……セルリアンに向かうなんて、初めてなの……」

『オトリ組』の二人は、セルリアンを深追いしないで下さい！ 連中の全滅より、アードウルフさんを助けるのが目的です！ 最後は素早く逃げましょう！」

「「りようかーいー！」」

と、偉そうに説明したのはいいものの……この作戦、はたして上手くいくのか……？ たかが棒つきれ一本しか持たない、ただの人間の私に……？

「いや、絶対大丈夫だッ！ 絶対上手くいく！ 上手くいなくても……上手くいさせるっ!!」

「ど、どしたの!?! ハナコ……!?!」

「絶対だッ!! アードウルフあの子を一人ぼっちで冷たくさせるものか!! 人間は賢く強い獣だ!! 強いから死なないし! あの子だつてカンタンに助けられる! そしてこれか

「私も生きていくんだ!!」

「な、なんだか……そういうの……いいわねえ!! アンタ、やっぱり、見かけより気合入ってるけものじゃないっ!!」

「さっきだって……私は死にそうだったけど……でも生き返った!! 貴女あなたが救ってくれたおかげで……カラカル……」

「おうっ!! そーよッ!! アードウルフだって、私たちで同じように救ってあげるんだからね!!」

……私が生き返ったのは……きつと彼女を救うために違う!!

カラカルに救われた私が、誰かを救うこと……それが正しい流れだ!! あるべき予定なんだっ!!

ヒトとフレンズたちによる合同救助作戦——群れの戦いが、今始まる……。

### 第3話 ネバー・クライ・アードウルフ



アードウルフ救出作戦の開始……!

まず「オトリ組」のカラカルとキリンが、アードウルフとセルリアンの群れのいるア  
リ塚から距離を保ちながらその左右に回り込んでいく……。

風上から近づける地形であったのは幸いだった。

また、辺りに繁茂するイネ科植物「イネ科植物」地球上で最もありふれていて、そし  
てヒトの身近に存在する植物。コメ、ムギ、トウモロコシ、サトウキビなどの穀物の多  
く、さらにタケもイネ科だ。農耕文化とともに繁栄している植物。細長い葉っぱに平行  
な葉脈、中空の茎、ヒゲ状の根っこ……と「単子葉植物」の特徴を持つ。「生長点」が根  
元にあるため、動物に食べられてもぐんぐん伸びる物凄い生長力。なおアフリカのサバ  
ンナでは、オヒシバ、メヒシバなど、日本でもその辺で見かけるイネ科雑草と同じもの  
も生えている。の、人が隠れるほど高い、細長い葉の「ブラインド」も移動の助けになっ  
てくれた。

ふたりが両翼の所定の位置につく……。

時計の文字盤で言えば「中心」に対して、カラカルとキリンが3時と9時の位置。ス

プリングボックスと私が6時の場所で待機している。

私はそばのアリ塚の上に登って「鏡の破片」を頭上で動かして、光の反射で合図【光の反射で合図】反射光による信号は、理想的な気象条件下においては160km先でも観測できると航空機のパイロットから報告されている。この光の合図は、セルリアンにフレンズ達の接近に気づかれてしまうおそれがあるが……光のきらめきは自然界でもあり得る現象だし、それよりも大声を出したり、布を振ったりなど音が発生する信号は避けるべきだとハナコは判断したため、この通信手段をとっている。を送る。

「うみやあつ！ 血が飲みたけりやこつちつ！ アタシ血の気が多くて困ってるわよっ！」

「セルリアン……げんこーはんたいほ【げんこーはんたいほ】現行犯逮捕。一部の犯罪の現行犯や準現行犯を、令状なしで逮捕できること。でもそれは探偵じゃなくて警察官の仕事だろ……と思いきや、現行犯であれば一般人でも逮捕を行うことができるので間違いない。おっ！」

カラカルとキリンがセルリアンの群れに向かって大声を出すと、沢山の眼がいつせいにふたりの方を振り向く！

奴らが大きな単眼の下にある口をぱっくりと開けると……喉の奥の部位が肉感的に

盛り上がり、大昔の注射器〔大昔の注射器〕今日の中空の針を持つ皮下注射器は、19世紀ヨーロッパで発明されたもの。古代ローマ時代から使われていた「浣腸器」が原型らしい。材質は金属製からガラス製へ……薬品注入方法は、両手がふさがる「ネジ回し式」から、片手で扱える「ピストン式」へ……と技術は進歩し、現代では、使い捨て式のプラスチック製・滅菌注射器が一般的。ちなみに現代日本の医療用注射器の針は、その外径のサイズによって、国際標準であるISO規格でカラーリングが決まっている。の針のような器官が露出する。

あれが血を吸うための口吻か……！

しかし、5、60m離れているというのに、あのドブネズミほどしかない大きさのセルリアンの体の構造を、私は鮮明に視認できる……。そんな芸当は人間の視力〔人間の視力〕学校の健康診断や免許センター、眼科などで受ける視力検査の方式は、視力0.1〜1.0までは0.1刻みだが、そこからは1.2、1.5、2.0の3つになっている場合が多い。視力1.0は、5m離れた場所の直径7.5cmの「ランドルト環」(Cの形のアレ)の切れ目(約1.45mm)が視認できる能力とされている。この距離が2倍の10mになると視力2.0、3倍の15mなら視力3.0である。現代人類でも目が良いアフリカ・タンザニアの部族(マサイ族、トゥルカナ族、ハッザ族)のヒトは、最低でも視力6.0〜7.0程度はあるそうで、最大ではなんと脅威の視力11.0

!! これは、5.5m先の1.45mの切れ目を可視できる能力。5.5mは1.5×2.0階建てビルの高さ、1.45mはスパゲティの直径と同じくらいなので……つまり高層マンションの屋上から見下ろして、地面に散らばったパスタの本数を数えられるのが視力1.0!! 今までハナコがうろついていたサバンナには明確な「大きさの比較対象」が無かったので、自身の超人的な視力が分かりくかつたのだが、ここで初めてそれをはつきり認識して驚愕している。で可能なのか……!?

そして始まる闘い!!

「フギヤアツ! ……こんにやろめがあ!」

バッタのように後脚を伸ばして素早く飛び掛かる一体のセルリアンに対して、カラカルの素早い迎撃! バックステップして噛み付きを避け、左のショートフックをヒット! 大ぶりだが精密な打撃! かなりボクシング「ボクシング」野蛮な殴り合いを、崇高な芸術の領域まで高め上げた近代スポーツ。なお、もちろんカラカルはボクシングなどやったことは無いが……彼女たちフレンズが戦うとき、一流の格闘技者や武道家に酷似した動きを見せることがある。それは「ヒトのカラダ」という条件において、もつとも実戦的・効率的な動きをしようとすると、必然的に一流選手と似通ったフォームになるといふことなのだろう。ヒトの動作とフレンズの動作には「収れん」が見られる(※

取れん進化：同様の環境下に棲む異なる由来の生物が、進化の過程で類似した性質を得ること）をやっている動きだ！

フック「フック」水平に弧を描く軌道で繰り出すパンチ。「鉤突き」とも呼ばれる。曲線的な軌道の「打ち技」であるフックやアッパーは、ジャブやストレートのような直線状のパンチに比べてリーチが短いが、逆に言うところと接近時に強い攻撃だ。また直突<sup>ストレート</sup>系は「体重の乗る打撃」であり、重い目標（人間で言えば胸部）に対して有効で、打ち系は逆に「軽い鋭い打撃」で、軽い目標（人間で言えば頭部）に有効であると言われている。これは、頭部のような軽くて硬い攻撃目標には「体重の乗る攻撃」では力積（＝威力）がすべて伝わる前に、すぐ目標が動いてしまい、残りの運動量がムダになってしまうため。逆に「軽い速い攻撃」は、胴体のような重くて柔らかい目標に対しては、接触時間が長くて衝撃の最大値が伸びにくいから、と物理学的な根拠がある。気味に、柔軟な体幹と四肢を利用し、手首のスナップを利かせたカウンター！

セルリアンの体が引き裂かれ、定間隔にスライスされて地面にバラバラになって落ち……体内に詰まっていた「吸血した血液」が消化管の圧力から解放され、草むらに赤い染みを作る！

カラカルの手の握りは、空手の熊手打ち「熊手打ち」五指を曲げて掌側で打撃を加える伝統派空手の技。よーするにクマの手みたいなパンチ。しかしフォームとしては手

刀打ち（空手チョップ）に似ているので、全体的な動きじたいはクマっぽくなくもされない。のような、拳を半分握った……猫の手のような形。

拳からは、見覚えのある虹色の「サンドスター」の煙が立ち上っている……。

……攻撃の瞬間、拳に刃物のような……複数の出刃包丁のような、猛獣のツメ【猛獣のツメ】カラカルは、体内の超物質「サンドスター」の働きにより、一瞬のみツメを指先に実体化させて斬撃を繰り出した。後ろに飛び退き、左のツメで短い横薙ぎを繰り出す……接近時、小型の素早いセルリアンに対しては、最適解の攻撃。これを無意識に行えるネコ科のフレンズの運動神経の優秀さ。このようなサンドスターによる「ツメの出し入れ」を自由にできるのは（チーターを除く）ネコ科のフレンズのみで、イヌ科などではツメが出しっぱなしになってしまいうらしい。ツメの具現化を自由に行えることにより、サンドスターの消耗を防ぎたいときや、細かな手先の作業が必要になったときに、すぐに引込められて大変便利らしい。のようなものが光るのが見えた気がしたが……?? いや、やはり何も持っていないはず……!?

だがしかし素手であの威力ツ!!

さらに今度は、複数のセルリアンによる同時攻撃!

彼女は前転でこれを回避して、力士の立ち合いのような前傾姿勢……あるいは四つん

這いの猛獸のような……？ 前かがみの戦闘態勢をとる！

よく見ると……その口に一体のセルリアンがだらりと垂れ下がっている！

外傷は無く、カラカルはそいつの首の後ろを啜えている。

……つまり、今の前転の瞬間、体を抑え込んでキバで脊髄を切断【キバで脊髄を切断】ネコの犬歯は、最も一般的な獲物であるネズミの背骨を一撃で貫通できる形になっている。さらに歯には鋭敏な感覚神経が通っていて、捕獲した小動物の脳幹の基底部を一瞬で探り当て、脊椎骨の間隙に犬歯を刺し込んで切断……反撃される前に生命機能を断ち、即死させるのだ！ しかし、こういった「殺しの技能」は生得しているわけではなく、母ネコから教育されることで受け継がれていくらしい。現代日本の都会育ちのネコは、こういった狩猟文化が受け継がれていなくて、小さい獲物も狩れないヘタレたヤツが多い気がする。飼育動物が野生環境で生きていけないというのは、遺伝子的な「本能」の問題ではなく、このような野生で生きていくための「適切な教育」がなされていない点が大きな問題なのだろう。一見本能のままに生きているように見える動物達も、実は多くの点でヒトと同様に「文化的」なのです。して倒したというのかっ!!?

びくびくと小刻みに頭と四肢を痙攣させるセルリアンの死骸を、彼女はペツと吐き捨てる。その青い瞳は、夜の闇に包まれた肉食獣のように……生き生きと輝いている！

正確無比なハンティング！ 野生の猫そのものだ!? ……信じられない、本当に人間

のできる技なのか……?!

ヒット&アウェイ「ヒット&アウェイ」攻撃してすぐ離れることで、自分の身を守ったり相手の消耗を誘う、一撃離脱戦法のこと。さりげなく和製英語で、本来の英語は「ヒット&ラン」。ボクシングの実況解説でよく使われるイメージだが、軍事作戦でもこの戦術が取られることがある。で各個撃破を狙うカラカルに対して、敵の群れに単身突撃するキリンもまた、激しい攻撃でセルリアンを血祭りに上げる!!

……先ほどのまぬけな印象と程遠い、その奮迅っぷりは、まるで鬼のような……まあ、あの子は本当にツノ「ツノ」ツノと一口に言っても、その形態はけものによつて大きく異なる。ウシ・シカのツノはどちらも、頭骨の一部（前頭骨）が前に突き出たもの。シカの場合は骨がそのまま露出しており、ウシのツノはケラチン（ツメや髪の毛、ヒヅメなどを形作るタンパク質）でできた「さや」で覆われている——レイヨウがシカではなくウシの仲間であるのも、このツノの性質によつて区別可能。サイのツノは、骨が入っていない「ケラチンのかたまり」である。生えてるからね。

「ぱりっウツッ！」

踏み込んでの左前蹴り【前蹴り】足を前に繰り出すシンブルなキック技。フロントキック。空手、拳法、キックボクシング、ムエタイ、プロレス等、あらゆる打撃系の格

闘技や武道で使用される。足の移動距離が長く、使用者のバランスが崩れやすい「回し蹴り」に比べて、隙が少ないことが特徴。「左の前蹴り」は蹴り技の中で最もスキが少なく、パンチ技だと「ジャブ」に相当する攻撃。左足前オールドックスの姿勢から、スイッチして（＝右足を踏み込んで両足の位置を入れ替えて）左足で蹴るのが基本。なおキリンなどの「有蹄類」フレンズは、柔術や古流空手などの古武道がそうであるように、「回し蹴り」系をほとんど使わない……野生動物の動作と同様に、前蹴りや後ろ蹴りなどの「直線的な蹴り技」を好む習性があるようだ。ツ！ケンカキック「ケンカキック」足裏全体で蹴る前蹴り。ヤクザキックとも言う（が、TV実況だと放送コードの都合で言われない）。つま先や中足（上足底などとも呼ばれる、足の指の付け根部分）の狭い面積で当てる（＝威力が上がる）空手や拳法のテクニカルな蹴り技と比較して……誰でもできるケンカキックは「素人くさい動き」の蹴りだが、足裏全体で体重を乗せることで、相手を押すことができる。ムエタイでは「テーパー」と呼ばれ、相手と距離を取る目的で使われるワザ。路上の喧嘩でも、相手を蹴り倒したり、姿勢を崩したりできて、非常に有効。敵を蹴り倒して階段から落とす、壁や床に後頭部を叩きつける……さらに、本編のように壁に敵を踏み蹴りつけて大きなダメージを与える、など。ブーツでの重厚な蹴りがクリーンヒットしたセルリアンが、靴底とアリ塚に挟まれて水風船のように破裂する！ものすごい脚力でのサッカーボールキック「サッカーボールキック」総合格闘技やプ

ロレスで使われる蹴り技。技の動作は名前そのまま。おもにダウンした相手の頭や胸、背中をねらい、足の甲やつま先で蹴りつける技。総合では特に頭部を狙うキケンすぎる技ゆえに、ルールで禁止している団体が多い。で、次々と蹴り飛ばされるセルリアンたち！

「めいたんていは足でかせぐ！」「めいたんていは足でかせぐ！」キリンの敬愛する名探偵シャーロック・ホームズはキックが得意だった……なんて話は、聞いたことがない。ボクシングやフェンシング、ステッキ術、それに謎の古流柔術は得意だという描写なら聖典にあるが……。なお、足技メインのヨーロッパの格闘技とえばフランスの「サバット」だが、それはライバルのアルセーヌ・ルパンのほうだ——まあホームズもフランス人のクォーターだけれど（ホームズの祖母はフランス人の画家オラース・ヴェルネの姉妹）。……だが！ ホームズが蹴り技を駆使して難事件を解決する作パステイシユ品は実在する！

FC用ゲームソフト『伯爵令嬢誘拐事件』だツ！ どんな内容かという……それは君自身の目で確かめてくれ！（最速攻略本並みの丸投げ）

さらに特筆すべきは、キリンの「マフラー」さばき！

首に巻いたあの長いマフラーが、ときには真っ直ぐになり、ときには折れ曲がり……まるで生き物のように……荒ぶる蛇のように……自由自在に動くのである！

まるで、カンフー映画に出てくる多節棍〔多節棍〕中国武術や沖繩の古流武術などで

使用される武器。香港映画『少林寺三十六房』に登場する三節棍が有名。ヌンチャク（双节棍）も多節棍の一種だ。……！

……いや、このマフラーの動きはまるで……多関節の腕のようだ!!

七つの関節【七つの関節】キリンの頸椎（首のホネ）はヒトを含めた多くの哺乳類と同じく7つだが、さらに第一胸椎がまるで首の一部のような働きをするという説がある。ヒトの腕で言うなら、手首・肘・肩の関節に加えて、「鎖骨と肩甲骨」が自由に動いて腕の一部になっているようなもの。つまりキリンは疑似的に、他の多くの哺乳類より頸骨がひとつ多く、8つの首のホネを持つ（117か所の首の関節がある）のだ！ フレックスのキリンのマフラーの「骨の数」は、この解剖学的事実に由来する。がついた腕が肩から生えて、龍の暴れるがごとく!!

……ま、まるで3つ首の怪獣だっ!!

その先端は錘おもりが入っているかのように、動物のキリンの頭【キリンの頭】キリンのツノは、他種のそれとは大きく異なる。キリンの毛皮で覆われた5本のツノのうち、後頭部の2本は「頭骨が変形したもの」で、前方の3本のツノは、皮膚（真皮）の中に独自に形成される骨「皮骨」ヒコツ（アルマジロの甲羅やワニの背中、あのデコボコも「皮骨」だ）を持つツノだ。皮骨によるツノはキリンのみの特徴で、若いキリンでは頭蓋骨と分離したままだが、成長すると頭骨と完全に癒合していく。「キリンのツノは5本」とはよく言

われるが、海外の論文では、この皮骨入りの3本のみが「正式なツノ」だとされている。あの、ぼわぼわしたかわいいうツノだが、このように骨入りなので、ちよつとぶつかつただけでもとても痛いそうだ。こんなツノを、あの筋肉モリモリの2mもの長い首で振り回されたら……。しかもキリンのオスの頭はメスに比べて非常に重く、メスキリンの頭蓋骨の重さが平均3.5kgに対して、オスはなんと10〜15kgもあるのだっ！最強すぎるだろ……。の形に膨らんでおり、激しく目標に叩きつけられる！

目標に命中するたびに、サンドスターの粒子が周囲に放たれて虹色に輝く！

足腰の回転を背骨から肩甲骨まで伝え……。その遠心力で振り回されるマフラー！振り下ろす場合はとくに重力が加わって破壊力は増す！

コンクリート並みに固いアリ塚が、マフラー打撃がかすただけで、轟音とともに数十cmほども吹き飛ぶ威力！ それにスピードも！ 速すぎて先端が見えないほどだ！

まるでランカーのムエタイ選手のムチのようにしなやかなキツクの威力！ それがヘビー級プロボクサーのジヤブ以上のスピードで放たれる！

このマフラー攻撃をまともに食らった怪物連中は、もはやひとたまりもない。

針に刺された風船のように破裂したかと思うと……。自身の原形質状の体液と、アード

ウルフから吸った鮮血が混ざって、ゼリー状のまだら模様の塊となって、周囲に振り撒かれる。

皮と尻尾だけの姿に成り果てたセルリアンたちは、浜辺に打ち上げられた海藻のように……ペしゃんこに平たく潰されたもの……水平方向に吹き飛ばされて岩にへばりつくもの……上方に打ち上げられて、高所の木の枝に引つかかってぶら下がるもの……あちらこちらに死骸が八方四散する。

「うもおおおおっ！」

返り血で顔が真っ赤に染まったキリンは、眼をらんらんと光り輝かせて、雄牛のような雄たけびを上げながらマフラーを縦横無尽に振り回すと、何十匹ものセルリアンの体が、ミキサーにかけられたように攪拌される。

……っ、強い！ 絶対に強い！

……キリン、強すぎるぞ！

最強すぎるだろ……あなた、本当に人間なのっ?!?!?

カラカルとキリンの規格外の強さ！

くそ、その強さのヒミツはなんだか分からんが、私のほうにもやらねばならない仕事がある！

しり込みしてはいられない！

彼女らの予想以上の奮闘で、左右両翼に十分な数のセルリアンが陽動されたと判断した私は……スプリングボックとともに中央を突破して疾走<sup>は</sup>し、アードウルフの救出を試みる！

まだ、数体の怪物たちがアードウルフに群がっており、私たちの接近に気が付いて襲い掛かってくる！

それは想定内だ……スプリングボックと私とで、これらの抵抗を無力化！ 排除する！

「……戦いはニガテですけど、やるしかないですねえっ！」

スプリングボックは頭を下げて、フリースタイル「フリースタイル」アマチュア・レスリングには、古流の「グレコローマン」と、近代的な「フリースタイル」の2種類のルールがある。古代ギリシャ・ローマ式の古来の「グレコローマン」スタイルでは、腰より下へのつかみはルールで認められていない。これは、実際の戦争で武器を持った敵にうかつに低空タックルなどしてしまうと、そのまま武器を振り下ろされてしまうから……というでの実戦的な「武器アリ」での教訓の名残りだと言われている。たいして現代で一般的な「フリースタイル」レスリングでは、脚部への攻撃が認められている。こ

れは「素手のみ」を想定した英国の伝統的レスリング、キャッチ・アズ・キャッチ・キャン「ランカシャースタイル」レスリングに由来している。アマレスの低空タックルのような頭突きを繰り返す！ その頭部の毛髪の一部が反り返って、たてごとのような形になり……まるでレイヨウのツノのようだ！ ……ど、どういふことなのだ!?

しかし相手がひどく小さいために、この「ツノ」頭突きはうまく当たらない様子……。弓なりの「ツノ」が後ろに反っているため、突き刺すために頭を大きく下げる必要があるからだろう。あれでは、敵の位置を見失ってしまう……。

さらに、キリンには大きくパワーもスピードも劣るものの、同様の蹴りを繰り返して反撃している！

あちらに加勢したいところだが……私のほうにもセルリアンどもが立ちふさがる！  
私は怪物たちに、「ガラスの槍」で突きを連続して繰り返して攻撃する！

最後まで獲物のもとに残ったこのセルリアン達は、吸い取った血が重すぎて動きが鈍っているようだ。

それでもまだ十分に素早く、連続攻撃は当たらないものの……絶え間なく繰り返される「突き」自体が「障壁」となるため、相手もうかつには大きく飛び掛かれない。

とうとう一体の着地の瞬間を捉えて、その大きな一つ眼を、ガラスの槍先が刺し貫く。

ガラスを引つ掻くような、甲高くて耳障りな悲鳴が上がる。

私は槍を持った両手の持ち手を、順手から逆手に「順手から逆手に」お手元にペンやおハシなどがあれば、持つてみて下さい。手首の構造上、持ったものを動かしやすい（インマーグリップ）順手持ちにたいして、逆手持ちだと非常に動かしにくいですね。このように可動領域が狭くて器用に動かせない「逆手持ち」ですが、必ずしもデメリットではなく、逆に得物が動きにくい、つまり一部の動作では「力を入れやすい」というメリットがあります。切り替えて、槍に刺さったセルリアンをアリ塚の壁に、ぐいと押し込む！

いとも簡単に槍先が眼底を貫き、柔らかい部分へ突き抜ける感覚が両手を伝ってくる……。

敵の死をより確実なものとするため、傷口を支点にして、てこの原理で抉るように槍先を動かして、脳や内臓（こいつらにそんなものが有ればの話だが）をかき混ぜる！

!! しまった……思ったより力が強くて、槍が深く突き刺さりすぎてしまった!!

セルリアンの死骸を取り外さないと、このままでは槍を使うことが出来ない!!

血液と青色の体液を飛び散らせ、サンドスターの粒子を吹き出して痙攣するセルリアンの死骸を、アリ塚に横蹴り【横蹴り】サイドキック。コンビネーションに組み込みにくいのが、敵に正中線を晒さずに、リーチも一番長くなる蹴り技。かかどで蹴り込めるため熟練せずとも威力が大きい。元来は横にいる相手を攻撃する技で、正面の相手には予

備動作も隙も大きくなりやすい。使い方としては前蹴りと似ているが、パンチ技や回し蹴りとは組み合わせにくいいため、キックやムエタイの試合ではあまり見かけないかもしれないが、空手や拳法・護身術では必ず練習する実戦的なワザ。で押し付け、そのまま力任せに槍を引き抜く。その拍子に、ガラス片の槍先が外れてしまった……。くそ、これではただの木の棒だ！

そうこうしている隙に、二体のセルリアンが同時に私に襲い掛かる。

私は左手で槍の中央部分を持ち、片手でも取り回しやすくして、石突〔石突〕<sup>いしづき</sup>槍やなぎなたなどの、刃とは逆の部分の先端のこと。地面に突き立てる部分で、傘やステッキなどの同様の部分もこう呼ばれる。保護用の金属製のカバーで覆われていたり、バランスを取るため重くしてある槍も存在する。槍術では、すばやく槍を反転し、石突部分で相手の武器や顎を狙って「打ち払う」などのワザがある。とくに槍先が折れてしまった場合や、接近戦時に有効。の部分を防御用を使う。右手でポケットにしまっていた武器「ブラックジャック」を取り出し、これを振り回してセルリアンどもを牽制する<sup>けんせい</sup>。

やはり目標<sup>まると</sup>が小さく、またよく動くために、振り回しが中々当たらない……。！  
が！　とうとう一体を上手く叩き潰す！

トタン板に漬物石を叩きつけるような大きな音がして、まるで水気の多い野菜のよう

に、怪物が全身の穴から流体をプチ吐いて爆<sup>は</sup>ぜる！

だがその右手が伸び切った隙を狙い、もう一体が喉笛を噛みちぎろうと飛び掛かる！  
左手首で槍を回転させて、石突で打ち払う！ が、防ぎきれずに、左前腕に喰いつかれる……!!

「ぐうっ……!!」

鋭い前歯の赤錆び色【前歯の赤錆び色】このネズミセルリアンの前歯の赤色は、固着した「鉄分」によるもの。ビーバーやヌートリア等、一部のげっ歯類に見られる特徴だ。門歯（前歯）の前面のみが鉄分で硬化されて、歯の裏側は噛み合わせでどんどん削れていくため、非常にシャープな切れ味の前歯になっていく。……!!

親指の先ほどの肉塊を削ぎ取られて、そこに「隠し顎」を強力な打ち込まれ、肉を吸引される強い激痛が襲いかかる。

吐き気と立ち眩み……急性の貧血か……!!

「野郎ツツ!!」

私は右手の武器を捨てて、セルリアンを掴んで力任せに引つpegす。点滴輸血パックをカテーテルごと引き抜く感覚。

そして怪物の喉を、親指と人差し指で絞める【絞める】体のどの部位を「しめる」か

によつて、漢字が違う。「絞める」だと、首を圧迫すること。「締める」だと、首以外への攻撃になる。この小説では、その辺細かく区別してありますので、漢字一文字だけで攻撃方法が判別できます。また「あの野郎、いっぺんシメてやるッ!!」などと言うと、「とつちめる」「こらしめる」「痛い目に合わせる」の意味。ちよつとガラの悪い俗語で、江戸時代から使用例があるとか……。と、ばたばたと暴れながら、目玉は飛び出しそうなほどに膨らみ、尻尾の辺りの消化管の孔から鮮血が霧吹きのように噴き出す。

だがその時!

「うおおッ!?!」

セルリアンは最後の反撃とばかりに……私の顔めがけて、目から体液を高圧噴出〔目から体液を高圧噴出〕北米・中米に棲む「サブクツノトカゲ」は、目の端にある管から血液を噴射させて外敵を威嚇する。この「血液ビーム」噴射は、最長で1mも飛び、イヤオオカミ、コヨーテなどの嫌がる成分が含まれているんだとか……。だがこの必殺技は、体中の血液の3分の1もの量を噴射する必要があり、貧血どころか失血死するんじゃないか……というぐらい危険なので、あくまで最後の手段である。そしてこのネズミセルリアンも、体液の損耗が激しいこの「噴射攻撃」はよつほどピンチでないと思つてこない様子。だがツノトカゲの威嚇目的のそれとは異なり、近接時には人間の掌でも撃ち抜けるほどの……明確な「殺傷用」のワザだ! してきた!!

とつさに頭を下げ、左手で顔をかばう!!

……左手に、<sup>フック</sup>鉤で吊られたような激しい痛み……急所に当たれば致命傷になりえたが、<sup>てのひら</sup>掌を貫通して、穴を開けられただけで済んだか……。

傷口から、赤い血とサンドスター粒子が流れ出る……。

サンドスター……フレンドズやセルリアンから発生する「命の輝き」とも思える、この物質は……いったい何なのだ!?

そう考える間もなく、私の体のほうは反射的に効果的な反撃を繰り出していた。

動作は最小に、かつ最大限に怪物の体を破壊する攻撃を!

「死ねッ!!」

セルリアンの長い尻尾を右手に巻き付け、振り回して近くのアリ塚めがけて叩きつける。

アリ塚の壁面に何度も打ち付けられ、粗い表面で皮膚を削られて、紅葉おろしされて肉体がすりおろされる。

吸った血が混じって赤くなった自身の肉片を、地衣類【地衣類】岩や樹木の表面にくっついている「へんななもの」、あれはコケではなくて、菌類（カビやキノコのなかま）と藻類（コンブやワカメのなかま）の共生体。葉緑体を持ち明確な植物である、緑色のコケ植物にたいして、地衣類は色が白や黒っぽいので区別できる。のようについたり付着

させながら、ぼろ雑巾のようになってぐったりとして動かなくなる。

こびりついたセルリアンの体液と、アードウルフの血と、私の血の混じるんだら模様から、サンドスターの虹色の煙が立ち上る……。

さらに横から新たなセルリアン一体が襲い来る！

「ハナコさん!! ……このオツ!!」

だが、カバーに入ったスプリングボックが、数mも跳び上がってからの踏みつけて迎撃して助けてくれた！

「……だ、大丈夫ですか!? ハナコさん!」

「大丈夫です……! ……ありがとう! ……あつ! あぶない後ろツ!」

スプリングボックの背面にセルリアン!

私はとつさに、足元に落ちていた野球ボールほどの大きさの石を、右手で掴み……怪物めがけて、力いっぱいオーバースローで投擲する!

……怯ませるつもりだったのだが、投石は予想を遙かに超える速度と精密性を発揮した。

十数mほども離れた位置の、高速で移動するセルリアンに直撃ツツ……!!

大きな眼窩に石がめり込み、背中の皮膚を破裂させ、背後に肉片を飛び散らせて即死

した……。

……球速は時速160km……いや球速170km【球速170km】超・超・超・剛速球！ ほぼ人類の投擲の最速値だ！ ストレートのギネス世界記録は、MLB<sup>メジャーリーグ</sup>ニューヨーク・ヤンキースのアールデイス・チャップマン選手の「時速169km」。日本人では、MLBロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手の「時速165km」が最速記録。直球<sup>ストレート</sup>を投げると、肩や肘に最大で100N<sup>ニュートンメートル</sup>の負荷がかかり、これはボーリング玉5個分の衝撃力にあたり、これを超える速度はともピッチャーの体が耐えられないのだ。それに打者のほうも……人間の反応速度の限界により、一流のバッターでも実際の試合で対応できるのは球速170kmまでだと言われている。これ以上の球速は生物学的にもほぼ不可能だろうし、そして万が一実現すれば野球のルールが崩壊してしまうだろう。以上は出ていた……と思うのだが……。私って……中高生くらいの小柄な女の子、それがそんな球を投げられるのか……?? ええい、一体どういことなのだった……!?

高い視力もそうだし……そしてこの戦闘技能はっ……!?

おそらく中学生くらい歳の年齢の、ふつうの人間が……こうやって戦えるものなのか?? 私は、フレンズ達と自分自身の能力に困惑しつつも……作戦を予定通り続行する。

アリ塚周辺のセルリアンの掃討に成功した後は、傷ついたアードウルフの応急処置だ。

スプリングボックに周辺の警戒をしてもらっている間に、私が手当てを行う。

アードウルフは大量のセルリアンに腹部の衣服を噛み切られて、隠し顎を突き刺された傷口からは、赤黒い血が出血して、虹色のサンドスター粒子が立ち上っている……。

蚊の唾液のような、血液の凝固反応を遅らせる成分でも注射されたのだろうか、傷が浅いわりには出血量が多く、血がなかなか止まらない。

「うう……ありが、と……わたし……」

「話さないで！ 絶対助けるから大丈夫ツ！ 心配しないで下さいー！」

私は脱いだシャツをたたんで腹部の傷にあてがい、その上からコートを巻き付けて圧迫止血をする。

スプリングボックは「えっ……毛皮、脱げるの……？」などと訳の分からないことを言っていた。

「よし、止血完了ツ！ 早く退却しましょうー！」

「りようかいー！」

私は脱いだジャケットをばさばさと振って、オトリ役として交戦中の二人に、「救助成功・退却開始」の合図を送る。カラカルとキリンはそれに気が付いて、闘争を開始する。

スプリングボックは、やはりなぜか怪訝な顔をしていた。

スプリングボックと私で腕を握って「座席」をつくり、アードウルフを搬送しながら走って逃げる。

カラカルとキリンは、それぞれ十数体のセルリアンから逃げながら、私たちのいる方へと走ってくる。

しばらくして合流したあと、私たちは息の続く限り走り続けた。

一体、どのくらいの時間、死にももの狂いで走り続けたか分からないが……私たち五人は、ネズミセルリアンの群れ「ネズミセルリアンの群れ」この残ったセルリアンの群れは、この後どうなったのかと言いますと……今回の戦闘の少し後、トラック事故で死亡したブラック企業勤めのとあるサラリーマンが、ジャパリパークに「ハダカデバネズミのフレンズ」として転生し、このネズミセルリアン軍団に追いかけられていた「謎の色白のフレンズ」を救出するために、「チート・ハダカデバネズミ・スキル」を駆使して無双して、全滅させることになるのですが……それはまた別のお話……。を振り切ることに成功したのだった……。

「はあ……はあっ……ここまですぐに安堵して……」

疲れ切ったカラカルが安堵して言う。

私はカラカルに水筒を渡す。フレンズ達はふたの開け方が分からなかったようなので、教えてあげた。

全員で水を回し飲みして、一息つく。

「そ、その子は大丈夫なの!? あんなにセルリアンに襲われてたけど!」

「アードウルフ! しっかりして!」

キリンとスプリングボックが心配して、アードウルフに声をかける。

「はい……ありがとうございます、皆さん。……でも、何だかずっと気持ちが悪くて……頭がふらふらして、動けないです」

水筒の水をかけて、アードウルフの顔や口を洗って、きれいにしてあげた。

意識はしっかりしているものの、顔も唇もすっかり蒼白くなっている。さっきのセルリアンの吸血のせいで、ひどく弱ったままだ。

……このままでは、まずいかもしれない。

「さっきの吸血のダメージが相当……。点滴や輸血でもできればいいんですが……あの、この辺の最寄りの病院は?」

私はフレンズたちに尋ねた……「病院」を知っているかどうか不安だったが。

『びよういん』かあ〜……有るには有るけど、遠すぎるわね。それよりも、血が足りな  
いってんなら、『ジャパリまん』食べればいいんじゃないかしら?』

カラカルは「病院」の概念を知っていたものの、突拍子も無いことを言った。

「あー! 私、持ってますよ、おやつジャパリまん!」

スプリングボックが、以前から存在を聞いていた「ジャパリまん」なる食物を、服の  
お尻のあたりにある、白い毛皮のようなポケットから取り出した。

青色のツートンカラーに着色され、ひらがなの「の」のような装飾が真ん中に施され  
た、パンのような食べ物……。

……いや、まんじゅうか? もしかして「ジャパリまんじゅう」の略?

「ああ、ヤギのハナコ、あなたもケガしてたわね。これ食べればすぐ治るわよ」

そう言うときリンは、私にジャパリまんのひとかけらを分けてくれた。中身として、  
餡子あんこのような、クリーム状の半固形のもものが詰められている。おそろおそろ、一口食べ  
てみると……。

ななな、何だこれは……!? 何なのだこの味は!? 呑気に食い物を味わっているよう  
な場合ではないのは分かっているが、このジャパリまんの未曾有の味!

非常に説明しにくい味で……糖度が高いような、かつ塩分が程よく摂取できて、また

味わい深い旨味成分……。

それでいて薄味ではあるものの、単独で食べても飽きがこない味……。主食として相応しい食べやすさ。だが不思議と白飯と一緒に進みそうな、おかずとしての一面も……。

しいて言えば、ご飯・みそ汁・お新香の三点セットを内包しているかのような万能食。超機能食。究極のメニュー……。

まさに筆舌に尽くしがたいとはこのことか……。

不謹慎にも私がジャパリマンの味に舌鼓したつづみを打っている間に、キリンとスプリングボックはジャパリマンを口に含んでかみ砕いて、ペースト状にして消化しやすくしたものを口移しでアードウルフに与えていた。

……確かに、ジャパリマンがうまいことは認めよう。至高の保存食と認めましょう。だからって、食事をしたらケガがすぐ治って元気になるわけがない。

血が足りないから食べ物を食べるとか、有名なアニメ映画【有名なアニメ映画】有名なフランスの怪盗の孫の映画の2作目。緑ジャケツトを着たドロボウが、ロリコンからヨーロツパのお城のお姫様を救って、ニセ札事件を暴いて、財宝を見つけて、大事なものを盗むお話。『うるへい！ 12時間もあればジェット機だつて直らあゝ！』などと言つてメシを喰う名シーンがあります。じゃないんだから……。

そんなバカな話があるわけがない。

そんなバカな話が……あるわけがあった……。

数分後、そこには元気に走り回るアードウルフの姿が！

一体どういうことなのか……？？ 素人目に見ても顔色が非常に良くなり、本当に体調が回復したようなのだ!!

っていうか、私の方も、負傷した左腕が治りつつある！

先ほどのセルリアンに、指先ほどの肉片を腕から噛み切られ、さらに掌の風通しを良くされたりもしたが、もう傷口が塞がりつつあるのだ！

「すっごーい……ありえない……どういうことなの……不思議すぎるだろ、人体……ヒトのカラダがこんなに早く治るわけが……」

「ハナコ、何ブツクサ言ってるのよ？ こうしてアードウルフが助かったのもね、アンタの『さくせん』がすごかったから！」

カラカルが声をかけてきた。

「そ、そういえば、カラカルさん！ なな……何なんですかあ、あの戦いで、すごい動きは?! ライオンのツメみたいに、素手でセルリアンを切り裂いて!! あんな人間が

できる技じゃないですよ!!」

「そらそうよ。私はネコ科のフレンズだからね。あれは『フレンズのワザ』。元の動物の動きを、ああやって、みんなできるのよ。……ってか『ニンゲン』って、何?」

カラカルは事も無げに答える? が、話がかみ合わない!

「……人間って……もちろん私たちのコトですよ! ヒト、人類、ホモ・サピエンス!

あの人間離れた動きは……こういう言い方は失礼かもしれませんが……とてもじゃないけど、カラカルさんは、私と同じヒトとは思えない!」

「何言ってるのよ、ヒトのフレンズ……かもしれないのは、アンタでしょ、ハナコ。私たち、みんな違う動物じゃない。ヒト、カラカル、キリン、スプリングボック、アードウルフ……動物が、こうしてヒトの姿になったのが、フレンズなのよ」

……。

ええ……どうということなの……。

いや、わからん。

どうということか、全然分からん!

## 第4話 星は天にいまし、すべて世はこともなし

私はフレンズ達問題発言について考えを巡らせるが……それよりも、無事に助かったアードウルフ〔アードウルフ〕ご紹介が遅れました。ネコ目ハイエナ科のけもの、アードウルフです。アフリカ東部・南部のサバンナや低木林帯に棲む、小さなけもの。ハイエナの仲間だが、昆虫食メインでシロアリを食べる。和名ツチオオカミ（アフリカーンス語の *Aardwolf* の直訳）だがオオカミとは言うものの、アードウルフふくめたハイエナの仲間は実はイヌ科とは遠縁。マングースやフォッサなどとあわせて、ジャコウネコ科のほうに近いけものらしい。アードウルフの特徴としては、他のハイエナと違って前足が五本指で、学名の由来にもなっている。そのおかげかどうか分からないが……サルやアライグマなどのフレンズにはおよばないものの、自分のフレンズの「前足」をうまく使いこなすことができる、比較的手先が器用なフレンズ。のまぶしい笑顔に惹かれた。

「わーい！ アードウルフ、げんきげんき！」

「スプリングボック！ ……うう……うわあぁーん！！ 死んじゃうううがど思っただぁー！！」

「うゝえゝえゝえーっん!! 助がってよかったよう!!」

スプリングボックとアードウルフは抱き合って、雨季の雷雨のごとく泣き出し始めた。

「アードウルフさん……私からも……助かってくれて、ありがとう!」

私も感謝の言葉を伝えた。

「あ、ハイ! ……あの、ええつと、どなたかは知りませんが……助けてくれて、わたしのほうこそ、ありがとうございます!」

「あつ! あれえゝ? もしかして、アンタもつられて泣いてるの?」

カラカルが体を斜めにして話を割り込んできた。

「な、泣いてなんかないです!」

「うそ。泣いてるでしょ。なにしろ、ヒトは嘘つきだつていうからなく」などと言いながら、私の頬に手を当てる。

「こ、これは……サバンナの埃が目に入ったからですよ! 涙ではない……むしろ汗っ!」

「またまた、恥ずかしがっちゃって」

彼女はネコがあくびするように笑った。

「うももも……じけんかいけつウ! これも私の『オドロキアミメ色のうさいぼう』オ

ドロキアミメ色の……名探偵ポワロの名セリフ「灰色の脳細胞」の真似っこ。このナゾの言葉『オドロキアミメ色』とは、動物のキリンの脳に存在する器官、ワンダーネット奇網のことを指しているつもり、らしい。キリンの脳の基底部にある網状の毛細血管のカタマリで、長い首を上げ下げするとき、高血圧と重力により急激に流出&流入する血流をいったんせき止めておく役割がある。コレがないと急性の貧血で立ちくらみを起こしたり、血が一気に脳に流れ込んで血管が破裂してしまうことだろう。この奇網に類似した器官は、ブラキオサウルスなどの首の長い恐竜にも、あつたかもしれないと言われている。だが同じくキリン科の、首が短いオカピにもワンダーネットが存在するのはナゾである……。もともとは「血流緩衝装置」以外の目的で発達した器官なのかもしれない。例えばカモ、ツル、ペンギンなどの水かきのある水鳥も、脚部に（ペンギンはフリツパーや鼻腔にも）同名の奇網を持っているが、こちらは「体温調節装置」だ（※動脈・静脈が隣同士に細かく張り巡らされて、熱交換により体温が逃げるのを防ぐ）。ほかに、魚類のエラには浮力調整用に、哺乳類一般の腎臓には圧力調整用に、アリクイやナマケモノなど樹上性の動物には四肢の体温調節用に、イヌやヒツジなどは脳冷却用に、有袋類は精巢の冷却用に……様々な動物の色々な場所に奇網構造が存在する。それで、フレンズフレンズのキリンにも脳にワンダーネットがあるのかどーかは定かでは無いが……彼女はこの知識を動物図鑑で学んだ時から、自分の上等な「脳細胞」もアミメ模様であると頑なに

信じている。他人の話<sup>ひと</sup>を聞かないし、思い込んだことを曲げない性格の子なのだ。「他者の考え」が頭に入りにくく、また「自分の考え」がなかなか頭から出ていかないのは……この「血が脳に入りにくい・出にくい」ワンダーネットの性質に由来するのかも……？のなせるわざ……。で、でも、ふたりとも、そんなに泣かないですよ……。私まで泣けてくるじゃない……。う、うもおおおー!!」

キリンもものすごい勢いで泣き始めた。

「いやー、みんなホント、涙もろいわね〜!」

そういうカラカルも、尻尾がピーンと元気に立ち上がっている。

「アードウルフ、アンタを助けたこの泣き虫の子はねえ、ハナコっていうのよ」

「どうもはじめまして、ハナコです。よろしくお願ひしますね、アードウルフさん」

「こちらこそはじめまして、ハナコさん。あの、ハナコさんは何の動物なんですか?」

ま、またこの……ジャパリパーク特有の「ナゾの質問」か……。

私がどう答えるべきか迷っていると、カラカルが助け舟を出してくれた。

「イヤ〜、ハナコはなんの動物か、イマイチ分からないのよね〜……」

「ま、まあそうですけど……」

「あの、カラカルさん……さつき、動物がフレンズになるみたいなの、変なことを言ってま

したけど……あれはいつたい……?」

「ずばり聞いてみる。」

「ああ、つまりね、火山から噴き出るきらきら——『サンドスター』が、動物や、動物だったものに当たると『フレンズ』になるのよ。昨日の噴火のは、もうだいたい落ち着いてきたみたいだけど……」

「な、何を……!? そんなバカな話が……! あるワケがない……!」

「うたぐりぶかいのねえ……まあハナコ、アンタのばあいはヒトだった一部にサンドスターが当たったんじゃない? ヒトは絶滅したって言うし、ヒトの化石というやつよね。それで、フレンズになって生き返ったんでしょ」

「そ、それは、たとえ話じゃなくて、マジで言ってるの……!? あ、あるはずないよ!! そんな……非科学的な……!?!」

「?? あるはずないって、何の話?」

「ウム! やつぱりハナコがヒトであるはずがないということでしょ! ふっはっは、けっていてきしようこ! とうとうぼろを出して、はんこうをじきよくしたわねっ!」

キリンも話に首を突っ込んできた。

アードウルフとスプリングボックも、この混沌とした会話に加わってくる。

「ええっ! ヒト、ってあの、かばんさんのことですよね?」

「いいえ……私のろんりてきな推理によると、ハナコはヤギよっ!」

「そうなのかなあ? ヒトつてば確か、雑食けものでしょ? ヤギの子つてのは草食だから、わたしやキリンと瞳の形が違うのは変じゃないの?」

「きつと草食のヒトもいるのよ!」

……どういふことなのだ……?

フレンズ  
この人たちは……いったい何を言っている?

落ち着け、落ち着け、私……。

アレコレ話すフレンズ達の発言を、まとめてみると……。

『ジャパリパーク特有の火山性物質「サンドスター」は、それに触れた動物をヒト型生物ヒューマノイドの「フレンズ」に変身させる……』

んなバカな話あるか!

昔のアメコミじゃないんだぞ! 放射線〔放射線〕X線検査やCTスキャンやがん治

療、原子力発電で使われる放射線は、平たく言うとう電灯から光が放射されるようなもの。

「放射性物質」が「放射線」を出す現象(能力)のことを「放射能」と言う。ネガティブなイメージがあるけれど、低レベルの放射線は自然界に当たり前に存在するもので、地球・宇宙・空気・食べ物・温泉などによって、人体は常に放射線に晒され続けている。ジャ

パリパーク特有の地下資源であるレアメタル「サンドスター」は、ウランやプルトニウムのような「放射性元素」に一部類似した性質を持っている。放射線が農作物やゴムやプラスチックの性質を変化させるように……サンドスターも生物や物質を奇妙に変化させる、それも熱力学第二法則（エントロピー増大の法則）に逆らうように、洗練された姿へと変貌させるのだ……。だがサンドスターの性質の大部分は、今もってナゾに包まれている……。放射線と類似する性質としては、虫や魚などよりも哺乳類や鳥類などの生体。ピラミッド上位生物のほうがサンドスターが濃縮しやすくフレンズ化しやすい、モグラなどの地中動物はサンドスター線が土壌で遮断されてフレンズ化しにくい、傷を負っている動物ほどそこからサンドスターを吸収しやすい、など……。でスーパーパワーを身につけて、スパイダーマンや、ハルクや、ゴム人間や岩人間や透明人間のヒーロー【ゴム人間や岩人間や透明人間のヒーロー】マーベル社のアメコミ『ファンタスティック・フォー』の主役たちのこと。※なぜかひとりハブられてますが……。これを原作にした『宇宙忍者者ゴームズ』という珍妙な吹き替えカートゥーンも存在し、昔のアニメであることを差し引いても、その内容は非常にカオスである。超カッコイイ悪役Dr. ドウムが、ゴームズ版では名古屋弁ネイティブの面白いおじさん「悪魔博士」になっっている、など。なぜかほとんどのヴィランにすごい訛りがあったり、スケールがデカイはずの話がテンポよく進むなど、小気味よい作風が特徴。になる、みたいにな……突

拍子も無い、絵空事だ！

しかも、生物が変質するのみならず、非生物までもがフレンズになると言う！

それじゃまるで……サンドスターとは、フレンズ達の「神」ではないか……!?!

だが……彼女らと、そして私自身を、「動物が変身した人間」と考えると、単純明快【単純明快】「オツカムの剃刀かみそり」という言葉がある。「必要以上に複雑な話は避けるべきだ」という原理のことだ。例えばこの場合、フレンズ達を「自分たちを元は動物だと思い込んでいて、さらに動物に由来するような超自然能力を持つヒトたち」と考えるよりも……「動物がヒトに変身して、そのパワーを持っている」と思うほうが、話が単純であるという。誤解しないでほしいのが、「本当かどうか（つまり妥当性）」は全く関係なく、「論理として優れているかどうか」という点だけ着目していることに注意。機械や車や銃が「少ないパーツ数でちゃんと動いてくれると助かるなく（もちろん構造が単純すぎて誤動作すると困るけど）」みたいな話。……しかも今までのあらゆる不可解な現象に対しての納得いく説明となる……! !

今さっきの、私やアードウルフの……超鉱物サンドスターによるケガの回復力……。

さらに先ほどの戦いでの、私を含むフレンズ達の……女の子どころか、人間にあるまじき身体能力……。

私の理性と教養は、このサンドスター創造論【創造論】宇宙や生命などが「創造主」に

よってつくられたものだとする、「進化論」とは逆の考え方。世界中の神話や伝説にそういう話があるが、とくにキリスト教（とユダヤ教とイスラム教）の創造論が有名。これを元にして宗教色を薄めた「インテリジェント・デザイン」説が1990年代のアメリカで提唱されるようになっており、現代のアメリカでは10人に4人が創造論やID論を信じていると言われている。日本人には分かりにくい話だが……教育レベルの高い人でも、敬虔なクリスチャンは本当に創造論について真面目に考えているのだ。しかし、最近では若い人ほど「進化論」派である傾向があるらしい。なお2000年代には「宇宙も人類も、創造したのはスパゲッティ・モンスターだったんだよ!!」というID論を教義とする「空飛ぶスパゲッティ・モンスター教」が設立されるにいたる。日本にも支部があるよ。を拒否するのだが……だがしかし、観察した結果を総合するとお

……??

「ウオオー!! 全然わからん!! なにもかもわからん!!」

疑問の終焉、混乱の始まり。

「ウワーッ! ハナコ、アンタ……まさか頭にもキズを!」

「イヤ、そうじゃない……! そうじゃないがあゝ!!」

そして!

「どう、落ち着いた？」とカラカル。

「うん、ありがとうございます」

「じゃ、サンドスターとフレンズのこと、さっきの説明で分かった？」

「……神は天にいまし、すべて世はこともなし【神は天にいまし、すべて世はこともなし】  
19世紀イギリスの詩人、ロバート・ブラウニングの詩『春の朝』<sup>あした</sup>にある言葉。『春の朝』  
は、身の回りのなんてことない自然の美しさや日常の幸せをうたった詩で、もともとは  
『ピッパが通る』という長い詩（女の子の歌声で悪人たちが改心していくというお話）の  
一部。原語では、”God’s in his heaven. All’s right  
with the world.” という簡素で美しい文章で、L. M. モンゴ  
メリの『赤毛のアン』のラストや、アガサ・クリステイの『ABC殺人事件』でも引用  
されている。」

「な、なにそれ〜?」

「あなたは良き星のもとに生まれ、精と火と露により創られた【あなたは良き星のもとに  
生まれ…】こちらもブラウニングの『エヴリン・ホープ』からの言葉で、同じく『赤毛  
のアン』でモンゴメリが巻頭に引用されている。ハナコは「自分がなにものであつたか」  
の記憶は無いけれど、「身の回りの美しい自然」や「善き心を持つ友人たち」を理解し、  
正確あるいは詩的に描写するに足る、自然科学や文学の知識を持って生まれたことに、

今幸せを感じている……。しかし、まわりのフレンズ達にそんなカッコつけた発言をし  
ても、ぜんぜん伝わらなくて少し残念……。とも同時に思っている。」

「ムム？ なんじゃそりや？ ホメてるの〜？」

「まあ、そういうことです。ジャパリパークのことも、だいたい分かりました」

「ハナコは……。話がまどろっこしいけものなのね〜……」

……いや！ にわかには信じられない！

信じられないのだが……！

だがともかく、今ここでは「フレンズ化」現象を受け入れよう。

そう考えることで、余計な混乱がなくなることは良きことだからだ——正しいかどうかはともかくとして。

この未知のジャパリパークには、セルリアン「セルリアン」ジャパリパーク固有の生物？「セルリアン」は、通常の野生動物よりもはるかに恐ろしい存在だ。たとえば以前戦ったトラバサミ型セルリアン（第0章1話登場）は、約5kgのイエネコぐらいの体重だったが……。30〜40kgほどの動物（ドールマンやジャーマン・シェパードなどの大型犬に相当）以上のスピードとパワーを備えており、とくに大アゴの閉じる速度と咬合力はワニ並みであった。剣道三倍段（武器を持った相手に素手で勝つには、3倍の実力が必要）という言葉もあるが、この場合「セルリアン十倍段」（セルリアンと戦う

野生動物には、その10倍の体重が必要)などと言えるだろう。この尋常ならざる膂力りよりよくもそうだが、さらに恐ろしい特徴はセルリアンは一部を除いて恐怖心や痛覚を持っていないこと……それらは、彼らの進化においては不要な性質とばかりに……。麻薬中毒のヒトのようなもので、ナイフの浅い斬撃や小口径の拳銃弾などでは、数度命中させても全くひるまないほど……。強い抑ストッピン止力インパクトのある攻撃でなければ、連中を無力化することはできない。だがセルリアンが恐れと痛みに鈍感であることは……逆に言えば一切の躊躇なく殺せるから、同時に大変ありがたいことだ……ともハナコは考えている。などという怪物もいることだし……「余計なこと」は考えて消耗するのは良くない。科学的検証ができるわけでもなし、真偽を考えたところでしょうがない。無駄なブドウ糖グルコース【ブドウ糖】糖質(炭水化物)の一種。18世紀にブドウから初めて抽出されたので和名はブドウ糖。分子式:C?H??O?。いわゆる生物汎用エネルギー源であり、細胞が呼吸する時に、血中の酸素とグルコースを消費して水・二酸化炭素・エネルギーが生まれる。そしてヒトの1350mlの脳は体重の約2%の重さしかないが、全身の血液の15%・酸素の20%・グルコースの25%が必要と、非常に多くのエネルギーを消費する器官だ。さらに「難しいことを考えるほど脳はカロリーを消費する」という学説は実在する! スタンフォード大学の霊長類神経学者のロバート・サポルスキーによると、プロのチェス・プレイヤーの対局中の消費カロリーは、なんと「6000 kcal/1

日」で、これは一般人の3倍の消費量……プロアスリートに匹敵するという！ いわゆる知恵熱って、本当にあったというわけなのか……？を脳が消耗するのは避けよう。

「うーん、そうは言っても、まだ信じられないけど……」

「ハナコは、色んなこと知ってるのものなのね。だから、新しいことが入ると、頭がパーンってなっっちゃうのか……」

そう言って、気の利くカラカルが慰めてくれた。

「そういうわけでもないですけど……。せめてフレレンズが生まれる瞬間を、実際に見られれば……」

「そのうちまた噴火があるわよ。見れるといいわね」

そういうわけで、私はサンドスターの粒子がフレレンズ（とセルリアン）を創造するといふ教義の「サンドスター教」の信徒になった。

パラダイムシフト「パラダイムシフト」それまで当然だと思われてきた考え方が、大きく変わることに。コペルニクスの転回とも言う。自然科学の分野では、万有引力の法則、相対性理論、量子力学、地動説、大陸移動説、進化論、メンデルの遺伝の法則、DNAの二重らせん構造の発見、など……。だ。サンドスターとフレレンズの存在を受け入れることで……。ジャパリパークにたいして、ちよつと素直に……。

これからは新しい視点でパークとフレレンズを観察できることだろう……。

「あ、あのう……」

「ん……？」

アードウルフが申し訳なきように話しかけてくる。

「お、遅れましたが、ちゃんとお礼を言いますっ！　どうもありがとうございますっハナ

コさんっ!!」

「ああ……どういたしましてです。私は大したことでないから、お礼ならカラカルや

キリンに言っただけでね」

「いえ、でも……」

「たくさんのセルリアンと戦ったのは、あの子たちのほうだから。それに、知らせてくれたスプリングボックスにも……」

「そ、そんな……ハナコさん、私のために手にケガして……本当にごめんなさい……」

「あ、そういえば」

私も左腕に怪我をしていたんだった。

サンドスターの治療力で、傷跡が少し残る程度までに回復していたものだから、すっかり忘れていた。

あのネズミみたいなヤツなんか、だいぶ苦戦したけれど……。

もつと強い武器を手に入れて、使いこなせるようにしないとこの先、生き残れないな……。

「私の血でハナコさんの毛皮汚しちゃったし……ごめんなさい……」

「もう、そんなに謝るのはいいですつてば！ アードウルフが助かってくれて、元気なことがアリガトウだよ」

「でも……」

「お礼も謝るのも、もういいから、代わりに今回助かったぶん、ほかのフレンズさんのために何かしてあげてよ」

アードウルフは、傷の止血用に使われていた私のシャツを返してくれた。

べったりと、赤黒い血が付着して……指で乾いた血を落とそうとした跡があるが、それでも大量の血がこびりついて残ったままだ。

「こんなにくさくさん血が出て、痛かったのに、よく頑張ったね……」

「え……いえ……は、はい！」

「あなたが今生きているのは、最後まで生きようと諦めなかったからだよ」

それからアードウルフは、なんだか知らないが、妙に私のことを褒めたたえた。

あのキリンが、あることないこと、余計なことを吹き込んだらしい。

「ツメもツノもキバもないのに、自分でツノをつくって戦うなんてすごい！」とか「何の武器も無い私も、あなたみたいに立派に戦いたい」とか「伝説の『ヒト』の仲間のヤギらしいですね、すごい」云々……。

「いわゆる『人間様』なんて、大した生き物じゃないよ。小賢しくて手先が器用なだけの、群れるけもの……」

「またまたあゝ……。そんなけんきよ〔けんきよ〕アードウルフのこの発言では「謙虚」と「謙遜」の使い方が逆。というのも、自分の個性を謙遜する、謙虚な性格のフレンズがパークには少ないため、あまり使う機会がない言葉だからかもしれない。してえゝ……ヒトって、けんそんなけものなんですねゝ」

「少なくとも、私はあの『英雄カバンサン』みたいに強くて勇敢じゃないよ。あなたが思うような動物じゃないから、期待しないでね」とだけ伝えた。

なにしろ、私は自分のことすらよく分からないフレンズなのだ。

それに実際に、「フレンズ様」に自慢できるほど、「ヒト様」は立派な生態はしていないはず……。

するとアードウルフは「でもカツコよかつた……」「たくましい背中の中も温もりが忘れられません……」などと、小声で色々言っていた。なんか気が弱そうだなあ、この子。

「ぬいぬい」

ソーセージみたいな実のぶら下がった木〔ソーセージみたいな実のぶら下がった木〕ズバリこれ、シソ目ノウセンカズラ科「ソーセージノキ」。北はエチオピアやチャド、西はセネガル、南は南アフリカ共和国と、アフリカ大陸の非常に広範囲に生育する植物で、生長すると高さ20mもの大木になる。ジャングルに分布するものは常緑樹だが、サバんなでは落葉樹。名前通りの「ソーセージのような形の果実」は、大きいものだと言さ1m、重さ10kgにもなる。どろどろの繊維質の硬い果肉は、ゾウやカバやサイやキリンなどの大型の草食けものの食べ物となり、ヒトは薬用にしたり発酵させてアルコール飲料にして利用する。今カラカルがネコパンチで叩いて遊んでいるのは、動物たちの食べ残しのカラツカラに乾燥した果実だ。の上で寝そべったカラカルが、木の実をサンドバッグのように手ではたきながら、私たちのやり取りを見てにやにや笑いを浮かべている。

「どうしたんですか?」

「いやね、ハナコが助けられた時と同じね、って思っで。アンタもあんな風だったわよ……」

「……え? 私もアードウルフさんみたいな……? うくん、そうだったかな?」

「アンタがお礼を言ってくれた時、アタシも同じこと考えてた。『お礼はいいから、もし

できれば、他のフレンズを助けてほしい』ってね」

「……」

「ハナコは変わり者のフレンズなのか、それともアタシ達と全然変わらない子なのか……ほーんと、分からないわねえ」

アードウルフは元気になったが、大事を取って応急担架〔応急担架〕即席担架の「軸」用に一般家庭で使える材料としては、「ステンレス物干しざお」が向いている。濡れた衣服というのは結構重いので、それをいくつも掛けられる物干しざおは一本で荷重30kg程度は耐えられる。2本なら60kg、細身の男性なら搬送できる計算だ。摩擦力が最大にかかるように、2本の棒にシートや毛布を巻き付ければ、固定具なしでも平気な強度の担架になる。このやり方以外にも、ジャケツトやTシャツなどを数枚使って担架にする方法もアリ。なお、載せた人の「脚のほうから運ぶ」ほうが、不安にさせない運び方。で彼女を運ぶことにする。

適当な木の枝を2本、カラカルがツメで切りつけたのを、キリンのパワーでひっぺがしてもらい、私の一枚布のケープをたたむように巻きつけてシートにすると、それなり立派な担架ができた。

「うわ」

「けがわとれた！ トリックにちがいないわ！」

フレンズ達がとても驚いている。

ヒトの衣服にあたる「動物の毛皮」は、一気に生え変わるものではないから、フレンズ達がこう面食らうのも無理はない。

みんな面白がつて、服を脱いだりして遊び始めた。

あのお……目のやり場に困るから、みんな、止めてよね……。

あつ、ああ〜……そんなところまで……あわわ……いけませんわ……。

なんてはしたくないことを、なさるのかしら……。

「ハナコ鼻血出てるわよ」

「ごめんあそばせ。わたくしとしたことが、はしたない真似を……」

「なにその喋り方。へんよ」

「カラカルさん、お召し物を身につけてはいかががかしら？」

「ねえー、ヤギ、どうして毛皮取ったらダメなの？」

「サバンナは日中暑いし、空気は乾燥していて、朝晩冷え込む【朝晩冷え込む】よく晴れて乾燥した日には、昼間暖かくても朝晩が冷え込む……というのは、みなさん体感的にご存じのとおり。この原因は「放射冷却」という、高温の物体から熱が逃げていく現象。

昼は太陽光により地球と空気が温められるが、夜間には熱が赤外線となって宇宙へ逃げ

ていき、地球が冷えて空気も冷えます。この時大気中に、温室効果の高い雲（＝水蒸気）があれば、お布団の綿のごとく熱をキープして、地球を暖めてくれるのです。これが、湿度が低いと夜間冷えやすい理由。他にも、風が弱い日には地表に冷たい空気が留まってしまつて冷えやすいと言われています。「放射霧」というタイプの霧は、こういった冬の晴れて風の無い日の朝方に、盆地や谷間などで地面付近の空気が冷やされて発生する霧。でしよう?」

「ふむふむ?」

「なので、暑さ寒さからお肌を守る毛皮を取り外すのは、良くないことですよ?」  
「うむ、なつとく。ろんりてききけつ」

フレンズ達はみな不器用らしく服のボタンが留められなかったので、スツカリ閉口した……。

私が乱れた衣服を整えてあげてから、我々は改めて西にあるという「フレンズの村」に向けて出発することにした。

カラカルに加えて、キリン、アードウルフ、スプリングボックもついていくことになった。

「わたし、ハナコさんの背中がいいです。ダメですか? けがの治りもきつと早くなり

ます」

アードウルフがそんな頼みごとをした。

「うーん、仕方がない、疲れたら交代するからね」と断りを入れる。

私は無理をしない程度に、アードウルフを背負っていくことにした。

アードウルフは、意外と……子供っぽいところがあるようだ。

華奢な体を背負うと、思いのほか軽い。

先ほど背負ってセルリアンから逃げた時より、軽い気がする。

あのひと口のジャパリまんの、疲労回復の効果か？

「あ……ごめんなさい。せつかく『たんか』をつくつてくれたのに……私がワガママ言つたから……」

「それは別にいいですけど……いい、いやその……」

セルリアンから逃げる時は必死で、背中に当たるそれ「背中に当たるそれ」おっぱい。乳房もしくはその分泌液を意味する語「おっぱい」に関する最古の文献は1859年ころの幕末に書かれた『於路加於比』という随筆。そこでは『乳汁をおっぱいとは「ををうまい」の約りたる語なるべく——』……つまり「おお美味い」が短縮した言葉である、という説が紹介されている。つまり、もともとは液体のほうを指す言葉であったわけだ。他にも「お腹いっぱい」が訛つた説、古代中国の学者王牌おうはいに由来する説、古代朝鮮

語で「吸うもの」を意味する「パイ」から説、サンスクリット語の *pa i* (乳) が語源説……など(民名書房めいたヨタ話も) 諸説ある。を意識している余裕はなかったのだが……柔らかな部位【柔らかな部位】おっぱい。生物学的には乳房とは、汗腺の一種「アポクリン腺」が変化したものである。最も原始的な哺乳類である「単孔類」では「ミルクパッチ」と呼ばれる毛穴のようなものであったのが、乳房の数が増えたり減ったりしながら、ドンドン進化していったのだ。他のけものが排卵・授乳期間のみ乳房が大きくなるのに対して、ヒトの場合、乳房は思春期に大きく発達してそのままになる。……で、乳房に性的な魅力を感じるのはヒトのみであるという、ヒトのオス特有のおっぱい好きの生態に着目しよう。そもそもヒト以外のけものは四足歩行だから胸部が目立ちにくいし、もともと乳房は子育て用の器官なので、本来は性的魅力とは関係が無いはずだが……にもかかわらず、ヒトオスだけが唯一の例外で「おっぱい好き」なのだ! 「女性の乳房は性のシンボルとして、体のサイズに対して不自然なほどの大きく進化した」という説があるほどだ。四足歩行した後背位での性交が基本のサルの場合、発情中のメスがオスに示すサインとして、視線の行きやすい「お尻」が赤くなるのに対して……直立二足歩行で正常位のヒトでは視線の行きやすい「胸」の大きさが、性成熟を示すサインになったのでは? ……というのが、チャールズ・ダーウィンが初めて提唱し、動物学者デズモンド・モリスが著書『裸のサル』で発表した学説だ。有名な歌詞と異なり、ポインはあ

く……お父ちゃんのモノだったんだよ!? ……話をまとめると、私たちが「キリンは首が長い」「ゾウは鼻が長い」などと思うのと同様に……他の動物たちにとって、ヒトのメスは「おっぱいがでかすぎる」けものなのである。動物たちがヒトのメスのカラダを得た「フレンズ」たちも、その辺に最初は違和感を感じる人が多い、とか? は、けつして小さくもなく、その女性的な丸み「その女性的な丸み」おっぱい。……大きいことを前提に話してきましたが、実は「巨乳がよいもの」とされてきたのは最近の価値観。というか巨乳の女性が多くなってきたのは、20世紀末のごくごく最近からなのである。下着メーカー、トリンプによるバスト調査では……1980年(昭和55年): Aカップ58.6%、Bカップ25.2%……1990年(平成2年): Aカップ32.3%、Bカップ30.5%……などと、最近まではAカップが一番多かったのだ。文化・芸術的な視点においては、地母神「ヴィレンドルフのヴィーナス」のように有史以前は豊穡・他産のシンボルとして巨乳が広く好まれていたが、ギリシャ・ローマの彫刻や中世の絵画、日本の浮世絵など、歴史上はどちらかと言えば小さいほうが好まれている。また、ルネッサンス以降の裸婦画では、大きいおっぱい派(ゴヤ・マネ・ルーベンス・ルノアールなど)と、小さいおっぱい派(クラナツハ、クリムト、ピエロ・デイ・コジモ、フォンテーヌブロー派など)と、けつこう画家の趣味がバラけている。の豊満な感触が……瘦せているとはいえ、あるべき部分【あるべき部分】おっぱい。その産物であ

るミルクのお話もしましょう。牛乳や人工ミルクで育てられた赤ちゃんより、ヒト母乳で育てられた赤ちゃんのほうが下痢・中耳炎・呼吸器障害などの病気にかかりにくいことが知られており、ヒト特有のミルクオリゴ糖が、善玉菌である腸内細菌ビフィズス菌を増殖させることが判明している。「やつぱり偽乳<sup>ニセチ</sup>より、おっぱいは天然ものに限るぜ！」という教訓ですね（ミルクの話です）。最後にオマケとして、メイン登場人物<sup>フレンズ</sup>のバストサイズを記録しておきます。主人公（ハナコ）：A、カラカル：C、キリン：G、アドウルフ：A。は、やはりあるというか……。あああ、ドキドキしてきた。

視線を感じて振り向くと、アドウルフは尻尾も耳もタテガミもふわふわと動かし、いやに嬉しそうにしている。どういうわけか、なつかれてしまったようである。

余計なことを考えずに、先を急がねば。

……空の色は赤みを増し、そろそろサバンナの陽も暮れる頃。

「例の『サバンナの村』って、どんなところなんです？」道中、カラカルに尋ねた。

「大きな村よ。家がたくさんあって、フレンズがたくさんいるの。たよれる『先生』もいるのよ。先生は鳥のフレンズで、ハナコが何の動物かきつと知ってるし、他にも何でも教えてくれるわ」

「それは楽しみですね」

で、それから、どうなったかというところ……。

「うにやあああーっ!! にやぎいいっ!!」

「ぎやああーっ!! ぐぎやああーっ!!」

ふたりの小柄なフレンズが、土の上で取っ組み合いの、めちやくちやな喧嘩をしている。

黒斑ぶち模様のスカートを身につけた、猫耳のカラカルに似たフレンズは、クロアシネコ「クロアシネコ」ネコ科ネコ属の小さなもので、成長してもイエネコの半分ほどのサイズしかない。アフリカ大陸南部の、ナミビア・ボツワナ・南アメリカ共和国などのサバンナや砂漠地帯に生息する。夜行性で非常に警戒心・単独性が強く、飼育下の個体ですらほとんど存在しないので、生態は謎が多いが……特徴は、広い行動範囲、高い狩りの成功率、そしてものすごい大食らい。一晩で約250g（＝体重の6分の1の重さ）の肉を食べる。これはヒトで言えば、10kgの重量の肉を食べるようなもの! とても気性が荒く、「キリンの頸動脈を噛み切る」などという現地の伝説があり、蟻塚アントヒル・タイガーの虎の異名を持つという……。らしい。名前のおりの黒い靴とソックスがかわいい。

アイツはちびだけど、すごく気が荒くて……というのは、知り合いらしいカラカルの言げん。

けんか相手のほうは、マントを身につけ白黒の学生服を着たイタチのフレンズのように見える子だ。ラーテル「ラーテル」インド、中東、アフリカ大陸サブサハラなど、広い範囲の様々な環境に適応して生息するイタチ科のけもの。体型はアナグマに似ているが……顔がでかくて、首が太くて、脚が短くて、ちよつとずんぐりむっくりな感じする、頑丈な体をしてるのがラーテルです。クッキリ白黒の目立つ体色は、自身のキケンさを示す「警戒色」である。イタチ科らしく、ライオンやスイギュウなどの大型けものを全く恐れず立ち向かう、その蛮勇さ！ ギネスにも「世界一怖いもの知らずのけもの」として登録されているぞ！ ラーテルの武器はカメの甲羅すら砕くキバ、四肢の強靱な腕力とカギツメ、肛門分泌腺からの催涙ガス！ 背中 of 強靱な皮膚はライオンのツメもキバも通さないし、またヘビの神経毒への耐性も持っている！ ライオン・ヒョウ・ブチハイエナのいない地域では生態系のトップに立つ、サバンナ・ギャングスターなのだからフレンズらしい。

「きようはんしやども！ けんかはやめなs……つてうわあああーっ!!」

仲裁のため、何も考えずに間あいだに飛び込んだキリンが犠牲になった。マフラーに噛み付かれている。

結局、ふたりから話を聞くと……クロアシネコとラーテルはなんとなしに、ふたりでじゃれあっているうちに……その度合いがエスカレートして、大喧嘩の形になってし

まった……とのこと。

この気性の激しいふたりは、いつもとくに意味も無くエネルギーギツシユで、常にこんな感じらしい。

「ごめんなさいにやー」

「オレたちも悪いけど、オマエもさ、ド真ん中に飛び込んでくるなよなあ」

ふたりとも、すげえ動きしてたけどね……。

やっぱりフレンズは人間じゃなくて、けものなんだな……と、改めて実感した。

「けーすくろーずど！ じけんかいけつ！ キリンは、つみをにくんで、人をにくまず！」

気を取り直して、草原を進んでいくと、フード付きパーカーを着た大柄なフレンズが、草むらに寝転がっていた。特筆すべきは、その大きなお腹！ 赤ん坊ひとり、ふたり分ぐらいはゆうにある、ぼっこりとしたお腹の膨らみは……妊娠……？

ギョツとしていると、向こうから話しかけてきた。

「ああ、これはね、ジャパリまんだよ。こうしていっぱい食べて、ずうくと『食いだめ』しておけるんだよ」

「お、おう……そうだったんですか……」

「オレはアフリカニシキヘビ」「アフリカニシキヘビ」アフリカ最大種のヘビ。サハラ砂漠以南からアフリカ中央部の赤道地帯にかけて、広い範囲に生息。水辺を好むがある程度乾燥にも耐えて、しかも木登りも得意で、サバンナ・森林・湿地・耕作地・人家周辺と、様々な環境に適応している。ニシキヘビは熱探知用の「ピット器官」をもつ種類のヘビで、さらに爬虫類全般の特徴として、発達した嗅覚器官「ヤコブソン器官」を持つ。毒こそ無いが、物凄い「胴締め」で獲物を捕食する。おまえら、イヌとガゼルと……ナマケモノのフレンズ？」

「ガ、ガゼルじゃないです……スプリングボックです……」

ニシキヘビに尋ねてみると、フレンズたちは、もとの食性に関わらずジャパリまんを好んで主食とするらしい。

たいへん興味深い事実だ。

ジャパリまんは「ボス」という名前の、青と白のふわふわの毛皮の、面倒見が良くて頼りになるフレンズが配給しているらしい。

なんだそりゃ？ 何者なんだ、「ボス」とは……う？

私は勝手に……白いヒゲをとつぷりと蓄えて、ジャパリまんの詰まった大きな袋を背負った、恰幅の良い男性の「ボス」を思い浮かべていた……。

「ボスは、トナカイに乗ってやってきて、もしかして『Hō！ Hō！ Hō！』って笑

います?」

「となくいつて何のけもの? ……いや、泣いたり笑ったりしてるのは、見たことないよ。鳴き声も……聞いたことないから、わからないな」

ちなみにボスは昔はいっぱい数がいたが、だんだん数が減っているらしい……という話をニシキヘビから聞いた。つまり、絶滅危惧種のフレンズなのか……。

そんな無防備な恰好で大丈夫ですか? と私はニシキヘビを心配したが「セルリアンから逃げるくらいはできるよ。心配してくれてありがとう」と彼女は答えた。

ニシキヘビの話によると、どういうメカニズムか分からないが、野生動物は基本的にフレンズを襲わないらしい。

基本的に、野生動物達より身体能力が高いからだろうか?

それに、万が一襲われても、少しの傷ならサンドスターのパワーで治るから大丈夫なんだと……。

さて我々は彼女と別れて、道を進む。

すると、一行を待ち受けていたのは……。

「ギャワ〜ツ! オヌシい……重いのじゃあ〜!!」

「タツケテエー!! タツケテエーツ!! ぶぶおっ!! おおお溺れるウーっ!!」  
 「あく、そっちのオヌシらしく、ちょうどよかった! この子を引き上げてほしいのじゃ〜  
 !」

大きな川にさしかかると、その対岸では、白いウシのようなフレンズが急流で溺れかけている!

なんとか岩につかまっているのを、ウロコのついた服を着たフレンズが、水中からお尻を押して助けようとしているのだ!

私たちは急いで、水面に出ている岩を飛び移って渡河する。

アードウルフも、問題なくひとりでジャンプできるほどに体力が回復しており一安心。

なんとかそのウシ科のフレンズをみんなで救助すると、彼女はオグロヌー【オグロヌー】アフリカの中央部・南部・東部に広く生息するレイヨウ、別名ウィルデビースト(野獣)。通常「ヌー」と言えばこのオグロヌーを指す。名前の「ヌー」とは、鳴き声に由来するらしいが諸説あり。地元の伝説によると、神さまがウシのツノ・ヤギのヒゲ・ウマのシツポなどの「他の動物の材料の余りもの」を寄せ集めて創造した失敗作、らしい。水分への嗅覚が鋭く、はるか遠くの雨を感知して移動する習性があり、タンザニア「セ

レンゲティ平原」とケニア「マサイマラ国立保護区」の間での、乾季の大移動が有名。と名乗った。

「ど、どうもありがとー！ いやあー、助かったよー！」

もう一方のウロコのフレンズは、エジプト風の露出度の高いエキゾチックな装身具を身につけており、その古代の鎧のような装身具の素材は、まるでクロコダイル革……ワニのフレンズ？

「妾<sup>わたし</sup>はナイルワニ（ナイルワニ）砂漠地帯を除くアフリカ大陸全域に生息する、クロコダイル科の大型ワニ——アリゲーター科のワニとは、体型・性格・能力など色々ちがうぞ。イリエワニほどではないが、ナイルワニも海水にも強く、汽水域にも棲んでいる。アリゲーター・カイマンとちがいで、クロコダイルなのでウロコに熱感知器官「穿孔<sup>ピット</sup>」を持つ。

古代エジプト神話の「セベク」とその眷属「ペトスコス」はナイルワニがモデルで、死後ミイラにされて丁重に扱われた……と、長い間言われてきたが、近年のDNA調査によると、別種のワニだったという説も浮上してきた。また、東アフリカの「人喰いギユスターヴ」なる、伝説の超大型のナイルワニ個体がホラー映画やオカルト雑誌などで有名……。なお凶暴なイメージに反して、ナイルワニは子煩悩さで知られている。一部のワニは卵が孵化した後も子育てをする習性があるのだ。そのせいかナイルワニのフレンズも、子供っぽいフレンズに対してやたらと面倒見がよく、古代エジプト貴族みたい

な見た目とやんごとなき言葉遣いに反して、保母さんみたいな性格をしている。ぞよ  
く。なにとぞ、よろしく〜」

「(ちん)こそ、よろしくお願ひします!」

オグロヌーは、友達のオジロヌーに会いにいくところだったらしい。なんだか紛らわ  
しい名前だ……。

そしてヌーから、お礼として「黒いぴかぴか石」をもらった。

初めは断ろうとしたのだが……よく見るとそれは、立派な黒曜石〔黒曜石〕オフンディアン 黒曜石は

火山岩(マグマが火口付近で急速に冷えてできる火成岩)の一種である酸性岩(地学用  
語で 二酸化ケイ素  $SiO_2$ ? 含有量が多い岩を指す)に属する特殊な鉱石。本来は「流紋岩」や「デイ

サイト」になるはずだった粘性の高いマグマが、水中などの特殊条件下に噴き出て急激  
に冷やされて、ガラス質に固まった岩石。硬度(モース硬度)は5でガラスとほぼ同じ。

全体的な性質もガラスに似ており、とても割れやすい。その性質を利用して、次の回で  
便利な道具に加工します。であつた!

これは役に立ちそうだ……。

ほかの四人に目配せしたが、みんなあまり興味無さそうだったので、私がもらつてお  
くことにする。

「おお、それじゃあ妾わたしはこれで去るのじゃ〜……ぶくぶく〜……」

ナイルワニは水上に目だけ出しながら潜水して、いずこへともなくクールに去っていった。さすが昔は冷血動物と呼ばれていたただけはある。

熱帯草原のけものみち〔けものみち〕一見何も目ランドマーク印が無いように見えるサバンナにも、「動物たちの道」が存在する。大きな木や岩、アリ塚など結ぶようにして、多くのけものたちのヒツメや肉球に踏み付けられてできた、放射状のルート。アフリカの「パルーンサファリ」ツアーに参加すると、このはつきりとした「けものみち」を上空から観察することができる。を歩いて、歩いて、歩いて……とうとう太陽は、その雄大な地平線の真つ黒な影の中へと、その身を隠し始める。ゆらゆらと空に陽炎が立ち上る様子は、まるで夕日に地面が熱せられているかのよう。

……なんて美しい夕日なんだろう。

黄昏時たそがれどき〔黄昏時〕夕刻。誰たがれそ彼時。相手の顔もわからなくなり誰すいか何する時間。逢魔ヶ

時。大禍時。空の色は青から赤へ変わる、生から死へ、紫チアノーゼの時間。これから訪れる夜

の闇とほりの帳は、休むものを優しく包む黒いシートだろうか？ あるいは、おそるべき敵の

姿を隠し潜ますカーテンだろうか？ は、人ならざるものに出会うかもしれない時間

……。いや、ここんところ、人ならざるものばかりに遭遇してるけどなあ、私……。

ようやく我々は「サバンナの大きな村」に到着した……。

「ほれ、ココが、フレンズの大きな村よ」

つて、オイ！ コレ、どう見ても……私にもなじみ深い昭和風日本家屋じゃないか!?  
なんだこのサバンナ屋敷【サバンナ屋敷】突如、ジャパリパークのサバンナ地方に現れたナゾの和風建造物!? 実は、この建物の外見や間取りはモデルがありまして……東京・大田区の「昭和の暮らし博物館」という建物。蒲田や田園調布あたりに住んでいた方は、社会科見学なんかで一度は行ったことがあるかも? 路地裏を入った分かりにくいくところにあつて、どー見ても民家と思えない外見の、こじんまりとした博物館です。というのも、ココは昭和26年建築の民家を改装した博物館だからです。意外なことに、こういった「戦後期」の建造物のほうが、江戸時代や明治時代の建物より少なくてレアだそうです。日本人の原風景的な、昭和30年代の雰囲気はひたることができ、さくいこおく……。レトロ好きのフレンズにはたまらぬ憩いの場所です。アクセス・東急池上線「久が原駅」下車徒歩8分、東急多摩川線「下丸子駅」下車徒歩8分。開館日：金・土・日・祝日（月々木・年末年始・9月上旬は閉館期間）。入館料：500円（高校生以下300円）。は!? なんてこんなものがサバンナに存在するのか!  
そして何故これが「大きな村」なのか!

さあカラカル君、どういうことなのか、説明したまえ!!

「いやね、この木の模様が、そういうことらしいのよね。私にはよく分かんないけど」  
……その「表札」には「大村」さんって書いてあって……それは住人の名前でしょう  
がああ!

ああもう! ちょっとはフレンズのことが分かってきたと、思ったかったけど……  
やっぱり、フレンズの考えてることも、言ってることも、ちつとも分からないよっ!!

## 第5話 熱帯草原の小さな一戸建て

突如現れた日本家屋の庭園の様子は……!?

百聞は一見に如かず。

フレンズたちの話を聞く前に、まずは自分で調べてみるか……。

民家の玄関へと続く庭石の脇には、松の木〔松の木〕この庭に植えられている松は、日本の公園や植物園ではほとんど見かけない「ラジアータマツ」という種類だ。もとは北米カリフォルニア州の狭い地域に自生する固有種だったが、生長が早く、多くのパルプ・木材が採取できるため、林業用として「世界で一番植林されている松」なのだ。※品質は日本のマツ材より劣るそうだ。造林がさかんな国はニュージーランド、チリ、ケニア、南アフリカなどほとんどが南半球の熱帯乾燥地域。ケニアでもよく植林されていたそうだが、「赤斑葉枯病」というマツの病気が発生したため、近年では完全に植林が禁止されているそうだ。耐病性の育種が研究されているそうだが、あまりすすんでいないらしい——だがこのジャパリパークでは完全耐病種が植林されているぞ。おもな輸出国や原産地の名前をとって、ラジアータマツは別名ニュージーランドマツ、チリーマツ、モン

トレーマツ。そして元の生息地のはずの北アメリカでは、まともな木材になるほど良く育たないらしく……本来の生育環境と全く異なる場所で繁栄しているという、なんとも珍しい植物だ。なおこれほど世界中で植樹されているにも関わらず、故郷カリフォルニアの天然林は絶滅危惧種。が何本か植えられている。和風に剪定されているが……アカマツやクロマツなどではなく、日本のものとは葉の付き方が違うマツだが……何という種類だろう？

そして注目すべきは、最近になってきれいな樹形に整えられていること……。松だけでなく、庭木すべてに……長く見積もつても数か月以内に、人の手が加わった形跡がある。

そして庭の周囲に張り巡らされたマツ林。

「このマツ〔マツ〕マツ科マツ属の樹木。天然分布は北半球のみで、南はインドネシアから、北はロシアやカナダの北極圏まで広く見られる針葉樹。気温の差に強い植物であり、熱帯に自生する種類でも $-10^{\circ}\text{C}$ 程度の低温には耐えられる。古くから「一ヶ所に付く針葉の数」で分類されており、日本のアカマツ・クロマツ・リュウキュウマツなどは二葉マツ類。ゴヨウマツ・ハイマツなどは五葉マツ類。前述のラジアータマツは三葉マツ類だ（日本には三葉マツは自生していない）。厳しい環境でも生育できるよう、菌類と共生することが知られ、根っこに生えるマツタケ・アマタケなどの固有のキノコが有

名。なおトドマツ（モミ属）やエゾマツ（トウヒ属）など、名前と違ってマツ属ではない針葉樹がいくつか知られている。この屋敷を取り囲むマツ林は、防風・防砂林として……あるいは、野生動物やセルリアンの侵入を防ぐ障壁として植えられているのだろうか？の林、手入れが大変そうだけど……」

『ボス』が色々してるのを見たことがあるけど」

カラカルが答える。

「こんなに立派な形にしておくのは、手間ヒマかかりそうだなあ……」

「ボスが気合をいれるとズババパーツーで切れる」ズババパーツーで切れる」フレレンズが「ボス」と呼んでいる、施設管理&パークガイド用小型ロボット「ラッキービースト」が標準装備する「底面式草刈り装置」のこと。カタツムリやナメクジ、タニシなどの持つ舌歯しぜつという器官に似た構造をしており、ヤスリやおろし金のように、細かく地面の雑草をこそげ取ることがができる。石畳に張り付いたゼニゴケや地衣類も掃除できるスグレモノ。しかも軟体動物のそれと同様にこまめに生え変わる、有機的な修復機能もあるらしい……。また、高枝切りばさみやヘッジカッターのような専用作業オプシオンパーツが存在し、植木の剪定するときにはこれらを器用に使用する。このサバンナ屋敷の庭の物置小屋にもそういった「ラッキービースト装備」が置いてある。のよ」

フレレンズ達に食料を配給する「ボス」さんは、まさに名前どおりパークのリーダー的

存在で……さらにこういった施設に定期的に立ち寄ってその管理も行う、忙しいフレンドズらしい。

その彼ら（彼女ら？）が、ちよつと前にココにいた名残がある……。

植込みの陰に、園芸用の結束バンド【結束バンド】「ケーブルタイ」とも言うが、ガーデニング用のものはあまりそう呼ばれない。「タイラップ」や「インシュロック」などというのは商標名。歯車のような噛み合わせのロック機構を持つバンドは、簡単に締められ、一度結束すれば緩まない。使用目的により、材料のプラスチックには、絶縁性・紫外線遮断性・耐腐食性など、さまざまな物理的・化学的耐久性が付加される。本来の用途どおりにPCや電化製品のケーブルをまとめたり、植物の支柱固定用や、他にも様々な作業用途に使われる。またロープやゴムテープ、手錠<sup>ハンドカフ</sup>などより安価で軽量、かさばらず使いやすいと、それなり丈夫なため……軍隊や警察、犯罪者、SMマニアによつて、対象者への拘束具として使われることもある。なおコツをつかめば手首などを拘束されても、1個だけなら衝撃や摩擦力でカンタンに外すやり方がいくつもある。犯罪被害者になったときに備えてふだん練習しておくといいかもしれない。の袋が落ちていた。包装もまだ真新しいモノで、「ボス」さんたちの最近の忘れ物だろう。

ところでコレは大変便利なので、拾ってバックバックのポケットに入れておく。

白砂青松〔白砂青松〕はくしゃせいしよう白浜に生える、青々とした松林の美しい風景……を指すのが一般的だが、この場合の「白砂」はジャパリパーク・サバンナ地方の、この周辺の白っぽい砂のことを言っている。これは、火山性鉱物サンドスターが白色に変化し、その砂粒が川により海へ運ばれて……南の海岸線に潮流に乗って打ち上げられ、内陸へ風で飛ばされてくるものらしい——鳥取砂丘の花崗岩の砂みたいなものです。なお松は岩や砂だらけの他の植物の生えにくい厳しい環境にもたくましく生育するからか、東アジアでは神秘的なイメージがあり、日本では「松竹梅」として、中国では「歳寒三友」のひとつとして数えられている。さらに『日本の松の緑を守る会』選定&林野庁認定の「白砂青松100選」というリストがあり、日本三景である「松島」(宮城)や「天橋立」(京都)、日本で唯一ウミウが捕獲される「伊師浜海岸」(茨城)、サーフィン・海水浴で有名な長〜い海岸線の「九十九里浜」(千葉)などが挙げられている。の景勝に思わぬ形で遭遇したが……だが庭木の多くは、熱帯地方らしい野生的な木々が立ち並ぶ。

人工的に庭木として植えられたらしいものもあれば、実生らしい土着のものなど、様々な植物〔様々な植物〕このお庭の熱帯植物をご紹介しましょう。真つ赤な花を咲かせる2種の木々……マメ科のホウオウボク(別名フレイムツリー)と、ノウセンカズラ科のカエンボク(アフリカン・チューリップ・ツリー)。これらとあわせて熱帯三大花樹に数えられる、ノウセンカズラ科ジャカラダ。奇妙な樹形を戴き、真つ赤な樹脂が高

価で取引されるという、ドラセナ属のリウケツジユ。ロープや、ダーツのマトの材料となる繊維植物、リュウゼツラン交雑種サイザルアサ。ケニアのナクル湖国立公園の森林が有名で、岩山やアリ塚にも生えるという、謎めいた外見を持つ多肉植物エウフォルビア。木なの？ サボテンなの？ どっちでもないのがデイドイエレア（カナボウノキ）。他にもアロエ類、ナス科植物、カッシア（センナ）、ハイビスカス、ブルーゲンピリア、ランタナ……などなど。日本で見かけるものもあるが、寒さに弱い植物も多く、温暖なちほーや温室でしか見られないものが多め。が観察できる。今は乾季のため多くの木々が落葉しているが、雨季になれば青い〔青い〕たとえば青菜・青梅・青竹と言うわけで……日本語は古来より青と緑を区別しない言語である。信号機の「青」も……もとは「緑信号」の通称だった「青信号」を法令改定して正式名称にして、さらにランプの緑色も青っぽく変えたほどだ。歴史をさかのぼると、「みどり」という言葉が色の名前として一般的になっていくのは平安く鎌倉時代ごろからで、学校教育で正式に区別され始めたのは戦後になってからのことだ。古代日本語では「赤、青、黒、白」の4色（「い」と言える色）しか色を表す言葉がなく、「古代青」は灰色・紫・藍・青・緑と、広い範囲の色を示す言葉であったという……。だが青と緑は違う色という認識したいは存在していたはずで……その証拠として、言語習得以前の、色覚異常の無い赤ちゃんの脳の活動を調べると、青色と緑色を見せるとそれぞれ違う反応を見せる。つまり日本語で

の区別の有無とは関係なく、ヒトは生得的に青と緑の光の波長の違いを視認できる。色の判別はできるが、言葉の使い分けが存在しなかつただけだったのである……。結論を言うと、現代日本語には2種類の青があることになる——現代的な「青(blue)」とともに、古代「青(あを/blue/green)」が慣習的に残っているのだ。なお緑と青を区別しない言語は他にも、ものすごくたくさんあるが……その話者の緑と青の識別能力の有無とは、じつは全く別の問題なのである。葉が生い茂り、彩り豊かな花を咲かせることだろう。

夕日の逆光のなかで、いちばん目を引く樹形のシルエツトは……特徴的なボトル型にふくらんだ幹と、てっぺんにはぐしやぐしやの枝……バオバブ「バオバブ」バオバブとは、アオイ目パンヤ科バオバブ属の樹木の総称。名前の「バオバブ」の由来は、アラビア語で「種が多い」を意味する、など諸説あり。バオバブの仲間は9種ほどあつて、アフリカに2種、オーストラリアに1〜2種、マダガスカルに6種が分布する。この庭に生えている「アフリカバオバブ」は最も大型のバオバブで、生長すると高さ20m以上、直径10mもの巨木になる。年輪が無いので樹齢はよく分からないが、どうやら数千年も生きるようだ。ラグビーボールほどの大きさの果実と中の多くの種子は、現地のヒトの食用にされ、ビタミンCとカルシウムが豊富。若葉や若木の根も食用になり、種子からは油がとれ、樹皮はロープに加工できる。幹のくぼみに雨水がたまって貯水タンクが

わりになったり、巨木の内側の洞は住居や酒場にすることもできる。とにかくヒトにとって有用な木に思えるが……しかし他の樹木に比べて、木材としてはもつとも利用しにくい木である。近年アフリカでは、気候変動が原因らしい、バオバブ古木のナゾの枯死現象が頻発しているとか……。その奇妙な樹形から、「悪魔が逆さにして植えた木」という伝承があり、またサンⅡテグジュペリの『星の王子さま』では、星に根を張りめぐらして破壊する恐怖の植物——当時世界を席卷しつつあつたファシズムを象徴する存在として登場する。の木だ。このこじんまりとした民家の庭にふさわしい、小ぶりのサイズのもの。

「ん？ その木には雨が降るころ、おいしい実がなるのよ！ アタシも食べる「アタシも食べる」肉食性のネコ科だが、イエネコからライオンまで、その多くが「草を食べる」ことはよく知られている。だがその理由はよく分かっておらず、毛づくろいで飲み込んだ毛玉を吐き戻すため、消化を良くするため、ビタミンを摂取するため……など諸説ある。フレンズたちは、主要食物「ジャパリまん」のほか、果実なども時々食べるが、これは雑食である「ヒトの食性」の影響が強いからだと思われる。またフレンズ化すると可食できるものが増える——ヒト以外の動物にとつての毒物……ネギやタマネギなどのヒガンバナ科の植物、ナスやトマト、ジャガイモなどのナス科野菜、カフェインやテオブロミンなどの含まれるお茶やコーヒー、チョコレートなどに耐性を得られる——よーす

るに、ヒトが食えるモノはなんでも食べられる体になる。けど、フレンズのカラダは色々なモノがおいしくて、楽しいわよ〜!」

カラカルが説明する。

バオバブの樹皮を触ってみる……。カラカラに硬い表面だが、ナイフでもあれば剥がすことができそうだ。

「……しかし、勝手に取っちゃマズいですよね……。」と、フレンズたちに尋ねる。

「あら? あなた、木の皮をはがして、水を飲むつもり? ゾウさんみたいね」

キリンが答える。

「いえ、この樹皮を編めば、いいロープになりそうだなと思ひまして……」

『『ろーぷ』って何です?』

「この木は誰のお気に入りってわけでもないですから、自由に取ればいいと思ひますよ」  
スプリングボックとアードウルフが答えた。

「じゃ、枯れない程度に……ありがたく使わせて頂きます……」

さて刈り取る道具だが、さつきもらった「黒びかびか石」こと黒曜石で打製石器のナイフ【打製石器のナイフ】黒曜石はその割れやすい性質を利用し、薄く鋭利な刃物状にすることができ。石などにぶつけて割ってから、「押圧剥離おうえつはくり」と言って一鹿角へろつか

くや骨、木などの柔らかいものを押し付けければ、非常に鋭い薄片が作れる。黒曜石の石器は石器時代や縄文時代には、槍の穂先や矢じりとして使用され、鉄器を持たなかった中南米メソアメリカの文明ではスペインに侵略される15世紀まで使用され続けていた。黒曜石の刃はとても欠けやすいのが欠点だが、その切れ味は非常に鋭く、現代でも手術用メスとして使われることがある。を作ろう。

庭石に黒曜石をぶつけて欠けさせて、薄刃のナイフを作成し、それでバオバブの樹皮を剥ぐと、表皮のすぐ下から葉緑素の緑色が見えてくる。ほかの縄に編めそうな植物の葉や茎の繊維やツルも適度に採取しておく。

「??……なんだコレ?」

作業中、そばの板塀【板塀】木材や竹・トタン製の簡素なつくりの塀で、雨風砂ボコリを10〜20年も受ければ、ボロボロに朽ちてしまうような安普請のもの。だが、こちらも「フレンズたちのボス」が定期的にメンテナンスを行っているらしく、古い板に混じって、新しいものに入れ替わっている部分がある。しかし修理の材料は、どこから調達してくるのだろうか……?に、たくさんの赤錆びた看板【看板】なぜか広告用の看板がたくさん張られている。ここの持ち主の趣味だろうか? 「ネコと和解せよ」「ネコを信じよ」「地と人はネコのもの」「ネコへの態度を悔い改めよ」「私生活もネコは見ている」「ネコの国は近づいた」「ネコのさばきは突然にくる」……などと、不可解な文句を

掲げる黒塗りに白と黄色の字のトタン看板のほか……レトロなホロー看板も——オロナイン軟膏、アース渦巻、ハイアース、金鳥の広告など。※豆知識：45度傾いている正方形の看板があるが、これは水はけを良くするくふう。余談だが、ヒトの本で「字」を勉強したフレンズでも、こういう「商品広告」という概念をいまいち理解していない者が多く、それらはヒトの「おはなし」のワンシーンやキメゼリフだと思っている。教会のステンドグラスや、ギリシャ正教の宗教画イコンのごとく……ジャパリパークでは、大村崑や松山容子は「しんわ」の登場人物で、オロナミンCやボンカレーは「でんせつのアイテム」であると思われるのだ。これらの広告のほかにも、「緊急避難所」「地下シエルター」「健康ランドジャパリ湯」「けもの霊園セメタリ」「フレンズともえ学園」など、サバンナ地方の施設へのアクセスが描かれた地図看板もあるが、こちらは雨風と日焼けでペンキが落ちてほとんど判読できない。がかかっているのを見つけた。

そのうち、いちばん大きな一枚の表面の砂ぼこりをぬぐうと、かろうじて『ヒトの暮らし博物館【ヒトの暮らし博物館】かつて、人間がジャパリパークにいた頃に建てた「パーク文化施設」のひとつ。人類の「有形・無形の文化遺産」を遺し、そしてフレンズにその重要性を教える目的で建てられた、こういった建造物は、パークじゅうに点在している。それにしても、熱帯草原のド真ん中に昭和風民家をオツ建てるジャパリパークのハコモノセンスはすごい！……とところで看板に「ヒトの暮らし」と銘打ちつつ、実

際は「昭和30年代の日本人の暮らし」限定なので、サバンナ地方のフレンズたちは「ヒトの生態」をかなり誤解しているのではないだろうか……?』……と、書いてあるのが読み取れる。

この「民家」って博物館だったのか……? とでも外観はそうは見えないのだが……。

庭をさらに探索すると、さらに有用そうな植物を見つけることができる。

「このリュウゼツランのトゲは縫い針にできそう。ああ、これはスベリヒユ」「スベリヒユ」スベリヒユ科の多肉植物。アフリカや中東あたりが原産で、古い時代に世界じゅうの熱帯や温帯地域に広まった。日本でもその辺の日当たりのよいところに生えている雑草で、乾燥に強い耐性を持っており、引っこ抜いて放つておいてもなかなか枯れない。一部地域では食用にされ、沖縄県では「ニンブトウカー」、山形県では「ひょう」と呼ばれて山菜あつかいされている。実際におひたしにして食べてみましたところ、ぬめりがあるホウレンソウのような味で結構ウマイです——生で食べるとちよつとすっぱいかも（作者談）。ヨーロッパでも野菜やハーブとして利用され、かのプリニウスの『博物誌』でも薬草として紹介され、ヒトの手が入ったポーチュラカ（ハナスベリヒユ）という園芸種も存在。なおスベリヒユは「CAM型光合成」という、乾燥地に適応した光合成をおこなう植物の一種だ。※通常、植物の光合成は、昼間に葉の裏の気孔を開いて二酸化

炭素を取り込むが、暑い時間帯なので同時に水分も失われてしまう……しかしCAM型光合成植物は、涼しい夜間に気孔を開いてCO<sub>2</sub>を取り入れ、昼の光合成用にキープしておくため、乾燥にとても強いというわけ。歴史をさかのぼると、熱帯・温帯ちほくの食糧不足に悩まされた開拓者たち……たとえば19世紀オーストラリアの「バーク・ウィルズ探検隊」などは、「スベリヒユを食べていれば壊血病（ビタミンC欠乏症）で死ななかつたのに……」などと言われている。※なお、ハナコは何でもとりあえず食べてみるクセがあるらしい。食べられるだろうか……う？」

「やはりアナタ、ヤギね！ 草を食べるなんて！」

「いや、ホントは食べられるかどうかテスト【食べられるかどうかテスト】世界標準可食性テスト(Universal Edibility Test)。手首・肘・太腿の内側など、敏感でかぶれやすい部位や、唇や口の中などの粘膜に野草を触れさせて、皮膚アレルギーを利用し、時間をかけて毒性を段階的に確かめる「パッチテスト」だ。しかしコレ、あくまでサバイバル時の最後の手段であり基本的には、確実に種類を同定できる植物を食べるのが望ましい。なおこのテストは植物用で、キノコには使えない。キノコの場合は、摂取して数日後になつてから致死的な症状があらわれるようなヤバイものもあるため。したほうがいいかもだけど……それに、せめて水洗いを—— !! うわっ !! び、びつくりしたあ！」

突然、そばのアフリカゾウを模した置物の鼻から散水が行われたので、ひどく驚かされた。

「……まあ、これはこれは、気の利くお庭ですこと……（もぐもぐ）」

「あはは。そのおもちゃのゾウさんは、時々鼻から水を出すのよ。お日様が出てるときに、何回もね」

「どうやら、あの大きな耳のゾウさんの像は、日中に動作する自動式スプリンクラーらしい。」

庭木の水遣り用か……あるいは気化熱を利用した冷却方法——打ち水〔打ち水〕気化熱での冷却（水分蒸発時の吸熱反応）で涼しさをもたらし、埃や砂塵を抑えて適度な湿気を与える……まさに自然式のクーラー&加湿器&空気清浄機。日本の夏の風物詩だが、湿気が多く住居や木々が密集して風が少ない日本よりも……乾燥していて、風で水分が蒸発しやすいこのサバンナ地方にこそ、ピツタリの仕組みである。打ち水と同様の原理のものはアラビアちほくにも存在し、「マシユラビヤ」というイスラム建築の風通しのよい格子窓のそばに、水を入れたツボを置いて、気化熱で建物内を冷やす仕組みだ。このサバンナ屋敷の打ち水には、水道水ではなく貯水した雨水や井戸水などを使うので安上り。また庭に植えられている植物にも、サバンナの厳しい日差しを遮る日陰とな

り、気孔から蒸発する水分によって気温を下げしてくれる、いわゆる「緑のカーテン」効果がある。こうして乾季のこのお屋敷は、日中には涼しさを求めて多くの動物やフレンズが訪れる……憩いの（あるいは狩りの）公共施設なのである。のためだろうか。

家屋の裏手に円筒形のシルエットの建造物が立っている。あれは貯水タンクのようにだ。サバンナの住居では必須に違いない。

さらに民家の勝手口近くには、コンクリート製ゴミ箱や、大きなツボ、テラコッタの植木鉢などが置いてある。それらの中を覗いてみると……中には、野菜の腐って干からびたようなものが底にへばりついている。

しかし、これらのゴミ箱やツボは構造が奇妙だ。内側が二重になっていて、内部空間との隙間が砂で満たされている……。もしかして非電化式の冷蔵庫【非電化式の冷蔵庫】「ジーアポット」とも呼ばれる、Pot—in-pot（二重ポット）式冷蔵庫だ。打ち水と同様に、水分蒸発の原理で気化冷却をする装置で、インドやアフリカ、アラビアなどの乾燥地域に向いている。古代エジプトで発明されていたらしいが、その後はサツパリ人類に忘れられており、現代になって「再発明」された。この冷蔵庫の材料は、大小のツボふたつと砂と水だけ。外側の大きいツボ（素焼きのもの）と内側の小さいツボの間を、砂で充填して水で湿らせる。外側ツボの多孔質の表面から水分が蒸発して冷やすしくみ。とくに風がよく流れる場所に設置すると、蒸発しやすく冷却効果が高

い。ちなみにこのサバンナ屋敷の「冷蔵庫」は、やはり水道水ではなく雨水等を使っているの、とても経済的なのです。か？

そうこう調べるうちに、石灯籠【石灯籠】和風庭園の定番オブジェ。ここにあるのは、大きな笠と低いネコ足がついた「雪見灯籠」という種類のもの。もともと庭池の水面を照らすのに向いた形状の灯籠で、夜目の利かないフレンズのために足元を広く明るく照らしてくれる。明かりを入れる「火袋」ひぶくろ部分には、特殊な照明が仕込まれており、ゾウやキリン、ライオン、レイヨウなどの意匠の透かし彫りが彫刻されている。御影石（花崗岩）さいせつぶつっぽい質感の石材が使われているが、実はジャパリパーク特有のテフラ（花崗岩の砕屑物）の「サンドスター軽石」を加工したもので、見た目よりずっと軽い。竿の高さをネジで調節できるほか……隠しスイッチを押すとモーターで火袋部分がぐるぐる回ったり、照明の色が変化するといったクリスマスツリーじみたナゾ機能も搭載されている。風情のかけらもないが、フレンズやお子様は喜ぶのかもしれない……。や、ガス灯ふうの大きな庭園灯、家屋内部の照明がいつせいに点いた。

「あのへんな形の石はですね、お日様が隠れるところに、急に光り始めるんです」

「ウム。私が推理するに、お月様のこともユウカイして、あそこにカンキンしているのでは……？」  
これはジケンのおいがるわね……」

「ホタルとかゆームシが棲んでるのかもですよ」

「キノコというヤツじゃないかしら？ 夜光る〔夜光る〕実はフレンズたちのこのウワサ話は、とても的確な推測なのだ。生物が化学反応によって自ら光を放つ現象を「生物発光」と呼び、両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類には生物発光する種はいないが……魚類・無脊椎動物・菌類・原生動物・細菌類バクテリアなどが、それもおもに海棲生物……とくに深海生物の8割以上が、いろんな目的のために生物発光を行う。身近なところだと、刺身のイカを放置したら夜光つてビックリ、というのは増殖してコロニーをつくった発光バクテリアのはたらき。このように海の生物では非常に一般的な発光現象だが、陸上では（ホタルは有名だけど）光を放つ生物はあまりない。※なおヒカリゴケなどは光を強く反射しているだけで、そういうものは生物発光ではない——太陽と月のちがいをみたいもので、エネルギーを消費して自発的に光を発するのが生物発光。そのメカニズムは、ルシフェリンという基質（燃料みたいな物質）が、酵素（生体触媒）のルシフェラーゼの助けによって酸化するとき光を放出するという化学反応……ムダな熱エネルギーが少くない冷たい発光と呼ばれる「ルシフェリンルシフェラーゼ反応」というもの。産業的にもこのふしぎな発光システムの応用が研究されており……この庭の「ジャパリ灯籠」はこういうった発光微生物の培養液を使って、物理照明のLED以上に長持ちで電気代のかからない、近未来の生体照明なのだ！ ってハナシじゃない？」

フレンズたちの話によると、どうやら光量の変化を感知するセンサーがどこかにある

ようだ。

レトロな和風家屋と伝統的な日本庭園……だがその「中身」は、見た目ほど古いものではないらしい……。

夕闇があたりかな光で照らし出されると……造園用の大きな庭岩の隙間の暗がり、フレンズがひとり挟まっているのに気が付いて、少々ぎよつとした。

彼女も前からこちらに気が付いていると思うが……。にもかかわらず、瞑想にふける修行僧のごとく、虚空をじーつと見つめながら……と微動だにしないでいる。

色々思う所はあるが……フレンズとはヒトの姿形をした動物である、人間の偏見やマナーを押し付けるべきではないな……。

「あ、あのお……失礼ですが、どうして岩にはさまっているんですか……?」

「ん……? そりゃあなた……それは、わたしが岩にはさまりたいからに決まってるでしょ」

私を一瞥して、にべもなくそう言った。

そして、ぴよこつと岩の隙間から出てくると……灰色の丸い耳と尻尾をした子だ。

一見ネズミのような、いやクマか……あるいはウサギ、まさかタヌキ……??

……何の動物か特定できない。

「ういっす。わたしはイワハイラックス【イワハイラックス】ハイラックス科ハイラックス属イワハイラックス（ケープハイラックス）は、へんなけもの。外見はネズミやタヌキみたいだが、実はゾウやジュゴンの仲間。よく見るとヒツメのかたちなどは、確かにゾウに似ているかも……。動物の4つの大きなグループのうち、アフリカ獣類（アフリカ哺乳類）というグループに属し、アフリカとアラビア半島で進化したもののたちの仲間だ。サバンナや半砂漠地帯などの乾燥地を好むが、高地や熱帯雨林にも生息。サバンナに棲むものたちは、コピエと呼ばれる岩場を好むぞ。足裏の肉球から分泌される粘性の汗によって、まるで吸盤のように、岩場にピッタリ垂直に張り付く能力がある。日中よく日向ぼっこをする習性があるが、これは哺乳類のくせに「恒温性」が低い、つまり体温調節がニガテだからだが……。でも食べ物は少なくて済むので、必ずしもデメリツトというわけではない。小さなもののわりに、妊娠期間が約8ヶ月と非常に長いのも特徴だが、これは祖先が大型動物であった名残りらしい。だよ」

「あなた、タヌキのフレンズね！」

キリンが叫んだ。

「ううん。イワダヌキとも呼ばれるけどお、イワダヌキとタヌキは、別物らしいのよ」  
「ムム！ なにそれ！ ひとりと見せかけて、ふたり……。さては、じよじゆつとりつく【じよじゆつとりつく】叙述トリック。ふつうのミステリーのトリックは作中で行われ

るものだが、叙述トリックは作者が読者を騙すもの。その上手い例として、ここで具体的な作品名をあげたいところですが（ほら、超有名なアレとか、アノ作家で一番評価高いアレとか、誰もが絶対騙されるアレとか、最後のシーンですごくビックリするアレとか、超くだらなすぎるアレとか）……でも、ネタバレになつちやうので、なんにも教えてあげませう！かしら！ たぬきじけん【たぬきじけん】1924年（大正13年）に栃木県で起きた「たぬき・むじな事件」のこと。タヌキの禁猟期間中に、タヌキを捕まえた猟師が逮捕されて「この獲物はムジナだよ。タヌキとムジナって別物でしょ？」と主張して、結局無罪になった事件。「名前がちがう別けものだと思ひ込んでいたが、実は同一けもの物だと判明した！」わけなので、「叙述トリック」の例？と言われれば……まあ、そうなのかもしれない。それにしてもキリンはものしり。というヤツね！」

「いや、わたしは日向ぼっこしてたんだけど。でも暗くなって寒くなってきたね」  
そう言いながら、イワハイラックスは「日本家屋」に向かつていくと、玄関の中へ……ではなく、なんと外壁を登り始めた！

見よ！ あのロングセーターの裾から、パンツ【パンツ】日本語は「青と緑を区別しない」言語、という解説がありました……同様に下着とズボンパンツを区別しないのが日本語でございます。だがしかし、日本人がパンティー（ショーツ）とズボンの違いを認識できないとか、服飾文化が未発達とか、そんなことは全然なくつてえ……まあでも、ア

クセントが違ったりはしますが……。しかしそういうオシャンティーな話題は、「ヒトの衣服」を全部ひっくりかかす「毛皮」「羽毛」「うろこ」などとは呼ばないフレンズたちには、まるつきり縁が無いのです。がチラリと……!!

……ではなく! 見よ、あの見事なクライミング能力!

なんの足掛かりもない壁を、まるで手足が吸盤になつていてるかのようになつて登つて、二階の空いた窓から中に入つていく……。あの、玄関と階段使わないの……? うーむ、やはりフレンズとは人ならざる能力と思考を持つ存在であるなあ……。

……では気を取り直して、私もこの「巣」にお邪魔させてもらおうとしよう……。

「お邪魔しまーす」

「え? ハナコさん、ダレのナニをじやまするんですか?」

アードウルフが無邪気な様子で尋ねたので、誰の邪魔もしないよと答えた。

さばんな屋敷……いや『ヒトの暮らし博物館』は、昭和の中流家庭を記録から忠実にぎるほど再現したかのようであつた。

黒い瓦敷きの切妻屋根。その端にわたされた緑青ろくしょうの青みがかった銅製の雨どいは、ひどく古びているものの、破損している様子はない……。

玄関のそばの手押し式ポンプは、故障していても水が出ないが……あるいは、

もともと単なる装飾用なのか？

明るい色のレンガと白いコンクリートの、土埃まみれの汚れた外壁は、長い間雨風を受けていることを示すが、これもほとんど劣化していないようだ。窓ガラスも、これまた汚れているが、割れているものは無い。

掃除すれば十分人が住める……というか、今も本当に人が住んでいるのでは？　と思わせる、状態の良い物件だが……廃墟特有の人氣ひとけを失った空気を感ずる。

……玄関のガラス戸に手をかけると、違和感を感じた——見た目からして引き戸かと思っていたが、観音開きのドアだった……。西洋式のフランス窓のような内開きの玄関ドア〔内開きの玄関ドア〕日本では、雨仕舞が良くて風やホコリが入りにくい「外開き」構造の玄関ドアが多い。「雨季」があり砂っぽいサバンナ地方でも、本来は同じく「外開き」の方が好ましいはずなのだが……？　ひよつとするとこの内開きの玄関は、例の異形の外敵ども「セルリアン」に対する防犯用なのかもしれない。ドアが内開きなら、内側に家具を置くなどしてバリケードを作成できるし、ドアの「蝶番」が外に露出しないので破壊されにくい。で、ガラス部分には強化ガラスが使用されている……。

さて、玄関にお邪魔すると……青い石畳の土間の、向かって右に下駄箱。竹製の傘立てには、数本のこうもり傘。右奥には二階へと続く急な階段がある。

玄関ドアの上部には、ゾウやキリンやアカシアなどの動植物を描いた、明かり採り用

のステンドグラス風の飾り窓。

一見、一般的な日本家屋であるが……上り口が無くて、土足のまま入れる海外式になつてゐる点は、非常に違和感があるな……。

入口付近には、金魚鉢風の古びた大きな丸い水槽があり、中には水と金魚が……いや、これはつくりものだ。水ではない、粘性の高い液体の中に、自律式のロボット琉金【琉金<sup>リュウキン</sup>】キンギョ品種の一種。キンギョという魚は「ギベリオブナ」というフナの突然変異で赤くなつた個体が、中国などで長い間、色や形などを品種改良されてきた生物。そういうわけで品種がたくさんあつて、比較的原種のフナの外見に近いワキン、丸っこい体とひらひらしたヒレが特徴の「いかにも金魚」な見た目のリュウキン、その変種のデメキン（必ずしも黒いワケではない）、高級金魚のランチュウなど。チョウテンガン、スイホウガン、ピンポンパールなど、ものすごくヘンテコな外見の連中もいて、こういう種類はあまりにも野生離れしているので原種に戻る「先祖返り」しやすい傾向があり、そうなる人間界での価値が落ちてしまう。ちなみに「金魚鉢」は見た目こそ趣きがあるが……ポンプやフィルターを設置しにくい、水の体積に対して水面の面積が狭い（＝酸素が水中に取り込まれにくく、酸欠になりやすい）など、比較的大型魚のキンギョの飼育には向いていない容器で……飼育水槽というより、一時的に入れておく「いけす」にすぎない。がどこからか電源を得て、泳いでいるのだ。

階段の横手の廊下を進むと、台所がある。白のタイルづくりの美しい流し台には、レトロな色合いのまほうびんや、ホーロー製の花柄のケトル、塩やみその保存用らしい壺、プラスチック製ビーズの珠のれんなどで、色とりどりに彩られている。

記憶の無い私にも「懐かしい」と思わせるような、日本人の原風景的に訴えかける古い家庭のキッチン。

さらに電熱線式のコンロ……っぽい見た目のIHクッキングヒーター……。昭和30年代の電気式炊飯器、のようなデザインの自動タイマー付き炊飯器……。やはり古いのは外見だけで、中身はハイテクか……。

……それにしても、さつきから気になるのは……キッチンの床に寝転がっているフレンズ……。茶髪から飛び出ている、豎琴状のツノのような前髪、ウシのような耳など……スプリングボックスに似ている。

白のブラウスに、シックな褐色の色合いのベストとスカート、スカーフ風タイ……。なんとも気品のある格好のフレンズが……床の上に寝っ転がって、シャツとスカートをまくり上げてお腹と下着を見せながら、よだれを垂らして鼻ちようちんをふくらませ、爆睡している……。

「おともだちのセーブルちゃん【セーブルちゃん】「セーブルアンテロープ」のフレンズ。

別名クロレイヨウで、アフリカ大陸の南東部諸国とアンゴラのサバンナや森林に生息する、やや大型のレイヨウ。セーブルとは「クロテン」のことで、オスはその名前どおりに黒いけれど、メスや子供は茶褐色。このセーブルちゃんの髪や衣服は茶色なので、メスの個体や幼体がサンドスターでフレンズ化した子なのだろう。です。おおう……ここで寝るとお、ひんやりして気持ちいいね〜」

スプリングボックが、同じようにお腹を見せて寝転がりながら紹介する。

「草食の子が、まわりを気にせずこんなにくっすり寝られるのも……フレンズになったおかげと、『むら』があるからよね!」

カラカルは家猫のように、両手両足で台所マットをぐしゃぐしゃにして……仰向け、うつ伏せと体勢を変えて、ごろごろと寝転がる。

「私は全然寝なくても大丈夫だけど!」

キリンはなんと、正座したまま寝始める!?

「……巣穴みたいで安心します〜……」

アードウルフは、せまくてくらくておさまりのよいところが落ち着く……とばかりに、流しの下の戸棚に入りだす始末……。

……フレンズというのは、みんな自由だねえ。

しかし私も、今日は色んな事がありすぎて、疲れたな……。

私は「セーブルちゃん」のお腹が冷えないように、起こさないように注意しながら服を整えてあげた……。

自然と下着が目に入ってしまったが……はたして動物のセーブルも、こんなお尻の模様をしているのだろうか……。

うう、背徳感が……。いや、見た目は年頃の女の子なのに、無防備に自分の体をさらけ出すフレンズたちのほうが悪いんだぞ……。

そして、私は食器棚や流しの収納部分の物色を開始する。

が、たいていはがらくたばかり。割れた食器。力任せに開けられたらしい、ひどく変形した缶詰の空き缶。歯形がついているカップ麺の容器の残骸。何かを包装していた紙袋。ビニールの破けて劣化しようなもの……。

まずは、日用品としても自衛用としても、金属製の刃物が欲しいところ……。戸棚扉の内側の包丁立てなどを探したが、一本もない。最初から無いのか……それとも、フレンズが面白がって、持って行ってしまったのだろうか？

持ち運べるものは限られているので……とりあえず、汎用性のある小型の物品から拝借していくか。

気持ちよく、すうすうと寝息を立て始めた連中を起こさないよう……こそこそと、ドロボウのように静かに……いや、実際そうなのか……。

しよ、しようがないでしょ！ 緊急時だから、この場合は！

……と、心の中で言い訳しながら、まずは、壁のフックに下がっている、この便利そうなアルミの小ナベと、ホーローのマグカップを頂戴いたしとうございます。

戸棚の奥に、アルマイト加工の小さな水筒もしまつてあった。どうやら子供用のように、サバンナの動物たちが描かれている。フタには安っぽい方位磁石つきだ。布製ストラップで首から下げしておく。

保存状態の良いビニール袋も何枚かもらって、バックパックに入れておく。

さらに、シュウ酸アルマイトの急須、花柄の小さなホーロー製ティーポット……。

裸電球ふうのLEDのもつで、それらを眺めていると、とたんに無性にコーヒーが飲みたくなってきた……。

熱すぎるほどの熱湯で淹れたあの味……。濃いブラックコーヒーの、あの健康に悪そうな色……。泥のように臭くて苦み……。

今の精神的・肉体的な疲労を癒やすのには、アレが最高なんだが……。

戸棚でインスタントコーヒーの粉末パックを発見したが、当然のように開封されてカラだったし……たとえ中身が残っていたとしても、古くて飲めないものであったに違い

ない……。

パッケージに刻印された賞味期限の「20XX年」という年号……。これが最近のものなのか、それともはるか昔のものなのか、私にはまるっきり見当がつかないのだ……。

私は、台所の向かいの部屋へと向かう。そこは玄関から見て、むかつて左手に位置している、六畳ほどの居間。さらにそこから、障子でへだてられた仏間へと続いている。

居間はタイル敷きで、和風のタンスや丸いちゃぶ台が置いてあるが、それら全ての家具に西洋風の長い猫脚がついているので、どちらかと言えば中国風に見える。

私は乾燥や湿気で開きにくくなったタンスの引き出しを、力任せに下から開けていく。「下から開けていく」こういう引き出し類は、閉める必要がないように下から順に開けていくのがドロボウ時の基本！ 空き巣は時間が命！ ……さつきはしようがないとか思いながら、色々とナチュラルに盗むし……ずいぶんドロボウ慣れしている……。「目が覚めたらサバンナでした」という緊急事態とはいえ、ハナコは窃盗癖——いやよく言えば、物品収集癖があるのでは？。

衣類などを期待したが、中にはほとんど何もなかった。引き出しの一つには、黄色に変色した新聞紙があつたので、傘つき白熱電球風LEDの薄明かりのもと、読んでみる。ジャパリパーク開園の記事【ジャパリパーク開園の記事】『20XX年！ グランドオー

ブン！ 世界初、世界最後、世界唯一のアミューメント・ズー！ 世界最大の超巨大動物園「ジャパリパーク」！ 天国に一番近い島「中ノ鳥島」ツアーで、動物から生まれた不思議な女の子「アニマルガール」たちと握手！』と、見出し部分はこのように読めるが、記事の部分や画像は紙が劣化しすぎていて、ほとんど判読できない……。パークの地理情報や、日本からのアクセス、飼育動物や園内施設の紹介、法律的な記述や注意書きらしいのだが……。ようだ。

引き出しのひとつには、厚手の風呂敷に包まれた何だか分からない「小動物の骨」があつて、大変びつくりさせられた。標本用だろうか？

隣の仏間も調べる。畳敷きではなくて、石畳の床に仏壇らしきものが置いてある光景は、奇妙な印象がする。

変わった姿のクジャクの描かれた観音開きの扉を開くと……干からびた仏飯や、ぼろぼろの枯れた花が生けられた花筒……さらに中央には、予想していたような仏像や仏画ではなく……たくさんの野生動物やフレンズの古い写真が、写真立てに入ったものや、そうでないものまで……この小さな仏壇には、多すぎるほど飾つてある。

さらに、この家の庭で撮つたらしい古い写真もあつた。

笑顔らしい表情で写真に写つた三人の人物。うち二人は、尻尾やけもの耳のあるフレ

ンズ（不鮮明な写真のため、動物の種類は全く分からない）。一緒にいるのは……耳や尻尾がない……それに、動物由来の衣装けがわではない、明らかに衣服と帽子を……作業帽と作業服を身につけた……人間……？

平均的な体格の、メガネをかけた普通の女性に見えるが、この人物は何者だろうか？ここに写真が置いてあるということは、遺影……？これらの写真の動物やフレンズは、やはりもう亡くなっていると考えていいのか？

なんだか気になるが……もらえるものを物色するのが先だ。

動物の姿が描かれたマツチ箱……「けものマツチ〔けものマツチ〕ハナコが名付けたわけではない。箱に表記されている商品名だ。ゾウ、キリン、ライオン、ダチョウなど、サバンナ動物が描かれたマツチ箱で、どれもこれもオシャレなデザインのものばかり。ジャパリパークのお土産として、写実的な絵柄のものや、マイナーなものが描かれているマツチもあるのが特徴。また、防水・防風のアウトドア加工がされたサバイバル仕様のもも存在する。が、しよせんはお土産なので、普通のマツチとさほど変わらない。なお、使い捨てライターが一般的である現代ではマツチの需要はほとんど無いように思えるが……だが「マツチのほうがタバコやパイプが美味い！」と言う喫煙者の人や、「仏壇ではマツチのほうが雰囲気が出る」と言う人や、ボタンが硬いライターを嫌ってマツ

チを愛用する人など、そこそこの需要があるようで、コンビニや1000円ショップでもよく売っているのを見かける。」とライターが置いてある。ぼんぼりや線香立てやろうそく立てはLED式なので、必要無さそうな点火具なのだが。

役に立ちそうなので拝借しておこう……と思ったが、マツチのほうは湿気つてしまつていてボロボロだ。まだ使えそうな使い捨てライター（デイスポーター）「使い捨てライター」注入式ライター（オイルや液化ガスを燃料補充して再利用できるライター）ではないライターのことで、とくに一般的に売られている「使い捨てガスライター」のことを指す場合が多い。1000円ライターとも言う（でも1個1000円より安い場合が多い）。「1000円ライター」というワードは、東海（『チャッカマン』の会社です）により、1975年（昭和50年）に発売された『チルチルミチル』で有名になったそうだ。なお、ライターの着火方式はフリント式・電子式・電池式と3種類あり、作中で登場したモノは昔からある火打石式（フリント）。フリント式は雨に弱いのが欠点で、濡れた指で使うとヤスリ部分が濡れて全く点火できなくなるので注意——まあ乾季さばんなちほくでは縁の無い話だが……。

かつてはライター側面には宣伝広告が描かれる場合も多かったが、この「ジャパリライター」にも、ペット用蚊取り線香の広告が描かれている。その昔、喫煙が一般的であった昭和の時代には、ライターはこの家庭にもゴロゴロと転がっていたシロモノだが……近年では加熱式タバコが主流になって、使い捨てライターの売上は下がっているそ

うだ……。しかしキャンプ用や仏壇・墓地用、花火や蚊取り線香の着火用、あるいは模型作成用などと、まだまだ需要は多い。それにしても乾季のさばんなちほくは日中の気温が高く非常に乾燥しているため、若干や生えているイネ科の枯れ草に火がついて火事にならないよう、ライターやマッチの取り扱いにはとくに注意を払わなければならぬ。のみポケットにしまっておく。

ふと上を見上げると神棚があり、フレンズの写真が飾られている。それは、イヌのような耳と尻尾のフレンズ……。首輪やリードまでしているのだから、まず間違いない……。犬種までは分からないが……。

フレンズらしからぬ、マジメぶったような、機嫌が悪いような、何とも言えない顔つきで、背をびしっと伸ばした姿勢で写っている。

そのイヌの、こつちをにらんでいるような顔を見ると、私は突然、心臓を鷲掴みにされるような感情に襲われた。呼吸が速くなり、心臓の脈動が強くなるのを感じる……。冷たい汗がやたらと出てくる……。

誰だか分からないフレンズ……。でも私は、この子を知っている……。それもただの知り合いではない……。どうしてこんなに心が痛くなつて、胸が張り裂けそうな思いが湧き上がるのか……。

そのようなもやもやした感情に心を支配されていると……。なんの前触れも無く、二階

から階段を下りてくる足音が聞こえてきた。

さつき、外から二階に登っていったイワハイラックスか……？

いや、歩幅や体重が違う。

私が今まで出会ったフレンズの、誰にも似ていない歩き方だ……。

直感的にそう思う。

障子戸に隠れて様子をうかがっていると、そのフレンズが居間に入ってきた……。

## Chapter 1—2：満月夜の動物裁判

## 第6話 ニンゲン、ゲットだぜ!

赤い西日が窓から差し込む。

天井から吊り下げられた電灯の暖色の光は、意図的に光量を下げられているようで、居間の四隅にうつすらと陰ができ、傷の多い丸いちやぶ台を照らしている。

薄暗いタンスの上には……円筒形の郵便ポストの形の貯金箱と、プラスチック製の裁縫箱。その赤〔赤〕暗い場所では「赤いもの」はより黒っぽく、「青いもの」はより明るく見えるように視感度に変化する。これは19世紀チェコの生理学者ヤン・E・プルキニエが発見した「プルキニエ現象」だ。たとえば公園の花壇は、昼にはその花の色が鮮やかに見えるが、夜は花よりも葉の緑色のほうが際立って見える。この生理現象は、ヒトの網膜にある2種類の視細胞「錐体細胞」と「桿体細胞」のはたらかいの違いによるもの。光の色（＝波長）を識別可能だが受光感度が低い「錐体」は明所での色の判別に役立つが、暗所ではうまく機能しない……一方で、色の判別がほとんどできないが高感度の「桿体」は暗所で明暗（ものの輪郭）を視認するのに役立つ。これら視細胞の性質として、錐体細胞は波長555nm（緑色）の光に、そして桿体細胞は505nm（水色）

の光に対して、最も強く反応するようになる——つまり、暗いときは「色への感受性」が赤色のほう（長めの波長の光）から、青色のほう（短い波長の光）へと遷移する。暗所の視覚では、赤色の刺激が低下して緑々青色の刺激が強くなるというわけだ。はほの暗く、青【青】暗所では赤いものが見えにくく、青いものがよく見えることは、感覚的に古くから知られていたようだ。その例として、忍者は夜間目立たない赤い忍者服を着た、新選組は夜に味方を視認しやすい浅葱色（水色）の羽織を着た、千利休はうす暗い茶室でも目立つ浅葱色の足袋を履いた……などなど。そして浅葱幕（青と白の縞模様）は葬儀での垂れ幕の伝統的な色でもあり、ちほーによつては、現代の葬式で一般的な白黒の「鯨幕」<sup>くじらまく</sup>（実は歴史は浅め）の代わりに使われている（※作者の棲んでる地元の弔事でもそうです）。これも（晴天時の）夜間に、遠くから当家を視認しやすいことが理由のひとつかもしれない。また英国グラスゴーや奈良県など一部の都市では、遠くからでもよく見えるという「青色防犯灯」が導入されている……が、夜間の犯罪・自殺の件数の減少に本当に効果があるのかは不明。さらに青い光は防犯カメラに映りにくく、雨天時に非常に見づらくなるなどのデメリットも。と、上記はヒトの視覚であり、フレンズの場合はだいぶ異なる。（※次のTIP参照）は際立って見える……。そして、造花の植木鉢の葉の色あせた緑や、密林の動物たちを描いた油絵の彩り豊かな緑【緑】この絵画『夢（La R・ve）』を描いた画家アンリ・ルソーは20種類以上の緑色を使い分

けたそうだ。ところで、多くのフレンズが赤と緑を明確に区別できない。前述した明所で色を識別するヒトの「錐体細胞」には、分光感度（受容しやすい光の波長）が異なる<sup>ロング</sup>L（赤）・M<sup>ミドル</sup>（緑）・S<sup>ショート</sup>（青）の3種類があるが、一部のサル類を除いたほとんどの哺乳類はL錐体とS錐体しか持たない「2色型色覚」動物だ。これは中生代、恐竜たちが大地を闊歩する時代には、現生哺乳類の祖先たちは彼らを恐れて多くが夜行性で、色覚が4色型↓2色型に退化したため。そしてヒトを含む狭鼻猿類（別名旧世界ザル：霊長類とオナガザル科）のみが、進化によって「3色型色覚」を取り戻しているのだ。この動物の特性を受けて、一部のサルを除く多くの哺乳類のフレンズ、とくに夜行性のフレンズは色覚が人間より弱い傾向にある……。その例として、たとえばヒトの「赤緑色覚異常」（日本の男性の場合20人にひとりの割合で存在）と同じように、赤色と緑色を区別しにくいフレンズは、日常生活では果物の色が判別しにくいなどの不便がある。緑色のバナナでも食べてしまうネコ科のフレンズもいたらしい……。赤色と緑色のちがいがはっきり認識できるということは、私には赤と緑の色覚異常「色覚異常」差別的な意味はない。日本眼科学会では「色盲」「色弱」という言葉は使われず「色覚異常」と呼ばれるので、本作でもそれに従っている。前述のとおり、ヒトと比較して色覚が弱いフレンズが多いのだが、かつてヒトがいた頃にはほぼすべての本やテレビ番組・ビデオゲーム・標識などの色彩は「カラーユニバーサルデザイン」に基づいており、必要であ

ればヒト用「色覚異常補正メガネ」を着用すればよかったので、フレンズ達がヒトと一緒にの生活する際に困ることはあまりなかったようだ。しかし暗所でもものの輪郭が見えやすいなど、「いわゆる色弱」のほうが正常色覚より「強い」場合さえある……。他の霊長類と異なりヒトにかなりの割合で色覚異常の遺伝子が残っているのは、地球上で人類が繁栄するにいたって、多様な状況に対して集団で協力して対応するためだと言われている。その「協力的な習性」を受け継ぐフレンズたちの場合もおそらく同様なのだろう。……私たちの脳の中にのみ存在する「世界の彩り」は、ヒトやフレンズによりけりの十人十色なのである。は無いらしい。

二階から降りてきたフレンズは、居間でじっと立ち尽くしている……。彼女（ロングヘアーやスカートからの推測）は私よりも頭一つ分ほどは背が高い、長身のフレンズ……。

逆光で顔や服装がよく見えないが、特徴的なシルエツトを光の中に浮かび上がらせていた。アメリカ先住民の装いを思わせる頭部の翼と羽の飾り……。あれはアクセサリーではなくて、レイヨウのフレンズのように、髪の毛の一部なのだろうか？

小脇には、何冊かポロポロになった本を抱きかかえている……。

彼女の尻尾は、今まで出会ったフレンズのそれとは異なり、平たく直線状に伸びてい

て、先端に行くほど細く薄くなり……鳥の尾羽を思わせるものだ。

もしかして、彼女は「鳥類のフレンズ」だろうか？

障子の影から様子をうかがう私と、目が合う。

お互いしばらく黙って見つめ合う……。

彼女は、携えている本を「携えている本」「フレンズ」の学習者向けの特別な本で、小学校低学年向けに相当する本や、古典文学のリライト版や動物図鑑、国語ドリルや計算ドリルなど。いくつかご紹介しますと、『フレンズのからだのふしぎ』（ジャパリ・ユニバーシティ・プレス刊）、『ヒトの生活 大図鑑』（八百万彩社刊）、『中ノ鳥島の古代壁画』（フレンズ神話と伝説）（メーミン書房刊）、『海底遺跡のナゾ——ジャパリパークはアトランティスだった！』（月刊『ヌー』別冊200XX年5月号）、キリンもイチオシの『シャーロック・ホームズのぼうけん』（ニッツノメドリブックス）……などなど。ひらがな・カタカナ・漢字ルビが多用されているのが特徴で、「※このほんを たべてはいけません」などヒトの本では当たり前すぎて書かれないような注意書きがあるほか、「食肉」などのセンシティブな内容は避ける傾向にある。この「鳥のフレンズ」が持っている本はどれも、長年使い古して痛んだものをノリやテープなどで補修して、ドリルには書き込みしないようにして使い、とても大事にしている。このヒトのいないジャパリパークでは、書物はとても貴重なのである。テーブルに置き、その中で一番大判の本「一

番大判の本」総天然色動物図鑑『どうぶつ』。イラストや写真といった多くの図版とともに、説明文やコラムが添えられている。こういうフルカラーの書物はとくに貴重で、ジャパリパークでは「こうきゆうひん」であり、ロバやサンショウウオなどの「行商のフレンズ」によつて、長い陸運・水運を経て、大量の「ジャパリまん」などで物々交換されるアイテムだ。のページをパラパラとめくりはじめて、とあるページを開いて私に見せつけてこう言い放った。

「キリン！ ゾウ！ ライオン！ シマウマ！」

……予想だにしない反応に、私は戸惑った。

彼女の言葉は……どうやらその開いたページに書かれている項目と一致しているようだ……。

「あ、あの……すみません……」

「レイヨウ！ カバ！ イボイノシシ！ ハイエナ！」

鳥フレンズは気にすることなく続けた。

円周率や駅名の暗唱のような……写真を見てキャプションを読んでいるわけだから、それとは違うが……。

「あのう……なんのことが、分からないんですけれど……」

「ほぅう? なんのことか分からないのですかあ? 当然です! しごく当然っ……!」

鳥フレンズはそう得意げにつぶやく。

「バス! ひこうき! ふね! でんしゃ!」

今度は別の本「別の本」『はたらくくるま』図鑑。……と、いうことは「はたらくないくるま」もいるはずで、ミツバチやライオンなどと同じように「オスのくるま」がはたらかないのだ……などとフレンズ達は思っている。のページを私に見せつけて、その内容を私に朗読してきた。

「こ、この行為はいつたい……何の意図があるのか……?」

「……ふふふ、お困りのようですねえ……?」

「は、はい……。まあまあ反応に困ってます……」

「お困りのあなたに、今から説明してあげますでしょう!」

「……お、お願ひします」

「失礼、自己紹介がまだでしたわね。わたくしはヘビクイワシ「ヘビクイワシ」アフリカ、サハラ以南のサバンナや半砂漠地帯に生息する、タカ目ヘビクイワシ科の猛禽類。頭に羽ペンのような飾り羽を持ち、中世の書記官のような姿から、英名がセクレタリー・バー

ド（※アラビア語に由来するという説もあり）。顔つき（美形だ……すごく手塚治虫顔）はまぎれもなく猛禽のそれだが、遠目ではツルやタンチョウにも見えるスマクトな足長体型。その長〜い美脚から想像できるとおり、飛翔よりも陸上走行に適応した鳥類。木の上で寝る時がいよいよ陸上において、森林やヤブを嫌い、開けた場所を好む。名前通りへビも捕食するがそれほど好みというわけではなく、小動物や昆虫、鳥の卵、屍肉なども食べる。そのキツク力は体重の約5倍の衝撃力があり、とくに毒へビなどは首を念入りにヘシ折って無力化してから捕食するという……。と言います。この辺りでは、みんなに知恵をさずけるフレンズ……ちよつとしたせいで知られてますのでしよう！

そう言うってへビクイワシは部屋の明かりのもとに進み出てきた。

「私はハナコといます。私の友達が話していた『先生』ってフレンズは、あなたのことだったんですね……」

白と黒の長髪……赤いフレームの眼鏡からは、長いまつ毛がのぞく。カラカルやキリンと比べて、大人びた顔つきで——人間の女性で言うなら、年齢は二十代前半ほどに思える。

白い軍服のようなスーツを着ていて、肩に下がる金飾緒【金飾緒<sup>モール</sup>】正装・礼服の軍服や、吹奏楽団の制服などで、肩から胸にかけて下がっている組み紐のような装飾のこと。

国によって正式な着用方法が異なり、日本の旧軍・自衛隊はフランス軍式のやり方だが、アメリカ軍・イギリス軍はドイツ軍式。モールの先端にはペンのような形のパーツが下げられるが、これは石筆ペンシルと呼ばれる装飾品で、一説によるとナポレオンの時代、伝令兵や士官が地図にメモする時に落として無くさないようにした筆記用具が由来らしい。だがこのヘビクイワシのフレンズは本物のエンピツを胸に下げており、しかもソレで自分の袖口カフスにメモや「もじのれんしゅう」を書いたりするんだとか……。今も、もつと明るい所で見れば「かぢん ふんかのおと かレーこん」「あした でかみお おへろ」などといった、怪文書じみた覚え書きが袖に書かれているのが確認できることだろう。先には筆記用具をぶら下げている。ビジネスウーマンのような装いだ、スカートのようにギンズが活動的な印象だ。

髪の毛の先の飾り羽や、お尻から生えている尾羽はやはり鳥のそれであり、さっきの自己紹介どおりワシのフレンズらしい。

「説明しましょう! この、ぺらぺらした葉っぱのようなのが集まってるものは、『本』と言います。黒い細長い模様が、たくさんありますでしょ? 『文字』【文字 その1】ヘビクイワシがカンタンに解説しているが、こみいった言語学の説明をすると、とてつもなく長くなります……。世界の文字は一般的に、表意文字(狭義の表意文字と表語文

字」と表音文字（音素文字と音節文字）の2種類（専門的には4種類）に大別される。まず表意文字とは、厳密な定義では「意味のみ」を表している文字のことで、代表的なものには「アラビア数字」だ——たとえば「1」は、「いち」「one」「eins」「un」<sup>「Один」</sup>など、言語によって対応する言葉は異なるが、どの言葉でも表す意味は同じである。同様に、看板や標識の絵文字も表意文字だ。それとは違って表語文字とは、「ある言語において、一つの言葉に明確に結びつく文字」であり、とくに「漢字」が代表的な例だ。エジプトの「神聖文字」<sup>ヒエログリフ</sup>も具体的な事物のほかにも、明確に古代エジプト語の単語に対応しているため、表語文字だと定義できる。ほかには楔形文字やインダス文字、トンパ文字なんかも表語文字に分類される。（※その2に続く）』と言つて……それが短い音をあらわしているのですよお〜」

へビクイワシが説明をはじめたが……。  
え、ええ……？　まずその説明から入るのお……!?

「つまりこの『文字』【文字】その2』いわゆる表音文字は「音素文字」と「音節文字」の2種類に分かれる。一つの文字が一つの子音か母音に対応しているのが音素文字で、ローマ字（ラテン文字）やギリシャ文字、キリル文字、アラビア文字など。音素文字をもっと細かく分けると、アルファベット（子音と母音の文字があつて組み合わせ可能）、アブジャド（子音のみが存在する）、アブギダ（子音・単独の母音・子音用の付加記号を

使う」という分類もできる。また音素文字の発展形の「素性文字」という考え方もあり、ハングル文字や、ツールキンの『指輪物語』のエルフ語の文字がこれに当たる。……それらに対して「音節文字」とは、一つの文字が音節（ひとまとまりの音のカタマリ）を表すシステムだ——代表的な音節文字の「ひらがな」では、「a（母音のみ）」の音は「あ」、「k（子音）+ a（母音）」音は「か」と表記する、など。「かな」を持つ我々日本人には音節文字はなじみ深いが……ではほかの例は、と言うと、アメリカの先住民族インディアン（※この呼び名の妥当性には賛否ある）の人工文字「チエロキー文字」や、古代ミケーネ文明の「線文字B」ぐらいで、世界的に見ると音節文字はごくごく少数、とてもレアな文字システムだ。（※その3に続く）からその音が分かれば……誰かの『声』を聞いているのと同じなのでありますウ！ さらに、ぎやくに自分の『声』を文字に変えれば、いつでもどこでも、誰かに『お話』できるわけですウツ！ ……どうつ？ どうくつ？ 本とは、喋る葉っぱ「喋る葉っぱ」かつて文字を持っていなかったインディアンの人々も、ヨーロッパからの開拓者の持っていた書物のことをこう読んだ。文字をあたりまえのものとしなないフレンズたちにとっても、本という道具は非常に奇異な第一印象があるようだ。なのです！ すごいでありましょく？」

へビクイワシは自信に満ちた態度で話を続けた。

「い、いえ、はい……あの……そ、そうじゃなくて……」

「ふっ……このすぎが分からないと、そうおっしゃるのでしょうか？　では、この絵も何だか分からないでありましょうね……？」

この人も他人の話フレンズを聞かないタイプ「他人の話ひとを聞かないタイプ」この人「も」って……？　じゃあ、他の「話を聞かないフレンズ」って、だ、だれのことだろう？（すつとぼけ）……もちろん、今は台所でぐうぐう寝ているキリンのことですね。キリンもヘビクイワシも実は似たもの同士。フレンズの中では比較的「もじ」の読める「知識階級」であり、好奇心旺盛でものしりな子ゆえに、どうやら初対面の相手にはおしゃべりになりがちのようです……。でもそれは知識を自慢したいというわけでは無く、知ることの喜びを相手にも伝えたいのでしよう。なのか……。

「これらの絵は『のりもの』と言うのですっ！　ジャパリまんではなく、『でんき』というかみなりを食べて動くのです。あのかばんさんなどは『バス』を助けるために、体中の毛をばちばち逆立てて、こうざんからカミナリを呼び寄せ——」

「あの……『本』も『文字』【文字 その3】——というわけで、日本語の文字は、漢字・かな・ローマ字と、異なる文字体系が混合されており、このジャパリパークの一部の勉強好きなフレンズたちは、修得するのに大変な苦勞をしているのです。ジャパリパークのフレンズたちはまず「ひらがな」を学んでから、その後「カタカナ」を習得する。こ

のとき『よく使う20文字のカタカナ』から順に習っていく、という独自のシステムが面白い……。これは、ゲーム『ドラゴンクエスト』のシナリオライターの、堀井雄二というヒトが考えたもの。……というのも、どうやらこの「フレンズ学習カリキュラム」を考えた『博士』と呼ばれるフレンズが大のテレビゲームが好き（ジャンルで言うところのRPGやADVがとくに好き）だから、らしい。……このように、ヒトの去ったジャパリパークでは「有識者のフレンズたち」がアレコレ工夫して、ときにはマジメに、ときにはテキト々に……フレンズ全体の初等教育に、日夜チカラをそそいでいるのです。』も『乗り物』も知ってますが……それより、どうしてあなたは……」

「なにいつ！ それはどういうことでありますか！ あなたは見かけない顔だから、最近生まれた子でしょう？ なのに、こーゆーことを知ってるだなんて……ううう、ウソおっしやい！ そ、それなら、これを読んでみてよ！」

彼女はひどく狼狽した様子で、ファイルを開いて私に見せてきた。

その記事【その記事】スクラップブックに保存された新聞記事。『……ジャパリパークは、火山島『中ノ鳥島』に作られた、超巨大サファリパーク型複合施設である。南鳥島より東——北緯30度・東経154度——小笠原諸島から約900km、日本最東端に位置する群島である。『ジャパリパーク振興開発特別措置法』に基づき、日本政府が開発方針を定め、国と民間企業が協力して開発計画を——』。は、このジャパリパークの開発

経緯に関する興味深い文章で――。

ぱたん。

……と、音読していたら、いいところでヘビクイワシに本を閉じられてしまった。

「……前に『博士』が言つてた事と、だいたい同じようなこと言つてるはず……。どーしてあなた、こんな難しいお話がすらすら読めるのですかあっ!!」

あれ、何だか彼女はずいぶんときかに来ているみたいだけど……。

「このわたくしでさえ……難しい『かんじ』は読めないのにー!」

む、このパターンは……イヤな予感が……。

「ぐぐぐ、ぐやじいぐ! なんて、そんなにカンタンに読めちゃうのようー! わたくし、

『ひらがなかたかな』をがんばって練習して覚えたのにいゝ……!!」

「うううううう……うわあああーん! ゆうざい!」

……うう……泣かせてしまった「泣かせてしまった」なぜヘビクイワシはいきなり泣き出したのか? くやしいとか、そういう理由もあるけれど……「驚いた」「感心した」「嬉しい」など、いろいろな爆発的な感情が混じつて反応した結果なのである。彼女たちフレンズは半分はヒトだが、半分は動物……我々人間より多くの点で「本能的」なひとたちなのだ。……罪悪感が……。

悪いことしたかな……いやでも有罪つて……文字が読めることが罪【文字が読めるこ

とが罪」そんなムチャクチャな……と思うかもしれませんが、カンボジアにかつて実在した「民主カンプチア」という国の法律ではそうだったのです。「クメール・ルージュ」の原始共産主義国家、「ポル・ポト」政権と言ったほうが有名かも。ポル・ポト政権下では本を読んでもと犯罪、しかも死刑。それに、学生や先生や医者や技術者は全員死刑。メガネをかけてると死刑。ラジオを聞くと死刑。腕時計を持つてると死刑。子供にものを教えると死刑。恋人がいると死刑。手が奇麗だと死刑。イケメン美女だと死刑。笑うと死刑。泣くと死刑。……こうして、カンボジア全人口の1/4〜1/3が処刑されたと言われています。……こんなんウソだろと思うかもしれませんが、マジの話です。この独裁者の狂気の脳内が現実化した虐殺国家が南アジアに存在したのは、1976年〜1979年の間……。まだ、たった40年ほどの出来事であり、現代のカンボジアにも、その暗い影と深い爪痕、鮮明なトラウマが色濃く遺つたままである。だなんて、おかしいけれど……。

「す、すみません……気分を悪くしたのなら、ごめんなさい! 私は生まれつき文字が読めるフレンズみたいで……。私よりも、頑張つて文字を覚えたヘビクイワシさんのほうが、すごいですっ!」

「ぐすっ……ホ、ホント? 本当にそう思う?」

「はい。できないことをできるようにするほうが、すごいです!」

「そ、そうよね。わたくしはすごいのですよ。なんてったって『先生』と呼ばれてますからね。先生が『せいと』の前で泣いてちやダメでありましょう」

今泣いた鳥ヘビクイワシがもう笑った。

「そうですよ。先生が生徒の前で鼻水を出してちやダメです」

よく怒ったり泣いたり笑ったりする、雨季と乾季のようなフレンズ達だが、やはりみんな笑顔が一番よく似合うなあ……。

「でも……よく考えたら、生まれつき文字が読めるなんて……?? あなた、何の動物なのでしょう……?! まま、まさか……!?!」

元気を取り戻したヘビクイワシだが、様子がおかしい。

「……まず、耳がふたつしか無いのが大きな特徴でありましょう……。ゴリラかチンパンジーか、ボノボミみたいな『れいちようるい』の一種、それも『るいじんえん』じゃないかと思うけど……。でもあなたの毛皮は緑色だし、ナマケモノのかのうせいも……?」

ヘビクイワシはキリンのように推理を始めた。

「も……もしかして、あなたは『ヒト』のフレンズなんじゃあ……!」

「は、はあ……どうやら『そのまさか』のようで、私もヒトの『フレンズ』らしいです……」私の傷口からは不思議な虹色の「サンドスター」の粒子が噴き出したり、「サンドスター」を経口摂取して怪我が治ったりするのは、まさしくその証拠か……。

今朝目覚めてから、はじめのうちは……アフリカかどこかで、何らかの犯罪に巻き込まれて記憶喪失になった日本人なのでは……とも考えたが……。やはり今までの出来事からすると、私は今朝生まれた「ヒトのフレンズ」である……らしい。まだ、その辺あまり実感がわかないのだが……。

生物は無から発生しない【生物は無から発生しない】なにを当たり前のことを……とお思いかもしれませんが、生物「自然発生説」が、フランスの細菌学者パスツールの実験によって完全に科学的に否定されたのは、まだほんの19世紀後半のこと。それまでは、古代ギリシャのアリストテレスおじさん以来、一部の生物は勝手に「沸いてくる」と長らく信じられていたのである。では原初の生物はいかにして生まれたのか? 「生命の起源」とは?? ……とゆる話までするとひじょーに長くなるのでやめます。ちなみにフレンズがどう生まれるかは、人道的な制限も絡んでおり、あまり実験がなされずほとんど不明なのだが……それよりは「セルリアンの発生」に関してのほうがよく研究されている。セルリアンは、何かしらの「核」(具体的な条件は不明だ)があると、「サンドスター・ロー」と呼ばれる物質がソレに凝集して誕生するらしい——生物と言うより、雲

や結晶みたいな連中なのだ。ここで火山性物質「サンドスター」と「もとになるもの」から生まれるという性質は、フレンズとセルリアンの共通点であることが興味深い。また、これは未確認情報だが、フレンズとセルリアンも「人と関わりのあるもの」から生まれるそうだ……。その証拠としては弱いですが、人間が未発見の「新種動物のフレンズ」や、全く生物にも機械にも似ていないセルリアンなど、「人間の理解や技術を超越するフレンズやセルリアン」は、これまでジャパリパークで確認された記録が一切存在していない。——それと同様に、この「私」の元になつたモノがあつたらしいのだが……。「それ」が何なのかは今のところ不明だ。

「だつて……。『文字』が生まれつき読めるのは、ヒトの特徴だもの！」

へビクイワシはそう言うが、これは言いすぎ【これは言い過ぎ】ヒトはきちんと「教育」されないで、文字が読めるようにならないので、先ほどのハナコの発言は不正確だ。そもそもアイヌ民族や北米インディアン、インカ帝国など……。「文字」を持たない民族の例は世界じゅうに枚挙に暇がない。さらには失読症ディスレクシア（文字の読み書きが難しくなる障害）は世界中で見られ、日本ではあまり知られていないが、アメリカでは人口の二割弱もの人間がこの障害を抱えているという。つまり「言語（話し言葉）」は明らかにヒトの特徴だが、「文字」はヒト全体の特徴というわけではない。……。などとこの時ハナコは

考えていたが、ウカツなことを言つてへビクイワシに機嫌を損なわれても困るので口出ししなかった。……。

……イヤ、さつき私が自分でそう言ったのか。

私たちの間に、しばしの沈黙の空気。

ぼてぼてとした足音が聞こえてきて、その静寂が破られる。

「ハナコおどしたの〜?」

「あゝ、先生じゃない! やつぱり『村』にいたのね、私の推理どおり!」

「スプリングボックさんたちは寝ちやいましたよ〜」

「あの子たちは『やこうせい』『やこうせい』夜行性。昼間は休み、夜間に活発に活動する生活リズムのこと。対義語は「昼行性」。または夕闇や夜明け前、月夜などの薄明りの時

間帯に活発化する「薄明薄暮性」はくめいはくぼせい動物もいる。前述のとおり、かつての哺乳類は中生代

には多くが夜行性であったが、約6550万年前の恐竜絶滅(鳥類がいるのでこの言い

方は語弊があるかも)のちに昼行性に移っていくものがあつた——なお一番初めに昼

行性に適応していったのは霊長類である、という学説がある。こうして「いわゆる恐竜」

が亡き後、多彩な生態的地位チを獲得するに至つた動物たちだが……生物の生活リズムは

種によつて固定ではなく、あくまでも「全体的にそういう傾向にある」というだけで、し

かも環境などによって個体・集団の性質が変化していくケースがある。たとえば、アフリカの東部と南部に広く生息するアードウルフなどは基本的には夜行性だが、主食となる現地のシロアリの行動パターンによっては昼行性に近くなる。またイヌやネコ（元来は夜行性や薄明薄暮性）などの家畜がヒトの生活リズムに合わせて昼行性に変わっていったり、あるいはヒトと対立する動物たちがヒトとの衝突・競争を避けるために夜行性化していくことも広く知られている。なおヒトは都市部に生きる集団は夜行性に近くなつていく傾向があり、それに合わせるように夜行性のけものたちが昼行性化しやすいそうだ……。ジャパリパークのフレンズたちのばあいは、全体的には「元の動物」の行動リズムを踏襲しつつも、時と場合によりけりで、昼夜の活発性が比較的柔軟に変えられるようだ。』じゃないからね」

「えー、そういうキリンさんだつてそうでしょ〜?」

「ふふふ……キリンは『はくめいはくぼせい』! それに名探偵というのは、ぜんぜん寝ないものなのだよ、アードウルフくん!」

キッチンでだらだらと微睡まどろんでいたフレンズ達の声。

カラカル、キリン、アードウルフの三人が居間にやってきた。

「ちようどよかった、みなさん! わたくしの知識と経験によると、どうやらこの子は……あのマボロシのヒトのフレンズみたいなのであります!」

自分の仮説を三人に説くヘビクイワシ。

「おお、やっぱ先生もそう思う? このハナコは、あたしもヒトじゃないかと思つてたのよねえ」

カラカルが得意げに言う。

なんか以前にも同じようなことを言っていたが……パークにヒトがいないからどうこうつて。

……今、幻の人……とか言つたけど……「伝説上の人物」つて意味じゃなくて、伝説の「ヒト」という動物、つてことなのか?」

そ、そうか、そういう場所か、パークは……。

「人がいない」程度のレベルではなく……ヒトは超希少種ということか……。  
ジャパリパークはまさに「けもの王国」というわけだ……。

「ハナコ、もしあなたがヒトなら、『さばんなちほー』のフレンズみんなで、やることがあります……」

ヘビクイワシが迫ってきて言った。

「ハナコ、あなたを『さいばん』にかけるのであります!」

「え!!」

思わず変な声が出た。

ど、どういふ展開だこれ！

「おおうっ！ あの『さいばん』ごっこか！ 『しようせつ』（しようせつ）突然ですが、ここで問題です！ キリンが以前読んだ小説とは、いったい何でしょう？（10点問題）

ヒント：1. 終盤に裁判シーンがある、2. 動物がたくさん出てくる、3. ヒトの女の子が主人公、4. 有名な古典文学。（※答えは次のTIPで！）で読んだことがあるわ！ ハナコが『ひこく』ね……じゃあ私が『はんじ』になるわ！ みんなは『ばいしんいん』（ばいしんいん）陪審員。「陪審制」とは、民間人から無作為に選ばれる「陪審員」たちによって、有罪・無罪を判断する制度のこと。古く中世・近世からイギリス・アメリカで発展してきた制度で、近年では日本でも陪審員制度に影響を受けた「裁判員制度」が2009年から導入されている。（※ひとつ前のTIPのクイズの答え：キリンの読んだ本とは、陪審員というのもヒントで、ルイス・キャロル作『不思議の国のアリス』でした、正解者には10点追加）※おまけ：キリンの読書感想文『おーよなレヤ』（おーよ）がむつかしへてよくねか5なかつナこーど、と。おふつがナこくちんてきてた6レかつた1十ど、キリンソわて。ナよカたはど、おまれるかつたです○』（キ並感）『というのになつてね！』

おいこらキリン！ わくわくしてゆーな！ なんだその、運転手は君だ車掌は僕だ、

みたいな電車ごっこのノリは!

『さいばん』ごっこかあ……それはおもしろ! いい動物か、わるい動物か、みんなて話し合つて決める遊びよね。ハナコを『さいばん』しましょう! わるいフレンズなら、みんなで『しよけい』『しよけい』(人間の辞書) 処刑。一定のルールと方法に基づいて、対象者を死に至らしめる重い刑罰。死刑、極刑とも呼ばれる。石器時代より処刑された痕跡のある遺体が発見されることがあるため、もはや人類の文化である、と言えるかもしれない。現代のおもな処刑方法は、絞首刑・電気椅子・薬殺・毒ガス・銃殺など。ほかに磔刑<sup>たづけい</sup>、火刑、石打ち、斬首刑、ギロチン、凌遲刑<sup>りょうちけい</sup>などの解体刑、ゾウやライオンなどの動物を利用した刑罰……などの猟奇性・残虐性・娯楽性の強い刑罰が、かつては広く世界中に存在した。そう、歴史的に見れば、娯楽の少ない庶民にとって、公開処刑が刺激的な見世物であつた期間は長い。『しちやおう!』

助けてカラカルさん……と思つた私が間違ひでした。

「そ、そんな! ハナコさんを『しよけい』『しよけい』(フレンズの辞書) フレンズ用語。『博士が言つてたけど、わるい子は、さいばんのあとで、「しよけい」されるらしいよ?』『しよけい』ってなんだろう?』『わるいことしないように、きちんとお話するつてことでは?』『いや、わからん……』『うごっけいなら、会つたことある』『ぜんぜんわからん!』するだなんて……!」

アードウルフが慌てて言う。

ありがとう……私の味方はキミだけだよ……。

「かわいそうですから、私が優しく『しよけい』します!」

なんでやねん! 大人しそうな子のまさかのリンチ発言! どうして有罪前提で話すのか!

「では、ハナコには地面の下にある『ろうや』に入ってもらいましょう」

へびクイワシが宣言する。

……え、牢屋なんてあるの、ジャパリパーク……。

「よおし! 逃げちゃダメよ! ひぎしやかくほー!」

「ぎゃあ!」

おもむろに私の身体に、キリンがマフラーを巻き付けてくる。

セルリアンとの戦いで見せた、あの「マフラーさばき」が私の脳裏をよぎって、思わず背筋がぞつとしたが……今回のマフラーの扱いはたいへん優しいものだったので助かった。

私はマフラーで簀巻きにされて、フレنزたちに担がれて家の外へと運ばれていくのだった……。

「よいしょーこらしょー♪ ヒトを『ろうや』に運ぼう♪」  
 「ハナコを『さいばん』しよう♪」

拘束された私を運びながら、フレンズ達が陽気に歌う。

なんだか緊張感がないが、その無邪気さがまた不気味でもある。

ヒトであることが罪だとしても言うのか!

……いや、フレンズ達が元は動物だとしたら、あるいはそう考えても……。

彼女らフレンズ達のこととは善良で友好的な人々だと思ってきたのは……私の思い込みに過ぎなかったのでは……?

その「優しさ」は仲間に対して与えられるものであり、ヒトはその仲間ではないのかも……。

「でもって、わるいフレンズなら、さいごに『しよけい』しよう♪」

「よいフレンズでも、おまけについてに、『しよけい』しちやおう♪」

げえっ! 悪い予感しかない! どうやら法治国家の裁判じゃないぞ!

これは本当に「裁判ごっこ」だ!

「タツケテー! タツケテー! 無実だあつ!! 私は悪くねえっ!! 弁護士を呼べーっ

!!」

「犯人はみんなそう言うっ!」

頭の下からキリンがそう叫ぶのが聞こえたが、うーん、それは確かにその通りだな  
……。

で、でも……私を、いったいどこに運ぶつもりなのよ、みんなく!?!?

## 第7話　こちらジャパリパークさばんな公園前拘置所

夕刻、サバンナの風景の彩りは、緑から黄色へ……そして赤から黒へと変わりゆく不安な時間……。

まるでトリアージ〔トリアージ〕緑や青↓黄↓赤↓黒と変化するものは、大地や空の色彩だけではない。「トリアージ」あるいは「識別救急」と呼ばれる、緑・黄・赤・黒の4つの色を用いる医療システム——これは大事故や災害などでの、全ての者を救えない緊急時に、救命の緊急性を判断する一連のプロセス。もともとはフランス軍の野戦病院のシステムだったものらしい。医者や医薬品、病床が足りない緊急の状況下において、救急隊員などの一般の医療従事者によって、「助かる見込みのない者」や「軽傷者」と、救命可能な「重傷者」とを、色分けしたタグやバンド（日本だと4色）をつけて明確に見分けることが可能。START法（Simple Triage And Rapid Treatment）という最も客観的で簡略化された手順が一般的。……大草原の雄大な色彩の移り変わりから、ハナコはこんなことを連想していたが、それは自身やフレンズたちにこれから起こる大災害の不吉な予兆……なのかもしれない……。夕刻の色のよう、刻々と生から死へと移り変わる時間……。

いや、人間はそう感じるだろうが……時折、遠くからゾウやら鳥やらの鳴き声がして、サバンナの夜行性の生き物たちの時間はこれから……といった活発な空気が流れている。

キリンのマフラーによって体をぐるぐると巻かれた状態で、私は陽の落ちたサバンナの平原をどこかへ運ばれていく……。

縛られていると言つても、マフラーは優しく巻かれていて、形だけ拘束された状態に等しいが……キリンがその気になれば、いくらでもきつく締め上げることができないに違いない……。

先の戦闘での、キリンの馬鹿力つづりを思い出す……。彼女が本気になれば、きっと大怪我では済まないだろうな……。

そう思つて、私はあえてフレンズたちに抵抗することはなかった。

フレンズたちみんなが本気で私を捕まえようとすれば、おそらく容易に逃げることはできないだろうし……。それに仮に彼女たちから逃げ出せても、べつに他に行く当てがあるわけでもないのだ……。

だいいち、この乱暴な捕獲は誤解にすぎないのだ……。「ヒトを捕まえて裁判にかけよう」などと言つていたが……。

状況がいまいちよく分からないが……これまでの言動を振り返ると、彼女たちフレン

ズが人間を憎んでいるように、私にはとうてい思えない。

彼女らの価値観を理解し、きちんと話し合えば、その誤解を解くことができる、と私は信じている。

……いや、そんな「いわゆる性善説」「性善説」性善説とは「人間の本性は『善（＝いろいろな意味で強い存在）』であるが、努力しないでいると悪に染まってしまふ。だから不断的努力が必要」と説く、中国の戦国時代の「孟子」という儒学者の考えだ。現代では誤解されて……とは言い過ぎだが、孟子の考えとはズレた意味として使われている。もとは「人間には根つからの悪人はいないから、人類みな兄弟！」という脳ミソぱっぱらばくなお花畑の意味ではない（※本編のセリフではやや間違つた意味っぽく使われているが）。そして対義語は「人間は元来『弱い存在』である、だから善を目指して努力しなよ」とする「荀子」の性悪説だ。こつちもよく誤解されるが、「他人はとりあえず疑つてかかれ」の懐疑主義や、キリスト教の「原罪」などとは意味がかなり違う。「性強説」「性弱説」と言つたほうがわかりやすい。どちらの考えでも善い人間を目指すことを目標として教育や訓練や道徳を重要視している。つまり「人間の本质」うんぬんの話がメインではなく「教育によって善く生きるべき」という実用的な道徳論なのです。……とここで読者のアナタ、ヒトは「性善」か「性悪」か……どつちだと思えます？」を信じたいだけなのだろうか……？

彼女らフレンズはまちがいに善き存在【善き存在】この場合のハナコの考える「善い」「悪い」の意味は話せば分かりあえるかどうか——つまり正確な情報伝達や相互理解・共感など、知性の有無、コミュニケーション能力の有無が基準だ。その定義で考えると、明らかにコミュニケーション不能なパークの怪物「セルリアン」どもは、完全な「悪」の存在である。さらに、通常の生物の範疇から大きく逸脱した理解不能な生態も多く……たんなる猛獣などではない、おぞましい存在だ……と、ハナコが彼らのことを他のフレンズ以上にやたらと嫌っているのも、そういう理由がある。……だが、セルリアンにも色々な種類がいるらしく、中には人語を解し、そして話すことのできるセルリアンもいるそうだが……?と思うのだが……そんなのは私の希望的観測【希望的観測】客観的な証拠に基づかない「そうだったらいいなく」とか「そうだと信じたい」という過度に楽観的な予想のこと。いや、甘く見てたらイタい目にあつたよ、という文脈で使われることが多い。「自分が○○だ」といふから、実際に○○なのだ」という……こうして言葉にすれば、合理性もへつたくれもない論理なのだが……こういう状態に陥っている人は、意外にも結構いたりする。「希望的観測」をより分かりやすく言っているのは、教習所で習う「だろーう運転」という言葉だ——反対は「かもしれない運転」。私たちはふだん、自動車の運転以外でも「かもしれない」と考えて、日常的なトラブル回避を心がけていきたいところです。そしてこの危険なジャパリパークのフレンズた

ちにとつては……「希望的観測」とは真逆の、経験と知識そして想像力による「危機回避思考」は、生き残るために必須なのだ……!に過ぎないのか……?」

「フレンズ」は人間ではなく動物がヒトの姿形をしているに過ぎない……。

そしてフレンズたちが、人間がヒト以外の動物に対して接してきた歴史を知っているのなら……。

……こうしてひとりで考えていてもしようがない……。

しかし、フレンズたちに直接それを尋ねてみる勇氣もない……。

こうして混乱と不安の混ざった精神状態にあつて、私はどうどうめぐり「どうどうめぐり」同じことの繰り返しのこと。漢字だと「堂々巡り」と書く。もともとは僧侶が願懸けのためにお堂の周りを歩き回る行道ぎょうどうという儀式が由来らしい。また、子どもたちが手をつないで歌いながらグルグル回る同名の遊びもある。ちなみに夢野久作の長編探偵小説『ドグラ・マグラ』のタイトルも「堂々巡り」の意味が含まれているとかいないとか……。そういう余計な知識があると「どうどうめぐり」という言葉が、なんだか神妙で不気味な響きがしてくるから不思議なものだ。の思考を切り上げることにした。

代わりに、私を運ぶフレンズたちにこのように聞いてみた。

「あの……高い所から失礼しますが……私をどこに連れていって、どうするつもりなん

でしようか……?」

「うむ、まとめて答えてあげます!」

ヘビクイワシが頭の下で答えた。

「さつきもちよろつと言いましたが、『ヒト』のようなフレンズを見つけたら、このように捕まえて、そしてみんなで『さいばん』をすると……そういう決まりになっているのですよ! これは『博士のフレンズ』が決定した、大切な決まりなのであります!」  
「しかし『さいばん』するには『さいばんしよ』という場所が必要って聞いたけど……」  
「うくん……アタシ、『さいばんなちほー』でそんなものは見たことも聞いたこともないわねえ……」

カラカルとキリンがもつともな心配をしている。

「いいえ! さいばんをしようという心意気こそが大事であつて、場所はどこでもいいのですよ! 勉強しようという心構えが大切なのと一緒にありますつ!」

ヘビクイワシが今までで一番先生らしいセリフを言った。

……さて、そうこうするうち……私が連れていかれたのは、どこかの盛り上がった小高い丘の前であつた……。

首を傾けると、サバンナの大地に突如出現したかのような、大きな盛り土……。小さ

なプレハブ〔プレハブ〕建材から工事をせず、あらかじめ建物のパーツをつくって置いて現地で組み合わせてつくるというシステムチックな建築方法、もしくはその工法による建造物のこと。民家のプラモデル製作を1/1にしたようなものです。英語の prefabrication（事前製作）に由来する。もともとは18世紀、植民地にヨーロッパ風の建物を建てるために、あらかじめパーツごとに作ったものを船で運んでいったのが始まり。プレハブと聞くと、仮設住宅や小型物置の安っぽいイメージがあるが、一般住宅もプレハブ工法で建築されることがあり、現代日本の住宅は14%（7戸に1戸）くらいの割合でプレハブ住宅なんだそう。このプレハブ工法をさらに発展させたのが、組み立てすら不要の「ユニット工法」だ——プラモデル組み立てキットのようなプレハブ工法に対して、全塗装&組み立て済み完成品みたいなものですね。なお、この南海の孤島のジャパリパークの建造物にはもちろん、どちらの工法もおおいに導入されている。ぐらいの大きさがある。

その丘には横穴が開いていて、サバンナで見かけるツチブタ〔ツチブタ〕サバンナの巣穴掘り名人の「土建屋けもの」と言えば……やはり「ツチブタ」でしょう。サハラ以南のアフリカのサバンナや森林に広く生息するヘンなけもの。英名：Aardvark（土の豚）がカッコイイ！ その外見はブタにもウサギにもカンガルーのようにも見えるし、児童文学『ムーミン』シリーズに登場する「スニフ」にも似

ている。名前と違ってブタとは遠縁で、ゾウ・ジユゴン・ハイラックスの仲間の「アフリカ獣類」の一種だ。前足には長いツメがあり、これが掘削に非常に適している形状。一説には「コンクリ並みの硬さ」と言われるアリ塚でも、バリバリとすごいパワーで壊してしまう！　そして彼らの掘る巣穴は非常に住み心地が良いらしく……ツチブタの出でいった古い巣穴には、カラカル、アードウルフ、ハイエナ、ジャツカル、イボイノシシ、ヤマアラシ、コウモリなどの小く中型動物たちがよく間借りしているんだとか……。ツチブタはサバンナのけものたちがお世話になつている、まさに土の下の力持ちなのです。ちなみにエジプト神話の「戦争の神セト」のモデルはジャツカルが定説だが、ツチブタだとも言われている。の巣穴に似ているが……だんぜんもつと大きなもの……。

横穴の中にはなだらかな坂道スロープがあつて地下の暗闇へと続いている。明らかに人工的なものだ。

よく見るとその坂道は……砂土が積もつていて分かりにくいが、アスファルト【アスファルト】重油を精製する過程で、ガソリンや軽油などが取り除かれた残留物の黒っぽいモノ。まれに天然のものも自然界に存在していて、接着剤や防腐用塗料として有史以前から使用されている。高温だと溶けるが常温だと個体化して強い保持力を発揮する。その性質から、アスファルトは石灰や大量の砂利と混ぜて、道路を舗装するのに利用さ

れる。かつては代わりに発がん性のあるコールタール（こつちは石炭の副産物。石油由来のアスファルトとは似て非なるモノ）が舗装に使われていた。なおアスファルト舗装はコンクリートより柔らかく、そして水はけが良い。なのでこの「シエルター」の地中通路の舗装に使われているのだろう（サバンナには「雨季」があるのだ）。さらにコンクリとの違いとして、化学反応に弱いという欠点がある——田舎の道路の古いアスファルトが日焼けしてよくハゲているのはそのため。この地下シエルターのアスファルト舗装も、陽が当たらないとはいえ、長年放置されておりひび割れやめくれなどの劣化が激しい。メンテナンスには大規模な設備が必要なため、「フレンズのボス」こと、ラッキービーストにも修繕は不可能のようだ。で舗装されて、重量に耐えられるようなしつかりとした通路になっている……。

コンクリート【コンクリート】石や砂利を水とセメントで凝固させる工法で、「モルタル」も似たようなモノ。※なお「セメント」とは粉末接着剤の総称だが、一般的には石灰石や粘土などを混合した「ポルトランドセメント」のことをとくに指す。コンクリートは押しつぶしには強いが引っ張りには弱い建材なので、その欠点を補うために「鉄筋」を組み合わせることが多い。コンクリート工法の歴史は古く、古代ローマ時代から知られていたが、中世ヨーロッパ期にはすっかり忘れられており……産業革命期に人類に「再発見」されることとなる。……よく似たアスファルトとの違いとしては、補修いらず

の耐久力の高さだ。それでも現代コンクリートは強度が経年劣化するため数十年〜百年程度の寿命だが、古代ローマン・コンクリートは数千年はそのまま……どころか逆に、年月が経つにつれて化学反応が進んで強度が増していくと言われている！ 古代ローマの円形闘技場や大浴場が現存するのはこのためなのだ。このローマン・コンクリートの製造方法は、現代では完全に失われてしまっているのだが……ジャパリパークの建造物がどれもこれもやたらと日持ちが良いのは、もしかして再発見された古代コンクリート製法を使っているからなのだろうか……？ 製の無機質なアーチ天井には、LED照明〔LED照明〕発光ダイオード (Light Emitting Diode) を光源とする照明のこと。エジソンの発明いらい、長らく照明器具としては白熱電球や蛍光灯が使われてきたが、これらはムダな熱エネルギーを放出するために消費電力がかさんでしまうのが欠点……。だが！ トランジスタやICと同じく、半導体の一種であるLED照明は、白熱電球の消費電力の1割、蛍光灯の3割という超省エネ照明なのだ！

家庭用の照明を蛍光灯↓LEDに代えると、年間の電気代が平均して2万円程度も安くなるか……。そしてLEDの寿命はなんと4万時間と、電球の数十倍・蛍光灯の数倍の寿命なのだ！ LED自体は電気回路の部品として1950年代から使われていた(最初に発明されたのは赤色)。しかし、十分な光量を出せる白色照明として使われ始めたのは、2014年になって「青色LEDの発明」という技術革新があつてからのこ

とだ——赤・青・緑のダイオードを組み合わせて白色にするか、青色LEDに黄色の発光体を組み合わせて疑似的に白色にするか、のふたつの方法がある（後者の方が一般的）。しかしLEDにもライバルがいて、その名は「有機EL（エレクトロルミネッセンス）照明」（有機発光ダイオード）——以前のTIPでご紹介した「ホテルの光」の化学反応を電氣的に再現した照明だ。LEDが光の「点」の放射なのをたいして、有機ELは光の「面」——均一に放射され、自然光に近い発光になるので目に優しく、ディスプレイなどに向いている。さらにバックライトも要らないので紙のように超薄型にして曲面に貼ったり持ち運んだりできる。だが寿命が液晶の半分しかないという大きな欠点があつて目下改良中だそうだ……。が定間隔で設置されて、白い光がただようホコリを映し出している。

これは先の日本家屋と同様、屋外の光量変化による自動点灯式だろうか？

横穴を進んでいくと、錆びついた金属製の両開きの大きな扉がある。開け放たれた状態で杭と鎖で固定されて、そのまま長い間放置されているようだが……。

なんなんだ、この建造物は!?

まさかヒトのオリ【ヒトのオリ】動物園好きの読者の方はご存じかもしれませんが、いろんな動物園に「ヒトのオリ」があります。オリの解説プレートには『ヒトは知能が高

く平和を好み、お互いをよく愛する生態が特徴の社会性動物です。想像力と創意工夫に富み、あらゆる問題を協力して解決する能力を持っています。イヌやネコのように様々なヒトが存在し、人種・国籍・民族・文化などで分類できますが、全ての個体は平等でありお互いの個性を尊重しあつて生活しています。地球環境と野生動物の保全に努める「地球上でもっとも賢く優しい生き物」です』などと説明文が書いてあつたりしますが……このように記述される動物が「本当のヒト」ならば、人類の大部分はまだ動物園のオリに入る資格がないのかも……？……なのか？ この牢獄【牢獄】日常生活をこのように感じている人も多いかもれない。それにしても、最近の動物園では飼育環境を野生の生息地に近いものにしていくし、定期的にエサはもらえるし、ケガや病気は治してもらえるし……。実は現代人のほうこそ、学校や会社といった資本主義の「鉄の檻」に閉じ込められているのかも……などと言つたのは、ドイツの社会学者マックス・ウェーバーという人。しかしこの「檻」とは原語のドイツ語では、たんに「閉じ込めるもの」というよりも、その中から出れば死んでしまうような、中身を保護する殻や甲羅のようなもの、といったような意味合いの言葉らしい。ウェーバーは人間社会をそう呼んだが……動物園のオリも、そしてフレンズたちやセルリアンが依存する「サンドスター」も奇しくもそのように、束縛と保護との二面性のある複雑な存在である。の穴蔵は……!!?

「ハハ、ハハは一体……？」

「ヒトがつくった洞窟ですよ。『あすふあると』とか『こんくり』とかいう、ヒトがつくった石〔ヒトがつくった石〕アスファルトやコンクリートのことを、フレンズたちはこう呼んでいる。どちらも天然にはほぼ存在しない素材なので、とても的を射ている解釈だ。がたくさんあるでしょ〜?」

へビクイワシが私の疑問に答えた。

……でも「どういう施設なのか」を聞きたかったのだが……。

フレンズは私を担いで坂道を下っていく。

LEDの人工的な無機質な照明が、仰向けになつて運ばれていく私の目に、眩しい光を断続的に浴びせる。まるで自分が、拘束の必要のある患者で……ストレッチャー〔ストレッチャー〕英語で担架のこと。とくに今の場合は、病院用の車輪付き担架のことを彼女は思い浮かべている。白い照明と無機質な廊下が、病院内を連想させるせいだろう。さらに「要拘束の患者」ということは……映画『ジェイコブス・ラダー』みたいな、海外のホラー映画で見かけるような精神病院アサイラムのイメージだろうか?で搬送されているような気分だ……。

さきほどはケガ人を運んだ自分だが、こうして運ばれるハメになるとは……。

通路をさらに進んでいく、コンクリ打ちっばなしの大きな部屋に出た。頑丈そうな鉄

格子で隔離されたスペースは、エメラルドグリーンエメラルドグリーンの鮮やかな色のリノリウム〔リノリウム〕亜麻仁油を主原料に、コルクなどの植物繊維や松脂ロジン、石灰石などを混合し、麻布ジュートにはりつけた建材。おもに床材として使用され、学校や病院などの公共施設でよく見られる。製造に時間がかかり、塩基性薬品アルカリに弱いなどの短所があつて、一時期ビニール系化学素材の床材に押されて見かけなくなつていたが……リノリウムはビニールと異なり天然素材であり、植物由来の抗菌性・抗ウイルス性・脱臭など、さまざまな衛生効果が近年注目されてきている。そして有害化学物質やアレルギー成分が発生せず、人体有害性がとても低い点も大きなメリットだ。原料は油と木と樹脂なので、燃やせば自然に還るのも長所（でも発火点じたいは低いので火事になりにくい）。他にも……耐久性が高い、復元性があり家具の跡が残りにくい、防音性がある、静電気が起こりにくい、ホコリが溜まりにくい……etc.。ちなみにリノリウムが発明されたのは1860年代なので、現代的なようで意外と古い素材。発明されてすぐの幕末〜明治に日本にも入つてきていて、戦時中には軍用としてガッツリ使われている。敷きの床になつていて、カベには強固な鉄製の折り畳み式の寝台……。そばには小さな洗面台が設置されていて、奥にある個室は……トイレか浴室だろうか？

折り畳みベッドには、毛布が畳んで置かれている。

「毛布はシマ模様の刑務所柄〔刑務所柄ガラ〕彼女のこの発言、いったい何のことかというと

……日本の刑務所の布団の「特徴的なストライプ模様」のこと。昔はオレンジとグリーン  
の縦シマで、受刑者には「おにぎり〇んべい」柄とか、「永〇園」のお茶漬の柄とか  
呼ばれていたとかいらないとか……。なお今はピンクのツートンカラーのシマ模様が多  
いらしい。……どーゆーわけか、全国どの刑務所でも寝具はシマ模様。理由は不明だ  
が、ひとつの業者が一括で製造して納入しているとか、たんに刑務所の非日常的な雰囲気  
づくりのためなのだろうか……。？ 無国籍なジャパリパークのところどころで、あえ  
て「妙に和風なこだわり」を見せるのは、ジャパリパークが日本である証拠かもしれないな  
い。ちなみに常夏の熱帯地方のため薄手の毛布しかないが、寝る時はこれ一枚で十分な  
ほどむし暑い。……それにしても、ちようちよくそういう言動が見られるが、なぜハナ  
コはこういった一般的ではない知識を持っているのだろうか？ 彼女の「素になった人  
間」とは、いかなる人物だったのか……。？ だな……」

「え？ なに？ ……そのシマ模様って珍しいの？」

「そうかなあ？ 動物の毛皮じゃ、よく見かけますけど……。わたしもシマ模様ですし  
」

カラカルとアードウルフが不思議そうにしている。

「よし到着ウ〜！ ここまで待っててちようだいね！」

キリンはマフラーの拘束をするりと解かくと、私はベッドの上にスツと優しく下ろされて……その繊細な動作に驚いた……。

キリンのマフラーは（彼女の思考と同じくらいに）自由自在で予測不能な動きをするのだ。

「じゃ、あたしたちは『さいばん』の準備をしましょう！　面白くなってきたわねー」  
『さいばんちよ』にはかつら「かつら」「なぜカツラの話を……??」と思うかもしれないせんが……実際、英国やその植民地だった国の裁判官や弁護士は今でも、法廷でウィツグをかぶる伝統があります。国によつては強制着用。※昔の作曲家が音楽室の肖像画でかぶっているようなクルックルの髪の毛のヤツ……あれでも、弁護士などのつける短い簡略カツラで、裁判官のカツラはスフィックスのタテガミのごとく、もつととてつもなく長あゝいモノです。もともとは昔のヨーロッパで、ノミ・シラミを防ぐ目的でみんな髪を剃っていた時代に、代わりにカツラをかぶったのが始まりなんだとか……。しかしこれ、たいへん時代錯誤だし、見た目もすぐアホっぽいうえに……カツラそのものも伝統的な製法によつて馬の毛で作られ、1コ数十万円もするような超ぜいたくなシロモノなのだ！　かかる予算がヤバイよ！　しかも古くて黄ばんだ無駄に高価なモノが良いとされ、真っ白な新品や安物をかぶつてると新米だとバカにされるんだとか……。ひじよくにバカバカしい（馬の毛だけに）伝統に思えるが、この21世紀でもイギリス

や、ジンバブエやガーナなど元英国植民地の一部のアフリカ諸国で、この暑苦しい制度がまだ残っている。でもやっぱり批判が多くて最近は廃止になりつつあるらしい。が必要よね！ 見たことある！ 私は詳しい【私は詳しい】うくん、こういうことを言いたがる子ほど、ホントは詳しくないのよねえ……（byカラカル）のよ！」

「裁判には『しようにん』が必要でありましょう！」

『『しようにん』（『しようにん』）一見意味不明な会話……。ヘビクイワシが言っているのは「証人」で、カラカルのは「商人」。もちろん本来はアクセントが違う。前回の「本に關するTIP」でもチラつと書かれているが、ジャパリパークには「ものはこび」が好きな「行商フレンズ」がいて、各ちほーを巡って物々交換の商売をしているのだ。おもに山岳部を渡り歩くヤクのフレンズや、「地獄の商人」を意味する（と、たまに誤解されているが実は英語のつづりが違う）両生類のヘルベンダーのフレンズなど。この「さばんなちほー」にはロバの行商人がいる。彼女は自分のお店を持っていて、なぜか言葉のなまりがすごく強いという……すごく個人的なフレンズだ。似たようなフレンズとして、郵便配達が好きで「軍用デンシヨバト」の子がいる。彼女はココから遠く離れた島の反対側にある「しんりんちほー」で、「博士のフレンズ」の直属の助手をしていて、数日前に「噴火後にヒトを見つけたら丁重に捕まえて調査しろ」という指令のお手紙をさばんなちほーに届けたのも、このデンシヨバトのフレンズだ。』ってロバの子のこと？」

へビクイワシとカラカルが意味の分からない問答をしている。

「それに『ばいしんいん』や『ぼうちようせき』も必要ね！ ヨシ、準備だ！」

「じゃ、アタシは『さいばん』が始まるまで寝てようかな……」

「ダメよ！ カラカルも手伝いなさい！」

「しようがにやいにや〜」

「それでは、わたくしは、さばんちほくのフレンズを集めてきますね〜」

キリンとカラカルが法廷の設営を行い、へビクイワシが必要な人員を収集するらしい。

三人は「またね〜」と言って、外へ出て行ってしまった……。

やっぱり、何をするにも緊張感が無い人たちだなあ……。

「あの〜、わたしは『みはり』ですよ」と、背後からのんきな声がする。

ひとり残ったアードウルフだ。

「さいばんが始まるまでハナコさんを見張るので、よろしくお願いしますね〜」

「あ、これはご丁寧にどうも……」

むこうが正座して言ったので、こちらも同じく正座して答えた。

「穴の中は安全で、落ち着きますね……今日は疲れたし、きゅうけいしましょう」

「そうですね」

もう夜も更ける。フレンズたちの「裁判」は明日かになるのか……。

あるいは、もっと準備に時間がかかるのだろうか……。

アードウルフは毛布の一枚を寝台の下にギュツと押し込んで「寝床」を作り、そこに潜り込むと、ぽんぽんと手で合図した。

「せまい所で一緒に寝ればあったかいですよ。さばんなちほーの夜は冷えますからね」

「え、イヤ、その……」

「……一緒に寝るの、いやですか？」

「そ、そうではなくて……。むしろ大歓迎というか……。いやまあ……。そうしましょう……」

私は誘われるがまま、ベッドの下のアードウルフのそばに体を横にして突っ込んだ。

床は固く冷たく、ベッドや毛布はホコリっぽくて、また照明は寝るには明るすぎたが……しかし、外敵に襲われる心配の無い寝場所というだけで、至上の贅沢であった。

さて、私はこれからどうするべきかな……？

それにしてもこの状況は……一時的にこの拘置所【拘置所】警察の管轄の「留置場」(各都道府県にある)に対して……似たような言葉の「拘置所」は、法務省が管轄する全国

に8ヶ所のみ施設だ。なお「拘置支所」なら国内に111ヶ所ある。……刑事裁判の被告人である未決囚や、実刑が確定した既決囚、そして死刑囚が入るのも「拘置所」のほうだ。※しかし現状、拘置所は満員であることが多くて、他の諸々の理由もあつて……全国に1, 100ヶ所以上ある「留置場」のほうに、未決囚は拘留されることもあるんだとか……。まあでも、どちらも良い子の読者の皆さんには縁がなさそうな場所だよつ、たぶん！ ……それにしても、ここの「じゃぱりば区さばん公園前拘置所」は（現代日本の拘置所とは真逆で）すつからかんの貸し切り状態なのである。のような場所に確保された、と考えていいのだろうか？ 牢屋の扉すら閉めずに……見張りひとりだけ残して、ほかのフレンズたちは出て行ってしまったが……。

『裁判で死刑にする』……なんて、はやし立てていたが……フレンズたちが何を考えているのかは、さつぱり分からない。

彼女らが本気で危害を加えるつもりなら、私はとつとくにあの世に行つてるところだろうし……。

それに……私を助けてくれたカラカル、ちよつと頭脳がアホだが人が良さそうなキリン、今そばにいる優しそうなアードウルフ……そして他のフレンズたちも……悪い人たちにはとても思えない……。

しかし、この「牢獄」は……ずいぶん妙な点が多い。

まず、天井までの空間が6、7mくらい——二階建てほどの高さがある。こんなに天井を広く取っているのは何故だ？

それに、この鉄棒で仕切られたスペースは十畳ほどだろうか……。鉄格子から横をのぞいてみると、この監獄には、同様の独房がいくつか並べられているようだ……。

寝台が一部屋にひとつしかなく、ここは独房だと思われるが……。

それにしてはひとつひとつの独房の敷地が広すぎではないだろうか……？

さらに鉄格子の嚴重さに対して、その引き戸を施錠できない点は奇妙である。扉の固定用の門かんぬきがあるだけで、しかもそれは内側からでも開けられる構造だ。

そもそも、この施設は何の目的で作られたのか……？ 外の環境から隔てられた地中

……大きな空間……頑丈なつくりの鉄格子……？ まるで人間と動物、どちらでも入れられるように……？

「ぐうぐう……ぐうぐう……」

……牢獄アドウルフの看守が、隣でかわいい寝息を立てている。

キミねえ、さつき、自分は夜行性とか言っていないかった……？

……昼間に散々な目に会ったから、疲れてしまったんだろうか。

唯一の見張り番はこの調子、扉は開けっ放し……。

この不用心さは……ワナか？ 外の出入り口に監視役を置いて……いや、そんなことも無いような気がするが……。

きつと、本気で私を拘束する気が無いのだろう……。

いや、あるいは……まさか、これで本気なのか？

ぎゅう……。

……いや、直前の発言を訂正せねばなるまい。

今の私は……厳重な拘束を受けている！

添い寝する生ける枷が、両腕で私を掴んで離さない！

それは、私が寢床から離れようとすると、ますますその拘束を強めるのだ……。

それは鉄球つきの手かせ足かせよりも重厚で……も堅固に私の四肢を束縛し、体の動

きを封じ、病院の拘束服ストレイトジャケット以上に私の精神をきつく縛り上げる……。

ペロペロ……。

ああああああんもうアードウルフかわいい「かわいい」ヒト含めた動物の子供の大きな頭や短い手足などの「赤ちゃんらしき」をいとおしむ気持ちは、じつは科学的に説明できる。動物学者コンラート・ローレンツが唱えた「ベビースキーマ」説だ。「弱い生

き物」である赤ちゃんは、母親の愛情を受けられるように、そして血のつながってない大人の保護も受けられるようにかわいく進化してきたという仮説。さらに近年の調査によると、ヒトの赤ちゃんに感じる「かわいさ」のピークは、知能やコミュニケーション能力が発達してくる1歳前後であるようで……これは我々の母性的な保護欲のみならず、「相手と仲良くしたい」「相手を知りたい」「もっとコミュニケーションしたい」という人間の知的欲求や好奇心が関係しているのでは？と言われてる。さらにイヌ・ネコなど家畜が、野生種より「かわいい」のも同様に、人間とのコミュニケーションを円滑にするため発達させてきたのだろう……。その例として、ロシアの遺伝学者ドミトリ・ペリヤーエフの実験では、野生のキツネの温厚な個体を交配して家畜化していくと、キツネたちが数十年のうちにイヌっぽい「かわいい」顔と仕草へと変わっていった（※遺伝子の変化ではなく、ストレスが少ないことによる幼形成熟<sup>ネオテニー</sup>らしい？）……という実験結果が出ている。そして一般的に女性が男性よりも「かわいい」ものが好きなのも、女性のほうが人間関係を重視するから……と、生物学的に説明することができる。つまり「仲間意識」と「相互理解」を最も大切とするフレンズたちが「かわいい女の子」であることは、決して偶然ではないのだッ!! 我々の現実世界においても kawaii は、21世紀で最も広まった日本語由来の英単語だと言われている! 類似語“cute”の持つ「未熟さ」などのネガティブなニュアンスを除いた言葉が“kawaii”

”なのだ！　かわいいは世界言語だ！　KAWAII IS JUSTICE!!　いい!!

めっちゃギュってして手とかペロペロ舐められて!!

もう辛抱たまらん!!

尻尾も耳もたてがみもふさふさしててあつたかくて!!!

柔らかくてスレンダーだけど意外とポリュミーな部分も!!

あとすごいいいにおいするから頭おかしくなるううう!!

ハッ……!!

し、失礼……。

このように私は少々思考を乱され、動きを完全に封じられたわけだ!

決して女の子に抱きつかれて興奮して動けなかったワケではないぞッ!

フレンズ特有の「不思議な力」のなせるわざなのだ!

ペろペろ……。

……ダメだ……アードウルフは強い!【強い!】直前のTIPで説明したとおり「かわいさ」とは、生物的な「強さ」の指標のひとつに他ならない。子猫を飼ったゴリラのココなど、異種の赤ちゃんを育てる動物がまれにいるなど、「かわいさ」への愛着は多く

の動物に見られるが……中でもとくにヒトが「かわいさ」を重要視するのは、ヒトは「成長にとても手がかかる動物」であるからだ。卵から勝手に孵化して勝手に育っていく魚や爬虫類や、生まれてすぐ走れるサバンのけものたちとは異なり……ヒトの赤ちゃんは生まれる時も苦労するし、それに独りでは全く生きていけない。そして周りから教育されることによつて、はじめて人間社会でひとり立ちしていく動物なのである。「かわいさ」は、周りから世話を受けて成育し、社会性を身につけるための生態なのである。社会性動物であるヒトは、「かわいさ」の発揮や受容を進化の過程で大いに発達させてきた。そしてヒトの習性を受け継ぐフレンズたちも同様……。とくに自称ヒトのフレンズ？のハナコが、このようにカワイコちゃんフレンズにめっぽう弱いのは、そういう科学的な理由がある。余談だが、このアードウルフのフレンズはその「かわいさ」によつて、バリバリライオンやブチハイエナといったコワモテのフレンズにたいそう保護されているんだとか……。そういうのも「強さ」に含めると……実はナチュラルけものつたらしのアードウルフこそ、バリバリさばんな最強No.1なのではく??

……もし同じ立場であつたら、あなたはこの束縛を振り切ることができるか!?

こうして動けないうちに、私にも睡魔が襲つてきた。

快適とは程遠いベッド、「監視役」による拘束、明日に控えるのは「人間裁判」……呑

気に寝ている場合ではない……ハズなのだが……ミヨーな緊張感の無さと、今日一日の出来事と疲労が、私の精神に重くのしかかる……。

にわかには信じられないが、私がジャパリパークに生まれてから、まだ一日……この一日で多くの出来事が起こりすぎたし、新しい情報がとめどなく提示され、怒涛のごとく私の記憶に流入してくる……。

ジャパリパーク……サンドスター……セルリアン……フレンズ……。

動物、けもの、アニマル……カラカル、キリン、アードウルフ……。

私は何の動物なのか？ 人間か……？ ヒト……？ 人間とヒトの違いは……？ ヒトとヒトのフレンズの違いはなんなんだ……？

さきほどまでの興奮（なぜ同性同士なのに興奮する？）が冷めることなく……母性的な温かさへと性質が変わっていくと、その心地よさで思考が微睡み、意識が溶解していく……。

「おらあッ！ ハナコひこく！ 起きなさいっ！ さいばんの時間よおっ！」

いきなりキリンの大声がして、鉄の格子戸が激しい金属音を立てた！

「わああっ!?!」

がんっ。

「ぎゃッ!! 痛エツ!!」

びっくりして跳び起きた拍子に、私は後頭部を寝台の底にしたたかにぶつけて、こちらも物凄い金属音が頭蓋骨に響いた……。

目の前が白黒に点滅する。

何百もの白い光の点がぴかぴかと光ったかと思うと次々に消えていく。

「あーら、乱暴ねえ。ハナコ、だいじよぶ?」

カラカルの声だ。

「痛<sup>いだ</sup>ただ……いやに明るいけど、もう朝……?」

「まだ夜よ」

「じかんさトリック」「じかんさトリック」時間差トリック。江戸川乱歩のミステリー評論集『続・幻影城』収録の『類別トリック集成』によると、探偵小説871例のうち「犯行の時間に関するトリック」は39例のみとなっている。オーソドックスなトリックの印象があるが、当時の推理小説の5%未満しかなくて思ったよりも少ない……。しかし、どーにかして他人の時間感覚を錯覚させるなんて、移動手段や通信手段、記録メディアやVRの発達した現代のほうがやり易い……? いや、むしろケータイで他人に連絡

できれば個人の錯覚などすぐバレしてしまうし、逆にそういうトリックの実行は難しいのかも?！」

「じゃあ、きらきら光るこれは……星の光……?！」

「星なんて無いわよ」

「目のさっかくによるトリックっ！ おくないをおくがいに見せかけているに過ぎない！」

「……どうやら夢ではない……。」

その冷静で的確なツツコミと支離滅裂な推理は、まさにカラカルとキリンである。

「あはは、今の飛び跳ね方！ 面白かったあ！」

「じよ、冗談じゃない……。目ん玉が飛び出るかと思った……。」

「さあ、ひこく！ 外に出ましよう！ 本物のすごい星空が見えるんだから！」

「……星なら今さつき一生分見たよ……。」

牢屋の鉄格子を見ると、鉄棒の一本が、強い力によりひん曲がっているではないか！

ええ……!? あ、あの丈夫そうな鋼鉄の格子を……!?

「ど、どんな風にしたら、こんなコトができるんですかあ……?！」

「ちよっとけつたらこわれた」

あんのじようキリン、あんたの馬鹿力の仕業か。

なんちゆうとんでもないパワー……。

「そりや『壊した』と言うんです！」

「ま、まあ、そういう論理もあるわね……では私の『推理力』で、直すことにしましょう……ふんぬウっ！」

キリンがひしゃげた鉄格子を力づくで引つ張ると……不格好な見た目ながら、元の真つ直ぐな形に近いものへと戻っていった！

た、たしかにそりや火かき棒を曲げる「火かき棒を曲げる」かのシャーロック・ホームズの原作「まだらの紐」にも、曲がった火かき棒を怪力でもとに戻したという名場面がある。英国グラナダTV版など、さまざまなメディアで映像化されていて有名なエピソードだが、舞台版ホームズでは「アメのように曲がる金属っぽい質感の素材がない」ために省かれている。いわゆる後世の名探偵らしからぬ、こういう武闘派などところもホームズの魅力のひとつ。でもキリン、そういうところだけ正確に名探偵リスペクトしないでいいから……もつと脳細胞の使い方の方のほうをね……。胸と筋肉へ行く栄養分が、少しでもいいから脳ミソに行ってくればねえ……。みたいで、名探偵っぽいが！

「だが今夜の私は探偵じゃない、さいばんかんだ！ ひこくはすみやかに、ほうていにしゅつとうしなさい！」

キリンが私をひつつかまえて、独房の外へと連れ出す。

裁判官が被告を背負っていくのか……。

「みんみいー！ よいしょつとおつ！ 私も運んで〜！」

カラカルさん、何故さらにあなたが私に乗るのか？

異人さんに連れられて〜【異人さんに連れられて〜】童謡『赤い靴』（作詞：野口雨情 作曲：本居長世）より。この童謡は実話をもとにしているというのが長らく定説だったが、実はそうでなかったという説も。……こんな歌が自然と出てくるのは、フレンズが「動物の変化した存在」であるとハナコが完全に実感できていない証拠だろう。……。

ドナドナド〜ナド〜ナド〜【ドナドナド〜ナド〜ナド〜】子牛が市場へ売られていくというものの悲しげな歌、イディツシユ語（中東欧ユダヤ人の言葉）の童謡『ドナドナ』よ。ナチスドイツのホロコーストのことを暗喩している、と俗説で言われたりするが、原曲の発表が1938年、ホロコーストが開始されたとするのが1942年なのでおそらく違うのだろう。歌詞もメロデーもインパクトが大きく、邦楽でもたびたびカバーされている。……。

まだ寝ぼけてるだろうのか、あるいは頭を打ったせいか……童謡の陰鬱な歌詞と旋律が頭の中で絶えず流れ続ける……。

フレンズたちに連れられて、地下監房から外へ出た途端、冷たく乾燥した空気が肌を刺してくる。

乾燥したサバンナは昼夜の寒暖差が激しい……。

「う〜ん……肌寒いけど……久しぶりのシャバの空気はうまい！」

そして頭上には……見渡すかぎり一面の満天の星空。どこまでもどこまでも地平線まで広がっている。

街灯やビルの明かりなどの余計な光の無い夜の闇の世界。

「ここでちよつと休憩！」と、しばらく歩いて、途中で一休み。

休憩中、キリンとカラカルがこんな会話をしている。

「わあ……今日は噴火のあとで……星がきれいね〜……」

「動物だった頃は、夜空がきれいだったか、考えたこともなかったわね……」

「一日の終わりに、こんなきれいなものが拝めるなんて……」

私も感嘆の言葉を口にする。

「ふふふ、そうは言うけど、私たちネコのフレンズは陽が落ちてから一日が始まるのよ」

「ところで星つてのは……私が推理するに、暗い天井から光が漏れてるんだと思うなあ」

……」

「え？　じゃあ空には天井があるの？　それって洞窟みたいね……」

「その外は、ずっと明るいのかしら……？」

「うーん、私は暗いほうが落ち着くけどな」

キリンの推理……というよりは空想。

夜空の天蓋ドームに空いた穴から光が漏れるのが「星」なのだと、彼女は想像している。

キリンは星「星」偶然にも？キリンの想像と似ているが……「星とは天井天井に空いた穴穴（筒）から漏れている外の世界の光」という概念が昔の日本人にあったらしい。その証拠として「オリオン座」の三ツ星の神「住吉三神」という星の神サマには、それぞれ前に筒がついているのだ。それに星は古語でズバリ「ツツ」と言い、万葉集や枕草子では「宵の明星」をあらわす夕星ゆうつという言葉がある。……ちなみに日本の神話はギリシャ神話などと違い、ほとんど星座に関するエピソードが無いとされているが……星神の住吉三神のほかにも、太陽神アマテラス、月神ツクヨミ、そして何らかの天体現象（彗星や日蝕？）の象徴のスサノオなど、天体を司る神は少数ながら存在する。にロマンを探したが……私のほうはパークの位置を探すとしよう。

昼間の太陽の動きからすると、ジャパリパークが北半球にあるということは疑いない

……。この夜空の星座も、日本人に馴染み深いものが見られる。

今が何月かで何時なのかは分からないが、あればとても目立つはずのオリオン座は見えないな……。

そこで北の空に北斗七星、カシオペア座を見つけて、そこからたどって北極星【北極星】北の空の真ん中にあつて、真北の位置からほとんど動かない星、それが北極星だ。太古の昔から夜間の航海の目印とされたり、エジプトではピラミッドを建てるための方角の計測に使われてきた。この夜の頼れるうゝ北極星は、北斗七星と一緒に神格化されていて、中国の道教では「天帝」、仏教では「妙見菩薩」として信仰されている。……でも地球の自転軸は2万6千年ぐらゐの周期のブレ（歳差運動）があるために、じつは北極星はちよつとずつ動いているのだ。現在の北極星はこぐま座の $\alpha$ 星、明るさ2等星の「ポラリス」だが、数千年前のピラミッド建設時には、別の星（りゅう座 $\alpha$ 星「トウバン」）が北極星だった。ココでの記述のとおり、北の空に目立つおぐま座の「北斗七星」（ひしやく型。春夏によく見える）と「カシオペア座」（Wの形。秋冬によく見える）から、北極星の位置をカンタンに探し出せる方法がある。北斗七星は小北斗（こぐま座）と見間違えることがあるので、両方使うと正確に観測できる。しかし、赤道地帯や南半球では北極星が見えないので、「オリオン座」のほうが方角を知るのに役に立つ——オリオンのベルトから下がった「剣」が垂直になったときがオリオン座が「南中」した合図だ。を

見つける。

さらに服の端のほつれた糸をひとさし指に縛り、拾った小石を吊るす。腕を伸ばし指で北極星を指して、およその北極星の高度、つまり現在地の緯度を計測【現在地の緯度を計測】北極星がよく見える場所（北緯10°以北）であれば可能な緯度の測定方法。分度器や定規があればもつと正確に目測できる。錘おもりで垂直に下がった糸と、ひとさし指との作る鋭角を測り、90°からそれを引き算すれば、北極星の高度である。※腕と糸と水平線とのつくる直角三角形を考えればよい。で、この北極星の高度イコールその場所の緯度だ。なんでそーなるのかと言うと、平行線における同位角や錯角の計算なのですが……参考資料のウェブサイトが分かりやすいのでそつちを読んだり、あとは適当に検索して下さい（丸投げ）できる。

「それはなんの遊び？」と尋ねるカラカル。

「違いますよ。緯度……というのを見つけようとしているんです」

「井戸お……？ そりゃゾウの子に頼めばいいんじゃない？」

「むむ！ それはシマウマの子が水を探す『だうじんぐ』とかいうワザでは？」

キリンも面白がって尋ねてくる。

「ち、違うってば……」

……さて、観測結果は、北緯30°。【北緯30°】日本だとの辺かと言うと、鹿兒

島県や四国より南、沖縄や小笠原諸島より北の緯度にあたる。くわしくは、お手元の日本地図や地球儀を参照してください。国内でちょうど北緯30度線が通っているのは、南西諸島の「トカラ列島」のいちばん北の島「口之島」だ。ジャパリパークのある中ノ島島（別名ガンジス島）は、そこからずくずくと東に行つて、東経154°のあたり、日本最東端の南海にポツンとある火山群島のひとつだ。……。これは先ほどの民家で読んだ新聞記事や、ヘビクイワシに見せられた記事の「ジャパリパークの緯度」と一致する数字だ。

ほかに気になる星座といえば……なんと！ 南の空の地上付近にあの「南十字星」サザンクロス「南十字星」日本からはほとんど見えない「みなみじゅうじ座」は、天文学好きの人にとってはアコガレの星座。でも、いちばん上の星は北緯33°より南の場所から、いちばん下の星は北緯27°から、国内でも見ることができ。なので、鹿児島や四国南端からは十字架の先つちよぐらいしか見えないが、沖縄や小笠原諸島ならよく観測できる。とくに日本最南端の有人島「波照間島」が観察の名所として有名。ココ、ジャパリパークは北緯約30°なので、ちょうど十字架が地平線に刺さったカタチの、印象的な星座として観察できる。しかしその「十字の形」に意味を見出すのはヒトぐらいで、フレンズはそんなことサツパリ気にしていないのだが。」が見えるではないか！

しかし、その十字の星座は……サバンナの地平線すれすれに、まるで墓場の十字架の

ように地表に刺さっている……。

なんだか、不吉な予感がする……。

切に祈るのは、あの南の大地に突き刺さった十字が死の墓標にならないことを……。願わくば、法廷での勝利の女神の十字の加護にならんことを……。

休憩後、フレンズたちに連れられてきた場所、そこにはとても大きな看板が立っていて、照明でライトアップされた砂地の広場……。

サバンナの動物のフレンズたちが……20人ぐらい集まってきている……！  
中には私の見覚えのある顔も……。

「せいしゆくにい〜ッ！ さあ、ひこくにんのおなーりいー！ さいばんをはじめるわよー！」

……とうとう「人間裁判」の開廷か……。

い、いつたいこれから……私はどうなるんだ……??

(どきどき)

## 第8話 治外法権すぎるけものたち [♀]

獣たちが変身した人間「フレンズ」によって……ヒトが変身した「ヒトのような私」が、これから裁判にかけられる……。

動物たちだけが住む、この不思議な不思議な島「ジャパリパーク」はまさにメルヘンおとぎばなし「メルヘン」かわいらしいメルヘンチックの意味ではない。M・r・c・h・e・nメルヘンとは、もとはドイツ語の文学用語で、神話や伝説に由来しない非日常的な短い昔話・民話のことを指す。固有名詞が登場しない、背景描写や心理表現が淡泊、時代や場所が不特定、もとは口承なので細部の違いが多い……といった特徴がある。なお児童文学とは意味が違い、そもそも近代的な「子供」という概念が成立する以前から存在する文学形式だ。おとぎ話では魔法使いや妖精が登場したり、動物が喋ったりするけれど、オリジナルのメルヘンのなかには残酷で性的でグロテスクな話も多く存在する。とても極端な話になるが、たとえばグリム童話の初版には『子供たちが屠殺ごっこをした話』なる凄まじい物語が収録されていたりするのだ！ そうでなくとも、原形に近いおとぎ話は、とかく恐ろしいものが多い……。赤ずきんちゃんが喰い殺されて終わる『赤ずきん』。カニバリズム要素や絞殺シーンが含まれ、継母の王妃が焼けた鉄の靴を履いて死ぬまで踊らされる『白雪姫』。足

切斷・目潰し・首吊りなどの猟奇描写満載の『シンデレラ』。実在の大量殺人者ジル・ド・レをモデルにした『青ひげ』など……。これら「生のメルヘン」に多分に含まれる「怖さ」や「エロさ」は、人間の本能を刺激する要素として、長い時間がたつても変わることなく語り継がれてきた要素なのだ。の世界だが、その残酷な結末が私を待ち受けているのか……!?

中世ヨーロッパの動物裁判【動物裁判】中世から近世にかけて、おもにヨーロッパで行われた動物を裁く裁判（※捌くじやなくて、裁くです）。これは「罪を犯したものは動物・無機物だろうと裁かれねばならない」というキリスト教の考えによるもの。法廷ではヒトと同様に大真面目に扱われていたという——「被告」にはきちんと弁護士がついて、処刑や破門などの人間と同様の判決が下された。動物裁判は中世では一般的であつたらしく、記録に残っているだけでも200件以上の例がある……。人間の理ことわりで動物を裁くなど、全くの非合理……中世暗黒時代の愚行にすぎない、と我々現代人には思えるかもしれない……。しかし中世という時代には、ヨーロッパでは未知の象徴たる森林がドンドン切り開かれていき、農業では技術改革が起こり、人類の自然への影響力が強まった時代、人類こそが自然を支配するべきという考えが発達していった時代だ。この自然への干渉の試みは、古代では「精霊信仰アニミスム」であつたのが、中世では「人間中心主義」へと変わり、そして近代科学の「人間相對主義」へと継承されていく。これが西洋

人の理性が進化していった過程なのだ。不可思議な「動物裁判」とは、その進化の過渡期であつた証拠に他ならない。そして今回の動物たちによる「人間裁判」などは、一見すると非常に滑稽だが……実際のところ、我々人類は地球上で繁栄を極め、自然環境に対し大きな影響力を持ち、その行動は対象からすぐにフィードバックされる——言い換えれば、現代人類はすでに自然によつて裁かれる「人間裁判」の被告の立場に否応なく置かれているのだ。の逆というわけだが……なんと荒唐無稽【荒唐無稽】説得力や現実味が感じられないこと。いわゆる「リアリティがない」の中国故事バージョンの言ひ方。「荒唐」と「無稽」で出典が異なり、荒唐のほうは古代中国の思想書『莊子』の中にある「スケールが大きい」という褒め言葉。対して無稽は、孔子が編纂したと言われる中国最古の歴史書『書経』に由来する「根拠が無い」という意味の語句だ。つまり称賛と批判の言葉が組み合わされた熟語だが、基本的にマイナスの意味で使われる。だがまれに「すげえ！　なんてとんでもねえホラ話なんだ！」と良い意味で使われることも。な話だろう……。

この非現実の王国で【非現実の王国で】「世界一長い小説」のタイトル。半世紀以上執筆された一万五千ページ以上もある超長編小説で、作者本人によるトレースやコラージュの味わい深い挿絵が大量にちりばめられている。あまりにも長くいため、いまだに完全版が出版されたことはない（※なお正式タイトルもすつごく長い）。作者はヘン

リー・ダーガーというアメリカ人で、本業は病院の清掃員。『王国で』は、金にも友人にも幸福にも恵まれなかったこの孤独な男が、誰に見せることもなく生涯制作し続けたアウトサイダー・アートである。そのストーリーはと言うと……架空の異世界で、子ども奴隷制の悪の国家と、正義のキリスト教国との大戦争が勃発し「ヴィヴィアン・ガールズ」という美少女戦士軍団が活躍する、という勧善懲悪の物語。まっとうなファンタジー小説に聞こえるが、実際はロリ・ふたなり・リョナ・グロなどアウトな要素が満載……。年老いたダーガーが体を壊して続きを書けなくなり、捨ててくれるよう頼んだアパートの大家さん（芸術家でもあった夫婦）に価値を見出され世に出された……という変わった来歴がある。これから私に降り注ぐストーリーは……キャラクター「キャラクター」ルイス・キャロル。19世紀ヴィクトリア朝時代のイギリスの数学者・小説家・写真家。『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』などの作者だ。本名はチャールズ・ラトウィツジ・ドジスンで、そっち名義で数学の本も書いている。長い間キャロルは世間ではロリコンだと思われてきたが、近年の研究では「ロリコンじゃなかったよ」説のほうが強いようだ。内気そうなイメージに反して実はけっこう社交的だったらしい。代表作の『アリス』はいろいろ映像化していて、とくにデイズニー映画が有名だけれど、ヤン・シュヴァンクマイエルというチェコの映画監督のつくった不気味さと狂気感が満ち溢れた病的なアリスなんかもおススメ。のナンセンスか、カフカ「カフカ」20世紀初頭のチェ

コ・プーラハ出身の小説家、フランツ・カフカ。「カフカ」とはチェコ語でニシコクマルガラスの意味。(※ユーラシア大陸西部に分布し、ハシブトガラスの半分ほどのサイズの小さなカラス。首まわりや胸が白い。ローレンツの『ソロモンの指輪』や、映画『魔女の宅急便』に登場しているカラスだ。近縁種のコクマルガラスなら日本の九州や関西ちほいで見られます)……ヒトのカフカの話に戻りましょう、カフカはユダヤ人だったけれどドイツ的文化のもとで育ち、作品もみなドイツ語で書かれている。その作風は超現実的シュルレアリスムで不条理で悪夢的。代表作は『変身』『審判』『城』など。本職は役所づとめの役人で、仕事終わりの余暇の時間に小説を執筆していたそう。カフカは死ぬ前に友人に「自分の小説は全部処分してくれ」と遺言を残したけれど、それが守られなかったおかげで私たちは彼の作品を今でも読むことができます。当人は草葉の陰で迷惑がてるかもしれないが。の悪夢か、宮沢賢治「宮沢賢治」岩手県花巻市出身の詩人・童話作家。雨にも負けず、風にも負けず、一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ……そういうものになりたくて、農業・創作・人間教育をがんばった人だ。でも生涯童貞だった?とか、春画を集めていたりとか、手書き原稿が判読できなくてよく分からない部分があるとか、ヘンなエピソードも多々あります。作品には、生物や鉱物など自然全般への愛と関心、仏教(法華経)への深い傾倒が感じられ、ユーモアと哀愁ペイン漂う雰囲気のものが多いが……『注文の多い料理店』『オツベルと象』『毒もみのすきな署長さん』など、

ブラックだったり不気味な話も多い。代表作は『銀河鉄道の夜』『グスコープドリの伝記』『よだかの星』『やまなし』など……。なぜかS F Cで「スーパーファミコン戦」とも言える『イーハトーヴォ物語』なるゲームがあります。賢治ファンの方にもオススメの、牧歌的で幻想的なADVゲーム。BGMも最高に良いです。の寓意性か、安部公房【安部公房】急死しななければノーベル文学賞を取っていた、とのもつばらの評判の小説家。戦時中の満州で育ち、東大医学部卒という経歴がある。ドラマ脚本や戯曲など幅広く手掛けており、日本で初めてワープロを使いだした作家のひとり。さらにものすごいカメラ好きで小説に自分の写真を載せたり、ピンク・フロイドが好きで業務用シンセサイザーを持っていたりなどのエピソードも……。代表作は『砂の女』『箱男』『壁』など。狂気と理性、不条理と論理性を両立させる内容で、独創的な比喻と神の宿る細部の描写が魅力的。なんだかどれもエロい描写が多いような気がします。ほとんど作品は新潮文庫で読めますが、最近では岩波文庫でも出始めました。の不条理か……。

「どうっ？ 私の『さいばんかん』のカツラ【モップ】床などを清掃する掃除用具。とくに、吸水性の高い繊維を柄につけた「水拭きモップ」を指し、「モップしぼり器」と合わせて使う。昔からありそうな道具だが、発明特許が取られたのは19世紀になってから

のこと。モップ系の部分を「ヘッド」とは呼ぶものの、もちろんこのキリンのようにカツラのつもりで頭にかぶるモノではない。でも英国貴族出身のレスラーが、弟子のソ連出身レスラーのセコンドにつくときにかぶっていたとか……？とこづち「ネイルハンマー」<sup>ヘッド</sup>頭部の片側に釘抜きもついている工具ハンマー。キリンがなぜこんな凶器<sup>も</sup>を持っているかという……法廷での合図用の小槌として使うため。ちなみにこういう裁判やオークションで用いられる小槌は英語だと hammer ではなく gavel<sup>ガベル</sup>と言う。ところで漢字では、頭部の材質によつて「槌」「鎚」と2種類があり、キリンが今持っているのは全金属製のハンマーなので後者。似合うでしょ？」

……。

キリンはさらに虫食いだらけの古い黒の暗幕「暗幕」遮光用カーテンのこと。映画館や撮影スタジオなど照明に近い所で使用されることが多いため、生地には遮光性のほかにも難燃性が求められる。キリンが着ているのは学校などの公共施設で使うような、分厚い生地で耐紫外線性のある遮光1級の防災カーテンだ、ボロだけど。このサバンナ地方にはかつて「フレンズの学校」があったそうなので、その遺物なのかもしれない。しかしキリンは美形で長身なので、こんなぼろを羽織つてもけっこう似合う。を身につけている……。法服のつもりだろうか？

そういうの、どこから持ってきたのよ？

「どうどう？ この毛皮は、私の頭の良さをすぐく表してるわよね？」

「……臭いし汚いし知性の欠片も感じないし、あほにしか見えないッ！」

「ぐうっ……ななななによ！ ばかばか！ はんにん！ うわあああん！」

……いかん。つい正直に証言したら、裁判官の心証を害してしまった。

「ぐもおおお！ もはやゆるるざん！ ハナコはしけいにしよするー！」

「まあまあ、落ち着きなさいよ〜」

と、いきなり最終判決を下そうとする裁判官のキリンに、カラカルが意見する。

「その格好がバカバカしいってのは、あたしも賛成だけど、ハナコをみんなでしけいにするかは、これから『さいばん』で決めるのよ……」

目を輝かせて、子供がおもちやを見るような不気味な笑みを浮かべるカラカル……。

初めて出会った時、この人を天使「天使」キリスト教などにおける「神の御使い」。細かい種類や順列がいろいろある。ちよつとご紹介すると、智天使ケルビムという上級の天使などは、いわゆる一般的な「背中に翼のある天使」とちがい……顔が4つあり、車輪を装備して、全身に目がついているなど、むしろ怪物クリチャー物みたいな外見だ。さらに墮天使ルシファーや闇の天使ベリアルみtain、悪魔寄りになった連中もいたりして。天使と悪魔は、プロレスの善玉ベビーフェイスと悪役ヒールや所属団体の違いみたいなもので、実はそんなに差異はないのかも？ だいたいキリスト教ではよくある話だが、古代カナン神話では神格であった

バル（ベルゼブブ）やダゴンが、聖書では魔改造（神改造？）されて、悪魔として取り入れられたりなどしている。他宗教の神を取り入れるのは、仏教や道教でもよくある話だ。（続く……）と見間違えたが……今思うと、なんと愚かな……。

「ぬふふ、どうしてやろうか考えるのは……楽しいわね……」

「お、オニー！ アクマ【アクマ】（……続き）なにせよキリスト教・ユダヤ教・イスラム教、そして仏教では「邪神（悪魔）」と「守護神（天使）」、つまり正義側と悪役を明確に分けている。ところで、それに対して日本神話はそういうハッキリとした分け方をしていないのが特徴だ。スサノオや八幡神、菅原道真公、水神の類などは頼れるうゝ神様だが、荒ぶる神としての二面性も持つ。また「崇り神」として有名な平将門公や崇徳院のほかに、穢れや災いや裁判の神「禍津日神」マガツヒノカミや、日本書紀に登場するまつろわぬ星神「天津甕星」アマツミカボシ（オカルトな人々の間ではその正体はルシファーだと囁かれる）など……悪鬼悪霊のたぐいも神社で崇拜されていたりするのだ。これは西洋なら異端や悪魔崇拜になつてしまう。このように日本の仏教・神道の神の扱いは、西洋の天使・悪魔とはずいぶん異なり、ユルイというか、機能的というか、価値観や主義思想がいまいといつか、畏れ崇める相手ならば節操が無くてカオスなのは、日本人の（というかアジアの？）昔からの特徴なのかも。くっ！」

「にやんだそりゃ〜？ ヒトのなかまか？」「ヒトのなかまか？」たいへん意味深な皮肉の

ように聞こえて、ちよつとギョツとするが……。おそらく絵本やアニメで見たオニやアクマのことを、二足歩行で言葉を話すことから「ヒトの同種」だと思っているのだろう、たぶん。」

「キリ……いや、さいばんちようどの！　さいばんの前なのにはんけつを出してはダメでありましょう！」

「ぐぬぬ……そ、そうね……」

へビクイワシもキリンをなだめた。

……開廷の前からこんな調子だが……。一体これからどうなってしまうんだ？

「でも、おいこらハナコ！　さっきの私にたいする失礼な発言、しやざいしなさい！」

キリンがすつかりぷりぷり怒っている。なにしろツノまで生えている。

いろいろ思う所はあるが……。今後の展開を考えて謝っておくことにするか……？

「あ、ハイ……。不快な思いをさせてしまつてすみません。でも、それはいわゆる言葉のあや【言葉のあや】「綾織り」という複雑な布の織り方を語源とし、もともとは「たくみな言葉遣い」という意味の言い回しであった。しかし現代では「言葉のあやでそう言っただけで……」という風に、「言い間違い」「言いすぎ」「聞き手の誤解」の意図で使われることが多い。おまけに「言い方とかもくそうい問題じゃないだらうっ！」というよう

な場合でも、「言葉のあや」と言えば、なんとなく許される雰囲気になるという便利なフレグズ。というヤツです」

「ほう？」

と、キリンが話題に食いついてきた。

「臭くて汚いと言いましたが、いわゆる『歴史の臭い』というやつです。熟成された香りというか……」

「むむむ！ れきしのおい……何それカツコイイわね……。歴史みすてりいの匂い薫る二時間すべしやる……みたいなモノね！」

何言ってるんだキリン？と、思いながらも、私はさらに言葉を続けた。

「インテリジェント……!! つまり頭が良いという意味です」

「い、いんてりげんちゃ……言葉の意味は全然分からないけど、うくん！ 頭が良さそう なひびきいくつ！」

(……さつきアホとも言ったけど、そっちは忘れてくれるもよう……)

無事に裁判官の好感度アップに成功してホッと一息。

……さて周囲を観察すると、満天の星空の下、月は満月、大勢のフレグズでごった返すサバンナの法廷とは、大きな看板のある広場である。

広場にはたくさん車が積み上げられており、昔の映画やドラマで見かけるような廃車ヤード〔廃車ヤード〕なぜこんなサバンナのご真ん中に、似つかわしくない廃車置き場があるのだろうか？ ……まるでストーンヘンジや円形劇場を思わせる配置で、ぐるりと円を描いて廃車が置かれている。意図的にバリケードとして積まれているようにも見えるが……？ とりあえず今ではサバンナ地方の目印ランドマークとして、フレンズたちによって集会所や集会場として使われている広場だ。ちなみにフェアレディズやハコスカ、ケンメリ、Nコロ、シビックなど、往年の国産旧車がミヨクに多かつたりする。だがどれも外装は錆びてボロボロに剥がれて、タイヤにはツタ草が絡み、エンジンやバッテリーなどのパーツもとても使えそうにない……。どこかその辺に、使えそうな車両でも落ちてないのだろうか？ のようになっていいる。さらに、人が入れるほどのコンクリート製の土管や、よく分からない何かの機械類なども置いてあるが……。

そして広場中央の錆びが広がった古い大看板だが……上下からライトアップされており、ジャパリパーク園内の施設が描かれた島全体の地図〔島全体の地図〕パークにはカフェ、図書館、水族館、ロッジなどの施設があるようだ。さらに80年代に流行した懐かしの巨大迷路や温泉旅館（このへんのセンスがジャパリパークらしいところ）、小規模な遊園地なども存在するらしい。さらに美術館やプラネタリウム、ラジオ塔、地下遺跡、海上発掘施設、教会などの変わった施設も……。また、ここサバンナ地方から北東

に位置する「ひので港」からは、隣の島にフェリーが定期的に出ている……なんて情報も書かれている。さらに説明書きによると、パークはケツペンの気候区分による「五つの気候帯」に分類され、現在地「サバンナエリア」には、「ジャングルエリア」や「砂漠エリア」が隣接しているようだ……。が描かれている……。

そして「雪山エリア」「雪山エリア」南海の島のジャパリパークに雪が!? ……実はさほど驚くべきハナシでもない。ココよりずっと南（北緯19〜29度）のハワイ諸島や、赤道にほど近い（南緯6度）ニューギニア島などでも降雪があるのだから。たとえば森林限界以上の標高4,000mを超えるマウナ・ケア山では冬には1m以上もの積雪が数ヶ月間観測できる（マウナ・ケアとは「白い山」の意味だ）。そして、ニューギニア・マオケ山脈の最高峰、七大陸最高峰のひとつにも数えられるパンチャック・ジャヤ（カールステンツ・ピラミッド）峰（標高約4,900m）などでは、なんと氷河が見られるのだ。また日本国内でも、鹿児島県大隈諸島に属する屋久島（北緯30度20分）は緯度的には亜熱帯気候ながら、その中央部には1,500m級の山々（最高峰は標高1,936mの宮之浦岳<sup>みやのうらだけ</sup>だ）がそびえ立ち、山岳部では気温は北海道並みで、国内で積雪が観察される最南端の場所なのだ。亜熱帯〜亜寒帯までの豊かな動植物相が見られる屋久島は、1993年には日本初の世界遺産のひとつとして登録されている。」なんて地域まで存在する。

ジャパリパークは緯度30。ほどだから、亜寒帯〔亜寒帯〕ケツペンの気候区分での低緯度から4番目の気候帯で、記号はD。冷帯とも言う。夏は暑いけれど短くて、冬が長くきびしいのが特徴。降水量の違いにより大きく分けると、亜寒帯湿潤気候(Df)・亜寒帯冬季少雨気候(Dw)・高地地中海性気候(Ds)の3つに分類される(f、w、sの文字はそれぞれ湿潤・冬季乾燥・夏季乾燥を表すドイツ語から)。日本では、北海道や東北内陸部、北関東・甲信越・飛騨・北陸などの中央部の「高原ちほく」が亜寒帯気候にあたる。世界的には、アメリカ北部、カナダ、ロシアの大部分や中国北東部など、北半球の北緯40。以北地域に幅広く分布している。しかし南半球ではこの緯度にあたる領域には一面の海洋が広がっており、亜寒帯の陸上地域は存在しない(※南極大陸は「寒帯」に属する)。これは、南半球の表面の8割が海であり、水の持つ「温めにくく冷めにくい」という温度を安定させる性質が関係している——亜寒帯気候には、夏は暖かく(10℃以上)冬は寒く(-3℃以下)と、気温差が大きいという条件があるからだ。が存在するのはありえない。

ということとは、標高の高い高原地方があるのか？ あるいは寒流が流れてきたり、季節風や気団の影響か……？ それとも人工的な要因が……？

ひとりでも考えてもキリがないことだし……この疑問は保留にしておこう。

ジャパリパークのフレンズの掟は「分からないこと⇨考えないこと」だ。判断停止

【判断停止】頭カラツポでなくんも考えないのとは違います。ギリシヤ語で「判断をしな  
いこと」の意味で、古代ギリシヤ懷疑主義やフツサールの現象学での哲学用語だ。独断・  
偏見・先入観・思い込みなどによる早急な判断を防いで、保留にしておくこと。しかし  
ここでは、どちらかと言えばもつと素朴な……近代科学が成立する以前の概念、珍妙不  
可思議なことを「不思議だなあ」だけで済ませる——「自然をそのままを受け入れるこ  
と」に近いかもしれない。それがサバンナのルールだ……などとハナコは考えている  
が、それは多分に彼女がフレンズたちの影響を受けてきているから、だろうか？ ……  
なお、あまり影響を受けたくないフレンズの筆頭がすぐそばにいるよ。だ、誰だろく  
そのクジラ偶蹄類つてく??だ。

すると、大きな看板の下の端の隅つこの手が届く所に、小さな落描きがあることに気  
が付いた。太古の洞窟壁画のような素朴な線画が、照明と満月の光で照らされている。

「あれ？ この絵はキリンのフレンズじゃないですか？ もうひとりはいヌの子かな？

これ、キリンが描いたの？」

「ホントね……。でも、私が描いたんじゃないわよ。雨で消えかけてて、すごく古い絵ね  
……。これはきつと別のキリン【別のキリン】パークの大変長い歴史のなかで、キリン  
のフレンズは何匹もおり……。この絵は過去の別個体のキリンというわけだ。心なしか  
知性的で上品な顔で描かれている。それに比べてまったく、最近の若いキリンのフレン

ズは……（ピラミッドの落書き並みの愚痴）の子よ」

さて、この「サバンナ地方裁判所」には、木箱やら、くたびれた木製ベンチやら、その辺の車からひっぺがしてきたらしい座席やら、スプリングの飛び出たマットレスやら、錆びついた事務椅子やら……：そういつた収集物が雑然と並べられている。

……もつとも、それらにきちんと着席しているフレンズは、集まったうちの半数もないが。

シマウマやレイヨウ、ニシキヘビ、ワニ、ヌー、ハイラックス……：今日一日で見知った顔ぶれが、地べたに寝転がったり、座席の下に潜り込んだりしている。

おや……？ さつき水場にいたフレンズ……：白いワンピースを着た正体不明の子も、満月の青白い月明かりのなかで、積み上げられた廃車のでっぺんに座っている。

外見からすると、あの子はイカやウミウシみたいな、軟体動物のフレンズだろうか？

……そしてそこにはひと際目立つ、新しいフレンズもいた……。

威厳のある香箱座りをしている、大柄で筋肉質なフレンズ……。

ポーズからすると、ネコ科だろう……：そして特徴的なのは、その首周りに伸びたボリューミーな髪の毛……。

「……まず、お互い名乗るのが礼儀なり。ワレの名は……まあ、いっばいあつてなく……。とりあえず、ワレは皆に『バーバリライオン』『バーバリライオン』別名アトラスライオン。かつて北アフリカのエジプトちほくやアトラス山脈、バーバリ(マグリブ)ちほくに広く生息していたアフリカライオンの1種。他種ライオンより穏やかな性格で、山間の森林部を好んだという。胴が長くて、胸板が分厚くて、脚が短くて、ちよつとずんぐりむつくりな感じする、頑丈な体をしているのがバーバリライオンです。さらに毛皮は黒みがかつていて、黒い大きなタテガミが背中やお腹まで伸びており、その外見はエジプト神話のスフィンクスやセクメト女神、映画『ライオン・キング』のスカアのモデルらしい。他種のアフリカライオンの1.5倍ほどのサイズ(最大個体は全長4m以上!)を誇るライオン最大種で、赤道から離れるほど動物は大型化するという「ベルクマンの法則」の分かりやすい一例。だがさほど大きくはない、とする歴史資料や調査結果もある。古代にはアフリカからはるばるローマに連れて来られて、闘技場で剣闘士グラディエーターと戦ったり、当時異端であったキリスト教徒の公開処刑にも使役されたとか……。ちなみに明治時代に日本の動物園に初めてやってきたライオンもバーバリライオン。だがバーバリライオンは20世紀までにドンドン数を減らし、そして1922年にアトラス山脈の最後の個体が死亡してとうとう絶滅した……と、長らく思われていたが……なんとモロツコ王の私設動物園で純血種が生き延びているのが発見され、再繁殖に成功!

そういうわけでモロッコ首都の「ラバト動物園」には、全世界のバーバリライオンの半数以上がおります。』と呼ばれておるな……」

大型ネコ科のフレンズが口を開いた。

「は、はい……」

「さて、汝は何の獣か、疾く答えよ」

「とくこたえよ」

カラカルがいつのまにか、バーバリライオンの横に同じポーズで座っていて、言葉遣いを真似した。

「わ、私は……『ヒト』……だと思えます……」

バーバリライオンは同じ食肉目ネコ科でも、カラカルとはえらい違いだ。

……古風な言葉遣いもだが、やはり一挙手一投足の動作による威圧感が違う……。

「百獣の王」の王たる圧か……。

「汝はヒトなりや？ ならば、我が今から述べる問いに答えよ」

彼女は身を乗り出して言った。

ま、まさか……答えられなければ、スフィンクス〔スフィンクス〕エジプト神話などの古代オリエント神話に伝えられる、ライオンの体とヒトの頭部を持つという幻獣。ライオンだけでなく、牛の体を持つものや翼があるものなど外見は様々。ナイル川西岸の

古都ギザにある「三大ピラミッド」のそばで佇む「大スフィンクス」や、ルクソール神殿とアメン神殿を結ぶ「スフィンクス参道」のものがとくに有名……。こいつらスフィンクスは入口を守る番人なのだ……。 (古代オリエントちほーでは、入口に「守護獣の石像」を置くという文化があったらしく、その慣習が東方まで伝播し、東の果ての日本では、神社の「狛犬」や沖繩の「シーサー」になったそう)。さらにギリシャ神話でも同名の、旅人に「謎かけ」をするという怪物がいるが……。外見が異なり、女性の上半身と獅子の下半身を持つ有翼獣だ。西洋画の題材にもされているが、イメージに反して意外とサイズが小さくて (大型犬ぐらいで) 驚く。両者はよく混同されるが、エジプト神話のほうは顔が男性だしナゾナゾを好んだという記録は無い。さらに！ イエネコで スフィンクス Sphinx (怪物のほうとはつづりが違う) という変わった品種もいて、ヒゲがなくて体毛もほとんど生えていないネコだ。映画『ET』のモデルらしい。いかにも熱帯エジプト原産のネコのように思えるが、寒さにも暑さにも弱く (肌に直接日光が当たるので紫外線に弱い)、じつは「カナディアン・ヘアレス」の別名どおりカナダ生まれの突然変異種だ。無毛ネコが生まれたという記録は世界各地にあるが、とくに古代エジプトのネコの姿と似ているからスフィンクスと名付けられたらしい。やアメリット【アメリット】エジプト神話『死者の書』に登場する、水中・水辺・陸地それぞれ最も恐ろしい獣たち (ワニ・カバ・ライオン) を掛け合わせた怪物。そんなコワモテだが性別はメスら

しい。アメミットは死者の審判において、罪人であれば心臓を貪り喰らい消滅させるが、善き者であればその再生を手助けする頼れるうく守護神になるという。……ちなみにイギリスのSF古生物ドラマ『プライミーバル』では「プリステイカンプス」なるワニの絶滅種がアメミットのモデルだとされている——ソイツは中生代白亜紀く新生代初期にかけて生息していた、ヒツメを持つ「陸生ワニ」らしい。それにしても……今ココにはバーバリライオンとナイルワニのフレンズがいる！ あとはカバさえいけば！ リーチなのに惜しい！（何が？）のごとく喰い殺すとても……？

「赤ちゃんは四本足く、オトナは二本足、年寄りには三本足、この動物なくんだ？」  
ライオンはいきなりフランクな口調になった。

「……ヒト？」

「正解だ！ 見事なり！」

「えく？ なんぞなのく？」

カラカルが疑問の声を上げる。

「それはですねえ！ ヒトは、赤ちゃんの時は多くの動物と同じ四本足、大人になるとフレンズと同じ二本足、歳を取って腰が曲がると『木の枝』をつかんで脚の代わりにして三本足になるそうですから！」

ヘビクイワシがニュッと横から出てきて説明した。

「いやあ、頭の良いフレンズと遊ぶのは面白いのう！」

バーバリライオンは嬉しそうに尻尾を振った。

「では、次の問いに答えよ。上は大海、下は大火事、これなあに？」

「ちよつとバーバリ〜！ ハナコはこれから私と『さいばん』するんだから！ なぞなぞ遊びはまた今度にしなさいよ！」

キリンが文句を言った。

「え、えー。せつかく賢い子を見つけたのに……ワレはもつと遊びたい……」

……つてオイ！ アンタ裁判と無関係のただのなぞなぞ好きかい！

「みなさん、置いててくなんてひどい〜！」

そこへ、聞き覚えのある声。

そういえばスツカリ忘れていたが、地下牢に置いてきぼりにされていたアードウルフ！ この緊張感の抜けてしまった空気の中に、廃車を乗り越えて飛び込んできた。

「お、アードウルフ、アンタ見張りさぼって寝てたでしよ〜」

「気持ち良さそうに寝てたから置いてきたのよ！」

カラカルとキリンが叱った。

「い、い、ごめんなさい〜！」

「ヨオシ！ それじゃ、これでみんなそろったわね！ せいしゆくに！ せいしゆくにいつ！ さいばん始めるわ！」

柑橘類【柑橘類<sup>かんきつ</sup>】ミカン科の、とくにミカン属・カラタチ属・キンカン属の果物の総称。英語ではシトラス・フルーツと言うが、これはミカン属の属名 Citrus から。ミカン、オレンジ、レモン、グレープフルーツ……などなど品種は膨大だが、じつは大部分はミカン属だ。果実にはビタミンCやクエン酸が多く含まれ、甘酸っぱく爽やかな味わいが特徴。最初は緑色をしているが、熟すにつれて皮に含まれる葉緑素は分解され、カロテノイドという色素が残るため黄色くなっていく。柑橘類は熱帯・亜熱帯で進化した植物らしく基本的に耐寒性が低い。また枝にトゲがあるものが多く、葉っぱはイモムシに食べられやすい。が、ゆえに昆虫採集キッズにとつては絶好の蝶採集スポットだ。らしきイラストが貼られた木箱の前に、裁判長キリンが正座して一声。

そしてミカン箱の上に置いたお鈴【お鈴<sup>おるん</sup>】仏具の一種で、お参りの際に打ち鳴らす「鳴り物」のひとつ。お仏壇に置いてある「金属製のお椀」のようなアレです。専用の座布団と台の上に置き、<sup>ばい</sup>と呼ばれる棒で打ち鳴らす——「美しく清い音色」を鳴らせば、それだけで先祖の供養になるのだ。なお、お寺においてある大型のものは<sup>けいす</sup>子と呼ばれ、葬儀や法要での読経の際に木魚と併用される場合が多い（その際は<sup>けいす</sup>子は左手側に置

く)。お経の決まった所でこれを荘嚴な音色で鳴らして周囲に合図を送るのだ。携帯用  
 に取っ手をつけた小型のモノもあり、引いんきんといんきんと言う。※宗派によつては呼び方や使用法が  
 違う場合があります。なお材質はおもに真鍮しんちゆうなどで、乱暴に扱うと割れたり音が悪く  
 なつたりするので、キリンのよゝな罰当たりな使い方をしてはダメです。を、ネイル  
 ハンマーでゴング「ゴング」さあ！ レフェリーによりゴングが高らかに鳴り響き、本  
 日のサバンナ・リング「ジャツジ・デスマツチ」が始まりました！ ブツポウソウ！  
 ナムアミダブツ！ ……ちなみにこのお鈴りんは、もとはサバンナ地方の「ジャパリ霊園セメタリー」と  
 いう施設のセレモニーホールにあつた備品らしい。のようにカンカンと、したたかに打  
 ち付けている……!?

「さて、このさいばんは『はかせ』いわく、『ヒト』が現れた時に行うものであります。ご  
 ぞんじの子もいましようが、昔々、『かばんさん』がヒトを探しに出かけた後、たくさん  
 のヒトらしき動物がパークにやってきました。その生き残りや遺物が、フレンズになつ  
 ているかも……ということですね」

へビクイワシが裁判の目的をみんなに説明し始めた。

「あの、話の途中ですいません……質問があるのですが、よろしいですか？」

気になることがあつたので質問してみる。

「ええどうぞ、ハナコひこく」

「まずその『博士』って、一体どなたですか……?」

「ああ、『はかせ』はトリです。『としよかん』に棲んで、ものしりで、すごーいかしこいトリ頭〔トリ頭〕(ニワトリは)三歩歩けば忘れる鳥頭」と言われ、間抜けとか忘れっぽいという意味。英語の *bird brain* も同様。このようにヒトは罵倒語として使うが、フレンズたちのジャパリ日本語では「とつても頭が良い」という褒め言葉だ。実際、複雑な飛翔行動や空中からの地形認知ができる鳥類は「かしこい」ので。それにフレンズのばあいでも、鳥の子は平均して知性が高い傾向がある——視聴覚認知能力の高さゆえ、文字や高度な言語を習得しやすく、また飛行能力のおかげで「ヒトの遺物」である本の搜索や貸し借りも効率よく行えるので、物知りな子たちが多い。……以上は「飛べる鳥」フレンズのばあいだ……ダチヨウなどの「飛べない鳥」だとアホな子になりやすいとか? (失礼な!) 高い知性とコミュニケーション能力が必須の「パークの族長」も、霊長類(とくに類人猿)や鳥類のフレンズが任されることが多いようだ。鳥類は発達した視聴覚・空間認識・記憶力・声帯・二足歩行など、じつはサルとの(つまりヒトとの)共通点が多い「かしこい奴ら」なのである。※ちなみに鳥類の脳は、神経の構造が哺乳類とは大きく異なっている。脳細胞が機能を維持したまま小型軽量化していたり、大脳じたいは大きいが大脳皮質が存在しないなど……。そのため近年の論文では、脳の一部には哺乳類のものとは違う名称が当てられている。つまり彼ら「トリ頭」

の知能は、単純に脳のサイズや構造では哺乳類とは比較できないようだ……。ところで関係無いが、有名な「首無しニワトリのマイク」も、もしかしてこの鳥類の「脳の特長」のおかげで長期生存できたのだろうか……。？でありましょう！ ジャパリパークの長おきです！ 『もじ』もたくさん読めて、『けいさん』もできて……。さすがのわたくしも、はかせの頭の良さにはかないません！」

へビクイワシは、まるで自慢するかのように答える。

なるほど、指導者的立場のフレンズか……。

『はかせ』はカラスのフレンズよね。『動物のころからすぐ頭がよくて、どうぐも作れるんだぞ』って、よく自慢してるわよね……。名前、なんだっけ？ 『カレールダイスキカラス』だっけ？」

「たしか『カレールドンカラス』じゃないかしら？」

『カレールドリアカラス』じゃなかったですか？」

カラカルとキリンとアードウルフが、何やらおいしそうな名前を言い合っている。

何のカラスか分からないので、とりあえず「カレールの鳥博士カラス（仮）」としておこう。

「あともうひとつ……。さつきおっしやったヒトらしき動物とは、どういう意味ですか？」

私はより重要な疑問をへビクイワシに尋ねる。

「おお、それをこれから説明しようと思っていたのです。……つまり、パークにやってきたそのフレンズによく似た動物たちは——『かばんさん』が連れてきたのかどうかは、分かりませんが——『自分たちはヒト』だと名乗ったのです。でも、かばんさんとは似ていない個体が多かったそうなんです。かばんさんとは違う種類のヒトだったのかもですし、あるいはヒトもどきのけものだったのかも……。その後の異変だって、そのヒトみたいな獣のせいだって、はかせが言っていましたし……」

「ちよつと……『異変』って?」

「もう質問はだめよ! ハナコひこく! このほうていでは、質問するのは私で、答えるのがあなたなんだから!」

キリンがハンマーを叩く。

……何なんだ『異変』って?」

とても気になるが、ここは立場をわきまえて黙ることにしよう。

「やくわりぶんたん! 『しよき』はヘビクイワシ! 『けんじ』はカラカル! 『べんごし』はアードウルフ! 他のみんなは、『ばいしんいん』か『ぼうちようにん』か『しよにん』か、どれか選ぶのよ!」

がや、がや……ざわ、ざわ……。

集まったフレンズたちのざわめきの声……。

「ばいし……なに？ なんだって？」

「むつかしくて、わかんないや」

「どれかえらべ、って言われても……何がちがうのか、全然わからん」

「んー、違いが分からないなら、何を選んでもいいんじゃない？」

「私は『やこうせい』じゃないから、もうねむいよー」

「あくおなかへったな〜」

フレンズ諸君！

もう最初から「裁判ごっこ」にすらなっていないが、大丈夫かオイ！

「法廷コートがあるって聞いたから、せっかく来たのに、どこにも庭球場コートなんて無いじゃない！

わたしはてにすしに来たのよ！」

と、ぷりぷり怒っているのは、クチバシを模したサンバイザーをかぶりテニスウェアを身につけた水鳥？のフレンズだ……。

「ぱおくん、あのですねえ〜。私の友達にも、じゃんぐるちほーに『はな子【はな子】サバンナ地方のとなりのジャングル地方（この「丸い耳のゾウ」や前述の「水鳥くちばし」のフレンズもココ出身）にある施設「じゃぱりびじゅつかん」在住の、アジアゾウのフレンズの個体名。絵を描くのが好きな、臆病で繊細でロマンチストな性格のフレンズだ

が、『「げーじつか」はききようなコトをするべき」と勝手に思い込んで、無理してヘンテコな言動ばかりしている。なおこの美術館では、「古代の青いカバ」と自称する謎のフレンズが館長キブリーターをやっているそう。「重量級文化系こんび」なんだね。」という子がいます。こういうときは、どうやって区別したらいいですか？」

そう、のんびり口調で質問するのは、見紛うことなき「ゾウ」のフレンズだ。頭の上の丸い耳がかわいい。

「なるほど……そういう時はヒトは『ミョージ』という、別の名前をアタマに付け加えたそうですから、今、ハナコにミョージを考えてあげましょう」

へビクイワシが提案する。

「それじゃ、カラカル、さん……最初に会った時と同じように、名前を考えてくれませんか？ 『ハナコ』って名前をつけてくれたでしょ」

「え？ 何言ってるのよ？ 名前のハナコは、そりやアンタが自分で考えたんじゃない！」

「え……??? そうだったかな？」

「じゃあ、ありきたりだけど、さばんなちほーのハナコだから、『サバンナハナコ』でどう？」

「は、はい……」

「おつおう……これで『ジャングルハナコ』のフレンズと、区別できますね」  
ゾウのフレンズも納得のネーミングセンス（なのか？）

「よし『サバンナハナコ』のさいばんをぞつこうします！ 気を取り直して、最初の『しゅうにん』、前へ！」

キリンが一声かけると、ごつたがえしたフレンズの群衆の合間を縫って、レイヨウとシマウマのフレンズが出てきた。

水場で見かけたふたりだ。

「はいはい！ うーんとね、まず自分の名前を言えば良いのよね！ 私はインパラ！」  
スポーティな服装のレイヨウフレンズが快活な調子で自己紹介した。

「こんばんは、です。私はグレビーシマウマです」

続いて、少しおっとりした雰囲気の子マウマフレンズが名乗った。

そもそも、陪審員やら証人やら、形だけ揃えたようだが……私は何の罪で起訴されているのだ？

おそらくこれは「民事裁判」……のようなもの、だと思うが、私は何も悪いことはないハズだが。

……ヒトが……私が……生まれたこと自体が罪だとも言うのか……。

「ではしようにん、サバンナハナコが水場で行っていた行動を話しなさい！」

「ハナコは、ずうーつとあたしのおしりを見てたよー」

「うん。見てた見てた。すごい勢いで見てたね」

「う……」

ぐぬぬ……。予想外の罪状が出てきた……。

「ハナコ、今のはつげんを、じじつとみとめるわね？」

「い、いえー！ はい！ チラつと見えただけで！ イヤ、確かにスカートの中が見えたのは事実だけど……それは彼女が見えるポーズで水を飲んでいたからで……。決してやましい思いがあつたワケでは……。偶然少し見えただけで……！ そ、そんな、ずっと見てただなんて、そんなことはないです……」

「それうそよ！ あたし、あなたのコト、ちゃんと見てたんだから！」

「そうですよ。私たち草食けものは、まわりがよく見えるんです。気づかなかつたかもですが、あなたがたのこと、きちんと見てましたよー」

証人たちが反論した。

「うん、たしかに。ハナコはよくフレンズのおしりを見てるわね。きつとフレンズのおしりが好きなのよ」

検事のカラカルもその点を追及する。

いかん！

このままでは、女の子のお尻ケツを舐め回し覗くド変態として、有罪判決が確定してしま  
う……………！

「ホレ、みんなこう言ってるし、私だって知ってるわよ！ ひていするところがますます  
あやしい！ 犯人はみんな、そうやってひていから入るものよ！ サバンナハナコ、み  
とめなさい！ あなたは、おしりが好きなのか！」

「こ、これには健全な理由があつて……………いや、女の子のお尻を見つめるのが健全という意  
味ではなくて……………」

しどろもどろ。　なんか……………痴漢冤罪みたいな展開になつてきたぞ……………。

あ、この場合冤罪じゃないのか……………。

「あ、ちょっと待ってください。サルは、おしりの赤さを見て仲間の『はつじょう』を知  
ると、ずかんに書いてあります。ハナコはヒトではなく、サルなのは？　はつじょう  
しているサルなので、おしりが好きなのは？」

へビクイワシがとんでもないことを言い出した。

……………どう反応すればいいのよ、これ……………。

「ウム！ 『はつじょう』しているかどうか、ヒトかヒトでないのかの『はんだんぎい

りよう』になるわね！ 確かめる方法があるわ！ ハナコ、私におしっこ飲ませなさい」  
は……!?!

「おしっこ！ とぼけないで！」

ええーなにこの展開!?

「さあ、今ココですのよ！ 私がじかに飲むから！ はつじょうしてたら、すぐ分かるから！」

キリンがミカン箱を飛び越えて、私の前に踊り出て、仰向けに寝転がったかと思うと、私の股間の下で口を開けて、そう言い放った。

彼女には全く悪気が無くて、真面目に言っているのは、理解できる……。

理解できるがッ、私の本心が思わず口に出していたセリフは……。

「アホか！ ふぎけんなこのバカキリン！」

「ぐもおおおっ！ くのやろおおっ！ 言ったなあっ！ バカって言った方がバカよ！」

また泣き出したなキリン！

だが泣けてくるのはこっちだぞバカキリン！

「ぐむむ！ またバカって言ったな！ さあつハナコすみやかにおしっこ吐けっ！」

「わ、私には我慢する権利がある！ 尿検査は公判で不利益な証拠となる場合がある！ 私には排尿の際に便器を求める権利がある！ もしトイレを設置する経済力が無ければ、公衆便所を利用する権利がある！」

私は錯乱してヘンな警告「ヘンな警告」この一連の支離滅裂なセリフには元ネタがある。アメリカ警察の「ミランダ警告」だ。『お前には黙秘権がある！』で始まる逮捕勧告。映画『ダーティハリー』のおかげで、44マグナム(S&W M29)とともに日本でも有名。海ドラや洋画の逮捕シーンでおなじみだが、実際の現場では形骸化していることも多いとか……。これは刑事が拘束前に言う警告なので、もちろん犯人が法廷で自分で言うセリフではない。いや、そうとう混乱してますねえ……。を言った。

「しようこ出してラクになるのよ！ しげきしてやる！」

「お……乙女の純情を奪い「乙女の純情を奪い……」こっちの妄言の元ネタは特撮ドラマ『機動刑事ジバン』に登場する「対バイオロン法」。平たく言うと、主人公のジバンメタルヒーローが何でも好き勝手していいという恐ろしい法律だ。「第6条子どもを夢を奪い、その心を傷つけた罪は特に重い」は、特撮らしく熱い熱いキメゼリフだが……もう法律の形になつてないだろこれ！、その心を傷つけた罪は特に重い！」

「何をぬかす！ よいではないか、よいではないか！」

あつ……！ んつ……！

やめて！　そこはやめて！

いけませんわ！　はしたないですわ！

違法な手段で入手された証拠は、法廷では証拠能力無しとツ……………！

いや、これは民事裁判だけ……………つて、そういう問題じゃないわい！

あつ……………！　貞操の危機なのだ……………！

恐怖の動物裁判はまだまだ続くよ！

## 第9話 汚れっちまった悲しみに [▲] [♀]

混沌【混沌】英語で言うところの chaos、あるいは pandemic。聞きなれぬ後者の単語の意味は、大混乱、狂騒、無法地帯、地獄、悪魔の巣窟、etc.……。17世紀英国の詩人、ジョン・ミルトンの造語であり、もとは彼の著書『失樂園』に登場する「地獄の首都」の名前だ。「伏魔殿」とも翻訳されたりするが、コレは中国伝奇小説『水滸伝』に登場する悪魔の封印された建物だ。余談だが、元外務大臣の田中眞紀子は『外務省は伏魔殿』という発言をし、石原慎太郎元東京都知事は『東京都は伏魔殿』などと言っている……。どうやら東京都は世にも恐ろしい魔界都市であり、政治家というのは悪魔と接する職業であるらしい……。こわいなく。と化した満月夜の「人間裁判」!

「ヤギのハナコ! はよオシッコ出せ! 飲むから!」

「やだ! こんなところにいられるか! わ、私は帰らせてもらおう!」

今まさに、裁判官キリンの手によつて……。いや口によつて、被告の証拠が採取されようとしている!

「おお、その犯人じみた発言! いやがるところがますますあやしい! あ、確かアナタ毛

皮が取れるんだったわね。よし、お尻のを取ってやる！」

「やめんか変態パラフィリア【変態】変態性欲、もしくは性的倒錯。正常ではない性的嗜好のことで、サディズム、マゾヒズム、ロリータコンプレックス、フェティシズムなど、変態のすがたかたちも十人十色。だがこの小説はR—15推奨ですので、自主規制で詳しくは説明しません。そういうことはおとーさんやおかーさんに聞いてくださいね。世間一般では、ステレオタイプな変態として『はあ、はあ……キリンちゃん……い、今どんなパンツう、パンティー穿はいてるのおく……？　ぐへへえ……そ、そんな大胆なのをつけてるんだあ、はあはあ……うっ！』とゆる感じのアブないイメージがあるが、必ずしも「性的嗜好の特殊性」と「犯罪性」とは結びつくわけではない。なおこの「変態」という日本語は、ドイツの精神医学者リヒャルト・フォン・クラフト＝エビング男爵の著書『変態性慾心理』の翻訳が国内で出版されて以降に広まった言葉だ。同時代の同業者フロイトに隠れてしまった感があるが、彼の著書では同性愛を異常と見なさないなど、偏見の多かつた当時では超超先進的で、現代から見ても先見の明がある内容が含まれている。※誤解されることがあるが、現代医学会やWHO（世界保健機関）では、「同性愛」は精神疾患や倒錯でなく、治療すべき対象とは見なされていないのです。さらにサディズム・マゾヒズムという用語を造つたのもこのクラフト＝エビング男爵。まさに変態界のパイオニアです。キリンめえっ！」

「へ、変態【変態】<sup>メタモルフオシス</sup>生物が成長の過程で姿形を大きく変えること。けものや鳥や魚のばあい、大きく姿を変えるのは卵や子宮の中だけだが……この「大きな変化」を生まれた後に行く生物もいる。とくに昆虫がよい例だ。多くの身近な昆虫は卵↓幼虫↓<sup>さなぎ</sup>蛹↓成虫と体の構造を変えるが、このプロセスを「完全変態」と呼ぶ（カブトムシやチョウ、ハチ、ハエ、カなど）。上記の過程のうち蛹の期間が無いもの、つまり脱皮のみにより、幼虫（翅がない）から成虫（翅がある）まで育つていく成長スタイルは「不完全変態」と呼ばれる（トンボ、バッタ、セミ、カマキリ、ゴキブリなどが該当）。また成虫と幼虫で姿が変わらず、脱皮で大きさのみが成長する「無変態」の昆虫もいる（身近なものは紙魚<sup>シミ</sup>）。そして昆虫以外にも、甲殻類や両生類など「変態」をする生物は多数いるが……こういった成長形式は、進化の過程で身につけていった能力を反映しているらしい——たとえば「蛹」をつくる能力は、過去のある時期（古生代の石炭紀↓ペルム紀）の気候寒冷化を乗り越えるためのものだった、という説がある。このような「個体発生は系統発生を反復する」という説を「反復説」といい、ドイツの生物学者エルンスト・ヘッケルの提唱らしい、問題点の修正を受けながら現代生物学に取り入れられている。……??わ、わたしは虫じゃないわよ！」

「うるさいこのバカ！ 変態！ ヘンタイ！ hentai[hentai]日本の、あるいは日本風の成人指定漫画やゲーム、アニメの海外での総称。colaやtsuna

miなどと同様に、hentaïは現代世界の「国際共通語」のひとつだ。そういうものを指すちようにいい他の言葉が無いのだからしよーがない。我ら日本人の誇るこの「hentaï」文化の起源は春画にあり、平安時代まで歴史を遡るといふ……。江戸期以前の春画はかつておそくず偃息図と呼ばれ、印刷技術が未発達であったため肉筆のものが主流であったが、江戸時代には版画春画が全盛を極めることとなる。例を挙げると、浮世絵師・鉄棒ぬらぬら（＝葛飾北斎）による有名な『蛸と海女』。当時のベストセラー『南総里見八犬伝』を歌川国貞がエロパロ二次創作した『恋のやつふぢ』。勝川春章の『百慕々語』ひやくぼがたりに登場する怪奇「やまらのおろち」。若い夫婦が山賊に襲われて「へっへっへ、脱ぎな……女のほうじゃねえ！ 男だ！」と、むさくるしい山賊に若旦那のほう（性的に）襲撃されちゃう……という内容の夢を見ながら猫とまどろ微睡む若い娘……という、カオスすぎるシチュエーションの『見るが徳 栄華の一睡』（喜多川歌麿画）……などなど。春画は地下出版物で高額商品だったので、金かけまくった多色刷りの色遣いが大変豪華。絵師によるエロ文章もノリノリである。こういった過去のhentaï作品が「当時からhentaïレベル高いつすね……」と現代人にも受け入れられているのは、日本人特有の「hentaï精神」が途切れることなく、心の中で連綿と受け継がれている証拠に他ならないのだっ!!」

「ぐっ！ 犯人に告ぐウ！ みんなの前でバカよばわりやめなさいっ！ むだなてい

こーはやめて出て来るのよ！ しんみよーにおなわにつけいっ！」

「ぎゃーっー」

いや！ 衆人環視の飲尿〔飲尿〕健康なヒトの排泄したての尿は無菌状態……というのが従来の定説であったが近年の研究では、健康な女性の膀胱内でも腸内細菌と酷似した種類の在来細菌がいて、なんらかの生理的なたらきをするものと考えられている。なお飲料水の乏しいサバイバル状況であつても、尿を飲むのは極限状態の最後の手段とされている——尿は体液よりも塩分が濃い液体なので、一時的にのどを潤せても、最終的には浸透圧により脱水症状が進むからだ。そもそも尿というのは「体の不要物」だから飲んだら有害なのは当たり前だ。……しかし、「飲尿健康法（尿療法）」なる民間療法も存在する。尿には血液サラサラ効果や造血作用、免疫機能活性化など、もろもろの健康効果があるとウワサされている。が、イマイチ科学的な根拠は無いようである。プレイはご遠慮願いたいのですが、あッー……。

これじゃちがあかない！

助けを乞うように、他のフレンズたちに視線を移すと……！

頼みの綱のカラカルは……案の定面白いものを見るように目を闇夜に輝かせている

！

「どうやら、私たちの絡みを高みの見物としゃれ込むつもりらしい……。」

「ヘビクイワシもやはり同様に静観し、自説が証明されるかどうかを見守っている……。」

「アードウルフはオロオロとどうすべきか迷っている様子で……他のフレンズたちは、しげしげと我々を観察するものもいれば、べつだん全く興味無さそうにしているものもいる……。」

「で、結局……！」

「ウワーツー！」

「ご存知のようにキリンの膂力〔膂力〕りよりよく筋力、腕力の意味。ジャパリパーク特有の超鉱物「サンドスター」が体内に蓄積して見た目がヒト化した動物たち——「フレンズ」たちは、尋常ならざる膂力を持つ。見た目は女の子なのだが、その小さな体に動物のパワーや運動神経、特殊な生体が濃縮されているのだ。には類稀なるものがあり、下半身の脱衣を余儀なくされるのであった……。」

「グワーツー！ これでは半尻ケツ！」

「判決はまだよ〜！」

「にしても、ハナコはシッポが無いのよね〜。……なんかここ、すべすべしてるし……。」

「……お、女の子同士で……いかん！ フ、フケツですよッ！」

「まあまあ、気にしないで、私は気にしないから。んー……ここ」【ここ】女性器には尿道口やバルトリン腺、スキーン腺など、肉眼で確認できる「穴」（開口部や分泌腺）がいくつか存在するが、その中でも一番大きな穴のこと。江戸時代までは「ぼぼ」と呼ばれていたが、明治時代になってからその言葉がなぜか急速に全国的に認知されるようになる。語源については……「女子」が訛った、家の出入り口を指す「門戸」から来ている、「おまんじゅう」由来説、北条「政子」から説、貴族の正室のことである「政所」が語源……などなど諸説ある。なお、1999年にラムサル条約に登録された沖縄県・那覇市近郊の干潟「漫湖」や、合衆国オレゴン州のMann Lakeや、カナダのOman Lake……などの地名とは全く関係ありません。がおしっこが出てくる穴かしら……?」

「ギャワッッ！」

……そこ【そこ】お、お……おま○こ○! (※関西だとお○こ○!) いやくん、お下品! 前のTIPで放送禁止用語を避けてたのが台無しよ、なんておげれつな小説なのかしら! 今更だけど! は出てくる穴じゃなくて【出てくる穴じゃなくて…】男性、女性、赤ちゃん、と視点を変えることで、このように同一の対象も様々な捉え方がすることが出来ます。情報の増加・多様化、価値観の客観視や国際化が叫ばれる昨今、この

ような多面的な視点こそ現代人に要求されるのである（な、何の話なの……？）……むしろ入れる穴のほう……いや逆に、出す穴と考えるべきでは……？ いや入れられる穴かな？ やっぱり結局は出てくる穴か……？

予期せぬ展開に対して、思考が混乱している。

「ぎゃくつ！ らめえく！ ……ヒトのそこには歯がある【歯がある】「ヴァギナ・デンタタ」（ラテン語で「歯が生えた腔」の意）という民間伝承は、なぜか世界中の文化圏に存在する。たとえば民俗学者南方熊楠みななたくまぐすによると、アイヌ民話では「メノココタン」なる女性だけの島があつて……その住人の陰部には、春に生えて冬には抜け落ちる「歯」があり、この「下の歯」は刀のさやに歯形がつくほどの咬合力があつたとか……。このような世界中の「ヴァギナ・デンタタ」伝説は、レイプやみだらな性交を戒めるいまし教訓話として各地に伝えられていると考えられるが……ジークムント・フロイト以後の精神分析学では、本来は男性が本能的に持つている「女性器への恐怖」を示しているとも言われている。女性の陰部が口腔に似ていること、性交時に男性器が見えなくなる不安、そして生気に満ちていた陰茎が事後には萎えていること……そういった実際の現象に由来するのだろう。だがしかし、この時の錯乱中の彼女がどういった心境で、こんな意味深な嘘をついたのかは定かではないが……。もしかしたら「ヒト」のフレンズには、こういった「人類全体の潜在意識」めいた思考が時々混ざるのかもしれない。のだ！ 危な

「いつ！ か、噛み付くっ！」

私は混乱ついでにおかしな出まかせを言った。

「なに、歯だと！ ……望むところ！ アカシアの木のトゲで慣らした、私の舌さばきを見せてやろうじゃないの！ ヨシ！」

「ヨシじゃねえよ！」

ああっつ！ 乱暴はやめて！ このけだもの！

まあ、実際けものですけど……。

「はいはい！ キリン、そこまでにしときなさい」

……と、そこへ……！

夜の闇に紛れ、いつの間にか背後に回り込んでいたカラカルが……制止する暇もなく、気づけばすでに、キリンの後頭部に強烈な打撃ツツコミを加えた！

人間の格闘技で例えれば、打ち下ろし掌底……平たく言うとな肉球ネコパンチだ！

「がりでぶウっ！」

へんな悲鳴をあげて地面へ顔から叩き付けられるキリン。

「だ、大丈夫か、キリン？ 受け身取れずに、やばい倒れ方したけど……」

「カラカルさん……あ、あなたのほうも、キリンほどではないにせよ、たいがいパワーあ

るから……」

「キリンは丈夫な体してるからだいじよぶよ！　へーきへーき！」

「そ、そういうものですかあ……？」

「あいだだだ……なな、いきなし何するのよおつ、カラカル！」

何事もなかったかのように起き上がるキリン。

「おお、良かった……生きてますね……」

「あたしも黙って見てたクチだから、エラそうなコトは言えないけどさ……しょうがないわよ、泣かれちゃったらねえ」

カラカルがそう言うと、キリンが私の方を振り向く。

……手のひらで顔を拭くと、そこには水分が残っている。サバンの夜の乾燥した風を受けると、気化熱【気化熱】涙や汗じたいが冷たいわけではない。水が蒸発（表面からの気化）するためには周りからのエネルギーが必要であり、この場合は肌や空気からエネルギーが熱として水分へ移動する——つまり水が水蒸気になる際の吸熱作用で「冷たい」と感じるわけだ。これが気化熱（蒸発熱）の原理。より気化しやすい「アルコール」だとさらに実感しやすい。「水」はとくに気化熱が大きい液体（水が蒸発するため必要なエネルギーは、同量の水が0℃↓100℃になるのに要するエネルギーの5倍！）

で、この性質はさまざまな分野で利用されている。いちばん身近な例だと、消火の際に水をぶっかけるのも気化熱で火の温度を大きく下げたためだ。またエアコンや電気冷蔵庫、自販機の「ヒートポンプ」も気化熱で冷却するしくみだ。「打ち水」や「非電化式の冷蔵庫」の冷却原理もそうだ（さばんな屋敷到達回のTIP参照）。そしてあの有名な科学技術の象徴であるおもちや「水飲み鳥」の動きにも気化熱が深く関わっている。でひんやり冷たい。

……うむ、確かにこれは……。

涙も鼻水も出っぱなしで、大層みつともない顔を晒しているじゃないか〜！

（おまけに下半身は脱げている〜！）

「ハナコは人前でオシッコするの恥ずかしいのよ。昼間に出会った時もそんな風にしてたから」

カラカルが私に語り掛ける。

そういえば、今朝そんなこともあったな……。

色々な事が起こりすぎて……ずいぶん前のように思えるが……。

「つまり何かを隠してるワケじゃなくて……たんにイヤだっただけなのよ」

キラリンに向き直ってカラカルは解説した。

「え……そ、そうなの……ハナコ？ それ本当？」

キリンが先ほどとは打って変わって「打って変わって」がらりと変わって、全然違う様子で、正反対に……といった意味。よく考えるといったい何を打つのが分からないが……。「打つ」には「勢いよくぶつける」「(囲碁や将棋、麻雀などを)遊ぶ」のほかにも、「何かを強く刺激する」「感動させる」など「心を打つ」ほうの意味もあり、それらのイメージによって驚きの度合いを強めるために使われているのだ。※使い方の例：ほくむつ。せんせえは　こかいんお　うって　かわつてしまった(作文byキリン)、自信が無さそうに尋ねてきた。

「は、はい……」

と、私は(尻を出しながらの姿勢で)肯定の返事をする。

「うもおおおーっ!!　ぐ、ぐめんなざあぁいいーっ!!」

「わっ!!」

するとキリンは突然ものすごい大声を張り上げて泣き出し始めた。

私はひどく面食らってしまった。

「お、お願いだから、泣かないで。もう気にしてないから……。ちゃんとかわなかつた私も悪いんだし、泣かないでよ!」

「ずびっ!!　……ホ、ホントに気にしてない?」

彼女は顔を上げて、涙と鼻水をすすりながら言った。

「ハイ、ぜんぜん気にしてません!」

「わ、分かったわ! 私、泣くのは止めて……ハナコにおしっこを飲ませる!」

は……!?

な……なんなんだあ〜!! この展開は〜?!?!?

私はひどく面食らってしまった(二回目)

「ヨシ! さあお尻の毛皮を全部取ったわよ! 好きなだけ舌で舐めてちようだいっ、

がんばって出すから!」

「いやいやいやいや!! 見せんでいいから!! 早くパンツ穿いて〔パンツ穿いて〕着用するの意味の「はく」には履くと穿くがあり、「履く」は靴やソックスなどを脚部に着ける場合。対して「穿く」(※常用外漢字)は部首が穴冠であり「穴を穿つ」という言葉があるように、穴に足を通すという意味があつて、下着やスカート・ズボンなどを腰に着用する場合の漢字。というわけで「パンツを履く」のほうにしてしまうと正確に言うとは誤字です。と言つても、もともと中国語では「履」は「1:クツ・はきもの、2:踏む」の意味のみで、着用するという動詞の意味はなく——日本語ではきものを「履物」と表記したとき、「履く物」と解釈され、俗語的に動詞化したという由来があり。そのため、現代中国語ではパンツもソックスも「穿く」だし、日本でも明治時代〜戦前にかけての学

校教育はそうであつたとか……。今でも靴下や足袋の場合は、時々どっちの漢字を使うか意見が分かれます。どちらでも使える「着く」(着くじやない)という表記はほとんど定着していないもよう……。もういつそのこと漢字をひらいて「パンツはいてない」とするのが一番面倒くさくないかも？(マヌケな表記になっちゃいますが)!!」

「吐く? いや、『によ』というのは出すものよ!」

「そ、そういう問題じゃないツ!」

「つまり、私がしたのと同じことをするのよ、じやないと私の気が済まない! おしっこ出すから飲んでちょうだい!」

「どういうことか全然わからん!!」

「げっひっひ! あんたら、すつごーいおもしろいわねえ〜!」

カラカルがカラカラと笑っている。

「み、見世物でやってんじやないですよツ、こっちはっ!」

「そうよ、こうめいせいだいでげんせいなきいばんなのよ、これは!」

理解不能な状況だが!!

だが……: そういえば、思い出したことがひとつ……! :

「ちよつと待て、キリン! ……キリンが私を脱がす。カラカルがキリンを叩く。……

とすると次は、私がカラカルに何かするべきでは？？」

私は建設的な？提案を思いつく。

「にやつはつはく、なにそれー？全然わかんない！」

「よくし……カラカルさん!! ……じゃあ、アンタの尿を飲ませてもらおうッ！」

「わあ〜っ！ うひゃひゃ！ や、やめてよ〜！」

「ヨオーシ！ ハナコ、手伝うわよ！ それ捕まえたっ！」

キリンの加勢だ！頼もしい！

「おのれカラカルもうゆるさん！ 脱げオラッ！ おしっこ飲んじゃうぞー！ が

おーうー！」

「うわあー、二対一なんて汚いわようー！ くすぐった〜いっ！」

「よいではないか〜！」

「あ〜れ〜！」

私たちは時代劇の悪代官のごとくカラカルのスカートベルトの帯を引っ張って回した。くるくると回転するカラカル！

「あ〜……」

後ろからアードウルフの気弱な声である。

「なんですか？ 今忙しいんですけど？」

「お、お取込み中、もうしわけないですがあゝ……」  
 「でゆふふふ……アードウルフちゃんも回されたいのかなあ？」

あれ、なんか私、すつごくキメエような……？ まぎれもないド変態のセリフでは？  
 満月にあてられたせいだろうか？

「あゝ……こんなじゃあ、『さいばん』のほうが進みませんよ！」

あ……そーいえば、すっかり忘れてたな。

だが！

「ううゝ うゝぎも ぢわゝる っ!! げろっぴ!!」

「ぎゃあつ!!」「グエゝつ!!」「きやあー!!」

うおお！ カラカルが回りすぎてゲロった「ゲロった」ゲロる「吐く」の俗語で、同様に「自白する」の意味もあるが、今回はそのままの意味。ちなみに（イエ）ネコはよく吐くけものだ。消化できない毛や骨を吐けるように、進化の過程で吐き戻ししやすい胃腸構造になったと言われている。ゲロのおもな原因としては、過度の毛づくろいや胃腸炎、便秘、強いストレスなど——ネコ科は敏感なけものなのです。空腹時に消化液を吐くこともあり……透明な液体や白い泡は胃酸、黄色い液体は胆汁だ。というわけで、吐いたあと元気そうにしていれば大丈夫（である場合が多い）。ゲロを防ぐには、余分な

毛を飲ませないための適度なブラッシングや、適切なエサを与えるなどの食事管理が大切。だが……何度も嘔吐を繰り返したり、嘔吐物に便臭や薬品臭がしたり、内容物に血や異物が混じっていたり、食欲不振・下痢・瘰癧けいれんなどの他の病状も見られる時はキケンかも！ 気になるときは獣医さんに！ 消化器系の病気や食中毒、ウイルスや寄生虫による感染症などの可能性がある。とくに体力のない子猫の場合は、嘔吐や下痢による脱水症状や栄養失調が著しいので注意が必要。……なんにせよ素人判断するのは難しいので、ヒトと同じように専門家の診断をおおぐべきです。！

こうして私とキリン（と、とばっちりでアードウルフ）は光り輝く虹色の洗礼シャイニング・レイン・ポー・シャワー「光り輝く虹色の洗礼」カッコつけたコトを言ってるけれど、要するにゲロです。しかも七色に光るゲロだっ！ フレンズやセルリアンの嘔吐物がこのように虹色に発光する現象は、消化時に食物から得られる超生命物質「サンドスター」が、胃の内容物に濃縮されるため。構造色（ディスクの裏側や、油、シャボン玉、タマムシの鞘翅さやばねなどの虹色）ではなく、「チェレンコフ光」のようにサンドスターそのものが発光するようだが、詳しい原理は不明。……余談だが、アニメや漫画で嘔吐物が光る演出、いわゆる「きれいなゲロ」表現は、アニメ『あしたのジョー2』の出崎統監督でいとおさむの発明だと言われている。夜7時の放映時のゴールデンタイムのお茶の間の食卓でリアルなゲロ描写はNGですものね……。を受けるハメになったのでした……。

……さて、それはともかく……。

フレンズたちで討議した結果……!!

草むらの陰でビニール袋（例の民家から拝借してきたシロモノ）に採取したサンプルを、キリンの舌で検査してもらうハメになったのだが……!?

「どうですか? 『による』のせいぶんにも『はつじよう』のちよーこーは見られますか? それかヒトであるかどうかの、はんだんざいりようになるでしょう」

へびクイワシが興味津々に尋ねる。

さあ、裁判長の判定はいかに!?

「……うーん……じつを言うかねえ、よく分からないの……何でかしらね?」

さほど悪びれる様子もなくキリンが言った。

「お、おいっ! なんだよそれッ!」

「ご、ごめん……」

「さんざん話を大きくしといて、得られた結論がそれかい!」

私は怒って言った。

「まあまあ、そう怒らないでよ、ハナコ」

「し、しかし……」

さらにキリンに食ってかかろうしたが、カラカルが仲裁に入った。

「も、申し訳ないけど……ぐむむ……な、なぜかしら？ きつと同じキリンのものじゃないと、分からないのだっ！ つまり『ハナコはキリンではない』ということは確実よ！」  
「おおっ！ これで裁判は一步前進しましたね！」

……お、怒る気も失せるなあ、この呑気さは……。

かくして「被告人がヒトか否か」の議論は振り出しに戻ったのである……。

さて、そんな調子の裁判を見て、傍聴席のフレンズたちは口々におたがいの意見を言い合っている。

『かばんさん』と同じヒトでしょ？ にしてはよわすぎじゃない？ かえんほうしゃ〔かえんほうしゃ〕伝説によると、背中に「火炎ぶくろ」を持つ『カバンサン』は、超高温火炎放射を口から吹いて、山ほども大きな黒いセルリアンを一瞬でマグマのように溶かしたと伝えられている。怪獣かよ。そしてジャパリパークの港『ひので港』の付近には、角柱状の黒い岩肌が特徴的な海食崖があつて、現地のフレンズは「こりや巨大黒セルリアンの顔や脚や体の残骸の部分！ かばんさんのすーぱーパワーの証拠っつ！」とウワサしているが……。まさかそれほど大きなセルリアンがはたして実在したかは怪しいものだ……。たとえばマグマが角柱状の岩石となった「柱状節理」地形のある

福井県坂井市「東尋坊」のように……火山活動や地殻変動、波風による浸食作用などの自然現象によって形成された、ただの「珍しい海岸地形」にすぎないのでは？（※ちなみに上述の変わった名前の海岸は、極悪非道の悪行を繰り返して住民を苦しめ、好きなお酒につられて海へ突き落されて死んだ僧兵「東尋坊」に由来する）。それにカバンサンなる人物も、やはりどこかの軍人か何かで……おそらく火炎放射器などの武器を使っている姿をフレンズたちが誤解し、そのウワサに尾ひれがついて流布されたと推測できる。フレンズもヒトも、未知の存在や現象に対しては往々にして……今持っている知識・常識のみで判断し、およそ現実とかけ離れた認識をしてしまうものだ（「カバンサン伝説」考 by サバンナハナコ）とかできるの〜？」

「うーん。でも、アードウルフも『ハイエナのなかま』だけど、よわいからね」  
「ハ、ハナコさんはわたしと違って、強くてたくましいフレンズなんですよっ！ ハナコさんがヒトなら……ヒトは間違いなくいいけものですっ！」

セーブルアンテロープとスプリングボックとアードウルフが、こんな会話をしている。

『ヒトが良いか悪いか』というモンダイは、『サバンナハナコが良いか悪いか』とは、同じモンダイではないでありますしう」

へビクイワシが論理的な事を言う。

「『良い動物か、悪い動物か』はともかく、ハナコは『面白い動物』だと思わうわ！」

体調が回復して法廷に復帰したカラカルの発言。

「うむ、ワレも同意する。おぬしはよき遊び相手なり」

バーバリライオンも彼女と意見が一致したらしい。

ね、ねこじやらし「ねこじやらし」正式和名は「エノコログサ」。東アジア原産、イネ科エノコログサ属の植物だ。この和名は「イヌっこ草」が訛ったものらしい……もちろん穂がイヌの尻尾に似ているため。どこの国の人も同じようなことを考えているように、英語ではきつね草<sup>フォックステール・グラス</sup>、中国語では狗尾草だ。ところでエノコログサの穂は食べられません。というのも、本種はアワの原種であり、アワ栽培文化とともに日本に渡来した植物なのだ。現代でもアワとエノコログサは簡単に交雑してしまい、交雑種「オオエノコログサ」はアワ畑の周囲でふつうに見られる雑草だ。かつてはコムギやオオムギの雑草あつかいだったライムギやエンバクのように……将来エノコログサも穀物として、その「犬の尻尾」の中身が食される日が来る……かもしれない。か私は……。

あと、ふたりとも、さつきから「頭突き」かましてくるのはやめてね……毛がふさふさして気持ちいいけど……。

「やはり『ひこく』は『おしり好き』という点でありましょう！　これが『ヒトかどうか』

という証明になるはず！」

自説を再度主張するヘビクイワシ。

「ヨシ！ カモノハシ」「カモノハシ」オーストラリア大陸東部・タスマニア島の熱帯雨林などの水辺に生息する、カモノハシ目（単孔目）カモノハシ科カモノハシ属のめずらしくけもの。この単孔類というのはカモノハシやハリモグラの仲間だが、オーストラリアに2科3属5種しか存在しないのだ！ カモノハシの毛皮は、外側は撥水性・内側は断熱性が高い二層構造で、潜水時の防水・保温に優れる。ビーバーのような尻尾は、水中移動時の舵取りに使えるものだ。陸上では水中ほど自由に動けないが、水かきを引つ込め収納していたツメを出せば、それなりの速度で走れる。この隠しツメは水辺に「長い巣穴」を掘る際にも活躍し、まさに水陸両用けもの！ また、後ろ足にはオスメスともに蹴爪があるが、オスのみそこに強力な「毒」を持つている。この毒はオス同士の争いで使われると考えられる。「鴨嘴かものはし」の名どおり、カモノそれに似る黒いクチバシは弾力があり敏感な触覚で触れたものを判断できる、指のようなもの。クチバシ内には太い神経が通っており水中の「生体電流」を感じるセンサーがある（左側のみに存在する、らしい？）。生物には常に微弱な電流が流れているので、この電エレクトロロイオン気定位置能力により、視力の弱いカモノハシでも、濁った水中で20〜30cm先の獲物の位置を正確に察知することができるのだ。！ お尻を見せてあげなさい！」

「まかせなさい！ 私のらけつとを見よ！」

キリンの一声により、スカートをめくって尻尾を見せてくるのは、先ほど騒いでいた褐色のテニスウェアを着たフレنز。あなたカモノハシだったのか……。

「あれえく？ なぜ？ なんで？ どうしてぜんぜん興奮しないんですか？」

怪訝な顔をするへビクイワシ。

「そ、そう言われても……」

それは見せパン、アンスコ〔アンスコ〕アンダースコートアンダーコートの略。英語だと アンダーunderskirt とつづるが、じつは和製英語。ブルマに似た女性用の運動用下着で、テニス選手がスコート（テニスウェアのミニスカート）の下に着用する。ミニスカートがユニフォームであることが多いチアリーダーや、バトントワラー、ゴルフアー、ボウリング選手、アイドル歌手、特撮ヒーローもののヒロインや女幹部が着用したりもする。しかし最近では、スコート一体型のユニフォームやスパッツ、短パンが主流になってきていて、大手メーカーも生産を縮小 or 中止しているとか……。ブルマと同じく、時代の流れです。なお下線アンダーラインの別名、アンダースコア（↑コレ）のことをこう略すこともある。古くは英字タイプライターの時代から使用され、もともとはこのようにして、タイプ位置を数文字もどしてから語句に下線を上書きして、強調表現のために用いられた。でしよ。

「わ、わたくしのかせつ」「かせつ」仮説。何かの存在や現象を説明するために、仮に立てる説のこと。仮に設ける説なので「仮設」と書いても一応マチガイではない（仮設住宅など一般的にはそつちの意味で使われるが）。「仮説」を立てる↓それを実験や観察で「検証」する↓間違っていた場合：仮説を立て直す／合っていた場合：より精密に立証する……というのが「科学的なプロセス」である。「宗教」や「オカルト」では、いくら用語や理論を体裁だけ科学っぽくつくろっていても……仮説を合理的に疑い論理的に検証するという、この仮説・立証の過程が存在しないため「疑似科学」にすぎないのである（と唱えたのはカール・ポパーという哲学者だ）。現代ではほぼ「常識」「事実」とさされている考え——地球球形説、地動説、進化論、遺伝の法則、DNAの存在……なども、最初はただの「仮説」にすぎなかったものが、科学者によって長い間、合理的にその妥当性を検証され続けた結果のたまものなのだ。がまちがっていたのでしようかあ……？ ヒトはお尻を見て発情する「ヒトはお尻を見て……」なに言ってるのこの子ら……（ドイン引き）な言動が目立つフレンズたちだが、よくよく考えると実は論理的なのである。なにしろキリンもヘビクイワシもこの中では随一の「有識者のフレンズ」だ。「尻を見る」と発情する↓ヒトであるはずだ」という動物学的な仮説を立て、それを確認するため「尿の成分を調べる」のは、まさに化学的な立証方法である（※「表情」の赤みなどは個人差があり、興奮度合い判断するのは合理的ではない、とふたりは考えている。そもそも

夜だから色がよく見えないし、さらにフレレンズによつて色覚に差がある問題もある)。しかし他のサルと異なり、直立二足歩行のヒトは尻よりも「胸」にも性的魅力を感じるものだ(※個人の嗜好によります。第1章4話の「おっぱい」のTIP群も要チェック!)。それに女の子が飲尿プレイをするという方法は、やはり(画的にも)非常に問題があると云わざるをえない。ハズですが?」

「すいりを確かめるには、一回だけのちよーさではだめよ! 次! 行きなさい、グラントガゼル」グラントガゼル(その1)東アフリカのケニア、タンザニアなどの地域のサバンナや半砂漠地帯に生息している中型のレイヨウ。動物図鑑やドキュメンタリー番組などで有名な「トムソンガゼル」の近縁種。生息地も彼らと若干カブっていて、ンゴロンゴロ保全地域やセレンゲティ国立公園、ナイロビ国立公園では同居している。グラントガゼルは捕食者への警戒のために見通しの良い草原を好み、数十頭の群れで暮らし、乾季には群れは数百頭にもなる。シマウマ、トムソンガゼル、ヌーなどよりも乾燥に強く、植物から必要な水分の多くを補給でき、ほとんど水を飲まなくても生きていける。草地を求めて「大移動」するときも、水場に依存しないため、他の連中とは違う方向に向かっていることがある。トムソンガゼルと比べると、グラントガゼルのほうが身体がひと回り大きく、ツノなど2倍近く長い。さらにグラントガゼルはお腹との境目の黒帯模様が無いが薄い(子供には黒帯があるが成長するにつれ消失していく)のが、見

分け方のコツ。！」

「さばんな走ってきたえまくったお尻を見るのでち〜！」

アワワ、アワワワワ!! グ、グラントガゼル「グラントガゼル（その2）」前項でトムソングゼルとグラントガゼルの違いを述べたが、サイズや模様は性差・個体差・地域差があり、分かりづらいことも多い。実際「グラントガゼルの幼獣」は親元から離れて、トムソングゼルの群れに混じっていることが多く、姿大きさが「トムソングゼル成獣のメス」と酷似していて遠目ではほとんど見分けられない。トムソングゼルの群れは子供や♂（ツノが重くて動きが鈍い）が捕食されやすく、標的にされにくいトムソングゼル♀に擬態することで天敵のチーターに狙われにくくなるメリットがあるのだ。ほぼ同じサイズ・同じ模様のトムソングゼルの成体とグラントガゼルの幼獣を見分けるためには、お尻を見るとよい。グラントガゼルはお尻の毛と尻尾によって「白いT模様」が確認できる……しかしトムソングゼルの尻尾は黒か褐色っぽくて、お尻が明瞭な「T模様」になっていない場合が多いのだ。で、このフレンズも実はグラントガゼルの「幼獣」の子で、外見はトムソングゼルのフレンズにそっくりらしいが、フレンズの中でも言動がちよつと幼いようだ。つ、つまり合法ロリでは……?!?の子のスカートの中身が!!

ワワ、アワワワワ……か、可愛い顔して……過激すぎる下着……純白のTバックがっ

……!!

こいつあゝ……し、刺激的すぎるぞ……。ひ、貧血が……。うーん、ばたん。

「あつ、びつくりして倒れちゃいましたよ」

「ありやく、全然お尻が好きじゃないみたい！」

「むしろ怖がつてるんじゃないですか？」

「いや！ みすてりいゝでよくある『死んだふり』トリックかも!？」

へビクイワシとキリンが反応に困っている声が聞こえる。

いや、怖いよ、怖いですよー。

まんじゅうこわい！ スベスベマンジュウガニは目に有毒！

「面白いわねえー。遊ぶときは、こういう子がイイのよー！」

「うむ。フレンズの体になって、食う寝る遊ぶのは、楽しいものだ」

「ホントなのにあゝ」

「食う寝る遊ぶのいがいは……ジャパリまんのオマケのよーなものね」

カラカルとバーバラライオン（と、いつのまにかそばにいるクロアシネコのフレンズ）が、ネコ科三人で私の太ももやお腹を手でふみふみ「ふみふみ（そのー）」イエネコの習性のひとつ。リラックス時に毛布や飼い主、一緒に飼われている犬猫などを、パンこねるような動きで前足で何度も踏む行動（※後ろ足ふみふみのばあいは発情のサインだ）。

なお踏めるものなら何でもいいわけではなく「ふみふみ対象」はちやんと選ばれるようなので、やはり愛着・愛情表現の一種らしい。自分の所有物や縄張りナールバリアを示すためのマウンティングの一種だとも言われているが。英語ではmilk ミルク、tread トレッド（乳踏み）やkneading ニーディング（パンこね）という。同時に吸い付くように舐めてくることもある。どうやら子猫が母ネコのおっぱいを飲むときに、乳房を揉んで乳腺の出をよくするため本能的な動きらしい。そういうわけで子猫によく見られる動作だが、オトナのネコの場合は、若くして母親を亡くしたネコによく見られるクセとも言われている。あるいは飼った猫のばあいは、甘えん坊な性格で親（飼い主）離れてきていないだけかもしれない。また、寝ているときにこの動きをすることもあるようだ（子猫だった頃の夢を見ているのだろうか……？）している……。

こ、好意と解釈するべきだろうか……？

ふさふさして気持ちいいけど……く、くすぐりたい！

「うひゃひゃ……あつ！ そ、そこはふみふみ「ふみふみ（その2）」……さて、このようにフレンズたちは言葉以上に「元の動物の動作」で意思を示すことが多い。そういえば彼女たちは、フレンズ化した時点でもとになった動物とは全く異なる意識を持つ、孤独な変異種ミュータントになってしまいうわけだから、フレンズ全員が親なき「けもの仔たち」なのだとも言える……。野生のネコ科けものが「ふみふみ」するかどうかは知られていない

が……ネコ科フレンズたちの仲間への「ふみふみ」は、元のけものから自立できない幼さの現れか？ あるいはもとの仲間たちを失ってしまった寂しさをまぎらわせる行為、なのかもしれない……。しても何も出ないよ！ 揉むなら肩にしてくれっ！」

「あれ〜？ ハナコはなんでフレンズなのにおっぱい無いの〜？」

「う、うるさいな！ 知らないよっ！ こっちが聞きたいですよっ！」

「な、なんで怒ってるのよ〜？ ヒトはヘンな所でおこるけものなのかしら？」

「だ、大丈夫ですか、ハナコさん！ さつきからはなぢ出てますよっ！」

「は、はい……いえ……大丈夫でない……」

今日生まれたばかりのおこさまフレンズには、この「裁判」はちよつと刺激が強すぎてね……。

このようにして……裁判官の小槌によりゴングが鳴つてからの短い時間で、法廷での流血試合は佳境を迎え、狂気・狂乱・狂騒……ここに極まれり、といった様相を呈し始めた！

しかし法廷が「無法地帯」とはこれいかに……。

「うにやつ！ フギイ！ ふぎやあああつ！」

「ぎやあぎやあつ！ ぐがあああ!!」

クロアシネコとラーテルが……また喧嘩している……。

今夜は満月【満月(その1)】月と太陽が地球をはさんで反対側に位置しているとき(天文用語では望<sup>ぼう</sup>と言う)の「まんまるな月」のこと。※月・地球・太陽が完全に一直線の時が「月食」だ。月齢(月の満ち欠け)の周期は、公転軌道が楕円であるために毎回変動するが、約29.5日。新月の時(天文用語では朔<sup>さく</sup>と言う)からおよそ15日ぐらいで満月になるため「十五夜」とも言う。こういう月齢をもとにした暦が、日本や中国で昔から使われてきた太陰暦(太陰太陽暦)だ。ちなみに満月は女性の妊娠した大きなお腹を想起させ、幸福や豊穰、恋愛成就など、女性的なイメージだとされてきた。一説によると……新月に生理開始&満月の頃に排卵を迎える「新月生理」のばあい、妊娠しやすい女性が多くなると言われる(※逆の「満月月経」のほうが良いという説もある)からだとか。それにつきのものというだけに、月経周期は約28日と月齢周期に近いのも、バイオリズムに何らかの関係があるようで……女性の方が男性より月齢に影響されやすいことにも由来するようだ。で……月明り【月明り】月はもちろん太陽の光を反射しているわけだが……月の表面の半球形のデコボコのクレーターが「再帰性反射材」(交通標識やガードレール、自転車ペダル、作業服などの反射材)と同様の原理で、ビーズやプリズムのように光を屈折させて返しているのだ。とくに満月のときは、半月や三日月のときより格段に反射率が高くなる。しかし満月の夜の明るさは0.251x(太陽

陽光の40万分の1程度と、意外と暗いもので、20m先の1000W<sup>ワット</sup>白熱電球の明るさぐらいだ。だが瞳孔が暗闇に慣れるおかげで、実際に月夜に歩いてみると意外と明るく感じる。大きな木や建物が皆無の、風通しの良いただっ広い熱帯草原では、よけいに明るく感じられるだろう。なお中国・南北朝時代の故事に「月光読書」という、「蛍雪の功」と同じような話があるが、読書には300〜500ルクスの照度が必要とされているので、さすがに月明りで本を読むのはキツイだろう。しかしさきほどハナコは、大看板の文字や落描きをしっかりと判別していたが……いくらライト付きとはいえ、この明るさのもとで、看板の細かな説明書きや隅っこの小さな落描きまで発見できるとは……。さすがに夜行性のフレンズには劣るものの、昼間だけではなく、暗所での視力も常人よりもそうとう高い証拠だ。で明るいのはいいとして……その影響だろうか、フレンズたちはテンションがやたら高いような（私も含めて?）

収集がつかない……誰かこの満月〔満月（その2）〕西洋では月<sup>ルナ</sup>は狂気<sup>ルナシー</sup>と結び付けられるけれど……じつさい満月の頃になると、ヒトは暴力的になると言われている。病院の搬送患者や警察での逮捕者が増えるという統計結果があり、満月の引力が体内の水分に影響する?などの仮説はあるものの……直接的な因果関係があるかどうかは分かっていない。月の満ち欠けは潮の満ち引きのリズムであり、ウミガメ・ウニ・ナマコ・サングオなどは満月の夜に産卵すると言われるように、海洋生物の行動に係しているよう

だが……。陸上生物だって、祖先もとは海の生物なのだから、月齢がバイオリズムに影響しているのかも？ なお、ここジャパリパークにおいては「満月や新月の頃に新しいフレズやセルリアンが生まれやすい」とか、「フレズもセルリアンも好戦的になりやすい」などの俗信がまことしやかに囁かれている。人工の照明の少ないジャパリパークのフレズたちは、我々現代人よりもはるかに「夜空に輝く月」の存在に影響されているのだ。の裁判に、終止符を打つてくれるものは、いないのだろうか？

いや、いるにはいたのだが……。それは動物でもフレズでもない、法廷への闖入者へいりしやに他ならなかった……。

それは全く唐突に……。どさり、どさりと次々に大きな音を立てて、たくさんの鉄錆てつさびくさい物体が広場にどこからともなく落下してきたのだった。

目の前に落ちてきたそれは子供こどものゾウの生首なまかぶだった。

「……………ツッ!!! うわあッ!! ひ、ひどい!! な、何なんだこれはッ!」  
私は驚いて叫んだ。

な、何故だ!?! どうして……。こんなひどい……!?

仔ゾウとはいえ、その大きな潰れた頭が……。その小さな眼が「ボクはどうして死んだ

「んだろう……?」とても言いたげな、うつろな表情でこちらを見ている……。

そばに落ちていている木の太枝や幹のような物体は……鼻や脚だ……。

夜とはいえ、満月の月明りのもとではつきり見えるし……その物体の、土埃がまとわりついて汚れた断面のねっとりとした血なまぐささ、死臭の<sup>リアルティ</sup>実感とでも言うのか……そういう臭いが感じられる。

間違いないそうさ。見間違えるはずがない。にせものであるはずがない。

これは、どういふことなのだ……!?

「ぎゃあっ!!」

「ひいッ!!」

「な……!?!? なんなのこれっ……!?!」

フレンズたちもあちこちで悲鳴を挙げている。

空から落ちてきてばらばらと周辺に散らばった物体……。

ほとんど原形をとどめていないが、その毛皮の模様やツノの形から判断すると、シマウマやレイヨウなどの動物の、ばらばらになった死骸だ。

「かわいそうに……!?! どうしてこんな……!?!」

非常に強い、圧倒的な暴力で……まるでミキサーにかけられた柔らかい野菜のよう

に、切り刻まれ、捻り潰された遺骸の数々……!? もはや何頭なのかも判別できない……。

くそつ、どうすればこんなひどいことに……!!

まるで……大型の爆弾か地雷で吹き飛ばされたような……!?

だがなぜ、陸上動物のバラバラ死骸という、ありえないものが空から降ってきた【ありえないものが空から降ってきた】ファフロツキーズ現象……FAFROTSKIES (F A I I s F R O m T h e S K I E S) : 魚やカエルなど、空から異物が降ってくる現象のこと。命名はアメリカの動物学者、兼超常現象研究家のアイヴァン・T・サNDERSONだ(この人は「オーパーツ」「グロブスター」などの用語の発案者で、あの「黄金スペースシャトル」説の提唱者でもあるオカルト研究の大家)。だがUFOやオーパーツなどと違い、生物が雨のように降るといふ怪奇現象は古来世界各地で知られており、確実な文献により歴史記録として残されている……。日本では、2009年の「オタマジヤクシ騒動」が記憶に新しい(※これはサギやウミネコの吐き戻しが原因らしい)。「怪雨」の原因については諸説あり、竜巻などの気象現象が原因説、鳥が犯人説、誰かのいたずら説、集団錯覚説などがあるが、原因が不明である場合も多い。最も特異な例として、1876年にアメリカ・ケンタッキー州で起きた「ケンタッキー肉の雨事件」——謎の肉片(ウマかヒトの幼児の肺組織・軟骨・筋肉と科学的に断定された)が大量

に降り注いだ事件などはフィクションではなく、まぎれもなく実在の未解決事件である。ハゲワシが犯人という説や、肉によく似た細菌の塊だったという説など、諸説あるが……限られた場所だけに、数分間にわたって肉片が降り注いだなど不可解な点もあり、「天からの贈り物」などと信じる人もいるが、はたして真相は……？ だがしかし今回のジャパリパークのように、大型陸生動物の頭部や四肢が降ってきた、という不気味すぎる事例は報告されていないが……。のだ……。?!?!

「待てッ!! 全員、そこから動くなッ……!!」

バーバリライオンが吼ほえた。

先ほどとは別人のような、その獅子の一声。恐慌状態パニックに陥り、今にも四方八方に逃げ出そうとしていた草食動物のフレンズたちは、黙もくって微動だにしない。

「皆、落ち着け……むやみに動いてはいけない。敵の思うがままになる……」

「て、敵ですか……？ 何者でありましょう？」

「くんくん……これは……！ デカいのが来てるわね……！ 混ざって分かりにくいけど、遠くの血の臭いが風に乗って、うっすらと……！」

今までじゃなかったのは別人のように、カラカルとバーバリライオンが豹変

【豹変】がらりと変わる事。由来は古代中国の占術に関する書物『易経』の『君子は豹変し、小人は面を革む』(立派な人は自分のマチガイをすぐに認めてこれを正すが、器の小さい人間は表面的に変わったフリをするだけ)という文から。ヒョウの模様は、丸っこい輪っかが、体に、散らばってますやんか。季節ごとにヒョウの毛皮が生え変わり、その丸っこい輪っかの斑紋が美しく再生するように……態度や言動を良い方向に変えることが「豹変」なのだ。だが、現代では悪い風に使われる場合が多い……。近代以降、猛獣であるヒョウは動物園やテレビなどでかんたんに見られるようになり、そのふだんのダラダラつぷりと捕食時の凶暴さのイメージが言葉の意味に影響しているのかもしれない。　　して言う。

「遠くに……セルリアンがいる!!」

最初から、わけのわからないことだらけだが……唯一わかることは、どうやらこの動物裁判は、私の予想をはるかに超えて、とんでもなくまずい展開へ進んでいつていただけだ……。

## 第10話 セルリアンが戦車でやってくる [▲]

深淵の闇の中で、カラカル、バーバリライオン、クロアシネコ……3人のネコ科のフレンズたちは低いうなり声をあげながら、あちこちを見回しはじめた。

彼女たちの眼は光り輝き、瞳孔を丸く拡大させている。まるで本物のネコの眼【ネコの眼】ヒトは明所で色彩や遠方がよく見え、ネコは暗所でもの輪郭や動くものがよく見える。ヒトの平均視力では30〜60m先でも物体がハッキリ見えるのに対して、イエネコは約6m先までしかクッキリと見えない——つまり単純な静止視力では、ネコはヒトの10分の1しかないのだ。これは、ヒトの網膜には色彩を感知する「錐体細胞」が多く視野の解像度が高いためだが、ネコ科の網膜にはもの輪郭を見分ける「桿体細胞」が多く、しかも赤色を認識する錐体細胞を持っていないので、色の認識が苦手で遠景がボヤけてしまうが、かわりに暗視能力が高い（ヒトの7倍！）。さらに、ネコは「楕円形」瞳孔により、暗所でも光をたくさん目に入れることができる。※楕円形の瞳孔は夜行性動物の瞳孔に多い形で、円形のものより大きく開閉することができる。暗所では大きく開いて光を採り入れ、明所では瞳孔を細く閉じて採光量を減らし敏感な視覚を守っている。加えて彼らは網膜後部のタペタムという「光反射鏡」器官で光量じたいを2倍に増

幅している。※暗所で連中の目が光るのはこのタペタムで反射しているから。そして！ 彼らは網膜の桿体細胞の多さで「視覚のリフレッシュレート（≡知覚間隔の短さ）」が高く、つまりヒトには残像としか映らないようなすばやく動くものをしつかりと一枚一枚の静止画のように認識できるのだ！ 逆にカメのような遅すぎるものは止まって見えてしまうが……。なお、こういったネコの視認能力を受け継ぐネコ科フレンズたちが、人間用ビデオ（ヒトの目の錯覚を利用してあるもの一つ）を視聴する場合、フレームレートを調整しないと正常に視聴できない（明滅する一連の静止画としか認識できない）といった困った問題もあるとか……。のようだ……。文字通り光り輝いている……。

月光や大看板の照明の反射ではない……。どういう仕組みか発光しているのだ……。またその大きな耳もせわしなく動かしながら、敏感な嗅覚も駆使して……。五感を総動員して、私に見えないものを一心に探っているのだ……。

この「バラバラになった私たち」を天から降らせたもの——闇の奥に潜在する「敵」の正体を……。

他の夜目や嗅覚・聴覚に優れるフレンズたちも落ち着きを取り戻し、敵の位置を探知し始める。

「……あ、あつちですッ！ セルリアンが……。遠くに……。大きな……！」

アードウルフが私の服にしがみついで言った。

私は廃車のすきまから覗いて、彼女が指さした方向へと目を凝らした。

夜目が利かない私でも……満月の明かりのもと、遠くに巨大なシルエットを目視確認できる。

すぐそばにあるアカシアの木（アリ塚と合体している大木だ）と比較すると……相当な巨躯！ 体高3、4mはありそうだ……。

その巨体が月の光に照らされて大きくなつていく……！ こちらへ近づいて来るのだ！

「ナイルワニー！ オレたち『はちゆうるい』の出番だ！ 孔<sup>ピット</sup>」

「ピット」「ピット器官」とは一部のヘビの持つ熱（＝赤外線）感知器官のことで、目と鼻の間にある穴のようなモノがコレ。ニシキヘビ科、ボア亜科、マムシ亜科のみにこの感覚器がある。よくヒトの技術の「サーモグラフィ」に例えられるように、ヘビの脳内では熱源が「空間画像」として処理される。だがその起源は「触覚」であり、熱だけ敏感に感じ取るように進化してきた器官らしい。事実、爬虫類のピット器官に相当する哺乳類の神経細胞とは、触覚の一種である痛覚器官の「ワサビ受容体」なんだそう。そしてヘビのピット器官とは全く別物だが、クロコダイルのお腹のウロコ（鱗板<sup>りんばん</sup>）にある「穿孔<sup>ピット</sup>」という穴もまた

熱感知器官だ。このピットはクロコダイル科以外のワニ（アリゲーターやカイマン）には存在しない。陸上によく上がるクロコダイルのみが、陸上哺乳類や鳥類などの恒温動物を能動的に狩るために進化させたものであると考えられている。……というわけで、こういった上記の熱感覚がサンドスターによりさらに研ぎ澄まされているのがニシキヘビやナイルワニのフレズだ。太陽の沈んだ夜間、彼女たちが「フードの鼻」や「お腹のウロコの孔」を相手に向ければ、この「熱を見る目」で、かなり遠くの熱源でも正確に感知することができる。で見るぞ！」

「もうとつくに熱視<sup>み</sup>てるのじゃよ、ニシキの「ニシキの」錦野さん、誰……？　いきなり新キャラ……？　ではなく古風な呼び方をしているだけ。このようにミョージに「の」をつけて呼びかけるのは時代劇のセリフなどで見かけるが、文法的には「の」以下のことばを省略しているとも言えるし、接尾辞の「の」をつけているとも解釈できる。！

「デカイ、熱いのを……ビンビンに感じるのじゃ〜！」

「アフリカニシキヘビとワニがセルリアンの方角を見て言った。」

「……セルリアンの体の上に、何かが張り付いている……？」

「この冷たいものは……シマウマやレイヨウだったものじゃるか……!？」

「ふたりはとても冷静だ。」

彼女らに熱視<sup>み</sup>えている死骸の様子から、状況を分析している。

「さつき空から降ってきたものも……？ いや、だが、温かさを見るかぎり、まだやられてスグのはずじゃがの……？」

「短い間に、あんな風にできるものか？ いったいどうやったたら、あんなバラバラに？」

「うゝむむむ。ライオンやハイエナのアゴでも、こんなのは無理じゃろけどなく……」

彼女らの会話を聞いて、グレビーシマウマや、オグロヌーやインパラたちレイヨウのフレンズが、小さな悲鳴を上げる。

顔がひどく蒼ざめて見えるが、月の光のせいだけではないだろう。

集まったフレンズ全体に、不安と焦燥が悪い病気のように伝染していく……。

「ど、どうしよう！ せんせい!?!」

「落ち着くのでありましょう、キリン」

その場の恐怖の空気を感じてか、キリンとヘビクイワシが意見を言い合いはじめた。

「こ、こうなったらみんなで戦わなきゃ！ この広場で取り囲んで、迎えうつべきよ！」

「いえ、ここには戦いがニガテナ子【戦いがニガテナ子】<sup>フレンズ</sup>レイヨウやシマウマなどのフ

レンズは、基本的に「逃げ癖」がついてしまっている子が多い。彼女らにはアスリート並みの脚力やスタミナ、頭部の髪の毛をツノ状に硬化させての突き刺し攻撃など、一部の身体能力においては決して大型肉食獣のフレンズに引けを取らないのだが……。も

との動物の習性に由来する精神こころのあり方が戦いに向いていないのだと言える。さっきの「バラバラ肉片の放り込み」だけで、もうオロオロと逃げ腰で挙動不審になっているフレンズたちは、これから戦力としては期待できないだろう……。今いる草食動物のメンツで戦いが得意なのは、大型動物であるキリンだ。彼女が好戦的なのは、探偵小説から影響された正義感だけでなく、気性の荒い大柄な雑種オスキリンからフレンズ化しているのも理由だろう。あと戦えそうな草食の子は……。あの「丸い耳のゾウのフレンズ」ぐらいのものか……。だがセルリアンにビビりまくりのこういった草食動物に対して、逆に肉食動物のフレンズは、むせかえるような血の臭いと緊張感により、五感や闘争心が研ぎ澄まされている。もいますし……。ここはいったん逃げるといふ手も……」

「で、でも……みんなバラバラに逃げただけじゃ、きつと犠牲者ひがいしやがでるわよー」  
 「セルリアンにやられたこの動物たちみたいに……でありますようか？」

「あいつは、なんだか分からんけど、とにかく「とにかく（その一）」いずれにせよ、他のことはさておき、最優先事項として、といった意味。「とかく」とも言い、どちらも漢字で書くと「兎角」で、中国や日本の仏教古典に登場する「兎角亀毛」という言葉が元ネタ。ツノの生えたウサギや、毛の生えたカメなど、「ありえないもの」のたとえだ。しかもこういうヘンな生物が出現することは戦乱の起おこきる凶兆きょうしやうであると書かれている。しかし「とにかく」の意味と、この「兎角亀毛」とは全く関連性が無く、実はただ漢字

を当てただけである。この当て字は夏目漱石が頻繁に使用したことで有名になったらしい。『とかくに人の世は住みにくい』という『草枕』冒頭の文章などとくに有名だ。すつごい強いセルリアンよ！ やつぱりみんなで戦うべきね！」

「……で、でも戦うと言つても、わたくしたち『やこうせいでない』フレンズには不利ですし……。ああ……。どうしましょう!?!」

「ハナコ被告つ、あなたは どう思いますか?!」

ヘビクイワシが突然振り返つて私に尋ねてきた。

「えっ!? ああ……。これは、セルリアンを全然知らない私の考えですが……」

私は自身の見解を言い始める。

「逃げるにせよ戦うにせよ、まず敵の攻撃の正体が分からないことには……。ヨシ! とにかく「とにかく(その2)」とところで注目すべき事実がある——なぜかツノのあるウサギの伝説が世界中に存在するのだ! 中世ヨーロッパの伝説の獣「レプス・コルヌトウス」、イスラム教の幻獣「アルミラージ」、米国の都市伝説UMA「ジャツカロープ」……などなど。実は「シヨープ乳頭腫パピローマウイルス」なるものに感染したウサギには角状の腫瘍が患部から生えてくるという症状がある。この病気は現代ではおもにアメリカ中西部で見られるのだが……。過去にユーラシア大陸で同様の病気が起こり、それをモデ

ルに頭からツノの生えた恐ろしいな風貌の幻獣が生まれ、あちこちに伝播した……のかもしれない。このように、ヒトの想像力を超越した本当にありえないものなど、世の中には存在しないのかも？私、ヤツの様子を偵察<sup>み</sup>てきますっ！」

「あ、ちよつと！ ハナコ！」

私はフレンズたちのもとを離れると、大看板のそばに積み上げられた廃車の壁バリケードのそばに停められた高所作業車「高所作業車」トラック型の大きなものもあるが、ここで登場したものは小型のキャタピラタイプ。履帯上部に取り付けられたゴンドラが、油圧ジャッキで上下に可動する。木にいちいちハシゴをかけ直して昇り降りするよりだんぜんラクで、同様の機械が国内のリング農園などで使用されている。ここの廃車はアームが伸びっぱなしで、バスケット部分が高所に固定されており、そばの廃車のくぼみに手をかけていけば、上までよじ登れるのだ。どうやらナツメヤシなどの背の高い果樹の剪定や収穫用の作業車のようなが……。このジャパリパークには食料生産ジャパリまんのための耕作地やプランテーションなどが点在しており、そういう所で使用されていた作業車なのだろう。なお、こういった耕作地のそばにある地下水の「ため池」は、昼間にハナコたちが休憩した「水場」のように、フレンズや動物たちの休憩場所になっている。の荷台によじ登り、そのまま上を目指す。

大看板に設けられたメンテナンス用の足場にたどり着いた……。

この高所ならセルリアンの観察にちようどいいし、ヤツの攻撃に対しては、この位置なら、看板すぐそばにまで積み上がった廃車の山が遮蔽物【遮蔽物】しゃへいぶつ正体不明のセルリアンだが……先ほどの「肉の怪雨」現象は投石器のようなもので動物の死骸を広場に投げ込んできたのだ、とハナコは推測している。「敵」は何らかの投擲攻撃とうてきを使えると警戒して、このように用心して「廃車の防壁」に隠れているというわけ。しかし、こんなスカスカポロポロの廃車がはたして遮蔽物かばいぶつとして使えるのか……非常に不安が残るが……。になつてくれる。

そばの車両のエンジンブロック〔エンジンブロック〕攻撃された場合に備えて、フロントエンジン車の前方側面のエンジンブロック付近に身を隠している。洋画や刑事ドラマなどで車のドアを盾に隠れている描写があるが、ふつうの車のドアの鉄板など、拳銃弾も防げないどころかライフル弾なら簡単に貫通してしまう。最近の軽量化された車のドアなんて、小口径軽量のアサルトライフル弾でも楽に2枚ぐらいブチ抜けるそうだ。しかし、大口徑の対物ライフル弾でも貫通できないどころか機能停止させることすらできないほど強固なエンジンブロックや、ブレーキやシャフトなど内部構造がゴチャゴチャしているホイール付近などは、比較的防弾効果が高いと言える。に体を隠す。完全に廃車スクラップのそれは、エンジンが爆発する危険性【エンジンが爆発する危険性】この廃車ヤードの車はガソリンがとつくに気化して完全に無くなっているため、エンジンに攻撃

を受けても当然爆発しないが……実際の事故車の場合も、映画やゲームのように銃撃や衝突で瞬時に爆発炎上することはない——内部のガソリンが漏れ出して、さらに電気系統のショートや衝突時の火花など「火種」がある場合のみに引火火災が起きる。※銃弾はいわば「ちよつと熱いだけ」なので火種にはならないのだ。さらにガソリンが気化して空気（酸素）と混合状態になった時点から、大爆発の危険性がある……。というわけで「いきなり爆発炎上」はしないけれど、やっぱり事故車に近寄るのはもちろん非常にキケンなのです。※アメリカ司法省の Bomb Threat Stand-off Cardによると、普通乗用車のばあい TNT 爆薬 230kg に換算できる爆発力（アタツシユケース爆弾の約10倍相当）があり、最低安全避難距離は100m、推奨避難距離は570mとされている。は全くない。

目が慣れていくと、月明りと大看板の照明のもとで……遠方の大きなシルエットにすぎなかったヤツの巨体の細部や色彩が徐々に明瞭に見えてきた……。

「……!!」

殺された動物の死骸【動物の死骸】つい先ほどまではシマウマやレイヨウたちだったもの。草原を跳び駆け回っていたその脚は、まるで戦車のキャタピラに潰されたかのよう、今ではただの肉塊に成り果てた……。割られて砕かれた白い骨、むせ返るように鮮やかな血肉や内臓は、息絶えてから間もないことの証拠。どろりとした網目状の脂肪

組織が、幽鬼のように怪物にまとりついている……。怪物の黒い巨軀が満月の光でぬらぬらと輝き、動くたびに逆さになった頭蓋骨やツノや、あちらこちらにぶら下がったヒヅメが揺れてがらがらと寂しげな音を立てる……。この動物たちは何らかの暴力的な攻撃で、苦しむ暇もなく体を引き裂かれて一瞬で即死したようだが……。？が……。セルリアンの丸みを帯びた前面に、惨たらしい姿となって張り付いているのだ……。

……どうやったらこんなやり方ができると言うのか……。!?

だが、このセルリアンには見覚えがある！

こいつは……昼間に見かけたあの大きなダンゴムシ「ダンゴムシ」陸棲の甲殻類の一種。甲殻類とはエビやカニ、ミジンコ、ダイオウグソクムシなどの仲間の節足動物だ。コシビロダンゴムシやハマダンゴムシなど色々種類がいるが、ダンゴムシと言えば一般的には全国でふつうに見られる種「オカダンゴムシ」のことを指す。こいつら実は明治時代に来襲したヨーロッパ原産の外来種らしい。アルマジロの仲間などと同様に、背中の丸く固い外殻で腹部を防御する……という生態は、まさに収斂進化しゅうれんの典型例だ。※ダンゴムシのようにボールの形に丸まるのは、20種近くいるアルマジロ科のうちミツオピアルマジロ属の2種だけだが……。センザンコウやアルマジロトカゲなども丸まるけれど、完全な球形ではない。なおタマヤステなるそっくりさんもいるが、そいつらは多

足類（ムカデやヤスデの仲間）なので似て非なる連中だ。また「ワラジムシ」というちよつと似た甲殻類もいるのだが、ダンゴムシのほうはカブトムシやクワガタのようなお子様の人気者なのに対して、ワラジムシはフナムシやゴキブリのような嫌われもの寄りの存在である。この人気の差は、丸まるか丸まらないかの違いか？ あるいはカツコイイ殻アーマーの有無によるものか？ それともササササーッとすぐ逃げるかどうかの差異か？ ちなみに顔を虫メガネでよく見ると、ダンゴムシのほうが丸い可愛い目で、ワラジムシはキツイ目つきをしている。のようなセルリアンと同種なのだ！

こいつはまさに「戦車のセルリアン」だ……。

その「硬い殻」に覆われた胴体は、サイヤワニやアルマジロの皮革のように有機的だが……：鋭角部分が多く、戦車の複合装甲を思わせるような無機質さも兼ね備えている……。

また、多足類や甲殻類のような何本もの歩脚が下面に生えている。機械仕掛けのような精巧さで、決して絡まることなく、規則的に動いているのだ……。

そしてヤツの「背中」に当たる部分には、大きく異様な眼球が存在し、それがじろりと動いてこちらを見つめている……！

ヤツは昼間の大型草食セルリアンと同型ではあるが、体色が異なる【体色が異なる】昼間のあの青い「ダンゴムシセルリアン」（第1章1話参照）はメスでやや小柄の個体で、

今交戦中のこの黒い個体は大柄なオスらしい。ところで現実世界にいるダンゴムシたちも、同種でも色が薄かったり赤っぽいものや黄色っぽいものなど個体差・地域差があり、ちなみによくいる黄色い斑点があるヤツはメスです。……なお青色のダンゴムシは実在するッ！ 『風の谷のナウシカ』の王蟲オームのモデルかも？ この現実の青ダンゴムシは「イリドウイルス」というウイルスに侵された個体で、病気が進行するほど体色が青くなつていき、1〜2ヶ月で死んでしまうという。症状が進むと、ふつうの個体とは異なり明るい場所を好むようになる。この体色変化や異常行動は、ウイルスが感染拡大のため鳥に食べられやすくなるためなのでは？と言われている。奇麗なマリンプルー色のダンゴムシだが、彼ら自身にとっては「死の青色」というわけなのだ……！ しかし感染力はとても弱いようで、集団じゆうに広まることは無いし、またヒトにとつては全くの無害であるとか。……。それに一番目を引くのは、ヤツの「眼」の異常な色彩だ……！

その大きな眼が怪しく虹色に光り輝いているのだ！

「あーッ！ あいつは……！」

「え？ 知ってるの？ カラカル？」

「た、高いですねえ〜こころ……。しかしたくさんある廃車クなんなんでしょうね？」

「これらは死んだ『くるま』というものの抜け殻でありましょう」

げっ!? 下から聞こえてくるこの声はっ!?

振り向いたとたん、カラカルが優雅に足場へ跳躍してきた!

かと思うと、キリンとアードウルフが足場によじ登ってきて……!?

そしてヘビクイワシはなんと! 頭の翼を使って飛び上がった!

彼女の「頭部の翼」はほとんど羽ばたいていないのに……まるでヘリコプター「ヘリコプター」<sup>ローター</sup>回転翼を持つ航空機の一種。メインローターが1枚（+後部のテイルローター）のシングルローター機と、前後に2枚の回転翼を持つタンデムローター機など、いくつか種類がある。どの機種でもローターが必ず2枚以上ついているのは、ローター回転時の反作用「反トルク」を打ち消すため、つまり本体のほうがぐるぐる回るのを防ぐため。固定翼機と比べると、ホバリングや低空飛行性能に優れて小回りが利く。また離着陸が容易なものも利点で、緊急時にはほどほどの広さの空き地さえあれば運用できる。歴史をひもとくと、古くはかのレオナルド・ダ・ヴィンチが発明し、ナチス・ドイツが実用的なものを製造……そしてアメリカ軍によつて第二次世界大戦末期から使われ、ベトナム戦争から本格的に運用されるようになった。現代では、軍用や警察用だけではなく、災害救助や物資運搬、ドクターヘリ、農業散布ヘリなど、幅広い目的で使われている。ちなみに名前の由来はギリシャ語で螺旋<sup>ヘリックス</sup>を意味する「ヘリコ」+翼<sup>プテロン</sup>を表す「プター」の合成語なので、「ヘリ」や「コプター」と略するのはマチガイだったりする（でもアメリカ

カ人も気にしてないしまあいいか……)や垂直離着陸機【垂直離着陸機】VTOL機(V  
 ertical Take-Off and Landing Aircraft)と  
 は、ヘリのように垂直に離着陸が可能な飛行機。「ベクタードスラスト方式」のハリアー  
 や、「ティルトローター方式」のベル社&ボーイング社の共同開発のV-22オスプレイ  
 などが有名。ちなみにどっちもチュウヒやミサゴといった猛禽類の英名。ふつうの飛  
 行機である「固定翼機」と違い、VTOL機は滑走路がいらなことが利点のひとつ。つ  
 まり鳥のように助走いらずで離着陸し、上空では翼で高速飛行できる夢の乗り物なのだ  
 ! だが、離着陸時の激烈なジェット噴射(路面がアスファルトだと溶けます)では膨  
 大な量の燃料を消費してしまうし、機構が複雑なため高価で操作が難しく、また固定翼  
 機よりスピードが出ないし兵装搭載量も少ない……などデメリットも多いのが今後の  
 課題だとか。のように滑らかな動きで飛行している!!

彼女の「翼」のまわりに噴き出ているのは、例の虹色の粒子「サンドスター」だ。し  
 かしそれを物理的にジェット噴射して揚力を得ているわけではなさそうだが……??

あ、あからさまな物理法則へ反逆してるのだが、これもサンドスターの秘めるパワ  
 ーなのかつ!!?

「す、すごい……! いや、けど感心【感心】心を動かされること、つまり「すごい」いっ  
 !」の精神のこと。対して、同音異義語の「関心」は興味をもつこと、「なにそれなにそ

れくっ!」です。そして「歓心」は喜びのことで、「歓心を買う(得る)」と言うと誰かを喜ばせるという意味になる、つまり「うわあ〜い!」の心だ。さらに「寒心」と書くことと「ぞつとすること」だ。他にも甘心とか汗疹とか奸臣という言葉もある。同じ音の言葉なのに、こんなに多くの意味があるなんて、日本語を勉強する外国人はカンシンを抱きそうだ……(漢字で書くことでどれでしょう?) してる場合じゃない! ここはキケンですから下に戻ってくださいっ!」

私が小声で注意すると、フレンズたちもひそひそ声で返答した。

「イヤよ。そんなにキケンなら、なおさらアンタ、独りにしておけないじゃない!」

「そうとも! それにこのぐらゐの高さ、キリンの私はぜんぜん平気なもの!」

「わ、わたしはけっこう怖いですけどお〜……!」

「ハナコさん! あなた、何を考えているか分かりませんが、この『先生』であるわたしをさしおいて動き回るのは、いただけませんよ!」

「……しよ、しよがなない……。みなさん、好奇心【好奇心】ヒトの場合、未知の事象に遭遇した場合、まずは驚き、その後「恐怖心」か「好奇心」かのどちらかを抱くと言われている。動物には、好奇心というものがあるのだろうか? ……というのは非常に難しい問題だが、好奇心を「未知の対象への探索欲求」と定義するのであれば、未体験の環境に置かれた動物は、そこが危険でないと判断すると、その多くが「好奇心」によつ

て自身の置かれた状況を把握しようとする。サル・イルカ・カラスなど、知能が高い動物ほど好奇心が強い傾向があり、また好奇心と警戒心の両方を持ち合わせている動物も多い。このパークのフレンズたちも、その多くも好奇心が強い子である。しかし『好奇心は猫を殺す(Curiosity killed the cat)』というイギリスのことわざもある。古くはシェイクスピアと同世代の16世紀の劇作家ベン・ジョンソンが使った言葉で、元は“Care killed the cat”——悲しみは猫を殺す、だったらしい。いつのまにか意味が変わり、9つの命を持つという伝承があるし、ぶとい猫でさえ命を落とすという、過剰な好奇心を戒める教訓となったのだが……フレンズたちの「好奇心」の場合は、これからどういふ結果をもたらすのだろうか……？

「はあくい！」（小声）

「分かりましたでありますう！」（小声）

「い、いい返事だけ……緊張感が無いなあ……」

「ところであいつ、昼間にも見かけたヤツよね……」

カラカルが本題に話を戻す。

「はい。昼のアレと同じ個体かどうかは分からないけど、少なくとも同じ種類ですね

……」

「わたくしも知っていますが、でもデカいだけの大人しいセルリアンのハズでありましょう……」

「そ、それがこんなことをするなんて……!? なにか原因があると推理すべきね……」

……ん? ヤツをよく観察すると、背中にある大きな眼球のまわりには……ツタ植物のような細かい物体が絡みついて繁茂している……??

それは毛細血管のように眼球を覆っていて、まるで網目のスジのついたメロン〔メロン〕ウリ科のフルーツ（野菜か? 果物か? というハナシはここでは置いておく）。北アフリカやアラビア原産と言われてきたが、近年の遺伝子研究によるとインド発祥であるらしい。なんにせよ南方が原産のだが、日本の高級メロンはヨーロッパで品種改良されたものが多く、北海道などの冷涼なちほくの特産品になっている。甘い、というイメージがあるが、実は melon という言葉は広義では瓜ウリと同じ意味なのでそうとも限らない。シロウリなどぜんぜん甘くない品種も、キュウリ属メロン (Cucumis melo) のいち変種にすぎないのだ。なお「マスクメロン」は一つの品種ではなく、甘い麴マスケ香のような芳香を持つメロン品種の総称だ。「アミメ」が無いマクワウリなどの「ノーネット系」メロンもあるぞ。そして「雑草メロン」なるものも存在し、関東から九州や瀬戸内海にかけての一部の離島のみ自生する野生のメロンだ。熱海沖の初島はつしまのもの

のが有名。弥生時代以降に日本に渡来した古代のメロンが野生化したもので、遺伝子的には八百屋やスーパーのあのメロンと同種なのだが、ウズラのタマゴほどの大きさの野生フルーツ。で肝心の味は……?? 野生種らしくタネばつかでニガくてマズいそうだ（がつくし）。地元で「クソウリ」呼ばわりも納得……。パークのこのサバンナ地方にも、栽培種だったものが熱帯乾燥地に適応して原種に近くなつた「じゃぱりワイルドメロン」なる野生種が自生しており、雨季になればそのあまりおいしくない味を楽しむことができる。※野生動物においても、カラハリ砂漠に棲むチーター（もちろん肉食性）が、カラハリメロンを食べて水分補給する例などが知られているのようだ……。

その「ツタのようなもの」には……何か所もの節のように盛り上がって太くなつた部位にいくつもの小さな眼球が存在して、こちらを見ているではないか……!?

ま、まさか……?!

別のセルリアンが取り付いている……寄生しているのか……?!

推測というかただの直感なのだが……。

おとなしいはずの草食セルリアンの、この「異常行動」の理由なのか……?!

その時!

こちらの存在を視認したのか……戦車セルリアンはエビが後ろに跳ねるように、ある

いは戦車が後退するように……規則的に歩脚を動かして、器用に素早く後ろに下がっていくが……??

なんだ？

これから何をするつもりだ……こいつ??

「せ、説明はできないけど……なんだか危いッ!!」

直感的にそう感じるのだッ！

この感覚はマズい！

「え？ なに？」

「みんな早く足場ここから降りようッ!!」

「ハナコ、それって——」

セルリアンは……甲羅の低い位置にある「穴」から、がま口【がま口】このセルリアンの口は、あのレトロ口な「がま口」財布そっくりだ。カメが首を出すように、甲羅の前底部からニョキッと出すことができる。昼間に出会った個体がこの口でむしやむしやと下草を食べていたように、こいつは本来は草食性。掃除機の吸い取り口のような平べったい形状をしているのは、シロサイやジユゴンの口と同様に、地面近くの低い草を好んで食べるためだ。ちなみにハコガメ属の一部のカメのように、がま口の収納部分には蝶番ちようつがいのある「ふた」がついており、「大口」を引っ込めて閉じれば、フレンズからの攻

撃を完全に防御できるほか、乾季の厳しい乾燥を防ぐのにも役立つ。を伸ばしたかと思うと……。

一瞬……満月の明かりでまちがいなく見えたそれは!!

看板の土台へ向けて、口中から何かを撃ち出してきた!!

すぐそばの廃車の山に着弾!!

耳をつんざく轟音と激しい衝撃!!

「きやあぁーっ!!」

フレンズたちの絹を裂くような悲鳴【絹を裂くような悲鳴】女性の甲高い悲鳴のこと。「シ、シルクを裂くなんて……」と、いかがわしいイメージを抱くエツチな人もいるが、悲鳴を絹を裂く時に発生する高い音に例えているだけの、そのままの意味ですよ。!!

大地震のように揺れる足場ツ……!!

「クエエエエーッ!!」

瞬間、着弾の衝撃を逃がすため、怪鳥音【怪鳥音】文字通り鳥の鳴き声のごとき怪音のこと。だが実際の鳥の鳴き声やそれっぽい物音などをこう呼ぶことはほぼなく、たいがい人間の奇声のことを形容することば。特にカンフー映画界の英雄、故ブルース・リー(李小龍)の独特の甲高い掛け声を指す。ちなみに当時の香港映画ではリーの母語である現地方言広東語(カントニーズ)は使われず、彼の声は標準中国語(マダリン)(≡北京語(ペキンーズ))で声優がアフレコ

吹き替えしていたが、あの怪鳥音だけは本人の肉声なのだ。格闘技・武術において独特な掛け声を使うのは一般的で、薩摩剣術の示現流や薬丸自顕流えんきりゅうの猿叫などはニワトリの（絞められる）声などと例えられたりする。パークの鳥のフレンズたちは多くが、びつくりした時や戦闘時にこういつた奇声をあげる習性がある。フレンズ慣れしていないと、可愛い子や美人さん鳥フレンズがキイイエエーッ!!などといきなり叫ぶシユールな光景に驚くかもしれない。をあげて空中へ飛び上がるヘビクイワシ!

「にやぎやあああッ!」

衝撃で吹っ飛ばされ、そばの廃車の山のとつぺんの車に叩きつけられそうになったカラカルは、瞬時にくるりと身を翻し、両手の指の虹色に輝くツメを大看板のトタンに食い込ませて体を固定する。

「うもーっ!! ら、らいへんばつは「らいへんばつは」スイスのベルンちほー、アルプス山脈にある高さ250m・幅90mの美しい滝「ライヘンバッハの滝（Reichenbachfall）」のこと。かの名探偵ホームズが宿敵モリアーティ教授と一緒に落下して死にそうになったエピソードが有名。それを知るキランの今回のこのセリフは……「ファイター!」「イッパツ!」みたいな、掛け声のつもりなのだろうか……?」

キリンはたまにこういつた探偵小説に由来する言動をして、「うゝむ、今のセリフ、かつこいい……!」今の私、名探偵っぽい〜!」などと密かに自己陶醉しているが……周り

のフレンズにはキリンの鳴き声の一種だと思われるだけだったりする。くっ!!」

一緒に吹っ飛ばされたキリンは、なんとか彼女の胴に手を回して下へ落ちまいとする。

「にやあーっ!! おっ、重おっ!!」

ふたり分の重さを支えるため、サンドスターのツメが耳障り【耳障り】不快な音を指すことば。なお巷では「耳触り」と書いて、「聞き心地のいい」という意味の「耳触りの良い」という表現がたまに使われるが、本来は誤用もしくは俗語だ。※しかしNHKによると、1980年の有識者アンケートで89%が誤用だと答えているのに対して、1989年の世論調査では誤用だと答えたのは59%、92年では47%と、だんだんと市民権を得つつある日本語のようだ。さて、ヒトにとつての「耳障りな音」というのは「波形に規則性が無い」か「高すぎるか低すぎる」のどちらかである。前者はオンチな歌声、後者は工事音や黒板を引っかく音などだ。その逆で、規則的な波形をしていてちょうどいい高さの音とは、たとえば川のせせらぎや小鳥の鳴き声など、いわゆる環境音楽やヒーリングミュージックに使われる音声で、これらは「1/f ゆらぎ」という、精神的な安定感や快適性と関係するパターンを持っている。この1/f ゆらぎパターンは音声のみならず、ヒトの心臓の鼓動や木漏れ日、電車の揺れ、ろうそくの炎のゆらめき、ホタルの光り方などにも見られる。また、歌手の美空ひばりさんや宇多田ヒカルさん、

声優の大本眞基子さんや花澤香菜さんなど、ごく一部の人間の声紋にも1/fゆらぎが見られるとか……。な金属音をあげる。鉄板の上に、爪痕が線状に赤く光って残り、線香花火のような火花がばちと散っては闇に消えていく。

ヘビクイワシも手伝って、しがみついたキリンをなんとかそばの車の上に登らせる力ラカル。

「きやあつ!! おちつ、落ちるゝつ!!」

「アツ、アードさんツ!!」

さきほどの衝撃で、彼女が足場になっていた鉄板が時間差で落下し、バランスを崩して転落しそうになるアードウルフ!

彼女の伸ばす手に、私は片手を伸ばすが……ダメだ! 届かない!

「うおおーっ!!」

絶対助けてやるツ!! 今度こそはっ!!

とつさに私は両腕を差し出して、アードルフの手をつかむ!

当然のごとく……お、落ちるーっ!!

「ぬおおーっ!!」

落ちてたまるか!!

私は両脚を足場の手すりにからみかせ、両足首をロックする！

逆さになって下半身でぶらさがる形「下半身でぶらさがる形」今の彼女の体勢は……柔道の「三角絞め」や禁止技「胴締め」、あるいは柔術ブラジリアンの「クローズドガード」に近いものだ。腕力の数倍と言われる脚力や腹筋・背筋のパワーをメインに使うのは一見合理的だが……。絵面的には、まさにぶら下がるサルのパランスゲームのおもちゃそのものである……。ちなみにアレは「さるも木からおちる」(ツクダオ리지ナルから発売)という名前のパーティーゲームで、「落ちた〜!」という昔のテレビCMが有名。「ふ、不吉な……こんな時に冗談じゃないぞおい!」(by ハナコ) だ!

ふたり人分の体重、約90kgの重量がかかり、したたかに殴られたような衝撃が腹と背中走る。

アードウルフも掴み返してくれているため、両腕の負担は比較的少ないが……。

ぐぐぐ、くそっ……この姿勢では……体がもたないっ……!!

だがその時!!

「ばばば、ばりつうーッ!!」

謎の奇声……そしてふわりと引き上げられる感覚……無重力……柔らかな着地……。

「めいたんていマフラーの大かつやくうっ!」

……見ると、アミメ模様のマフラーがしっかりと、だが優しく巻き付いて私たちの体

をまとめて持ち上げている！

「あつ、ありがとうございませう〜ハナコさん！」

マフラーから足場に降ろされて、開口一番アードウルフが言つて抱きついてきた。

「いや、そりや私よりもキリンに言いなよ〜！ ありがとうキリン！」

抱きついて顔を舐めてくるアードウルフを引き離し、私はキリンに向きなおつてお礼を言つた。

「ふっ！ 私たちはみな名探偵の素質があるわね！ それにアナタ……高い所で飛び跳ねるなんて……ハナコ、アナタやっぱりヤギでしょ？」

相変わらず彼女はわけのわからないことを言つた。

「ヤ、ヤギじゃないが……。そんなことより、カラカル！ キリンを助けてくれてありがとう！ ヘビクイワシさんも！」

「にやははは！ たいしたことないわよ！」

「ちよつと重くて疲れたであります！」

「……それより、アンタもあんなムチャして……」

「あははは、おかげでお腹も股関節もすげえ痛いし……ということは、生きている証拠だ  
けどね」

「だね」

「まだ生きているなら……やることは一つ！ 逆襲だ！」

さきほどの攻撃【さきほどの攻撃】実はこの時、サバンナ地方のココから遠く離れたとある場で、この攻撃の轟音によって目を覚ましたフレンズたちがいる——あのブラツク企業のサラリーマンが転生したという「ハダカデバネズミ」のフレンズと、正体不明の謎の色のフレンズ（※彼女にはけもの耳も尻尾が無いという、変わったフレンズ）だ。このコンビはこうして目覚めた後で、ハナコたちが交戦中のこの戦車セルリアンが原因でタイムマーの発動した特殊時限爆弾をかかえて、大量のセルリアンに追われながら、深夜の熱帯草原をフレンズたちと協力して必死で駆けずり回るハメになっており……そっちでもひじょくに変な「パークの危機」なのですが……その長い一夜のはなしはまた別の機会に……。は一体？

私たちはセルリアンの「謎の攻撃」に警戒しながら、高所作業を使って下へと降りていく。

ヤツは、いったい何をしたのか!?

体内から何を撃ってきたようだが!?

発射時、閃光は無かった……。火薬によるものではないのか……？

だがしかし、恐ろしい威力！

廃車の壁の着弾した部分は……周囲がささくれ【ささくれ】人の指のツメの根元あたりが肌荒れで剥けた状態のこと。木材表面の「剥け」のことも指す。「ささくれ」はおもに関東の言葉（語源は不明）で、関西では逆剥けさかむけと言う。ささくれの原因は（とくに冬場は）空気の乾燥や、セッケンやシャンプーや除光液アセトンの使い過ぎなどで、皮膚の水分・油分・栄養が不足することである。「ささくれができるのは親不孝のあかし」という言い伝えもある。ささくれは体調不良でも起こりやすいので、睡眠不足や不養生を戒める文句だろうか？ ……本編のような鋼鉄板のささくれなどは、日本の街中ではめつたにないお目にかけれられないが……かつて戦地となった地域へ海外旅行に行くと、そういった鉄の銘板に刻まれた戦争の爪痕を見ることができるよう。立ち、いくつもの円を組み合わせた形に鉄板がひしゃげて吹き飛んで穴が開いている！

今の投射物は榴弾【榴弾りゅうだん】戦車や自走砲などが撃ち出す砲弾の一種。内部の火薬が炸裂し、破片を飛び散らせて広範囲を攻撃できる。貫通力の高い「徹甲弾」と比べて、非装甲目標や兵士を攻撃するのに向いているタイプの砲弾だ。※ちなみに「榴」の字は、熟すと実がはじける果物「柘榴ざくろ」から来ている。同様の仕組みのものとして、榴散弾、キャニスター弾、ぶどう弾などの砲弾が過去に使われていた。……話を戻すと、このセルリアンはフレンズたちの頭上で「セルリアン榴弾」を空中炸裂させて攻撃するつもりだったのが、ミスって廃車の壁のほうに着弾させてしまったのだ。げえ、あぶねところだつ

たのね〜っ!!のようなものか!?

警戒を怠らぬまま、私たちは廃車の山のふもとで敵の出方をうかがう。

「あ、そうだ。さっきはハンマーこれ握ってて邪魔だったから、アナタが持つててちようだい」とキリン。

「背中の中に入るんでしょ?」

「ああ、バックパックに入れとくよ……」

私は背中のかばんを降ろして、キリンからもらったネイルハンマーをしまう。

「で、ヤツの攻撃の正体だけど……」

私はフレンズたちに話し始める。

「お? 推理シヨ〜ねっ! そつ、それで……あのセルリアンの攻撃の正体は??」

「いや、わからん!」

「ガクツ! な、なによそれは〜ツ!」

「情報が足りないんだよ〜! 最初は投擲とうてき、つまり何かを投げてきたんだと思っただけど、

どうやらアレは大砲みたいなものらしい……。でも火薬を使うものではなく、バネやゴムみたいな弾性力で発射する、スリングショットや銀玉鉄砲と同じ原理のものだと思うけど。いや、空気圧や水圧を使用する可能性も——」

と、自分の考察を話したものの、専門用語（ヒトのことば）が多すぎるだろう。げん顔をしているフレンズ達……。

「ええつと、つまり、こう、何かがドバーツ!!と飛び出して、バシューツ!!と空中を——」  
私は分かりやすくかみ砕いて説明した、つもりだったが……。

「ぜんぜんわからん!」

飛び道具〔飛び道具〕ヒトの際立った特徴と言えば、直立二足歩行や長距離移動、運搬、道具の使用、火の使用、言語能力などが挙げられるが、歴史学者アルフレッド・W・クロスビーは著書『飛び道具の人類史』において「投擲」の重要性を指摘している。ヒトと他のサルを決定的に分かつものとは「非接触攻撃」である、と。投槍器や投石器、吹き矢、弓矢から……火薬の発明以降、銃器や大砲、戦車へ……そして長距離ミサイルやドローン兵器へ……。この「暴力性」と「非接触性」の進化の原点は、二足歩行により手が自由になって初めて可能な「投げること」なのである。また、民俗学者の中沢厚の著書『つぶて』によると、投石は聖書のダビデとゴリアテのみならず、世界中の神話や民話に「神の行為」として象徴的に登場するという。狩猟や戦闘のみならず、宗教儀式（日本ではお賽銭投げやモチ投げ、まんじゅう投げなど）や刑罰、子供の遊びまでも見られる「投擲」は、投げることで自体に神秘性があると言える。またその実用性において

も、日本の戦国時代で「印地打ち」と呼ばれた投石攻撃は弓や槍と並んで戦場の主戦力であったことは有名だ。現代でも護身術やサバイバルでは、投石は場合によつては銃器と互角かそれ以上の有効性があるとされている。そしてあのパークの英雄「カバンサン」も、「飛行する神木」なる投射物を生み出し、これを強肩剛腕でセルリアンにぶん投げまくつて撃滅せしめたという、珍妙不可思議きわまる伝説がフレンズ間で伝承されている。とはヒト特有の習性であるせいかな、フレンズたちにはさっぱり言いたいことが伝わらなかった。

「とつ とにかく、ヤツの攻撃はキケンだつてことです！」

「そ、そりゃ、わかるけど……」

「だから、さつきも言ったけどついでこないでちょうだい！ とにかく私だけで様子を見てくる！」

「あつコラ！ またすぐ独りでそうやって——」

背後からカラカルの文句が聞こえてくる。

私は廃車ヤードの闇の中をかみながら小走りに移動していった……。

こっちは丸腰、そして相手は戦車か……。

逃げるにせよ、戦うにせよ、これからどうするべきか……。

今度こそ……彼女たちを守らなければ……。

今度……………？

過去のないはずの私が、なぜ、そんなことを考えたのだろう……………？

## Chapter 1—3: 狩られるものから、狩るものへ

:

## 第11話 無明の中に光が見えるとき [▲]

私は再び偵察を試みる、ただし今度は廃車の山〔廃車の山〕熱帯草原に積み重ねられている、多くが（樹脂製パーツ以外）車体がボロボロに朽ちた車たち。外装はいったん錆びてしまうと一気に進行してしまうのだ——フツ素系コートをしていれば多少長持ちするだろうが……。それにしてもこの「サバンナ廃車ヤード」にはヨタハチやチエイサー（丸目）、マツダ・スピードAZ—1などの草ヒロが多くてもつたいない。一昔前は地方の農道沿いなどで、このような廃車をよく見かけたものが……。2008年北京オリンピックの際にクズ鉄の値段が跳ね上がってどんなスクラップでも売ることができたため、おかげで国内の廃車の約半分は撤去されたんだとか……。土壌汚染防止のため、法の改正の影響も大きい。のふもとからだ……。動物たちが描かれたマイクロバス「マイクロバス」マイクロバスとは中型自動車（総重量8t以下。最大積載量5t以下。定員11〜29人）サイズの小ぶりのバスを指す（※さりげなく和製英語で、英語だと

mini bus)。ここで登場の廃バスは「マツダ・ライトバス（タイプA）」という、ふるい珍車。レア車だぞ。まだマイクロバスが普通免許で運転できた時代の車なのだっ！ 1965年発売の25人乗り2.5tバス。2000cc・81馬力ガソリンエンジンを搭載（ディーゼル版もある）。21世紀から見ても近未来的な前後の曲面フォルムが特徴で、スタイリッシュな外装に対して、溶接技術が発達していなかった当時ゆえのリベット打ちのギャップがまたレトロフューチャー感があつて美しい……。

この「ジャパリライトバス」は電気自動車・オートマ仕様に換装して、防弾ガラスやFRP（繊維強化プラスチック）などの近代技術を使用したもの。オリジナル車両の斬新なデザインを残しつつ、安全性・走破性・整備性・環境性などを考慮されて、中身も外見と同じく近未来化されたおクルマ。その視野の広さはサファリ観光や動物観察に最適……。まあ、ギアやブレーキが動く程度ではほぼ完全に廃車なんですけどね……。のそばを伝い、しゃがみ走りで一氣に駆け抜ける。

さきほどの高所の足場では、射的【射的】おもちゃの銃などで目標を射つ遊び。弓矢やダーツ、輪投げやボール投げと原理は同じだ。遊園地や縁日、温泉街などでの定番のアトラクション。英語だとこういつた銃での的当て遊びを「プリンキング」と言う。実銃であつても弱装弾を使う場合はそう呼ばれていて、本格的な射撃競技とは区別されているようだ。たとえば「世界で最も手に入りやすい」と評される、22口径L R弾を

使う銃など。欧米ではこういう小口径・低威力の銃は規制がユルく、M16、PPSh  
—41、AK、FAMAS、SA80、ガリルなどの有名な銃と外見そっくりだが、2  
2口径や32口径の拳銃弾仕様にしたモノをイタリアのメーカーが作っていて人気だ  
とか……。まさにアメリカ人の危ないオモチャである。のマトのごとく狙い撃たれて  
落とされる危険性が高かったが……。

だが、このルートなら幾重もの車体の壁がこのように目隠しになってくれて安全  
……。しかし私のほうが隠れているということは、セルリアンのほうを見えないとい  
うことなのだが……。

フタが開いた四角いコンテナが置いてある。横から中に入る。

コンテナの分厚い鉄板は、さっきのセルリアンの「榴弾」でもそう簡単に貫通しない  
だろう。

影からセルリアンの現在位置を探るが……目視確認できない。ヤツはさっきいた場  
所……少し小高い、丘のような所にいたと思うが……そこから移動したらしい。あの戦  
車セルリアンの馬鹿でかい図体の一部すら窺うかがうことができない。

早くセルリアンを見つけなければいけないのだが……かといってヤツの口からの  
「砲撃」に対して身を晒すのは危険すぎる……！

……？ そばの草むらをよく見ると……ひからびたつる草【つる草】何かに巻き付いて高いところを目指す習性、「つる性」を持つ植物のこと。日常で見かけるのは細いものが大半だが、中には大木に成長する種もある。除草作業をおやりのかたはご存じだろうが、つるの太さのわりにひっぱりに非常に強いという特徴を多くのつる植物が持っている。見栄えのいいものは観葉植物として栽培されたり、丈夫なものは工芸品やロープの材料として利用されるが……。半面、ヤブガラシやクズなど成長の早いつる植物は厄介な雑草として繁茂して、景観と生態系を悪化させたり、他の木を覆って枯死させてしまうこともある。の繁茂する中に、電動の伸縮式の高枝切りバサミ【高枝切りバサミ】樹木の高所剪定<sup>せんてい</sup>、果樹の採集などに用いられる道具。現代の日本で見られるモノとほとんど変わらないが、取っ手部分にヘンなアタッチメントが付属している……。実はコレ、パークガイドロボット「ラツキービースト」が使用するための専用備品なのだ。ジャパリまんの原料となる果物を育てる果樹園での収穫作業や、例の「サバンナ屋敷」の庭園のお手入れの際に用いられている姿がフレレンズに目撃されている。が落ちている。巻き付いたツタ【ツタ】「ツタ」と言うと正確には、ズバリそのままの和名のツタ（Parthenocissus tricuspidata）のことや、ブドウ科ツタ属やウコギ科キツタ属のつる植物を指すのだろうが……。この小説ではとくに区別せず「つる」と同じ広義の意味として使われている。ちなみに、このつる草は自生する野生のスイカ

の一種のものだ。※スイカの原種はアフリカのサバンナや砂漠地帯らしい。パークさばんなちほーでは、中央部の熱帯草原地区（雨季のみ）や東部の湿地帯地区で、原種のものに近い雑草スイカを食べることができが……。果肉が白く種が大きくて全然甘くなくて、ほぼキュウリ。スイカの祖先と言われる「シトロン・メロン」に近い。栄養価は低い及安全な水分補給源なのでフレンズ達もよく食べているを黒曜石ナイフで切り払って、それを手に取る……。電動カッター部分は、充電切れか故障で動かないが……。伸び縮みするマジックハンド部分は手動で動かせる……。

私はいい考えを思いついた。

さっきのマイクロバスから大型のフェンダーミラー「フェンダーミラー」バックミラーの一種で、フロントフェンダー（フロントタイヤの上）付近に設置された外部ミラーのこと。今日の日本では一般乗用車のはほぼ見かけないフェンダーミラーだが……かつてはこつちこそが一般的で、ワンボックスやトラックなどの一部の車両以外のドアミラーは違法改造だった時代がある——ドアミラーが解禁になったのは1983年と、実は意外と最近の話なのだ。フェンダーミラーはドアミラーと比べていろいろな利点や欠点があり、バスやタクシーなどでは好まれるものの、ドアミラーと比べてとくに安全性が高いというわけでもないようだ。にも関わらず、クラウンコンフォートの後継車の「和風ロンドンタクシー」こと、トヨタ・ジャパンタクシーは今でも日本で唯一

フエンダーミラーを左右に標準装備している。その理由は、左側の安全確認がドアミラーだと客側をちらちら見る動きになってしまうので、これを防ぐための「おもてなし精神」なんだとか……。しかし、いくら雨風にさらされた廃車とはいえ、ミラーをいとも簡単にむしり取れるフレنزの腕力にはすさまじいものがある……。を引つpegした。奇跡的に無傷のものだ。ジャケットの端で表面の汚れをふき取ると、満月の光を丸く反射している。

このミラーと、草むらに落ちている（あの大看板用の建材だろうか？）とを「結束バンド」を使って固定する。

歯科用ミラーの親玉のようなのをこしらえて、即席の点検ミラー【点検ミラー】インスペクション戦争映画やスパイ映画などで、手鏡を使って廊下の曲がり角や部屋の奥を確認したり、銃撃から隠れて偵察するシーンがあるが、実際に軍や警察でそういう用途の「柄が長い鏡」が使用されている。作中のような物陰からの索敵だけでなく、車体の下などの見えにくい位置の爆弾探しなどにも使われるそうだ。というわけだ。

高枝切りのアームを伸ばし、先端にくくりつけたミラーを左右に振って、はるか広がる熱帯草原の様子を確認した……。

満月なのも幸いして、すぐにセルリアン戦車の姿を捕捉することができた……。

草原に一ヶ所、地面が凹んだ場所【地面が凹んだ場所】草原内にある数mほども周り

から低い窪地。イネ科の背の高い植物で覆われていているうえに夜間で薄暗いため形がよく分らないが……。実はコレ、完全な円形である。ずっと以前になにかが爆発した跡地なのだ。現在、そのなにかの残りモノの「不発弾」の処理に困って、さばんなちほーの別の場所を奔走しているフレンズたちがいるのだが、それはまた別のお話……。がある。ヤツはその窪みのふちのところ、こちらを向いて待機している。

私のことには気づいていないようだが……。

あの窪地は、まわりの草が完全に覆い隠している。だからさつき偵察しても見つからなかったというわけか……。

……しかし、ヤツは何の目的であんな所へ移動したのか？

そして、なぜこちらに近寄ってこないのだろう……？

仕留められた動物たちの遺骸が、ヤツの外殻に張り付いているのが見える……。

びゅうびゅうと吹き付ける風の音が、動物たちの恨めしい叫び声のように聞こえる……。

セルリアンの背中を目玉には、深海生物のような触手がまとわりついている……。そしてその眼は、ダーツボード「ダーツボード」パブやバー、ゲーセンなどで定番のダーツゲームで使われる円形ボードで、同心円上の得点エリア（ブル、シングルなど）に仕切

られている。これは、ダーツの発祥地であるイギリスで、時は14世紀の百年戦争中に兵士が「輪切りにした木の幹」に矢を投げていたのが始まりらしく、もともとあった自然の年輪やヒビ割れがその点数計算の由来なのだ。それから長らく輪切りの木がターゲットとして使われていたが、ザイザルアサ（ロープ用の繊維植物）を使った耐久性に優れる「ブリッスルボード」が開発されて一躍メジャーになる。近年では、プラスチック素材のダーツやボードによるソフトダーツや、電子計算ボードを使うエレクトロニックダーツも人気。のように、同心円状に色を変えながら虹色に光り輝く眼……。凶鑑が何かで見たカタツムリの寄生虫【カタツムリの寄生虫】学名：ロイコクロリデイウム。扁形動物門に属する吸虫の一種。「扁形動物」とはコウガイビル、プラナリア、サナダムシなどの仲間だ。吸虫はそいつらとは遠縁だが……。ロイコクロリデイウムは「オカモノアラガイ」の仲間のカタツムリに巢食う寄生虫で、北米やヨーロッパに分布。そして日本でも北海道や沖縄に棲息し、本州でも捕獲例がある。の色が変色する眼【変色する眼】ロイコクロリデイウムはカタツムリの体内で無性的に増殖し、米粒のような幼虫を多数内包するソーセージ状の寄生体をつくる。それを触角まで移動させ、触角をイモムシのような形状に変化させて目立たせ、そうして最終宿主である鳥に食べられやすくなるのだ。また宿主のカタツムリ自身も行動を支配され、明るい場所を好むようになるという。そしてなぜか寄生されたカタツムリのほうが長生きするんだとか……。さて、この

ジャパリパークの多くのセルリアンは「大きな眼球」を持つているのだが、この触手状の「寄生セルリアン」は上述の寄生虫のように、他のセルリアンの眼球に寄生し、行動を掌握する習性がある。しかし目の色に変化するのとは何か理由でもあるのか……？のようだ……。

殻の表面の細かなトゲのようなもので前面に張り付いた死骸を、ヤツは喰べる様子もない……。

あれは我々フレンズの動揺を誘ったり、自身の闘争心を高める示威行為だろうか？

あるいはフレンズの中には臭いに敏感な者も多いから、あれは血の臭いで自身の臭いをかき消す擬態〔擬態〕自然界の偽装工作である「擬態」には、自身を目立たなくさせる隠蔽型擬態と、わざと別のものに似せて目立せる標識的擬態の2種類がある。このセルリアンの装飾行動と同様に、自然界には鳥や甲殻類や昆虫など、何かで自身の体を飾り立てるものがある……例えば、日本にもいるカメムシの一種サシガメ(別名暗殺虫)の仲間やクサカゲロウの幼虫は、自分が仕留めた獲物の死骸を背中に乗せて肉食グモや鳥などの捕食者の目を欺くのだ。しかし今回のセルリアンの場合は、第0章に登場の「トラバサミセルリアン」と同じく、フレンズを捕食する目的の「攻撃擬態」である。……いや、本当に擬態なのだろうか？ 戦車セルリアンの大きな体や、それから発せられる臭いを十分に隠せるほどに死骸の量は多くない。バレバレなのだ。そもそもすでに奇

襲を仕掛けているわけだから、擬態として意味が無いと思えるが……。では他に何か別の意図が……?のつもりなのだろうか……?

私はさっきの空中炸裂する「榴弾」の威力と痕跡を思い出すが……ヤツがぶら下げた勲章は、さっきの弾を喰らった死骸ではない……ような気がする……。どこかでつじつまが合わない。

いや、ただの直感だが……。

動物たちは、ある程度元の形状を残したまま内側から刃物で引き裂かれたような状態になっていて……なんというか……妙な違和感がある。

さっきから「砲撃」をしてこないのも、ずっと気になっている……。

私がおりにいるのに気づいたそぶりはないが……。

この「廃車広場」から、ヤツの「獲物たち」が逃げていないことは、ヤツ自身も分かっているはずだが……? なにしる周りは何もない大草原なのだから、そんなことすればすぐ気づかれる。

あの「口撃」は、装填と発射に時間がかかるのだろうか? それともワザと中断している……??

それは無駄撃ちを避けるため……? あるいは、弱った小動物で狩りの練習をする肉食獣の仔のように、楽しんでから仕留めるつもりだとも……??

あの窪地とはかなり距離があるから、こつちまでは砲撃が届かないのだろうか？

いや、でもさっきの砲撃もあれぐらいの距離だな……。

そういえば、さっき高所に向けて撃ってきたとき……あいつは斜面にいて、そこから上向きに撃ってきた気がする……。

戦車セルリアンの掃除機のような長い口……いや「砲身」と呼ぶべきか……アレは、撃つときにまつすぐになるようだが、殻がジヤマになつて仰角【仰角】上向きの角度のこと。対して下向きの角度を「俯角」といい、あわせて仰俯角と言う。天文学の言葉だが、軍事用語としても使われる。を大きくできず、あまり上向きには撃てないのかもしれない。

……しばらくセルリアンを観察するが……ヤツは窪地のふちに陣取つたまま微動だにしない。

こいつの能力や戦術が十分に分かつていない……。

これから戦うにせよ、逃げるにせよ……敵の能力が未知数のままではやはり危険すぎるっ……!!

だがそこへ！

「なにあそんでるの〜?」

「ぬ、わあ!」（小声）

のんびり屋のイワハイラックスが、例の粘液でひつつく手足を使って、かたかたとコンテナの壁を歩いてきたのだ!

ほぼ逆さまの格好になって歩けるとは……なんという粘着力! ……あとすごいパンモロ【パンモロ】女性用下着がモロに見えてしまう物理現象のこと。※第0章の「パンチラ」に関するTIPも要参照。パンチラの露出面積の大きいものをパンモロと呼ぶが、必ずしも観測者の性的興奮も比例して増大するとは限らない点が興味深い。最近では、放送・出版コードの規制や年齢制限が制度化していったことで、一般のアニメや漫画では時代を経るにつれ見られなくなってきた。とくに近年では規制強化が進み、パンチラ・パンモロの豊富な環境が失われつつあり、有識者のあいだではその絶滅が危惧されている。しかし現代においても、深夜のエッチなアニメなどの狭い環境において細々ながらその存在が観察できるとか……。なお関連現象として、ドロワースがバツチエ見えまくり「ドロモロ」現象がある。オ!!

ダ、ダメです、女の子がそんなカツコしちや!! パンツが――

「し、白ッ……!! イヤー! ここは危ないから、広場のみんなのところへ戻っていて下さいっ!」

「カラカルもそう言ってたけど……。わたしは広いところより、もつとこういいう岩の

……隙間の方が落ち着くっていうか？」

「そ、そうは言いますけど……」

「平気だよ。セルリアンは、あっちの、あんな遠くにいるわけでしょ？」

彼女は樂觀的なことを言う。すっかり先ほどまでの緊張感が緩んでしまっているのだ。

セルリアンとは十分な距離があつて安全だと思つているのか？

「そ、それでも危険【危険】砲撃の危険性が分からないハイラックスだが、それは彼女がアホなフレンズだからというわけではない。ふだんはのんびり屋ではあるが、敵が近ければ彼女も十分な警戒心を持つていたはずだ。普通のフレンズに銃や大砲の危険性がさっぱり伝わらないのも、じつは全く当たり前のハナシで……。例えば、戦前の一般人に「核兵器の恐ろしさ」を伝えるようなものだ。あるいは全く兵器知識のない現代日本人に対して、ライフル弾や爆轟の高い威力や広い殺傷距離を説明するようなものか……。それ以上に難しいだろう。ちなみに参考として……ふつうの日本人の多くが知らないうな、拳銃弾よりはるかに威力が高いライフル弾の恐ろしさを伝えるページを【参考資料】にリンクしておきます。遮蔽物から「ほんの少しだけはみ出た腕」を「かすつただけ」の負傷の説明です（※閲覧注意。グロテスクな写真を含みます）。……たいいの人には「体はほぼ完全に隠れてるから安全！」と思える状況で、この負傷……。我々人間

も、このハイラックスのことを不注意だと笑えない……。直接被害を受けたことのない「予備知識のないもの」の恐ろしさは、その人の知性や想像力に関わらず、理解するのがとても難しいのだ。なんですっ！ さっきの揺れの原因【原因】「原因↓結果」の関係性のことを「因果関係」と呼び、一方似て非なるモノである「相関関係」というのもあるが、両者は区別しにくい場合が多々ある。というのも、どちらとも具体的な形や音やにおいがあるわけではなく、ヒトの頭の中にだけにある感覚にすぎない。そのうえ、どうもヒトは因果関係を見出したがる習性があるらしく、「事実」に対してありもしない原因や法則性を補完したがるのだ。迷信・占い・オカルト・疑似科学・陰謀論などは、その誤解・錯覚の最もたるものだ。心理学の調査においては、生後半年のヒト赤ちゃんに色々な映像を見せ、映像内で関係性（＝因果関係）が変化すると、赤ちゃんの脳の活動に変化があった、という実験結果もある。どうやら左脳にそのための「関連性」作成を司る部分があるらしい。こうしたヒト生得の因果性を連想する習性は……例えば、草むらが揺れる↓そこに危険な存在がいるのかも……!というように生き抜く上で役に立つ洞察力が進化してきたものに他ならない。ちなみにこういった因果関係の深読みのやりすぎを……そういうのどこかの専門用語では「冷奴」と言うらしいですよ。も——」

私は先ほどの廃車の山の「揺れ」とセルリアンの行動との因果関係【因果関係】経験や本能により因果関係を推理する能力は、他の知能の高い生物にもある程度ありそうだ

が……この想像力をさらに発展させて、なんらかの理解不能な出来事にたいして、その背後に神や悪魔がいるのだろう……などと考えるのは、おそらく人間だけに違いない。ヒト以外の動物は、状況推理を行ったり、嘘（外敵や競争相手の立場を想像して欺く行動）をつく能力はあっても、物語や宗教を創造することはないだろう。獣には神も悪魔もないはずだ、たぶん。しばしばヒトの特徴として……直立二足歩行、発汗&長距離移動能力、前足で掴む能力（＝鎖骨がある）、優れた知能、コミュニケーション能力、器用な手先、投擲、火の使用、農耕、牧畜などが挙げられるが、これらはヒトだけの特徴ではない——※それぞれ自然界では、（直立ではないが）二足歩行する鳥類やカンガルー、発汗と移動能力に優れたウマ、鎖骨を持つネコ科やクマ、高い知能を持つイルカ・クジラ、17種類以上の明確な鳴き声を持つ真社会性動物ハダカデバネズミ、器用に狩り道具を製作するカレドニアガラスや鼻で絵を描けるゾウ、個体によつては非常に正確な投擲をする類人猿、放火して狩りをするオーストラリアの猛禽類、農耕をするハキリアリ、アブラムシやカイガラムシを家畜化したリ他種を奴隷化するアリの仲間……などなどと、枚挙に暇がない。それらに対して「フィクション虚構の想像」は真にヒトのみの特徴なのだ。一説には「物語」や「宗教」は4万年以上前の太古から……文字や農耕牧畜の発祥より遙か以前からその存在が示されているという！ その抽象性の起源を、ヒト以外の動物に見ようとする……たとえば、若いチンパンジーは木の棒を子供にみたててままごと

をしたり、木のウロに石を積み上げて、現地住民の作る社やしろに酷似したモノを作るなどの行為が知られている。そしてサルが死んだ仲間に対して悲しむことも……。物語や宗教の源流とは、類人猿……あるいはそれ以上前の世代の動物にまで遡れるのかもしれない……。をハイラックスにひそひそと説明する！

「かくかくしかじか【かくかくしかじか】クジラ偶蹄目シカ科シカ属カクカクシカジカ。日本全国の記事類に広く分布する有蹄動物。「何かの省略」のたとえとして名前が出されるけれども、漢字では「斯々然々」と書き、古くは日本書紀や万葉集の中で見られる（マジです）。なお、似たようなものとして奇蹄目ウマ科の「マルマルウマウマ」なるものも存在する。！」

「はかせ【はかせ】フレンズたちの会話の端々にまれに登場する、このジャパリパークの「フレンズの長おさ」。彼女は、前述の「物語」と「宗教」のふたつの研究をたいへん重要視しており……。「物語の長」と「宗教の長」の二大役職のようなものを作って、それに向いた人フレンズ材を探してきて任命している。今の代では、前者はカラス、後者はコンドルのフレンズだ。パークの宗教全般を司るコンドルのフレンズは、このさばんなちほーの「ジャパリ霊園」で暮らしているので、近々ハナコが会えるかもしれない……。このコンドルは「フレンズ教」（怪しすぎる名前だ）の教祖ごっこをしている。脚の長いフクロウと、シャベルを持ったゾウのフレンズと一緒に、毎日お墓の掃除をしたり、ワラで人形

を作ったり、野菜で牛と馬をこしらえたり、「かごめかごめ」で遊んだりと……人間の宗教に対して非常にけんきゅー熱心なフレンズさんである。も前に同じようなこと、いつてたようなく……。うくん、わからんく……」

だが！ 投石も弓矢も、銃も大砲も、なじみがない彼女達は……遠距離攻撃の恐ろしさは分からないのだ！

「うわあ……きらきらしてきれい」

「わ、ちよ、ちよつと！ やめてくれ！」

壁に張り付いた彼女がミラーをいじって、照明の光が鏡面で反射する……。

「ダメ！ そんなことしたらヤツにバレる！」

「だいじょーぶ、だいじょーぶ！ ほら、アイツはもう見えなくなっちゃったよ？」

「え……姿が見えないって……？？ でも、そんなはずは……」

再びミラーで索敵すると、確かにいつのまにかセルリアンの姿が消えている……。

「きつと、私たちを食べるのは、あきらめたのんじゃないの？ 動物たち【動物たち】肉食のセルリアンはフレンズを捕食する。……正確には、フレンズの体内に含まれる、高濃度の「サンドスター」を食べるということ。すなわち、フレンズ化するのに十分なサンドスターを体内に濃縮していない野生動物でも、食べればいちおうの栄養にはな

る。しかし野生動物は、知能と身体能力が向上したフレンズよりも捕食しやすいものの、サンドスターが低濃度のため大量に食べる必要があるし、サンドスターの吸収に時間がかかって消化が悪い。つまりセルリアンにとっては動物タンパク質の肉など「枯れ葉」にすぎない——冬、奈良のシカがほかに食べ物がなくて、すっかり枯れた落ち葉をひもじく食べる行為に等しいのだ。この地に集合した「大量のサンドスター」を目前にしておいて……セルリアンが「枯れ葉」だけ捕食してすぐごと引き下がるわけがない。ヤツは、サンドスター栄養満点の喰い物を喰いたくてよだれを垂らしていることだろう。を喰べたからお腹いっぱいなんだよ〜」

ハイラックスが少しひきつった顔で、悠長なことを言っている。

だがそれは希望的観測にしか思えない。

満月の光のもとで、窪地の周囲の一面の草原がよく見渡せる。

遮蔽物の全くないサバンナの見通しの良い草原に……ヤツの巨体は見えない。あの穴から出ていったわけではない……。

と言うことは、ヤツは……???

……うおおっ!!

ヤバいッツ!!

「伏せてっ！ 私たちを狙ってるッ！」

「？」

私は、きよとんとするイワハイラックスの服をつかんで、力づくで壁から引つpegがそうとする！

が、彼女の手足の「吸盤」の優れた吸着力が仇となつて、瞬時に引き剥がせない！

……瞬間、遠方の何もない場所から、空き缶を蹴つ飛ばすような軽い音がした。

その音の速さ【音の速さ】常温の空気中での音速は約340 m/s。これは  $v \parallel 33$

1. 5 + 0. 6 t 「m/s」という式で求められる ( $v$ :音速  $t$ :セ氏気温)。※ただ

し気圧や湿度なども影響する。それに対して銃砲の弾の初速は高低色々あつて……亜

音速の拳銃弾(22LR弾や45ACP弾など)から、秒速900 m以上のライフル弾

(5. 56 m m自動小銃弾<sup>アサルトライフル</sup>や12. 7 m m重機関銃弾<sup>ブローニング</sup>など)や、秒速約1, 500 mのA

P F S D S 弾(装弾筒付翼安定徹甲弾)までと多々ある。音速より速い弾丸であれば当

然、弾丸の着弾後に銃声のほう<sup>アサルトライフル</sup>が距離のぶんだけ遅れて聞こえてくる。このセルリアン

の砲弾のばあい、音より遅れて飛んできたことから分かるように、音速よりかなり遅め

の弾速なのだ。しかしそうは言つても、遮蔽物のない場所で遠距離からの砲撃を見てか

ら回避するのは……速さに自信のあるフレンズであつても難しいだろう。よりもずつ

とゆつくりと……闇夜の中を何かがゆるい放物線を描いて襲い掛かってくるのが、ちら

りと上に見えた。

それがコンテナの鉄板に着弾し、金属が削れる轟音！ その裏側にいた我々を何かが襲った！

「きゃあああーっ!!」

「ぐっ……!!」

衝撃で私たちは地べたに吹き倒される。

……い、今……何が……!?

何の攻撃を……!?

隠れるものがないサバンナで急に姿を消した戦車セルリアンは、窪地の底に移動したために、ミラーの死角になって見えなくなったのだ……。

斜面を利用して、射角を上方に調節しての遠方にいる我々への砲撃……!

そこまですぐに推理できたが……セルリアンは何を撃ってきたのか!?

最初の砲撃と異なり、揺れはほとんどなかった。

鏡は横にひび割れて、高枝切りバサミのアームが無残に曲がっている……。

足元には、多数の穴……。

着弾した鉄板が円形に赤熱して、ちりちりとオレンジ色に光っている……！ 厚さ十センチはあろう鉄板を……！

「成形炸薬弾【成形炸薬弾】HEATとはHigh Explosive Antitankの頭文字。戦車などの装甲に超強力な圧力をかけて貫き、衝撃波噴射で内部の搭乗員を攻撃できる砲弾。第一次世界大戦前から実用化されている。爆轟に指向性を持たせて一点集中化させることで、高圧がかけられた金属は液体のようにふるまい、超高速（秒速数千m!!）の金属噴流が発生する「モンロー||ノイマン効果」を利用する兵器。つまり、重量と速度で物理的な貫通力を持たせた「徹甲弾」とは異なり、圧力による化学反応を利用して装甲の強度を無視して破壊する砲弾なのだ。※注：熱で溶かすわけじゃないので、ふつうの爆発以上の超高温というわけではない。成形炸薬弾の威力は絶大で、砲弾の大きさの2〜10倍の厚さの装甲を貫通できると言われている。また初速も重量も必要ないため、この原理はバズーカやパンツァーフアウスト、RPG-7などの携帯用の対戦車火器にも用いられている。そして、今のこのセルリアンの砲弾は、HEAT弾の原理とは全く別物だが……サンドスターの「保存と再現」の性質を利用し、着弾した遮蔽物を透過してすり抜けて裏側を攻撃できる弾！ 障害物の硬さや厚さを無視できる「潜行弾」とでも呼べる攻撃だ！ 命中した物体が一時的に「ニュートンのゆりかご」のようにふるまうことで、攻撃エネルギーのみを反対側まで浸透させるセルリ

アンのワザだ！のようなものを……！」

ヤツは用途に応じて、異なる種類の砲弾の「撃ち分け」ができるのか！

「い……いたあ……!! お、お腹がやぶけた……!!」

「ハ、ハイラックス!!」

私のほうは軽傷で済んだが——バックバックの中に入れたナベやコーヒーポットが背面への攻撃を防いでくれた上に……私の前にいたハイラックスの体が盾となつてくれたのだ。

壁を大の字に這っていた彼女は、今の砲撃に対する投影面積が大きかったため、被弾が著しい。

胸や腹、手足にかけて、広い範囲に銃創状の傷が何か所も見られる。

傷自体はどれも浅いものの、出血の総量は少くない。みるみるうちに血が服にしみ、ぼたぼたと垂れて砂地に黒い染みを広げていく……。

くそっ！ 早く手当てをしなければ！

『ソノフレンズハ、可及的速ヤカニ 止血方必要ダヨ』

「えッ??」

突然、機械音声のような声が響いた。

「だ、誰ッ!? 誰の声だッ!? どこからッ!?」

『ぼくハ、人間ニ従属スル「けもの」……。』「戦闘ぼとるがいど」ノ「ラツキービースト」ダヨ』

「ら、らつきーびーすと……?」

そばに、L字型の懐中電灯のようなものが落ちており……レンズ状のものから、円錐状の光が出ている……!?

もちろんさつきまでは無かった。

砲撃の衝撃で、どこかの車から落ちたのか……?」

「これから声が……? 通信機……? あ、あなたは一体……?」

「ソナナ事ヨリ、ソノフレンズ、放置スレバ 約2分後ニハ確実に死ヌヨ。止血ガ必要ダ

ヨ。キミ、何カ 薬ヤ医療器具ハ、持ッテナイノカイ?」

「わ、分かった! 使えそうなものを持つてるッ!」

分かったと言いつつ……正直、なんのことだか全然分からん!

だが、なにがなんでも彼ハイラックス女の命を救わなければいけないのは、分かるぞッ!! ラツキービーストさん!!

## 第12話 ヒトの証明 「▲」

とつさに負傷したハイラックスをより危険性の低い場所まで引きずって退避させる！ コンテナと車両とで、2重の遮蔽物のある所だ。だがここも、敵にいつ撃たれるかわかったものではない！

例のL型ライト〔L型ライト〕アウトドアの定番、棒状の本体に垂直に光源部分がついた懐中電灯だ。フラッシュライト手に持つだけでなく、平坦な場所に置いたり、付属するクリップで衣服のポケットやベルトに固定することもできる。この形状の懐中電灯は第二次世界大戦の頃から米軍に使われているようだ。このジャパリパークタイプのヒョウ柄迷彩ライトは小型軽量だがLED・赤外線・エレクトロルミネセンスと光源を切り替え可能な優れものだ。光量や角度の調節も可能で、光源部分をクルッと回転させたり引き出した<sub>りして</sub>、一般的な棒型ライトの形や、360度を照らせるランタンの形にもできる。強度も高いので警棒やクボタンのように打撃武器として使えるぞ。さらに拳銃やライフルなどの取り付け台に装着可能——ビカティニー・レベル照明用途のほか、閃光で敵をひるませたり、赤外線モードで光量を絞って簡易レーザー照準器サイトとしても運用できる。そして問題の彼、戦闘用のラッキービーストの「本体」は、光源付近に取り付けられており……光を向けた物

体を分析したり、望遠・赤外線視・暗視装置・人間の輪郭や顔の識別……などの機能で索敵したりと、その性能を活かして所持者のサポート役として活躍していたようだが……。（これは通信装置でもあるのか？）を手に取ると、光源付近のレンズ状のパーツから、謎の「ラツキービースト」さん??の声がまた流れてくる……。

いや、それは中性的な声で……もしかしたら「彼女」なのかもしれないが……。

『ぼくノ本体ヲ……ソノれんずヲ 負傷箇所ニ 向ケルンダヨ』

ラツキービーストが機械音声のような平坦な声で語りかける。

「了解……こんな感じでもいいですか？」

『OKダヨ』

私はフラツシユライトのレンズ（これはカメラにもなっているのか？）を、悲痛なうめき声を上げるイワハイラツクスの体に向け、水筒の水を使って患部を洗浄する。

『……左大腿部ノ大量出血【大量出血】成人の体には総量4〜5Lの血液が存在し、その1/3を失うと致命的である。そして、イワハイラツクスの大腿動脈からの大出血は、生命力に優れるフレンズでも非常に危険な状態だ！ ※出血の目安として、床や衣類の30cm四方の血の染みが約100mLだ。出血が起こると健康な人体であれば血管が収縮し、血液中の血小板が傷口で凝固しはじめ、約3分後まず一次血栓を形成、そして5〜10分経過でさらに安定性と持続性のある二次血栓が作られて止血が完了する。

だが出血が多すぎる場合は、この二次血栓が形成されずに押し流されてしまうのだ。フレンズの肉体を構成する超生命物質「サンドスター」は、「保存と再現」の性質を持ち、生物の恒常性ホメオスタシスを強化して血液凝固作用を助ける働きがあるが……傷口で空気と反応して気化する性質が問題となり、体外への大量出血の場合は「ふつうの動物」と同様に命の危機なのである。※なお、念のためもう一度書いておきますが、このお話はジャパリパークを舞台とするフレンズに関するフィクションであり、本編やTIPで記述される救命医療等の知識の正確性や合法性等を作者は全く保証しませんし、本小説内の情報によつて損害を被つても責任は一切取れません。ガ 一番ノ重傷ダネ。キミガ、救急処置【救急処置】「医の原点」と言われる救急医療……今までの日本国内の救命講習では、このような大量出血への対処よりも「心肺蘇生法」のほうが重要視されてきたが、2019年からは止血講習が復活した。従来の「カーラーの救命曲線」の概念では大量出血は30分で死亡率50%とされているが、これは血液が体内に留まったまま心臓や呼吸が機能し続けることを想定しており、戦場や事故現場、テロ現場などで致命傷を負つて、急激かつ大量に失血して生命維持機能が低下する緊急事態には当てはまらない。銃砲や爆弾などによる重傷を負つた人間は30秒〜数分で死ぬと言われている。こんな短い時間では、戦場の前線では衛生兵メディックを呼ぶことはできない（というか小隊にひとりしかいない貴重な衛生兵は、攻撃の届かない所で治療するものであり、昔の戦争映画のように

銃弾をかいくぐって負傷者を救護することはないし、街中でも救急車や近所の医者が来ることすらかなわない。つまりこういった重傷は、そばの人間や負傷者自身が即時、救命処置を行うしかない。たとえば、手足にライフル弾を受けると死亡率は1分で50%にも達するが、すぐ適切な止血ができれば90%は失血死を回避できるという。助けてくれる誰かを待つてるヒマなどなく、自分や仲間の命は自分自身で救うしかない！

なお作中では、まずケガの評価をしてから止血処置を行っているが……アメリカ軍では「30秒で安全な場所に退避＋60秒で止血帯を取り出す＋15秒で使用」と、2分以内に完全なマニュアル対応で止血を行うよう訓練されている。スルシカ ナイケド、デキルカイ？」

「もちろん……やるつきやないですッ！」

『良イ返事ダネ。ジャ、手順ハ ぼくガ 教エルヨ』

「あなたの指示に従う！ さあ早く！」

『マカセテ』

……未知の世界ジャパリパークのことを、少しは分かってきたと思つたら……いきなり現れたのは「ラッキービースト」と名乗る、敵か味方か分からない未知の存在……。

だがハイラックスの怪我はひどい出血で、素人目に見ても、放っておけばすぐに失血死に至る重傷！ つまり、仮にこの「ラッキービースト」に悪意があれば、わざわざ助

けるなどとは言わない……ハズ……??

そ、そのはず？だよな……と一瞬考えたものの、はつきりした結論など出ない！

しかし！ ハイラックスを救命たすけるためには、ここは彼に頼るしかないのだっ！

『……日時時刻：不明。場所：不明。対象：民間シビルianフレンズ。救急救命・標準手順 開始  
シマス』

「ラッキービーストさん、頼みますっ！」

『ぼくノ声ト、キミノ手デ、彼女ヲ 助ケヨウ！』

……あなたが善意の存在——名前通りの幸運の獣であつてくれるように……。

『意識有り。大腿動脈・静脈ニ 重度ノ爆傷【爆傷ばくしょう】爆発による損傷ダメージのこと。医学用語では「創そう」は皮膚表面の損傷（切創・銃創など）を指し、「傷しょう」は体内の損傷（打撲傷・脳挫傷など）を指す。※この小説内ではあまり区別されていません。爆発物による負傷では、体内への衝撃ダメージのほうが致命的になりやすいために爆「傷」表記となる。では、一般的な爆発物の威力についてだが……銃の場合は、例えば大腿部の動脈・静脈をライフル弾（速いものは弾速約1,000m/s）で損傷すると1分で50%が死亡・3分ではほぼ100%死亡する致命傷だが……爆発物の場合、秒速数千mの超高速で破片が爆散するため、ボディアーマーなしで近距離で直撃すれば、ライフル弾の数十倍の威力

となる！ なお「爆発」には「爆燃」と「爆轟」の2種類がある。前者は火薬による燃焼速度の遅い爆発で、衝撃波が発生しないために威力は比較的低い。対して爆薬が燃焼する「爆轟（高速爆轟）」は音速（約340m/s）を遥かに超える3,000〜9,000m/sの膨張速度（炎の伝播する速度）により、衝撃波を伴い、時には数百mの数kmの広い範囲に被害をもたらす——例えば、2018年の札幌でのガス爆発事故では「爆轟」が発生して、爆発音は20km先にも届き、時速約1,200kmの衝撃波が発生したと言われている。……しかしこういつた知識は、平和な日本では無用の雑学……というわけでもなく、爆発物が本当に簡単に製造できることは一般常識レベルで有名であり、また前述のとおり燃料などの爆発事故もあり、むしろ銃器よりも爆発の被害にいう可能性のほうが大きい。事故やテロ被害に備えて正確な知識を身につけておきたいところ。ヲ確認。大腿骨・未損傷ノ為、止血帯（止血帯（その1））心肺停止への処置器具であるAEDに対して、上腕・大腿から先の四肢の重度出血に対する医療品が「止血帯」だ。現代の戦争やテロでは自動小銃やIED（即席爆発装置、米軍通称：車爆弾カーボム）の高性能化が進んでいるし……テロや戦争とは（海外と比べれば）幸いにも縁の薄い平和な現代日本でも、手足に大怪我を負う事故や災害時には止血帯が必須となる。19世紀の南北戦争以来、兵士のカルテを永久保存しているアメリカ軍によると、ベトナム戦争の死者数約5万8千人の約6割が「四肢からの出血死」であったが、その後の止血帯の

支給と止血法教育の普及により、1/5の割合の12%まで減少したというデータがある。現代の米軍においては1人2本以上の止血帯を、取り出しやすい位置の左右ポケットに分散携行することが義務付けられている。一つの重傷に対して2本使う場合もあつて、一人の負傷に対しては平均して2.25本の止血帯を使うという統計結果になつてゐる。ところで止血帯は重い後遺症が残る可能性があり、「善きサマリア人の法」が導入されていない日本の場合、医療従事者でない者が使つたら医師法（第17条）違反にならないの？と思えるけれど……消防庁や厚生労働省によると「緊急事態」で「使用者が止血帯講習を受けて知識がある」場合は、使用が完全に合法であるということだ。ヲ 適用シマス。……ヒトノ キミ、何カ 使エソウナ物 持ツテナイカイ？ 縄ヤ 紐ノヨウナ物……ねくたいヤ べるとナンカノ、止血帯〔止血帯（その2）〕かつては「悪魔の器具」と呼ばれた止血帯は、使い方を誤れば重篤な障害が残つてしまう。出血の95%は「直接圧迫止血法」（※第0章のTIP参照）で止血できると言われるが、それは救命できない致命的な四肢の出血に対しては、「止血帯止血法」（旧名：緊縛止血法）が必須となる。統計的に見ても止血帯は効果がとても高く、アメリカの対テロ戦争において、激戦となつたイラク・フアルージャの戦闘（2004年）以降、米軍で止血帯の支給＋使用法教育がされるようになってから、四肢出血での死亡率が26%↓10%と激減したという結果がある。そうして止血帯はアメリカの救急車の標準備品にもなつた

が、実はあまり有用とは言えない——救急車は着くまで時間がかかるため、止血帯を要するほどの重傷者は救急車到着前に死亡してしまうからである。それよりも、作中のようなロープや三角巾・衣服などの「非認可の止血帯」が大きな効果を上げてきた。2014年のボストンマラソン爆弾テロ事件では、止血帯が使われたのが27件、その1/3のものが即席の止血帯であったという……。他にも、2012年の米国小学校銃乱射事件などの影響もあって、現在では日本含め各国で、止血帯は空港や学校などの公共施設でAEDや包帯といっしょに設置されて、使用方法教育が導入されつつある。※なお医療機関や軍隊では正規の止血帯の使用が強く推奨されており、作中のような即席止血帯は本来は非推奨となります。二 ナリソウナ物……』

「このロープでは？ 服やベルトも使えそうだけど？」

『材質ヤ長サヲ 考慮スルト……ソノ『ろーぷ』ガ 向イテイルネ。ソレヲ 使オウ』

私はラッキービーストの指示「ラッキービーストの指示」以下のようなもの。1. 準備：血液や体内の組織に触れるから、感染症等を防ぐためまず手袋をしてね。今回は代わりに洗った「ビニール袋」を使えばいいよ（本当は消毒したいところだけど）。2. 適用部位：爆傷は外見以上に内部体組織が損傷していることが多いから、傷のすぐそばではなく、とりあえず足の付け根に止血帯を適用しよう。3. 適用法：「本結び」にした止血帯を君の腕に通してから、その手で負傷者の脚を掴んで太腿まで帯を入れていくん

だ。この方法なら夜間の暗い場所でも手探りで治療できるよ。そして、止血帯は硬い骨に血管を押し当てて止血する原理だから、隙間に指が3本入らないくらいに、きつく締め上げないと効果がないよ。大腿部なら350 mmHg（家庭用血圧計の加圧の約2倍）以上の圧力が必要だよ。4. 制限時間：止血帯の使用は激痛を伴うし、後遺症を防ぐためにも、使用は20分が限界だよ。5. がんばれ！：でもフレンズの強靱な生命力なら、致命傷を止血してサンドスターの体外流出さえ食い止めれば、すぐにケガは治療するはず……『君ナラ絶対、大丈夫！ サア、ガンバツテ！』に従い、「植物繊維のロープ」をハイラックスの太腿にきつく巻き、「高枝切りバサミの柄」でぐるぐると締め上げて「結束バンド」を使って固定する。

「ぐぐぐ……い、い……だ……だ……！」

止血処置のあいだ、苦悶の声を上げるハイラックス。

「ハイラックスさん、すまん！ 痛いけど我慢してくれ！」

『喋レルノハ、肺ガ ヤラレテイナイ証拠ダヨ』

私は彼女の手を握って励ます。

「ハイラックスさん、キツイけどこれで血が止まるからね！」

「あ、ありがとう……」

そう彼女は無理に笑顔を作って言う。

「うかつだった……私の責任だ……。あの時、あなたを……」

「いやあ、自分を責めることないよ。わ、わたしが……うっかりしてたせいだから……。『流れた血は戻らない【流れた血は……】ジャパリパークのことわざ。太公望の故事に由来する「覆水盆に返らず」や、英語圏の”It is no use crying over spilt milk.”（こぼしたミルクを嘆いてもムダ）と同じ意味。盆ボウルに水を入れたり、牛乳を飲むフレンズは少ないが……。だがしかし「流れた血は戻らない」の意味は、誰でも分かる。彼女らも私たちと同じ、温かい血が流れる生き物なのだから……。ところで牛乳と言えば……他の動物の乳より乳糖ラクトースが多く分解しにくい牛乳を、イヌやネコに与えてはダメなことは有名。これは哺乳類全般において、離乳期以降は腸内の乳糖分解酵素ラクトグターゼが減っていき、牛乳でお腹を壊す「乳糖不耐症」になるため。だがヒトの場合は哺乳類として異例なことに、乳糖不耐症にならない成体が異常に多いのが特徴。これは遺伝子が進化したためとも、牛乳が広く飲まれる食習慣のおかげとも言われている。なお、とくに北ヨーロッパの民族などは乳糖不耐症に非常になりにくい。逆にアジア人などはお腹を壊しやすい人の割合が多い……。これは人種・民族・牧畜習慣などが関係しているようだ。で本題だが、動物が「ヒト化」したフレンズの場合、上述の「ヒト全体としての牛乳耐性」を受け継いでいるのだが、乳製品そのものがこの荒廃したパークではレアで飲む機会が少ないのであまり意味がない。ちなみにフ

レンズの主食じはん!である「ジャパリまん」には、自給生産性と倫理面の理由により牛乳由来の成分は含まれていない。』つて誰かが言つてたよお〜……」

「すまない……! もう喋らないで……! あなたは私が絶対助ける! また壁をぺたぺた歩かせてあげる!」

そして!

『ヨシ! 救命止血、完了! コレデ 20分ハ、時間ガ出来タ【時間ガ出来タ】(死ぬまでの)時間ガできた、ということ。言い方こそアレだが、最近の救急医療ではこういう *time* 時間 *the* を *time* 種 という概念が一般的になつてきている。日本の救命講習でよく用いられる前述の「カーラーの曲線」は、ゴールドン・アワー ブラチナム・テンミニッツ 黄金の1時間や プラチナム・テンミニッツ 黄金の1時間や プラチナムの10分間など、時間の概念を分かりやすく伝えるものだが……計算式が不明瞭・出血量を考慮していない・実は医学的根拠は不明、などの欠点があり、現場では実用レベルではないとされている。そういう「く分以内に!」の概念よりも、「く分の時間を稼ぐ!」というのが現代的な救命医療の考え方。2000年代以降に欧米で多発するテロに対しては、従来の救命方法では同時多発する負傷者全員に対応できないため、軍隊式の「数をこなす」救命戦術が平時の救急医療にも導入されたわけである。ヨ! 残りノ負傷ノ治療ハ、ハイラックス ハイラックス 彼 女ヲ 「安全ナ場所」マデ搬送シタ後ニ、続行シヨウ!』

私はハイラックスをひっぱって【ひっぱって】普通の救助活動とは違い、今は高い姿

勢でハイラックスを搬送するのは危険すぎる！ セルリアンに見つかれば、また砲撃の餌食になるかもしれない！ そこで、以下のラッキービーストの指示……。手順1：自分の着ていたポンチョ（一枚布のコート）を広げて「布の担架」を作り、その穴金具ハトメにロープを通して、輪を作っておく。手順2：搬送者は仰向け状態になり、負傷者の脇の下に後ろから両脚を差し込み脚力で引く張って「担架」に載せる。手順3：搬送者は匍匐ほふく状態になり、ロープを肩で引く張って負傷者の載った担架を引きずっていく。くるまの牽引や船の曳航みたいな要領で、遮蔽物に身を隠しながらの匍匐搬送法だ。全身の筋肉を使つて引く張れるため、小柄な人間でも大柄な負傷者を運ぶことができる。また搬送者は両手が空くので、銃を使つたりなど別作業ができるのも利点。敵さんの例の「潜行弾」は非常に怖いが……このように隠蔽いんぺいして移動すれば、向こうも砲撃を的確に当てることは容易ではないだろう。広場のほうまで移動させていく。

ここもいつ「砲撃」が飛んでくるかもしれないが……さっきの端つこの場所よりは、はるかに安全だ。

カラカルやキリンや他のフレンズ達が私たちを迎える。

「あー！ ハナコ！ 何、さっきのものすごい音と悲鳴は……!?!」

「ハイラックス!! あなた、どこへ行って……って、ひ、ひどいケガじゃない!!」

するとL型ライトの光がぴかぴか点滅し、ラッキービーストが再び話し始める。

『サア、安全地帯マデ 到着シタネ。救命処置ヲ 続行シヨウ』

「みんみつ！ にやんだあ、こいつうくつ!? 光るし、喋るく!?」

「ひ、光が、しゃべ——光がきようじゅつしたあ〜！」

彼が話すとフレンズ達もびっくり仰天。

「みんな、彼はラッキービーストって言ってる……。えーつと、なんて言ってたかな……？ ……まあ、とにかく、私たちフレンズの頼れる味方なのだつ！ 私が保証する！」  
もちろん保証なんてできっこないのだが……ここでフレンズを不安にさせたくないのだ。

そう、今までの言動からして彼は……味方だと判断してもいい……はずなのだ。

『ソウダヨ。頼リニシテネ。デモ、今ハ ぼくノ事ヨリ、マズ 怪我人ノ治療ガ優先事項ダヨ!』

「そうですね……！ さあ、ハイラックスさん、ケガの手当ての続きをしますからね！」  
「よ、よろしく〜！」

こうして私たちは、フレンズたちにも手伝ってもらって、ハイラックスの残りの怪我の治療を続けた。

腹部のキズは幸いにも重要臓器を逸れていたの、見た目よりもずっと軽傷であった。

この傷の処置としては、水で洗って湿らせたビニール袋を、ハイラックスの手足の裏から分泌される粘液【粘液】イワハイラックスの粘液は動物のそれよりさらに便利で、自分の意志で粘着力を調整できる優れたもの。全くの別物だが、「ナメクジの粘液」の性質に似ているかもしれない。農家さんやご家庭のガーデンングでの嫌われもの、あのナメクジの分泌する粘液には滑り止め成分が含まれており、雨で濡れた垂直な壁でも昇り降りできる。また粘液をロープのようにして高所から降りることもできる……お次はターザンときたわ！ しかも粘液には抗菌力があつてとても衛生的なのだ。そして大ピンチの時には、めつたなことでは剥がれない超強力粘液を大量に出して捕食者を攻撃するという……。このナメクジ粘液の性質をヒントに研究中の、医療用「ナメクジ接着剤」は、既存の医療用接着剤の3倍の粘着力を持ち、濡れたものでもくつつき、そして人体に無害で、術後に体内で分解させることもできる！ まさに心臓などの内臓の手術へピッタリなのだ！ 長らく「嫌われもので役に立たずの不快な農業害虫」と人間に思われていたナメクジに、こんなすごいヒミツがあつたなんて……よく言われる「生物多様性を保ちましょう」というセリフは、たんなる生物学者のクレイゴトではなく、実際に我々人類の進歩と繁栄のためでもあるのです。他にもナメクジさんはなあ、ビールと発泡酒の臭いを区別したり、脳が傷ついても再生したりなどと、色々とスゴイのだぞ！

なお、さばんなちほーに棲息する超大型のナメクジ「サバンナシマシマオオナメクジ」か

らは大量の粘液が採取でき、かつてパークにいた研究者がそれを集めて、強力接着剤を  
実験開発していたとかしてなかったとか……。で接着させて被覆する。

その他の比較的軽いキズは、ガーゼや包帯で止血【ガーゼや包帯で止血】フレンズた  
ちの衣服（彼女たちは毛皮や羽毛と呼ぶもの）を、フレンズのツメや黒曜石のナイフで  
裂いて、ガーゼや包帯状にしたものを巻いて治療。イワハイラックスは、もとの動物は  
ウマ類やゾウ類に近縁と考えられているので……。アレルギー反応を最少にするため、今  
回はシマウマやゾウのフレンズの服の布地を使用している。フレンズの衣服に含まれ  
るサンドスターには止血効果があり、ただ巻くだけでも、軍用のエマージェンシーバン  
デージ（イスラエルバンデージ）や包帯状止血剤（クイッククロットやセロックスなど）  
以上の治療効果がある。ちなみにガーゼや包帯による「直接圧迫止血法」とは、止血帯  
のように圧力により血流を止めているのではなく、布という「異物」を傷口に強く接触  
させて負傷者の自然治癒を促進するものだ。そのため傷口表面を押しさえるだけでは効  
果が薄い。痛々しいが、傷口にガーゼを詰めたり、包帯ごしに傷口に指で突っ込んだり  
して、患部に「詰め物」と「圧迫」を施し、内部の体組織が異物に最大面積で接触する  
ように処置している。したり、結束バンドや接着剤で治療【結束バンドや接着剤で治療】  
四肢や胴体の軽傷には、ハイラックスの手足の裏の粘液を「接着剤」として、結束バン  
ドを接着させて締めたり、傷口を直接くつつけるといふ治療法がとられた。ちなみに結

束バンドをキズに貼り付ける『ZipStitch』なる救急キットは実在し、傷口の皮膚をピタツと直接くっつけるので、通常の縫合より傷跡も残りにくいそうだ。またシアノアクリレート系接着剤（アロンアルフアなど）が、医療用にも使用されることを考えれば、直接キズをくっつけるのが効果的なものも納得のいく話だ。※注意：医療用でない結束バンドや接着剤を治療に使うのは危険ですので真似しないでね。工作用の接着剤には人体に有害な化学薬品も含まれている可能性がありますし、CA系接着剤は綿や羊毛などに貼りつくと急激に100℃近くまで発熱して危険なのです。似たような医療品としては液体絆創膏なんかがあるので、そういう専用のモノを使ってネ。したり、アリの大アゴで縫合〔アリの大アゴで縫合〕その辺で捕まえてきたアリに傷口を噛み付かせて閉じる——要は、医療用スキンステープラー（ホツチキス）と同じ原理だ。大きなアゴを持ち、一度噛んだら離さない攻撃的な兵隊アリのなかま（グンタイアリやサスライアリ）が使われる。アフリカや中南米などの熱帯ちほーで実際にある治療方法で、紀元前1000年前のヒンドゥー教の文献にも記述があるという。メル・ギブソン主演のマヤ文明が舞台の映画『アポカリプト』でも同様の治療シーンがある。したりなどの処置を取った。

治療が終わった後は彼女を楽な姿勢【楽な姿勢】負傷した側を下にして横向きにさせ、上側の片脚を直角に曲げて仰向けにならないようにする「回復体位」という姿勢。横向

きにさせることで、意識を失って舌が落ちたり嘔吐物が詰まるのを防ぐ。また、兵士や警官などボディアーマーを装着している場合はその重量を逃がせるのでとくに有効となる。にさせる。ちょうど経口補水液の粉末〔経口補水液（ORS）の粉末〕食塩・ブドウ糖・クエン酸などの混合された、水に溶かして飲む粉末ジュース。経口補水液は水1Lに対して塩約3g（ひとつまみ）と砂糖約40g（ひとつかみ）の割合で、ふつうのスポーツドリンクよりも塩分が多めだ。発展途上国の病院や戦地では輸血は難しいので、こういった長期保存しやすい経口補水液での治療がとても有効。小腸経由で電解質とともに水分を通常の水の2.5倍という速さで吸収させて、体内で血を作らせて循環血液量を増加させる効果がある。ちなみにこの粉ジュースは「さばんな駄菓子屋」の店主からもらったものらしい……。彼女はなぜか名古屋弁を話すロバのフレンズで、じやぱり商人組合キルドに所属する「行商フレンズ」である。を持っていたフレンズがいたので、これを水筒の水に溶かして飲ませる。

『脈拍・体温・呼吸・血圧・血中酸素濃度・瞳孔反射チェック』

ラッキービーストの指示で、彼の「本体」（細いストラップがついたレンズがついた腕時計のようなパーツ）をフラッシュライトから外し、ハイラックスの手首などに当ててセンサーでバイタルサインを計測する。……ウェアラブルデバイスのような原理だろうか？

『……ばいたるハ、徐々ニ 正常化シテイツイテルネ。命ニ別状ハ無イヨ』

「よかった……」

『キミガ 手早く、一番ノ重傷ヲ処置デキタ オカゲダヨ』

『……トコロデ 聞イテナカッタケド、キミノ名前ハ？』

治療が一段落して、ラッキービーストが尋ねる。

「私？ ……『ハナコ』と呼ばれてます。私の初めての友達に名付けてもらった名前です」

そう答えると、カラカルが「ちよつと！」と反論を挟んできた。

「アンタ、さつきも言ったけど！ ハナコつて名前は自分で名乗ったんじゃない！」

「え？ ……そう言われれば、そうだったけど……。いや、誰かにつけてもらった名前のような、なぜかそんな気がして……。うくん、記憶障害があるのかなあ、私は……。つか、もともと記憶喪失だしなあ……」

アファーマテイブ  
承認。

「個人名「ハナコ」ヲ 「民間人リスト」ニ 登録シマス。「部隊リスト」ノめん

ばーハ 不在ノ為、本ラッキービースト個体ハ、今ヨリ、「ハナコ」ノ指揮下ニ 入りマ  
ス』

「そ、そりや大げさな……ところで『リスト』って何？」

「アクセス拒否<sup>ディナイド</sup>。該当ノ情報ハ れべる2 以上ノ登録者ノミニ<sup>二</sup> 制限サレテイマス。  
『ハナコ』ノ 現在ノ『せきゆりてい・くりあらんす・れべる』ハ0<sup>ゼロ</sup>デス。……ツマリ  
話セナイ事ダヨ」

ヒカリは丁寧語交じりの口調で言った。

「なんだか分からんけど、それならしかたないですね」

『ゴメンネ』

「おお！ それは、探偵のしゅひぎむ！ この『しゃべる光』は探偵なのねえっつー！」

キリンが話<sup>ネガティブ</sup>に首を突っ込んできた。

『否定、ぼくハ 探偵ジャナイヨ』

「いいえ、むしろ今の活躍はまさに『医者』のそれ！ あなた、この名探偵の私の『でんきさつか』ね、わとすんくん！」

『違ウヨ、違ウヨ』

あいかわらず支離滅裂なことを言う子である。

ぐいぐいと喋るキリンのおかげで親密な空気が流れ、それを機に他のフレンズたちもラッキービーストと話し始める。

「あなたは何のけものなの？」

『けもの違ウ。ぼくハ ラッキービースト ダヨ』

「え、え〜！ ラッキービーストって……はかせがよく言ってる名前ですが……つまり、あなたはあの子と同じけものなのですか!？」

「でも、あの子とは見た目がぜんぜん違いますよー。こんなに小さいし。じゃあ、同じ名前だけど、別の種類のけものなんでしょうかね？」

「たしかに。君みたいなおしゃべりな子は珍しいわねー」

「そうよね、たいていはすごく無口なのに。こうしてアタシたちとふつうに喋る子は初めて見るわねー」

フレンズたちは何事もなかったように状況を受け入れている。

彼女たちの会話によると、みんなラッキービーストのことを知っているらしい。

そしてこの彼は、「一般的なラッキービースト」とは違うそうだが……。

「えーい、同じ名前じゃまぎらわしいっ！ あなたは光るから……じゃ、ヒカリちゃんにするわね！」

キリンが勝手に命名している。

「あ、そういえば、まだ言っていなかったけど……ありがとう、ラッキービーストさん……いえ、私もヒカリさんと呼んだほうがいいですか？」

『個体名ナンカ、何デモイイヨ。ぼくハ ヒトニ従ウ機械。ろぼつとニ 名前ハ 要ラナイヨ』

「そ、そうなんですか……？ しかしロボとは言つてたけど、実際あなた、何者なんですか……？」

『具体的回答：オブジェクトイブ・インディビジュアル・コンバット・サポーターイングシステム——個人主体戦術支援用システム・特殊工作型ラツキービースト。存在目的：ヒトノ保護、ヒトノ命令ヘノ服従、可能ナ限りノ自身ノ保存』

「よ、よく分からんのだけども……」

『他ノ詳細な情報ハ……機密事項コンプライデンシャルダカラ 話セナイヨ』

「ああ、さっきの情報制限とかいうアレで……」

『ゴメンネ。ア……デモ、ぼくニモ 前ハ「からだ」ガ アツテネ……。スゴク、カツコイイろぼつと ダツタンダヨ』

「そ、そうなのおつ……!? すつ、すごくかつこいいロボット【すごくかつこいいロボット】彼女の今の「脳内イメージ」がどんなものなのかは、読者のご想像におまかせします。しかし、これはおそらく、世代や個人の嗜好によつてその想像図は十人十色に分かれそうです。……あなたの思う「すごくかつこいいロボット」は、どんなロボット？ だったの……（どきどき）」

『ハナコ、今ノ ぼくハ、キミニ従ウもの ダヨ。命令シテ。ぼくノ 次ノ任務ハ、何ダ  
イ? ぼくニ 出来ル事ナラ、何デモスルヨ?』

「任務……というか、お願いになるけど……ヒカリさんも、あのセルリアンを一緒にやつけるのに協力してほしい!」

『了解。作戦目的：せるりあん討伐。ぼくハ イツデモ ハナコノ命令ニ従ウヨ』

「……『ヒカリ』って、アンタも言ってること、よく分からんわね……。ま、なんにせよ、ハナコが大したケガじゃないみたいでよかった……」

そう言うカラカルの瞳孔は大きくなって尻尾や毛は逆立って、動揺している様子が見て取れる。

「でも、ハイラックスさんがこうして身代わりになって……」

まるでミイラのように包帯で体をぐるぐる巻かれた、痛々しい姿の彼女を見る……。  
「だから、そんなに気にしないでよく。さっきも言ったけど、わたしのほうが、不注意だったからさ。……それよりも、あのセルリアンはどえりやあくヤツだよね〜!」

ハイラックスが明るく笑って答える。

「そうねえ……。くっそ〜、あのセルリアンめ……。いつもと様子が違うけど、これからアタシたち、どうしたらいいのかしら……?」

「うむ！ 私の長いたんでいじんせいでも、こんなのは初めてね……。だが！ こういうピンチの時こそ！ ほーむずさんのように、かんさつとろんりで真実を見つけ出して……！」  
ポワロさんのように、灰色の『のうさいぼう』を働かせなければ！」

キリンが耳や尻尾を振って興奮しながら言う。

おかしなことばかり言うキリンだが、今回ばかりは私も彼女の意見に賛成だ。

今こそフル回転で頭を使わなければ……！」

まず手始めに私は「戦車セルリアン」を観察して分かったことを皆に説明して、情報を共有することにする。

「あのセルリアンは危険すぎる！ 逃げようとして遠くに離れても、ヤツの『砲弾』で撃たれてしまう！」

「ハナコの言う通り……。いやりくつは、よくわからんが……。だが逃げるより、戦つて倒せれば、それが一番だと我も思う。奴を放つておけば、あれを知らない者がやられるかもしれないと思うとな……！」

バーバリライオンがそう言って、他のフレンズたちも「戦うこと」じたいには賛同してくれる。

そして私は、セルリアンは色々な種類の砲弾を撃つてくることも説明したのだが……

やはり銃や大砲や戦車など知らないフレンズたちには、どうもうまく理解してもらえない。ケガした本人のハイラックスも、うまく説明できない。

「あの、ヒカリさんは、フレンズさんに上手く説明できます……？ ほら、サバンの動物のたとえ話とかで……」

私は胸ポケットに入れたL型ライトのラッキーマスターに尋ねる。

『ソノ命令ハ 難易度 高イネ。高性能ナAIノ ぼくデモ、比喩ヤ類推ハ 苦手ダヨ』  
 「ヒカリさんでも苦手なことがあるんですねー。それはロボだから……？ いえ、でもこうして流暢にお話ししていると、ぜんぜん機械とは思えないけどなー（声だけメカっぽいけど）」

『ソレニネ、ぼくニハ、専門ノ「動物解説ソフト」ガ いんすとーるサレテ無イカラネ。ソウイウ「動物解説」ハ、ぼくジヤナクテ 飼育員さんヤ 「ぱーくがいど・ろぼっと」ノ 業務ダヨ』

「うーん、それは困ったなあ……」

そこへ！

「そーいうお困りの時はあくわたくしいくつっ！」

へビクイワシが斜め45度ぐらいの勢いで飛び出してきた。

「わ！ びっくりしたー！」

「さばんなちほーの『せんせい』であるこのヘビクイワシの出番でありましょうッ！ 今のお話、わたくしが代わってお話しますっ！」

「そ、それじゃ、よろしくお願ひします！」

彼女にフレンズたちへの解説を頼むことにする。

そして！

「さあ、おべんきよようの時間ですよ！ みんな、今日は元気かな？」

……ヘビクイワシは、教育番組のお姉さんのようなパフォーマンスを始めた。

「ハ―イ！」

「我也元気である」

「うみやみやー！」

「キリンは昼も夜も元気よ！」

フレンズたちも慣れたノリで返す。

「ハイラツクスも元気い〜！」

『人工知能：正常。末端センサー：刺激無シ。運動機能：最悪。体ハ無イケド、ぼくモ元

気ダヨ』

「あなたがたは元気とは言えないでしょ」

「そういえば〜」

『言ワレテミタラ ソウダネ』

「よしっ！ まずはみんなで頭の良くなる『鳥さん体操』を——」

「あの、ヘビクイワシさん、今回はそういう前置きは省略でお願いします」

「え？ こういう時こそ、頭が良くなる体操が必要では？」

「いえ、気持ちちは分かりますが、ここは巻きでお願いします。体操は後ほど」

「そうですか〜……しようがないですねえ……」

今にも踊り出しそうな勢いのポーズ「今にも踊り出しそうな勢いのポーズ」ヘビクイワシ、舞踏のポーズ。ヘビクイワシは求愛の際にダンスを踊ることが知られているが、1羽だけの時でも（その目的は不明だが）華麗に踊る姿が目撃されている。そして彼女へビクイワシのフレンズも、テンションが高くなると、クラシックバレエとも武術の演舞とも似たダンスを踊る習性がある。美形のお姉さんが宝塚のごとく喋りながら華麗に踊る光景はちよつとシユール。のヘビクイワシを私はなんとか説得すると……彼女は「くええーっ！」と咳払いして声を整えてから、満月夜の青空教室でセルリアン講義を始める。

「みなさん！ サバクツノトカゲ【サバクツノトカゲ】イグアナ科ツノトカゲ属サバクツノトカゲ（Phrynosoma platyrhinos）。カナダ南部、アメリカ西

部、メキシコ、グアテマラにかけての砂漠地帯に生息する全長10cm前後の小型の爬虫類。本種は頭から体へと戻る血流を首の筋肉で締めて止め、顔面の血圧を高めて、眼の毛細血管を破裂させて涙腺から血液を噴出する。この「血の涙ビーム」の射程は1〜2mにおよび、約10回まで連続発射できる！ さらに飛ぶタイミングや方向を制御でき、左右の目で撃ち分け可能！ しかもオオカミやコヨーテなどの捕食者が嫌う成分が含まれているぞ！ しかしこれ、最大で体内の全血液を1/3の量を放出してしまうワザ。数日で血液量が元通り回復するとはいえ、獲物の少ない砂漠では体力を回復できずに衰弱死してしまうこともあるとか……。まさに最後の防衛手段だ！ この奇妙なトカゲはジャパリパークにも生息していて、「さばくちほく」というエリアで見ることができ。って知ってます？ 怖くなると、目から血の涙をビュルル〜と！ 同じようなことをする、ネズミみたいなセルリアン「ネズミみたいなセルリアン」「注射器型セルリアン」のこと。第2章2〜3話に登場。ソーセージ形の胴体に、手術器具のような大顎の中には注射針状の隠し顎、トビネズミのような長い脚を備えた、吸血とジャンプが得意なにくいやつ。一列になって前の個体のお尻にかみついて、数珠つなぎになって移動したり、ムチのようにしななって攻撃するという変な習性がある。もいますよ！

この質問に対し、フレンズたちの反応は「知ってる」と「ぜんぜんわからん」の音が半々くらい。

「……じゃあ、クジラー！ クジラは鼻が頭の上にあつて、鼻水をズビビーつと！ ……知らない子もいますか……。じゃ、さばくのラクダや、こうぎんのアルパカのツバ吐き！ 知りませんか……。？ では、ゾウ！ ゾウのみずでっぼう！ 長い鼻で水を吸つて……。ドバババーっ!!」

こつちの説明に対しては、「なるほど!」「かんぜんにりかいした!」「わかる」という納得の声があがる。

この「さいばん」に集まった<sup>フレズ</sup>面子は、サバンナやジャングル出身の子たちなので、ゾウには馴染み深いのだろう。……でもちよつと雑な説明じゃないかなあ……。？  
「セルリアンのあれは、『すつごく強いみずでっぼう』なのでありましようっ!」

彼女は説明を続け、うん、うん、と頷いて納得するフレズ達。

銃は知らないが、「てっぼう【てっぼう】フレズ用語。「遠くへ素早く飛ぶもの」の意味。」がどういうものか知っているらしい……。

「いえ、水鉄砲というかあく……。言うなれば、『火山の噴火』の小さいヤツかなく?」  
と私が言うつと、ざわめき出すフレズたち。

「なぬ!! かざん!!でありますか!?!」

『かざんのふんか』をあやつる!! この<sup>わたし</sup>キリンのたぐいまれなる記憶力によると……。それほまさに『かばんさん』の習性のひとつ!!」

「せいじゃあハナコ、アナタやっぱりひとなのかしら……」

フレンズたちがとても驚いた顔をしている……。

あの例のカバンサンも、銃火器を使っていたらしい……。やはり彼は、パークの警備員や軍人かなにかであつたのだろう。

というわけで、納得した顔のフレンズたち！

……しかし、けっこう大雑把な説明「大雑把な説明」確かに正確な解説ではないのだが……簡潔で分かりやすいたどえ話だ。こういう緊急時には、正確さよりも早さが求められる場合があるから、まあ、そういうことで……。ちなみにヘビクイワシが言ったツノトカゲ・クジラ・ラクダ科の反芻動物・ゾウの話は体内の内容物を射出するという点で共通しており……サル類が石や果物などを投げる「投擲」や、ヒゲワシやエジプトハゲワシが石や獲物を掴んで落とす「投下物」とは、ちがう現象だと、彼女はきちんと区別して理解していることが分かる。なんだけど、ホント分かつてるのおく、みんな……？

「ああ〜っ！ ひとつのことを、こうしてみんなで理解ッ！ 『ことば』とは、ほんとうにスバラシイ『はつめい』でありましょう〜っ！」

こうしてフレンズたちも、あの危険なセルリアンの性質がだんだんと分かってきたが

……。

さて、ヤツと戦うか逃げるか……。

どちらにしても、犠牲者が出るかもしれない……動物、フレンズスの別を問わずに……。フレンズらの瞳に「理解の光」が灯つたのもつかの間……焦燥、不安、恐怖、怒り、暗い感情に変化していく。

ざわめくフレンズ達を代表するように、ヘビクイワシが改まった調子で私に語りかけてきた。

「あの、ハナコさん……。やはり貴女は『ヒト』かもしれないと、わたくし思います。セルリアンを、ああやって『かんさつ』して、『ことば』で説明して……というのは、ヒトの習性でありましょう」

「うむ。すなわち、お主は『かぼんさん』と同じ『ヒトのフレンズ』なのやもしれぬ……。かぼんさんも、そして『動物のヒト』もみな、フレンズたちを率いてセルリアンと戦ったと、我はそう聞か……。ハナコ、お主もたたかうけものなのか？」

バーバリライオンが言う。

「……あの、ところで私たち、さつきまで『裁判』をしていましたよね……」

その質問に対して、私はワザと話題を変えて言った。

「……なぜ、今そんな話を？」

バーバリライオンの当然の疑問。

「あなたたち、『しけいにする』とかなんとか言って……さんざんおどかしてくれましたね？」

私は、カラカルやキリンたちに向きなおつて言った。

「……もしかしてハナコ、怒っちゃってる……？」

「すっごくおどかすのは、ヒトの裁判のルールだと聞いてたからね！ ……もしかして、違うの……？」

カラカルとキリンが瞳に暗い表情を覗かせる。

「いえ、そうじゃないです。あなたたち、フレンズさんのことは……こうして話したりして、よく分かってきた……つもりだし」

「それじゃあ、なんで……？」

「……私は裁判の続きをしたい」

「え？」

「つまり私の『いい考え』で、誰も犠牲にせずにアイツを倒すせれば……！ それで、さっきの裁判でみんながやりたがってた『ヒトの証明』……ってコトでどうかな？ つて思っ  
て」

「そ、それって、つまり……ハナコ！」

「……そうっ！ これから私の作戦で、セルリアンをやっつけてやる！」

そう言うと、フレンズたちが嬉しそうな声をあげる。

「……にやははは、もうっ！ いじわるねっ！ ヒトは話が長いんだから！」

カラカルが自分の服を舐めながら「自分の服を舐めながら」ネコで言うところの毛繕い<sup>グルミミン</sup>。動物にもフレンズにも「転位行動」というものがあり、これは何らかの葛藤があるときにする一見意味不明な行動のこと。カラカルは毛繕いは「な、なんだ、びつくりしたなあ〜もう」の照れ隠しであるし……ハナコの遠回しな表現も「大好きなあなたたちフレンズのために、わたしは戦いたい！」と、はつきり言うのが最初恥ずかしかったからという、こっちも照れ隠しである。直球な言動をする「いぬてき」なフレンズさんが多い中で、カラカルとハナコは「素直じゃない」のが共通点だ。つまり彼女らふたりは「ねこてき」なのです。（実際ひとりには本当にネコだし）言った。

「あなた、そういうまわりくどいところ……！ 名探偵の素質があるわねっ！」  
キリンも嬉しそうに言った。

「さ、さすがハナコさんっ！ アードウルフ<sup>わ た し</sup>を助けたときみたいに、さくせんを作つてくれるんですねっ！」

アードウルフも目を輝かせている。

『『ヒト』は……とくにハナコさんは、すつごく強い『ヒト』だから……アイツを倒せる

んですねっ！」

「それは違いますよ、アードウルフさん。私のチカラだけを考えて言ってるんじゃない。すつごく強い仲間たちもふくめた、とっておきの作戦です……」

私は続けた。

「私には『カバンサン』みたいな『英雄』じみたチカラもワザもないけれど……」

「あゝ、それは、たしかにな〜」

「背も低いし、腕も脚も細いから、かばんさんとは大違いね」

「ついでにハナコさんはおっぱいも小さいですよ〜」

カラカルとキリンとアードウルフがツツコミを入れる。

「おいつ！ 茶化さないでくださいっ！ マジメに言ってるんだからっ！」

……気を取り直して私は続けた。

「……残念ながら私はカバンサンじゃない。でも、私はもちろん、みんなを助けたいと思ってる！ これが私の正直な気持ちです！ 私は弱い生き物で、独りじゃ何もできないけど……だから、アイツを倒すために、みんな力を貸してほしい！」

「うにゃあー！」

「やろうよー！」

「ばおーん！」

「みんなでチカラをあわせよう！」

「パツカアーンとアイツをやっつけちゃおう！」

『ぼくハ ハナコノ指揮ニ イツデモ従ウヨ』

フレنزズたちの瞳に「反撃の光」が灯る！

「ふふふ……。ハナコ、アンタ……助けてほしいなら……そうならそうと、はつきり言いなさいよねッ！ 回りにくい言い方しなくても、もちろん助けてあげるのに決まってるじゃない！」

「あ、ゴメン、カラカル。……うん、もしかして、ちよつといじけたかな？」

「いや！ おもしろくなってきたわね、って！ ヒトって、いろんなことをするし、いろんなことを話すのね、って思っ。ま、アンタがなんのけものなのかは、まだはつきり分からないんだけどね」

「よし！ じゃ！ 今からヒトだって証明してみせるから！」

「そりゃあ楽しみね！ おもしろい！ おもしろい！」

「安心して。セルリアンは大丈夫、絶対何とかする！」

最後に、私はフレنزズたちに……そして自分自身に……言い聞かせるようにそう言っ

た。

「ふふふ……！　ハナコ、頼りにしてるわよ！」

カラカルが笑って言った。

「私を頼ってくれるのは……うれしいけど……それは、やっぱり私が『ヒト』だから？  
たしか前に、カラカルそう言ってたでしよ？」

「え？　イヤ、そんな理由じゃないわよ。アンタがヒトなのかどうか……なんのけもの  
なのかは、今もよく分からないけれどおっ……」

彼女は一呼吸おいてから、話を続ける。

「でもセルリアンを倒したり、『さくせん』を立ててアードウルフを助けたり、ああして  
ハイラックスのケガを治したり……そういうのを見てきたから、だから頼りになるなっ  
て思うのよ。アタシの場合は、 فقط」

「そうか……。そりゃありがたい言葉だ……」

「頼りにしてるから……！　だから、あのおっかないセルリアンを、アタシたちでなんと  
かしようっ！」

「おうっ！」

カラカル……「人を助けることが当然」のあなたは、もう忘れてるかもしれないけど

……生まれてすぐ死んでいくはずだった私を、助けてくれたのは、あなただ……。  
今こそ、その「お返し」をしなければ……生きている甲斐が無い！

一度無くした命、あなたやフレンズのために使いたいと思ってる……！

さあ、ここが正念場！

漢の命の捨てどころ！（男じゃないが）

## 第13話 平和を欲さば戦いへ備えよ

私はこの一日ですでに、パークの怪生物「セルリアン」と二回戦った……。奴らには目が、手足が、内臓が、感情があるではないか？ 同じ食べ物を食べ、同じ武器で傷つき、冬や夏には暑さ寒さを感じ……。刺せば血が流れ、毒をを喰らえば死ぬ……。我々フレンズと同様に！【奴らには目が……】このセリフは元ネタがある。16世紀末の英国の劇作家ウィリアム・シェイクスピアの演劇『ヴェニス商人』に登場するユダヤ人の高利貸しシャイロックのセリフだ。ハナコって血の気が多いけど、なぜか意外と文科系なのです。ところで『ヴェニス商人』のストーリーは……「借金のカタに、お前の肉をよこせ！」と主張する悪役に対抗して、主人公たちが「では、血を流さずに肉のみを切り取ってみろ！」と、とんちか落語みたいな反論をして、裁判でやりこめるといっておはなし。タイトルの「ヴェニスの商人」とは金貸しシャイロックのこと……ではなくってえ……主役の貿易商人アントーニオのこと。※原題での“merchaut”は金貸しのことは指さないのです。でも「シャイロックがかわいそう」と思う人も多くて、現代では彼のほうを主役として演劇・映画が作られることもあり、2004年のアル・パチーノ主演の映画がとくに有名。

傷つき、血を流す相手ならば、殺せるはず！

「ヨシ！ フレンズ軍団の逆襲だ！」カチコミ

「でもハナコさん、みんなでセルリアンをパツカーンしたいのは、ヤマヤマですけれど……あんなすごいセルリアンと、わたしたち、どうやって戦えばいいのでしょうか……？」

アードウルフが当然の疑問を口にする。

「……今の状況をおさらいしましょう。敵は、ヒトの使う戦車【戦車】タンク現代の軍用車両を戦車と呼ぶには以下の3つの条件がある：1. 無限軌道キャタピラ（＝履帯クローラー）で悪路を走れる。2. 強力な「主砲」を備える旋回式砲塔タレットを持つ。3. 装甲化されて十分な防御力がある。以上の条件を備え、前線で敵戦車と戦える車両を「戦車」と呼ぶ。3つの条件のうちどれかが欠けている場合は戦車ではなくAFV（装甲戦闘車両）になる。つまり兵員輸送車や偵察車や自走砲などは、戦車ではないのだ。わかりにくい例としては、米軍のM2ブラッドレー歩兵戦闘車や、自衛隊の89式装甲戦闘車などはばつと見て戦車っぽいけれど、スペック的に戦車ほどの火力や装甲が無いので戦車ではない、など……。だがこの「戦車の定義」は結構あいまいではあるが……まあ、ともかく！ 戦車とは野球で言えば走・攻・守の3点がバランスよくハイレベルでそろっており、イチロー選手や秋山幸二選手のごとし！ 完全無欠の陸の王者だ！ ちなみに英語で戦車を水槽タンクと呼ぶが、コレ

は第1次大戦中に秘密開発されていた時の暗号<sup>「トネーム」</sup>だったものだ。でももともとは water carrier（水運搬車）という隠語で、略称だと W. C.（お手洗い）……さすがにカッコ悪いと tank に改名したそうだ。みたいなセルリアンが1体……。こつちには、ヤツに対抗できるような遠距離攻撃武器など無し、か……。でも、あの戦車セルリアン【戦車セルリアン】問題のセルリアンは……甲殻類のような「他脚」での悪路走破能力、薄手だが重層的で頑丈な「外殻」、長い口を直線状に伸ばして消化器の内容物を吐き出せる「主砲」（横方向ならかなりの角度まで旋回できる）と、ヒトの操る戦車と同様の特徴を備えている。前述の T-I-P を読むと、戦車は最強の存在に思えるけれど……実は弱点も多いのだ。このセルリアンだって、どこかに脆弱な部分あり、そこがつけ入る隙になるはずだ……。の武器の『たいほう』は遠くを攻撃するのが得意だけど、近すぎる相手には威力を発揮できないはず！ どうにかしてヤツに近づければ！」

「むむむ〜！ いい考えだけど、でもその近づく方法がいちばんの問題よね！」  
と、カラカルの指摘。

「そ、そうなんだよなあ……。でも、まだそこまで考えてなくて……。あ、ヒカリさんは何か良いアイディアはありませんか？」

『チョット待ッテネ。戦術でえたべえす検査中……。作戦提案：素早イフレンズ達デ、右ト左ノ 両翼ニ展開シテ 一気ニ距離ヲ詰メル——トイウ作戦ハ ドウカナ？ コレ

「鶴翼の陣〔鶴翼の陣〕古代より中国に伝わる8陣形のひとつ。敵軍に向かって自軍を左右に展開し、その両端が前にせり出すV字形で相手を取り囲んでいく。翼を広げた鶴の形に例えられる基本戦術。「鶴翼の陣」が大成功した例としては、古代ローマの「カンナエの戦い」が……失敗した例としては、戦国時代の「三方ヶ原の戦い」や「関ヶ原の戦い」が有名。スポーツにおいても、ラグビーワールドカップ2019準決勝で、イングランドが典型的な鶴翼の陣を布いて勝利したことが記憶に新しい。鶴翼の陣は自軍の損失を抑える防御的な布陣だが、「両翼包囲」が成功すれば敵の死角となる側面や後方から奇襲できて攻撃力は抜群！ 今回の戦車セルリアンは1体（+眼球の寄生体セルリアン）のみだが、ヤツは本物の戦車並みの戦力と考えていいので、これぐらいの周到な作戦は必須だ。今回はセルリアンのほうは見晴らしのいい場所に陣取ってあまり動かず、フレンズがV字配置で突撃する必要があるので、「鶴翼突撃の陣」とでも言うべき作戦か。……余談だが、さばんなちほー東部の広大な湿地帯——南アフリカのオカバンゴ・デルタを思わせる大湿原には、派手な体色でカンムリをかぶったような頭のツルがいて、子育て時にはゾウに翼を広げて単独で突撃するという気の荒い鳥類だ。で、そのツルのフレンズの子も現地にいる。「お城」と呼ぶ施設に棲んでいて時代劇好きという個性的な子なのだが……本編のお話とは関係ない、今は。」ト言ウンダヨ』

「いえー…ダメですー！」

『ダメカナ?』

「あのデカブツのフトコロまで突っ込むのは危険すぎます! 距離をつめる前に砲撃されてしまう!」

『広い角度ニ散開シテ 接近スレバイイ。一ヶ所ニ 固マラズニ、分散ケテ 突撃スルンダヨ。ドンナ強力ナ攻撃デモ、フレンズ全員ヲ 同時ニ狙ウ事ハ デキナイデシヨ?』

「そ、そりやそうだけど……でもそれじゃやっぱり、フレンズが狙われちゃうってことじゃないですかっ!」

『一部ノフレンズガ 負傷スルノハ 想定内ダヨ。十分ナ戦力ヲ せるりあんマデ 到達セラレレバ、問題無イ』

「そ、想定内って……問題あるでしょッ! あの威力を見たよね? あの傷は、あなたが治したんだからね! フレンズでも、撃たれたら……こ、今度こそ死んじゃうかもしれないっ!」

『ソレハ、イワユル 副次的被害【副次的被害】コラテラル・ダメージ軍事行動による(民間人への)やむを得ない被害、政治的に回避できない犠牲などを指すことば。アーノルド・シユワルツエネツガー主演の同名のテロリズムを扱った映画があり、これは2001年公開予定だったのだが、アメリカ同時多発テロの影響で翌年に延期されたという事情がある。オリジ

ナル版からストーリーやシーンが大幅に変更されているようだ。トイウものダネ。軍事目的ノ為ノ、致シ方ナイ犠牲ダヨ』

「いたしかたない犠牲じや済まないよツ！ 私のほうは、まだいい考えを思いついたわけじゃないけど……でも、誰かが犠牲になんて、そんなやり方は嫌ですっ！」

『戦争ニ 多少ノ犠牲ハ ツキモノダヨ。最大多数ガ 生き残ルタメダヨ。……ハナコ、頑固ナコト 言ワナイデヨ』

「ええいもうっ！ どつちが頑固だよおっ！」

私はL型ライトを手にとって、レンズに向かって喋しゃべった。

自然と語気が荒くなっていく。

『小ヲ 犠牲ニシテ、大ヲ 生存カス事ガ 「最善ノ考エ」ダヨ。今言ツタ作戦ガ、現時点デ 最モ 生存確率ガ高イ ぷらんダヨ。大部分ガ 生き残レル 計算ニナルネ』

「全然良くない考えだ！ 何が計算だよ！ 計算なんてくそくらえだっ！ ええーい、このぼんこつロボめが！」

『アワワ……ポンコツロボ違ウ。ぼくハ……高性能ロボツトダヨ』

「自分で高性能とか言うなよ！ 高性能AIさんとやらは……そういう考えしか、できないのか……。あんた、人情こころつてものが無えのかよ!？」

『ワワワ……。ぼくハ……。ぼくハ、キミヲ 守ルタメニ……。デモ キミノ指示ニ……。』

ぼくハ ハナコノ事モ、フレンズノ事モ……全体ノ事ヲ 考エテ、言ッテイルンダヨ  
……』

「うるせえっ！ みんなのためだあ？ それで貧乏くじ引いた誰かを独りで死なせられるかってんだッ！」

『アワワワワ……』

とうとうヒカリさんは喋るのをやめて、フワフワした機械音を上げ始めた。

怒っているのか？

ロボットって、こういう風に怒るのだろうか……？

「ふ、ふたりともく、落ち着いてよく！ こんな時にけんかしないでく！」

カラカルがあわてた様子で仲裁に入る。

が、私のほうは気が収まらない。

「もういいっ！ こんな機械には頼んねーっ！ みんな、これの言うこと、信用するなよ

！ 作戦は……私になんとか考えるから！」

『……』

「うう、うみやく……」

「うもく……言ってるコトは難しいけど……さつきからあなたたちが、どういう問題で

けんかしているのかは推理できるわね……」

「わわわ……ハナコさく……」

カラカル、キリン、アードウルフが不安そうにこちらを見ている。

フレンズたちもおろおろしている様子。

みな、何も言わないがそれぞれが心配そうな顔で私たちを見ている……。

だいたい頭に血が上って、ずいぶん声を荒げてしまったから……。

ちよつと言いすぎたかもなあ……。

……ええい、くそっ！ ヒカリさんがこんなに冷たい奴だとは……！

いや、まあ、機械だから、冷徹なのは当然なのかもしれない。

彼は、悪気があるわけではない……。というか、この極限の状況では、おそらく向こうさんの意見のほうが正論なのだろう……。

……しかし、今はよくよ悩むよりも、実践的な思考と行動をしなければ……。

ラッキービーストは頼りにならない以上、私独りで「武器調達」と「作戦立案」を行うしかない！

手始めにそのふたつのうち、より簡単なほうを……つまり武器の製作を進めることに

する。

月明かりのもとで、さつき投げ込まれた「動物の骨」の前で、手を合わせた後……これらをナイフやネイルハンマーで解体して、骨や腱などの使えそうな材料に加工していく。

「堪忍してくれ……。これから戦うのに、君らの亡骸カラダを使わせてもらおう……。無駄にはしない……」

「おお！ 今度は武器を作るのに、けものだったものを使うのね！ まあ、死んだ動物には骨なんてもう必要のないものだからね！」

カラカルが明るい調子でそんなことを言う。

さつきの口論に気を遣って、ワザと空気を読まずに明るく言っているように思える。

「……私、今ちよつと色々ウエットな気分なんだけど……。カラカルあなのほうは、サバナなの空気みたい結構ドライな性格【結構ドライな性格】アフリカ・サバナには、カラカルと似ているサーバルキャットという中型ネコ科動物がいるが、そちらと比べてカラカルは乾燥した場所を好むと言われている。水場が少なく生き物が少ない厳しい乾燥環境は、そこに棲む動物の習性に大きな影響を与え、さらにフレンズの人格や価値観にも大きく影響しているのかもしれない。なのね……」

「にやんだそりや？」

気を取り直して……私は動物の大腿骨らしきものを拾い、廃車のボンネットの上に置いて、ガン、ガン、ガン……と、私はハンマーで叩いて形を整える。骨に溝を作り、黒曜石の欠片（ナイフ製作時の余り物から作成）を挟み込み、ハイラックスから「手足の接着剤」をもらって固定していく。

裁判に出席したフレンズのひとりオグロヌーが、それを横で見ている様子。

「あ、それ『黒いぴかぴか石』のかけらですね」

「あなたを助けたときに、お礼にもらったやつですよ」

「ぬぬぬ〜？ 黒曜石は、かざる以外の使い道があったのですか？」

そして！ しばらくすると「細石刃（細石刃さいせきじん（その1））旧石器時代の終わりから縄文時代の始まり頃の、ヒトの刃物製作文化。細石器、マイクロリスとも言う。カッターやデザインナイフの刃のような数cm程度の極小刃（おもに黒曜石製）を、軸（木製や骨製、角製）のミゾに何枚も挟み込み、大きな一枚刃のような刃物にする技術のことだ。投げ槍の穂先として広く使われていたという。細石刃は現代の替え刃式カミソリのよくなるもので——壊れてしまっても、欠けた極小刃を新しいものと取り換えることで再使用できるのだ！ 旧石器時代のハンターは「細石刃核」という黒曜石のカタマリを替え刃用に持ち歩いていて、壊れたらその場で修理していたとか……。その点では、修理技

術さえあれば現代の刃物より便利かも。」のカタナが完成する！

「動物たちの遺骸なきがらも、きれいな黒曜石いも……こうして道具ぶきにして、役立ててあげるのが、今はきつと一番いい使い道だと思います！」

「ネコ科のキバみたいね。なんていう名前なの、この武器？」

カラカルが尋ねる。

「細石刃〔細石刃（その2）〕この有史以前の最新鋭テクノロジーは3万年以上前のシベリア・アルタイちほーで最初に発達し、その後人類の間でまたたくまに広がり、日本やアラスカなど世界各地に伝播していった。そして旧石器時代が終わると、ユーラシアでは弓矢技術の発達によって細石刃技術は姿を消したが……中南米のマヤ文明やアステカ文明では「マクアウイトル」（別名マカナ）という刃つき棍棒として発達する。マクアウイトルの木製軸は先端が太く、かなりの重量になっており、黒曜石の刃が欠けてしまっても、ただの棍棒としても使える優れた武器。軸の重さに加え、黒曜石の刃は分子1個分の薄さの医療用メス以上の切れ味で、その重厚な斬撃は、人間の首をも切断できたと言われている……。参考として、テリー・シャパートという人（元グリーンベレー衛生兵）の『世界の最強武術を体得せよ！』というドキュメンタリー番組のマヤ戦士の回で登場しているのだが、ちよつとかすつただけで太ももの肉がパツクリ切れるすつごゝい威力なのであった……。の、なんていうか……剣、カタナ……いや長ドス〔長ドス〕

鏢つばがない刃物ヤツバを総称してドスと呼ぶが、とくに長めのもの、脇差うちがたなや打刀うちがたな（ふつうのカタナ）サイズのものは長ドスと呼ばれる。語源は「脅す」、あるいは刺したときの音らしい。

※なお短刀サイズだと匕首あいくち（合口とも書き、鏢がないという意味）という。安価な武器であるドスの柄（握り部分）には、一般的なカタナで見られる拵こしらえという装飾が無く、白木の簡素な柄と鞘の、いわゆる「白鞘」状態であることが多い。白鞘にはホオノキがよく使われる——ホオノキは非常に加工しやすく、ちょうどいい硬さの木材で刃を傷めず、またサビを防ぐと言われている。「白鞘」は休め鞘や油鞘とも呼ばれ、本来は刀剣を保管しておく際の状態であり、太くて滑り止めもない柄は、戦闘時にしつかり握って使用するのに適さないし、全く補強されていない（続飯そくいというご飯つぶ接着剤でくっつけているだけ）ので非常に破損しやすい。カタナの外装をビシツよそ行きにキメた「拵」に対して、カタナを寝かせておく「白鞘」状態のドスはパジャマのようなもの……でも任侠映画とかじゃよく寝巻姿のまま酷使されるもんだから刃物も大変ね。本編の「黒曜石の武器」の外見は、骨製の超大きな片刃カミソリのように、長ドスとは似ても似つかないが……脇差くらいの長さ、片刃のみ（材料が足りないし強度の問題がある）、防御用の鏢つばが無い、軸部分は骨なので白い……などの共通点がある。かな……？」

「ながどすー！」

「そうー！ この長ドスで斬り込みに行く！ あのセルリアンセルリアンの殻からのてつぺんの、メロン

みたいな眼ン玉を切り落として蹴っ飛ばしてボール遊びして楽しもう!」

私は黒曜石の長ドスを、バツクバツクにロープでくくりつけておく。

抜き身で危ないので気をつけよう。

「ハナコ、アンタ……ふだんは静かだけど、戦うときだけはけっこうどうもう【どうもう 獰猛】性質が荒々しいこと、好戦的な性格。人間社会ではとてもじゃないが誉め言葉としては使われないが、戦闘時は荒々しく勇敢に戦うパークのフレンズ達のあいだではわりと誉め言葉である。獰猛と書き、丁寧の寧ではないのでネイモウと読むと誤読です。※全く関係ないが、レモンの漢字表記「檸檬」ネイモウは、中国の同名の生菓に由来する。lemonとネイモウ……発音が似ていて、もともと「檸」にはレモンの意味があるから、だそうだ(※「檸」はマンゴーの意味)。よね〜!」

「そ、そうかな〜?」

「しかし、さすがに得物ぶきがこれだけでは……。もっと強力なのが欲しいところだ……。なにしろヒトには、みんなのようなツメもキバやツノも無いからね……」

すると!

『ハナコ、『武器』ガ欲シイナラ……』

口論以降ずっと黙っていた彼が突然喋り始めた。

「あつ……ヒカリさん……」

『向コウニ、銃ガ アルハズダヨ』

「……。ええっ!? ハ、銃が!?!」

『正確ニハ、自動拳銃【自動拳銃】<sup>オート</sup>薬室から弾丸を発射して、その残りの空薬莖を自動的<sup>ケールズ</sup>に排莖し次弾を弾倉<sup>マガジン</sup>から装填<sup>ロード</sup>できる種類の拳銃のこと。有名なものはモーゼルミリタリー（マウザーC96）、コルトM1911、ベレッタM9、グロック17など（※オートではない拳銃は回転式<sup>リボルバー</sup>拳銃、つまり穴あき円筒形の弾倉<sup>シリンダー</sup>があるほうの銃だ）。オートマチック拳銃の自動排莖&装弾の方法はおもに3つある：発射火薬の吹き戻し<sup>ブローバック</sup>圧力を直接利用する（シンプル）ブローバック方式、弾丸発射の反動<sup>リコイル</sup>（反作用）を利用する「シヨートリコイル」方式、発射の燃焼ガスを利用する「ガス圧作動」方式。※ライフルやマシンガンの作動方式もおもにこれら3種。今回登場する拳銃は、もつと正確に言う<sup>セミオート</sup>と半自動拳銃に分類され、引き金を引く<sup>トリガー</sup>たびに一発ずつ弾が発射される構造のものだ。この半自動射撃はほぼすべての自動拳銃に採用されているが、まれに全自動射撃<sup>フルオートマチック</sup>（引き金を引いているあいだ弾が発射され続ける）や、バースト射撃（1回引き金を引くとに複数の弾が発射される）も可能な拳銃もあつて、機関拳銃とも呼ばれる。※なお日本では「ピストル」と言う「自動拳銃」のみを指す……と誤解されることがあるが、英語ではリボルバーのことも指すそうだ。アメリカの『射撃王』（原題：Top Shot

t) などの射撃専門TV番組や、雑誌・書籍などでは、実際オートもリボルバーもどちらもピストルと呼ばれている。ト 短機関銃サブマシンガン「短機関銃」全自動連射フルオートで拳銃弾を撃てる小型の銃器のこと。単発射撃機能セミオートつきのものも多い。近距離の敵に連射を浴びせることに向いており、第1次世界大戦の頃に、塹壕内での接近戦用に開発されたのが始まり。拳銃ほど超小型化&精密化しなくていいし、フルオート射撃のみの単純構造なら、安価に大量生産することができる。そういう安価なSMGではMP40、ステンガン、M3 グリースガン、イングラム、TEC-9などが有名。MP5などの高価で精密射撃可能なものもある。サブマシンガンが発射するのは9mm拳銃弾や4.5口径拳銃弾などで、同じ自動連射式の銃でも、強力なライフル弾を発射する軽機関銃ライトマシンガンや自動小銃アサルトライフルと比べると大幅に威力が低い。しかし低威力なので射撃を制御しやすいし、小型化もしやすく、また貫通力が高すぎるライフル弾では二次被害が出て困る場合——例えば警備員や警官や法機関が、市街地や屋内などで使用する場合にも、低威力であるサブマシンガンが選ばれる。安価・小型だが拳銃よりは高火力というメリットにより通信兵や戦車兵、空挺部隊などに装備され、そして犯罪者にも好まれる。なお、たんに機関銃マシンガンと言うと、とくに軽機関銃・重機関銃・汎用機関銃など大型で高威力の「機銃」類のことを指すことが多いが、本小説ではあまり区別せずに使います。ダネ」

「な、なんでですかそりゃあ!？」

『ぼくと一緒ニ、ぼつくすニ保管サレテイタハズダヨ。キミガ ぼくヲ発見シタ地点ニ、行ッテミニヨ』

「そ、そうだったんですか……銃が……。さつきはハイラックスさんを助けるのに必死で、全然気づかなかった……」

『言ワナクテ、ゴメンネ。サツキマデハ、フレンズノ 救助ノホウガ 優先事項ダツタカラネ』

「いえ、助かります！ 教えてくれてありがとうございます！」

というわけで、警戒しながら先ほどのコンテナのそばに戻っていく。

その移動中、ラツキーピースと私は、小声でこんな会話をした。

「あ、あの……ヒカリさん、さつきはついカツとなつて……ぼんこつとかこれ呼ばわりとか、色々ひどいこと言つて本当にごめんない」

『ぼくハ ろぼつとダシ、今ハ 作戦行動中ダシ……ソナナ謝罪ハ 必要無イヨ』

「いや、でも……」

『ソナナ事ヨリ、ぼくハ、ハナコノ立テル作戦ニ 従ウヨ。今ハ ソレガ重要ダヨ』

「私に従うって……？ さつきは、あれだけ自分の作戦を押ししていたのに……。それ、どういう心境の変化です？」

『ツマリ、キミノ命モ守ルシ、命令ニモ従ウ……ナントカシテ両方ヤル、ツテ事ダヨ』

「そ、そうか……そのことで迷って、ずっと黙ってたんですね……」

『ソシテ、フレンズ達ノ命モ守ル……。ソレハ、ドウヤラ キミノ心ヲ守ルコトダカラ  
ネ』

「……ヒカリさん、あなたが何者なのか、よく分からなかった……正直言うと、信用できないかもと思ってた……」

私は正直に言った。

そしてこう続ける。

「でも！ こうしてきちんと私の話を聞いてくれて、お話できるし……そして、さっきはハイラックスさんを助けてくれたんだから！ 少なくとも、悪いヤツのハズはないってのは確かですね！」

『大事ナコト 言イ忘レテイルヨ。ぼくハ 高性能AIダヨ。コレモ、確カナ事トシテ  
覚エテオイトネ』

「ははは、言いますねえ！ ……ありがとう、ヒカリさん！」

『謝罪モ 感謝モ 必要ナイツテバ。ハナコガ ドーシテモ ソウイウノ 言イイタケ  
レバ……作戦ガ終ワツタ時ニ 頼ムヨ！』

「了解であります！」

……さて、コンテナの前に着くと、確かにヒカリさんの言ったとおり、フタの空いた大きなジュラルミンケースが落ちていた。

これは……？ さっきのセルリアンの砲撃によって、積み上がった廃車から落ちてきたものだろうか……？

さつそくフタを開けると、その中には拳銃と機関銃が入っているではないか！

私は拳銃を拾い、スライドを少し引いて薬室を見る。「スライドを少し引いて……」拳銃内部の薬室チャンバー（これから発射する弾丸が収まる場所）内を見て、弾が装填されているかどうか、まず安全確認している。オート拳銃ならスライド（銃上部の可動するパーツ）を少し引つ張れば、このように排エジエクシヨン莢ポルト口（空薬莢が飛び出る穴）から、中をのぞくことができる。……ハナコさん、あなた精神年齢（とフレンズとしての外見）は中学生ぐらいだけど、でもそういう知識と訓練はどこで……？ 彼女の元になったヒトは、どういう人間だったのか……？

「これは、中国製……いや、ロシア製のトカレフ〔トカレフ（その1）〕USSR TT

—33自動拳銃。第2次大戦期のロシア（旧ソビエト連邦）製の大型軍用拳銃。装弾数

8+1発。ショートリコイル（テイルトバレル）方式のシングルアクション拳銃。TT

—30というモデルがあり、TT—33はその改良省力型。内部メカニズムはアメリ

カ軍の名銃コルトM1911を参考に極限まで単純化し、独自の使いやすい工夫が多く施されている。シンプルな構造なので、凍結などの故障にも強い。この銃の開発時、大戦中のロシアでは、大量輸入したドイツ製のモーゼルC96拳銃の弾薬「7.63mmモーゼル弾」がたくさん余っており、TT-33はこれを流用して「7.62mmトカレフ弾」と改名した弾薬を使用している。両者は弾頭の素材などが異なる弾薬だが、サイズは全く同じなのでいちおう互換性がある。トカレフ弾はボトルネック形状という、ライフル弾のような尖った形で、現代で一般的な9mm弾薬よりも小口径・高速初速のため、多少貫通力が高く射程が短め。日本ではトカレフはよく『防弾ベストを貫通できる銃』と評されたが、弾の形状の影響以上に、安価な鉄スチール芯の弾丸が多いことがその理由らしい。か……滑り止めセレーションが純正品の形だ……。状態が良いからすぐ使えそうだ……。弾倉マガジンも十分ある」

『アララ、キミ、ズイブン詳シイネ。ソウイウノ、ドコネ 知ツタノ?』  
「……さあ?」

満月の月明かりに照らして、銃をよく見る。

「二見、粗悪品に見えるけど……違うな。ふつうのトカレフ〔トカレフ(その2)〕またトカレフは「安全装置が無い拳銃」としても有名だ。ハーフコック(暴発防止用の内部機構)しかなく、明らかなセイフティは確かに存在しないので、薬室に弾を装填した場

合、安全に携行する方法がほほ無<sup>い</sup>。でも訓練を受けた軍人なら非戦闘時は薬室から弾を抜いておくので、とくに目立つ問題でない……と、ソビエト軍は判断したようだ。だが民間だと大いに問題あるので、他の旧共産圏の国々で製造されたモデル——セルビア（旧ユーゴスラビア）のザスタバ社のM57や、ハンガリー製トカジプト58、中国ノリッコ54式手槍の輸出モデルなどは、安全装置がちゃんと追加でデザインされている。そして！ 今回本編で登場したトカレフはオリジナルとかなり異なる。本編のセリフのとおり、マガジンを延長し装弾数を10+1発に増加、青い月光に映えるステンレスシルバーの輝くロングスライド、ロングバレル改造で弾丸の貫通力アップ、マニュアルセイフティ追加……と、細身の「AMTハードボラー」といった外見のカスタム拳銃に仕上がっている。よりグリップと弾倉が長い。バレルとスライドが延長されていて、セイフティもある。高価なものだ。ターミネーターの銃みたいだな……」

『銃ノ扱イモ 手慣レタものダネー。ぼくガ 使イ方ヲ 改メテ 説明スル必要モ無イヨ。……キミツテ 何者ナンダイ?』

「……いや、全然わからん……。そんなの、私が知りたい……」

この拳銃は、弾倉を装填するだけで薬室に弾を入れずに、ジーンズの右の尻ケツのところに差しておく。

「で、そっちは……見たことないマシンガン【見たことないマシンガン】第2次世界大戦

の頃のフランス製サブマシンガン、MAT-49（M1949 9mm軍用短機関銃）。当時一般的な量産型軍用SMGだ。装弾数は20発もしくは32発。フルオート射撃オンリー、シンプルブローバック、オープンボルト方式の単純な機関部と、生産性の高いプレス加工技術により大量生産されている。最大の特徴としては、銃身下部の箱型弾倉<sup>マガジン</sup>を前に折りたためること。こうしてマガジンを折りたためば輸送時や保管時にかさばらず、かつ弾倉から給弾されないのが安全。ほかに、安全装置が「グリッピースイフティ」のみなのも特徴的。一般的な手動セイフティは存在しないが、上述の折り畳み機構が安全装置を兼ねている。MAT-49はアフリカや東南アジアの旧フランス植民地国で導入されており、とくにアフリカ砂漠地帯での運用が想定され、機関部には粉塵よけのダストカバーを備えている。本編で出てきたものは「ベトナム戦争モデル」の一種で、長銃身に改造されて、使用弾薬がオリジナル版の9mmパラベラム弾から7.62mmトカレフ弾に変更されている。そして、外せばホルスターにもできる非正規の木製銃床（モーゼルやルガーのものに似ている）が取り付けられている。拳銃ホルスターのようなスマートな形状で、弾倉ごと折りたたんで収納<sup>ホルスター</sup>できるMAT-49に適した追加装備だ。弾はトカレフ<sup>トカレフ</sup>と同じようだけど……。あっ!! な、なんだこりゃ!!

銃身が溶けて【銃身が溶けて】機関部が高熱で変形・溶接されたような……謎の壊れ方をしたマシンガン……。実はコレ、とあるセルリアンのしわざ。金属を体内に取り込

んで自由に変形させる能力——フレنزズいわく『かたいものを舐めて食べる』能力を持つセルリアンが、お隣の「じゃんぐるちほー」で目撃されている。フレنزズの話では、ヘビのようなセルリアンとも、フレنزズのような（ヒト型の）ヤツとも言われていて……なぜか目撃者フレنزズの証言が食い違っている……?? 視界が悪い『藪の中』ゆえに見間違えたのだろうか？ この謎のセルリアンは、どうやら水場を好むらしく……もしかしたら、ここ「さばんちほー」にも川沿いに移動してきているかも……!?!? 塞がっちゃまっているけど……!?!? いったいどんな目に遭ったんだらう?」

『残念ダケド、ソレハ 機関部方 完全ニ壊レテイルネ……』

「いえ、機関銃も、何かの武器に加工できるかもしれない！ いちおう持っていきましょう！」

私はマシンガンの弾倉から弾だけ抜き、再び弾倉を装着して折りたたんで、木製ストックホルスターに入れてストラップで肩にかける。

警戒しながら周辺をさらに探索すると、廃車のピックアップトラックの荷台の暗がり「コパイバオイル」「コパイバオイル（その1）」ブラジルのセラードやアマゾンなど、中南米の熱帯に分布するマメ科コパイフェラ属の樹木47種のうち、10種から採取できる植物油。ドリルなどで穴をあけると幹の内側から樹脂が染み出してくるのだ。先住民のあいだでは古くから薬として使用されてきたが、最近では石油代替燃料として使

おうという試みがなされている。コパイバオイルには、石油の主成分と同じ炭化水素が多く含まれているのだ。財団法人・進化生物学研究所というところで、湯浅浩史という植物学者さんが実験して、ちゃんとクルマが走つたらしい。コパイバのように、サトウキビやトモロコシなどから採れる「生物由来の燃料」は、バイオマス燃料（バイオエタノール or バイオディーゼル）と言い、原料の植物は石油植物と呼ばれている。それらの多くは発酵&蒸留させる必要があるのに対して、コパイバオイルは木からそのままオイルが採れるので手っ取り早い。だが、こういうバイオ燃料の実用化は難しく、生産コストの問題などがアレコレ……。しかし中国やインドで実用化への研究が盛んである。」なる、自然原料の燃料が入ったジェリカン〔ジェリカン〕ガソリンなどの液体を持ち運ぶ携行缶の一種。英語でも *Jerry can*。ふつうの縦型ポリタンクと同じ形だが、取っ手が3つあるのが特徴で、軽ければふたつまとめて片手持ちできて便利。ガソリン（非常に気化しやすい）用のものは、材質がポリ製だと静電気がたまって危険なので、導電性のある金属板が使用されることが多い。強度が高いのでイス代わりにしたり、並べて置いて板かけてテーブルにしたりなどできる優れもの。ジェリカンは第二次世界大戦の頃にドイツで発明されたそうで、「ジェリ」とは英語のドイツ兵の蔑称。蔑称つけたくせに便利なので欧米の軍隊にもすぐ普及した。飲料水用ジェリカン（人体に有害な内部加工が無いもの）もあって、なんとワインも入れて運んだらしい。そう記

述する資料は無いけれど、もしかしたら「フードコンテナー」代わりにスूपやシチュウも運んだかも？（洗いにくそうだけど） ※ちなみに現代のポリタンクの側面にはX型の模様があるが、これはモデルであるジェリカンに存在する「補強用のプレス加工」をマネした名残らしい。が落ちてている。

そして、そぼの車の開いたトランクの中のすみに、銀色に光るものが……。ビニールに入った新品のダクトテープ「ダクトテープ（その1）」アポロ13号の修理にも使われたという、超最強の銀色の布テープ。「防水性」と「接着力」が非常に高く、経年劣化で粘着力が落ちないし、ハサミがなくても指で切れるのでとても便利。ふつうの粘着テープ（クラフトテープ）以上に接着力と耐久度が高い。しかもけっこうカンタンに、ノリの跡が少なくはがせる。ちなみに民間用や軍用などいろいろグレードが存在していて、テープの「引き裂き抵抗」が異なるとか。ダクトテープという名称はいちおう商標なんだけど、ほぼ一般名詞化してしまっている。ふつうの工作用途のほか、DIY精神さえあれば、窓や雨具やホースや車やボートなど濡れるものの応急修理、固いビンのフタに貼り付けて引つ張る、緊急時に新聞紙や段ボールを補強して靴にしたり、編んでロープをつくったり、ケガの応急処置、対化学兵器・生物兵器用のシエルターをつくる（米国土安全保障省が推奨）……あるいは武器の製作や改造、人質の口や手に貼り付けて拘束するとか……。『犯罪ハ。ダメダヨ！』などなど、なんにでも使える。さいきようすぎ

るだろ……。か……。

どちらも戦闘で役に立ちそうだ！

私はコパイバオイル（コパイバオイル（その2））コパイバの1本の太木から採れるオイルは1年で約40Lで、そのペースで70年間採り続けられるという。オーストラリアでは2万本以上の「樹木の油田」が植えられているそうだ。コパイバは暑い地域なら荒地でも育つて、おまけに二酸化炭素削減にもつながるのです。このさばんなちほーでもたくさん植林されていて、発達した精製・混合技術により生産効率コストなどの問題が解決して、ジャパリパーク内でよく見かける最安価な燃料のひとつだ。ヒトが健在だったころのパーク内では、EV（電気自動車）が多かったが、内燃機エンジン関車や発動発電機、草刈り機やチェーンソー用の燃料の需要も依然あり、バイオ燃料もよく使われていたようだ。ちなみにフレンズたちのあいだでは、コパイバの樹液は飲むとノドの調子を整える「くすりのあぶら」であるとも、むしろ逆効果で全然よくないとも言われていて……フレンズが飲むとはたしてどうなるか、真相は定かではない。の携行缶を手に抱え、ダクトテープ「ダクトテープ（その2）」洋画なんかでは、よくアメリカ人が何でもくつつけてすぐく雑に修理しちゃうイメージがありますが、実際ダクトテープはアメリカで生まれたものです。日本の発明品じゃありません。20世紀初頭から防水・防湿の粘着テープの開発が進んでおり、その頃は名前が「ダックテープ」だったらしい。ダックあひるの羽毛の

ように防水性があるからとも、オランダ語で帆布キャンパスを意味する dockドックが語源とも言われている。もとは第2次大戦中に軍用に開発されて、もとは緑色だったのが戦後なぜか銀色になって、いつのまにかダクトテープという名前になっている。この最初の実用的な製品を戦時中に発明つしたのは、実はあのぼんそうここの「バンドエイド」で有名な「ジョンソン・エンド・ジョンソン社」で、もともと荷物の防水加工目的で開発されたという。なお、ダクトテープは寒暖差に弱くて、名前に反して長期の空調ダクト修理には向かないそうです（ええ〜……）。おなじ銀色テープでも、よく混同される「アルミテープ」ならば温度変化による劣化に強くてダクト修理には有用です、でもちよつと高額でふつうの粘着テープの何倍の値段もします。しかし最近じゃ「ダクト修理もできるダクトテープ」（へんなの〜）も開発中らしいですよ。をバックパックに収納しておく。

そして……さつきからちよつとした「思いつき」がある。

道すがら、さつきの廃車の「ライトバス」の車内に入って、ハンドルやギアを調べておく……。

さすがに電池はゼロで、電動走行はできないが……ギアチェンジやハンドル操作はできるな。動きは悪いがタイヤも動くようだ。

ギアをN〔N〕ニュートラル車のギアレンジの一種。エンジンやモーターなどの動力と、タイヤ

などの走行装置が連結されていない中立の状態。この状態だといくらアクセルを踏んでも走らない。N状態だとタイヤは自由に動くので、押ししたり引いたりして外部の動力で動かすことができる。なおNと違い、ギアを完全にロックするPパーキングレンジはAT車の駐停車用だ。長〜い信号待ち渋滞時にNに入れて停車することもできるが、これは非推奨。なぜかと言うと、AT車にはA T Fオートマチックフルードというギア冷却液が積んであり、Nにシフトするとギアを冷却できなくなつて熱で負担がかかり、最悪ギアが焼き付く危険性もあります。さらに、Nだとブレーキ無しじや傾斜で動かし、後続車が急に来てもとつさに進できないから危ないのです。ふつうにDドライブのままですつとブレーキをつかうべき。また、下り坂でNを使えば燃料の節約になる？と一見思えるが……下り坂では、D（や2やL）に入つてると負荷（エンジンブレーキ）により動力が抑えられ燃料供給が減るので、実は全く問題ない。そしてNはアイドリング状態なので逆に燃費が悪くなるとか。教習所でも「基本的に使わない」と教えられるニュートラルつて、実際ほぼ使いどころさんがなく……ただのシフトレバーの通り道ですなあ。牽引レッカーされるときや、踏切とで故障まっっちゃつて人力で押さないと！とかの緊急時のみ使いますよ。に入れて、強い力で押せば走るだろう。

それにこの車はサバンナ仕様……装甲プレートや防弾ガラス、金網が追加されていて、装甲車みたいなもんだ。

これは「作戦」に使えそうだ！

使えるモノを回収した私は、広場に戻ってきた。

「拳銃こっはヒトの武器だよ」

「『それ』は……見た感じ、あんまり強そうじゃないけど？」

カラカルが感想を言う。

「ところが、見た目以上のモノだよ。これは、あのセルリアンの『大砲』と同じ仕組みで……言ってしまうえば同種なみたいなものだからね」

「じゃ、セルリアンと同じようなのを、仲間にしたってワケね。頼りになるわねえ！」

「でも、仲間と言っても……そんな小さいもので、役に立ちますかねえ……」

ヘビクイワシが疑問を口にする。

「確かに……セルリアンの戦車砲と、この拳銃じゃ……ダチヨウに対する小鳥みたいなもの……」

私は彼女を見ながら言った。

『わにニ対スル とかげ……にしきへびニ対スル 毒へび【毒へび】ヒカりは「小さなへび」の意味で言っている——毒へびは無毒のへびより小型の傾向があるので。その例外と言える有毒大蛇キングゴブラですら、全長3〜4 m（体重5〜10 kg）程度で大蛇

の中でもめちやくちやでかい、というわけではなくってえ……ニシキヘビ、アナコンダなど、全長4〜10m(体重100〜250kg)のぶつとい「超大蛇」はおしなべて無毒なやつらばかり……。こういう大型のヘビは、強力なフィジカルで獲物を締め付けて窒息させるから、基本的に毒なんていらなのだろう。……ミタイナもの、ダネ」

ヒカリさんも、フレンズたちに照明を当てながらたとえを言った。

「ヒカリさんの言うとおり。これら手持ちの武器だけじゃ、戦うには不十分だ」

「……ところでアンタら、いつのまにか、仲直りしてるわね？」

カラカルが言った。

「え……？　ま、まあ、そうだけど……」

と、私はちよつと恥ずかしがりながら返した。

『ぼくハ 高性能ダカラ、ソウイウ機能モ アルンダヨ』

「……そうなんですか？」

『他人ト仲直リ回路』ト言ウヨ』

「ええー？　それほんとう？」

「ヒカリさんは『ラッキービースト』のはずなのに、よくおはなししますね。はかせがよく言うことにや……あのひとたち、『パークの生態系の保護』のために、フレンズとはおはなししない習性があるのでありますよ」

「でもラツキービーストは、ちゃんとしやべれるのよ。難しいひとりごとはたまに言うてるからね。きつと頭いいけど、無口なのよ」

「でもやつぱり、ヒカリさんはふつうのラツキービーストとは、種類が違うのでありましよう。見た目も全然違いますしい〜」

へビクイワシとキリンがこんな会話をしている。

フレンズたちが話すパークガイドロボットの「ラツキービースト」とは、そういう存在らしい。

「あ〜っ！ あ〜はははっ！ うひひ、あ〜よかつた〜！ さつきふたりがけんかしてた時は、どうしようかと……」

アードウルフさんがホツとした笑顔になって言った。

「わたし……泣き出しちゃうかと思っただ」

「こんな事態だつてのに……さつきはあんなに怒鳴つて、ヒカリさんにもだけど、みんなにもごめんなさいね……」

私はフレンズたちにも謝った。

「いいえ！ こんなパークのききだからこそ、ハナコは真剣に考えている、つていう証拠でしょっ？」

キリンがありがたくフォローしてくれる。

「みんな……私のワガママに巻き込んでしまって……。ヒトというけものは……。いや、私が欲張りなんだよな……。あの恐ろしいセルリアンをやつつきたいけど、誰も死なせたくない、救いたい……。なんて思うから……」

「そりゃ……。アタシには、とて面白いことのように聞こえるけど……」

「そうは言ってもな、今の状況じゃ……。私には動物ヒトだった時の記憶が無いけど……。でも、なんでなんだろうな、こんなに、すごく欲張りなのは……。もしかしたら私がヒトだった頃、何か大切なものを失ってきて……。それで欲張りになったのかもしれない……」

黙って聞き入れるフレンズたち。

私はさらに続けた。

「だから……。もしかしたら、セルリアンと戦おうという私の判断は……。それは欲張りすぎて、間違っているのかもしれない……。今ここに本当は戦いたくない子フレンズがいるなら、もちろん逃げてしまっても……」

「……さつき我らで固い決意をしたというのに。ハナコは、今さら何を弱気な事を言うのか」

バーバリライオンが反論する。

「ここにフレンズいる者は、『好き』で戦おうとしている。つまり、ヒトであるお主にただ従っているワケではなく、それぞれ自己おのれの判断で動いているのだ。最終的な判断はいつも自分で下す、それがパークの掟だからな」

「……」

「ハナコ、お主には、彼セルリアン奴めを打ち倒す勝算があるのだろうか？ すくなくとも、我は、ここでのこれまでのお主の動きを見て、話している事を聞いて……最終的にお主の判断を信じてみよう、ということだ。勝てない相手なら逃げるものだが、勝てるはずだと思うのに、弱気になって逃げるのは、臆病者のすることだ」

「バーバリライオンさんはいいことを言いますね。さすがサバンナの王さま【サバンナの王さま】フレンズたちに王侯貴族の概念はないが、ヒトの絵本などで見聞きして言葉だけ知っていて、「でかくてえらいひと」ぐらいの意味で使っている。他のさばんなちほーの「王さま」としては、めずらしー毛皮の模様の「キングチーター」が有名だ。さらに！さばんなちほー南部の沿岸に位置する「じゃぱり海上要塞」(かつてヒトのサンドスター発掘地かつ軍事拠点でもあった施設)には、キングペンギン(オウサマペンギン)とカモメのフレンズさんが棲んでいます。ふたりで王様と水兵ごっこをして遊んで、ジャパリパーク初の独立ミクロネシヤ国家を目下建国中だとか(シーランド公国みたいなものだ

ろうか?)で……現在の人口はふたりのみ。国王いわく『国民になりたいかた、どなたでも大募集中! 空飛べる鳥の子歓迎! 今なら「貴族」になれます!』だそうだ(焼鳥屋かよ……)ですわね!」とヘビクイワシが言った。

「バーバリさん……」

「お主、あやつに勝てるはずだと思ってるはずだろう?」

「カラカルだつてそうよツ! 信じてるっ!」

カラカルも口を開いた。

「ハナコといちばん付き合いが長いのはアタシだから、一番よく分かるのよ! こいつあく信頼できるつてなあつ!」

「付き合いが長い、つて言つても……この日の朝からじゃない。キリン私ほとんど変わらないでしょ?」

「うにゃ! アタシが一番分かる! アンタ、ハナコはフレンズのことをよく考えているから、そうやって悩んだり怒ったりするんだつて!」

「ふふふ! ……ま、きぐうにも、私のたぐいまれない推理と観察も、同じ結論に達しているけれどね!」

「わ、わたしもですよっ! わたしを助けてくれて……。ハナコさんとは、出会ってから

短い間だけど……でも、上手く言えないけど……そういうのって、すぐにわかるものじゃないですかっ！」

「みんな……こういう『いい友達』は……ますますセルリアンの攻撃で死なせるわけにはいかないじゃないか！ ヒカリさん、もそう思うだろ！」

「ハナコ……キミノ意思ガ ぼくノ意思ダヨ。ぼくハ……ヒトノ 命ダケジャナクテ、ヒトノ情モ 守リタインダヨ。情【情（その一）】心が青いと書いても情と読む。心とは、少なくともヒトにはあると信じられているもの。しかし心無い人間というのは確実に存在する。ヒト以外の動物にもあるだろうか。ダンゴムシに心はあるのか。左右や数や色彩や宗教の概念を持たないピダハン族には心の概念はあるか。心とは、大脳新皮質にあるのか、大脳辺縁系にあるのか、脳髓にあるのか。中枢神経か、末梢神経を含めた全体のシステムか。A・T・C・Gの4つの文字で描かれるものか。遺伝子の箱舟に乗るものか。それはプログラムなのか。感情なのか。言語か。人間性か。あるいは宇宙。あるいは意識。あるいはは精神。あるいはは魂。21gの重さを伴うとも言われているが定かではない。「心」と、見せかけの「心のようなもの」との違いとは何だろう。それは、チューリングテストや中国語の部屋やウオズニアック・テストで判定できるものなのか。コウモリであるとはどのようなことか。『高性能ナ ぼくニハ……心ハ アルダロウカ？』……とところで、あなたには、心はありますか？（つづく）ノ定義ナンテ、ぼ

くノ高性能ナ 電子頭脳辞書デモ ハッキリシナイ ケドネ。ヨク 分カンナクデモ  
 ……デモ、ぼくハ ソウ シタインダ」

「情【情じょう（その2）】…：…などとカツコつけたことを言っていないで、科学的に考えます。実は「他人に心があること」は科学的に証明することができない。自分以外のすべての人間は、心があるふりをしている人間。そっくりなロボットや宇宙人や役者（専門用語で「哲学的ゾンビ」と言われるもの）なのかも…：…と思ひ込む、カプグラ症候群やフレゴリ症候群という、そんなに珍しくない病気もあつたりします。トウルーマン・シヨールやゼイリブの世界観ですね。そういう人でも「自分には意識がある」ことを否定することはないので、我思う、ゆえに我ありコキト、エルゴ・スムということだと思えるけれど…：…。しかし進化生物学的に考えると、「他人に心があると思う」ことで、相手に同調・共感して空気を読む能力があれば、以下の2点のメリットがある：1. 他者とのコミュニケーションが円滑になる。2. 相手の行動の意図を考えられるので、他者の有益な行動を自分で模倣しやすくなる。…：…そして、この「他者への洞察能力」が流用されて内面へ向いた結果が「自意識」なのでは？という、順序が逆の仮説もある。「他人には心があると考える」ヒトの習性は、ミラーニューロン（自分の行動と相手の行動、どちらにでも刺激される神経細胞）の存在が証拠となる。コレは、誰かが何かをしているのを見るだけで、まるで鏡に映るように自分がそうしている場合と同様に活性化する脳の神経細胞。映画などで、誰かが

殴られるシーンを見るだけで自分が痛いような気分になるのもこの神経細胞の働き。ミラーニューロンはヒトを含めたサル類と鳥類で発見されており、さらにゾウなど一部の他の動物にもあるのでは？と言われている。他者共感・新技能獲得のための「自我を区別しない模倣能力」こそが実は自意識の原点なのかもしれない……。『つながり』の『進化生物学』（朝日出版社発行）という本の著者、岡ノ谷一夫先生は、この仮説を「心の他者起源説」と名付けている。か……」

「ウム！……で、本題に戻るけど、ハナコ、さつき戻ってきたアナタの『いい顔』を見ると……この私が推理するに、『セルリアンたいほ作戦』の問題は解決したんじゃない？」

「おお、キリン、鋭いな……。うん、実は、銃と車と燃料で、セルリアンを追いつめるいい考えを思いついてね……。つまり、コレをああして、アレをこうして——」

「ごによごによ【ごによごによ】よく分からないことを話す時の表現。不明瞭な話し声に由来する、擬音語オノマトペの一種だろう。「なんとかかんとか」「ほにやらら」「ちよめちよめ」という似たような言い方もある。英語やフランス語、ドイツ語などでは“blah blah”という似た意味の言葉がある。こういう言葉は専門用語でとっかい 韜晦語と言うそう——韜晦とは「隠すこと」という意味。

「(に)よ(に)よ……。」

「え、え〜!!」

「ばすを動かして!?!」

「ねこのてを借りて!?!」

「ひを起こして!?!」

「コピエで!?!」

「そ、そんなこと、できるんですかあ!?!」

「できるっ! できるったらできるんです!」

武器と作戦とそして闘志……!!

必要なものは揃った! さあ、闘いだ!!

## 第14話 合言葉は「ふれんず!」「ふあいあ〜!」

「今回の『作戦』では、フレレンズたちは3つのグループに分かれて戦うことになります……。自らがオトリとなつて、セルリアンを引き付ける『オトリ組』! セルリアンの退路を遮断するため、火をつける薪たきぎを集める『焚き火組』! 岩山の地形を利用して、セルリアンを封じ込める罠を設置する『罠組』です!」

私は作戦内容についてフレレンズたちにもう一度説明した。

「一番キケンな『オトリ組』になるのは、カラカルとキリン、バーバリライオンさん、クロアシネコさん、マルミミゾウ〔マルミミゾウ(ようやく名前が出ました)〕これまでゾウはアフリカゾウ(サバンナゾウ)とアジアゾウの2種に大別されてきたが、2010年のDNA解析調査により、以前はアフリカゾウ亜種とされた「マルミミゾウ」は別種であるという説が有力だ。ボルネオゾウ(ピグミーゾウ)と並び、マルミミゾウは現生ゾウ目の中でも最小種。分類的にはアフリカゾウに近縁だが、別名「シンリンゾウ」の名の通り西アフリカから中央アフリカの熱帯林に生息し、耳の小ささやヒヅメの数など、同じく森林棲のアジアゾウの特徴も併せ持つ。キバが湾曲していることが多いアフリカゾウとちがひ、マルミミゾウのキバはまっすぐめなのが特徴。※ちなみにゾウの

キバは犬歯ではなく「門歯」、つまり「前歯」が伸びたもので、ゾウと同じくアフリカ獣類に属するハイラックスのキバも同様だ。さん、そしてヒカリさんと私です！ キリンとゾウさんのパワーで遮蔽物となるバスを押し、セルリアンに近づきます。その後、私はこの『銃』で援護して、ネコ科のフレンズさんがセルリアンを引き付けて戦うという流れです！」

「……何度も言いますが、これは非常にキケンなシゴトになりますので、もし自信が無ければ——」

「しつこいハナコっ！ もう一度言うけど……アタシたちは好きでアンタのやることについていつているんだから、そういう言葉はいらないッ！ どんなことがあっても、アンタのことはゼツタイ恨まないわよっ！」

「我はヒトの戦うえいが【ヒトの戦う映画】古代ローマが舞台の歴史アクション映画『グラディエーター』（2000年アメリカ公開／監督：リドリー・スコット／主演：ラッセル・クロウ）のこと。なおネコ科のフレンズは動体視力が高すぎて、ふつうの視聴覚設定の映画はまともに見れない（※第1章10話TIP参照）のだが……「はかせ」フレンズがずっと昔に持ってきたこの映画だけは、フレームレート調整バージョンでネコの子も見られる特別仕様であった。※ちなみに人間界の南米熱帯林には、名前のよく似た

『グラディエーター・バイオレット』（2007年アメリカ公開）なる映画もありますが、パッケージとフロントが古代ローマっぽいだけの全くの別物。この映画、現代のアメリカが舞台ですやんか。そもそも原題は“BLOODLINE”で、全然違いますやんか（ホラー映画あるある）。こっちはグロい70年代風B級ホラーです。というものを前に見たことがあるが……ヒトという動物は、すごく変わっているが、それでいてわくわくするような戦いをするものだな……。お主の今度のきそーてんが、いな作戦には、我も命を懸けたいのだ!」

「この面白い戦い、あたしも喜んで参加するのによ。勝てる相手に恐怖<sup>ビビ</sup>って逃げたんじゃ、ネコ科の名がすたるにや。『きゆうそ、ねこをかむ【窮鼠猫を噛む】「弱い相手でも窮地に追い込むと異常な力でもって反撃してくるので、侮<sup>ヒ</sup>ってはいけない」という意味の故事成語。「窮」とは「穴に押し込められた人」の意味で、転じて身動きができない状態、絶体絶命の大ピンチのことだ。このコトワザは、ちよつとマイナーな紀元前1世紀の書物が元ネタで……塩や鉄、酒の専売制に関する前漢時代の実用書『塩鉄論』の十卷、第五十八編『詔聖』にある『死不再生、窮鼠噛狸……』（死して再び生きざれば、窮鼠<sup>リ</sup>を噛み……）というフレーズから。このように元ネタだと猫ではなく「狸」なのでタヌキ、ではなくつてえ……どうやら中国語ではヤマネコのことらしく、「𧸗」の漢字がタヌキやアナグマを指していたとか？ なお『孫子』の兵法の第七篇『軍争』でも、『師<sup>シ</sup>を

困めば必ず鬪かく。窮寇きゆうこうには迫ること勿なれ」とあり、つまり「敵を包囲した時は必ず逃げ道を用意する。追い詰められた敵を追撃してはいけない」のが戦争の原則だと、同様のことを言っている。さて、本編の状況は「窮友きゆうゆう、怪物セルリアンを噛む」だと言える……が、語呂がとてつもなく悪いので、言わない。』ってコトワザ、見せてやるのになっ！」

カラカル、バーバリライオン、クロアシネコのネコ科フレンズの3人がそれぞれ勇ましく言い、他のフレンズ達たちも同意する。

「……フレンズって、みんな賢いし、強いんだな……。じゃ、私もこれ以上この話は言わないよ。……言葉や決意もそうだけど、いちばん大事なのは行動だ！」

そして！

「で、あとの各自の行動は、かくかくしかじか！」

こうして各グループのフレンズが作戦内容を理解してのち、それぞれのチームに分かれて行動する。

さつき拾った「コパイバオイル」のジェリカンは、「焚き火組」フレンズ（レイヨウやシマウマなど、おもに草食動物のフレンズたち）に手渡しておく。

私は「オトリ組」フレンズたちと一緒に、ライトバスの廃車のある広場の端を目指して移動していく。

「す、すっごい作戦でありますよねっ! こんなすっごい作戦を思いつくなんて、やはりハナコさんは『伝説のヒト』なのでありましようっ!」

道すがら、同行しているヘビクイワシがそう興奮気味に言う。

唯一飛行できる彼女は、今回はいわば各チームの情報伝達をする「連絡係」として奔走、いや奔飛行してもらおうことになる。

「だから〜!カラカルは最初っからそうだつて言ってるじゃない!」

「こ、こいつあ〜……さばんなちほ〜の歴史上、最大の作戦になりましたよう! ……あ、歴史つて言つても、わたくしたちが日記【日記】日々の出来事を記録した個人的な文書のこと。英語だともちろん diary。昔の日記には文学的なものや、歴史資料として重要なものも多い。この「さばんなちほ〜」には、代々読み書きが優れたフレンズの記録係がいて、大きな出来事を文書の形にしたためているのだ。今の代の「さばんな記録係」はもちろんヘビクイワシのフレンズだ。さらに昔々……ヒトがまだパークに健在だった頃は、フレンズたちは読み書きなど初等教育を受けており、「ひととすなるにきといふものをふれんずもしてみむとてするなり」とばかりに、非常に多くのフレンズたちが自分の日記をつけていたそうだ。こういった過去の「フレンズ日記」は、かつてヒトと縁のあつた場所などでしばしば発掘されることがあり、パークの歴史を知る貴重な手がかりとなっている。このような「有史時代のフレンズたち」が日記好きであつた理由

は何だろう……？ 昔から、他の民族に比べて日本人はとくに日記好きとよく言われており、このジャパリパークが日本的な文化圏にあつて、公用語が日本語であつたことも大きく関係しているのかもしれない。につけていて、覚えている限りの話ですけどね。かばんさんなら、もつとすごい作戦をしたかもですけど……」

「ところで、もう一度確認しますが、例の大きな岩場つてのは、あつちのほうにあるわけですね？ ヘビクイワシさん」

私はサバンナの地平線の、満月が今昇っている方向を指し示して尋ねた。

「そのとおりですよ。ああいうの、コピエ【岩丘群コピエ（その1）】オランダ語のkopjeに由来し、アフリカのサバンナに点在する岩山群のこと。もともとの語源のkopjeはアフリカンス語で「小さな頭」の意味で、ラテン語のcaputやサンスクリット語のkapalaなどと同じで、インドヨーロッパ語族の祖語に由来する古い言葉だ。硬い岩盤だけが平原にポツンと残った「残丘地形」の一種であるコピエは、火成岩（の一種の深成岩）である「花崗岩」、いわゆる御影石が地表まで露出したもので、一緒に大きな木も生えていることが多い。岩と大木のワンセットが大草原にまばらに鎮座する姿はたいへん印象的。こういう岩丘は太古の昔から存在しているもので、これらコピエのまわりに火山灰が降り積もつてのち、熱帯草原サバンナが形成されていったのである。サ

バナナで背の低い草が多くて樹木が少ないのは、土壤深部のこういった栄養の乏しい火山灰には植物がしっかり根を張れないためだ。※さばんちほーの微細な火山灰土（鹿児島県のシラス台地の土壤と似ている）は水はけが良かったため、根菜やイモ類のジャパリマン製造用畑が多く、逆に稲作などには全く向かない。だがコピエではこういったサバナの一般的な土壤と違い、長い年月かけて亀裂に土埃が溜まったり動物が排泄したりして土壤の栄養分が多く、例外的に大きな木が生えやすいのだ。樹木の少ないサバナに棲む動物たちに、日中休むための岩や樹木の日陰を提供してくれるのがコピエであり、それは人間にとっても例外ではなく……タンザニアのセレンゲティ国立公園の中央部には、大きなコピエを利用した「セロネラ・ワイルドライフ・ロッジ」という宿泊施設がある。つて言うのでありましょう」

「そのコピエ（コピエ（その2）」東アフリカのコピエの花崗岩にはマサイ族の壁画が描かれていたりもする。このジャパリパークのさばんちほーでは、なんと古代の人間がフレンズと一緒にセルリアンと戦う絵がコピエの壁面に描かれている！さらに、キトラ古墳のそれを思わせる四神・神獣の絵が描かれており……それも、日本の飛鳥時代よりもはるか以前のものだ！これらの壁画の顔料を、炭素14法やウラン・トリウム法などの化学的年代測定法で調べた結果、偽物ではなく本物だと判明したらしいが……。それが本当なら、ジャパリパークこと、この「中ノ鳥島」には、20世紀初頭に日本人

に発見されるはるか以前から——有史以前の頃から、ヒトとフレンズとセルリアンが共存していたことになるのだが……?? うゝむ、ジャパリパークって本当に謎だらけだ……。の大きさや形は？」

と私が尋ねると、彼女は「うゝん……。」と少しのあいだ口ごもり、自分の体を見ながら黙り込んだのち……隣のキリンの胸を揉み始めた!!

「ぎゃーっ!! と突然のセクハラっ!! ななななにいきなりおっぱい始めるですか貴女はあ?!?!」

「ハナコさん！ 何を驚いているのでありますか！ さあ、見て下さい、こんな形でありましょっつ！」

指のあいだからそのハラズメントな光景を見てみると……。

「こ、こんな形つてえ……?? あ、ああ……もしかしてコピエの話……?」

「もしかしなくても、そうよ！ 私たちがチチ【チチ】ティティ”titi”は東アフリカで話されるスワヒリ語で「乳房」の意味。本当です！ 信じて下さい！コピエとか、おっぱい山【おっぱい山】な、なんじやそりや……と読者の方はお思いかもしれませんが……実は「乳房や乳首の名前を冠する山」は世界中に存在しており、多くが地母神と同一視されて豊穡のシンボルとなっている。Wikipeidiaでリストが作られるほどのです。日本にも、おっぱい山とか乳房山と通称されるふたご山はたくさんあり

……たとえば北海道かみしほろちよう上士幌町にある、大雪山系の1600m級「オツパイ山」(西クマネシリ岳とピリベツ岳の通称)などが有名。このおっぱいはアイヌ神話の聖地となるおっぱいであり、毎年「オツパイ山祭り」が催されます……。嗚呼!! なんと甘美な響きであろうかあ〜!! っって呼んでる岩山よ!」

胸を揉まれるキリンもなぜか自信満々で説明した。

「ち、乳コピエ……おっぱい山とな……?」

『ボクノ「地形でえた」デモ、ソノふたご山ノ存在ガ 確認デキルヨ。「ジャンボ【ジャンボ】” J a m b o ” はスワヒリ語で「こんにちは」の意味。対して” J u m b o ” は、19世紀アメリカのサーカスで飼育されていたアフリカゾウの名前だ。この名は前述の J a m b o や、スワヒリ語で酋長を意味する” j u m b e ” から来ているらしい。またはヒンドゥー神話に登場するスメール山(仏教の須弥山しゆみせん)の南方の大陸「南閻浮提みなみえんぶだい(南贍部洲なんせんぶしゆう)」にあるというフトモモ科の果物の巨木、閻浮えんぶ( J a m b u ) 樹とも関係があるとかないとか……。ジャンボジェットやジャンボ宝くじや故ジャンボ鶴田氏などの「巨大」の意味は、このゾウの名前から英語圏に広まったそうだ。さばんなちほーのこのコピエは、その巨大さから……あるいは、横から見たアフリカゾウの背面の体形(背中がへこんで肩と腰が盛り上がっている形)に由来するのだろう。コピエ」トイウ名称デ 登録サレテイルネ』

ヒカリさんが言った。

「形はキリンの胸これつくらのふたごの岩こになっていて……で、もつと、もおくつと！ 大きいのでありますうツ！」

『『サバンナ奥地で発見！ ダブルJカップ・超爆乳コピエ！』……な、なんかあくえつちな動画のタイトルみたいですね……』

「……?? それで、そのチチコピエの片側は、セルリアンがぎりぎり入れるぐらいの幅の入口になっていて、もう片方は、わたくしたちがひとりずつ抜けられるほどのとても狭い出口なのでありますう」

「なるほど……私たちはその狭い出口から抜けられるけど、セルリアンにとっては完全デッドエンドに袋小路……！ 罠トラップに最適ってワケですね……」

「おさらいしましょう！ 『たきびぐみ』が火を使ってセルリアンの逃げ道を無くしつつ、ハナコさんたち『おとりぐみ』でコピエにセルリアンを誘い込んだあと……『わなぐみ』が、上から木とか岩とかを落として、ヤツを閉じ込めるわけにありますね！」

『落石ノ計【落石の計】巨大岩丘群地形の谷底の行き止まり部分まで「オトリ組」がセルリアンを誘い込み、コピエの上に隠れていた「罠組」のフレンズが落下物で一方的に攻撃する……。オトリ組は谷底の狭い出口から走り逃げられるし、罠組フレンズは近距離かつ高所に陣取るためにセルリアンの「砲撃」の射程外となるのだ。さらに戦車には上

面の装甲が薄いという弱点がある。その弱点まで、あの戦車セルリアンが模倣してくれているかは不明だが……背中のような大きな眼球や、そこに取りついた寄生セルリアンに、フレンズのパワーで大きな岩や木を落とせればまちがいに大ダメージになるだろうし……たとえ致命傷を与えられなくても、視覚を封じたり地形と落石で無力化できれば、放置して衰弱死させることもできる。なによりこの作戦は、オトリ組以外は真正面からぶつかり合わないのので、多くのフレンズたちが安全なのが利点となる。ダネ」

「ク、クエエエッ!! こ、こりや、カンベキな作戦じゃねえですかっ……!! く、くやしいっ……でもっ……まいりましたあ!」

へビクイワシが怪鳥音をあげて叫んだ。

「……参るとか参らないとか、そういうハナシじゃないですけど……」

『サバンナせんせい』の座は、あなたにおゆずりしましょう! これからは、あなたが『ハナコせんせい』で!」

「いやあの……」

「しかし、ハナコは岩山を好むとは……やつぱりヤギでは……? でもアナタが『せんせい』

い』になっても、『めいたんてい』の座は渡さないわよ!」

「あんたら! 人の話を聞いてくださいよ!」

「このサバンナ史上最大の作戦！ 『にやんにやんおっぱいファイアー作戦！』と名付けましようっ！」

他人の話を聞かないヘビクイワシが叫んだ。

「えっ！ いや、なっ……なにそのネーミングセンスは……!?」

『『にやんにやんおっぱいファイアー』か……分かりやすくていい！』

「うむ、我も良いと思うぞ」

「ええ……カラカルもライオンさんも、そんなんでいいのか……??」

「じゃ、アンタは、どんな作戦の名前がいいって言うのよ？」

「急に聞かれてもあ……う……ん…… 『実録！ ～仁義なきフレンズ対セルリアン戦争

～』 作戦……とか？」

「長い！」

『ソレニ、ソノ名前ジャ 作戦内容ガ イマイチ不明ダヨ』

「確かに……」

『『サバンナ・ミステリー ～セルリアン崖つぶちサスペンス殺人案内～』 作戦つてのは

どうっ？」

「2時間ドラマのタイトルみたいだけど……」

「そつちも長いわよ～！」

「うーん、それなら間を取って『フレレンズファイアー作戦』で決まりでありましょう!」  
 というわけでヘビクイワシさんが強引に決定する。

「そうだ! この『フレレンズ』と『ファイアー』を合言葉【合言葉】カウターサゼン味方を認証するため、相手に正しい答えを求める問答のこと。戦場では古くから使われており、『日本書紀』の壬申の乱の項や、シエイクスピアの『ハムレット』などにせられしき記述がある。第二次世界大戦の米軍では「閃光!」フラッシュに対して「雷鳴!」サンダーとか、「大統領のイヌの名は?」ルイスベルト「ファアラ!」などの合言葉が有名。後者のように、家族しか知りえないような「ペットの名前」は、現代でも特殊詐欺被害の防止や、PCのパスワードを忘れた時の合言葉として、一般的にもよく使用されている。にしておこう!」

「あいことば?」

『ぱすわーど ダヨ。コノ暗闇ノ中デ、出会イガシラノ時ニ、敵ト 味方ヲ 区別スル 為ダネ』

「なるほどにやー。『ちゆうこうせい』のハナコやキリンやヘビクイワシは、夜目が利かないものね」

さあ、ライトバスのところに集合した「オトリ組」フレレンズ達!

いよいよ作戦開始だ！

ヘビクイワシは、「焚き火組」のレイヨウやシマウマフレンズ達に知らせに飛んで行く。

ふと星空を見上げると、そこから落ちて地平線に刺さった「南十字星」……。

この大地の十字架は、我々にとっては勝利の女神の加護……。そして、狩る側から狩られる側にまわる怪物にとつては死の墓標となるのか……。

「よし！ バスを遮蔽物にしなからアイツのところまで押していくわけですッ！」

私はそう言いながら、件の「ライトバス廃車」のタイヤにまわりついたツル草を、ナイフで切り落としていく。

「よし、アタシも！」

「にゃ〜！」

カラカルとクロアシネコも虹色に輝く「サンドスターのツメ」を指先に実体化させて、除草作業を手伝う。

『アア、ボクニモ 元ノからだサエ 有レバ、ミンナノ手伝イガ デキタノニ……』  
ヒカリさんがレンズを輝かせて言った。

『ボク達「ラッキービースト」ハ 高性能ダカラ、草刈り機能モ アルンダヨ』

「そ、そうですか……！ さすが、聞いてもいないのに自分から高性能って言うだけある

な……」

「むんツ!」

という掛け声とともに、大きなサンドスターのツメで植物を薙ぎ払うバリライオン。

……いや、よく見るとそれはネコ科の爪ではなく、幅広のオノの形になっているではないか!!

「すーい!」

「これは、『えいが』で見たことがあるが、ヒトの武器であるな? オノ〔オノ〕今のバリライオンの手には、中世ヨーロッパの戦斧「フランキスカ」に似た形に、サンドスターが実体化している。これはゲルマン人とガリア人の混血民族であるフランク族が使っていた武器だが、原型は伐採用の手斧なので、古代より似たようなモノは使用されていたと思われる。この斧の刃は分厚く、湾曲しており、近接攻撃だけでなく投擲することもできた。が、投げるとクルクル回りながら飛んでいくために刃の部分が刺さりにくく、投擲武器としてはちよつと使いづらかったらしい。しかし刃が刺さらなかったり鎧で弾かれたりしても、刃部分はかなりの重さなので、命中するだけで衝撃力はそうとうなものだったに違いない。バリライオンの「サンドスター・フランキスカ」も、かつて「映画」で見た古代ローマの剣闘士グラディエーターのマネをして使えば……接近戦では遠心力で叩

き下ろす重厚な斬撃……そしてサンドスターの流入を遮断してオノを切り離して遠距離への投擲、と攻撃の使い分けができる。というヤツだな」

「バーバリライオンは、サンドスターのかたちを変えるのが得意なのよ〜！」

「あたしたちはそういう器用なこと、できないのにな〜」

『珍シイ能力だね。普通ノ フレンズハ、元ノ動物ニ由来スル身体部位ニシカ、サンドスターヲ 具現化デキナインダケドネ』

「いわば、サンドスターの武器化〔サンドスターの武器化〕ほぼすべてのフレンズ達は、ツノやツメなどの動物の部位の形状にしかサンドスターを实体化できない。ヒトの武器や道具の形にも変えられるほど「体外のサンドスター操作」が上手なフレンズは、とても珍しいのだ。それができるフレンズは、このさばんなちほーのバーバリライオンや、シャベルを持った絶滅ゾウのフレンズ、「しんりんちほー」の「博士」のフレンズ、そして「ゆきやまちほー」というエリアに棲む「ユキヒツジ」のフレンズぐらいしか存在しない。レア能力です。なお、今よりずっと昔、ヒトとともに戦っていたフレンズ達……人間文化に馴染んだ世代の子たちは、サンドスターをヒトの武器の形に具現化できたらしい。シカやウシやレイヨウ、鳥のフレンズは、ツノやクチバシを模した槍に……サーベルタイガーのフレンズは、キバと口と同じ形状の片手剣と鞘に……亀のフレンズは甲羅状の大盾に、といったように……。だが、その能力——いや訓練や教育による「文

「化」は断絶してしまい、今のジャパリパークではほとんど失われてしまっているのだ。能力か……。そんなに珍しいのか……」

そうして、バスに絡む草の除去はすぐに完了した。

私は車内に入ってシフトレバーをNニュートラルに入れてサイドブレーキを下ろし、そしてこれからバスを襲う「衝撃」に備えて、ダクトテープをグルグル巻きにしてハンドルやレバー類をかたく固定しておく。

「しかし、これがあの、かばんさんが連れていたっていう『ぼす』なのよね?」

カラカルが尋ねる。

「このぼすは、死んでいるのかしら?」

「え……? ……ま、まあ死んできると言えば、死んでいるのかな……。でも、とにかく後ろから押せば走るんだよ。問題ない」

「よくわからんけど……ぼすは死んじやっても、『ぼすの殻(バスの殻)我々には「廃車」としか映らない物体だが、フレンズたちには、動物の殻や骨や甲羅に見えるらしい。「バスは死して殻を留め、かばんさんはごごくへ行くとも名を残す」というジャパリことわざもあるように……。ところで、この「ごごく」という謎の言葉は、フレンズたちに伝承される「かばんさん神話」に登場する地名で、セルリアンがたくさんいる地域らしい

……。が、ごこくちほーでも、かばんさんが知恵と勇氣と友情と筋肉で、ばったばったとセルリアンをやっつけていく大活躍をした……。と伝説では伝えられている。なおこのことわざの元ネタは、中国の南北朝時代、後梁の武将「王彦章オウケンシヨウ」の言葉、「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」の故事から。「死んでも名が残るような恥ずかしくない生き方をするべきだ」「生き死にも貴賤があるのだ」といった意味。ちなみに中国の歴史書では『豹死留皮』——つまり虎トラではなくて豹ヒョウとしている場合が多い。なお中国では豹と虎はどちらも生息しており、別種と認識されながら、猛獣という意味で時おり混用されていた——「勇猛果敢な」という意味の「虎豹」という言葉があったり、「虎豹騎」という騎兵部隊が三国志に登場するのが、その一例である。そして鎌倉時代の初めにこの故事が日本に伝わった時に、「豹とはメスのトラ」だと日本人に勘違いされて、『十訓抄』などの書物では日本でもよりメジャーな「虎」表記のほうで固定された、という経緯があるそうだ。』は役に立つのね……」

「よいしょーっ!!」

「うもおーっ!!」

「うみやみやみんみーっ!!」

フレンズたち全員でバスを後ろから押すっ！

ツタの裂ける轟音が雷のように鳴り、植物の縛めいましの鎖から放たれて、死せるバスが、サバンナの大地を再び走り始めたのだ!

「さすがキリンとマルミミゾウのフレンズさん! すごいパワーだ!」

「名探偵の『紳士ばわあ〜』全開よっ!」

「ばおくん!」

「よし! 私はバスの屋根うゑに昇のぼって、銃ハジキで援護射撃する! キリン、ちよつと首くびを借りかるぜっ!」

「うもっ!」

私はキリンの肩とマフラーを踏み台にしてジャンプ! 木登りの要領でライトバスの屋根に登り、拳銃トカレフのスライドを引いて射撃準備をする!

『ハナコ! ボクガ キミノ目ニナルヨ!』

「なにっ!?!」

『らいとノ 柄ハンドル部分ガ 小物入レニナツテルカラ ソノ中ノ「あたつちめんと」ヲ使ツテ!』

「えっ! そうなの!?!」

確かに、L型ライトの持ち手がランボーナイクのように空洞になっている!

その中のパーツを使って、ヒカリさんを拳銃のスライドに固定する!

『ボクノ 光ニハ「赤外線もおど」モ アルンダヨ!』

「光学照準器にもなるのか! 助かりますっ!」

左足を前にして銃を構えて「左足を前にして銃を構えて」このハナコの姿勢は、利き腕側の足を引いた立ち方——ボクシングのオーソドックスのようなフォームで構える「ウィーバースタンス」という撃ち方。今回のように一点を狙って撃ちたい時に適している。標的に対して半身を晒す形になるので、若干や投射面積が小さくなって被弾しにくくなるというメリットがある（だがボディーマー着用の場合は、装甲が薄いわき腹に当たりやすくなってしまう）。しかし、ウィーバースタンスは射撃時の反動を打ち消しにくいと言われ、銃を左右に振つての対応がしにくいという欠点がある。現代の軍や警察でよりメジャーな「アイソセレススタンス」という仁王立ちになる射撃姿勢もあるのだが……駆るバスの上からという不安定な足場での射撃なので、体をより安定させやすいウィーバースタンスを選んで撃っているのだ。さらに、一般的な構えよりも脚を少し内股に気味にして——空手の三戦サンチンのようにして、重心をより安定させたポーズを取っている。ヒカリさんの赤い光線を目印に……はるか先のセルリアンの眼球を狙って、撃つ! 弾倉タマ全部ブチ込んでやるッ!

放った弾丸が闇夜を跳び、その大きな眼球に命中する!

「よしっ! あのデカイ目ン玉をブチ抜いたぜクソ野郎っ!」

セルリアンが苦しんだ様子でもがいている!

『ヤ・ル・ネエ〜! コノ遠距離<sup>マ</sup>ズ、人間<sup>マンターゲット</sup>以下ノ 大キサノ 敵<sup>マ</sup>ニ 命中<sup>ア</sup>テルトハ……!』

「や、やったか……!?!」

が、致命傷である様子はない!

大きな目玉で、すぐにコチヲをギロリとにらんでくるセルリアン!

「怪物め……やはり拳銃<sup>ハジキ</sup>の弾丸<sup>タマ</sup>程度では殺<sup>ト</sup>れないか……」

「うわわ〜!」

「びっくりした!」

「じゅうつて、アンタの言った通り、本当にすごい音なのね〜!」

下でバスを押ししているフレンズたちが、のんきな調子で驚いている。

すると! 突然の金属音がうなり、強い衝撃が体に走る……!

月夜の空気を切り裂く轟音と、強く押されるような衝撃力……。慣性で前に吹っ飛びそうになるのを、バスの屋根の取っ手にしがみつく。

……こちらに気づいたセルリアンの砲撃だ!

バスの前部に命中して、一部の装甲がひしゃげている！

だが、この装甲車のようなバスなら……ある程度のダメージなら耐えてくれそうだ！  
「大丈夫だ！ 心配しないでみんなっ！ この『バスの殻』の遮蔽物が、みんなをアイツの攻撃から守ってくれるっ！」

あの鉄板も貫通する例の危険な「潜行弾」も……バスの内部のごちゃごちゃした構造に引つかかかって、バスを後ろから押ししているフレンズたちは砲撃の死角となるのだ！

『ハナコ、危険だよ！ 大キク放物線ヲ描クヨウニシテ、上カラ 砲撃ガ降ツテキタラ 屋根ノ上ダツテ 危ナインだよ！』

「いえー！ ヤツの砲身は仰角を大きく取れないから、あまり高い角度では撃てないはず！ この辺はちよつとした坂道になってるし……この角度で突っ込んでいけば大丈夫ですー！」

なおもバスは進軍するが……それからも、次々にセルリアンの吐き出す砲弾がバスに命中していく！

まるでペンキの塗装を剥がすかのように、たやすく砲撃によって分厚いバスの装甲が剥がれていく！

「くそっ！ これじゃ立ってられない！」

座りこんで、バスの屋根にある観察塔〔観察塔〕バス上部にある、砲塔キューボラやトーチカの  
 ような出っ張った構造物。バス内からハシゴで登ったり、外からハッチを開けて入るこ  
 とができる。ここでの描写のように、外面には掴まるための手すりがついている。本来  
 は動物観察用だが、有時には防衛用の銃眼ガンポイントとして活用できるものだ。の外壁の手すりに  
 しがつくのがやつとだ!

その尻もち状態から、ホールドオープン〔ホールドオープン〕自動拳銃が弾倉の銃弾  
 を撃ち尽くした際、自動的に遊底（スライドやボルトと呼ばれるパーツ）が後退したま  
 まになることで、再装填を手助けし、かつ射手に弾切れを知らせる機能。ほぼすべての  
 自動拳銃にある機構だが、ベレッタM1934や南部十四式拳銃などの一部の古い拳銃  
 だとこの機能が不完全な場合もある。短機関銃や自動小銃にも同様の仕組みがある場  
 合が多いが、AKやG3、MP5など弾切れでもホールドオープンしない銃器もありと  
 ある。した拳銃のボタン〔ボタン〕正式名称はマガジンキャッチ・リリースボタン。コ  
 レを押すと拳銃のグリップの底から弾倉が外れる。多くの拳銃と同様、トカレフの場合  
 も、ちょうど親指で押せる位置にこのボタンがついている。を押して弾倉を落とし、片  
 手でポケットの予備弾倉を取り出して、太ももで弾倉を押すようにして再装填……!  
 親指で再びスライドを前進させて〔親指で再び…〕ホールドオープン用の「スライドス  
 トップ」という部品にあるリリースレバーを親指で押し下げて、バネのチカラでスライ

ドを前進させている（※かわりに手でスライドを握って引く操作をしてもよい）。このように、拳銃は基本的に片手だけで操作できる構造になっている。なおこのトカレフという銃は、米軍のコルトM1911やベレッタM9に比べると、かなりスマートな形状の拳銃なので、手の小さいハナコ（忘れていた読者も多そうですが、彼女は中学生ぐらいの女の子です）でも握りやすいし、ボタンやレバー類が操作しやすいのがメリットだ。射撃準備完了！

脚を組みながらの姿勢【脚を組みながらの姿勢】映画『山猫は眠らない』の主人公トーマス・ベケットのモデル、米軍の伝説的狙撃手、カルロス・ハスコックの有名なスナイパーライフル射撃姿勢に似た、座り込んだ状態でのハンドガン射撃！ さらに上半身は、バスの手すりを掴んだ「左腕の肘」を「台」にして、銃を持った右腕を乗せての「依託射撃」っぽいフォームだ（旧日本軍の拳銃射撃方法に似たようなものがあるそうだ）。での片手射撃で再び、セルリアンを狙って援護射撃する！

フレンズに押されて、転がるようにセルリアンにどんどん接近していくバス！

それに対しひたすら砲撃を連発してくるセルリアン！ どうやら、これがヤツの本気の連射力……！ 数秒に1発【数秒に1発】これは「自動装填装置」を有する戦車と同じくらいの連射速度だ。自動装填装置は現代の多くの戦車（第3世代戦車や第3・5世

代戦車)に装備されている——自衛隊の10式戦車やフランスのルクレール、ロシアのT-14アルマータ、中国の99式戦車、韓国のK2ブラックパンサーなどの戦車だ。これらの戦車には装填手がないので、乗員は3名(戦車長・操縦手・砲手)になっている。こういった機械装填の戦車は最速で1分あたり10〜15発程度の連射できる想定。現代の戦車って、昔の戦争映画のイメージ以上に連射が可能なのだ。※ちなみに米軍のM1エイブラムスやドイツのレオパルド2、イスラエルのメルカバなどはこの便利な自動装填装置をあえて装備しておらず、連射力においては他国の戦車のほうに軍配が上がるそうだ。の、ものすごい連射速度だ!

フレンズたちに予期せぬ方法でどんどん接近されて、敵も焦っているに違いない! だが、焦っているのはこちらも同じだ!

「ちくしよ〜っ!! 『バスの固い殻』が……どんどん、カニの殻みたいに割られていつちまうっ!」

『イクラ 装甲化サレテイルトハイエ……コウ 速射ヲ 喰ラツチャ、ばすが持タナイヨ!』

「なんつーパワーと連射力だよ! 予想以上だ! このままじゃマズイ!! 急がないと

……!!」

「にゃ〜! わかってるわよ〜! 急げ〜っ!」

「みんなやもつと腰入れて！押せ押せにや〜！」

「気合いだ！ 気合を入れるのだ！ 我もがんばるぞ！ えんやこーらしよー！ どつ  
いしよー！」

そして突然！ バスの横の地面をえぐる砲撃だ！

これは……ハズしたのではない！

ワザと横の地面に命中させることで……その爆風で、バス後方のフレンズを攻撃して  
きたのだ！

「うにゃあッ!!」

「カラカル!? みんな、大丈夫かッ!?!」

下にいるフレンズたちに声をかける！

「大丈夫！ こんなのかすり傷よ！」

「そうか、よかつた！」

この爆撃も、幸いなことに正確に命中させることは難しいらしい！

爆風の直撃でなければ、強靱な体を持つフレンズたちへのダメージは浅い！ そして  
直撃させようとすれば、バスのほうに命中して砲弾が逸れてしまうのだ！

「でも『バスの殻』がもうやばいよっ！ 急ごう！ セルリアンまであとちよつとだ！

よし、突撃だあーっ!」

『プップクプー!』

ヒカリさんが騎兵隊の突撃ラツパのような音を出した。

「ヨオ〜シ! みんな、にやんにやんおっぱいファイアーだ! とつげきい〜っ!」

「うもーっ! にやんにやん名探偵おっぱいファイアー!」

「ぱおぱお〜っ! にやんにやんおっぱいファイアー!」

「……」

『ニヤンニヤンオツパイふあいあー!』

「……」

『サア、ハナコ、キミモ 言ウンダ!』

「……言わないとダメっすか?」

『ダメダヨ。大キナ声デ 高ラカニ 才腹なかノ底カラ 叫ブンダヨ!』

「く、くそ〜……こうなったらもう、うおお〜っ! にや、にやんにやんおっぱいファイ

アー!!!」

私はやけくそで叫びながら、援護射撃を続けた。

こうして気合を入れて、バスを押し推して押しまくるフレンズ&バス軍団の猛突撃

!

それに対して、あせるセルリアンのさらなる反撃の砲弾がバスを襲う！  
砲身が七色に光り、砲撃音が夜空に響く……！

が、しかし！ 今までのような車体への衝撃は無く……！

突如、前のめりに傾く車体！ そのまま斜めに横倒しになって、斜面を転がっていく  
バス！

セルリアンはバスの前の地面を撃つて……穴を作つてバスを横転させたのだ!!

「うわっ！ ヤバイっ！」

「うぎゃーっ！ らいへんばっは〜！」

「ばおくんっ！」

バランスを崩して斜面を転がっていく私！

キリンとマルミミゾウの悲鳴も聞こえる！

「うぐぐ……はっ！」

気がつくとき、キリンとマルミミゾウが、私のそばに倒れている。

「だ、大丈夫か……?! 無事か、キリンも、ゾウさんも!?!」

「へ……へーきへーき!」

「わたしも元気だよ〜!」

フラフラしながら立ち上がるふたり。

『ぼす二 潰サレナイデ 無事デヨカッタ……』

「ええ、本当に……。あつ!でもつ、カラカルたちは……? セルリアンはつ……?」

満月の青白い光のなかで周囲を見回すと……坂を横転して転がっていったバスは……運良くそのままセルリアンにぶち当たって、ヤツをひるませている!

そしてネコ科のフレンズたちは……もうすでにセルリアンのまわりを跳びまわって戦っている!

3人は今のバスの横転事故のチャンスに乗じて……私たちが無事であることを確認して、すばやくセルリアンに接近していたらしい!

「おおお! これぞまさに、攻防一体のトリックつてやつね! うむ、セルリアンの攻撃を逆に利用するとは、見事な完全犯罪ね〜!」

「やったよ〜! 作戦通りだね〜!」

大きなキリンと小さなゾウが、手と手を取りあい、そして首と鼻を取りあつて喜んで

いる。

「い、いや……私が思っていたやり方とは、ちよつと違うんだけどなく……」

『コウイウ時ハ、嘘デモイイカラ、威張ツテ イインダヨ!』

「いや、そうかな……?」

さあ、一気に距離を詰めることができたネコ科フレンズたち!

横転バスがぶつかって気絶していたセルリアンも意識を取り戻し、距離を取ろうと周囲を縦横に走りながら、「榴弾砲」の洗礼で彼女らを迎え撃つ!

『ハナコ、危ナイヨ!』

「そうですね、私たちはバスの影に隠れていきましょう!」

キリンとゾウと私は、前部が大破して横倒しになったバスに隠れて、戦いの様子を見守ることにする。

だが! 「砲撃」の性質がどのようなものか、理解した野生猫のフレンズたちに油断は無いのだツ!

彼女らの反射神経と敏捷性ならば、砲身の向きからあらかじめ弾道を予想して回避することは容易であつた!

ネコ科動物の優れた筋力と瞬発力・機動性・柔軟性!

ハンティング 狩りに必要な能力を極限まで

進化させた、動物界最強の捕食者<sup>ブレデター</sup>! その能力を受け継いだネコ科のフレンズの強さ

「ネコ科のフレンズの強さ」「極真空手」創始者、極真会館の故・大山倍達総帥いわく『ヒトは日本刀を持ってやつとネコと互角』だという! (※なおこの発言の出典は不明です)

……それでは、動物がヒト化してパワーアップしたというネコ科フレンズの強さとは、いったいどれほどのものなのか……? 誰が言ったか知らないが、一説によると「兵士

がマシンガンを持って、小型ネコ科フレンズと対等の戦闘能力!」であると言われている。ネコ科のフレンズは、いわゆる人間の軍人の「ナイフ使い」のような動作で、頸動脈や手足の腱など急所を本能的に狙って戦うという……。銃器は「構える、狙う、引き金を引く」の3動作なのに対して、斬撃は1つの動作での流れるような素早い攻撃!

手首の腱を狙って武器使用を封じつつ、そこから首を斬って即死させるコンビネーション斬撃! 接近戦においては、銃よりもナイフやツメ攻撃の方が速いのだっ! しかも、障害物の多い森林や屋内であれば……ライオンやトラどころか、イエネコのフレンズですら、1個分隊(10人程度)の、銃を持った軍人と同等に戦えると言われている! を見よ! 人間にはとうてい不可能な動作が可能なのだ!

サイズこそ違えど、彼女らはみな野生のネコゆえの高い基礎身体能力を共有している! お互いに言外の理解と言える無言の連携を取り、動きが直線的で固い大型セルリアンを翻弄している!

「おっおう……さすがネコの子！ あれが本気の動きか……やっぱりネコの子の『うんどうしんけい』はすごいですね〜」

マルミミゾウが驚嘆の声を上げる。

「まさにこれは、ねむれるシシは……能あるう我が子の……トンビがかくす……タカのツメをせんじて……落として飲ませる！ 『ねむれるシシは……』眠れる獅子は能ある我が子の鷹が隠す鷹の爪を煎じて落として飲ませる』意味は……な、なんだろう？ つ、つまり……「トウガラシは煎じて飲むと風邪によく効く」って意味では……？ ……突然ですが！ ここでクイズ！ このキリンの変なセリフには、動物に関することわざや言い回しが「4つ」混じっています。なんでしょ？ （答えは次のTIPで）」

「……キリン、色々な格言〔色々なことわざ〕前のTIPのクイズの答え。◆1. 『眠れる獅子』（大きなチカラを持ちながら、その実力を隠している者のたとえ）日清戦争で敗戦するまで中国はこう評された。ちなみにライオンはネコ科なので良く寝ます。サバンナでは天敵もないし。平均で1日15時間くらい寝るとか。◆2. 『能ある鷹は爪を隠す』（才能や技術のある人でも、それをむやみやたらと見せびらかしたりしないということ）実際の猛禽類にも、獲物に攻撃する直前までツメを隠しておく習性があるそうです。ツメに光が反射するのを防いだり、木の枝などからツメを守る目的があるのかも？ ◆3. 『トンビがタカを生む』（平凡な人から才覚優れた人が生まれること）トビ（ト

ンビ)もタカも、タカ目タカ科の猛禽類で、サイズは平均してタカよりトビのほうが大きめ(なおタカ科はみんなオスよりメスのほうが大きい)。あの「ピ〜ヒヨロヒヨロ〜」と鳴くのがトビです。トビはタカ科としては例外的に群れることもあり、また生きた小動物を捕食するタカに対して、腐肉食性の強いトンビは死骸や残飯あさりをよくするので、習性的には猛禽よりもカラスに近い。人間からはタカより格下のように見えるのだろう。しかしトビもタカも外見にも分類的にも非常に近く、もしかしたらことわざ通り、突然変異で本当に「タカっぽい習性のトビ」が生まれることもあるのかも……??

◆4. 『獅子は我が子を千尋の谷に突き落とす』(子供を超厳しくスパルタ教育する、というたとえ話)しかし実際のライオンにはこんな習性はぜんぜん無いです。を言おうとしてるのは分かるが……全部混じりすぎて、全然わからんぞ……。タカノツメ「タカノツメ」トウガラシ(Capsicum annuum)の代表的な品種(※全く無関係の同名のウコギ科の樹木もあります)。なおトウガラシは実はピーマン、パプリカ、シトウトと全くの同種。もちろん香辛料として使うのが主な用途だが、変わった使用方法としては観賞魚の「白点病」(金魚や熱帯魚が寒い季節によくかかる「魚類の風邪」のようなもの)の治療にも使われる。で、ここから長〜い余談になりますが、トウガラシが属する「ナス科植物」はアフリカ大陸に広く分布しており、サバンナでは「いかにもナス科っぽい花」——つまりナスやトマトやジャガイモなどのそれに似た花々を観察するこ

とができる。あの「サバンナ屋敷」の庭にも、実はチラつと生えていました。そして我々の食卓にのぼるあの野菜のナスも、直接はインド原産だが、さかのぼるとアフリカに原種があつたと言われている。こうした野生ナスの多様性や分布は、アフリカゾウやインパラなどの大型草食動物が食べることによって広がっていったらしい。アフリカ原産ナスに近いものとして、ヒラナス（学名：Solanum integrifolium、別名アカナス）や、アフリカナス（学名：Solanum aethiopicum、これも別名がヒラナス）など、トマトみたいな赤い実をつける観賞用ナスが日本でも栽培されている。このさばんなちほーにも、食べられる近縁種の「じゃぱり野生ナス」が自生しており雨季には赤い実をつける。この実は種が多いしちよつとニガいのだが……フレنزたちは全く気にせず、水分と栄養補給のためにバクバクと食べる。※ナス科野菜はソラニンなどの有毒なアルカロイド（植物由来の化学物質の総称）を含み、肝臓・腎臓の解毒能力の高いヒトは食べられるものでも、イヌネコなどの動物は中毒を起こす場合が多いが……フレنز化（≡ヒト化）することで耐性を得られる（第1章5話 T I P 参照）。を煎じて、ってなんだよ？」

キリンのいつものヘンな発言はともかく……さあ、ネコ科フレنز達の戦いの始まりだア!!

## Chapter 1-4: サバンナ地方最大の作戦

## 第15話 戦争の猫たちを解き放て! [▲]

戦車セルリアンを包囲する3人のネコ科フレンズ!

彼女らの俊敏にして優雅な、そしてなんと協調した動き!

距離が近すぎて砲撃が使えないセルリアンは、まさに決死の歩兵部隊に肉薄【肉薄】にくはく危険を承知で敵陣や強敵に近寄ること。「肉迫」という表記でも問題ない。「大辞泉」の「ことばの総泉挙」調査によると、53%の人が肉「薄」のほうを好むそうで……つまり好みはほぼ半々で、どっちの漢字を使っても良いみたい。なおこれを「薄肉」うすにくと間違えて書いてしまうと、色の名前だったり、彫刻や建築の技術だったりして全然違うものになる。された戦車に等しいっ!

もしあせつて撃てば「点の攻撃」である砲撃は、近距離にある体高の低い目標には全く当たらないし、そのうえ大きな隙を作るだけの結果に終わるだろう……。

それを分かっているのだろう。セルリアンは履帯キヤタビラのような歩脚で激しく動き回り、フレンズたちを転倒させて、その巨体で押しつぶそうとする!

だが……人間が本気で逃げる野良猫を捕まえようとするようなもので、跳び回るネコ

科フレンズの機動力には全くついていけないのだっ!

『ハナコ、ボク達モ 援護射撃ダヨ! 君ノ射撃ノ技術ト、ボクノ光デ!』

『はい! ……つてアレ……?? ……げっ、予備の弾倉が無いつ?!』

『ワワワワ……サツキノ ばすノ横転ノ時ニ、紛失シタ ミタイダネ……』

いきなり作戦が狂ってしまったぞ……。

『戦争トハ 臨機応変ナものダカラ、ヨクアル事ダヨ』

『そ、そんな悠長な……』

『うもう! キリンが推理するに、『じゅう』が動いてくれないらしいわね』

『出来ル事ガ無い以上、ココハ イツタン、見ニ 回ルベキダヨ』

『くそ……』

今は黙ってネコ科の子の戦いを見守るしかないのか……。

我々は運転席付近が大破し横転したバスの残骸に身を隠し、戦況をうかがうことにする……援護が必要な時に備えて……。

セルリアンはカラカル達の相手で手いっぱい、我々にまで注意を向ける余裕が無いようだ……。それでもヤツは何をするか分からないから、こちらも一切油断はできない。

映像の早送りのように、けもののような何か草の中や木の上、アリ塚の上を、縦横無尽に帯のように動き回る……。そして彼女らの瞳（その1）「虹彩の前面には「虹彩」という膜状の組織がある。筋肉の膜である虹彩は、カメラのしぼりのようなもので、眼球内に光が入る孔である「瞳孔」のサイズを調整するはたらきがある。虹彩と瞳孔をあわせて、いわゆる「瞳」や「黒目」と言う。なお碧眼（青い瞳）などと言ったりするが、瞳孔の色はどんな人種でも必ず黒っぽい色である。眼球内は余計な光が入らず、また入った光も戻りにくい、暗室のような遮光構造になっている。映画をスクリーンに映写する映画館が暗いのと同じ理由だ。なので瞳孔を持つ動物の場合、ほぼ間違いなくその瞳孔の色は黒（暗い）色をしている。仮に瞳孔の色が赤や緑のヒトがいれば、眼球内が暗くないことを意味する——それはシネマの館内が明るいと映画が見えないのと同じで、視覚が正常に機能しないはずだ。※なお目の機能が退化している深海魚などは瞳孔が黒くないこともある。ちなみに眼球の奥の網膜（の網膜色素上皮）や、脈絡膜という部位には、黒い色素（メラニン色素）が含まれ、さらに毛細血管があるため、眼底の色じたいは赤っぽい黒色をしている（このメラニン色素の量、つまり「瞳孔の黒っぽさ」は人種によって異なる）。そういうわけで、いったいわゆる「瞳の色」と言えば、瞳孔の色ではなく「虹彩の色」を指すのだ。ヤツメが、超鉱物「サンドスター」によって、

玉虫色〔玉虫色たまむしいろ（その一）〕タمامシ（甲虫目タمامシ科リタمامシ属ヤマトタمامシ）の鞘翅しょうしの美しい輝きのような、常にあいまいに変化する色彩のこと。「七色」や「虹色」と同じような意味だが……タمامシの鞘翅の色は「構造色」と言つて、色素によるものではなく、翅の表面の微細な構造に光が反射し、おたがい干渉して生まれるさまじまな波長（ $\parallel$ 色）であることが特徴。そのため、見る角度や光の具合によつて常に微妙に色合いが変化していくのだ。シャボン玉、ディスクの裏面、蒼鉛ヒスマスの金属結晶、アワビ類などの貝殻、モルフォチョウの翅、あるいは繁殖期のオスのクジヤクの尾羽の七色も、同様のメカニズムである。「構造色」は色素によるカラーリングではないので、太陽光の紫外線による脱色が起こらないという利点があり、繊維や印刷用インク、自動車の塗料として実用化されている——日本ペイントの「マジョーラ塗装」（『仮面ライダー響鬼』などのヒーローのスーツの塗装に使用されていて、特撮ファンにも有名）や、トヨタ・レクサスの特別仕様カラー「ストラクチュラル・ブルー」の仕組みもコレだ。※なお、タمامシなどの甲虫類の翅の玉虫色は、優れた視覚を持つ鳥類に輪郭を視認されにくくする保護色カムフラージュ（隠蔽的擬態ミメシズ）の効果があるらしい。レンズのツメやツノ、キバなどの「武器」や瞳が発光するのは……戦闘時に「武器」の長さや形状、そして視線の方向をセルリアンに誤認させるためののだろうか……？ 確かに連中は大きな目を持ち、視覚に優れているものが多いが……。剣道やなぎなたの「五行の構え」のひとつ、敵から武器を

隠す「脇構え」の精神に通じるかもしれない。に光る!

その瞳【瞳（その2）】フレレンズたちの目は、魚類・爬虫類・齧歯類・食肉類・クジラ  
偶蹄類・ウマ類、フルーツコウモリ類など、多くの動物が持つ網膜の「輝板」タペタム（第1章1

0話TIP参照）の色素による様々な色の反射光や、カメラのフラッシュによるヒトの

「赤目現象」（暗所での急なフラッシュに虹彩筋が反応できず伸びたまま||瞳孔が大きい

まま撮影されて、過剰な光量により眼球内の毛細血管が赤く写ってしまう現象）のメカ

ニズムと……実は全く異なっていてえ〜……サンドスターのはたらきで虹彩したいが

文字通り虹色を彩って発光している! とても奇妙なことなのだが!の光の輝きが、虹

色のひこうき雲のように流れ……彼女たちの動いた後を追うように、遅れて残像「残像

（その1）」見たものが、消えた後もしばらく残って見える現象のこと。この残像効果を

利用して、例えば映画では1秒間に24枚の静止画像を、テレビでは1秒間に30枚の

画像（フレームレートが30FPSの場合）を流されると、これらを人間は切れ目のな

い連続した視覚情報と錯覚し、「チラつかない動画」として認識する。またLEDや蛍光

灯は1秒間に東日本（50Hz<sup>ヘルツ</sup>）では100回、西日本（60Hz）では120回点滅

するが、同様にこれを人間は「点滅しない照明」として認識する。これらの錯覚は、ヒ

トの視覚刺激の「時間分解能」の0.05秒〜0.1秒（1/20秒〜1/10秒）と

いう限界が原因。ある程度短い時間内に、画像A・Bを連続で流されると、ヒトの視覚

ではAからBへ動いたものとして認識してしまうのだ。(つづく)が残るのみ!

私の瞳(瞳(その3))瞳の色(虹彩の色)は、虹彩に含まれるメラニン色素の量によって決まる。第0章で一言だけ言及されているのだが、ハナコの虹彩の色は灰色(濃いめの碧眼)である。グレー(＝ダークブルー)の虹彩というのは世界的に見るとぼちぼち珍しく、ロシアやフィンランド、バルト海沿岸など北国の人種の瞳に多いカラーだ。人類全体としては茶色・はしばみ色・琥珀色などの褐色系の割合が多く、日本人などのアジア人は黒(ダークブラウン)の瞳が多い。髪の毛の質や肌の色などの形質と同様に、住む場所の緯度によって異なる「紫外線への抵抗力」が、遺伝していった結果なのだ。しかし日本人でもまれに、九州や東北などに灰色や薄褐色や青い目の人がいたりして……ルーツをさかのぼると、ヨーロッパやロシアや中央アジアの人の血が流れているのかも。なお、彼女や他のフレンズもそうだが、フレンズはみな、どこの人種にも見えるし、何人にも見えない目や髪や肌の色や顔つきをしているのが特徴。さらに言えば、カラカルがネコっぽい顔つきだったり、アードウルフが(イヌとキツネの中間のような)アードウルフ顔だったり、全員「けもの顔」っぽい雰囲気をしていることだろうか……。では、彼女たちの飛び交った後の玉虫色(玉虫色(その2))玉虫色というワードは政治・外交の記事などで使われることが多く、「見る者の立場や見方によって、どうとでも解釈できるような曖昧さ」といったマイナスなニュアンスもあり……さっぱり性質の全然分

からんサンドスターに、ハナコは不明瞭で不気味、といったネガティブなイメージも少し持っているのかもしれない。さらにタマムシは朽木に卵を産む習性がある。枯れ木から輝く甲虫が生まれるその様子は、汚い泥から生えて清浄な花を咲かせる仏教のシンボルの蓮ハスのように、「死と再生」というイメージもあるのかもしれない。あの法隆寺の「玉虫厨子たまむしのすし」にタマムシの翅が使われているのも、一説にはそういう理由があると言われるている。厨子に描かれている舍利供養図、施身聞偈図せしもんげず、捨身飼虎図しゃしんしこずといった仏教説話も、まさに「死と再生」がテーマなのだ。ちなみに、第1章9話のTIPでチラつと説明されているが、サンドスターの発光現象は、構造色の仕組みとはまた異なるものらしい……??の残像(残像(その2))……こういった視覚の時間分解能を示す「点滅を識別可能な限界値」のことを「フリツカー融合頻度」といい、これは目が1秒で記憶できる画像の数のようなもの。この数値が高いほど「動くものの識別視力」が高くなる。ヒトの「フリツカー融合頻度」は諸説あるが、前述のとおり1/20秒〜1/10秒(≒20〜10Hz)ほどで、最大でも60Hz程度と言われている……。だが、ハトは約150Hzあり、また飛翔昆虫はこの数値が非常に高く、例えばハエは300Hz程度もある。ハエの眼は視覚の解像度(≒空間分解能)こそ悪いが、視覚の時間分解能は非常に優れているのだ。ハエたちにとっては、ヒトの動きなど全くのスローモーションに見えるのだ……。同様に、ネコ科動物もフリツカー融合頻度が非常に高いと言われ、その能力を

受け継ぐネコ科フレンズたちもまた、我々ヒトなどよりも「一瞬が短い動物」たちなのである。ハナコや私たちには「切れ目のない残像」としか映らない一連の高速の動きも、彼女たちにとっては、何枚もの連続写真を一枚ずつ眺めるように、しっかりと分けて視認されている。ちなみにパークの日常生活においては、以前のTIPでご紹介したとおり、(ふつうのフレームレート)の映画やテレビなどを見ても、ネコフレンズは画像の高速切り替えの瞬間が目視できてしまうため「いや、わからん……なんか点滅チカチカしてて、全然分からん！」状態という、そんな不便さもあつたり。を追うだけで精一杯だ！

「ネコ科同士は『こんびねーしょん』バツグン！」とキリンが言う。

「ゾウわたしもキリンも、一緒に戦ったら、かえって手も足も引つ張る【手も足も引つ張る】パークの慣用語のひとつ。もともと多くが四足動物であつたフレンズの場合、手と足という言葉は無意識に混同してしまうことに由来する言い回し。あえて説明する必要もなさそうだが……意味は人間の使う「足を引つ張る」と同じで「余計なことをして邪魔をしてしまう」ことだ。良い意味として使われることはない。ることになつちやいますね」

「レイヨウの子たち、『焚き火組』の火の準備は、まだかかりそうでしょうか……？」

『作戦開始カラ 3分30経過……。マダマダ時間ガ カカリソウ ダヨ……』

「なんだか、さすが転んでからは、最初の『さくせんよてい』と違う展開だなく……。我らは『オトリ』という話だったが……。できるならこのまま倒してしまってもいいなッ!」  
「賛成っ! うみやつみやあくっ!」

「うにやにやあああーっ!」

バーバリライオン、カラカル、クロアシネコの3人が自在に飛び跳ねながら、指先に具現化した「サンドスターのツメ」でセルリアンの殻を斬りつける!

セルリアンは、キリンの長い首の先に平たい口をくつつけたような「砲身」を柔軟に振り回して薙ぎ払うが、その縦横無尽の動きをすばやい眼球運動【眼球運動】<sup>サツガード</sup>最も身近なネコ科動物、イエネコの眼球運動の優秀さは愛猫家によく知られている。1秒間で垂直に250°、水平に150°という超高速で眼球を動かし、広い視野を確保することが可能なのだ。また1秒間に25〜60°程度動く物体に対して、最大限に動体視力が発揮されるという。このネコの鋭敏な視覚は、獲物である小動物の動きに対応するために進化したものなのだ。半面、ネコは遅いものに対してはとて鈍感で、1秒間に1〜3°ほどしか動かない物体は完全に静止していると認識してしまうとか。このネコの眼球運動の凄さを観察したければ……。あなたの隣人であるネコちゃんの目前で、顔をすばやく振ってみる実験をしてみるとよいでしょう。※興奮気味のネコパンチを顔面に喰らっても作者はいつさい責任を取りませんが……。そして、動物の能力を受け継ぐネ

コ科フレンズたちも、こうした素早いものを視認するための眼球運動を得意としている！ 逆に、キリンやゾウ（目が横についているため、広い視野を確保するための眼球運動をほとんどしない動物）のフレンズは、眼球運動でこういった素早い動体を視認したり、距離感を捕捉するのがニガテ。キリンやゾウの突きや蹴りなどの打撃は、パワーやスピードこそ超スゴイが、じつは大振りテレフォンで外れやすいのだ。力自慢の格闘技素人のようなもの。急所を狙う精密な打撃系ストライクを最も得意とするのは、やはりネコ科フレンズなのである！ で捕捉し、自在に跳んで攪乱するネコ科のスピードには、やはり全く対応することができないっ！

「んもおっツ!! やつるうっツ！ セルリアン、全然動きについていけないわよー」  
 「ぱおく、『オトリ組』のみんな、ガンガン行きますねえ〜！ 『野生開放』をせえぶ〔セーブ〕ここでのセーブは「節約する」の意味で、もちろん英語の動詞「save」から。セーブには他にも記録する、貯金する、救う、守るなどの意味があるが、どれも「安全な所へ移す」という基本の意味から派生している。ラテン語のsalvus（安全）が由来で、safe（安全な；金庫）やsalvage（引き揚げ作業、海難救助）、salvation（宗教的な救済）も同じ語源。で、なぜこんな言葉をゾウさんが知っているかと言うと……彼女の出身地「じやんぐるちほー」の住民には、なんとビデオゲーム好きなポノポのフレンズがいて、彼女に「げえむ用語」をいろいろ教えてもらった

ワケです。マルミミゾウ自身も「げえむ」が好きで、「マフラーの鼻」のふたつの突起で器用にコントローラーを操作できる、なかなかのゲーマーなのです。しかしビデオゲームでの「セーブ」は基本的に「記録する」の意味だが……彼女はボンヤリしているように見えて、実は動物のゾウと同じくともアタマが良いので、複数の意味があるのをキチンと理解している。して戦ってるのに……押してますね〜! オトリどころか、このままもんすたーを倒して『げえむくりあく』しちやうかも〜!」

キリンとゾウが興奮して話している。

「おお! それは名推理いっ! もしかして……あなたも名探偵なのっ!」

「めいたんてい……?? たんていげえむ〔探偵ゲーム〕ファミリーコンピュータのADVゲーム『シャーロック・ホームズ 伯爵令嬢誘拐事件』と『ミシシッピー殺人事件』のこと。マルミミゾウが以前にプレイしてクリアできなかったゲームである。前者は蹴り技とナイフとピストルで、19世紀末ビクトリア朝イギリスの各都市で悪漢どもと戦うゲーム。後者は投げナイフや落とし穴やクリア不能になるハマリなど、数々のトラップをかいくぐるゲーム。……あの、とっても推理ゲームには思えないかもしれません、マジです——つまりどっちもクs……難易度がふつうよりちよつと高いゲーム(配慮した言い方)なのだ。マルミミゾウは探偵ゲームはニガテでクリアできなかった、としゃべっているが……現代人類でもノーヒントでクリアできる辛抱強い人はそんなにい

ないと思われるので、あまり残念がらないでほしいと思う。人類が撤退したジャパリパークにおいては「げえむそふと」はとも貴重なので、発掘したのがアレなゲームだったりすると、私たちが定価<sup>フルプライス</sup>でそういうのを買っちゃうよりも何十倍もガツカリするという。かわいそう……。はむつかしくて、わたしニガテですう……。」

キリンの賞賛に対して、マルミミゾウは耳と鼻を<sup>マツライ</sup>ぺたんと下げて残念そうに応えた。キリンほどではないが、このゾウの子もたまにへんなことを言う子だ……。

「ハナコ、作戦どーりとはいかないけど、うまくいつてるじゃない。だけどあなた、浮かない顔してるわね〜」

「いや……確かに、パツと見ではセルリアンを翻弄しているけど……」

「している、けどお〜……?」

「バーバリライオンさんの、あの素早さと鋭い爪でも……セルリアンの『殻』には全く傷が与えられない……」

『つまり、速サハ有ルケド、決定打ニ欠ケル、ツテワケ ダネ』

「あーるぴーじー的に言うとお〜……あのセルリアンはすばやさは低いけど、ぼうぎょりよくが高くて、だめーじが与えられないってわけですなえ〜」

「かといって、戦車セルリアンの背中の上にくっついてる眼球の『寄生セルリアン』は弱

点だろうけど、高すぎて攻撃できないし……! それに寄生体のあの触手が、まちがいに反撃してくるだろう!」

「うももも……そ、そういう推理もあるのね……」

「目玉までジャンプして攻撃するにしても……まずどこにかしてセルリアンに有効打を与えて、ひるませないことには危険すぎる!」

「……なら、甲殻類や多足類のように多くの歩脚が集合した脚部を狙うべきなのか?」

「……いや、それもダメだ! まるでシャコタン〔シャコタン〕自動車の最低地上高を下げて、高速走行向けにする改造のこと。語源は「車高短」から（※寿司やソーラン節で有名な北海道の半島とは全く関係なく、あれは夏の村が語源）。ローダウンとも言い、コイルスプリングやダンパー（ショックアブゾーバー）などのサスペンション回りの部品やホイールをイジったりする改造だ。なお日本の法律では、最低地上高は9cm以上となっている。むかしは暴走族車の代名詞であったが、1995年に車検関係の法律が規制緩和がされて、今ではカーショップやディーラーでも一般化している。近年のクルマでは最初っから車高が低くなっているものも多い。たしかにレースであれば、重心が下がって減加速やコーナリング性能は上昇し、ダウンフォースが得やすくなって車体が安定するハズなのだが……日常生活では下面を擦りやすくなる上に、サスが固くなって乗り心地は悪くなるし、燃費も悪化するし……過度に改造すると、逆に操作性が悪化する

るとも言われており……カッコ良さ（これもセンスによるが）以外のメリットは、あまり無いと言える。……にしても、ハナコつて子はたまにセンスが昭和っぽいことを言うような……。したフェンダーがタイヤを覆うように……殻の端が地面すれすれまで伸びて、歩脚の上部をカバーしている！」

『攻撃シヨウ トシテモ……殻カラ多脚ガ 露出シテイル部分ノ、位置ガ低スギルネ……』

「短いツメで攻撃しようと、もしかがんで斬りつけようとすれば……あのキャタピラのような歩脚に腕ごと引き込まれ、潰されてしまうっ！」

「うむむむ……それじゃこの状況はまさに……ばんでいくう、『万事休す（ばんじきゅう）万事休す（ばんじきゅう）万策尽きた！打つ手が無い！』という意味の言葉。一見すると「窮す」がふさわしく思えますが、こう書くとマチガイです。ここでの「休す」とは休む、ではなく「終わる」の意味。この故事成語は中国の史書『宋史』の『荆南高氏世家』という章が由来で……10世紀、中国の小国「荆南」の高従誨という王様が、王子の高保を溺愛しすぎて、王子はこつぴどく怒られてもニコニコして誤魔化すような性格になってしまい、国民が「あゝもう！万事休す（なにもかもおわり）だあゝ！」と嘆いたエピソードから。で、このゴマかしクソプリンスの保が王位を継いだ時、実際に悪政で国が滅びてしまいましたとさ。』ってコトワザね！」

「……キリンはたまには正しいことを言う」「キリンはたまには正しいことを言う」(もく！ な、なによその言い方はあく！ それじゃ、いつもわたしの間違ったことを言うみたいに聞こえるじゃない! ……「わたしがいつも正しくて、たまにだけそれが認められる」のが、論理的に正しい推理っ!) 心の声byキリンね(ちと囁んだけど)」「ぱおおく……わたしたち、浮かれている場合じゃないですね……。なにか、助けられることはないのでしょうか……?」

サンドスターのツメの斬撃ではまったく攻撃が通らない戦車セルリアン!

あのダンゴムシの外骨格【外骨格】脊椎動物(哺乳類や鳥類・爬虫類・両生類・魚類)がみな体内に骨を持つ「内骨格」であるのに対して……節足動物(昆虫・甲殻類・鋏角類・多足類など)は、体表面に骨格構造である「外骨格」(皮膚骨格)を持っている。一言で言うと、昆虫・エビカニ・クモサソリ・ムカデなんかは皮膚と骨を兼用する生物的デザインなわけですね。なお外骨格とは、生物学的には、貝の「殻」(体「外」の分泌物)や、カメの甲羅(内骨格の変化したもの)などとは違うモノなので注意です。外骨格のメリツトは、軽くて丈夫で衝撃から全身を守る、陸上では乾燥を防げる、脱皮で大きく成長&治癒できる……などなど。反面、体の柔軟性や筋肉の運動性では内骨格に劣り、脱皮時と直後は完全に無防備になり、しかも脱皮リスキしたいがとても危険で死にやすい

行為だ。それに陸上の強い重力下においては、体が大型化するほど「二乗三乗の法則」でそれ以上に外骨格はブ厚く重くなり、とうとう動けなくなってしまう……つまり「体重の支持性能が低い」といったデメリットもある。というわけで、外骨格を持つ陸上生物は小さいものばかり。※重力の影響が少ない水棲生物では全長2 m以上のウミサソリなどがいた。しかしこのセルリアンの場合は、そんなの関係ねえ！とばかりにデカイ……！ サンドスターの性質により土壌や水中から金属を取り入れられることや、外骨格じたいの金属結晶や溶岩の柱状節理のような特殊な「ハニカム構造」が、デカさの秘訣らしいが……。のような殻が問題だ！

弱点……なにか弱点は無いのかッ!?

「……なかなか硬いなッ！ だが、こういう硬い皮こそ……すきまがあるものだ！ これはどうだッ!! ガアアアッ!!」

バーバリライオンが咆哮り、右手の指のサンドスターのツメを一体化させ……片手持ちの直剣【片手持ちの直剣】バーバリライオンは、他のふたりのネコ科よりもサンドスター操作が得意である。彼女がツメを変形させて具現化したブレードは、古代ローマの「グラディウス」(もしくは「スパタ」、あるいは中世の「五指剣」という刀剣と酷似した形状！ まさに「フレンズとヒトの合わせ技」だ！ 古代ローマ軍の密集陣形戦術において、長い槍では長くて取り回しづらい。長物よりも「グラディウス」のような、素

早く突き刺せる小ぶりの直剣をローマの重装歩兵は好んだ。さらに、振り回して同士討ちしやすい斬撃はローマ式の接近戦には向いていない。というわけで、「直線的な刺突」に向いた形で、そして左手に盾を持ちながら右手だけでも素早く使えるようにと、グラディウスはまっすぐな形で、さらに片手で使えるように短めな剣身をしていた。当時の鑄鉄技術では細長い剣は折れやすかったという理由もある。ちなみに、長剣は左腰に佩くのが一般的だが、ローマ軍の一般兵士は左手に大きな盾をかまえていたため、盾の操作に干渉しないようにグラディウスを右に吊るしていたらしい（※古代ローマが舞台の映画や、岩明均先生のマンガ『ヘウレーカ』などのローマ兵を見てみて下さい）。盾を持つてない指揮官などは左腰下げですが。にしても、右手で右腰から全長数十cmもある長剣を順手ですばやく引き抜く動作は、ちよつとやり辛そうだが……混乱した戦場でも流れるように抜いて刺せるように、ローマ軍はふだんから訓練していたそうだ。状に変化させる!

ジャンプして踏み込んでその切先を、セルリアンの装甲のスキマ……蛇腹のような柔らかな関節部分を狙ってねじ込む! 刃を左手でツメを食い込ませて掴み、両腕で押し込んで刺す【両腕で押し込んで刺す】中世ヨーロッパの剣術に「半剣」と呼ばれる技法がある。これは全身鎧を着た敵への攻略法で、右手でふつうに剣の柄を握り、そして（籠手がある前提で）左手で剣の刃の中ほどを握る構えをとる。リーチは短くなるが、より

力強く、そしてより精密な攻撃が可能となる！ この両手構えから、相手の鎧の構造上カバーできない弱点（兜の目のスリット部分や、脇の下、籠手・肘・膝の内側や、股間などの関節部）を攻撃するのだ。空手家の諸手貫手突きもろてぬきてのような、バーバリライオンの「一枚爪突き刺し」は、その理念はまさにハーフソードと同じである。けっこう慣れた感じの動きでよどみなくやってるので、過去に彼女はこういう「殻のあるセルリアン」と対峙したことがあるのかもしれない……。っ!!

「ばおっ！ かいしんのいちげき！ まさに、くりていかるひつとってやつですう  
くっ！」

「や、やったのかしら……!?」

……だが、駄目ッ！

セルリアンには効いていない！

装甲がブ厚すぎて、間隙を狙っても内部なかまで突き通せないのだ！  
「ぐるううっ……ヒトのワザでも貫通ぬかくのは無理かアっ……！」

そう判断した瞬間、殻を両足で蹴り「両足で蹴り」ネコのワザは前脚によるものだけではなく、後ろ脚キックを使うことも良く知られている。ネコもヒトと同様に、前脚よりも後ろ脚の筋力のほうが高いので、ネコキックは強力だ。なにしろあの優れたジャン

プ力う……なので、キックを好むのも納得、ですかねえ……。さらに、まれに跳び蹴りドロップキックも使うのだ! 跳んで前足で掴ホールドんでからの両足キックや、組まずに上空から踏み蹴るようなキックをかましたりなど。ただ、ドロップキックの場合、ときどき低空すぎで受け身パンブがうまくできなくて、ぺたんと着地して「猪木アリ状態」みたいになってしまうことがあるし、二足走行するカンガルーや走鳥類やヒトのキックのように、体重を乗せた威力のある跳び蹴りもニガテのようだ。というのも、ネコの跳び蹴りは、実は意図してやっているわけではなく……攻撃時にビビってしまったって、上半身は前に飛び掛かる形だが下半身だけが後ろ向きの逃げ腰になって、たまたまそういう形になってしまう、という説もあるのだ。(次のTIPへ続く)、その反動で手首までねじ込んだ右腕を引き抜く! 両手を再びツメの形に戻し、跳び退いて宙返しドロップキック「ドロップキック」——しかし、フレンズの身体カラダであれば話は別で……スクリュー式や、一回転式、低空式などの様々なフォームのドロップキックを器用に行うことができるのだ! かつてのフレンズの身体能力に関する研究によると、ネコ科の跳び蹴りは、軽量級ルチャドールや新体操選手以上の身軽さで繰り出され、時速法定速度60kmの750ccナナハンの衝突並みの威力があるという! 攻撃用の「切り裂き蹴り」(足のツメを出して強靭な脚力で敵を引き裂く)だけでなく、牽制用の「踏み蹴り」(ツメを出さず、足裏の肉球で敵を蹴り飛ばして距離を取る)もできる! 組み付きからの「連続ふみふみけりけり」などはフア

ンシーな技名に反して超強力！ パークの映像資料に記録されている「3回宙返りからの蹴り」などは、もはや人間技ではない！ おまけに完璧な着地うけみだつ！ 10・0！ ムトーやミサワもびっくりですよ！ 本編のように、深く刺さりすぎたツメを引き抜く時にもネコキックが大活躍する。の受け身のように着地するバーバリライオン！

ネコ科最強のライオン「ライオンはネコ科最強？（その1）」多くの人間と同じく、「ライオンこそが動物の王」とハナコは考えている。彼女はライオンに関する自身の記憶を総合し、その身体能力だけでなく「集団戦の強さ」も考慮して「王」であると結論している。しかも、諸説あるがバーバリライオンはライオン現生種のなかでも最大と言われている。しかも、諸説あるがバーバリライオンはライオン現生種のなかでも最大と言われている。実際に百獣の王の中の皇おうといったところで野生絶滅を免れている……。ボードゲームでも、「獅子」の駒のほうが「虎」より強いぞ！ だが、体の大きさで言えばトラのほうが大きく……。なかでも寒冷地に棲むアムールトラ（シベリアトラ）という亜種がトラの中でも最大、のみならず、現生ネコ科動物で最大種である。ウエイトだけでなく、さらにパワーやスピード・柔軟性・爪やキバの長さ・ジャンプ力……。などなどの他の数字スペックにおいてもトラが上、ですかねえ……。しかし、狩りの成功率はライオンのほうが高い（集団戦法だけ）し、ふさふさのタテガミによる急所アンファイアトルムの首の防御力というアドバンテージも無視できない。歴史上では、古代ローマの円形闘技場で催されたト

ラ（ベンガルトラ）vsライオン（バーバリライオン）の対決試合や、19世紀インドで組まれた同カードの決闘では、トラの方がやや優勢だったという——ローマでは勝率が7:3で、勝ち星じたいはトラ1勝でライオンが9勝だった、らしい。だが、偶然に野生のライオンとトラが戦った事例ではライオンの勝ち星が多いようで、また動物学者監修のシミュレーションだとライオンの勝率が高い……。というように、この「ライオンvsトラ問題」については、数学界のフェルマーの最終定理のごとく「カツコイイ動物好き界」に鎮座する議論のタネであり、後者と違って解決しそうもなくて……。このTIPのスペースは、このことについて深く書くには狭すぎるのです。だってヒトの場合ですら、競技人口の多い格闘技では試合が頻繁に行われていて、スポーツ科学や運動生理学についてはよくよく研究されているのに、「地上最強の格闘技」は未だに決まりませぬものね……。 (続く) のフレンズの腕力での、渾身の諸手突きでも防ぐセルリアンの殻……!

アレを突破するのは不可能なのかっ!?

最強のネコ科「ライオン」はネコ科最強? (その2) ……ともかく読者の方の中には、トラのほうが最強だぜえ〜!とお考えの人も多いだろう……。例えば、ハナコとほぼ同時にフレンズ化した「ハダカデバネズミのフレンズ」(元ブラック企業勤務の男性)などは、熱烈な「トラ最強派」信者であり、「俺……ヘンなネズミなんかじゃなくて、本当は

トラになりたかったのにいい！」が口癖のフレンズである。なお彼、いや彼女は（ハナコの記憶喪失ほどではないが）記憶障害が少しあるらしく、「ぎ、さばんなちほーなのに、かばんちゃんやサーバルちゃんやボスはどこ……??」とか「このジャパリパーク、アニメと設定違くない……??」などと意味不明な言動をよくしており、パートナーの「尻尾も耳もない謎のフレンズ」に不思議がられている。このハダカデバネズミのフレンズだが、現在はこういうわけか成り行きでL<sup>ラッキレリスト</sup> Bに頼まれて、ロケットランチャー積載軍用トラック「カチューシャ」を運転して、満月下のさばんなちほーを爆走するハメに陥っている。数奇な運命ですね（他人事<sup>ヒト</sup>）だが、このセルリアンには傷を与える術<sup>すべ</sup>は皆無だ！

くそつ、これでは倒してしまふどころか、焚き火の道の準備までのオトリとして時間を稼ぐことすらままならないかもしれない……！

さらに闘いは続く！

だが、ネコ科フレンズの動きが明らかに鈍くなってきた！

「はあつ……はあつ……」

「にや〜……ちよ、ちよつとだけ〜疲れてきたにや〜……」

「まずい……！ 持久力<sup>スタミナ</sup>が……！」

『コレジャ アマリ持<sup>モ</sup>タナイ カモシレナイ!』

ネコ科フレンズは俊敏にして力強いが……持久力に乏しい!

イヌやハイエナ【イヌやハイエナのフレンズ(その1)】イヌやハイエナのフレンズは、

動物の特性が反映されて走行時の持久力が高いのだが、その代わりに弱点だつてある。

第1章3話のTIPでも言及されているが、イヌやハイエナはサンドスターのツメを瞬

時に出し入れできないという欠点があるし……さらにパンチングや掴<sup>グ</sup>みの精度・パ

ワーが(ネコフレンズと比べると)格段に弱いのだ。これはイヌ科やハイエナ科の動物

には「鎖骨」が無いことが原因。イヌやハイエナの他にも、偶蹄類やウマ類・ゾウ類の

動物などは鎖骨が完全に退化している。逆に、鎖骨を持つ動物とはネコ科や齧歯類・ク

マ類・サル類などで、サルの仲間であるヒトもそうだ。鎖骨のアリナシは、森林で進化

して前脚を器用に動かせる動物か、草原で進化して前脚が走行用に特化した動物かの違

いだ。鎖骨があると木登<sup>キノヅオリ</sup>りができるので、なかでも樹上性動物だと鎖骨がとくに発達し

ている。ネコ科動物の場合は(チーターをのぞいて)みな鎖骨があり、家畜であるイエ

ネコでも小さめだがちゃんとした鎖骨とその周囲に筋肉がある。大型ネコ科では、なぜ

かトラよりライオンの鎖骨のほうが発達している。トラはネコ科で最も大型で体重も

重くて、めつたに木に登らないが……対してアフリカライオンの場合、ときどき日中木

登りして涼しく安全な樹上で休む習性が知られており、そういう生態の違いが、鎖骨の

大きさに現れているのかもしれない。余談だが、トラが木登りが苦手なイメージは「木の周りをぐるぐる回って溶けてバターになるお話」や、シャーロック・ホームズの聖典げんきくの「空き家の冒険」の、インドのトラ狩りでは、木の下にオトリを置いて狩人は木の上で待ち——というセリフなどで有名だが……中国や沖縄の民話では、トラがネコに弟子入りした時、慢心して木登りのワザだけ教えてもらえなかつたという話が伝わっている。のように、集団で長時間追い回して罨へ追い込むスタイルの狩りには、もともと向いていないのだ……！

「せめてイヌやハイエナの子フレンズ「イヌやハイエナのフレンズ（その2）」鎖骨と付属する筋肉のはたらきによって、上腕骨のハマった「肩甲骨」がしっかりと「胸骨」に固定され、前肢を横に広げることが出来る。鎖骨があるおかげで、腕を持ち上げたり回したり、ものを押ししたり引いたりする動作や、前足（手）の器用な操作が可能なのだ（※逆に鎖骨が無い動物は、前脚の前後動作がしやすくなり、四足で走る時の負担が減るといふメリットを持っている）。ヒトもフレンズも鎖骨を骨折すると、腕がほぼ完全に使用不能になつてしまう——細長い鎖骨は最も折れやすい骨のひとつで、人間の骨折の10%は鎖骨骨折であるという統計もある。……そういうことをふまえて、最も身近な鎖骨の無い動物であるイエイヌが、おもちゃで遊ぶときよく見てみましょう。あなたの隣人であるワンちゃんは、前脚で上から抑えることはできても、しっかりと掴むことは全くできない

いのだ。またイヌパンチという言葉がないように、ネコと違ってきちんとパンチできないことも分かる。これは、イヌの前肢は背面の肩甲骨の筋肉のみで体にくっついていて、横に広げられない構造になっているため。そういうわけで抱っこするときには、前脚が横に広がって痛くしないよう気を付けて下さいね。がいれば……」

「イヌやハイエナの子【イヌやハイエナのフレンズ(その3)】要点をまとめると、格闘家寄りのカラダのネコやライオンに対して、イヌやハイエナは陸上選手寄りだとと言える。けものの能力は一長一短。「前脚の器用さ」と「走る時の効率」は両立できない。トクイなことあればニガテなこともあるのです。十人十色で適材適所な能力の違い——つまり「個性」とは、ヒトを含めたものたちの……そして全生物の、進化の歴史を反映しているのだ。……ところで、あの「アードウルフ」(今は「焚き火」の準備のため、さばんなちほーを奔走中)も、れつきとしたハイエナ科のけものだが……いわゆるハイエナっぽくないため、ハナコ含めたフレンズたちも(読者の人たちも)いまいちハイエナの一種とは認識していなさそうだ……。かあ……さばんなちほーには、たしかブチハイエナの子がいたはずですぞう……」

「あの子は、たしか博士がぎいんけいがかどうこうって、大事な用事があるとかで『しんりんちほー』まで出かけているのよね……。ハイエナにはアリバイがある【アリバイがある】いきなり何言ってるの? このクジラ偶蹄類……? と読者はお思いでしょうが、おそ

らく「んもおく、肝心なときに現場にいないんだからあく！」という意味だろう。ブチハイエナの子もいい迷惑ですね。アリバイ（英：alibi）とはもともとラテン語で「他の所に」を意味し、現場「不在証明」つまり「いなかったことの証明」のこと。しかし「いないこと」の証明は基本的に非常に難しい（※第1章1話TIP【悪魔の証明】参照）ので……アインシュタインの「光速不変の原理」により、人は無限大の速度では動けず「同一人物は別々の場所に同時に存在できない」ことは、古典物理学的にも法的にも明白なため、アリバイとは「別の場所にいたことの証明」である場合がほとんど。ミステリー作家、有栖川有栖の長編推理小説『マジックミラー』第7章では「アリバイ講義」と銘打って、「アリバイトリックの分類」を作品名のネタバレ無しで解説していて、面白いので興味ある方は読んでみて下さい。余談ですが、かつて大阪の阪神百貨店の梅田本店地下には「アリバイ横丁」とか「アリバイ通り」と呼ばれる商店街がありました。正式名称は「ふるさと名産（旧名：全国銘菓名物街）」。各都道府県の名を冠した店舗が並び、日本全国のお土産を買うことができ、ウソ旅行やカラ出張などの「アリバイ作り」に利用されたそう。しかし物流の発達や携帯電話の普及などにより、現代ではもはやお土産程度ではアリバイにならなくなってしまったせい、2014年にその60余年の長い歴史に幕を下ろすこととなった。っ！」

『ライナイ フレンズノ増援ヲ 期待シテモ 無駄ッテモノダヨ』

「まったくヒカリさんの言う通りだ! どうにかして、私たちだけでカラカルたちを護護しなければ……! このまま持久戦になってしまうと、ネコ科の子たちのほうが危ないっ!」

「ぱおく……どうしよう! 『ふあいあく』の準備には、まだかかるのでしようかあく……!?!」

「こ、こういう時、ホームズさんや、ポワロさんならどうするだろう……!?! いや、ハナコ!! あなたつ、ヤギ特有の『灰色の脳細胞』で、いい考えはないのっ!?!」

「ヤギじゃないが! 今脳ミソはフル回転で考えているよっ!」

……何か、何かの方法で……ヤツの注意をそらせれば……。

……石を投げるか……? あの民家の庭で作っておいたロープと、バスの座席のシートを組み合わせて、<sup>スリング</sup>投石器でも作るか……?

いや! 強い風が吹いていてこっちは風下で、さらに坂の下だから投石【投石】投石などの原始的な攻撃は、状況によっては銃器よりも強力になると言われている。銃弾に比べて石は大きく丸いため、空気抵抗の影響を受けやすく減速しやすいが……逆に、強風時の風上からの投石や、高所からの落石ならば、<sup>フォロ</sup>追い風や重力により加速して、銃弾を遥かに超える最終威力になる! たとえば台風時の飛来物や、高所からの落下物は超キ

ケン!というの、言うまでもなくご存じであろう。しかし今ハナコたちのいる風下の場合……においてセルリアンに察知されにくいし、坂の下だから輪郭シルエットが目立ちにくく、隠蔽ステルスしやすいメリットもあるのだが……向かい風と重力のせいで投石攻撃には全く向いていない場所だ。もし細長い「投げ槍」でもあれば……それなら空気抵抗が少なく、向かい風なら「揚力」が発生して逆によく飛ぶ(と、陸上競技者の間でささやかれている)のだが……今は、そんな長く真つすぐな槍など作ってるヒマはなさそうだ……。では不利! じゃあ、どうすれば……??

……!! ……弓矢〔弓矢(その1)〕オーストラリアなどの一部の地域をのぞき、世界中の人類が有史以前から使用していた遠距離攻撃の技術。一口に弓矢といつてもいろいろ種類があるが……長く弾性のある素材に、ひも状の弦つる(洋弓アーチェリーでは弦げんと読む)を張り、その張力で矢を発射する道具だ。大きさで分類すると長弓と短弓、材料で分類すると丸木弓(単一の材料を使う弓)と複合弓(複数の材料を組み合わせた弓)に分けられる。弓矢は、約28万年前に発明された投げ槍や、6〜10万年前に発明された投槍器アトラトルなどの投擲武器から発達した技術のようだ。人類最古の弓矢は、南アフリカのジブドゥ洞窟から発見された約6万4千年前のもの……ユーラシア最古の弓矢は、スリランカ熱帯雨林のファ・ヒエン・レナ洞窟の約4万8千年前のもの……日本最古の弓矢は、縄文時代初期の約1万5千年前のものだそう。弓や矢の軸そのものは木製で腐って無く

なりやすいため、発掘で発見される多くは、矢の先端部である「矢じり」(鏃)だ。矢じりの材料としては、古くから木や動物の骨・角などが、また黒曜石や安山岩(どちらも火成岩)や粘板岩(堆積岩の一種)でできた「石鏃」が使われてきた。か……!! だが、肝心の弓と矢の材料はどうするっ……?

周囲に飛び散った壊れたバスの部品に、適当な金属やプラスチック片でもあればいいが……。いや、ダメだ! あたりに使えそうなものはない……!

どこか、どこかその辺に木材でもあれば……。

満月の光の中であたりを見回すと……バスの残骸の付近に、乾いた枯れ木がある!

「まっすぐな長い枝……これなら弓矢〔弓矢(その2)〕氷河期の大型哺乳類、マンモスやバイソンなど相手には、パワーのある投げ槍のほうが有効であったが……氷河期が終わり、森林が増えて小型動物が繁栄するとともに、矢をたくさん持ち運べて素早く射てる弓矢技術が発達し、人類に広まっていた。そして弓矢の威力はどの程度かと言うと……中世イギリスの長弓(張力45kg以上もある強い弓)の場合だが、そのパワーはなんと拳銃弾ほども有ったという! 頭蓋骨を射抜かれた遺体も見つかっているのだ! しかも訓練した兵士であれば5、6秒に1発という速さで速射できたという! そして、矢は銃弾ほどではないが石よりは軽いし、(投擲と比べると)直線的に射出される

ため、風向きや重力の影響を受けにくい。今の本編の状況に適した武器だと言える。作りに向いてそうだ！」

私はその木の枝をフレンズ特有の腕力でむしり取り、長ドスとナイフで弓なりに加工していく。

『コレハ ビヤクシン（ビヤクシン）ヒノキ科の針葉樹。英語だとジュニパーと言う。葉っぱの形はヒノキにそっくりだが、ブルーベリーののような果実をつけるのが特徴。作中に登場した倒木は、アフリカや中東の乾燥地帯に自生するプロセラビヤクシン（*Juniperus procera*）という種で、唯一の赤道以南に生えるビヤクシン属だ。本来はもつと山あいの土地に自生する樹木のはずだが……かつて観賞用や資源用に植えられていたものだろうか？ 弓の材料としては、使い捨ての短射程のものでいいなら、適当な形と大きさの木なら別になんでもよい。本格的な弓をつくる場合、ビヤクシン以外の木材としては、イチイ（中世イギリスのロングボウはイチイ製）やタケ（弓道の弓は竹弓）、カシ、カバ、カヤ、クリ、ケヤキ、ツガ、ペカンヒツコリー（クルミのなかま）、ヤナギなどが向いている。本来ならばこれらの木材のよく乾燥させたものを使い、何時間もかけて弓を製作する。ノ一種ダネ。弓ノ材料ニ向イタ木ノ ヒトツダ  
ヨ』

加工した木材に、さきほど作った植物繊維のロープをほぐして細い弦<sup>つる</sup>を張る。

よし、弓が完成! だが、この短い弓では威力と精密性は不十分だ……。

「そこで! さらにこの壊れた銃を組み合わせれば……クロスボウ〔クロスボウ〕引き金トリガーと銃床ストックを備えた機械式の弓。あらかじめ矢ボルトをセットして引き金を引いて撃つ。ボウガ

ン(和製英語)とも言う。本編では、壊れたサブマシンガン(MAT-49)をダクトテープや結束バンドで取り付け、元の銃の木製ストックとマガジン折り畳み機構を流用した、「山羊脚ゴートフット」と呼ばれる比較的単純な構造の「レバー式クロスボウ」へと加工している。ふつうの弓より連射力は下がるが、てこの原理により張力の高い弦をセットでき、威力と精密狙撃性に優れる。他の仕組みのクロスボウとしては、足と両腕でふんばって脚力と背筋パワーで弦をセットするものや、クランクを手で回す巻き上げ式のもの、アマツポとかクワリと呼ばれるアイヌの仕掛け弓、完全自動連射式の複雑なものなどが存在する。古代く中世にかけてヨーロッパやイスラム世界、中国で活躍したクロスボウだが、銃器が発達した第1次・第2次世界大戦でも爆発物の投擲用——つまり、のちのグレネードランチャーと同様に用いられた。またその静音性から、滅音器サプレッサーが発達する以前は、特殊部隊やスパイにも隠密戦闘用として広く使用されたという。※なお、クロスボウは弩いしゆみとも呼ばれるが、弩おゆみの誤読が広まったものであり、本来の石弓いしゆみはお城の高所から落石で攻撃するトラップ兵器だ。だ!」

『矢〔矢〕ボルト 弓の発射物。ふつうの弓ならアローだが、クロスボウの場合はボルトと呼ぶ。

サバイバルで即席で作る場合、弓の長さ120cm程度に対して、矢は長さ60cm・直径6mmほどが良いとされているが、クロスボウの場合はもつと短く太く重いものの方がいいだろう。矢の一方の端に弦をかけるための6mmほどの矢筈やはず(切り込み)を入れ、もう一方には尖った矢じりをつける。作中でこれから登場する「矢」はとても簡素なものだが……本来なら、まつすぐな木の棒を「筈」(矢の軸)として、先端に石や金属・骨・ガラスなどを尖らせた「矢じり」を挟み込んで接着剤(樹脂と木炭チャコールを混ぜたものや、にかわ膠など)とヒモで固定し……反対側の端には、鳥の羽根や紙・布・葉つばなどで作った「矢羽」をくつつける工程を行う。が、戦闘中の今はそんな余裕がないので……。ハドウシヨウカ? モウ 適当ナ形ノ枯レ木ハ 無イケド……』

「……あの子たちを使うことにしましょう……!」

周囲に散乱しているセルリアンにやられた動物の死骸を指さして言う……。

私はさつそくそれらをバックパックに入れてかき集めてくる。このレイヨウやシマウマのまつすぐな骨の先端を尖らせて、「矢」として使うのだ!

「わっ……! ……これは……!」

「この子たちは……いや、もうサバンナを走ることでもできないこれ【これ】話し手に近く、聞き手には遠いものを指し示す言葉。話し手に遠く、聞き手には近いモノだと「それ」。

どちらからも遠いモノだと「あれ」。そのモノの位置がよく分からない時は「どれ」を使う。「指示語(こそあど言葉)」というヤツですね。英語の *this* や *these* と違い、日本語では基本的に「モノ」を指して使い、言わなくても分かるでしょうが、人を「これ」と呼ぶとたいへん失礼にあたる(※親や上司などが、目下のものを使うことはあるかもしれないが……)。人いがいでも、愛犬家や愛猫家などは、イヌやネコが「これ」と呼ばれるとおそらく怒るように……。「心を有するであろうもの」を指して「これ呼ばわり」は、話し手がその対象に自立性や人格、あるいは「精神的なつながり」などを認めていない、という証拠だろう。らは本当は手厚く葬ってあげるべきだけど……。でも……」

「……『ほうむってあげる』てのは、何のことか分からんけど……でもハナコ、あなた、すごく悲しんでいるのよね……。今度こそ、私の推理、当たってるでしょ……」

「ああ……。うまく言えないんだけど……もうこの動物だったものには……嬉しいことも、悲しいことも、苦しいことも無いけれど、でもこれは元は動物だったものだから、本当はこんなことに使うのは……」

「……いや、そうして武器として使ってあげるほうが、苦しみの無い穴にさよならした動物たちも、きつと喜んでくれるぞう……」

「……もうそれは動物じゃないわ。あなたの言葉通り、命だったもの(命だったもの(そ

の「魂の器」で、つまり亡骸は「亡き殻」であり、死後には靈魂フシユケイが肉体ソウマから解放されるとい  
う「靈肉二元論」だ。古代のプラトンのギリシャ哲学やユダヤ思想に端を發し、中世で  
はキリスト教で支持され、デカルトの近代哲学により強化された欧米的な死生觀であ  
る。対して、遺体を「生命の延長線」であると拡大解釈する「二元論」的な価値觀は、と  
ても日本人的だと言えよう。この日本人の死生觀は、欧米人の目にはとても奇異に映  
らしく……たとえば、英国の歴史学教授でありイギリス国教会の聖職者であるジョン・  
マクナーズは、その著書『死と啓蒙』において、日本人が火葬した遺骨や遺灰を骨壺に  
入れて保存することを、遺体を切り刻んで鉢に入れる風習（スペイン・バレアレス諸島）  
や、遺体を酒の中に入れて保存する風習（オリノコ川流域）などと同様の「未開人の文  
化の一種」と評している。なお、現代イギリスでは日本と同じく（国土の狭さが理由で）  
火葬が主流だそうで、この考え方は変わってきているかも……。だがしかし「遺体に生  
者と繋がりのあるなにかが宿っている」とするのは、西洋人にとつてはとても奇妙な感  
覚であり、仏教や儒教の考えが変異して取り入れられ、そして神道の「ケガレ」の価値  
觀と混合した、日本に土着の複雑でユニークな文化だと言えるものです。だがしかし  
……!?!（つづく）なのよ……。その命は眠っているから、そんなに気にして、悲しむこ  
とはないわ……」

「……堪忍……堪忍してくれよ……」

「でも、命だったもの〔命だったもの(その2)〕……しかし、欧米にも「骨には魔力が宿る」といったおとぎ話メルヒェンや、キリスト教の「聖遺物崇拜」など、ギリシャ哲学以前のシャー・マニズムに由来する「アニミズム」文化のような、「一元論」的価値観も残っているのだ。さらに日本にも、「お盆」こと盂蘭盆会うらぼんえといった、インド仏教とはかけ離れた「先祖供養」の慣習、つまりまぎれもなく「霊肉二元論」的な考え方も深く根付いている……。一元論と二元論、どちらが文明的で、そしてどちらが正しいのだろうか? たんなる価値観と意識の違いなのだろうか? そして、ヒト以外の動物の場合でも、仲間や自分の子供に遺骸に対して「なにかの感情や意識」を持つている(であろう)行動を示すことも、逆に遺骸を完全に「モノ」として取り扱うことも、どちらの現象もよく知られているが……。さらに、動物がヒト化したフレンズの場合は……彼女たちは「死んだもの」をどう思うのだろうか……??だけど、きつとただのものじゃないわ! だから動物たちも、ハナコに力を貸してくれるわよ!」

自信家のキリンが、いつも以上の自信をもってそう言ってくれる。

「……よし! ホトケさんはムダにはしない! この動物たちのかたきは私が絶対取ってやる!」

# 第16話 地獄の道は獅子心で舗装されているか？



「よっしゃっ！ 完成したっ！」（小声）

できたばかりのクロスボウ……レバーを力いっぱい引き、その強力な弦をセットする  
！

銃身の上に、骨鏃の矢〔骨鏃の矢〕<sup>ボルト</sup>セルリアンの砲撃で殺された動物たちの骨を加工して作ったクロスボウの発射物。シマウマやレイヨウの大腿骨や、中手・中足骨（ヒトの体の「指や足である骨」だが、有蹄動物の体の場合は、あえて不正確な言い方をすれば「すねの骨」にあたる。こういった祖先では同じものであった部位を「相同器官」と言う）などが材料。比較的まっすぐな骨を選んでナイフとハンマーで先端を鋭く尖らせて、超大きな縫い針のような形状の発射物にしたのだ。急場しのぎに作った簡素なものだが、クロスボウの強い張力で撃ち出せば殺傷力は十二分にあるだろう……。※ちなみにこういう「骨角器」は本来、一晚中水に浸けて軟化させてから加工していたそうだ。をつがえる！

『新シイ武器ノ「ぶろふあいる」ヲ 作成シマス！ 自動標的距離捕捉——<sup>ターゲット</sup>有<sup>あくていべいてつど</sup>効！

風向キ 及ビ 空気抵抗ノ影響ヲ 計算中……照準調整完了! リアルタイム・ベクトル補正——作動中! 準備OKダヨ!」

「よしっ! 逆襲だ! これでも喰らえッ!」

私はヒカリさんのレーザーサイトを使い、ヤツの眼球をすばやく狙って矢を放つ!

矢は低い放物線を描き……数秒後にセルリアンの眼に直撃!

満月の光をバツクに、骨の矢のシルエツトが、眼球をえぐるように突き刺さっている!

寄生したセルリアンの口から……きゆるきゆるという、ビデオの早送りのような悲鳴が……甲高いうなり声が聞こえてくる!

……怯きいているようだ!

「やったぜ! さすがレイヨウの**ホ**中**ネ**手骨! 空を跳ぶのも軽やかなもんだっ!」

『君ハ 弓デモ鉄砲デモ、ナンデモ使エルンダネ!』

「ばおばおくッ! す、すつごういっ!」(小声)

「さっきの『じゆう』の『噴火』もそうだけど……どうしてそんなにカンタンに当たるのかしら……?」

「楽勝っ! 標的がデカくて動きが鈍重ノいからねッ!」

『シカモ  くろすぼうハ音ガ出ナイカラ……コチラノ位置モ、セルリアンニハ  索敵レ  
 テイナイ  ミタイダヨ。コレナラ、コノ安全ナ場所カラ  気付カレズニ  攻撃デキル  
 ネ』

「逆だっ！」

『エッ!?』

「あのフレンズらを危険に晒したまま……このまま隠れてじつとしてられるかっ！」

『アワワワ……ハ、ハナコ……』

「今度は私がオトリになる番だっ！  セルリアンの動きを封じさえすれば、ネコ科の子  
 ならなんとかなるはずっ！」

『待ッテ！  僕ラハ  ココカラ、今ミタイニ  援護シテ……レイヨウフレンズ達ノ  「焚

キ火」ノ準備ヲ  待ツベキダヨ！』

「いや！  ヤツにとどめを刺さなければ！」

『キミ、何ヲ  スルツモリダイ……!?!』

「さっきのは試し撃ちだ！  こつちの二本目の矢が本命……！」

「この次に撃つ矢には……骨の盛り上がり部分に、ロープが結んである！  矢をブツ刺

した後、このロープでヤツの目玉を引きずり回してやるわけだ!

「うもー、ムチャなことはやめてよ! ヒカリの言う通り、ここは一旦様子を見るべきよ!」

キリンが慌てて言う。

「キリン、さつきまでの勇氣はどうしたつ?! 弱みを見せた相手は勢いで一気に攻めるのが鬨の定石ッ! いつまでもこうして隠れてているわけにはいかないっ!」

「も〜! ハナコ、あなた落ち着きなさいよ! 熱くなりすぎよー!」

「そもそも私には……フレンズを巻き起こんだ責任があるッ!」

「ムチャやるのは、勇氣じゃなくてばんゆう〔蛮勇〕後先考えない無謀な行動。向こう見ずな大胆さのこと。類語として、一時的で短絡的な勇氣を意味する「匹夫の勇」という言葉がある。これは古代中国の思想家、孟子の思想について書かれた書物『孟子』の、

「梁恵王下」の章に由来する故事成語。『小さな勇氣は、一人を相手取るのが精いっぱいです。それではいけない。一国の長たるもの、大きな勇氣を持つてください』と言って、

王を諫めたエピソードから。今フレンズたちが対峙している強大な敵は、力と知能を分担して補う「ふたりのセルリアン」だ。コイツを倒すには、蛮勇や匹夫の勇以上の「真の勇氣」が必要になることだろう。というものよ! それに、作戦はどーするのよ!」

『作戦』よりも、今はできるかぎり……いや、命がけでセルリアンに『隙』を作らなけ

れば！　それが責任だ、キリン！」

だがそれは動機の説明と言うよりも、たんなる理由の後付けかもしれない……。

骨の矢をクロスボウで先ほどと同様に発射する！

セルリアンの眼球に撃ち込まれる矢！

そして今度はその端にはロープが結んである！

さらに！あの撃ち込んだ矢には、切り込みを入れて「返し」部分が作ってあるのだ！

矢の「返し」はしっかりとセルリアンの大きな目に喰い込んで……手元にあるロープの端を引っ張っても外れることはないようだ！

ふたたび矢が刺さり、そして今度は眼球を引っ張られて……怪物は耳障りな叫び声を上げ続けている！　やはり目は弱点のようだ！

しかも、体外へ貫通してしまうトカレフ弾よりも……刺さったまま残留する矢のほうが効いているっ！

セルリアンもネコ科フレンズも、この予期せぬ援護射撃に驚いている様子！

そうだ！　今がチャンスだっ！

「こつちだっ！　てめえの相手はこつちだぞっ！」

私はロープ片手に草原に飛び出し、全力で疾走<sup>はし</sup>り出す!

「わわ! ちよ、ちよっと! あなた!」

力いっぱいセルリアンの目玉を引つ張つてやるっ! 眼窩から引きずり出すぐらいの勢いだ!

『キ、君ハ、ドウシテ……君ニハ、何ノ理由ガアツテ、ソコマデ……』

「私の理由じゃない! 約束だ! 契約だからだ! 私はきつと、そのために生き返ったんだ!」

自分でも何を言っているのか、よく分からないが……とにかく、フレンズたちが目の前で危険に晒されているのを見ると……冷静でいられない!

ゾウほどもありそうなデカブツのセルリアンの……予想どおりの、なんとという怪力だろっ!

目玉に負担が掛かるせいで、むこうも本気で引つ張ることはできないようだが……それでも、ものすごい力なのだ!

だが……あの優しいフレンズたちのことを考えると……体の奥で血がカツカカツカと熱くなり、グングンと力が湧いてくるっ!

息が切れるのも忘れるほどに全力で走っていられるぞっ!

フレンズの体がありがたいものだっ!

「そらよっ！ こつちを向かせてやるっ！」

私は背負い投げの要領で身を反転し、肩ごしにロープを引つ張る！【肩ごしにロープを…】柔道の「一本背負い」と同じような動きで、肩に担いだロープを引つ張っている。腕力だけではなく、背筋と下半身の筋肉もぞんぶんに使えて、全身の力を込めて引つ張ることができる体勢なのだ。余談だが、これはミステリー小説や刑事ドラマでは「地蔵担ぎ」や「地蔵背負い」と呼ばれる効率的な絞殺方法と同じ要領だ——裏家業の人間がネクタイやマフラー、ピアノ線などを用いて、標的を背後から背負つて絞殺する手段である。遺体は縊死（首吊り）の場合と同じ状態になり、自殺に見せかけることができる。ものの本によると、20世紀初頭のフランス・パリの裏路地で強盗が襲撃に使った技だとも記されている。それも人間の骨が折れるぐらいの力でだ！

『アワワワ！ 危険スギルヨ！ 遮蔽物ガ無イタメ、砲撃ヲ回避デキナイ可能性・大！ 奴ニ引ツ張り返サレテ、巨体デ引キ潰サレル可能性・大！』

「危険なのは常に覚悟の上だ！ 人間様の力がどこまで通じるか……試してやろうじゃないかっ！」

『ネコフレンズノ 身体能力ナラ、交戦デキル ケド……ヒトノ 身体能力デハ、真ツ向カラ 立ち向カエバ、「死」有ルノミ ダヨ！』

「生まれたものが土に還るだけだ!」

『アワワワワ……ハナコ、僕二ハ……僕二ハ、君ノココロガ分カラナイ……。ワワワ、僕ハ、君ノタメニ、ドウスレバ……??』

「あーっ! ハナコ! なんでここに……!」

疲れ切ったカラカルたちが、息を切らして叫んでいる!

「コイツの動きを止めてやる! 後はなんとか頼むっ! 君らなら上手くやってくれる! そう信じている!」

「お、おいちよつと! 作戦はどうしたっ!? 何をそんなに焦っている【焦っている】このハナコという少女は、他者の命が危険に晒されることに異常なまでに焦っている。自分の命よりも他者の命をより高い優先順位に置いている。さらに、自分独りが犠牲になって他者が助かるのであれば、自分の命を賭けることは「手段」のひとつであり、状況によっては自分を捨て駒にするのを厭うべきではないという「計算」を無意識に行っている。彼女の言動は……ヒトの性質を反映している「習性」なのだろうか? それとも、彼女の過去に由来する「個性」なのだろうか……? のよ!? 全然わからんっ、説明しろッ!」

「このままフレンズを傷つけられて……セルリアンに舐められっぱなしじゃあつ……生

きてる価値が無いんだっ！」

『……!! ソ、ソウカ……君ノ心ハ……君ニ トツテノ「フレンズ」ハ、キット……僕ニ トツテノ「ヒト」ナンダネ……!!』

「あ！ そういえば……ヒカリさん。連れてきちゃったけど、あなたは私のワガママにつき合う必要はなかったな……」

『イヤ！ コウナツタラ、僕モ 覚悟ヲ決メヨウ！』

そう言うのと、ヒカリさんもフラッシュライトをぴかぴか点滅させて電子音を出し始める！

オトリに協力してくれているのだ！

「いいんですか？」

『イインダヨ』

「本当に？」

『高性能ナ 僕ニハ、「嘘つき」機能モ 有ルケド……今回ハ、本当ダヨ』

「……。ありがとうっ！ じゃ、ここから先は地獄の道一直線っ！ 一緒に砲弾で吹っ

飛ばされたらゴメンねっ！」

『大丈夫！ 人間ガ イナケレバ、僕モ 存在スル価値ガ無イヨ！』

「よっしやっ！」

……本当にヤバくなったら、ヒカリさん、あなたは遠くに投げれば生き残りそうだからね……。

そして、セルリアンは……すぐに混乱から立ち直り、目の激痛の原因を発見する!

その砲身を私たちに向けてくるツ!!

セルリアンとの距離が近い……! いや、近すぎるのだ!

これでは、まともに構えて狙えるはずがないが……野郎ツ、かまわず撃つてくるつもりかツ!

「……あの動物たちを殺した砲撃が……来るぞっ……!!」

『発射ノ瞬間、ナントカ回避スルシカ ナイヨ。ウマク避ケレタラ、爆発ニ 背中ヲ向ケテ 脚ヲ組ンデ低ク伏セ、両手ヲ目ト耳ヲ塞イテ、口ヲ開ケル【爆発に背中を向けて……】

これは破片手榴弾フラッググレネード(防御用手榴弾)や空爆に対する防御姿勢だ。例えば、米軍の破片手

榴弾「M67グレネード」の場合、有効殺傷範囲はおよそ半径15mだが、破片や爆風はおもに30。以上の角度で上方に拡散する。そのため、伏せることで爆発に対し投射面積を小さくして、かつ3m以上の距離があれば、飛んでくる破片は固いヘルメットやコンバットブーツで防御できて、ほとんど被害が無いとされている。破片は高速で飛散するが、硬いものや分厚いものでうまく防御できれば、貫通力は低いのだ。というわけ

で、「脚を組む」というのは、背後から飛んでくる破片から、胴体をブーツのソールで守るため。目と耳を塞ぐのは、爆風の衝撃波から鼓膜を守り、眼球が飛び出るのを防ぐため（耳が4つあるフレنزの場合はどうすればいいのだろうか……?）。そして口を開けるのは、体内への爆発の衝撃を開けた口から逃がすためだ。しかし、今回はヘルメットもブーツもなく、さらに得体の知れないセルリアンの砲撃……。頑丈な体をしている超生命体「フレنز」とはいえ、裸同然の格好でどこまで有効に砲撃を防げるのだろうか……。ンダヨ』

「おっけーっ！ そんなの、余裕！ よゆう！」

ネコ科フレنزなら見て避けられる砲弾。だが……しかしヒトのフレنزである私に、それができるだろうか!?

だが、やるしかないっ！

「私はココだあつ！ よくく狙って、吹っ飛ばしてみせるッ！」

『サアサア、僕ラハ コツチダヨ〜!』

……あの距離と、あの不安定な体勢では、ヤツは発射直後に隙を見せるはず！

私は吹っ飛ばされるかもしれないが……ネコ科フレنزなら……カラカルやバーバリさんなら、直後の隙を狙って攻撃してくれるに違いないっ！

「さあ、殺れッ！ 地上最強の生物の人間様を殺してみやがれッツ!!」

『個体名：ラツキービースト！ 作戦目的：「生命ノ尊厳」ノ保護！』

と、覚悟を決めたその時！

「おおおつとおくつ！ 危ないわよおくつ！」

突如背後に気配！

だ、誰ツ!?

後ろで一緒にロープを掴んでいるのは……フレンズ！

……その声はキリンとマルミミゾウだ！

「うわっ！ ふ、ふたりとも！」

「あなた、この私もとても推理できないむちゃくちゃなことするわね〜！ んも〜びつくりするわよ〜！」

「ばおおく〜！ そういうちからしごとなら、わたしの出番ですぞう〜!!」

セルリアンの目玉が引きちぎれんばかりの！ものすごい力で、ふたりも腕とマフラーと鼻でロープを引っ張るっ！

強い力で目玉を引っ張られて、発射体勢を大きく崩しながらも……なおもこちらに砲

身を向け、耳をつんぎく轟音とともに発射される砲弾！

だが照準がズレたため、弾は大きく外れた方向に撃たれ……私たちから離れたアカシアの木と一体化した「大きなアリ塚」に直撃する。

『サ、散弾！ シカモコレハ、散弾同士ガ「えねるぎーノワイヤー」デ 繋ガツテイル！』  
 「ワイヤー弾〔ワイヤー弾〕ショットガンの弾薬には「ボロー弾（Bolo shell）」というものが実在する。これは、ワイヤーで連結された一粒<sup>スラグ</sup>弾を発射する弾薬なのだ——このワイヤー連結弾は、語源である原始武器「ボロー」のような形状をしている。この仕組みにより、遠距離でも適度な拡散ぐあいを維持し、さらにワイヤーをからませて敵を殺傷させる弾、と宣伝されている。しかしワイヤーの強度が不十分で切れてしまうことが多く、その潜在的な危険性からアメリカの多くの州で禁止されているものの、現状では効果は普通のスラグ弾と大差無いとか……。だが、同じ仕組みのこのセルリアンの「ワイヤー斬撃弾」は、非装甲目標に対して強力な殺傷能力を誇る！ ミキサーにかけられた野菜のように、動物の体や人体などいとも簡単にコマ切れにできる！ 短射程ながら広範囲を切り裂ける接近戦用の砲弾！ この非常に強力なワイヤー弾を、ヤツは一度に何ダースも放てるのだっ！か！」

横を見ると、コンクリート並みの固さと言われているアリ塚が、砂糖菓子に包丁を入れるかのようにスライスされている……！ マグロ包丁やチェーンソーを遥かに超え

る切断力!

あれが、動物たちの遺骸を切り裂くようにした砲弾【砲弾】戦車（ダンゴムシ）セルリアンがこの戦いでバカスカ撃ってくる砲弾の「原料」は……ヤツが砲撃で狩って喰べた「動物の死骸」である。こいつははもともと草食性なので、動物に含まれる微量のサンドスターを吸収するのはニガテなのだが、その「反芻」能力を生かして、「喰い残し」を再構成して砲弾として利用しているのだ。ヤツの消化器は喰いカスでパンパンに膨らんでおり……しかも行動を掌握する「寄生セルリアン」は知能が高く、無駄撃ちは避ける傾向がある。つまり「弾切れ」を期待することはできないだろう……。か……。

廃車広場に投げこまれた死体は、鋭利な刃物のようなもので切り刻まれていた……。やはりあの「ワイヤー弾」を草食動物の群れに打ち込んで、瞬時に何体もの死骸を作ったのだ……。

あの知能が高い寄生セルリアンは、以前の予想通りに、このように用途に応じて砲弾の種類を使い分けることができるのだっ!

……しかしその凶悪な破壊力も、当たらなければ意味が無い!

さて!

セルリアンのほうは、と言うと……!

砲撃の直後、その反動を逃がすため、セルリアンはカメラの首【カメラの首】戦車セルリアンはダンゴムシのようなカラダをしていて、ダンゴムシで言う頭部にあたる部分には、掃除機の吸い込み口のような「口吻」がある。その口吻をまっすぐに伸ばして「砲身」として、消化器の内容物を吐き戻して砲撃してくるわけだが……その砲身が体内に引つ込む様子を、ここでは「カメラの首」に例えている。だがしかし！カメラは必ずしもまっすぐに首を引つ込めるワケではない！首をまっすぐに（正確にはS字に）甲羅の中に引つ込めるのは、北半球に生息する潜頸類せんけいりゅうというカメラ（の一部の種）だけだ。対して南半球の曲頸類きょくけいりゅうという種類のカメラは、首を横に曲げて甲羅に収納する。日本人含め北半球の住人には「カメラは首を引つ込める」ことは常識だが、オーストラリアやニューギニア、南アフリカなど南半球に住む人には「カメラは首を横に曲げる」のが常識なのだ。のように、しばらく「砲身」を体内に引つ込めている！

こいつの体は駐退機【駐退機】戦車砲や火砲に備えられている反動リコイルを打ち消す機構。砲弾の発射という「作用」には、必ず「反作用（＝反動）」を伴う——それを軽減させるため、レールで砲身のみが反動で後ろに引つ込むメカニズムだ。引つ込んだ砲身をバネで戻す「復座機」も一緒に組み込まれ、あわせて「駐退復座機」になっている。これによつて、戦車や大砲が反動で後退するのを防ぎ、再度照準を合わせる手間ヒマが不要となり、砲弾の速射が可能となる。また駐退機とは呼ばないものの、一部の銃器にも同様

の反動減衰機構がある。この草食性の戦車セルリアンの駐退機は……サバンナでの乾燥や外敵の攻撃を防ぐための、殻にこもる能力から派生したものだろうか? この駐退機を上手く利用すれば、セルリアンはほとんど体勢を変えずに速射ができる。※なお力メの首の話だが……これはすばやい獲物を食べるために首を動かす筋肉が発達したもので、甲羅に首を収納する機能は副次的に発達したものにすぎない、とする仮説もある。のような仕組みを持っているのか!?

だがしかし!

今の砲撃は、目標が近すぎたのだ! そのうえ砲身の角度を下げたため……砲撃の反動が上に来てしまい、「引込め機構」でも十分に反動を逃がせなかったらしい! 後部を支点としてセルリアンの大きな体が少し宙に浮いてしまっている!

「今だ! バーバリさん!」

「応ツ!!<sup>おう</sup> ぐうるるあああアツツ……!!」

バールライオン

雄獅子の、大地裂けんばかりの咆哮【咆哮】叫び声、唸り声のこと。獅子吼ししうという言葉

葉や、『獅子吼ほゆれば野干脳裂く』とか、『獅子哮咆すれば百獣脳烈す』などという言葉が仏教にあるように、ライオンの咆哮のものすごさは古くから人類に知られている。ライオンでもイエネコでも、ネコ科動物は体型や習性がどれもよく似ているし、遺伝子的に

も似通っていて、例えばトラとイエネコの遺伝子は90%が同じらしいが、しかしネコ科動物たちの大きな相違点のひとつとして「咆哮（ガオーツ!）」と「喉鳴らし（ゴロゴロ……）」の発声能力の有無が挙げられる。19世紀英国の動物学者リチャード・オーウェンによると、ネコ科動物には舌骨（のどの小さな骨）の違いがあり、多くの大型ネコ科動物のばあい、舌骨の靱帯が柔らかく喉をよく伸ばせることができ、また長い声道や四角く平らな声帯の構造によりライオン・トラ・ヒョウ・ジャガーなど（ユキヒョウ以外）の大型ネコ科は、力まずとも低く轟く咆哮を出すことができる。逆に（チーター以外は）あのゴロゴロという喉鳴らしができないと言われている。※ユキヒョウは単独行動だし雪山には天敵もいないので、威嚇やコミュニケーションのための咆哮をしくなつたらしい。対して、中・小型のネコ科は舌骨が固く、声道・声帯の違いにより「吠えられないが、ゴロゴロ鳴らせる」喉の構造になっている。だが、この「咆哮と喉鳴らし」の生態については実はあまり研究が進んでおらず、不明な点も多いんだとか。……!

野性の狩人たるネコ科フレンズは、怪物のその一瞬の隙を見逃さない！

両手のサンドスターのツメを、細長い一枚のブレードに収束し……斜めに宙返ししながら、その太刀〔太刀〕ネコなのにタチとは、これいかに……。パーバリだけに、スゴそう……。でも、このパーバリライオンのフレンズは元がオスなので、つまりライオンなのにトラとは、ずいぶんまぎらわしい……。人間のTとはかなり異なる存在だが……。

いや、そ、そんな話とはもかく……(※LGBTの方への差別目的は一切ありません)……。ライオンがサンドスターで具現化したこの「両手刃物」は、古代ヨーロッパのダキア人の使った「ファルクス」という刀剣に似た形状。古代の中央ヨーロッパのドナウ川下流以北、現在のルーマニアのあたりの部族が帝政ローマ軍と敵対して、属州化されたのがダキアちほくである。そのダキア人が使った、全長約1.2mの切れ味の鋭い曲刀がファルクスだ。この大剣はもちろん両手持ちのはずだが、恐ろしいことにダキア人は片手でもこの長い刀を振り回すこともできたと言われ、ローマ兵の腕や脚をスツパスツパと切り払うことができたと伝えられている。サイキョーすぎるだろ……。の横斬りの一閃で、重心が上がったセルリアンが晒した前部の多脚を、大鎌で麦穂を狩るように、何十本もまとめて切り裂くつ!

まるで……中世ヨーロッパの黒い頭巾たてがみの、エクセキューション執行人だ!

……そのあまりの切断面の鋭さゆえ、斬られた後でも脚がくつついている!

後ろのめりに浮いた状態から、ほどなくして着地するセルリアン……そして、その衝撃で前脚の切断面をズルリと滑落させ……その巨躯が勢いよく、傷口から滝のように体液を出しながら、地面に崩れ落ちる!

「すつーいっ! やるわねえっ!」

「さすがバーバリなのによっ！」

カラカルとクロアシネコが叫んだ！

「ハナコつ、ここで決めさせてもらおうぞッ！」

「はいっ!! 殺とつちまってくださいッ!! 私たちも援護しますっ！」

返事するかしないかのうちに、ロープ付きの「骨の矢」をもう2発、クロスボウでセルリアンの眼球に撃ち込む！

「はいこれキリン！」「はいこれゾウさん！」と、キリンとゾウにロープを手渡す。

「コウシテ 一ヶ所ニ 固マツテイタラ マタ標マ的トニ サレルヨ！」

「よし！ 各自ばらばらに散らばって、引つ張ろう！」

「りようかいよっ！」

「ばお〜！」

前のめりに体勢を崩したセルリアンを、散開してキリンとゾウのパワーで押さえつけようというわけだ！

「いや、しかし……さつきは助かった……いや、助けられた、だね……。キリンとゾウさんんが……」

「そーよ、感謝しなさい！ ジケンをミゼンに食い止めるのも、名探偵のおしごと【おし

「ごと」人間文化に触れたフレンズがたまに使う言葉で、「すべきこと」あるいは「するの  
が自然なこと」の意味。多くの人間の定義である「生きていくために、しなければいけ  
ないこと」「誰かに言われて、しかたなくすること」とは、真逆の違う意味だ。パークの  
フレンズの使う「フレンズ日本語」は、日本で使われるそれとは異なる場合もあるとい  
う一例。なのよ」

「ハナコさん、あなた、むちやくちやしますぞう」

「ふたりとも……ありがとう……」

「あのね、ああいう、ひとりでむちやなのは『ひつぷのゆう』と言うのよ。セルリアンと  
うまく戦う方法があるなら、わたしたちも一緒に手伝うんだから!」

「そうだよ! 力仕事が必要なら、ゾウ<sup>わたし</sup>たちにも、ちゃんとやってくださいよ!」

「イヤ、キケンな仕事だから……。独りでヤツと刺し違えてもいい、っていう『計算』だっ  
ただけだね……」

『僕<sup>めもり</sup>ノ 思<sup>めもり</sup>イ出<sup>めもり</sup>ニ ヨルト……ハナコ、キミ「計算なんてくそくらえ!」ツテ、ドコカ【ど  
こか】第1章13話デ 言ツテタ ハズダケド?』

「あく、いやその……。そういえば、そんなことも言った、かも……」

『アアイウ、危険性が高い 作戦行動ハ、モウ ゴメンダヨ』

「あなた、もつと心にライオンがいないと【心にライオンがいないと】「心にライオンが

いる」とはフレンズ用語で、「本当の賢さ」や「真の勇氣」を持つことを意味する。ヒトの歴史では、中世イギリスの王様、リチャード1世が「リチャード・ザ・ライオンハート」と呼ばれていたことが有名……または『3人寄れば文殊の知恵』の「文殊菩薩」は、知恵の象徴である獅子ライオンに乗っている。12星座占い（西洋占星術）においては「しし座（獅子宮）」の生まれのものは賢く、勇敢で、リーダーシップと向上心に富み、自信家だがちよつと自己中心的で、意外とナイーブな精神をしている、と言われている（※戦闘時以外はとて穏やかでのんびりしていて、あまり自己主張しない性格のバーバリライオンだから、この氣質はあまり当てはまらない。バーバリの性格は、五感と美的センスに優れ、慎重さと我慢強さを備えた「おうし座」で、どちらかと言えばヘビクイワシが「しし座」っぽい性格だ）。このように、人間文化において、獅子は知恵と勇氣の象徴だが、フレンズたちにとつても同様である。陸上で一番背の高い動物のキリンと、陸上で一番大きく重いゾウ……そのキリンとゾウのフレンズは、とても強いけれど、もどが草食性のせいか戦闘ではあまり効率的に動けず、ただの力任せになつてしまつたり、パニックになつて独断行動に走つてしまうことも多い（ハナコの場合パニックのせい、とこのとはちよつと違うようだが……）。群れブライトを持つものとして、臨機応変に、仲間と協調的に、そして「知恵と勇氣」で戦えるのは……やはり百獣の王であるライオンのフレンズなのである！ フレンズの言う「らいおんはー」とは、そういう精神の強さのこ

と。パワーや技術だけではなく——言うなれば武術だけではなく精神的な側面である武道、つまり「獅子の道」を極めるということだ。ダメよ。あなたヤギだから、難しいかもしれないけど。まあ、かくいうわたしにも、難しいけれどね。でも、私たちの力をもっと信用してもいいのよっ!」

「……ごめんね、すまなかつた。たとえば、こうしてセルリアンのほうを力づくで引きずり回すなんて、私独りじゃできないことだ!」

「にやゝハナコは無茶苦茶をするのにやゝ」

「セルリアンにまつたくビビらぬ」「ビビらぬ」「ビビる」とはもちろん「恐怖する」の意味だが……「実は平安時代から使われている言葉なのです!」という、有名なトリビアは、どうやらガセネタだそうです。でも「音が響く」という意味で、古くから「びびる」と言ったのは本当だそうです……。さらに、遅くとも江戸時代には「恐怖する」の意味で使われていたらしく、やっぱ歴史のある言葉なのは間違いない。関西の方言であったこの言葉が、1970〜1980年代に全国で使われるようになったんだとか。とは、おぬし……やはり本当にヒトなのか?」

「でも、ハナコ、アンタ意思はしかと伝わったわよ!!」

そして、さらに! ネコ科フレンズたちも協力してくれるのだ!

さあ！

キリンとゾウのパワーで、こうしてセルリアンは背面の「眼球」を無防備に晒している！

千載一遇の好機！  
チャンス

そこへネコ科フレンズたちが連携攻撃を仕掛ける！

「ふたりは『首』と『尻』を頼む！ 我が『眼』を狙う！」

「みんみ！ クロアシ、一気に畳みかけるよっ！」

「うにゃー！ あの長い砲身くびをかみちぎってやるのね！」

一気にとどめを刺すつもりだ！

「うにゃあああああッ！」

体中の毛を逆立てて、全身を振り回してセルリアンの後部の多脚を爪で打ち払い、立ち上がりを妨害するカラカル！

「にゃっぎゃああーっ!!」

キリンの首のような長い「砲身」に噛みつき、喉笛を喰い破かんばかりに牙と爪を突き立てて、振り回されながらも、攻撃を止めないクロアシネコ！

彼女たちの援護を受けてバーバリライオンが跳躍し……戦車セルリアンの眼球にヤ

ドリギのように取りついた「寄生セルリアン」本体を眼球ごと切断を狙うッ!

「寄生体こそが、宿主のセルリアンの司令塔ッ! 野郎の命を殺つてくださいつッ!」

再び指から実体化する「虹色の大剣」!

寄生セルリアンめがけて、その刃が振り下ろされる!

……が、ダメ!

寄生体の触手が、すんでのところまでライオンの体に巻きついてその動きを受け止める

!

「ぐるうつ……!! これも浅いかっ……!!」

斬撃の勢いを完全に殺すことはできなかつたらしく、触手の一部を切り落とされてい  
るが……だがセルリアンの受けたキズは致命傷とは程遠い!

そして触手の操作で、一瞬のうちバーバリの体を反転させると……熟練の柔術家のよ  
うに背面から絡みついて締め上げる!

こ、この技は……!?

「あの触手野郎っ! 高見の見物をしてるだけかと思つてたが……こんな高度な  
格闘技術を……!」

「で、でも……寄生体のセルリアン、あの触手には、たいした力はないようだから……」

ロープを引つ張りながらキリンがそう推理を始める。

ヤツの背中をよじ登って、ライオンを助けに行きたい！ 助けにいきたいところだが……キリンもゾウも私も、ロープを引つ張って戦車セルリアンの動きを止めるだけで精いっぱい！

非力とはいえ、私の力もセルリアンの動きを抑えるのに不可欠なのだ！

3方向からの引つ張りが「2方向」になってしまえば、物理的にも安定を欠くのは必然！

仮にここで手をゆるめれば……彼女をさらに危険に晒すことになってしまふ、というわけだ！ そうして戦車セルリアンを自由にすれば、バーバリライオンは容赦なく地面に叩きつけられ、巨体で踏み潰されてしまふに違いない！

本当に助けるのであれば……感情まかせの「蛮勇」では、ダメなのだ！  
くそつ、じゃあ、どうすればいい……!?

「バーバリ！ ワルいんだけど、キリンもみんな手が離せないのよつ！ あなたのチカラなら、そんな触手なんて……カントタンに抜け出せるハズよつ！」  
「いや、ダメなんだ！ あの触手による拘束の仕方は……」

『りすところつく』【手首固め】<sup>リストロック</sup> 格闘技や武道における「手首関節技」の総称。合気道の「三教」や「小手返し」、少林寺拳法の基本の柔法（組み技）の「小手抜き」や「逆小手」や「裏固め」、柔術の「牛の手」<sup>ブラジリアン</sup>や、中国武術の擒拿術（関節技）<sup>キンナ</sup>の一部の技……などなど、様々な格闘技や武術で見られる技法。見た目はすごく地味でも効果が高いのだ。というのも、指・手首・前腕にかけての筋肉はつながっており、手首を掌屈させる（掌側に折り曲げられる）と、指の握るための筋肉「総指伸筋」が伸び切つてしまい、ものを掴むことがほとんどできなくなるからだ。加えて、手首を回内させる（親指側に回して橈骨をひねる）と、肘まで動けなくなるぞ。自分の手首でやってみるとよくわかる（※関節が固い人は筋肉や腱を痛める可能性があるのです、自己責任でお願いしますネ）。というわけで、いくら筋力に優れるライオンのフレンズと言えども、ヒトと同じ体の構造である以上、このように手首を完全に極められれば爪を振るうことが全くできないのだ！

なお「手首固め」は柔道では禁止技だが、ブラジリアン柔術ではOKなので、後述のような「腕ひしぎ」との複合技は柔術に実在します。ダヨ！ シカモ 腕十字【腕十字】柔道技「腕挫十字固」<sup>うでひしぎじゅうがため</sup>のこと。講道館柔道の関節技十本のひとつ。背筋と両腕両脚の筋力を使い、テコの原理で肘関節を極めるといふ、シンプルにして強力な関節技だ。柔道の試合で最もよく見かける関節技のひとつで、プロレスや柔術、総合格闘技、軍隊式格闘術においてもポピュラーな技である。プロレスでは「腕ひしぎ逆十字固め」と呼ばれ

ることが多い。バーバリライオンはこの技で、片腕の肘を完全に固定ロックされているのだ！

しかも、親指を上向きにしたり（筋肉の付き方の問題で、親指が上になると肘を曲げる力を出しにくくなる）、触手を脇に差し込んで肩をしつかり固めたりなど、柔道家もビックリの完璧きれいなフォームな形なのだっ！ヤ 送襟絞おくりえりじめ（送襟絞）講道館柔道の絞技十二本のひとつ。最も基本的な絞め技にして、柔道の試合で最もよく見かける絞技のひとつだ。送襟絞とは普通なら柔道着の襟を利用して頸動脈を圧迫する技だが……今回はバーバリライオンの首の重厚なタテガミを触手で掴んで首を絞めている！ ふだんは首への攻撃を防ぐ「頼れる防具」であるタテガミだが、今はセルリアンに逆用されてしまっているわけだ。このタテガミは彼女の毛皮ふくの襟以上に強靱であり、幸運にも自然に破れて脱出できるなんて「希望的観測」（※第1章7話TIP「希望的観測」参照）は、今回は全く期待できそうもない！ そして、ヒトの頸動脈への圧迫は「過剰な血圧が加わっている」と脳神経が錯覚して急激に血圧が下がる「頸動脈洞反射」が起こり、ごく短時間（およそ5〜10秒）で意識が落ちる——この「頸動脈洞性失神」はフレンズの場合も同様にかかると言われている！ さらに、ヒトは興奮状態になると全身への血流が増え、脳への酸素量は安静時の80%（ブドウ糖量は60%）まで低下すると言われており、戦闘中の脳は普段より多くの血が必要なのに、その血流を遮断するのだから、首絞めはヒトにもフレンズにも効果が高いのである！ トノ複合技「複合技」手首固め＋腕十字＋送襟絞

という、腕が2本しかないヒトでは不可能な複合関節技サブミッジョン! 深海に棲むクモヒトデ「テ

ヅルモヅル」のように、幾本もの触手を持つ寄生セルリアンならではの技だ! 本能か?

!!」

「上半身を完全に固定きわめられている! あれじゃ脱出ぬけられない! バーバリさん、蹴

れっ! 野郎のデカイ目ん玉を蹴つ飛ばせッ!」

『ダメだよ! アノ またれおん【獅子殺し】”mata leon”とは、ポルトガル

語リア・ネイキッドチヨークで背後からの裸絞チヨークのこと。ギリシヤ神話のヘラクレスのエピソード(第1章2話T I

P【オリーブ】参照)に由来するネーミングだろうか? 裸絞はだかじめことチヨークスリーパー

は、ヒクソン・グレイシーやアントニオ猪木や、元女子プロレスラーの播磨佑紀選手(相

羽あいなさん)の得意技で有名ですね。なお広義では、服を着ていない相手への絞め技

は全部「裸」絞だと言えるそう。今回は「送襟絞」の形だが、寄生セルリアンが余つ

た触手を使ってバーバリライオンの後頭部を押して、首絞チヨークめをよりきつくしている点

は、まさに裸絞の「フィギュア4」と呼ばれるテクニクだ! 作中のように、背後か

らの裸絞が完全に極きまると、総合格闘技ルールでは脱出不可能と言われている……。だ

が、ヒトではなく、フレンズとセルリアンのなんでもありの野生ジャバリマッシュアルファットの戦いルールの場合

は、はたして……? ※余談コーナー: 格闘技まめちしき: 多くのプロレス団体では、喉

(氣道)を絞める「チョーク」は反則だが……(よりキケンとも言われる)首関節や頸動脈への攻撃なら、なぜかルール上OKである。そういうわけで、プロレス技のスリーパーホールド(※喉を絞めない)と、柔術のチョークスリーパー(ホールド)(※喉も絞める)は見た目は似ているが、実は厳密には別のワザなのです。ノ体勢じゃ、蹴リガ当タラナイヨ!』

絶体絶命のピンチ!

だが!

「ぐうああるるっあああーっ!!」

反撃の咆哮とともに、バーバリライオンは……なんと!サンドスターで尻尾の先にトゲを生やし、鋭利な尻尾の先端で背後を突くツ!

寄生セルリアンの触手にまばらに腫瘍のように存在する本体の眼球を貫いてひるませ、そのまま身をひるがえし、拘束からの脱出に成功するツ!

「ま、まま本<sup>マジ</sup>当【マジ】「真面目な」の意味。本<sup>マジ</sup>気と書くこともある。基本の意味から派生して、ここでは「信じられない!」の意味で使われている。なんとコレも江戸時代から使われている由緒ある言葉です。もとは当時の芸人言葉であったとか。かつ!?!」

そう、フレンズもまたヒトではないのだっ!

これぞ奇想天外な「フレンズの技」っ!!

「奥の手ならぬ、奥の尻尾ねっ!」

「ライオンの尻尾にはトゲがある」「ライオンの尻尾にはトゲがある」ジャパリパークのこ  
とわざ。「強い者こそ、追いつめられた時には……やっぱり相変わらず強い」という意  
味。なおこの動物知識、ウソじゃないです、真実<sup>マジ</sup>なんです。でもこのトゲ、なんのため  
にあるのかは不明。ライオンはネコ科で唯一、先端に房のある尻尾を持つことと関係し  
ているのかも……? だが「ライオンのフレンズ」の場合は、このように奇襲用の暗器  
(隠し武器)なのだ! 参考資料『ライオンの尻尾にはトゲがある―動物ふしぎ話』(著  
者:小原秀雄/発行:光文社)のにゃ〜!

「……!! ……キュルルルウウア、あ、うア、あうあウっ!!」

目を刺し突かれた寄生セルリアンが、今までで最大の、耳障りな苦悶の雄たけびの声  
を上げる!

宿主である戦車セルリアンよりも……やはり本体である「寄生部分」への「直接攻撃」  
が一番効果があると見えるっ!

苦痛にあえぐセルリアンは、左右の脚をそれぞれ逆向きに高速運動させることで、超

信地旋回〔超信地旋回〕戦車などが、履帯を右と左で逆回転させる——つまり左右キヤタピラをそれぞれ逆向きに走らせることで可能な、その場での高速回転だ。戦車でなくても、ユニボやブルドーザーなどキヤタピラがついている重機なら可能。なお昔の（第二次大戦までの）戦車では、変速機トランスミッションの性能上、できる戦車が限られていたが……現代の西側の戦車はすべてが超信地旋回が可能である。ソビエトや中国などの東側の戦車は、かつて性能上コレができなかったそうだが、ロシアの最新戦車のT—14アルマータは性能UPによってできるようになったらしい。で、作中の戦車セルリアンのこの「超信地旋回」は、一回行っただけでも、細い歩脚に相当な負担がかかるはずだ——しかも脚部は、さきほどのライオンの斬撃で負傷している。だがしかし、戦車体を操っている「寄生体」が、このまま背中に陣取ったライオンに追撃されて死ぬよりはマシだ……という判断だろう。本体であるこの「寄生セルリアン」は、思慮が浅いし、戦術が場当たり的な部分も多いが……こういった緊急時の判断は非常に迅速だとみえる。を繰り出す！ 平たく言えば、その場での高速回転だ！ 強引にフランスたちを吹っ飛ばす気か！

「ばお〜っ！」

まずい！ このままではロープが絡まり、引き込まれて危険だ！

「やばい【やばい】「危険な」を意味する、現代の若者用語……ではなく、これも江戸時代から使用法のある由緒ある言葉。漢字で書くと「矢場い」であり、「矢場」とは射的場

のこと。侠客が取り仕切る矢場では、接待をする「矢場女」との違法売春が行われており、そういう事からこの言葉が生まれたとか……。他には、牢屋の隠語である「厄場やば」に由来するという説もあります。！ みんな手を放してっ！」

戦車セルリアンを拘束していたキリンとゾウと私は急いでロープから手を放し、その勢いで吹っ飛ばされる！

「ふざっつー！」

「ぎにゃーっつー！」

セルリアンの後ろにいたカラカルと、砲塔に食らいついていたクロアシネコを跳ね飛ばし、そして背中に乗ったバーバリライオンも、遠心力により地面に振り飛ばされるが、体を捻って綺麗に着地する！

「おおう！ 効いてるのにやっ！ セルリアン、苦しんでるのよ!!」

「や、やったのかな〜……!!?」

「ハアハア……!! いや、まだまだ元気いっばいのようにぞー！」

苦しむセルリアンは、本体の触手を広範囲に展開させ……反撃!!

触手が一齐に地面に突き立てられ、肉を貫く音があたりに響く!!

だが触手は……周辺にまばらに落ちている動物の死骸に突き刺さっただけだ!!

「外れだ！」

「止まって見えるにやつ！」

「スツとろいぞツ！」

続いて、触手で動物の死骸を掴み、振り回しての攻撃だ!!

「そんなことして何のつもりか知らぬが……」

「全然当たらないわよっ!!」

「まぬけだにゃく、そんな遺骸おもいものを持つて……。どうぐを使つてるつもりかにゃ？ ヒトのまねかにゃ？」

ジャンプで回避し、動物の死骸から滴り落ちて辺り一面にある血溜まりに、水音を響かせて着地するネコ科フレンズたち。

触手を振り回す速度が遅すぎるのだ！

疲れ切つているとはいえ、あんな鈍重な振り回し……ネコ科フレンズの反応性と瞬発力の敵ではない！

動物の死骸は、木や石に当たって、辺りに血や肉片を飛び散らせるのみ！

「……だが、寄生セルリアンは、なぜこんな……??」

『ウン。ドウシテ、コンナ 隙だらけノ、意味ノ無イ攻撃ヲ……?』

万が一にも、あの死骸の振り回しがフレンズに当たったところで、たいしたダメージにならないだろう……。

そんなこと、ヤツだって分かっていると思うのだが……。

予想外の攻撃を受けて焦ったからだろうか……?

その時私は、触手がばちばちと……一瞬だけ、火花を上げるのを見た……。

「寄生体セルリアン……つまり、ヤツは全身が脳……神経……!! ということは……!!」

私は彼女たちに突進しながら、力いっぱい叫んだ。

「危ないっ! 血溜りから離れるんだッ! 早くッ!!」

「……?? おぬし、何を言ってる??」

「ヤツのカラダは電気コードだ……! そうやって、血で辺りを濡らして……雷が来るッ!!」

「かみなり? 空は晴れてて……お月様がよく見えるけどにや〜?」

「わ、わからんが! とりあえず、ここから離れようっ!」

カラカルは危険を伝えようとしているのは理解わかってくれたようだが……そうやっているうちに反応が遅れるネコ科フレンズ!

その動作が遅れた一瞬の隙へ！

触手から放たれたものは……動物たちの血溜まりを伝導う光……!!

寄生セルリアンの電撃だツ!!

「うにゃああぁーっ!!」

わけもわからず感電するフレンズたち！

「畜生ツ！ あいつ、こんな奥の触手を隠していたのか！」

『……行動ノ支配、神経へノ寄生トハ……スナワチ、神経組織ノ電気信号ノ 掌握ニ 他ナラナイ!』

「殺した動物たちも、この奇襲のための布石か!! えげつないことしやがる!! クソつたれ!!」

「ばおく! ど、どうしよう!」

「ハナコの言った通り、雷だわ!」

「いけない! 近づいたら感電しちまう!」

助けに行こうとするキリンとゾウを止めるが……。

だがしかし……!

では、どうすれば……!

高電圧の漏電攻撃は……幸運にも、すぐに収まったようだが……。

かわりに、電撃によって巻き散る血しぶきによって、辺り一面に「血煙」が巻き起こされる……。

その「赤い煙幕」の中へ、後ろ走りで巨体を隠すセルリアン!

態勢の立て直しを図るつもりか!

『暗視機能：視界不良！ 赤外線熱感知：不能！ 有質量ノ煙幕ニヨリ、レーダー：使用不可!』

「くつ、ヒカリさんの機能もダメか……。戦車の発煙弾発射機スモークデイスチャーシューター【発煙弾発射機】遠隔操作や自動操作で発煙筒を発射し、周囲に煙幕を展開する装置。第二次大戦以降の戦車には標準装備されている。随伴歩兵の援護や対戦車兵器の回避など、様々な使い道がある。さらに!このセルリアンの「血煙」の場合は「サンドスター」の効果により、動物たちの死骸や血液がしばらく生体と同様に体熱を持ち、ヘビやクロコダイルのフレンズデコイの「熱感知」から隠蔽する「フレア」としても役立つ! さらに煙幕じたいが金属（サンドスター）を多く含み、また十分に大きな質量があるため、ラッキーピーストの電波

探知を妨害する「チャフ」の役割もあるのだ！の煙幕と同じ理屈……。セルリアンの『反撃の狼煙』ってワケか、くそオツ！」

血の赤い煙幕で……。視界が遮られて何も見えない！

状況が把握できない！ キリンとゾウはどこだ！

バーバリー！ クロアシ！ カラカル！

がりがりがり……。と、セルリアンのキヤタピラのような脚の動く音だけが聞こえる……。！

「どこか分からんけど……。とりあえず、みんな早く逃げるんだッ！ 轢き殺されちまうッ！」

私は煙の中を走り、大声で叫んだ。

フレンズの返事は無い……。

くそッ！ カラカルたちはやはりさつききの電撃をまともに受けて、動けないに違いない……。！

やがて、煙が晴れると……。そこには私の想像とは全く違う光景が広がっていた。

「キリンっ! ゾウっ!」

ネコ科フレンズ達が引き潰される直前……すんでのところで戦車セルリアンの突進を受け止めるキリンとマルミミゾウ!!

持ち前の怪力でセルリアンの巨体を食い止め、宙に持ち上げられて、そのダンゴムシのような脚が、犬かきのように空中でむなしく動いている!

「うも〜う……ぐふふふ、名探偵の『ぱりっ』の一番は残っているようねえ……!」  
「ひさしぷりに……『ひとあばれ』させてもらいますぞう〜……!」

ふ、ふたりとも……笑顔だけど、目は笑ってないよ〜……!

マジで怖エ……!

怖いよ……怖いんだけど……頼れるウ!!

戦車セルリアンと寄生セルリアンコンビ v s キリンとゾウの動物園の人気者コンビ!

夢のウルトラヘビー級対戦カード!

文字通りの異種格闘技戦!

キリンさんが好きです。

でもゾウさんのほうがもつと好きです。

逆襲だ！

今、変則タッグマッチのゴングがサバンナ・リングに鳴り響く！

## 第17話 十五夜、盗んだバイクで走り出す

寄生セルリアンの隠し能力<sup>わざ</sup>！ 発電器官【発電器官（その1）】動物の神経や筋肉は、ごく微弱な電気（電位）を発生させることができるが……そのパワーアップ版とも言わべき「発電器官」を持つのが「発電魚」だ。デンキナマズやシビレエイ、エレファントノーズフィッシュなどがいて、その発電の細かい仕組みは、種類や生息域によって異なっている。最も有名なデンキウナギ（デンキウナギ目ギムノトウス科デンキウナギ属）は大きな発電器官を持っており、そこには生物電池とも言わべき6,000個ほどの「発電細胞」が含まれていて、脳から命令があるとそれらが一齐に興奮状態になって周囲にも自身にも電気が流れる——が、ウナギ自身には、絶縁体（電気抵抗の高い脂肪組織）による電気耐性があつてダメージは無い。デンキウナギの場合、600V（日本の家庭用コンセントの6倍！）もの電圧を、一度に数発、数十発も獲物や敵に浴びせることができる！ しかも水辺の対象<sup>あいて</sup>は電気が流れやすくなっている！ その電圧はヒトどころか、ウマー頭を気絶させるのに十分な電流<sup>いりよく</sup>と化す！ ごくまれではあるが、人間の死亡事故も過去に発生しているほどの攻撃力！ こういった発電魚による発電は非常にエネルギー効率が良く、シビレエイを利用した発電機が実際に開発されている

ほどなのだ！ なおデンキウナギは、陸上や水辺にいる獲物や外敵への電撃攻撃の際には、優れたジャンプ力……で水面から飛び上がって、水中へのムダな放電を最小限に抑える習性がありますかねえ……。現地では、オトリの動物を用意してデンキウナギ達に何回も放電させ、疲れ切ったところを捕まえるという「デンキウナギ漁」が行われていたそうだ。このデンキウナギのジャンプや漁を初めて目撃して記録したのは、あの18〜19世紀ドイツの博物学者アレクサンダー・フォン・フンボルト（彼の名を冠するペンギンが有名）だが、その後忘れ去られ、200年以上ただの伝説にすぎないと思われていたが、つい最近になって事実だと判明した、という話である。による血だまりを伝う電流「発電器官（その2）」かのチャールズ・ダーウィンも『種の起源』で不思議がっていた、この進化のナゾに満ちた「発電器官」は、アメリカ・バンダービルト大学の研究者カタニア氏によると、まず筋肉の機能が変化したもので……最初は「電気定位」用だったものが進化していった攻撃能力ではないか？と言われている。というのも、電気魚は電気を放出するだけでなく、水中の電気に敏感に反応する感覚器も必ず備えているからだ。電気魚以外の生物にも、たとえばサメやエイ、カモノハシなどには（発電能力は無いが）電気を感じ取る感覚器——いわば電気式「パッシブ・レーダー」を備えているものがある。それらの生物と同様に、電気魚にも獲物の位置を正確に特定する「エレクトロロケーション電気定位」の能力があるのだ！ 10V以下の弱い電圧を発して、水中での索敵の

ためにアクティブ・レーダーとして使ったり、無線通信のように仲間同士のコミュニケーションに使うのだ。面白いことに、個体識別のためお互いの電気の周波数をズラして、混線ジヤミツしないようにする習性があるらしい。高電圧の電撃の場合も、攻撃だけでなく対象の位置特定もできるといふ……。さて、デンキウナギ・デンキナマス・シビレイの3種は電気を攻撃に使えるほどの「強電気魚」だが……電気魚の大半の種は、電気定位の能力のみを持つ「弱電気魚」である。というか、進化的にはむしろ逆で……強電気魚の「高圧電流攻撃」は、「電気定位」という基本スキルから派生していった上位スキルだと推測されているのだ。！　そして、そこから発生する煙幕！

「んもももうっ!!」

「バオオーツツムー!」

電撃【発電器官(その3)】また、弱電気魚の一種であるエレファントノーズフィッシュ(古代エジプト語では「メジエド」と呼ばれていて、あのエジプト神話『死者の書』に登場する「謎の神」と同名)という魚は脳が異常に大きく発達している。これは発電の制御と電気感知のため、に神経が発達したのだろうか……?　カラダに対する脳の割合で言えば、ヒトやイルカ以上の脳の大きさなのだ!　その脳の酸素消費量の割合は60%と、脊椎動物平均の2~8%や、ヒトの20%を遥かに超える数値!　そのためか本種は高い知能を持ち、新しい課題をすぐ理解・記憶したり、抽象的な概念まで解釈できる

というが……。そして、本小説に登場の「寄生セルリアン」は、筋肉であり神経である触手のカタマリとも言うべき怪物なのだが……。こいつも電気魚のように、高い知能・寄生能力・電撃攻撃などのワザはすべて、「電気定位」の能力から副次的に進化したものののだろうか……。？ フレンズ達によると、最近現れた種類のセルリアンらしいが……。もしや、もともと水棲だったセルリアンが、水辺でジャンプしているうちに、陸上に適応していった存在なのかも……。？での赤い煙幕けむりが晴れ、ふたたび満月【満月】別名「十五夜」。とくに「中秋の名月」こと「旧暦八月十五夜」を指す。この中秋節（新暦では九月十月ごろ）の満月の夜には、月見団子や酒・ススキなどをお供えして月を見て集まる習慣がある。みなさまご存じ「お月見かんげつ（観月）」である。これは古代から日本や中国からある文化で、一説には縄文時代からあったとも言われている。この秋の時期の満月は、英語圏では“Harvest Moon”（収穫の月）とか“Hunter's moon”（狩人の月）と呼ばれ、他の文化圏でも特別な名前がついていて重要視されているようだ。洋の東西を問わず、狩猟や農耕のために、月齢は有史以前から重要であったことは間違いない。月が神秘的なものとしてフィーチャーされる、日本最古の物語「竹取物語」や……。青銅器時代に作られたという天文盤らしき遺物、ドイツ発掘の「ネブラ・ディスク」の存在などは……。まさにその証拠に他ならないであろう。が草原を照らすと……。そこには戦車セルリアンの突進を受け止めているふたりのフレンズ——陸上動物

の最強タツグ【最強タツグ（その1）】ゾウが陸上最強のアニマルであることに疑問を挟むものは少ないだろうが……では2番手は誰であろう？ ゾウ（マルミミゾウの体重：2.7〜6t）に次ぐ質量ウエイトを持つ動物といえ……カバ（1.5〜4t）や、サイ（シロサイ：1.4〜3.6t）を思い浮かべる方が多いであろうが、この小説では、ゾウとタツグを組むのはキリンだ——地上で最も重いけものと、地上で最も背の高いけものによる「フレンズ・タツグ」！ 動物のキリンは600kg〜1,900kg程度と、体重ではサイやカバには一歩劣るが……その長い脚のけた外れの力のキック攻撃は捕食者を一撃で蹴り殺すこともあり、サイの突進やカバのかみ砕きにも負けない「けものワザ」だ！ またキリンの走る速度は最高時速60kmと、スピードの点においてはゾウ・カバ・サイを遥かにしのぐ！（※この3種も最高時速30〜40kmとヒトと比べると相当速いです）さらに、オスキリンの首や頭蓋骨は太く重くなり、その首の振り回し攻撃「ネツキング」が繁殖期のオス同士の争いで使用される。キリンの2mの長い首の先端には、10kg（オスの場合）を超える頭蓋骨だ！ 首と頭部の総重量は130〜180kgにもなる！ その棍棒の振り回しの威力は伊達ではない！ 負けたオスキリンは椎骨くびが叩き折られて死亡することもあるその威力！ 例えば2009年ニジェールでは、野生キリンの個体数が少ないにもかかわらず、ネツキングでの2件の死亡例が報告されている。また2018年には南アフリカのカメラマンが撮影中、キリン

に首を振り下ろされて死亡するという不幸な事故も起こっている。つまりキリンとはスピードとパワー、そしてリーチの長さを併せ持つものなのだッ！ のキリンとマルミミゾウだ！

「カラカルっ！ バーバリー！ クロアシ！ ひがいしやたち、生きてるかあ〜っ？」

キリンが大声で呼びかけると、周囲からネコ科フレンズの喉からふり絞るような唸り声と鳴き声がある！

「みんな！ 無事か！」

「うみやあ〜…：…な、なんとかね〜！」

「かみのけがチリチリなのよ〜！」

「さばんなの『さいきよーたつぐ』最強タッグ（その2）」本作の混血キリンミックスのフレンズは、「元の動物」となったのが体重2t近い非常に大柄なオスキリンである。※これは、交雑種に優れた能力が発現するという「雑種強勢」という現象だろうか？ このキリンのフレンズのマフラー攻撃を、我々が現実世界で想像するならば…：超細マツチヨなキックボクシング（ムエタイ）超ヘビー級選手が、その太い脚で、つま先に鉄心入りの安全靴を履いて、ムチのように俊敏に繰り出すキック！ しかもそれが…：両脚立ちの安定した姿勢から飛んでくるのである！ しかもキリンフレンズはヒトを遥かに超える身体能力！ その上彼女が履いているのは、鉄より硬いひづめソールを持つロングブーツ

……！ 以上の説明により、ゾウフレレンズのタッグパートナーとして、キリンは相方に負けるとも劣らない存在であることが、読者にもお分かり頂けたであろうかッ!?」か！  
我らはいったん交代するでしょう！」

「おっけいだぞう！」

「うもう！ ぱりっ！」

『僕ノ 高性能ナにゆるろふあじい【ニューロファジイ】1990年代の白物家電の宣伝でよく聞いたコトバだ。生物の脳機能を模した分類モデル「ニューラルネットワーク」と、自然言語的なあいまいな対象を数学的定量化することでの「ファジイ制御」とを組み合わせたシステム。80〜90年代の日本では、松下電器がこのニューロファジイ制御について研究し、AI（人工知能）を搭載した洗濯機や炊飯器などの家電を開発——そして一般のブームが去った今でも、雨水排水処理システムや、建物や駐車場の管理、端末のかな変換ソフトなど、実はいろいろな場所でさりげなく使われている技術だ。「当たり前になっちゃった」からこそ、ニューロファジイと誰も宣伝しなくなったと言える。そしてヒカリさんこと、この『個人主体戦術サポート型ラッキビースト』の電子頭脳回路にも、古典的な基本AI制御技術のひとつとして搭載されているシステム。回路ニヨルト……アノ セリアン2頭ノ戦力ハ、ヒトノ歩兵ノ20人分——ツマリ、1個小隊ニ 相当スル 戦闘能力ダネ……』と、ヒカリさんが戦力分析を始める。

「お、おう……それで、キリンとゾウのほうは？」

『過去ノ 全テノ情報ヲ でえた 総合スルト……素体ガ大型動物デアル「キリン ト ゾウ」ノ

フレンズズこんびハ……ソノ相乗効果ハ ヒト200人に匹敵スルヨ！』

「1+1は2じゃないわけだ！ キリンとゾウなら1+1で200だあつ！」

『（相手ノ）10倍ダヨ！ 10倍！』

「……ノリ良いっすね。やっぱりAIとは思えない「AIとは思えない」このちよつとIQが溶けそうな会話はフィクションではなく、現実に可能なものである。AI研究団体

『OpenAI』が開発した言語モデル「GPT-3」が2020年にお披露目になった。

これはデータを経験・学習して、人間が考えたかのような自然な言葉を生成する高度な能力を持つAIだ。なんとヒトのフリをしてネットの掲示板に書き込みを続けて1週間バレなかったという！ それも利用者に気づかれたわけではなく、1週間経過で開発者がネタバラシして、それで初めて判明したのだ！ ……今ではAIはコンビニやスーパーなどの流通管理に広く使われているのが有名だが、それにしても、もし高度なAIが悪用されたら……と思うと、ドス黒い想像には歯止めがからない……。身近なところでは、高度なネットの工作などがAIによる絨毯爆撃ができるとしたら……。また、AIに小説やマンガ原作、絵や歌などのアートを製作させる研究はとても興味深いものだが、悪用されれば大衆を偽情報で扇動するフェイクコンテンツの作成に利用することが

できる！ さらに、前述のGPT-3は成長する過程で差別的な傾向を抱き始めたとか……。もしかしたら将来、古典的SFのごとくAIの反乱などということも起こりうるのかも……?? 話をまとめると、AI技術はもうすでに、ヒトの頼れるパートナーにも、恐るべき脅威にもなりうる段階にきているのである！ということなのです。ヒトの特性+ヒト以上の能力、という人工知能……それは「フレンズ」の持つ豊かな可能性と潜在的な脅威とよく似ているのかもしれない……。ですなえ、ヒカリさんって……」

「うむー。めいたんていのチカラ、とくと見よー。ざびつぐげえむ【ビッグゲーム】”game”という単語には「遊び」の他にも「ハンティングの」獲物」という意味もある。つまり”big game”だと「大物」という意味になり、かつてアフリカの野生動物ハンターの間では、ライオン、ヒョウ、ゾウ、サイ、バッファローの5種のことを指していた。現代のアニマルウォッチングでも、この5種こそが観察するのが難しい「サバンナのビッグファイブ」である。彼女があまり英語を分からずに言っているセリフ”The big game is a foot.”で、『煙の中から』大物が図体を現したなっ！』という意味や、あるいは遊戯の意味で解釈して『大作戦の再開だあつ！』ということにもなる。この英語のセリフはシャーロック・ホームズ譚に登場することと有名だが、さらに文学史を遡ると、もとはウィリアム・シェイクスピアの『ヘンリー五世』と『ヘンリー四世』にあるセリフらしい。※ちなみに、この”big game

”と”The game is afoot.”を組み合わせたキリンの言葉は、以前にさばんなちほーに「商売」にやつてきた英語が堪能な行商人の両生類フレンズに教えてもらったモノらしい。・いず・あふつと！」

「わたし、もう怒ったぞーう！」

「おお！ ゾウさんがいつちやうゾウ、ばかやろ〜つ！」

……よーしつ、ウルトラヘビー級「ビッグ・ザ・サバンナ」タッグがセルリアンの攻撃を食い止めている間に……。

「私のほうは、カラカルたち3人を助けなければ！」

『イチ歩兵ニモ、ヤルベキ仕事ガ有ル、トイウ事ダネ』

乾いた暗闇の熱帯草原……満月が照らす光を頼りに、彼女たちの元へ全速力で走っていく途中で……私は草地の中に光り蠢くものが潜んでいるのを発見した！

「な、なんだこれは……？」

こんな光、今まで無かったハズだが……。これは人工物……機械……バイク【自動二輪車（その1）】バイクと言うと、かつては「原動機を搭載した二輪車両」のみを指していたが、近年では自転車のこともバイクと呼ぶのでちよつとまぎらわしい。英語では前者は motor cycle や motor bike、motor——後者は

bicycle または bike と、完全に呼び分けられている。最近あまり呼ばれないが、日本語でも前者は単車とかオートバイとか、正式名称で自動二輪と言つて区別したほうが分かりやすい。※ちなみにオートバイという和製英語はアメリカ英語の auto bike からの外来語のようで、日本語とはイメージが違っていて、現代英語では（自動変速機能付きの）自転車のほうを指す場合がほとんど。で、サバンナの草むらに、突然に生えてきたかのように登場したこのバイクは、ロシアの「IMZ・ウラル」というメーカーの「ウラル・ギアアップ」というサイドカーのついたモデル（ドイツ軍の「BMW・R75」にそっくりのバイク）……を元に、さらにどこかのメーカーがリメイクした、EV&マルチ燃料使用のハイブリッドバイク版だ！ ※この「ジャパリバイク」はフィクションですが、現実世界でも電動やハイブリットの軍用ステルスバイクはペンタゴンやDARPA（米国防総省高等研究計画局）などの研究機関で実際に開発されており、米軍の特殊部隊や、英国特殊空挺部隊 SAS などですでに導入されているとか……。他にも、アフリカの密猟監視員用に開発されたソーラー充電の電動バイク『Kalk AP』や、ロシアのあの「カラシニコフ社」が1930年代のソ連製バイクをEVリメイクしたものの、などが実在します。だ……！

乾燥した植物の藪〔植物の藪〕サバンナには、非常に速い成長速度で数mほども高く育つ草がある。こういう草が繁茂すればオートバイ程度なら余裕で隠せそうだ……。

こういった背の高い草は、アフリカではたいいイネ科である。※南米のサバンナであるセラード（カンポ・セハード）、リャノ、グランチャコではカヤツリグサ科のものが多い。たとえば日本にも生えているイネ科植物だと……東アフリカ原産のシコクビエや、南アフリカ原産のアフリカヒゲシバ（ローズグラス）やシナダレスズメガヤ、熱帯アフリカのどこかが原産らしいエレフアントグラス（ナピアグラス）やホウキモロコシなど……サバンナの草原は、こういった世界中の熱帯・温帯域に広まった雑穀や雑草の原産地でもある。こういうイネ科の草本植物は、高温・乾燥環境に適応して高速で成長する「C4型光合成」ができるものが多い。ちなみに、第1章5話TIP「スベリヒユ」でご紹介した「CAM型光合成」は、このC4型とよく似た光合成システムである。※なお植物が育つことを意味する「せいちよう」は、「成長」と「生長」の2つの漢字があります……この小説では、学校の理科の教科書と同じく、文部科学省の現在の『学術用語集』に従って、「成長」で統一しております。の中に埋うずもれていたそれは……紛れもなくサイドカーサイドカー【側車】自動二輪や自転車の横に「一輪の車両」を取り付けた変則型の三輪車両トライク。この側車部分のメカニズムは大きく分けて2種類あり——ただの車輪付き座席なのでバイクから取り外せるものと、駆動系が組み込ませているため取り外せないもの。のふたつに分類できる。また、サイドカー付きのバイクは形状が左右非対称なので、コーナーリングやブレーキの感覚が4輪車や単車とは大きく異なるという特徴があ

る。昔のヨーロッパでは、自動車が高価で一般市民が買にくかった時代には、より安価な自転車やオートバイが人気であった。しかし単車では運搬能力が低いために、この「サイドカー」システムが考案されたというわけだ。自動車より安価で小回りが利くのに加えて、そこそこの運搬能力を兼ね備えていることが大きな利点だ。現代でも東南アジアなどの国々では、使いやすい庶民の機動力として、オート三輪などとあわせて普及している。さらに軍や警察では、側車に両手が空いている準員をひとり配備できるし、計3名の人員を安価に機動的に輸送できるため、警備用や斥候（偵察や追跡攻撃）用、士官移動用として使われることがある。戦間期〜第二次世界大戦時のナチス・ドイツ軍で広く使われたことが有名だが、これは当時ドイツ（ヴァイマル共和国）が調印していたヴェルサイユ条約により、軍では自動四輪車の開発に法的制限がかけられていたことも理由のひとつだったという。付きの二輪！

免許不携帯（免許不携帯）現代日本で側車付きバイクに乗る場合、免許や車検については「大型自動二輪」扱いの時もあるし「普通自動車」の場合もあるし……車種やサイドカーの構造によって法的な扱いはまちまちです。※「ウルル・ギアアップ750cc」の場合は普通自動車免許（マニュアル）対象。では、ジャパリパークの場合は法律的には……?? そもそも問題として、ハナコは免許証どころか記憶すら不携帯だし、ノーヘルだし、この後のシーンでは定員オーバーだし……。まあ、ここは日本ではない

(?) 上に、ヒトじゃなくて、ヒトのフレンズなのですけど……。いや、わからん！ 法律的にはどうなるか、全然わからん！だが、ぜひぜひ乗せてもらおう！

このバイク「バイク（その2）」「IMZ・ウラル・ギアアップ」と、その原型であるドイツ軍の「BMW・R75」は、ふたつ前のTIPでの分類では後者にあたる「側車を外せない」特殊構造を採用していた。シャフトドライブでバイク前輪と連結することにより、サイドカー側の車輪も駆動可能な「パートタイム2輪駆動」だ。この構造による高い機動性は、悪路の移動に重宝したという。この駆動系を模倣&改良した「ジャパリーブイク」には、さらに近代装備を追加……可視光/赤外線ライト切り替え可能、ソーラー発電や大気電流発電にも対応した「サンドスター・バッテリー」装備、航空機用アルミニウム製の軽量かつ堅牢なフレームを使用、メンテナンス不要かつエンジン部を単一部品化して使用不能時にすぐ交換可能……などなど、まさに近未来のサブナのアシナのです！ なお、ギアアップは民生用なのになせか標準装備されている「7.62mmPK機銃用銃架」は、このジャパリーブイクにも付いているが、機関銃の代わりに、野生動物観察用の高倍率単眼鏡が搭載されている……が、この車両のものは壊れていて使用不能だ。また、取り付けホルダーや荷物ラックにかかっているはずのスコップやジェリカン、予備タイヤなどの備品はみな紛失している……。サイドカー後部の密閉トランク（容量82リットル）には、探せば何か役立つモノは入っていないだろうか……。?、エ

ンジンがかかっているようだが……作動音が静かすぎる……。

前照灯<sup>ヘッドランプ</sup>が点灯していたので発見できたが……そうでなければ、密生した茂みの奥深くに隠されていて気が付かなかったであろう……。

縁の鋭い長い葉をかき分けていくと、その全貌が明らかになる……。変わった外見のミリタリー仕様のAT<sup>オートマ</sup>オフロード電動バイクだ！

白黒のストライプの迷彩模様は……昼間に見かけたオグロヌーのような毛皮やそのフレンズの衣服のようだ！ タイガー・ストライプならぬ「ヌー・ストライプ」！ 心なしかハンドルもヌーのツノに似ている。サイドカーが横についている姿は、遠目には本物のヌーの親子のよう！

『コレハ、じゃぱり・おふろーど・さいどカーとらいく「ブルー・ヴィルデビースト」「ブルー・ヴィルデビースト」 Blue Wildbeest」はオグロヌーの別名。「ぬ〜」という鳴き声に由来するという気の抜けた名前よりも断然カッコイイですな……。 750ccモデル」ダネ！』

「なにっ！」

『シカモ、「ぼつてりー」ハ 完全充電済ミダヨ！ 一晚中ハ走行<sup>ハシ</sup>レルネー！』

「な、なぜ、こんなものが熱帯平原の草むらに置いてあるんだ……?」

そして、どうして突然ヘッドライトが点灯し、電源が始動したのか……?」

まさか、先ほどのセルリアンの電気のせいでは……？ 空気中から電気を取り込んで【空気中から電気を取り込んで】雷のエネルギーを利用したり、水蒸気で発電したり、大気中の静電気を取り込む「大気電流発電」など、自然電気から充電する方法は古くから考案されているものの、現実世界では目下研究中……。だが、ジャパリパークではこのバイクのように、広く一般に普及している技術である。急速充電されたとしても言うのだろうか……？

さらに鍵キーシリンダー穴にカギ（オグロヌー親子の人形のキーホルダー付き）を差しっぱなしで、なぜここで隠すように

置かれたままになっていたのか……？

「いろいろな気になることはあるが！だが！それよりも今はレンズたちを救い、セルリアンを倒すことが先決だッ！」

そう、この「ジャパリバイク」は、「使ってくれ」と言わんばかりに駆動音【駆動音】ハイブリッドのジャパリバイクは、今はエンジンモードではないため本来は非常に静かなはずだが……野生動物への警告用に色々な音を出す機能がある。デフォルト設定では、「ぬ〜」という偶蹄類の鳴き声のような接近音が出る（変なセンスだ）を響かせているのだ！

動いてなきや、カギ穴に指突っ込んで電源ガタガタ言わして動かしてるところだッ！

『ヨシ！ ハナコ、盗ンダ「ぼいく」デ、走り出ソウ！』

「ひ、人聞きの悪い……拾得ひろっただけだし！ それに、ちよつと借りるだけだよ!」

スロットル全開でアクセルを吹かすと、植物の縛いめから解き放たれた鉄の獣は、丸いヒツメに稲妻を走らせ、乾いた平原を疾走はしり始めた。

暗い夜の帳とばりの中へ……。

ジャパリバイクは、冷たい空気に埃を巻き上げて大地を進み、傷ついたフレンズたちの前で音を立ててその足を止める。

「カラカル！ ライオンさんもクロアシさんも大丈夫かつ!」と

単車の座席から声をかけると、ネコ科たちはパつと見開いた驚いた顔をして、目を輝かせながら耳や尻尾を立てて興奮している。

「ハ、ハナコ……その子は何のけもの?」

「たぺたむく。そいつライトめが光ってるにや。ヒカリの仲間かにや?」

「その正体、我も皆目見当つかぬが……珍妙不可思議で、面白おもしろつ!」

セルリアン電撃でマヒして動けないカラカルたちだが、呑気にも次々に疑問を口にし  
てくる。

ネコ科フレンズはみんな好奇心旺盛なのか?

「今は説明しているヒマは無いつ！ とりあえず、このバイクは私たちの味方だつ！」

だが！そこへ突然！

周囲の土の中や草むらからセルリアンの群れが出現したのだつ！

私が目覚めて初めて戦った……トラバサミ型のセルリアンと……！

それに昼間にアードウルフを襲っていた注射器型のセルリアンどもだつ！

「うきやつ！」

「カラカル！」私はとっさにネイルハンマーを引き抜いてぶん投げて、ネズミセルリアンを頭部を叩き潰す！

さらに！カラカルの脚に噛みついて動きを封じる大顎のセルリアンと、急所をガードした腕に吸血するネズミセルリアン！

私はバックパックのベルトから外した黒曜石の細石刃の「長ドス」で、セルリアンどもをぶった切るっ！

暗闇の中で、セルリアンの死骸は虹色に光り輝く体液をまき散らし、またたくまに液化化していく！

「ありがと！ 助かった！」

「こいつら、いつたい……!? なんだ知らんが、とにかくここは危険だ！ さっさと離

れようっ！」

だが、彼女らはマヒ状態からは立ち直ったが、まだうまく動けない様子だ！

私はカラカルとライオンをサイドカーのシートに、小柄なクロアシネコを側車後部のトランクに押し込んで乗せてから、再びオートバイを発進させる！

「よし、飛ばすぜっ！ すっごい揺れるからしっぴかり掴まってくれ！」

「うにゃっっ！」

「みんみ！」

小型セルリアンどもの群れを突っ切って走り出せ！

「とりあえず、あなた達を安全な場所まで移動させたあと……私もキリンとゾウの戦いに助太刀するつもりだ！ だがそのためには……追撃してくるセルリアンれんちゆうをどうにかしないと！」

「でも、どうする……？ バイクこいっは、真つすぐの『けもの道』ならチーター【チーター】本作のこれまでのTIPでは、やれ「ツメが引つ込められない」だの、「鎖骨が無いから腕力が弱い」だの、大型ネコ科のくせに「ネコちゃんのごとくゴロゴロ喉を鳴らせる」だの、あと追加で言いますが「頭が小さいのでアゴの力が弱い」などなど……大型ネコ科界のポンコツのごとく、さんざんデイスられてきましたけものですが……その真価は、

短距離疾走と方向制御能力にあるのです！ 地上最強がライオンなら！ 地上最速はチーターだツツ！ 最高時速100km以上！ 静止状態から2秒で約70km/hまで加速する、コルベットやフェラーリ、ランボルギーニをしのぐ加速力う……ですかねえ……。その加速力はウサイン・ボルト選手の約4倍である！ そして高速走行からすばやく減速し急ターン、別方向に瞬時に曲がれるのだつ！ チーターの小さな顔や小ぶりのキバ（呼吸が楽になる）、柔軟な背骨や長い尻尾、流線型の体脂肪率5%のボディは……他の大型ネコ科のように、木登り能力やジャンプ力や攻撃力ではなく……高速走行と方向転換のために役立っているのだ！ シマウマやレイヨウなどの被捕食動物に比べて、チーターは最高速や加速力では40%、方向転換能力では70%も上回っているという！ スタミナ（電力）の点においては上回る、このジャパリバイクだが……それ以外の能力なら、チーターのほうが圧倒的に優れていると言えよう！ しかも、最近では小規模な群れをつくることも観察されているとか……。最速+群れとしての強さとか、最強すぎるだろ……。と同じくらい速いけど……でもチーターほど小回りが利かないみたいだから……。曲がるときに追いつかれそうよっ！」

「くそ〜！ それが問題だ……。なんとかして振り切りたいところだけど……」

「なにか、いい考えはないの？」

「今考えてるところっ！」

「ところで、このセルリアンどもの群れの出現……偶然ではないな」

走行中、大きな体を丸めてサイドカーに座るバーバリライオンが言い、ヒカリさんもそれに同意する。

『確力ニ……。たいみんぐガ。良スギルネ……。』

「じゃ、敵さんの『待ち伏せ作戦』というわけですね……」

「それも、あの大きなセルリアンの目に取りついている『寄生セルリアン』の仕業かしら……?」

カラカルがそう推理する。

「それじゃ、あの『寄生体』が、あの『大顎セルリアン』や『ネズミセルリアン』どもの群れの頭リーダーってワケか?」

「うくん……アタシのカンだけど、そうなんじゃないかなあ?」

「それが本当なら、あいつは他の種類のセルリアンを、寄生能力ではなく人望ひとむねでまとめているってコトになるけど……（ヒトじゃないが）。でもそんな話って……有り得るんですかね、ヒカリさん?」

『セルリアン関連ノ「でえた」ヲ 検索中……。ドウヤラ 研究者ノ調査ニヨルト、セルリアンハ 家畜【家畜（その一）】進化生物学者ジャレド・ダイアモンドによると、そも

そも「家畜化」可能な野生動物には厳しい「3つの条件」がある——1.) 群れで暮らす性質を持つ。2.) その集団には社会的構造(個体同士の順序)が存在し、群れ内の順列が上のメンバーに下のものは従属する。3.) 他の同種個体や、異種の動物とも縄張りナバリアを共有できる——の3点である。この習性を利用し、家畜の群れのリーダーをヒトが務めることで、効率的に彼らを支配できるのだ。作中の異種どうしのはずの肉食セリリアンどもにこうした「家畜の性質」があるのも、ヒトがオオカミ(イヌ)をパートナーとしたのと同じく、有能なセリリアン・リーダーによる支配でフレンジ狩りの効率化をはかるためだと推測できる。異種に寛容(牧羊犬とヒツジの群れが良好のように)という家畜の性質を受け継ぎ、セリリアン達も異種同士で連携して攻撃してくるのは非常に厄介である。※なお、地球上の148種の大型哺乳類のうち、上述の3つの条件を満たすもの——つまり伝統的な家畜は、実はほんの14種しかない——人類最古の家畜であるイヌと……ヒツジ、ヤギ、ウシ、ブタ、ウマ(この5種は家畜の「ビッグファイブ」だ)……ラクダ×2種、アルパカ(とその近縁種のリヤマ)、ロバ、トナカイ、スイギュウ、ヤク、バリウシ、ガヤルの14種類だ。これらの種以外の、たとえばネコなどは、真の意味では家畜の性質を備えていないのだ(むしろヒトのほうがおネコ様に隷属する家畜だと言っている)。それら以外の、キリンやゾウ、サイ、シマウマ、エランド、ヘラジカ、バイソン、ワピチなどの野生動物は……赤ちゃんのころから飼いならし

たり、穏やかな個体を捕まえたりして、ペットや動物園の飼育動物にすることはできて  
も……その種全体がヒトに従順という社会的な性質を持つように「家畜化」させること  
は全く不可能なのだ。ノ性質ヲ 持ッテイル ラシイヨ?」

「かちく【家畜(その2)】前のTIPで挙げられた14種の大型哺乳類の家畜たちは、ア  
ルパカ・リヤマ以外は、すべてユーラシア大陸で家畜化された動物であることは非常に  
示唆的である。その他にも「3つの条件」を持つ野生動物の「家畜候補」はユーラシア  
に高い割合で分布していたのだ。新大陸にも大型哺乳類はいたが、ヒトが到達するのと  
ほぼ同時に多くが絶滅していつてしまったのだ。また、ジャングルや高山や砂漠などの  
厳しい自然地形で縦に阻まれるアフリカ(サハラ以南)や南北アメリカやオーストラリ  
アやなどよりも、横に広く(≡同一の気候帯が広がっている)地形が穏やかなユーラシ  
ア大陸のほうが、牧畜文化が伝わりやすかった。以上の理由により、ヨーロッパ・アジ  
アちほーは、他のちほーと比べて大型哺乳類の家畜化が効率的に進んでいった……。ア  
フリカ(サブサハラ)・北米・南米・オーストラリアの文明と比べて、ユーラシアの文明  
(北アフリカのエジプト文明はユーラシアに含める)のほうが、技術力と人口の点でよく  
発達していった理由は……労働力・乗り物・食料として有用となる大型動物を家畜化で  
きたかどうかの違いにあつた、という仮説があるのです。つて何だ?」と、カラカルが  
答えづらい質問をあつげらかんと聞いてくる。

「家畜〔家畜（その3）〕前のふたつのTIPでは、家畜化に必要な条件を述べたが……動物を家畜化することで起こる変化についてもお話ししましょう。家畜化された動物は、従順になる点以外にも、いくつかの共通の変化が見られる——大きさや模様などの外見が多様になる、ヒトに対して有用な性質が増大する、繁殖にはヒトの助けが必要となる、病気のへの抵抗力の低下、狭い場所で集団で暮らすストレスに耐性がある、幼形成熟形質が見られる……などなど。これらはヒトの保護下による、自然選択の淘汰<sup>ネオテニ</sup>の低下の結果である。これらの「家畜の性質」は、興味深いことに、ヒト自身の変化の傾向でもある——社会学ではこの現象は、自己飼育による「ヒトの自己家畜化」と呼ばれ、文明化批判などのネガティブな意味で取り扱われることが多い。だが、家畜とはただのヒトに支配される存在ではない——ヒトと家畜は運命共同体、と言ったほうが適切だろう。彼らはヒトと契約を結ぶことで、ヒトとともに繁栄し、そしてヒトと家畜、どちらかがいなければ必然的にもう一方も滅びていく存在なのである……。さて、このジャパリパークにおいては、ヒトの性質を受け継ぐというフレンズ達と、そしてフレンズの不倶戴天の天敵であるセルリアン達は、この両者もまた上記で挙げられた家畜化のための条件や家畜化による変化といった性質を備えている！ 両者には「サンドスターによつて生まれる」以外にもこういつたいくつかの共通点があり、フレンズとセルリアンは表裏一体の存在であると言える。……ヒトのなかま、かな……。つまりね、他の種

類のセルリアンでも、自分らが『リーダー』と認めた者には群れは従順に従うワケよ……」

「そりや、やつかいな性質ね……」

『マルデ、視野ヤ小回りガ利カナイ 戦車ヲ さぼーとスル 「随伴歩兵」ダネ』

「あのセルリアンども、ちよつと前までは気配が無かつた……今しがた、遠くから集まってきたに相違あるまい」と、バーバリライオンが考察する。

『我 思うに……あの大物セルリアンは、『たいほう』で『ひろば』を攻撃して、フレンズ達をちりぢりに逃げさせてから……さばんなに潜ませておいた、仲間のセルリアンの群れをけしかけて各個撃破……群れで喰べるつもりだったのではないか?』

『逃ゲル敗走兵ヲ 追撃スル 「伏兵」 ツテわけ ダネ』

「だがリーダーが危険になったので、むこうも作戦を変更して……その『ふくへい』たちを集めて、こーして我らを襲わせているのでは?」

「なるほど……。多勢に無勢か……正直、マズい展開ですね……」

「いや! こつちも作戦どおりとはいかないが……それは、セルリアンだって同じだ!

向こうも焦っている! 我らは確実に敵を追いつめている!

「うにやあ! よーし、じゃ気合を入れていくぞ、ハナコ!」

「おう! 気を抜かずにいこう!」

「ふー。いや、それじゃあ、さつきは危なかったのにや……。ハナコ、助かったのにや」

「どういたしま——うわあッ！ やべやべえっ！」

と、話し込んでいるうちに、足場を砂地に取られて、すぐ先の大きなアリ塚にぶつかりそうになる！

すんでのところでブレーキとコーナーリングでなんとか曲がりきり……。そのまま背後に迫るセルリアンどもからの逃走劇を続ける！

『危ナイヨ！ ハナコ！ 僕ノ ナイトビジョン 暗視機能ヲ 使ツテ！』

「オツケー！ ……くそーっ！ もちろん夜目が利かないってのもあるけど……。サイドカー付きのバイクってのは、思ったより曲がりにくい！」

単車の感覚で動かそうとしても、側車があるため当然ながら車体が倒せないのだ！

『曲ガル時ヤ ぶれーきノ時ニハ、特ニ氣ヲ付ケテ！ コレハおーと三輪【オート三輪】日本で独自の発達を遂げた三輪トラック。だがトラックというよりも、バイクに荷台がついたものに近い。近年のトライクの元祖と言えるかもしれない。安価でシンプルな構造で、四輪自動車以上に小回りが利き、かつ積載能力が高いという長所があった。だが前輪がひとつだけで、さらに荷台があつて重心が高いという構造上非常にコゲやすい

という大きな欠点があった。昭和50年代ぐらゐまで製造されていたが、四輪トラックの発達により姿を消すこととなる……。『少年ジャンプ』で連載していた秋本治先生の『こちら葛飾区亀有公園前派出所』や、『ビッグコミックオリジナル』連載の西岸良平先生の『三丁目の夕日(夕焼けの詩)』によく登場するのでおなじみ。ジブリの『となりのトトロ』や、クレヨンしんちゃんの『オトナ帝国の逆襲』にも登場している。ミタイナものダカラ、慣レナイト 転倒シ易イヨ!』

「分かつてる! だけど、ある程度は飛ばさなきゃセルリアンどもの追撃を振り切れない! それにこりゃあ……定員オーバーだ! なかなか上手く操作できないっ!」

『ソレジャ「ぱっせんじゃー」ノ ネコ科フレンズニモ、協力シテモラオウヨ!』

「うにゃ?」

「がお?」

と、言うわけで……ヒカリさんの指示で、サイドカーレースのように、ネコ科フレンズが側車の外に出て、ふちに手足を引っかけて体重移動させることで、素早いコーナリングを行う!

「うにゃあああ!!」

「け、毛皮がこすれる!!」

「がおく……おおお!!おもしろ!!」

「のんきにおもしろがってる場合ですかあ！　バーバリさん！」

「あいた！　なんだコレ……？？　へんなものがあるにや！」

コーナリングを終え、サイドカーの後方トランクにふたたび乗り込んだクロアシネコが、そう言つてトランクスペースの奥から黒光りする何かを取り出した。

「あーっ！　そいつはトカレフの弾倉（ロケット）第1章13話のTIPで解説されているとおり、このトカレフは純正品の8発から2発増やした、10発装弾のロングマガジン仕様だ。なおトカレフには「ランヤード・リング」がグリップ下部だけでなく、マガジン底面にも存在する。ココに安全紐（ランヤード）を通しておくと、前回みたいに弾倉を落として紛失（な）さないのが便利です。警察官や特殊部隊の拳銃によくコレがついている理由は、戦闘中落としてもすぐ拾えるし敵に奪われにくくなるため。！　ラツキー！　さつきからそいつをなくしてて、銃が使えないんだ！」

「ふうん、これは、『じゅう』の食べ物みたいなものかにや〜？」

「そう！　ちようだい！」

「いいよ〜」

彼女からマガジンをいくつか受け取り、スライドを引いて装填……。周囲に展開しているセルリアンどもを銃で攻撃する！

トカレフの特徴である、鉄<sup>スチールコア</sup>・心弾<sup>アーマーピアッシング</sup>による徹<sup>アーマーピアッシング</sup>甲<sup>アーマーピアッシング</sup>効果を利用し、なるべくセルリアンが前後に重なったのを狙い、貫通させて2体への同時攻撃を行う!

銃弾が命中したセルリアン達は甲高い悲鳴を上げて動かなくなる!

『ヤル ネエ〜!! ……キミ、運転モ 拳銃射撃【拳銃射撃】以前にも解説したとおり、拳銃は当たらない武器である(第1章2話TIP【ライフルやショットガンなど】参照)。素人なら当然だが、銃器のプロである警官や軍人が使っても、近くの大きな人間<sup>もくひよう</sup>にすらほとんど当たらないのだ。距離が遠すぎたり、足場が悪かったり、相手が動いていればなおさらである。にもかかわらず、彼女はバイク<sup>ハナコ</sup>の運転席からの片手射撃で、ヒトより遙かに小さく素早いセルリアンどもを、時には2体同時に命中させている! 自称ヒトのレンズである彼女は、外見は現代人とあまり変わらないように見えるが……感覚力や体力・器用さ・集中力に優れ……そして、とくに投擲能力<sup>とうてき</sup>や射撃武器の扱いにおいては、現代人類を遙かに凌駕するのである!モ、何処<sup>どこ</sup>デ 習ツタンダイ??』

「いや、そりゃ全然わからんですが……ま、なんにせよ、ありがたいことだ! もし仮に私がなにもできない人間だったら……パークで生きていけないからね!! あ、カラカル、ちよつと背中を貸してくれ! 耳塞いで!」

「あいよー!」

<sup>あたまのみみ</sup>獸耳を塞いだカラカルの丸めた背中に、銃を持った右腕を載せての依託射撃【依託射

【撃】英：supported shooting。地面、土囊、窓枠、樹木、自分や他人の体などに、銃身や銃を持つ腕を置くことで銃身を安定させ、より正確な射撃を行う方法。そういうの、アクション映画や戦争映画、西部劇でたまに見ますよね。金属の塊である銃器は意外と重いし、反動で動いてしまうので、ただ腕で支持するよりもはるかに効果が上がる射撃方法。二脚バイホッドや三脚トライホッドの使用などは、依託射撃の代表だ。なお、この「ジャパリバイク」は、オリジナルのBMW・R75と同じくサイドカーが右にあるモデルなので、利き腕で依託射撃できる点がいい感じ。によつて、遠くに位置するセルリアンどもを撃破！

「う、うるさいわね〜！ この銃ってのは！ とくに耳に近くだと〜！」

「おう！ 悪いけど我慢して！ やつらを倒すまで辛抱だ！」

「だいぶ慣れてきた【慣れてきた】『人間は従順な動物である。どんなことにも馴れてしまふ存在である』と言ったのはロシアの文豪フォード・ドストエフスキーである。だが、軍用犬や軍馬、軍鳩などの訓練された動物が銃声や砲撃音に慣れることから分かる通り、動物にも……そしてフレنزにも、セルリアンにも「慣れる能力」がある。そして、かの名探偵シャーロック・ホームズの名言に、『どういふふうには危険か説明できれば、それはもはや危険ではない』（『ぶな屋敷』より）という言葉があるように……先ほどの廃車広場での「銃の仕組みと危険性」の説明により「未知への恐怖感」が無くなること

で、良くも悪くも、フレンズ達はますます銃の存在に慣れていつているのだ。けど、耳がキンキンするわね〜!」

「あつ、くそ、弾切れか……! クロアシさん、次のタマを下さい!」

「<sup>タマ</sup>鞆丸……?」

「早く銃弾くれ! <sup>タマ</sup>弾倉!」

「にや〜には、<sup>タマ</sup>ふぐりは無いのにや〜」

「……」

「見せてやるにや。ほれ、このとおり(ピラツ)」

「うおおお!! 突然の水玉模様パンツツ……!! そそそつ、そんな下ネタは今はいいですからあつ!! <sup>タマ</sup>タマってのは、さっきの『銃の食べ物』ですよ!! スカートの中心じゃなくて、そのトランクの中の!」

「それならそうと言えにや〜……はいこれ! ……あ、これ、タマじゃなくてサオだけにや」

「んも〜、また女の子がそんな下ネタを……! つて、これは……! <sup>グレネード</sup>手榴弾じゃないで

すか!」

「ん、形がちがうにや。それじゃダメなのか?」

「いいえ！ コレはもつと良いですとも！ ……ヒカリさん！ 古そうなモノだけど、こいつは一体!？」

『ハナコ、ソレハ「67式柄付手榴弾」67式柄付手榴弾』ナチス・ドイツ軍の「M24柄付手榴弾(Stielhandgrate 24)」——通称「ボテじゃがいも潰し器」の、中国コピー版だ！ ベトナム戦争では、コイツがポンポンと米兵に飛んできたという……。オリジナルのM24は一般的なタマゴ型の手榴弾(例えばアメリカ軍のパイナップルこと「Mk. 2手榴弾」など)とは異なっていてえ……。缶詰型の炸薬容器に、棒状の柄ハンドルがついた外見をしている。有効範囲は10mと狭めで、コンカッション・グレネード爆裂手榴弾(攻撃型手榴弾)に分類される手榴弾だ。※破片手榴弾(防御型手榴弾)に転用するアタツチメントもあつたらしい。なお、柄付手榴弾はタマゴ型の手榴弾より、柄がついているため遠心力で投げやすく、野戦では遠距離の敵に有効であつたという。さらにタマゴ型の手榴弾よりも生産性が高く、ベルトに柄を挟んで運ぶこともできるし、柄があるので転がりにくい、などのメリットもあつた。だが大きくて重くいのでかさ張るし、安全性に問題がある、といった大きな短所もあつて、現代ではほとんどの軍隊では柄付手榴弾は廃れているが、唯一中国軍では、後継の小型版の柄付手榴弾が採用されているそうだ(たんに在庫が余っているだけなのではあゝ?とも言われている)。「ダヨ！ シカモ焼夷手榴弾【サーメイト焼夷手榴弾】金属アルミニウムと金属酸化物による「テルミット法」という化学反

応により、酸素なしで燃烧（酸化還元反応）を起こす仕組みの手榴弾だ。現代のアメリカ軍では「AN—M14／TH3」という焼夷手榴弾が採用されている。狭い範囲に一瞬で数千℃という高温を発生させ、鉄条網や鉄骨バリケードを焼き払う用途や、あるいは敵陣地の可燃物やヤバイものの焼却にも使用されるとか……。セルリアンの焼却にもピツタリです。仕様ダネ！ 状態モ良イネ！ 使イ方ハ かくかくしかじか

〔柄付手榴弾の使い方〕1. 柄の下部の保護キャップを外して、油紙を破つて発火リングつきのヒモを引き出してね。2. 柄の持ち方は、親指を上に向けるのが一般的だよ。でも、君もそうだけど、手が小さくて握力が弱いアジア人は拳を握るようにして、小指を使わず端のほうを持ったほうがすっぽ抜けにくいよ。3. 遠距離ならリングを小指にはめて投げてね。近距離ならリングを引いて発火させてから投げてね。現代の一般的な手榴弾と違って「ピンを抜く」ではないんだ。ヒモを引けば摩擦で発火して、延期信管で3〜4秒後に缶の中のTNT火薬が爆発するんだよ（by ヒカリ）！

「了解！ これでも喰らえ、この野郎ッ！」

『ふあいあーいん・ぎ・ほーる！』

火事にならないように注意して……若干や草の生えていないところのセルリアンの群れを狙い、焼夷手榴弾を投擲！ 空中から拡散する炎で敵を一網打尽だ！

『大当タリダネ！』

「ヤッター！」

「サオから火が出て、ふあいあー！」

「タマタマ・サオサオ・ふあいあー！」

「ダ、ダメですよっ！ 女の子がそんな下ネタこ言っちゃあー！」

強力な乗り物と武器を手に入れて……！

だが、戦いはまだまだ続くぞ！

## 第18話 小さな悪魔たちにさよならを…

トラバサミセルリアンと注射器セルリアンの群れ！

すでに戦った相手だから、連中の性質は把握しているし……銃火器がある今なら、一体一体は敵ではないのだが……。

しかし……！

「くそーっ！ いったい何匹集まってきやがるんだ！ ……これじゃきりが無いッ！  
こいつら、何十体……いや、百体以上はいるのかッ!？」

私はネコ科フレンズを載せたサイドカー付きバイクを運転しながら、大集合した小型セルリアンの群れを引き離しつつ、銃で応戦していくが……数が多すぎて、倒しきれそうもない！

「うまく一ヶ所に集まってくれば、『焼夷手榴弾』が使いやすんだが……」

『チエツクシツクス死角注意！ ハナコ、背後二気ヲ付ケテ！ セルリアン達ガ 散開シテ 波状攻撃ヲ

シカケテクルヨ！』

「や、野郎ツ……もしかして、さつき使った手榴弾を警戒しているのか……？」

『僕ノでえたニ ヨルト——コノ種類タイプノ セルリアンハ、ソレホド 知能ガ高クナイ

ハズ……ナンダケド……?？」

「ちつくしよー! 一体一体、銃で倒していくしかないのか……?」

『隘路〔隘路〕幅の狭い道のこと。大型や中型の自動車免許を取るなら、こういう道路を通る技能試験があります。戦争においては古くから、左右が崖などになった狭い道で敵軍を待ち伏せするのは戦術の基本だ。かの『孫子』の兵法でも「第十篇 地形篇」で説明されている。隘路でセルリアンどもが一行に並んでくれば、ハナコの所持する「ジャパリトカレフ」の、高い貫通性能を最大限に生かすこともできるのだが……。デ待ち構エテ、進入経路ヲ 一ヶ所ニ絞ツテ 各個撃破シタイケド……。コノ 開ケタ 熱帯草原デハ 無理ダネ……』

「こうしている間にも、キリンとゾウさんは、草原の向こう側でふたりだけで戦車セルリアンと戦っているんだ……。ふたりとも強いけど、でも大丈夫だろうか……。早く応援に行きたいが、でもまずこいつらを一掃除しないとツ……」

『狩ル側ガ 狩ラレル側ニ、逆戻リ シテシマツタ ヨウダネ……』

「ううう、こういう時こそ落ち着かなきゃ……。さて、どうするべきかな……」

そこへ突然! ネズミのような「注射器セルリアン」達が、たがいの尻尾に噛みつき始めたかと思うと……。おたがいの体を一列に連結して「おたがいの体を一列に連結し

て」この描写で、「猿の架け橋」や「狼ぼしご」などの昔話や伝説を思い浮かべられる方も多いかもしれない……。実際の動物では、トガリネズミやスルクス（ジャコウネズミ）といった小型哺乳類の中に、親子で連結して一列に移動する「キヤラバン」という習性をもったものがある。また、サルパという小さな海洋生物（ホヤの仲間）は、クローン増殖する際に連結して増えていき、そのこのコロニーの長さは時には数mにもなるという……。だが、作中のセルリアンの行動は明らかに攻撃用であり、数体のセルリアンが基部となつて木などにしがみつき、数十体が連なる「ムチ」部位を叩きつけて獲物を打ち倒し……。そして倒れた相手の急所に一斉にとびかかり、吸血してとどめを刺す習性があるのだ。さらに今回は、ネズミどもの先端に「トラバサミセルリアン」が陣取つて「トラバサミのムチ」という、これを喰らつたらバイクから引きずり降ろされることは必ず、さらに危険な連携攻撃まで繰り出してくるぞ！、まるで長いムチのようにしなつて、薙ぎ払う攻撃だ！

「あ、あぶないッ！」

ネコ科フレンズ達が夜行性の目を光らせて警戒に当たる！

さらに！あの「トラバサミセルリアン」達が口吻を伸ばし、その大きな顎を振り回して、車上のフレンズ達を狙つて噛みつきこうとする！

「奴らは……。私たちをバイクから叩き落すつもりかっ！ カラカル、バーバリさん、クロ

アシさん！ 頭を下げててくれッ！」

「おーし、わかつたっ！」

『前方注意！ 11時ノ方向、灌木林【灌木林】英：shrub, thicket。「灌木」とも書き、意味は低木林のこと。反対語は喬木林（高木林）。さばんなちほーのこの辺の地域は、モパネ（南部アフリカのマメ科ジャケツイバラ亜科の植物）の林や、ミオンボ林（主にマメ科植物からなる林）などの、小規模な森林地帯となっているのだ。灌漑・灌木などの言葉で使われる「灌（灌）」の字には、「水を流す」の意味の他に、「丸く、群がって生える」という意味もある——「灌木」とは丈が低くて（だいたい3m以下）、幹と枝の区別が無く、叢生する（＝根元からフォークのようにたくさん枝が生える）樹木のことを指す。こんもりとした卵型や扇型に成長することが多い。日本の庭木ではツツジ、アジサイ、コデマリなどが典型的な灌木だ。そして東アフリカにはサバンナ草原以外にも、マメ科植物のこういった疎林地帯が広がっている。灌木林ではイネ科植物の草原であるサバンナより火事の頻度・被害が少ないが、まれに大きな野火が起こって木が焼き尽くされると、その土地はサバンナ植生に移行する。このようにアフリカ・サバンナの大地の大部分は、イネ科の草原とマメ科の灌木林で構成されている——そういうわけでアフリカの植物相は「イネ科とマメ科の世界」だと言われているんだとか。有りり！ ギリギリ ばいくデ 通レル狭サノ 獣道ガ有ルヨ！」

「こいつらの左右からの追跡にはこれ以上耐えられない……！ よーしっ！ 林に突っ込みますっ！ 左右に樹木が密生している道だ！ その出口で待ち構えて、敵を各個迎撃する作戦だっ！」

だが！ 林の入り口に近づくと……！

その獣道の入口となる左右の樹木には……注射器セルリアンどもの「キャラバン」が、胸の高さのあたりに、幾重にも横にびんと張られて……！！

ウワーツ！ ワイヤートラップ「ワイヤートラップ」ピアノ線や針金、ロープなどを張って、自動二輪などの乗員を殺傷する対人用の罠。原始的だが非常に危ないブービートラップ。※良い子も悪い子も真似しないでネ。第二次大戦中ドイツが舞台の1963年の映画『大脱走』でも使われていて、さらに車ではなく馬の時代である時代劇や西部劇などでも出てくるので、歴史はとても古そうだ……。また「鳴子」や、ドアに髪の毛を張っておくなどの、侵入感知用の罠もワイヤートラップの一種だと言えよう。なお愛知県警では、「トラップロール」という、ロープとカラーコーンと古タイヤを組み合わせた、対・暴走族用の危険性の無い罠を開発している。コレは狩猟用具の「ボーラ」に近い原理で、バイクの前輪を抑え込んで減速させる仕組みだ。だっ！

「うぎゃあ！ 激ヤバッ！」

「ぎにゃーっ！ ハニャコー！ 前、前！ とおせんぼっ！」

『サツ、先回り サレテルヨツ！ ワワワワワ！』

「ぬぬぬ!! ぬおおおッツ!!」

くおっ!! ぶつかるっ!!

ここでアクセル全開、ハンドドルを右に!

連結セルリアンの「首狩り罠」を、すんでのところまでバイクを素早くUターン【素早くUターン】このバイク操作は「アクセルターン」と呼ばれる技法。前輪を軸にターンして後輪だけを空転させ、最小の回転半径でターンを行う。サイドカーは側車のほうに重心が寄っており、アクセル&ブレーキでの加減速の慣性を利用できる。ウラル・ギアアップ（BMW-R75）は右側車タイプのサイドカーなので、加速するだけで右に曲がりやすいのだが……さらに右に急ハンドドルを切ると遠心力が働いてどんどん小回りになり、側車がフワツと浮かび上がる! ここでクルツと軽快にUターンできればいいが、失敗すると転覆（前転）する危険もはらんでいる。サイドカー付きバイクは特性さえ把握していれば、二輪よりもコーナリングが速くなると言われているが、オフロードの未舗装での高速走行でこんな無茶なターンをするのは当然バイクには優しくないもよう。で切り返して回避だっ!

「ふー……びつくりしたわね〜! なんとか避けられたけど〜!」

「あ、あぶなくツ……！ ひつくり転覆かえるところだった……。カラカルたちが体重移動きょうりよくしてくれて、助かったよ……」

「あはは……あんた、ぬぬぬぬーっ！ って、オグロヌーみたいな鳴き声、出してたわねエ……」

「え、えええ、やだあゝっ……!? わ、私そんな男らしい声出してたかな……!?」

「セルリアンの奴ら……今の罠もそうだが、やはり妙に連携が取れているな。厄介だ……」と、側車に乗るバーバリライオンの指摘。

『コノ小型セルリアンノ集団ノ 知的ナ行動……アノ「寄生セルリアン」ノ 指揮下ニ有ルト 見テイイネ……』

「くそ、こう統制が取れた動きをされては……」

『ハナコ！ 僕ニ、良イ考エガ アルヨ！』とヒカリさんが叫ぶ。

私は自分の肩のストラップショルダー【肩ハナコのストラップ】彼女のジャケットの肩には、一般に肩章エポレットと総称される、小さなベルトがついている。コレにライトのクリップを固定して前に垂らしている。軍服などにあるこのエポレットは、現代では装飾用である場合が多いが……本来は背囊はいのう（バックパック）や小銃のストラップを肩に固定したり、手袋を挟んだり、水筒や双眼鏡やホイッスルを吊るしたりするなどの実用目的の部位だ。階級章が

取り付けられることもあり、形は所属や地位の違いにより様々で、細かく呼び名が違ふとか……。※ハナコのものは正確には「シヨルダーループ」と飛ばれる形のモノ。ちなみに本小説のヘビクイワシのフレンズの軍服（うもろう）にも、空軍士官っぽい肩章がついていますよ。につるしたL字型ライトに話しかける。

「ヒカリさん！ 良い考えとは?！」

『「ろけつとらんちゃー」ノ 地対地砲撃支援ダヨ!!』

「え、え〜っ!! 砲撃つて……つまり、ミ、ミサイルかあ〜!? なんだそりやあ〜!!」

『みさいる ジャナイヨ。ろけつと ダツテバ』

「どっちでもいいんじゃないや……? どちらにせよ、とつてもありがたいですけどおっ!」

『5分後ニ 爆撃ガ 行ワレル 予定ダヨ!』

「つまり、このセルリアンの群れどもを……あの戦車セルリアンまでおびきよせて……そのロケット【ロケット】英: rocket。もちろん装身具（ペンダント）や、香草（ルッコラ）のことではないです——こっちはrocketやrocketだから、つづりが違うよ! でも「ロケットとミサイルって、何が違うの?」とお思いの読者も多いかと思えますので、説明しましょう! 日本語の場合、燃焼ガスによつて推進力を得る無誘導の兵器や乗り物が「ロケット」で、推進力と誘導装置を持つ兵器が「ミサイル」です。しかしこの「誘導されない」というロケットの伝統的な定義は、実はこれ最近はちよつと曖昧で……近

年の電子機器の発達とコストの低下にともない、衛星打ち上げロケットなどにはむしろ誘導装置がついている場合のほうが多いし、ロケット兵器の場合にも比較的安価な誘導装置がついているものが存在する。例えば米軍や陸上自衛隊が採用しているMLRS（多連装ロケットシステム）のM30/M31ロケットなどはGPSやINS（慣性航法システム）による精密誘導装置が搭載されている。さらにまぎらわしいことには、ミサイル兵器じたいはロケットエンジンで飛翔するものが多く……また英語の“missile”の元々の意味は投射物であり、英語圏でmissileと言うとまれに矢や弾や投擲物など飛び道具全般を指すこともあるので……やっぱり非常にまぎらわしい。実際、日本語ではこの辺を区別するために誘導ミサイルとか誘導弾などと、きちんと呼ばれることがあり、またロシア語のPaketaya、中国語の火箭など、無誘導ロケット兵器と誘導ミサイルとを区別しない言語も多々あります。まとめると、比較的安価・小型・短射程のものがロケットで、高価・大型・長射程のものがミサイル——ぐらいの曖昧な定義、なのかも？で一網打尽って、計画ですねっ！」

『君ハ、理解ガ早クテ 助カルヨ。時間モ無イシ、サア出発ダヨ！』

「りよおーかい！」

「なんかよくわからんが、セルリアンさそいだし作戦ねっ！」

その道中、ヒカリさんがくわしい説明をしてくれる。

『さばんなちほーニハ、「多連装ろけつとらんちやー」ヲ搭載シタ「BM—21ぐらー」とトイウ軍用トラック——通称：かちゅーしゃ【カチューシャ】ロシア人女性の愛称の一種だが、軍事用語ではロケット兵器を積んだ軍用トラックの総称でもある。とくにロシア軍が第二次世界大戦から採用し続けている「BMシリーズ」が有名だ。なお「多連装ロケットランチャー」は、低速で無誘導のために普通の砲台よりも命中率が劣るロケット弾を、大量に一斉発射することで命中率の低さを数で補うという運用設計。つまりカチューシャは——ロケットランチャーの攻撃力と、トラックの機動力を併せ持ち、しかも安価というモノスゴイ兵器なのだっ！ 第二次大戦時の東部戦線ではドイツ軍に対して猛威を振るつたという……！ だが無誘導ロケットは命中精度が低く、車体に対するだけの装輪トラックで装甲が無いに等しいという欠点があり……現代では先進国の軍隊ではこういうものはあまり使用されなくなったが……。だが、ロシアでは「BM—27ウラガン」や「タルナード」といったトラック搭載式のロケット兵器が現役だし……また、安価で機動力があつて高火力、ということと、市販のピックアップトラックを改造してロケットランチャーを搭載しただけの簡易兵器テクニカルとして、紛争地のゲリラやテロリストに使われることがよくある。そして、このジャパリパークになぜこんなものがあるのかはともかく……今回はフレンズ達の味方となる「頼れるう女の子」だということは

確かなのである。ガ 残存シテイルヨ。コレヲ 利用スルンダ』

「そ、そりやあずいぶん物騒な話だけど……でも今はおおいに助かりますがね……」

『ソノ「かちゅーしゃ」ニハ フタリノ フレンズ「ふたりのフレンズ」このように毎回のTIPをありがたくもコマメに読んでくれている奇特な読者には、おなじみとなりませんが……ふたりのフレンズとは、あの「ハダカデバネズミのフレンズ」（元ヒト）と、「尻尾の無い謎のフレンズ」のこと。ハダカデバネズミのフレンズは、生前のヒトだった頃に普通自動車第一種運転免許（AT限定）を取得しており……その技能をラッキーパーキーに見込まれて、この「ジャパリカチューシャ」を運転するハメに陥っている。ト  
ラッキーパーキースト1体ガ 搭乗中ダヨ。ソノ ラッキーパーキーストガ 協力シテクレテ  
ネ……。対・硬化装甲セルリアン用ノ「劣化サンドスター成形炸薬弾頭」デノ 支援爆撃ヲ 要請シタ ッテワケダヨ』

「むむむ……むずかしくてわからんが、どういうことだ？」とカラカル。

「うーむ……火山の噴火みたいなもの、かな……。セルリアンだけを狙って、火山噴火の雨あられを浴びせられるってワケよ！」

「おおう！ すつごーいっ！」

歓声を上げるネコ科フレンズ達。

『デモ、動く「かちゅーしゃ」ハ 1台キリ ナンダヨ。シカモ、旧式ノろけつと弾ダカ

ラ 火力ヤ 命中精度ハ タカガ シレテイルシ……』と、ヒカリさんが言いにくそうに言う。

『ダカラ、命中率ヲ 十分二高メルタメニハ、地対地砲撃ノ 直前マデ、攻撃座標ヲ指定シテ 誘導シ続ケナイト……』

「で、私はどうすればいいですか？」

『僕ノ光ヲ 一定距離カラ 攻撃目標ニ照射スル 必要ガ アルンダケド……』

「単純だが危険な仕事、ってワケか……」

『ソウダヨ。ドウスル?』

「聞くまでも無いっ!! 今まで、もつと難くして危険なことも、やってきたんだっ!!」

『イイ返事ダネ。君ナラ、ソウイウ事 言ウト 予想シテイタヨ!』

「話を聞いてると、アタシ達を追っかけているセルリアンの群れを……あの戦車までおびき寄せる、っていうことで、いいのよね?」とカラカルが尋ねる。「でも、具体的にはどうするのよっ!」

「それについては、私にいい考えがある! ……ただ私とヒカリさんだけでやるのは難しいから……言いにくいけど、あともう一人、このキケンな仕事に協力してほしいんだが……」

「言いにくいなんて、水臭いわね〜! もちろんアタシだっで一緒に戦うわよっ! 運

がいいことに、バーバリやクロアシより、あの電気のケガ〔電気のケガ(その1)〕感電事故においては、人体が汗や雨などで濡れていたために皮膚表面の接触抵抗が低下し、同じ電圧でもより大きな電流が流れる危険性が知られている。水場での事故では、家庭用電源(100V)どころかスマホや携帯電話のモバイルバッテリー(5V)で感電死亡という事故もあるほどだ……い。交流・直流の電源の違いにもよるがヒトの場合は……人体に1mAミリアンペアの電流が流れるのはちよつと痛いレベルだが、これが5mAになるとかなりの痛みを覚え……10mA以上だと強い痛みと痙攣により体が動かせなくなる状態になる(不随意電流という)。流れる電流が20mA以上になると、激しい筋肉の硬直や呼吸困難が起こって、長時間の感電では死や重篤な後遺症に至る可能性がある。50mA以上の電流ではごく短時間(約1〜3秒)の感電でも死亡する危険性があり、そして100mA以上の場合は一瞬(約0.5秒)で確実に即死すると言われている。なお電流については、中学校でも習うあの「オームの法則」( $I=V/R$ )で、簡単に計算できる。人体の電気抵抗は、感電部位や、衣服の種類、大地への接地状況などにもよるが……適度に皮膚が乾燥した人体の電気抵抗は2,000Ω〜5,000Ω程度だと言われている。たとえば体全体の抵抗を5,000Ωとして、アルカリ乾電池(1.5V)を指で触った場合——1.5÷5,000∥0.0003Aアンペア(∥0.3mA)の電流が流れるが、これだと流れても全然分らないレベルの電流である。だが、汗ばむだけで

人体の抵抗は800Ωと半分以下にまで低下し、さらに水で濡れると0〜300Ωまで下がり、ほぼ無いに等しい数値になってしまう！ 身体が濡れ具合や足場の状況いかなでは、ほんの数Vのバッテリーの電圧ですら危険なレベルとなるので要注意ですつ！が浅かったみたいだからねっ！」

「おう！ カラカルは、ほんと頼りにしてるぜ！」

というわけで、我々はバイクを進め、まだカラダが半ばマヒしているバーバリライオンとクロアシネコを、比較的安全な場所に——大きなアカシアの木のの上に置いていく。

「私も一緒に行きたいのはやまやまだが、この電気びりびりのケガ【電気のケガ(その2)】あの「セルリアン電撃」の際、クロアシネコやバーバリライオンの場合は、たまたま血だまりを踏んでいたせいで電気ダメージが大きかったのだ。ヒトより頑丈なフレンズのカラダだから、死んだり後遺症が残るほどではないが……すぐには回復できないレベルのケガである。それに対して、偶然血だまりから離れていたカラカルだけは、幸運にも比較的軽傷で済んだのだが……。いや、今後の戦況しだいでは逆に不運だった、と言える結果になるのかもしれないのだが……。では、かえって足手まといだな……」

「動けるようになったら私も戦うにやつ！」

「あとは私達にまかせて下さい！」

「そーよ。アンタたちは休んでなさいっ！」

ここなら、小型のセルリアンがジャンプしてきても叩き落せるし、戦車セルリアンは丘の向こう側だから砲撃は届かないだろう……。

さあ！ バイクのクラクションを鳴らして背後に迫る小型セルリアンを引き付けて、あの戦車セルリアンのもとへと激走<sup>はし</sup>る！

「これじゃまるで『ハーメルンの笛吹き男』【ハーメルンの笛吹き男】ドイツ北西部のニーダーザクセン州にある都市「ハーメルン」で中世に起きたと伝えられる怪奇事件。当地の歴史書や、教会のステンドグラスの絵物語によると——1284年、深刻なネズミ被害で荒廃していたこの都市に、どこからともなくまだらの服を着た男が現れる（英語名の“Pied Piper”の“pied”とはまだら模様のこと）。ネズミ捕り名人だと言うこの男は「報酬をくれるならネズミを退治してやる」とハーメルンの住民と約束する。そして男は笛を吹いてネズミの大群を引き連れ、ヴェーザー川に沈めて溺死させた……。だが住民たちは約束を破り、報酬を払おうとしなかった……。男は激怒し「ならば、お前たちの大事なものを奪ってやろう」と言つて、6月26日の「ヨハネとパウロの日」に、笛を吹いて町じゅうの130人の子供達を引き連れて、処刑場のある丘<sup>コッペン</sup>付近で失踪した……。男は悪魔か死神だったに違いない、と現地の人々はそのちに囁いた

——この伝説は、資料によつて細部の記述が異なっているほか、「脚の不自由な子供や、盲目の子、聾啞の子だけが集団についていけずに助かった」とする後日談がある。バージョンも存在する。この不気味な伝説の由来としては……実際に大規模な児童誘拐や人身売買があつたという説があり、ほかにも大量移民説や少年十字軍徴兵説など、いろいろあつて……その中のある一説を、浦沢直樹先生の『MASTERキートン』というマンガの5巻で詳しく取り扱っています。この伝説は、現代にも通じる教訓話として「よそ者だからといって、約束を反故にして貢献者に報酬を払わず追い出したりしたら、ひどいめにあうぞ！」という道徳的な側面もあるのだろう。なお、この小説投稿サイトもハーメルンですが、上述の伝説をふまえたたいへん毒のある皮肉として名づけられたに違いない、とひそかにウワサされています。だ……じゃ、ネズミどもを炎の川【炎の川】ギリシャ神話には、火の川「プレゲトーン」なるものが登場し、プラトンの『パイドン』や、ダンテの『神曲』で描写されている。この火の川は、忘却の川「レーテ」と、悲嘆の川「コキュートス」と、苦悩の川「アケローン」と合流し……生者と死者の領域を分かつ大河「ステュクス」となつて、冥府カタルコスへと流れ注ぐのだそうだ。で窒息させてやるとしよう！」

さあ、親玉である戦車セルリアンの姿が見えてきた！

『攻撃目標：目視確認！』

「キリンとゾウさんは、無事みたいだな……」

キリンとゾウのフレンズが挟み撃ちで攻撃して、セルリアンをなんとか食い止めているのだ！

『「じゃぱりかちゅーしゃ」カラノ ろけつと発射マデ、残り3分45秒ダヨ！ ……小型セルリアンノ群レヲ、引キ連レテ来タ マデハ 良イケレド……具体的ニハ、ドウスル ツモリダイ？』

「まずはダートで目つぶしだ！ セルリアンめ、この野郎！」

バイクをドーナツターン「ドーナツターン」ものすごい勢いで後輪を空転させ、車体をクルクルと回転するというドライビングテクニクを「スピンターン」といい、このスピンターンを何度も行うのが「ドーナツターン」だ。路面にまるくタイヤ跡が残るのが特徴。さばんなちほーのグリップ力が低くて滑りやすいオフロードの地面を逆手に取つての、砂塵の煙幕攻撃なのだっ！ なお、日本の公道でドーナツターンをすると器物損壊罪だそうです。させて砂煙を巻き上げて、セルリアンの視界を封じる！

「そして！ 強烈なコレをくらわしてやるっ！」

あらかじめダクトテープで結束しておいた「骨の矢」と「柄付焼夷手榴弾」——焼夷弾ボルトをクロスボウにつがえる！

『オオ！ ソレハ「ぐれねーどらんちやー」ダネ！』  
だが！

「くそ〜！ 運転しながらの片手射撃では正確に狙えない！ ……つーわけで、カラカル！ バイクの運転を変わってくれ！」

「え、ええ〜!?」

「簡単だよ！ ばいくは、この『つの』を振った方向に動くから！ あとの操作方法は――かくかくしかじか！」

「きゅ、急にそんなあ〜！ ば、ばいくとは……さつき初めて出会ったばかりなのにい〜！ アタシ、ばいくと上手くつきあっていく自信、無いわよお〜つ！」

「だからって、文通からおつきあいを始めるわけにはいかんだろ！ 誰にでも初めてはあるものさつ！」

「そ、そんな〜!!」

「気合と根性だあつ！ ガンバレカラカルツ！」

「む、むちやくちや言う〜つ!!」

と、ゴネるカラカルと半ば無理やり位置を代わり……私はサイドカーで狙撃体勢を取る！

カラカルの操縦するバイクが、夜のサバンナ地方の大地を、意外にも颯爽と走る！

「い、意外とおく……なんとかなるモンね！ バイクつて！」

「でしょ？」

さあ、キリンとゾウのそばまでやってきたぞ！

「あーっ、ハナコ！ あなた、今まで、どこいつてたのよ？」

「なんですかく、じめんのとおと重低音がすつこいそれは？？ しかもセルリアンまで引き連れて……

?? もしやかばんさんの川流し作戦「かばんさんの川流し作戦（その1）」昔の海外コメ

デイ映画やボードゲームの邦題みたいですが……ジャパリパークに伝わる「かばんさん

伝説」のひとつだ。さばんなちほーの隣の「じゃんぐるちほー」にて英雄「かばんさ

ん」が、不思議な鳴き声を出す「まだら模様の動物」なる存在を魔法で操り、水に弱い

セルリアンの大群を川に沈めた、という言い伝え。しかしこの伝承では……その「まだ

ら模様の動物」は、体重を軽くするためにサバンナに内臓を取り出して置いていったと

か、密林で身体を切り離して頭部だけになって自由に走り回ったといったとか……さら

に、この作戦の最後に死んだはずのその「まだら模様の動物」が、のちに雷に打たれて

蘇り、再び物語に登場する……などなどの、荒唐無稽な展開が数多く散見されることが

大きな特徴だ。また、別れたはずの登場人物が後になっても何事もなかったかのように

一緒にいたり、経過時間や移動距離の計算が全然つじつまが合わない……などの、明ら

かな矛盾点も非常に多い。よってこの伝説は、「かばんさん時代（パーク黄金時代）」よりも後の時代にやってきたという「ヒトの集団」による完全な創作——フレンズ全体に対するホモ・サピエンス種の権威化（かばんさん研究の専門用語では「カバンニズム」といいます）の目的で、前述のドイツの伝説などをもとに、いろいろな物語をつぎはぎした完全な作り話である——と……一見すると、そう思えるのだが……。というアレですか？」

「カ、カバンサンの……」「かばんさんの川流し作戦（その2）」——だが、上記の伝承の主人公が、かばんさんではなく「ばあくがいどさん」という別のヒトに差し替えられたもの——荒唐無稽な要素が無く、もっと地味な描写の「別バージョンの物語」も存在する……。よって、こちらがより歴史的事実に近いほうの物語だと推測できる。これはつまりかつて実際にヒトによって行われた作戦が「かばんさん神話」に取り込まれた結果なのでは……。？と、「カレーの博士」含む有識者フレンズは考えている。こういったような、歴史が神話・伝説に取り込まれるという現象は、我々ヒト社会の神話や伝説にも広く観察されている。漫画家の安彦良和氏が『人間がどう生きて歴史をつくってきたか、伝承や神話には大きなヒントがある』とおっしゃっている通りなのだ。このジャパリパークにおいても、後世の人間たちによる創作が加えられていると思われる「かばんさん神話」には、下敷きとなった歴史的事実が、多かれ少なかれ含まれているに違いない

のです。かばんさんの伝説が、まるつきりの人間の都合おとなによる嘘と虚飾おとだけで彩られた物語であったなら——子供がそういうものの胡散臭おとさに敏感なのと同じで——パークの素直なフレンズ達に、こうまで長く愛されるハズがないと言えるのだ。?? それはともかく！ キリン、ゾウさん！ 離れてくれッ！」

私はクロスボウで矢を打ち出す！

先端に重い手榴弾をくくりつけた矢は大きく放物線を描き、戦車セルリアンの背中……「寄生体」のとりついた眼球のすぐ上で爆発！ テルミット反応の高温の炎の渦が、どしゃ降りの雨となって寄生セルリアンに降り注ぐッ！

この火炎で敵は甲高い悲鳴を上げてひるんだ！

「カラカル！ さらに、ヤツの脚を狙う！ バイクをもっと近づけてくれ！」  
「りよおくかいッ！」

サイドカーが接近すると、私はダクトテープで束ねておいた「集束焼夷手榴弾〔集束焼夷手榴弾〕実際の歴史でも、第二次大戦中のドイツ軍やソ連軍で、M24手榴弾やRGD-33手榴弾の「複数の弾頭部分」を針金で巻き付けて威力を高めた「集束手榴弾」が対戦車兵器として使用された。また、『冬戦争（第1次ソ連フィンランド戦争）』（1939年11月～1940年3月）中のフィンランド軍でも、同様の形状の兵器——集束した梱包爆薬に木製の柄をつけた「カサパノス」（おべんとう箱にトンカチの柄をつけた

ような外見の投擲兵器)が使われた。この兵器は『アンノウン・ソルジャー』という映画でくわしく描写されているぞ(予告編CMでいきなりコイツをぶん投じている)。さらにベトナム戦争においても、柄付手榴弾を束ねて竹ざおの先端にくくりつけた特攻用の対戦車兵器(旧日本軍の「刺突爆雷」によく似たもの)が用いられたという……。だが、複数束ねただけの手榴弾の少ない装薬や、手で投げられる程度の重さの爆薬では、戦車のブ厚い装甲を貫徹するのは難しい——よってエンジングリルやキャタピラなど、戦車の構造上の弱点部分を狙って用いられた。そして、この「戦車セルリアン」の装甲は衝撃だけでなく高熱にも強く、焼夷弾の炎であつても焼ききれないため……作中のように、集束焼夷手榴弾を殻のてっぺんの眼球か、露出した多脚部分を狙って直撃させないと効果が薄い! 集束した手榴弾は、さすがに重すぎてクロスボウでは発射できないため……このようにセルリアンをひるませてから、接近して直接投げ込むという非常に危険な行為を冒す必要があるのだ!」を、至近距離から両手でハンマー投げのようにブン投げてセルリアンの多脚部に叩きつける!

バイクがセルリアンから離れた瞬間、大きな爆炎が上がり、爆風の高熱が顔に吹きつけ、敵の多脚あしが周囲に爆散する!

『ツダケヨリ 遙力ニ 大キナ威力ノ 炎ダ!』

「一緒になったほうが強いのはフレンズと同じなのねっ!」

よし、足回りを焼き払われてヤツは……しばらく動けないはずだッ!

もっと大きな炎で消毒してやるッ!

『ろけつと弾ノ 着弾マデ、アト1分30秒! ハナコ、僕ノ光ヲ 目標物に照射  
レーザーサイト【僕の光を目標物に照射】ロケット兵器は速度が遅いため、遠距離の動く目標に当てるのは非常に難しい。たとえば、初代カチューシャこと「BM-8/BM-13」のロケットの初速は秒速約350mだし、手持ちのロケットランチャー「RPG-7」などは秒速100m程度しかない。音速(約340m/s)をはるかに越えるライフル弾や戦車の砲弾よりも、ぜんぜん遅いというわけだ。だが今回の「ジャパリカチューシャ」のロケットには安価な簡易誘導装置が組み込まれている。コレを利用して、うまく戦車セルリアンの周囲に着弾させるため……まず、集束焼夷手榴弾あしを封じてから、さらにカチューシャ搭乗中のラッキーストの個体と、ハナコの軍用ラッキースト(登録個体名:ヒカリ)とが協力して、弾道計算を共有して軌道修正を実行中。本来はGPSとリンクできる仕様だが、現状のパークではそれが不可能なので、LBたちががんばるしかないのだ! スルンダ!』

「おっけい!」

火器管制システム

『FCS並列化:実行中! 弾道計算:継続中! リアルタイム起動修正:

あけていっぺんいっぺん

有効!』

トラジエクトリ・アジャストメント

さらに！ 今まで我々を追っていたトラバサミセルリアン、注射器セルリアン達が、  
戦車セルリアンの周囲に集まってくる！  
デカブツ

セルリアンの足元や背中の上に陣取り、その眼が一斉にこちらを見つめている！

「自分たちのリーダーを守るために、集まっているのね……フレنزズと同じなのかしら？」

「いや、友情ではなく命令だと思う。予想した通り、あいづら、やっぱりこのデカブツの命令で動いていたんだろうな……」

『ソレデ 今ハ、僕達ニヨル追撃ヲ 防グタメニ……指揮下ノ随伴歩兵ドモヲ 周囲ニ  
集メテ、警戒陣形ツテ ワケダネ……』  
タンクデサント

「だが、その高い判断力が今回は命取りだっ！」

『弾着マデ アト30秒！ ハナコ、退避ダヨッ！』

「了解！ キリン、マルミミさん！ 乗ってくれ！ 逃げるぞっ！」

「なんだかわからんがわかった！」

キリンとゾウをサイドカーに乗せて！

全速前進発進だ！

30秒後……！

ものすごい轟音【ものすごい轟音】ソ連軍のカチューシャは「スターリンのオルガン」と呼ばれて、ドイツ兵に恐れられたそうだが……その名前は、一説にはこの飛翔時の轟音に由来するとも言われている。なにしろ多連装のロケット（世界で最もよく使われているモデル「BM-21」の場合は40連装）を、複数台のトラックで、ボンガボンガと撃つのだから……。まさに、多連装のオルガンというわけですなあ！（唐突なヒゲじいギャグ）。……………。ちなみに、TIPで前述のとおり、無誘導ロケット兵器は命中精度が低いという欠点があるが……かえってアチコチに着弾が分散するので、面制圧に有効とも言われている。とともに、何十もの炎の線が夜空に残像を描き……セルリアンの群れをめがけて幾つも落下してきた！

こんな兵器がパークにあることには私も驚きだが……。

「うわーっ！ すごい噴火の火山弾だっ！」

「のーうっど！ ど、どういうトリックなのかしら、これは……」

「あーるびーじー的に言うとか、炎の全体攻撃まほうってワケですぞう」

『ぱん二ハ ぱんヲ、血二ハ 血ヲ【パンにはパンを、血には血を】『目には目を、歯には歯を』（コレは本当は「やられたらやりかえせ」というのは誤解で、実は「過度の報復はしてはいけない」といさめる意味なのだが……）と似たような意味の言葉。ロシア

のことわざ？らしく、ロシア語だと『フレブ　ザ　フレブ、クロフ　ザ　クロフ』と言うようです（※でも出典はよくわかりません）。……フランスにいつも優しくされるラッキービーストは、フランスにパンならぬ「ジャパリまん」をお返しするが……暴力を与えるセルリアンには、同じく暴力を返す……という意味で言っているのだろう。対義語は『右の頬を打たれたら、左の頬を差し出せ』だろうか？……』

フレブ達も、上の耳を塞いですっきり驚いている……。

「な、何て威力なのかしら……」

「や、やったか……!?!」

フレブ達と私は顔を見合わせてから、セルリアンの様子をうかがう……。

ジャパリカチューシャ「ジャパリカチューシャ」ロケットを発射した「彼女」が、この後どうなったかと言うと……。今度は、さばんな地方に眠る「あぶなすぎる不発弾」を搭載し……。そのまま深夜の熱帯草原を爆走……。そして、沖合に浮かぶ「サンドスター発掘施設」と陸地とを繋いでいた半分崩れた橋を走って……。大ジャンプ！して、不発弾の有毒サンドスターを海水で希釈・無効化するために、海中に沈んでいきました……。好ましからざる用途のため、ヒトによって持ち込まれた彼女ですが……。最後にはこうしてパークを救ってくれたのです。ありがとう！　ジャパリカチューシャ！　のちにさば

んなちほくのフレンズ達によって、彼女の活躍が永く語り継がれていくことでしよう……。なお、海に飛び込む軍用トラックから辛くも脱出できたハダカデバネズミ・謎のフレンズ・ラッキーピースの3名は、さらにその後は……「海上発掘施設」に棲むオウサマペギンとカモメの水兵のフレンズに王国の「きぶつはそん罪」と「りようどしんぱん罪」で逮捕されて牢屋に身柄を拘束されることになるのですが……。その別のおはなしは、またの機会が来たらお聞かせすることにしましょう……。による数十発の地対地口ケット砲撃が終わり……着弾時の煙が晴れると……そこには……!!?

……とりまきの小型セルリアンは全滅し、戦車セルリアンの殻のみが残っている……。

だがしかし!

予想だにしないことだが!

戦車セルリアンの殻がちよつと変化しているし、焼き払ったはずの脚がなぜか生えてきているのだっ!

しかも、背中の眼球にとりついた寄生セルリアンのまわりに……眼球全体が、金魚鉢を逆さにしたようなヘルメット状の覆いで保護されているではないかッ!?

「な、なんだっ……いつはあッ!? どどど、どういふことなんだッ!?!」

『ワワワワ……!!』

ヒカリさんも驚愕している!

とりあえず私は拳銃<sup>トカレフ</sup>で寄生体を数発狙撃するが……!

が、駄目!

「くそーッ! あのまままるのコンタクトレンズみたいなのに、全部弾かれちゃうっ!」

あの「ヘルメット」のせいで、トカレフの貫通弾でさえ防御されてしまうのだ!

『ダ、脱皮【脱皮】一部の無脊椎動物が、外骨格の体を大きくするために行う行動。ふつうの生物の場合は非常にリスクの大きい行為だ——なにしろ、脱皮中は完全に無防備になるし、脱皮に失敗して死んでしまうこともある。だが、この甲殻類セルリアンの場合……瞬時に失った脚を再生し、しかも脚部をガードする側面装甲<sup>シユルツェン</sup>や、背中の寄生体を保護する電球状の曲面装甲<sup>クイゲル</sup>など、フレンズ側の今までの攻撃へ反応して、殻の形状を変化させるといふ恐るべき脱皮能力なのだッ!!ダヨ……装甲<sup>カラ</sup>ヤ 多脚<sup>アシ</sup>ヲ 再生させタンダ!』

「脱皮いくっ!」

『敵対者<sup>ホスタイル</sup>ハ、甲殻類ノ性質ヲ持ツ セルリアン ダカラネ……。デ、デモ、コチヲノ攻撃ニ対応シテ、アノ寄生体ニモ 防御装甲ガ 生マレルナンテ……僕ノでえたニモ、無イ現象ダヨ……!』

そのうわずった電子音から、AIであるヒカリさんも、ひどく動揺しているのが分かる！

「わかったわ！ あれは進化エボリューション【進 化（その1）】「進化」とは進歩ではなく、環境に適

応していくといういきあたりばったりの変化である——という進化論は、かの19世紀

英国の生物学者チャールズ・ダーウインが提唱したものだとして一般に思われがちだが

……。だが実は、その著書『種の起源』の発表時には、ダーウインは進化（evolu-

tion）という言葉を使っていないのだ——彼自身は当初 descendent with

modification”（世代を超えての変化）という、進歩的なニュアンス

を含まないフレーズを使っていた（※が、第6版以降になつてからは evolution

を多用している）。それまで一般的には「発展・発生」といった意味であつた”evo-

lution”という英単語だが……それをダーウイン以前に生物学において「進歩

的な意味で使つた英国人には、地質学者チャールズ・ライエルや、社会学者ハーバート・

スペンサーなどといった人たちがいる。また「進化の概念」を唱えたのも、実はダーウイ

ンが初めてではない。生物が時間的に変化していくといった考えは、古くはギリシャ時

代からあるし、彼の祖父の生物学者エラスマス・ダーウインや、ジャーナリストのロバ

ート・チェンバース、フランスの生物学者ジャン・バティスト・ラマルク、哲学者のカン

ト、文豪ゲーテ……などの人達がダーウイン以前に、進化論ダーウインイズムに通じる考えを発表してい

る。さらに紛らわしい事に、アルフレッド・ラツセル・ウオレスという別の人の著書の『ダーウィニズム』という本が、『種の起源』よりも分かりやすいためよく読まれて、コッチの内容とダーウィンの思想が混同されたり……ドイツのヴァイスマンという人の「ネオダーウィニズム」が、ダーウィンの考えだと誤解されたり……。そもそも『種の起源』はダーウィンが若い頃に書いたものなので、晩年の彼の考え方とは異なっていたり……。うーん、カオスです。(つづく) ねっ！

「進化」「進化(その2)」たとえば、ラマルクは「生物は使用する機能を発達させ、使用しない機能を委縮させる」という「用不用説」を唱えた。彼によると、このマルミミゾウのフレンズズのセリフのように……キリンのある個体が、首を使い続けるという不<sub>レ</sub>断<sub>レ</sub>の努力によつて首が伸び、ゾウの鼻もしかり——つまり、ハナコのちよつと前のセリフのように「気合と根性」の効果で筋トレのごとく、個体の首や鼻が発達する……という説になる。さらにラマルクが唱えたのは、このように後天的に獲得した性質が、その子供にも遺伝するし、それが世代を経てどんどん蓄積した結果、現代のキリンやゾウはものすごく首や鼻が長くなったという説——この「生まれつきではない性質が遺伝する」というのは「獲得形質の遺伝」と呼ばれる仮説だ。この学説は、聖書を信じ進化論を全否定するキュビエ(当時のフランス博物学界の重鎮)にしつちやかめつちやか批判されて(ラマルクの葬儀の追悼文でも批判しようとした)、さらにダーウィン以降の20

世紀の生物学では完全否定されてきたが……。だが、21世紀の生物学においては彼の進化論は、「用不用説」説のほうは間違っているとしても、「獲得形質の遺伝」説は部分的に正しかったとも言われている。「エピソードイクス」という、新しい概念が生まれているからだ。(つづく)っ！ キリンの首やゾウの鼻が、がんばったから伸びたのと同じですぞうっ！」

キリンとマルミミゾウが叫ぶ！

「セ、セルリアンは、進化〔進化(その3)〕これまでの遺伝子(生物の設計図)の考え方では——生物の細胞には、DNAデオキシリボ核酸(遺伝情報を記録する物質)が含まれ、そのワンセットである遺伝情報に「その個体のすべての情報が保存されている」と、されてきたが……。だが、ゲノムが同一の一卵性双生児の片方だけに発症する遺伝病(多発性硬化症など)の存在や……。ミジンコのメスが危険を感じて頭を尖らせ(※頭が尖るとなぜか天敵に捕食されにくくなる)とその個体の子や孫もみな頭が尖ったり、低栄養状態に置かれたセイヨウタンポポの性質が子にも遺伝したり、といった現象(つまり獲得形質の遺伝)など……。古典的な遺伝子の概念だけでは説明できない現象が多々存在する。その有名な例として「世界初のクローンネコ」であるCC(2001—2020)の誕生が挙げられる(※CCの意味は、クローンキャット、コピーキャット、あるいはカーボンコピー)。このCCは、完全に同一のゲノムを持つはずの親ネコのレインボー

(三毛ネコ)とは、全く異なる毛の色していた——彼女CCがトラネコの白キジなのに、親のレインボーは三毛猫だったのだ。しかも、親子の性格は全然違っていたという……。つまり、遺伝情報が全く同じあっても、亡くしたペットと外見が同じ個体すら生まれないのだ、いわんや中身をや……。ということが一般にも明らかになったためか、亡くなった動物をよみがえらせるという「クローンビジネス」は、現在では(家畜産業以外では)斜陽になり、この業界の最大手だったバイオアーツ社も2009年には操業を停止している。……以上の例を見るかぎり、どうやら遺伝子自体を書き換えることなくその発現を制御するという……。「遺伝子以外の仕組み」が存在するらしい。その仕組みはエピジェネティクスと名付けられ、その遺伝子以外の情報はエピゲノムと呼ばれる。エピゲノムの一例としては、DNAの「塩基」というパーツ(アデニンチミンシトシングアニン)(A T C Gの4種類ある、暗号文字のようなもの)のCに、後天的に「メチル基」というモノがくっついて、5番目の暗号文字のようなはたらきをするという「メチル化」と呼ばれる化学反応が確認されている。(つづく)するッ……!? しかも戦いの中でッ!

口、ロケットランチャー攻撃の地獄の業火でも死なないどころか……進化【進化(その4)】ジャパリパークのセルリアンも「エピジェネティクス」に類似する仕組みを有しており……なんと1世代で(つまり1個体だけで)進化できるのだッ! これは、この寄生セルリアンのみの特徴ということではなく、過去にも「戦闘中にツノが生えた個体

の獲得形質が周囲のセルリアンにも遺伝して、他の連中にもツノが生えてきた」などという事例が観察されている。※これは、軍用ラツキービーストであるヒカリのセキユリティ・クリアランスでもアクセスできない極（こんかいでんしやる・でえた）秘情報（ひつぱう）のひとつだ。つまりセルリアンは、生物学的にはありえない話なのだが……らまるくおにーさんの上述の仮説どおりに、1個体だけで環境に適応して、いきあたりばったり「進化」できるし、しかもその獲得した情報がセルリアン個体間で遺伝していくのだ！ まるで、1個体だけで世代交代と進化をシミュレーションしているかのようだ！ 「保存と再現」の性質を持つというセルリアンとは……生物と言うよりもむしろ、生物の進化システムを模した存在——プログラムを並列化したり記録媒体を共有するコンピューターのような——情報集積体的な存在なのかもしれない……。Further Research I s Needed. (さらなる研究が必要である。) して強くなって不死鳥のように再生するセルリアン……。

タフすぎる上に、進化〔進化（その5）〕まとめ：「生物の進化」は、どうやらパークのフレンズやセルリアンの生態系にも深く関連・類似性があるらしい……。ところで余談だが、現代の進化生物学においては、進化のメカニズムには、自然選択・遺伝的浮動・遺伝子交流・突然変異という4つがあると考えられており……。さらに余談だが、自然選択には、安定化選択・方向性選択という2種類があり、前者は古くからある考え方だ

が、後者はダーウインが初めて考えた概念であり……。と、いろいろ話していくとキリがありませので……読者の方で各自勉強して下さいネ（丸投げ）。なにしろ、しつたふうにコレを書いている作者もずっと勉強中ですし、学問というのはすべからく「進化している」のですから……。し続けるこいつを倒す手段は……はたしてあるのかッ……!?

## 第19話 わたしはキリンであなたはヤギで [♀]

トラバサミのセルリアンと注射器のセルリアンは「カチューシャ」のロケットランチャー爆撃で倒したが……。

だが！その空爆の煙の中から現れたのは……殻の形状を変化させた戦車のセルリアンだ！

「くそくッ！ ヤツは不死身なのかあッ!?」

『アワワワワ……』

さつきまで有効だった寄生体への銃撃だが……そのまわりに新しく形成された透明な「丸い殻」！

「あの金魚鉢みたいなのに弾が全部弾かれてしまうぞ！」

不気味なセルリアンとはいえ、やはり生物だとは思っていたのだが……こんなのは間違いだッ！

これでまるで……こいつらは、自然災害か疫病の類か……あるいは、悪魔か……死神か……。

「お、おちおち、おちん……こういう時こそ落ち着くのよッ！ 『いそがば かへのぼ

れ「いそがば かへにのぼれ(その1)」。実はコレ「かばんさん」伝説に由来することわざで、全文は短歌であり『緑身みどりみの ずんぐりむつくりの船は 近くとも、急がば壁かに登れ、あんいん橋(字余り)』という。近道だがリスクのある水路を船で進むよりも、あえて遠回りして山道を進んだほうが安全だ、という意味。さばんなちほくのおとなりの「じゃんぐるちほく」出身者が好んで使う慣用句だ。この地方の河川や湖沼が、雨季によく氾濫現象を起こすことに由来している(※その最もたるのが「ジャパリポロロッカ」で、この大木すらなぎ倒す河川大逆流現象は地元フレンズには有名だ)。で、問題のこの短歌だが……最初の「緑身のずんぐりむつくり」という謎の言葉は、おそらくフレンズのことを指していると思われるが……。船を引いて泳げるほどの、力持ちの水棲生物フレンズだろうか? そして別の伝承によると『顔がでかくて、首が太くて、脚が短くて、頑丈な体をしている、丸っこい輪っかの中にさらに点々のある悪の獣』が、水中からかばんさんに襲い掛かったが、かばんさんはこれを投石で打ち斃し調伏せしめて、善のフレンズに生まれ変わらせたという……。この獣は「船引きのフレンズ」と同一人物フレンズだと思われる……ということは、情報を総合すると、体色が緑色らしいことや体形の描写からするに……大型のワニのフレンズにまず間違いないだろう。伝承中の『丸っこい輪っか』とはワニの脇腹に見られる丸い形のウロコ(ワニ革専門用語で丸斑マルフまたは玉斑タマフ)のことだろう(※ちなみにより高級とされる長方形のウロコなら竹斑タケフと呼ばれる)。また

『点々』とはクロコダイル科特有のウロコにある熱感知器官「穿孔」<sup>ピット</sup>のことだという説がある。そして『かへ』とはずばり「壁」、つまりジャパリパーク中央部の高山地帯の、山壁をつたう徒歩ルート——南米アンデスのインカ道を思わせる「断崖絶壁の道」を指していると考えられる。この山道だつて相当危険なハズだが……ジャングルの氾濫した大きな川はそれ以上に危険でとても進めない、ということなのだろう、たぶん……』  
よっ！

「壁に登れ」「いそがば かへにのぼれ（その2）」この「ジャパリことわざ」は、我々の世界では「急がば回れ」「急いては事を仕損じる」などの言葉に当たる。もちろん、急いでいる時こそ遅くとも安全確実な手段をとったほうが結果的に早くなる、という意味だ。また、かの『孫子』の兵法の第七章「軍争篇」にも「迂直の計」という「敵に突進するよりも迂回するのがよい場合もある」という似たような教訓があるぞ。さらに余談だが「急がば回れ」とは、実はコレ元々は、滋賀県草津市周辺の琵琶湖周辺の移動ルートを評しているのだ。江戸時代初期の『醒睡笑』<sup>せいすいしょう</sup>という書物に古い歌として書かれているのがはじまり。「ものふの 矢橋の舟は 近くとも、急がば回れ 瀬田の長橋」が全文。パークのことわざもコレが元ネタだろう。この「矢橋の舟」とは、琵琶湖の南部を横断する水路ルートのことだが、この湖上をボートで進むルートは、南岸にそびえる比叡山から吹く突風「比叡おろし」による高波が危険なのだ。そして「瀬田の長橋」と

は、琵琶湖の南岸を迂回してグルッと進んで陸路の「瀬田橋」を渡る道——遠回りになるが安全なルートのことだ。なお、このふたつのルートの移動にかかる時間を実際に調査した人達がいって……その実験の結果は……?? 冬から春にかけては琵琶湖の水面は荒れやすいが、夏と秋ならば穏やかなので近道である湖上ルートのほうが早い、という結果であったという。時と場合によつては、「急がば回らない」ほうが早い、ということだろうか? つて……なんだそりゃっ!? キリンのほうこそ、落ち着けよッ!」

そういうするうちに……セルリアンは驚く我々に対して、その「砲身」を向ける!

「うおー! ヤバイッ! みんな伏せてッ!」

とりあえず、ヤツの砲撃の射線から逃れなければ!

とつさに判断して私は、バイクを発進させる!

瞬間……! セルリアンは砲撃をぶっぱなして、散弾が体をかすめていった……! 腕

や脚を切り裂かれる熱い感覚……。

「あ、あぶなかつた……。みんな、ケガは無いか!」

「ハ、ハナコ! そつちこそ【そつちこそ】側車サイドカーに載っているカラカル・キリン・ゾウよりも、当然ながらバイクを操縦する運転手のほうが危険だ。砲撃に対する体の投射面積が一番大きく、伏せて急所を守ることもできない……。さらにバイクなんてエンジンに

直接またがつているようなものだ。電動バイクはガソリンエンジンより安全とは言われているが……それでもセルリアン砲撃の被弾や衝突事故で、駆動用バッテリーが破損すれば、出火して爆発したり、感電したり、発生する有害ガス（リチウムイオン電池の電解液のフッ化水素酸が、空気中の水分で加水分解反応されてできるフッ化水素ガス）を受ける恐れはあり、腹にその直撃を喰らうことになる。だいじよぶかにや!! 今の攻撃!」

「へーきへーき! かすり傷だつ!」

だが、真つすぐに逃げれば、砲撃の格好の標的になつてしまうからダメだ!

とりあえず周囲をグルグル回るようにバイクを走らせて、照準をつけにくくさせよう!

「ばいくをグルグルして……た、戦うのがイヤになったか、ハナコ? まあ本当にヤバいと思うなら、逃げちゃうのがかしこいけど!」

サイドカーの座席の、焦りの表情のカラカルが言う。

「冗談じゃない! 尻尾撒いて逃げるなんてつ!」

「そりやまあ、アンタ尻尾無いからな……」

「……かりに、ここでアイツから逃げてたとしても、だ……。動物やフレンズの殺し方を覚えたヤツは、これからも自由気ままに生き物を殺し続けるだろう……」と少し黙って

から私は続ける。「フレンズの血の味を知ったけものは生かしてはおけないッ!! ヤツはここで処理するッ!!」

「ふふふ……そうこなくつちやな……。アタシも、これからずっとアイツから逃げ回ってさばんなで暮らすなんて、まっぴらよっ!」

「きよーあくな犯人から逃げたりしたら、この名探偵の名がすたるわッ!」

「ぼすせんからは逃げられないってワケですぞう〜!」

「つまり、これは逃げているんじゃないやなくてえ……ヤツの新しいカラダを観察して、弱点を探っているんだ!」

「おお、なるほど! 『攻めるため逃げてる』のね!」

『戦術的撤退ト 威力偵察「威力偵察」偵察とは、能動的に敵戦力を調べる行動で、反対語は「監視」(こっちは受動的な情報活動)。でもひとことに偵察といっても、実はいろいろありまして……。一般的なイメージの、敵に見つからない一方的な偵察を特に区別する場合は「隠密偵察」といい——この小説だとさきほどの廃車置き場で一方的にセルリアンを観察していたシーンが隠密偵察にあたる。そして、相手に見つかっている(もしくはこれから見つかる前提)での偵察を「威力偵察(強行偵察)」と呼び、偵察側が敵に積極的に攻撃を加えて情報収集するケースが多く、偵察員には「撤退しながらの射撃」などの技術が求められる。自衛隊や軍隊の「偵察車」にもちゃんと機銃がついている理

由がコレ。ツテ ワケダネ! ……デ、何か具体的ナ「イイ考エ」ハ 思イツイタノカイ? ハナコ?」

「ま、まあ、待つてちようだい。今考えている最中なんだよ……」

「あれ? ハナコさんのバックバックの布「バックバックの布」隠しポケットになつていた部分。それを、さっきの散弾がかすめて破れて、中身が落ちてきたというワケだ。もしバックバックを明るい所でよく調べていたら分かつたハズなのだが……なにしろ今朝に誕生してから、深夜の動物裁判の開始まで、彼女にはそんな機会が無かつたので……。が……?」

すつとんきような声を上げるマルミミゾウ。

「なんか落ちてきましたぞ? どろつぶあいてむ?」

マフラー  
鼻の先端で、拾得物をつかんで見せる。

「え……!? 硬貨と……『スイス銀行 中ノ鳥島ジャパリパーク支店』つて……キャツシユカードかあつ!? それが私のバックバックに入つてたのか!」

思わず腕を伸ばして彼女の鼻の先を掴む!

「ばおお……! か、感じますう〜♪」

おお鼻に穴に指が!?

「あ！ ゴ、ゴメン！」

「いや、ハナコさんって、てくにしやんですぞう……」

「スンマセン！ ゴウさんの鼻の穴（指を）挿入いれるのは初体験はめてで………つてオ  
イ、そんなこと下ネタよりいいツ!! そのカードとコインは一体つ!？」

「うむ！ 推理するにそれは……はどずんさん「ハドスン夫人」さんキリンも敬愛する稀代の  
諮問探偵ホームズ氏とワトスン博士が下宿する「ベイカー街221B」の大家さんのこ  
とだ。彼女とBSI遊撃隊は、じつは原作では意外なほど出番が少ない。また「夫人」という  
ことは当然「ハドスン氏」も存在する（した）ハズだが……ホームズ物語の全60篇の  
正典ではまったく言及されていない。※ホームズ豆知識1：ハドスン夫人のファースト  
ネームは、とある事件の登場人物のそれらしい記述から、「マーサ」であるという説があ  
るぞ。※ホームズ豆知識2：とある有名な短編では、下宿の世話人としてさらに「ター  
ナー夫人」なる謎の人物も登場しているぞ。著者のコナン・ドイルジョン・H・ワトス  
ン先生が間違えたわけではなく、ミセス・ハドスンとは別の人物であるという説がある。  
うくん……みすてりい……。が持つてくる、依頼人のめいしというやつね。あちよつ  
と貸してえ」言つて、キリンはわきから手を伸ばし、てマルミミゾウの鼻からカードを  
受け取つて確かめる。

「うもも……このもじは……たくさんのすうじとろーまじ……。でも、カタカナこっは読め

るわ……。SAKURA H.……」

「うえええッ!? 口座の持ち主の名前かソレはッ!? サクラ・エイチ……」

「さくらえいちとは……? ー? もしやエツチなヤギ【エツチなヤギ】この小説の語り手「ハ

ナコさん」はやぎ座のO型という(物語にはとくに絡んでこない)裏設定があります。西

洋占星術のやぎ座(磨羯宮まかつきゆう)の元ネタは、ギリシヤ神話の好色な牧神パーンと言われて

おり……ギリシヤ神話最強の怪物テュポーンに追われた時に、ヤギに変身して野山を逃

げ、さらに川に差し掛かった時に魚に変身しようとしたが失敗して、上半身がヤギで下

半身が魚というヘンな姿になった……と、伝えられる星座です(※ちなみに聞きなれぬ

「磨羯」という言葉は、インド神話の怪魚マカラに由来するそうです)。星占いによると、

やぎ座の人の性格は、頑固、現実的、野心家、努力家、責任感がある、ロマンチック、夢

見がち、真面目に見えて意外とお茶目、冷静そうだが意外とパニックに弱い(※パニッ

クの語源はパーン神です)、エロい、地味、ケチ、毒舌……などと色々言われています。

牧神パーンがヒトとヤギの姿を併せ持つ神であるように、やぎ座の人も一見矛盾する要

素どうしを併せ持っている性格である、とのこと。彼女には当たつてるのだろうか……

?……? いいえ、畢竟するにこれは、ヤギの一種の名前に相違あるまい!」

「ちよ……!?! ま、待てッ! それは重要な手がかり……!! もしかしてわたしの名前

なのかソレはっ!?!」

「んもーっ！ あなた、この名探偵<sup>わ</sup>キリン<sup>し</sup>の最初の推理〔名探偵キリンの最初の推理〕こまめにこの連載小説を読んでいる、奇特にして親愛なる読者諸君ならば、彼女の最初の推理とは何か当然覚えているだろうが……もし学業や仕事などが忙しくて少しずつしか読んでおらず、以前のお話の内容をお忘れである場合は、お手数ながら第1章第1話「英雄カバンサンの伝説」を参照して頂きたいっ！どおり、やっぱりヤギじゃない。ワツハハハハ！」

『ハナコ！ 前ッ！ 前ダヨ！ 左二避ケテッ！』

「ぬおー！」

バックパックからこぼれ落ちたのは、私の過去に関する初めての手がかり……それに気を取られていたが……ヒカリさんの声でハツとして、あわててバイク操作のほうに集中する！

……すると、またセルリアンの砲撃が撃ち出され、背後の10mほど離れたマメ科らしき樹木に着弾する！

「うもーッ！」

「あつぶにやつ！」

「ぐぬぬ……あ、明るい所でよく確かめたいんだが……」

『デモ 今ハ、ソナナ状況ジャナイヨッ!!』

「くそ〜！ 残念だがその通りだっ！」

私はハンカチ大の布切れ「ハンカチ大の布切れ」先ほどのスクラップブヤードでハイラックスを治療した時に使った時の、フレンズの衣服を裂いてこしらえた即席包帯のあまり。いつのまにやら持っていたのです。彼女は蒐集癖があるというか……こういういた雑多な物品を、無意識にキープしておく習性ほんのうと……また、今回のカードやコインといった重要証拠品を、素手で触るのを避ける個性せがあるようだが……。を取り出し、キリンからカードとコインを受け取って包み、胸ポケットに大事にしまっておく。

非常に気になる……が、今はセルリアンをなんとかしなければ!!

そのままヤツの周囲を標的にされないように草原を走りづづける……。

草原にはまばらにロケット着弾の炎が、まだちりちりと熱く残っている……。

「か、火事になっちゃったら心配だけど……」

『ソノ点八問題無イヨ。オペレーション”N. O. F.”——正式作戦名「にやんにやんおっぱいふあいあー作戦」ノタメニ、消火装備【消火装備】農業用水散布用のタンクとノズルを改造したものに、高性能耐火服を加えた防災装備だ。ジャパリパークのスタッフであるロボット「ラッキーパービスト」達は、基本的にはパークの自然現象には不干渉の立場だが……もし大規模な火事などの大災害が起こった場合は、これをパークス

タツフの人間達やフレレンズと協力して解決するようにプログラムされている。ちなみに「セルリアンの発生」は、パークのL<sup>ラッキレリスト</sup> B 達のAIには「脅威・高」の自然災害の一種として分類<sup>カテコライズ</sup>されている。ヲ身二着ケタ さばんな地方ノラツキービースト達が、戦線ノ後方デ 待機シテイルカラネ……』

「ラツキーさん達はそんなこともできるのか……つてか、作戦名はやつぱりソレなのね……」

『イワバ「ジャパリ消防団」ダヨ。ソウイウ 後方支援ハ、L<sup>ほく</sup>Bタチニ マカセテネー！』  
「おっけいー！」

サイドカーバイクで草原を走り続けるが……くそ、さっきの砲撃で地面が穴ボコだらけ【地面が穴ボコだらけ】草原がスツカリ焼き払われ、爆風で草の根まで耕され、「焼き畑」されたこの辺の土地一体は……のちに、農業に興味のあるフレレンズ達とラツキービースト達と、そしてとある友好的なセルリアンが協力して「ジャパリ菜園」を開園することにになります……。そして、作物が育つて無事に収穫できるまでには、それはそれは、たいへんな苦労があるのですが……でもそれは、また別の未来のお話……。になつてしまつて、小回りの利くバイクとはいえ、大変走りづらい……。

我々は昼のように明るい月明かりの元で……目を皿のようにしてセルリアンの「新し

い身体」を観察すると……!!?

「そーいえば、あの犯人く……側面よこの殻を分厚くした分だけ、多脚あしが動きにくくなっているよーな気が……」視力に優れるキリンが推理する。

「そういえば、そうだ……。このバイクの大回りの動きにも、足回りが対応できなくなっているみたいだ……。それに動きじたいも遅くなっているように見えるが……」

「その原因はおそらく、さっきのヤツの脱皮ですぞう!」と、マルミミゾウが鼻を伸ばして言う。「あの脱皮は、そうとう体力を使うはずです! 一見すると、わたしたちが与えた殻や脚のキズは全部治っているように見えますが……体力のほうはだいぶ消耗しているに違いありませんぞう!」

「あの怪物も生き物だから……無限の体力があるつてワケじゃないということか……」

「RPGあーるびーじーてきに言うところ……まほうで、現在ひつとほいんとHPは全回復して防御力はアップしたけど、最大HPと素早さは減っている……つてカンジですぞ?」

「そのたとえはよく分かりませんが……。ヤツの進化は、単純にパワーアップしたわけじゃないつてことですか?」

『ソモソモ、生物ノ「進化」トハ、「現環境への適応」デアツテ、単ナル「強化」ヤ「発展」デハナインダヨ……』ヒカリさんが冷静に考察する。『アノ寄生体ノ球クレーゲル状ヘルメットモ、側面サイドスカートノ増加装甲モ、戦車タンクセルリアンノ元ノ殻ニ無理矢理後付けサレタ物ダ。僕ニ

ハ、トテモばらんす悪く見エルヨ……』  
 「なるほど……」

「ともかく、ヤツは、神でも、悪魔でもなく……戦えば血を流すし、動けば疲れる生き物！……生き物なら、やつぱり殺せるはずだつ！」

ヤツの弱点が見えかけたが、だがその時！

突如サイドカーバイクが地面の穴ボコにタイヤを取られ、後輪がガクツと地面の中に沈み込む！

「げえーっ！ スタック」スタック（その1）砂浜や雪道などで地面の穴や轍、ぬかみ、側溝などに落ち込んだり、落ち葉や稲わらの山に乗り上げたりすると、車両がスタックしてしまうことがある。こうなると地面のグリップ力が完全に無くなり、ハマったのが駆動輪（一般的な前輪駆動車なら前輪、2WDでないバイクなら後輪）ならば空転してしまつて抜け出せなくなる。一見すると悪路に強そうなクロスカントリー SUV車や大型バイクは、実は重量があるためにブレーキが利きにくくコースアウトしやすいし、スタックすれば脱出するのも難しい——せめて4WD（バイクなら2WD）車ならばいいのだが……。で、こういう場合……下手にタイヤをガンガン空転させると、砂地を掘つて逆に穴が大きくなつてしまつたり、タイヤの摩擦熱で雪が解けたり、落ち

葉が発火したりして、さらに状況が悪化してしまうことがあるのだ！ かばんさんのかの「ジャパリバス」もよくスタックしたそうなのだ！ かばんさん曰く『こ、こういう時こそ、あわてず騒がず落ち着こう！』 まず、一部の四駆車（スズキ・ジムニーやトヨタ・ハイラックスなど）や軽トラなど、パートタイム4WD（2WDと4WDとのモードチェンジ）機能がある車種なら、4WDモードに切り替えよう！ その際センタージェン（地面との抵抗が少ないタイヤほど回転数が増える機能）が作動すると空転してマズいので、「デフロック」して直結させておこう！（つづく） ったあっ!？」

しまった……爆撃跡の穴に枯れ草が覆いかぶさって、気が付かなかったか……!？」

「ば、ばいくの後ろ脚が、穴ボコにハマっちゃった」「スタック（その2）」こういう時の専用用品である「スタックヘルパー（スノーヘルパー）」や「スタックステップ」や「サンドラダー」（スタック脱出用のボードやハシゴなど）を積んでいればそれを使おう。もしなければ、作中での描写のように代用品を使用することになる——フロアマットやベニヤ板、段ボール、ラバー製タイヤチェーン、毛布、タオル、Tシャツ、ボロ布……なんでも良いので、ある程度の強度とグリップ力があるモノをタイヤの下に挟み込んで、駆動輪のグリップを接地面に伝えて発進させるのだ。他にもサラサラに乾いた砂地など場合は、タイヤや接地した地面に水をかけたり、雪道の場合は「砂箱」（雪国のスリップしやすい場所の近くにはたいてい設置されている）の砂をかけたりして、グリップ力を

高めるという方法もある。なお、作中のサバナ地方の乾いた地面では、最もパワーのある（＝歯車の大きい）1速ローギアに入れている（※IMZ・ウラルのサイドカーは全モデル4速＋バックギア搭載です）が……。しかし、雪道の場合はパワーがかかりすぎて1速だと空転やスリップしやすいので、Dの「スノーモード」や、2速セカンドなどでの脱出が推奨されている。また、下手に独力で脱出するよりも、軽い車であれば人力で後ろから押してもらおうとか、重度のスタックの場合は他車に牽引してもらおうほうが良い場合も……。のかっ!？」

『ハナコ、マズイヨツ！ コノママジャ、セルリアンガ……!!』

「クソツ！ みんな、いったん降りて、後ろから押ししてくれっ！」

「わ、わかったわ!!」

「かばんさんの『ばす』もジャングルでつかえて困ったと言うわっ！ そーいう時は『はし（その1）』橋。人や車が河川や海峡などを渡るための、比較的大型の構造物。』を探せと言うけど……一体なんの『はし（その2）』端。何かの中心部から最も遠い部分のこと。英語では“edge”とか“border”という。』かしらっ！」

『『はし（その3）』箸。チョップスティクス。おもに東アジアで使用される食器カトラリの一種。』うも……このはくらんきようきの名探偵であつても、ことばの正しい使い方って難しいわねえ……』

「ほんとですぞ……」（by キリンとゾウ）って、ヒトが

食するときを使うのですよ？ でも、そんなものないですぞう！」

拳銃の片手射撃で背後にせまるセルリアンの寄生体を狙撃して牽制つつ……ギアを落として1速とRに交互に切り替えながら、車体を前後に振って穴から単車を出そうとするが……!?

ダメだ！ 単車の駆動輪が完全に穴に取られてしまつて、2WDのサイドカーバイクとはいえ、これじゃ抜け出せないツ!!

「こ、こーいう時は水筒の水を……あつ、そうだ！ カラカル、サイドカーにあるフロアマツトをくれ！ さつき見たら、あつたハズだ！」

「ふ、ふろあま……?? なな、なんじゃそりゃ!？」

「あーもう！ 平たいヤツだよツ！ たぶん足元あたりにあるだろツ!？」

「足元の平たいヤツ……おー！ これかあツ！」

「そうそう、これこれ……! 『園芸用保水シート(園芸用保水シート(その1))』サイドカーに置いてあつた吸水樹脂シート。こういうシートのゲル状部分は、ホームセンターや百円ショップなんかでも売っている園芸用の、あの「ゼリー状の化学物質」と同じモノだ。コレの正式名称は「高吸水性高分子」で、英語で言うと“Superabsorbent Polymer”、なので略してSAP。ハイドロジェルとかハイドロソールとも呼ばれている。紙オムツや保冷剤とかの中身のゲルも完全にコレと同じものな

ので、そういうのは実は植物栽培用に流用できません。SAPという物質は、ひも状の高分子が網目のような構造になっており、そこに水分を閉じ込めて膨張していく……という吸水の仕組みになっている。こういう高吸水性素材は用途がものすごく多く……作中のように、園芸用・農業用・林業用の保水材・止水材に使われるほか……紙オムツ、簡易トイレ、生理用品、猫砂、ペット用トイレシート、止血剤、化粧品、ドリップ吸収材、水害対策アイテム（土のう）、使い捨てカイロ、芳香剤、保冷剤……などなどなどの材料として幅広く用いられている。……?? つて、ちがあう!! これじゃなあ!!

「ええ!? ー、これ〔園芸用保水シート（その2）〕SAPは人体への安全性が非常に高いため、健康問題や公害を引き起こさないのも大きなメリットだ。※だが誤飲した場合だけは、水分を吸収して膨張するのでキケンです。SAPは水を加えると自重の数百倍〜千倍もの水量を吸収するぞ! だが、土砂や肥料などが混ざると吸水能力は数分の一程度まで落ちるし、吸水と脱水を長期的に繰り返していると性能が劣化してしまうという……。なお、SAPにもいろいろ種類があるのだが——こんにゃくや豆腐やゼリー、スライムのおもちゃなどもSAPの仲間にあたる——現代の工業製品（いわゆる機能的化学用品）では、「ポリアクリル酸ナトリウム」という石油由来の「ポリスチレン系樹脂が主流」が主流。ちなみに作中で登場したモノは、小型植物の運搬時や育苗時に保水用に使われる携帯用

のもので——石油原料ではなく天然原料で、生分解性（自然界で分解される性質）が高いという、環境にとっても優しいシロモノだ（架空の物質です）。現実の地球においても、荒野や砂漠の緑化や耕地化、水害対策のためにSAPの保水材が使われるのと同様に、このさばんなちほくの乾燥した土壌で「ジャパリまんの原料」などの農作物を大量栽培するためには、科学技術によるサポートが必須なのだ。ちがうのおく!?」

背後の低木林をゾウのようにめりめりと押しつけて……すぐ後ろに迫るセルリアン！

その砲身が私たちを狙っている！

「キリン！ ゾウさん！ あなたたちのパワーで……ああ、駄目だっ！ その押し方じゃ、余計に地面にハマっちゃうよっ！」

『ハナコ！ モウ ばいくヲ 放棄<sup>ス</sup>テテ 戦<sup>ウ</sup>シカナイヨ！』

「くそっ、そうするしかないのかっ！」

「うもーっ！ いいえ！ その必要は無いわよっ！」

な、なんと！

我々の背後に迫ったセルリアンにマフラー攻撃を繰り返すレンズは……キリンだっ！

キリンが背後のセルリアンと対峙しているのだ!!

「あっ！ キリン……………」

「勝手な判断だけど……………こーなったら私、セルリアンと戦わせてもらおうわっ！」

「さ、作戦は……………?? パワーアップしたセルリアンを倒すための、なにかいい考えでもあるのかっ?！」

「作戦なんて無いっ！ いい考えも無いわっ！」

「なにっ?！」

「だけど……………戦う意思ならいっばいよ！ 私のアミメ色の脳細胞はっ！」

「ム、ムチャだぞっ!!」

「さんざん無茶してるヤギあなたに言われたくはないわねエ……………。まあ、見てなさい、さつきまでゾウと一緒に戦ってたんだから！ 私の名推理を見よ！」

そう叫ぶキリンの構えは……………左脚前のオーソドックスの姿勢から……………首のマフラーの左端と左腕を下げた、ヒットマンスタイル【ヒットマンスタイル】別名：デトロイト・スタイル。ウエルター級〜ライトヘビー級の、史上初の5階級制覇を成し遂げた米国のボクシング王者「トーマス・ハーンズ」が得意としたスタイルだ！ あのフロイド・メイウエザーJrの「L字ガード」や、ブルース・リーの構え方ともよく似ているぞ。ヒッ

トマンスタイルは相手との間合いを取りながらヒット&アウェイで戦う「アウトボクサー」スタイルの一種であり、左腕を下げることによって、フリツカージャブなどの特殊な攻撃技を得意とするが、ガードにはあまり向いていないという攻撃的オウエンシブなファイトスタイルだ！ だが、パンチが下から曲線を描くため、直線を描くオーソドックスなジャブやストレートに対しては、こちらがよほどリーチで勝っていないと相手に打ち負けやすく、また体重を乗せにくくて、威力を出しにくい……。体格の良い選手でなければ、いいこなせないスタイルだと言える。だが！身長185cm・リーチ203cmという、中量級としては非常に恵まれた体躯を持っていたハーンズや、あるいはこの長身の雑種強勢ミックグスキリン（フレンズ化前には超大柄なオスキリンであつたらしい）のフレンズには、まさにピッタリの戦闘スタイルだと言えよう！ さらに左腕が下がっていても、半身に構えれば左肩で自然とアゴをガードでき、頭が脳震盪で揺れるのを防ぐことができ。また、あえて前の腕を下げて視野を広げることにより、目のいいボクサーであれば、むしろ反応力が向上して防御精度が高くなる、とも言われている。ちなみに、後ろ足だけがつま先立ちのインファイト・スタイルに対して、アウトボクシングでは両足つま先立ちになるが……キリンはもともと蹄行性ていこうせいの動物であり、つまり元来「動物のつま先」と言えるヒツメで立っている動物であるため、フレンズ（≡ヒト）のカラダでの「つま先立ち」ともマッチしていて、超高速でのフットワークが可能となる！ ……。

その構えから……キリンのジャブの速射がセルリアンの長い口に、重機関銃のごとく炸裂だアツツ!!

掃除機の吸い込み口のようなセルリアンの口吻が、ブリキのオモチャがへこむみたい  
に簡単にひしゃげているツツ!!

動物のキリンのネッキング〔ネッキング(その1)〕繁殖期のオスキリン同士がメス獲得のために、長い首を棍棒メイスのようにぶつけ合うという、過酷な決闘だ! オスの「武器」である頭部はメスよりもだんぜん重く、オシコーンヒコツ(皮骨が頭蓋骨と癒着して形成されるツノ、よく5本と言われるが、解剖学的に正確に言うと3本)が発達し、首から上の重量は約150kgにも達する。このネッキングでは負けたほうは頸椎が折れて死亡することもあり、たとえば2009年のニジェールでは、野生キリンの生息数がごく少ないにもかかわらず、ネッキングでの死亡例が2件も確認されている……。このように、キリンの長い首はオス同士の決闘用武器という「機能」があるが、これが「首が長くなった原因」というわけではないらしい。(つづく)に由来するワザなのだろう。オスキリンの頭部のように大きく固くツノが盛り上がったマフラーの先端部を……超高速のスピードでムチのように動かし、遠心力によってセルリアンの装甲に叩きつけているのだッ!

「腕マフラーと首のネッキング〔ネッキング(その2)〕キリンの首について、かのチャールズ・ダー

ウインは『種の起源』にてこう書いている——首が長ければ高い場所の葉っぱを食べやすく生き残りやすい……つまり、首が長い個体ほど、後世にその遺伝子を伝えやすく、結果、世代を経るにつれてどんどんキリンの首が長くなっていった……というのがダーウインの説だ。この仮説は、化石に残された証拠にも裏付けられている——新生代・第三紀、1, 400万年〜1, 200万年前ごろの「中新世」の半ば頃から、アフリカ大陸は全体的に乾燥化していき、大部分の森林がサバンナへと変化していった……。そのため、かつて森林棲であったキリンのご先祖たち（シヴァテリウム、ギラツフオケリクス、サモテリウムなどのキリン類）はサバンナに適応するため、だんだん大型化して首も長くなっていき、その現代の生き残りがキリンというわけだ。というわけで、キリンの首は「高所の葉を食べる」ことが第一目的だったが、その後……その主目的とは矛盾しない「オス同士の決闘用鈍器」という機能も兼ねるようになっていく。またそれ以外にも「視点が高所にあるので外敵などを発見しやすい」「首だけ下げれば立ったまま水を飲める」「放熱面積が大きくなるので体温調節に役立つ」……などなど他のメリットもあって、彼らの長い首はまさにサバンナでのサバイバル用のマルチツールなのだとと言える——高枝切りばさみ、棍棒、潜望鏡、ストロー、麦わら帽子、e t c. ……多機能の十徳ネックですなあ。での二連装のジャブ速射砲……！ な、なんというパワーと速度、そして長いリーチ！ まるでネックの千手観音【ネックの千手観音】新日・UWF・

リングスで活躍した前田まえだ田日明選手に、名実況で知られる古館伊知郎ふるたらいちろうリングアナがつけたあだ名が「キツクの千手観音」である。そして、ジャパリパークのキリンの場合は……「ネツクの千手観音」なのだ！ どっちも日本語的には矛盾しているが、へーきへーき！

格闘技実況界においてはそんなツツコミは無用であるツ！ 実は、キリンという動物は「サバンナ最強説」がある！ ……脚が長いため急所が地面から遠いし、目が高い所にあつて視力も良いし、脚も速くて時速50km程度で走れるし、前述の「ネツキング」の威力や、強靱な脚力での蹴り技がモノスゴイ！ 彼らが草食動物でよかつたけれど、かりに肉食だつたら……想像したらメチャクチャ怖い！ ちなみに、このTIPS名と同名のフレンズキリンの仏像風フィギュアがかつて存在し、ヒトのいた頃にさばんちほーの駄菓子屋やじゃんぐるちほーの美術館で限定販売されていたそうだが……首マフラーや手足が何本もあるという奇ツ怪極まる造形であつたそうだ……。もちろんそれは、このキリンフレンズの高速打撃系ファイトスタイルに由来することは言うまでもない。※

なんで仏像風なの？という疑問の答えは、ヒンドウー神話の破壊神シヴァに名前が由来する「シヴァテリウム」というけもののが、キリンの先祖（の仲間）だつたから……という、わりといいかげんな理由が存在する。だツ！！

『名付ケテ コレ、ふりっかー・ねつきんぐ「フリッカー・ネツキング」腕自体をムチのようにしならせて、体幹のバネと手首のスナップを効かせ、独特の軌道を描くジャブを

「フリツカー・ジャブ」と言い、上述のトーマス・ハーンズが得意としたワザである。そしてコレはキリン版である「フリツカー・ネツキング」ならば、腕に4ヶ所の稼働部位（手首・肘・肩・肩甲骨）しかないヒトのパンチングよりも遥かに強力なのである！……ヒトや、他の多くの（ナマケモノやマナティーなどを除く）哺乳類の「頸椎（首の骨）」の数と同じで、動物キリンの頸椎の数も「7個」なのだ……。『キリン解剖記』著者の郡司芽久先生によると、キリンの場合はその第一胸椎の形状が異なり8個目の首関節のように働くという……！そしてフレンズキリンの「マフラー」の関節にも同じく8個目の関節がある！つまりヒトの腕の2倍の関節の数なのだ！その多関節によりスナップを利かせ、ヒト以上の身体能力から繰り出されるネツキングパンチは……ヘビー級プロボクサーのジャブをはるかに超える、間合いと速度と威力！この銃弾以上の威力と連射力の精密なパンチを、キリンは軽々と何十発も繰り出せるのである！ト 呼ぶ！」

「しかも、戦車セルリアンの口吻や寄生体の触手の振り回しを、フットワークや上半身の動き【上半身の動き】ダッキング、スウェイバック、ウィービング、スリッピング・アウェイなどといった、ボクシングの「首を振る」動きの回避技術だ！現代ボクシングなど全く知らないハズのキリンなのだが……、その「動物の特性」を、「フレンズ（≡ヒト）のカラダ」で発揮しようとする場合……このように、一流スポーツ選手やプロの格

闘家と同様の動きを——つまり効率的で洗練された動きを本能的に行うのである！

この興味深い現象は、フレンズとヒトとの「収斂進化しゅうれん」と呼ばれている！で避けまくっているッ！！」

『キリンノ「草食動物ノ眼」ニハ 死角ハ無イ！ 回避力ウ……デスカネエ……』

「くぬやろつ！！ くぬやろおおおーッ！！」

おおッ！ キリンのパンチとキックとマフラー連撃を見よ！

『セルリアン意識ヲ 上下左右にニ 揺ラシテイル！ 「対角線コンビネーション」【対角線コンビネーション】別名：オランダ・コンビネーション。近代キックボクシングやフルコンタクト系空手など、蹴り技OKの打撃系格闘技で見られる基本テクニクだ。攻撃目標を上下左右に動かして、つまり攻撃の射線を交差させて「対角線」を描くような連携攻撃。ジャブ・右ミドル、左ロー・右ストレート、ワン・ツー・フック・右ロー……といったように、左上↓右下や右上↓左下などと、今の打点から遠い位置を攻撃していくことになる。上下左右交互に手足を繰り出す動きは、ヒトの身体操作において自然に繰り出しやすく、それは動物がヒト化したフレンズの身体の場合も同様なのだ。さらに攻撃目標が分散するため、相手の意識を上下左右に振ることで反応やディフェンスを遅らせて、連続攻撃が当てやすくなる。それ以前のタイ式ムエタイのワザとは違う、自然にして合理的なこのヨーロッパアン・コンビネーションは、80、90年代に「キックの帝王」

と呼ばれたオランダ人キックボクサー、ロブ・カーマンが、日本のキック界に広めたものであると言われている。かつてのK-1のアーネスト・ホースト選手なども、こういう動きをしていたのを覚えている読者の方もおられるかもしれない。……そんなことは全然知らないキリンだが、コレにさらにマフラー攻撃を加えて、つまり多角形の対角線を描くコンビネーションを本能的に繰り出してツ!! ヒトのキックボクサーよりも複雑な対角線連携……上下左右に動線を引き、多角形の「模様」を描く——言うなれば、キリンフレンズのワザ「アミメ模様コンビネーション」と言ったところか!」**「ダー!」**

「注射器セルリアンどもの群れと戦った時よりも本気だぜエツ! ……本気で戦うところになに強かったのね、キリン……! 実は今までちよこつとだけバカにしててゴメンネ……」

2本の腕と2本の脚という、ヒトのワザに加え……マフラーという新たな両腕を持つこのフレンズであれば、4本の腕と2本の脚で上中下左右に自在に攻撃を繰り出せる! 中国武術の「多節棍」や、脚の長いタイ人キック選手のしなるキックを思わせる動き!

だが、それら「人間のワザ」との違いは、首を中心としたマフラーの回転運動【マフラーの回転運動】攻撃命中時の反動を利用して、反対方向へ回転させての連続攻撃を行ったり……空振りの一撃をそのままの勢いで振りぬき、そのまま体を一回転して、タ

イミングをずらしつつ遠心力で威力を増したフェイント攻撃を食らわしたり——「回転」運動ならば、運動エネルギーのロスがなくて非常に効率的なのだ！人間にはとても無理な芸当な「フレンズのワザ」……。これは七色に輝く「サンドスター」のエネルギーが力学的エネルギーに変換されて、ヘリコプターのローターのごとくマフラーを回転させているらしいのだが……!? だがその攻撃スタイルを支えるのは、キリンの細い首に隠された……アマレス選手もビックリの、尋常ならざる首の筋力！ かつてどこかのフレンズが、キリンのフレンズのことを『強そうな首だなあ……』と評したというが、まさにその通りなのである！だ！

「これ言っちゃ悪いが……推理中の姿より……最大限に合理的な攻撃を行う今の彼女のほうが、よっぽど理知的いし、かっこいいぞっ！」

「さっすがア！ やつるうキリンっ！」

「さすが、さばんなちほくのフレンズは、やりますぞう〜！」

華麗なるキリンの攻撃に、カラカルもマルミミゾウも感嘆の声をあげている！

「ふ……『しんし』はつねに『すとれーと』よ【紳士は常にストレート……】このナゾのセリフ……そして直後のナゾの構え……。キリンのこの一連の言動、ホームズ物語の「最も正当なる映像化」と称されるグラナダ版ドラマのワンシーンが元ネタ。「美しき自転車乗り」という話での、古式ボクシングの場面である。キリンはそのVHSをどこかで

見たのだ。なお、こういうびでいおや、おんがくや、げえむや、まんがなどといった「ヒトの遺物」は、まれにパークで発掘される。それらのレアな遺物は、その扱い方を心得ているフレンズ——しんりんちほくの「いどうとしよかん」の長である「博士」や「司書のフレンズたち」（ヘビクイワシはそのひとり）によつて大事に管理されているのである。※ところで、このぐるぐるの動きは、たんなる挑発やテンションを上げるためだけのごっこ遊び、ではなくつてえ……マフラーの盛り上がった両端を頭部と誤認させて、敵を攪乱するというアドバンテージもある。……!!」キリンが両腕とマフラーの両端をぐるぐると動かして高らかに宣言する。「そして私は『しんし』であるっ！」

「ヤッター！　なんだか変な動きだし、言葉の意味はよく分からんがカツコイイぞ！　キリン！」

## 第20話 麒麟よ心に獅子を抱け



麒麟の素早くかつパワフルな攻撃を口吻部に受けて、ひるむセルリアン！  
ヤツの掃除機の吸い込み口のような口吻が、ペーパークラフトのようにひしゃげてい  
るではないかッ！

『……ワワワ！ デモ僕ラ、呑気ニ 実況解説シテル場合ジャ ナイヨ！』  
「おおつ、その通りですッ！」

ヤツがひるんだ今のうちに、早くバイクをはまりから脱出ださなければッ！  
私はギアをNニユートラルに入れてから、シートから飛び降りてバイクの後ろへ向かう！

「コレだ！ コレがフロアマットだよ！」

座席の奥に突っ込まれていたマットを後輪の下に差し込み、カラカルとマルミミゾウ  
と一緒に後ろからバイクを押す！

「おおく！ それがそうなのか！ これで今晚はひとつ、かしこくなつたわねッ！」

「そうだなっ！ 今後の人生、いやフレンズ生せい？に活かそうっ！」  
「急ぐんだぞうく！」

3人で一緒にバイクを押すと……フレンズの腕力のなせるワザで、深々と穴に落ち込

んでいた車輪はカンタンに陸地へと戻すことができた。

「よしGO! つてあれ……?」

「どおした、ばす? うごかにやいぞ?」

「ウワーツ!」

「ウニャーツ!」

「バオーン!」

『ウワワワーツ!』

……ちよつとウイリー【ウイリー】後輪走行のこと。ハナコ『いや、あのね、ニュー  
トラル入れてたのね、そして、それ知らないで、セカンド発進だと思って、それなりに  
スロットル回したら、動かないから、アレッツと思って、ギアいじったつけ、ロー入っ  
ちやつて、もうウイリーさ』と、のちに被害者は語る。しながら、看板【看板】皮肉に  
も『安 全 第 一』と日本語で書いてある赤さびた工事看板。あの「かばんさん」が、  
長き「ヒト探しの旅」ののち……たくさんのヒトを連れ帰つて、人間文明を復興させた  
というパークの黄金時代ゴールデンエイジの名残りのひとつだ。に突つ込んだが、大丈夫だ!

「よし、大丈夫! わははは!」

「なにが大丈夫なのよっ!」

『笑い事じゃ ナイヨ』  
「なまら怖かつたぞう」

「よーし！キリン！ サイドカーに戻るんだっ！ 変形したヤツはえたいが知れない  
【えたいが知れない】この「えたい（得体）」とは「正体」の意味だが、実は語源がよく  
分からない。つまり「えたい」とはえたいが知れない言葉なのだ。一説には「体を為す」  
と書いて「ていたらく」と読む『為体』のことであるとされていたり……あるいは『衣  
体』、つまり僧侶の着る衣のこと（僧侶の法衣が宗派や地位によって形状や色、素材が異  
なる点に由来する）だという説もある。今回のセルリアンの場合は「その増加装甲の正  
体が不明」という状況なので、後者の説のほうが似合うかも？（そーゆー問題なのか？）  
からっ！ いったん距離を取るんだッ！」

だが！

「いいえっ！ セルリアンはここで倒すわ！」

こちらを振り向いて【振り向いて】捕食者に背を向けるのは、一見大きな隙を見せて  
いるように思えるが……キリンのような瞳孔が横長の草食動物のフレレンズは視野がと  
ても広いため、サンドスターを使った認知能力により、ほぼ真後ろもしつかり警戒るこ  
とができるので問題ない。ただし、視野が広い代わりに、距離感の把握や静止視力など

は「正面に眼のついた動物」のフレンズに劣るといふ欠点こそあるが……。キリンいわく『かしい名探偵は後ろにも顔がついているのよ！』だから、かばんさんも、ほーむず先生も、前と後ろがよく分らない「ぼうし」をかぶっているのねっ！』 ※まめちしき：シャーロック・ホームズの有名な帽子「ディアストーカー」には、彼女の言う通り、後ろにもひさしがついています。それは後頭部を木の枝などから保護するためなのです。そして頭頂部には後付けの布地がかわいいヒモで結ばれています。これらは降ろして使う「耳当て」なのです。以上の説明から分かるように、この帽子はアウトドア用で、映像作品などでロンドンで被ってるのはちよつと場違いだったりします。そう言い放つキリン！

「な、なにいつ!? どうするつもりだっ??」

「このセルリアンの『ほうげき』——つて言うのかしら?——『ものを飛ばす攻撃』は、離れば離れるほどキケン……! ということは、このまま接近戦で倒すのが一番よっ!」

「そ、それはそうだが……」

「さてキリン! アタシの勘【勘】「直観」とも言う。一見すると、ただの「当てずっぽう」のようにも聞こえるが……ヒトの専門家や熟練職人の「勘」が「鋭い観察や考察の積み重ねで結論を導く非言語的なプロセス」という立派な技能であるのと同じように、

狩りの専門家である肉食獣フレンズの、戦いに関する「けもの獣の勘」は当たっている場合が多い。※後述する「本能」もご参照下さい。……つーか、本能【本能（その一）】動物が生得的に（つまり、誰に教えられたわけでもなく）備えている高度な叡智のこと。しかしこの「本能」という言葉は現代の動物学ではあまり使われていないそう。なぜなら「それは動物の本能だ」と言うと、一見説明になっているようで、実は説明になっていないからだ。一例をあげると……ガンのヒナは捕食者である猛禽類が飛んでくると隠れるが、同種であるガンが飛んできてても隠れない、という現象が知られている。これは、ガンには生まれつき鳥の種類を見分ける能力があるのだ！……と、以前は考えられていたが、研究が進むにつれ、実はそうでもないことが判明してきている。（つづく）だけど、セルリアンの形が変わった装甲カアラは、なんかスゴクやばい感じっ！ ハナコの言う通り、いったん様子けん子見にまわったほうがいいわよっ！」カラカルが叫ぶ。

「そうですね！ わたしの本能【本能（その二）】——実は、このガンのヒナの行動パターンには、2つの段階プロセスが含まれている——ガンのヒナは、初めから「あらゆる飛来物」という刺激に対して「隠れる」という生まれ持った（＝生得的な）行動プログラムを持っているが、同種であるガンが飛んでくるのを見ることを何度も経験すると、「隠れる反応が鈍く」なっていく……。これは生物学や心理学では馴化じゆんかと呼ばれる現象で、生まれつきの行動アルゴリズムが、学習によって変化するわけだ。つまり「タカが来ると隠れる

が、ガンが来ても隠れない」というのは、生得的な反応と後天的な学習が組みあわされており、これらをいっしょくたにして「本能」と呼んでも、動物研究は全く進まない……。なので、近年の動物学では本能という言葉があまり使われない、というわけなのです。もうそう言ってます！ だいにけいたいに注意するのは、げえむのお約束ですし！」

「でも、そのばいくは、とつても足が速いようだけど……また今みたいに、穴にはまったくキケンよ！ 私が推理〔推理〕論理的推論ロジカル・リーズニングとも言う。観察、証拠の収集、利用可能な情報からの検証、実験、そして論理的な結論に至る。だがひとくちに推理と言っても、実は3つの種類がある：1.) 演繹、2.) 帰納、そして、3.) 仮説形成である。1.)

ディダクシオン

演繹は「前提が真であれば結論も必然的に真」という、古典推理小説ではよくあるタ

インダクシオン

イプの推論方法だ。2.) 帰納とは、前提を仮定してから説明する方法で、必然性では

なく蓋然性に基づいて「いかにもありそうなこと」を考える——推理小説では、ちよつと間抜けなワトスン役や警察が行う間違つた推理である場合が多い。最後の3.)

アブダクシオン

仮説形成では、可能性のある複数の「仮説」を想定して、どの「仮説」が観察結果や物

的証拠に最も一致しているかを検討する——シャーロック・ホームズが、3つの中で最もよく取っている方法がこのアブダクシオンである。なお、ホームズと同時代の19世紀の生物学者「チャールズ・ダーウイン」の進化論——動物観察や化石収集から導き出された、自然淘汰（自然選択）や適者生存などの仮説は、まさにこれら「3つの推理方

「法」の見事な実践なのである。するに、やっぱりココで戦うべきなのよっ！」

「うゝむ、それもそうですぞう……」

「キリンの話にしちや、めずらしく筋が通つてるわね……」

「だ、だがそれは蛮勇というやつでは……？ ライオンさんたちが束になつても敵わなかつた相手だぞ！ 真つ向勝負で勝てるのかよ……!?!」

「体はキリンでも心はライオンツ！ ここは本能よりも、論理的【論理的（その1）】『動物的な直観よりも、人間的な論理性のほうに従うべき』とキリンは言っている。ただ、こんなことを言うからには、彼女も動物の本能的には、なにかイヤな予感を感じているのだろう……。だがそうは言つても、ヒトは時として「論理的には間違つた選択」を本能的に選びがちなのである……。その一例として、『4枚カード問題（ウェイソン選択課題）』という以下の心理学実験がよく知られている——ここに「け」「ふ」「2」「R」と書かれた4枚のカードがあるとす。これらカードは、片面には「ひらがなかカタカナ」が書かれ、もう片面には「数字かアルファベット」が書かれている。さて、ここでクイズです……。「ひらがなの裏には数字が書かれている」と仮定すると、この仮定が正しいことを確かめるためには必要最低限どのカードをめくることになるでしょうか？（答えは次のTIPで！）に考えるべきよっ！」キリンが叫ぶ。

「セルリアンは明らかに弱っているわ！ さつきマルミミゾウも論理的【論理的（その

2) その1のTIPのクイズの答え「け」と「R」の2枚が正解でした〜。これは、仮定である『ひらがなの裏は数字である』と、その対偶『アルファベットの裏はカタカナである』のふたつだけを確かめればいいわけです（※カタカナや数字のカードの裏面は、よくよく考えれば仮定とは全く関係無いため、「フ」と「2」はめくる必要が無いのですね）。だが、この論理パズルは、ウェイソンの1966年の実験では正答率は10%未満であつたという……。とくに多くの人間には、「2」のカードまでめくってしまう傾向——つまり余分な証拠まで集めたがる傾向があるという結果になつた。ここで面白いことに、この4枚カード問題は、日常的なルールにあてはめると、とたんに正答率が急上昇するのだ。例えば「15歳」「20歳」「自転車」「オートバイ」という、両面にそれぞれ「年齢」と「乗り物」が書かれた4枚の免許証的なカードがあるとして、『バイク（大型自動二輪）に乗る人の年齢欄が18歳以上』という規則が守られているかどうかを確かめたい場合、ほぼ全ての人が正しく「15歳」と「オートバイ」のカードをめくることがができる——前述の論理パズルとは、本質的に同じであるにも関わらず、だ。（つづく）に考えたとおりにねっ！ おなじく論理的（論理的（その3））これは、進化心理学者のレダ・コスミデスらによると、論理学という人間的でない思考方法よりも、なじみ深い社会生活の規則のほうが、ヒトは正確に把握できるからだという。このヒトの「社会のルールの把握」の正確さという性質に関連して、コスミデスはさらに『ヒトは「裏

切り者検知」の習性がある動物だからだ』と言っている——ヒトは助け合う習性のある社会性動物だから、その社会のルールをよく把握し、そして、ルールを把握しない「裏切り者」をすぐに発見して、排除する習性を持つのだ、と。……要するにヒトは論理的な動物ではなく「きわめて社会的な動物」なのだと言えます。「身内に優しく、規則に厳しく、裏切り者は罰する……」って、極道やマフィアの掟オメルダみたいですが、こういう現実世界から無くなるべき反社会的な集団は、フィクションの題材としては時代と老若男女を問わず人気ですが……それはヒトの本能に訴えかける何かがあるから、なのかも……?には、このセルリアン……この名探偵のパワーとスピードなら倒せるはずよっ！」

そうこう言い争ううちに、キリンの打撃のダメージから回復するセルリアン！

「うもーっ！」

そこへ間髪入れずキックを一発！ 上段後ろ回し蹴り【上段後ろ回し蹴り】バックスピンハイキック 空手やキックボクシング、中国武術、テコンドー、カポエイラなどの格闘技で使用される蹴り技。相手に一瞬背を向けてから、ふたたび体を反転させて、大きく振り上げた脚の力だけで蹴るキック技。スキがとても大きいマフラーが、威力もとても大きいという高難度のワザだ。……だがキリンフレンズの場合は！ 首を腕マフラーのように振ることでバランスを取り

かつ反動によって回転力アップ！　そしてヒット時にはマフラーの両端を着地させることで安定した3脚状態になって、しかも地面を踏みしめて威力をアップ！　ヒトの「1脚での蹴り」よりも、はるかに強力でしかも安定感がある！　ネッキング攻撃よりもリーチは短くなるが、強靱な脚力による高威力のキリンの蹴り技を見よ！　※なお、動物のウマやシマウマのキックは、人間のイメージ通り後ろへ蹴るが、キリンの場合は回し蹴り風の動きになる。キリンは他にも、膝蹴りやかかと落とし（のようにヒトには見える動き）といった、多彩な蹴り技を繰り出すことが知られている——これは多数の飼育員さんや獣医さんが目撃しているし、写真や映像も残っている。そして、動物キリンの蹴りは自動車を横転させるほどのパワーがあり、それを受け継ぐフレンズキリンのキックはその10倍……いや100倍も強力だと言われているぞ!!

「うおっ！　危ねえ！」

『ハナコ、言イ争ッテル時間ハ　無イヨ！　離レルンダ！』

「でも、キリンだけ置いていくことはできないよ！」

『近クニイレバ、アノまふらー攻撃ノ　巻キ込マレル〔巻キ込まれる〕ゾウ、カバ、サイ、キリンといった大型草食動物のフレンズ達は、パワフルな戦いを得意とする反面、あまり精密な攻撃ができないことが欠点だ。先ほどネコ科フレンズ軍団を指揮したバーバリライオンや、あるいはオオカミやリカオンといった集団で狩りをする動物のフレンズ

とはちがつて、キリンやゾウは単体での戦闘能力は非常に高いが、ほかのフレンズとの連携行動が取りにくい。しかもキリンのマフラー攻撃はその「リーチの長さ」が仇となつて、うっかりすると近くにいた味方フレンズに同士討ちフレンジーファイアー（洒落にならない……）する危険性が高く、それを警戒して、本人も味方も効率的に動けなくなってしまうのだ。※なお、集団で狩りをするネコ科動物はライオンのみ、というのがかつて常識であつたが、それを覆す集団で狩りをするチーターたちの映像が2021年の『ダーウィンが来た！』や『ワイルドライフ』などで放映されている。チーターは狩りの成功率がそれほど高くないので、この集団行動はその成功率を少しでも高くするための新しい習性であると考えられている。この「獲物シェア」という新しい生活様式が、将来チーター達の間で広がっていくかも……？ヨ！』

「くそっ……！　そういうわけで、キリン……私たちは離れて、あんたの『フレンズパワー』を見物させてもらおう！」

「望むところよ！　さあ、名探偵の大活躍を見よっ！」

「死ぬんじゃねえぞ！」

「うも……さあて、このセルリアンとは、どう戦うべきかしらねえ……？　名探偵キリンのりゅうれいなる推理【名探偵キリンの流麗なる推理】（このセルリアン、「武器」で

ある口吻くちをボコボコに叩いても、ダメージはほとんど無いわね……。かといって、私にはライオンやレイヨウの子みたいなのがジャンプ力も無いから、あのセルリアンの背中の高い所にくっついて「寄生体ほんたい」を、跳んで攻撃するのは無理ね……。マフラーでもあそこまでは届かない、か……。ここはやはり脚部あしを叩いて動きを封じてから、背中をよじ登るしかないっ！ そのためには、あの増えた側面よこの殻を壊すしかないわねっ……) によると……。これでもくらえっ！」

と叫ぶと、キリンはすばやいステッピングでセルリアンの側面に回り込みダッキンググフック「フック」とは、ストレートと違って「弧を描く軌道のパンチ」の総称。ヒトのボクシングにおいては、視界外から飛んでくるためにKO率が高いと言われている。腕のチカラだけではなく、下半身や体幹の回転力を伝えること……。つまり「腰を入れる」ことこそ、ヒトでもフレンズでもポイントとなるぞ。ここでのスウィング（もしくはオーバーハンドやロングフック）というのは、大振りの右フックのことだ。アウトボクシングを好むキリンだが、このように接近戦インフアイトに持ち込んでもこの強さなのだ！を初段として、ショートフックの連打を何度も増加装甲に叩きつけるッ!!

「ぱおッ!! サバンナのキリン名人のネッキング1秒16連射ですぞう!!」

マルミミゾウもよく分からないことを言って興奮している！

こころなしか、こめかみあたりから謎のオーラ【謎のオーラ】元オスのゾウフレンズに見られる、マスト（英：m u s t h もしくはm u s t）というサンドスター現象。詳しい解説は、ゾウさんが大活躍する次回に！ ころご期待！が出ているような……。

すると、パンチの連打で増加装甲【増加装甲】戦車の側面の履帯まわりなどに追加される補助装甲。戦争映画などで、ドイツ軍の4号戦車などについているスカート的なアレです——ドイツ語Sch・r・z・e・nは「エプロン」の意味。もともとは対戦車ライフル弾を防御するためにつけられていた装備。とても薄く、大口径の対物ライフルなら簡単に貫通されるモノだが、貫通の際に弾の向きが変わるために威力を大幅に軽減できたという……。また、しだいに戦車装甲と増加装甲との間に「空間」を作ることによって、成形炸薬弾の威力を軽減させる目的で追加されるようになっていく。「空間」さえあればHEAT弾のモンローノイマン効果を妨げることができる……ということ、対HEAT弾専用のスケスケの金網製スカートも存在しました（4号戦車の後期型の「トーマ・シールド」など。ソ連軍ではその辺のベッドやら金網やらを張り付けていたとか）。でも、こういったシュルツェンは履帯や転輪に絡まってジャマな場合も多かったとか……。このセルリアンのシュルツェンの場合も、前回の推理どおり、防御力は向上した。が足まわりが動きにくくなってしまい、今のキリンの側面回り込みにも、重い胴体のほうは全く対応できていないのだ！ 胴体の動きをとまなわない、口吻部分だけの振り回

しでは……その攻撃の威力は激減しているっ！がカニの殻を割るようにたやすく破壊されて飛び散り、セルリアンの弱点である多脚部あしが見えてきたッ！

「おお！ 殻が破れてきたぞっ！ 言ったとおりやるじゃねえかキリンッ！」

「……あつ！ 危ないッ！」

セルリアンが自身の口吻を横に折り曲げるようにして、地面スレスレの側面へのすばやい薙ぎ払い「薙ぎ払い」南半球に生息する曲頸類きょけいのカメのごとく、口吻（首）を横へ回しての攻撃だ。この戦車（ダンゴムシ）型セルリアンの動きは基本的に緩慢だが、首の筋肉は発達しておりこのように比較的すばやく振り回すことができる。またコイツは本来は草食性であり、とくに下草を好んで食べるセルリアンのため、口の形はシロサイやジユゴンのように平たくなっており、このように地べたスレスレまで口吻が届くのだ。だが、こんなものはキリンにとつては遅すぎる攻撃……スウェイバックで後ろに避けてもいいが、さらなる攻撃に繋げるためには……？ッ!! 足払いだっ!!

「猛ッ！」

と呻り声を上げ、危なげなく片脚を上げてマフラーと両腕で防御！

「あ、あの大木みたいに重厚おもい薙ぎ払いを……いとも簡単にカット「カット」キックボクシング（ムエタイ）やフルコンタクト空手（極真空手など）や総合格闘技など、蹴りを使う格闘技での、下段蹴りや中段蹴りへの基本の防御技術。片脚を上げてスネやヒザで

防御し、弱点である太腿やふくらはぎへのキック直撃を防ぐ。人体の脚の筋肉量は腕の  
 その数の倍と言われており、パンチよりも重いキックは、同じく脚のパワーで受けるの  
 が安全となる。さらに、硬いスネやヒザでうまく受けられれば、逆に攻撃側の脚にダ  
 メージを与える攻勢防御となる——つまり、こちら側のガチガチに構えた脚に、相手の  
 キックが突っ込んで来るワケだから、実質的にこつちがキックを繰り出しているのと同  
 じ効果なのだ。また、腕で蹴りを受けようとすると、必然的に重心が下がってしまうと  
 いう欠点がある——「低重心の体勢」は打撃系のキリンにとっては好ましくないのだ。  
 ※なお、脚へのタックル（双手刈や朽木倒など）ワザが得意な「サイ」や「イボイノシ  
 シ」などのフレンズは、逆に腕で受けることが多く、そこから下半身へのテイクダウン  
 に連携していくぞ。……で、問題のこのセルリアンの、軽自動車ほどの重量はあろうと  
 いう口吻部の薙ぎ払いだが……キリンの強靱な脚力と硬いブーツをもってすれば、この  
 ようにたやすくカットすることができなのだっ！ ※まめちしき：フランス式キックボ  
 クシングの「サバット」では、このように相手の蹴りをスネでカットするのは禁止され  
 ている——この格闘技は元はフランス紳士の護身術であり、当時の強盗は刃物を仕込ん  
 だ靴を武器として使っていたし、そもそもサバット用シューズのつま先や踵じたいが非  
 常に硬いため、「蹴りはスネで受けるべきではない」という思想があるんだとか。「素足  
 の格闘術」として発展したムエタイや空手との、歴史の違いです。したっ！」

『キリンノ フレンズハ、防御力「防御力」マフラーを上げて頭をガード、両腕を下げて腹をガード、フラミンゴのごとく片脚を上げ、超硬いロングブーツ（動物キリンのスネの皮膚は超高血圧による鬱血を防ぐためものすごく硬いのだ）で太腿をガード……この「天・地・人 麒麟防禦の構え」（誰が名付けたんだ？）ならば、軸足の太腿以外の、上・中・下段への攻撃を全てを防御（まも）れることができる！ キリンフレンズは攻撃力もモノスゴイが、このように防御力においても秀でているのだツ！モ 凄イノサ！』

なんと！攻撃側のハズのセルリアンの口吻が……逆にへこんで歯が吹っ飛んでいるツツ！ あの安全靴みたいに硬いブーツで防御（まも）けられたから、逆にダメージを受けているのだツ！

「うももも〜ツ！ ぱりつツ！」

さらにダメ押し！

マフラーの両端を結び、前方宙返りしながらの……諸手鉄槌（スレツジハンマー）打ち（ダブル）スレツジハンマー」両手を組んで振り下ろして相手の背中を殴るといふプロレス技。別名：ダブル・アックス・ハンドル。近代プロレスではたんなるつなぎ技だが、キリンがマフラーで繰り出せば超強力必殺技となる！ 動物のキリンが水場で首を下ろすかの如き「獣のワザ」なのだ！ 頭を下げて脚を大きく開いた姿勢——この空手の「騎馬立ち」のよう

なポーズから、下段諸手もろて突きを繰り出して、四肢を地面に付いた格好でマフラーを高所から打ち下ろすのだ！ 人呼んでコレ「水飲みスレッジハンマー」と呼ぶ秘技！ スキが非常に大きいのが、振り下ろしの重力が加わった高威力の打撃なのだ！ さらに今回は、前宙から繰り出すことで、遠心力でさらに破壊力を向上させている！ ※余談コーナー：パークのお土産売り場では、このキリンの首を下ろす動きそっくりの、「水飲みキリン」なる代物が売られている。フェルト製の黒紫色の長い舌を伸ばしたガラス製のキリンのおもちやなのだ。ちなみに、キリンの舌は本来はピンク色（舌の付け根をよく観察すると分かります）なのだが、メラニン色素の沈着により青黒くなり、サバンナの強い紫外線を防ぎ、アカシアのトゲでのキズや感染症から舌の粘膜を守る働きがある。なお、このおもちやの元ネタの「水飲み鳥」は、あのあいんしゅたいんおにーさんもビツクリの、毛細管現象や気化熱・気圧差などのたくさんの物理学の現象を駆使した近代おもちやなのです。ネツキングだツ！

口吻を上から叩き潰し、昆虫標本のごとく地面に押し込んだつ！

「（い）つあす（い）ぜつ！」

『コレデ、アノ口吻マズルハ、シバラク クギ付ケ状態ビギンダウツンダヨ！』

さあ！ 動けなくなつたセルリアンにさらなる追撃だ！

「よろし！ 横の殻のほうは……もう少しで、中身の脚を狙えるわねっ……！」

雄牛のような咆哮を上げ、増加装甲にさらに攻撃を加えるキリン！

「今ッ!! 犯人の身柄、もらったあッ!!」

キリンのマフラーマフラー高速刻み突ステップインストレートきがセルリアン装甲に炸裂ウツ!

「げえっ! キリンの首が伸びたア!」マフラー【首が伸びたア!】※注・実は……動物のキリンの首は伸びません! だがしかし! フレンズキリンのマフラーは伸びるのである! ふだんはマフラーの両端を垂らしているが、彼女のマフラーの骨は中でつながっているため、このようにリーチを2倍にしているパンチを打つことができるっ! ……カツパの腕みたいですねえ……。※「カツパの腕は体内でつながっている」という伝承があります。かつてヒトがいた頃の、前の世代のキリンフレンズの身体能力の調査によれば、0.1秒未満の高速踏み込みステップインからのストレート一発で、10m先に置かれたコンクリート塊を砂糖菓子のようにプチ割ったという記録が残っている!! この秒速100mを超えるパンチは、時速に換算すると時速360km以上!! このネッキング技、名付けて「ダブルリーチ・フルストレート」!」

だが……なんと!

パンチが着弾したセルリアン装甲が、謎の爆発!

「きゃあっ!」悲鳴を上げるキリン!

「な、なんだっ?! 今のは?? どうしたんだっ、キリン!?!」

「見えたわ! あの殻から何かが飛び出してきたのよ!」とカラカル。

「なにいつ!?!」

よく見ると……セルリアンの増加装甲からワイヤーのようなものが幾本も伸びている!  
!

キリンのスカートと靴下の間の、地肌を晒している太ももに、何かが喰らい付いているのが見える!

あ、あれは……さつきミサイルで一網打尽にしたはずの、トラバサミセルリアンの「大顎」と、注射器セルリアンの「隠し顎」ではないかッ!?

それらが、戦車セルリアンの側面装甲シユルツェンから飛び出しているっ! セルリアンの増加装甲に空いた穴から、まるでハチの巣の中の幼虫や蓮の実【蓮の実】インド原産の水生植物、ハス科ハス属ハス(学名: *Nelumbo nucifera*)の果実。なお、よく間違われるが「スイレン」はハス科ではない。※一部の人によつてはちよつと気持ち悪いので、画像検索しないほうがいいかもしれません。ちなみに、ハスのこの花托かたと呼ばれる部分に穴が開いているのは、空気を取り込むため——ハスは低酸素状態の水中で育つので、呼吸のためにはこの「エアダクト」で、水上から酸素を取り入れる必要があるのだ。この花托の穴は根にも直結しており、それがみなさまもご存じの「レンコン」な

のです。このように構造には理由があることを考えれば、気持ち悪い意識は薄らぐ……かも？の種のように……あるいは珍しいカエル「珍しいカエル」南米アマゾンに生息する「ピパ科ピパ属ピパピパ（学名もPipipapipipa）」という変な名前のカエルのこと。別名コモリガエル。※大多数の人によつてはたいへん気持ち悪いので、画像検索しないほうがいいかもしれません。というのも、このカエルには、産卵された受精卵をオスがメスの背中に埋め込むという変わった習性があるのだ。すると、背中の穴で卵が孵化し、オタマジャクシが母親の背中のたくさんの穴の中で育ち……成長すると、ロケットのリフトオフのごとく、子ガエルが勢いよく背中の穴ボコから飛び出してくるのです……。「参考資料」にその動画があります。インパクト大です。うくん、トライポフオビエア集合体恐怖症の人が見たらゲロ吐いて卒倒しそうな光景ですなぁ……。の卵のように、小型セルリアンどもが虚ろな顔を覗かせているッ!?

「にや、にやんだアレはっ!？」

「さつき殺したはずの小型セルリアンどもが、戦車セルリアンの装甲カラの中につ!？」

「やつつけたんじやなかったんですぞっ! ああやって、取り込んだんですぞう!？」

「なんですとっ!？」

『ツマリ、サツキノ ロケット爆撃ノ 膨大ナ「熱えねるぎー」ヲ使ツテ、周囲ノ小型セルリアンヲ増加装甲ノ内部ニ 吸収シタンダ! イワバ「セルリアン地雷」装甲 ダヨ

「！」

「まままマジでえ!？」

「よ、予想外の展開ね……犯人どもが一ヶ所に集まっているなんて……！　こいつらみんな、私の『名推理しよ』を聞きに来たのかしらねえ……!？」

強がりと言うキリンだが、その表情はひどく蒼ざめて見える！

満月の月明かりのせいだけではあるまい！

「キリンッ！　くそおっ！　脚に！　今の『セルリアン地雷』を何発も喰ら<sup>も</sup>ちまってるのかッ！」

「にゃー！　攻撃中【攻撃中】攻撃動作中は、どんな素早いフレンズでも回避ができず無防備な状態となる。ヒトの格闘技でたとえるなら……キックボクシングや空手では、こちらがパンチ中には、相手のローキックが効果的な反撃になる。パンチング動作中の体重の載っている前脚を狙われてローで攻撃されれば、脚を上げてのカットができない。そして、こちらのパンチよりもリーチの長い蹴り技を、太腿やふくらはぎにまともに喰らってしまうことになるのだ。ただ、基本的にキックよりもパンチのほうが動作が速いため、意図的にカウンターの狙うなら、相手が長めの間合いのパンチを打ってくるのを先読みして、バックステップしてローキックを放つ、などの戦術が必要となる。という

のも、逆にキック中へのカウンターのパンチもまた有効だからである——近距離での蹴りであれば、出の速いパンチで逆に迎撃されてしまうだろう。つまり、攻撃時こそが一番キケンであり、だから戦いはかけひきが重要なのだ。だがこのセルリアンの爆発装甲の場合はかけひきもクソもなく、完全なる自動反撃オートカウンターなのが非常に厄介で……キリンだろうとゾウだろうと、あらゆる直接打撃に対して一定確率で、カウンターの「セルリアン地雷」をモロに喰らってしまうのだ！ だったから、防ぎきれなかったんだわ！」

「うもお〜！ まず犯人の魔の手から逃れなければ……！ でえいッ！」

腹や太ももに喰らい付いたセルリアンの注射針やトラバサミを、大型動物であるキリンの腕力パワーで強引に引きはがして「強引に引きはがして」このままセルリアンどもの顎や針で束縛されたままだと、戦車セルリアンのパワーでズルズルと引き込まれて、その巨体で踏み潰されてしまうだろう！ なのでこの場合、無理にでも引っぺがして拘束から逃れることは最善の判断と言えるのだが……。しかし太ももの中に、トラバサミセルリアンの歯が残ってしまうことは非常にマズイ！ 体内に残留したセルリアンの体組織のサンドスターが、フレレンズのサンドスターの効力を阻害してしまうのだ——磁石の同じ極が反発するように……あるいは同じ電荷が「クーロンの法則」で反発するように——セルリアンのサンドスターと、フレレンズのサンドスターには、そういう「反発法則」があるのだ。（※健康なフレレンズの皮膚はサンドスターでコーティングされていて、仮に

高い崖から落ちたり大型バスにぶつかったりなどしても、かすり傷一つ負わないが……セルリアンの歯や針などがその保護膜を貫通できるのは、この反発作用のためだ）……そういうわけで、キズの治りが大幅に遅れてしまう！ 本来であれば、ヒルやダニに噛まれた時の治療法と同じように、ライターの火やタバコや薬品（虫よけスプレー、塩、酢、しょうゆなど）でセルリアンをびつくりさせて、ひとつひとつ自然にはがすのが最善の治療法なのだが、今回はそうも言っていられないので……。※よく誤解されているが、ヤマビルに噛まれて無理に引きはがすと歯が残るといのは、じつは迷信なのだ——マダニだと歯が残るので、そっちと混同されたのだろう。だが、ヒルの場合も強引にはがすのは傷口の治りが遅くなりやすいので良くない、らしい。それらの縛めいましから脚部を解放させる！

「これぐらい……全然へいきよっ！ 滝から落ちたみたいなものよ……！」  
「それって、ぜんぜん平気じゃないじゃねーか！」

彼女の足さばきがふらついている！ 出血【出血】蚊の唾液中の酵素アピラーゼや、ヤマビルが吸血時に出すヒルジンのように、「注射器セルリアン」もフレンズ（や野生動物）に隠し顎を撃ち込んでの吸血時に「血液凝固反応を阻害する液体」を注入してくる（※ヒルジンの場合は、血液凝固タンパク質「フィブリノーゲン」をフィブリンを分解する酵素「トロンピン」のはたらきを阻害する作用がある）。「トラバサミセルリアン」の大

顎で傷口がひどく裂け、そこからサンドスターが気化しつつある上に、さらにセルリアン酵素のせいで血が止まりにくいという、とても危険な状態だ！しているのだ！

「ぐっ……！」

それどころか、立っていられずに座り込んでしまうキリン【座り込んでしまうキリン】この状態になつてしまうと、セルリアンの攻撃が避けられない上に、攻撃力・防御力も大幅に低下してしまう……！ 腰の入っていない手打ちのマフラー攻撃やパンチはものすごく弱々しいし、しつかり立った状態でなければまともにガードできないのだ！

この時、薄れゆく意識の中で、キリンはこんなことを考えていました——『わ、私の華麗なる冒険も、これで最後の事件なのかしら……。あ、そういえば……前にじゃんぐるちほくのチンパンジーのフレンズが、座りながらも攻撃できるあいきどうとかいう技を教えてたけど……。わ、忘れちゃった……。うもく、マジメに聞いておけばよかったなあ……。』 ※チンパンジーというのは「武道家のフレンズ」です。ジャングルの木々の上層の林冠部に道場をつくり「フレンズ・ドー」なる実用的な戦闘テクニクを考案してフレンズ達に教えているのです。でも弟子はゴリラのセルリアン一人だけなので、入門者大募集中だそうです。！

「くそ！ ヤバイぞッ！ 待ってろキリン！」

私はすばやくバイクを反転させ、脚を負傷したキリンのもとへ走らせる！

セルリアンの口吻くわふちが叩きつけられていて、本体が動けないことが不幸中の幸いであつた！

「ムリすんなーキリン！ わたしが代わります！ 『ぼとんたっち』なんだぞう！」

「もなみ！ た、助かったわ！」

キリンをサイドカーの座席に乗せて、セルリアンから離れる！

代わりにセルリアンと戦うのは、マルミミゾウだ！

「運転変わってくれ、カラカル！」

「え!? またアタシい!？」

『ハナコ！ キリンノ 患部ヲ見セテ！ 橈骨動脈手首ノニ、僕ノれんずヲ 当テルンダ!』

「ヒカリさん！ 頼みます！」

『優先度トリアージ「トリアージ」戦場や災害現場での識別救急においては、「START法（Si

mple Triage And Rapid Treatment）」による判定—

—歩行可能かどうか、自発呼吸の有無、呼吸数、循環状態、意識レベルという5つの項目のチェックを行う。今回のキリンの場合は—歩行：不可能、自発呼吸：有り、呼吸回数：正常、橈骨動脈触知とうこつ：触知可能、簡単な指示：応える—ということだ「カテゴ

リー2：黄色」（準救急治療）である。：黄イエロー！……大腿動脈ハ 負傷シテイナイネ。中程度ノ負傷ダネ。治療手順ハ、僕ガ指示スルヨ」

サイドカーに移り、麒麟の傷口の治療を開始する。

「ちよつと痛いかもしれんが、我慢してくれ……！」

『僕二 元ノ身体ボディガアレバ、鎮痛剤ヲ 投与ツテ アゲラレルンダケド……』

「ふたりとも、ありがとう……。私としたことが『ばんゆう』だったわね……。やっぱり、麒麟がライオンになる「麒麟がライオンになる」生物的にはありえない話だが、将棋の世界では有り得る話です。といっても、普通の将棋（本将棋）の話ではありません。そのバリエーションである中将棋や大将棋、天竺大将棋では、「麒麟麒麟」の駒が存在し、これが「成るな」（敵陣に侵入するなどして、駒が変身すること。チェスでは プロモーション（敵陣に侵入する）と「獅子」の駒に変化するのです。さらに、大将棋・摩訶大将棋・泰将棋では「麒麟」は「大龍グレートドラゴン」に成り、大局将棋では「金翅ガルターダ」に成ります。なんだかよく分からないけど、すごいですね……。ちなみに、香象こうぞう（発情期の気の荒いゾウ）という駒も存在します。ちなみに、以上の話とは全く関係ありませんが、鳥取県や兵庫県には「麒麟獅子」なる獅子舞もありまして、鳥取県出身の故・水木しげる先生が妖怪化しております。のは難しいわね……」

「あの『爆発装甲』が相手じゃ、しょうがない……。それにしても、あれは一体……？」

『アレハ、地雷ノヨウナ原理ダト 推測デキルケド……』と言いかけて口ごもるヒカリ。

『イヤ、負傷者相手ニハ、気が滅入ル話題ケガニン【気が滅入る話題】彼こと軍用 L Bは、時々自分から言うように『高性能な AI』である。与えられた質問や現在の状況から、膨大なデータベースを検索して、最も適切な（＝優先度の高い）発言を選択するように、人間の脳を模した言語反射ソフトがインストールされているのだ。その逆に、このように「不適切」と分類される話題や、機密事項に設定された情報には、プロテクトをかけて喋らないようになってる。つまり「言うべきこと」と「言うべきでないこと」をわきまえているわけで……「ヒトと同じ会話」どころか、「ヒトよりもヒトらしい会話」をすることができる存在なのだ。※なお一般の「動物飼育係 LB」の場合は、動物の生態や飼育方法についての知識や、生物学・生化学・獣医学・地質学など自然科学に関する話題が豊富なのだが……軍用 LBは、戦術立案や陣頭指揮・射撃制御の補佐や、銃火器・兵器の性能や取り扱いについての解説、地形・距離を読み取って計算しての方向指示や経路案内、軍用機器の操作手順や応急処置方法の指示……などなどの会話を得意としてる。ダツタカナ？」

「いいえ、続けてちょうだい……。何か話していれば落ち着くし……。それに今はセルリアンの『とりつく』の推理を、少しでも進めておくべきよ！」

『……ジャ、僕ノ「推理」ヲ 話スケド……アレハ、小型セルリアンノ群レヲ 増加装甲

内二 取り込んデ、ソイツラノ「トラバサミ」ヤ「注射針」ノ習性ヲ 利用シテ、直接攻撃ヘ反撃スル「爆発反応装甲」〔爆発反応装甲エクスプロージブ・リアクティブ・アーマー（ERA）〕戦車の装甲の一種。2枚の装甲板の間に爆発物が充填されていて、砲撃を受けると爆発！ 敵の爆発にコチラの爆発をぶつけることで、砲撃の威力を軽減し分散させるという仕組みだ。しかしその原理上、戦車の周囲の味方歩兵を殺傷してしまうという重大な欠点がある。より扱いやすいスペースドアーマースペースドアーマー、コンボイ装甲コンボイ装甲などが発達した近年では、爆発反応装甲はあまり使用されなくなっている……。だが、このセルリアンの殻の場合は、その「副作用」を攻撃に転じているのだ！ 増加装甲に格子状に仕切られた空間に小型セルリアンが潜み、フレنزズのパンチやキックなどの攻撃に反応して小爆発して、フレنزズの攻撃の威力を軽減し……！

そして、連中の大顎や注射針が、散弾のように同時に複数飛び出すことで反撃を加え、さらに束縛するという攻勢防衛オフエンシブガード！ この装甲内部のいくつもの空間には、セルリアンが潜んでいないはずの場所も、あるにはあるのだが、だからといって命がけの「マインスイーパー」をするわけにもいかないのだ……。トシテ 武装シテイル……ツテイウ事 ダロウネ』

「うゝむむむ……。よく分からないけど……あれも『じゆう』や『たいほう』と同じで、火山の『噴火』みたいなものなのかしら？」

「おそらくそんなモンだろうけど……。叩くと出てくるわけだから、モグラたたきなら

ぬセルリアンたたきつてワケだろうね……。だけど、なんつー非科学的な話だ……」

『最弱ノ 歩兵デモ、使イ方次第 ツテワケダヨ』

「感心しとる場合ですか……。しかし、本当に科学的にはありえないですよ……。他の生き物を取り込む〔他の生き物を取り込む〕主人公は『非科学的！』『ありえん！』などと供述しておりますが、実はそうでもないです。酷似する生体現象として、捕食した生物の機能を取り込む「盗刺胞」という習性が、現実の生物においても観察されている。たとえば、ミノウミウシの一種アオミノウミウシ（通称ブルードラゴン）には、猛毒クラゲであるカツオノエボシを捕食した際、獲物から取り込んだ毒刺胞を自分のヒレに移し替える能力がある！（※刺胞とは、毒クラゲの持つ自動毒バリ発射装置。刺激を受けると時速130 km以上の猛スピードで針が射出される。標的に突き刺さり毒を注入する「貫通刺胞」や、貼り付いたり巻き付いたりして標的を束縛する「粘着刺胞」「捲着刺胞」など、色々な種類がある）また、クシクラゲ（有櫛動物）類の「フウセンクラゲモドキ」も、同様にしてクラゲの刺胞を取り込むことができる……。というかそうやって盗刺胞しないと、自分自身の触手には毒がなくて捕食できないため、生きていけないのだ。また、囊舌類のウミウシなどの一部の生物は、エサの藻類から葉緑体を細胞内に直接取り込むことが明らかになっている（盗葉緑体現象）。さらに話のスケールを大きくすると……真核生物が全般的に持つ「ミトコンドリア」や、植物の「葉緑体」なども、

その由来は、他の生物を取り込んで利用したもの（この仮説を「共生説」という）だ……。他生物を喰らい、その機能を「盗む」ことは、生物界ではごく一般的である。なんてー！」

『トコロガ、有り得ルンダヨ……。君達ノ目ヤ、僕ノ目ニ映ツタ現象デアル 以上ハ、ネ……。科学トイウ「結論」ガ、先ニ存在スルワケジヤナインダ……。ソレハ判断ノ絶対基準デハ無ク、実際ニ起コル現象ノ仮ノ説明ニ過ギナイカラネ……。』

「……まったく、ジャパリパークじゃありえないってことは、ありえないというワケですね……」

「うも……ヒカリは『博士』やホームズさんのように、難しいコトバを知ってるわねえ……」

傷口を水筒の水で洗い流し、黒曜石のナイフで切開する……。体内組織に残留するセルリアンの歯を取り除いてから、ダクトテープ「ダクトテープ」耐久性・防水性に富み、素手でも切れて便利なダクトテープは、救急医療用に使うこともできる。なんと、現行の米軍の応急処置キットの『IFAK2』（2013年から採用）にも、ダクトテープが含まれているぞ。や、先ほど見つけた吸水ポリマーシート「吸水ポリマーシート」前回のTIPでもチラッと記述されているとおり、高吸水性高分子（SAP）は止血剤としても用いられている。普通の布製の包帯の場合は、血が染み込んでしまうと止血能力が

著しく低下するが、吸水ポリマーであればその心配が薄いのだ。また「紙オムツ」や「生理用ナプキン」など、個別包装で清潔かつ人肌に触れる製品の吸水ポリマーであれば、応急止血用に使うことができる。※なお本編のように園芸用のモノは、人体に有害な物質が含まれている可能性があるため、応急処置用としては非推奨です。を張り付けて、止血処理を完了する。

「あなた、さっきのハイラックスの時もだけど、『わとすん』役がすごく似合うわね……『でんきさつか』じゃなくて、『いししゃ』って意味だけど……。ということは、やっぱりハナコはヤギじゃなくて、ヒトなのかも……」

「ああ……そういう推理は、この戦いが終わったらゆつくり聞くよ……」

こうして治療が完了した一方！

セルリアンのほうは体勢を立て直し、口吻を地面から引っこ抜いて、戦いに復帰しつつある！

この怪物と戦うのは、小さなフレンズのマルミミゾウだ……。

「あの子独りで、セルリアンを食い止められるのか……?」

『大丈夫サ！ マルミミゾウハ「戦象」ダカラネ!』

「戦象……?」

『古代ろーま軍ヤ かるたご軍ノ「戦象」トシテ 戦ツタ種類のゾウ、ダヨ！ 古代ノ  
戦争デ 言ウトコロノ 重戦車ダヨ！』

「そ、そいつはすごいっ！」

セルリアン戦車 vs フレンズ戦車の対決！

その火ぶたが、今切つて落とされる「火ぶたが切つて落とされる」語呂が良いの  
で言いたくなりますが、日本語的にはまちがいです。「火ぶたが切られる」が正解。類語  
の「幕が切つて落とされる」と混同された結果らしい。ちなみに、この「火ぶた」とい  
うのは、火縄銃の「火皿」(着火用の火薬を入れる部分)を覆うパーツのこと。火蓋を切つ  
て(＝開けて)、火皿に入れた口薬(くちくすり)(着火用火薬)を露出させることで、火縄銃の発射準  
備が整うというワケです。そこから転じて「戦いが始まること」を指すのですね。もし  
火蓋を落として(＝閉じて)しまったら、火縄の口火(くちび)が火皿に触れられないので、点火  
できなくなっちゃいます。！

「ばおおおっ!!」

セルリアンの後部めがけてダッシュで突撃するマルミミゾウは、意外と足が速い。寄  
生体の視界や、正面の「大砲」の死角となっている後部から、攻撃をしかけるつもりか

……！

だが！ 戦車セルリアンは突如……！ 後部から棒状のものを突き出し、そこから弾丸状のものを連続発射してきたのだ！

……ま、まるで、カバが尻尾を振り回してアレをまき散らすみたいだが！ 殺傷能力は段違いだ！

「せ、戦車セルリアンのうん——いや、後方機銃の銃弾まき散らしたッ!!」

『アレハ 戦車セルリアンノ肛門アヌスニ 寄生シテイル セルリアンダッ!』

「げえっ！ 寄生体がもう一体いたのかッ!? しかも尻ケツから出てきたあ!？」

突如戦車セルリアンの尻から現れた肛門寄生セルリアン（お下品ね……）の、大量の赤黒く輝く立方体のイボ痔の時の出血みたいな「機銃掃射」がマルミミを襲うッ!!

ど、どうなるんだあッ!? この戦いッ!?

いや分からん……全然わからんッ!!

## 第21話 普賢は大象に乗りて戦い [▲]

突如！戦車セルリアンの肛門からよきつと出てきた「別種の寄生セルリアン」【寄生セルリアン（その1）】パークのデータには「ヘリコプリアン」セルリアンとある。体長2〜3mの細身の体で、巨大ダンゴムシ（戦車）セルリアンの直腸付近に寄生しているセルリアンなのだ。食性は肉食寄りの雑食性。腸内に潜むことにより、捕食者から避難できるだけでなく、乾季サバンナの乾燥や高熱を防ぎ、また腸内に残留する食物から微量ながらサンドスターを取り出して栄養にしている。さらに作中のように、宿主である戦車セルリアンの背面に、いたずらものの動物やフレンズが近づいてちよつかいをかけると……コイツが肛門から頭を出して、長い首をグルグル回す遠心力により、らせん状に巻かれたアゴから再生する歯（多生歯性という）を瞬時に生み出しながら前方に高速射出する「機銃掃射のような攻撃」で追い払ってくれる。……というわけで、宿主である戦車セルリアンのほうには特に害は無いどころか、このように死角を警戒してくれるので、正確には「寄生<sup>パラシテイズム</sup>」ではなく「相利共生<sup>ミューチュアリズム</sup>」という関係だと言える。※なお、しばしば誤解されているが、現代の生物学の定義では「共生<sup>シンバイオシス</sup>」という言葉は「寄生の逆の関係」という意味ではないので注意。1990年代以降の生態学では「共生」とは、「相利共生」【片

利共生」「片害共生」「寄生」の4つの現象の総称である——つまり寄生も共生の一種なのだ。」!

な、なんだこのウツボのようなセルリアン〔寄生セルリアン(その2)〕現実世界にも「カクレウオ」なるヒトデやナマコの肛門に寄生する魚が実在し、別名「肛門魚」とか「腸内魚」あるいは英語では「真珠魚」<sup>パールフィッシュ</sup>などと呼ばれている(肛門に真珠<sup>パール</sup>……!?)。また、他の腸内生物としては、カバの直腸に潜む「プラコブデロイデス・ヤエゲルスキオエルディ」という謎多きヒルもいるぞ。ヒトの場合でも、魚から感染するサナダムシ(条虫)が有名だ。というか魚類全般、とくに淡水魚は、アニサキスなどの寄生虫がいる場合が多いのです。※寄生虫の心配が全く無い川魚は「サーモン」(刺身の養殖サケのこと。天然サケは危険性アリ)ぐらいなのです。川魚はヒトラしく十分に料理(加熱処理)したり、よく噛んで食べて、寄生虫の感染リスクを減らすのですよ、じゅるり。は!!。だが、激怒【激怒】そりや睡眠を邪魔されて怒らない動物はいないだろう。彼?は、直腸内で寝ていたところを無理やりたたき起こされて、おそらく(今夜はなんだか知らんが、周りがやけにうるさいし)と思っっていることだろう。(さつきは妙に熱いと思っ顔を出してみたら……これはどういう状況なんだ?? ……なんだか分からんが、オレの宿主に危害を加えるなら、このフレンズめ、容赦せんぞ!)とでも考えているのだろうか……? コイツはふだんは大型セルリアンの腸内に潜み、おこぼれサンドスターを摂取

して生きていくだけのフレレンズには無害無関係なヤツで、偶然戦いに巻き込まれたわけだから……うん、セルリアンながら、ちと不憫な存在かも？している様子ッ！

長い首をぐるぐる回して、その口からは赤黒いサンドスター粒子の連射攻撃！ 切れ

痔【痔ぢ（その一）】人類の3分の1が痔持ち（になる可能性がある）と言われていきます。

みなさま読者も縁の無い話ではありません。痔は古代のエジプト・中国・インド・バビロニア時代から治療記録が残っていて、聖書にもそれらしき記述があります。ヒト特有の病気なのです。ヒトが痔になりやすい原因は、直立二足歩行により肛門の高さが心臓より常に低いため。肛門付近の血管には常時高い圧力がかかって鬱血しやすく、排便時に大便の通り道が狭くなってしまうのです。さらにデスクワークで長時間座ったり、立ち仕事が続くと、ますます直腸付近の血液が停滞しやすくなってしまいます。またヒトが大好きなアルコールには血管拡張効果があり、これも痔を悪化させやすいです。ヒト以外の動物の場合、四足歩行のものが多くし、もちろんめつたにアルコールも飲まないもので、基本的に痔にかからないというわけ。さらに排便時には、ヒトに比べて大殿筋や肛門括約筋が発達していないため、直腸が外側へめくれるという「自然脱肛」が起こる（※排便後にはこのめくれた部分が内部に引つ込む）。ワンちゃんやネコちゃんなどは、肛門が排泄物で汚れないワケなのです。こういわけでケツをふく必要がないのも、ヒト以外の動物が痔にかからない理由のひとつです。……いやマシンガンのような攻

撃【痔(その2)】痔は3種類に分類されます——裂肛(最も一般的な「切れ痔」で、出血は少ないが痛い)、痔核(いわゆる「イボ痔」で、痛みは少ないが出血が多くてビツクリする)、痔瘻(「蓮痔」とも呼ばれる痔。字面からすでにイヤな予感しますが、画像検査注意です。ヤバイです。超ヤバイですわ)。とくに、「内痔核」と呼ばれる直腸内のできるタイプのイボ痔は、自覚症状のないうちに悪化しやすいのでコワイ! ……とにかく気になったら、評判のいい肛門科に行つてネ。こんな恐ろしい痔ですが、生活習慣の改善やストレスの軽減、トイレで長時間いきまない、適度にウオシユレットを使う、入浴時に湯舟にじっくり入つて血流を温める……などの予防策があります。みなさまも痔に遭遇しませんよう、ふだんから体調に気を付けて、何とぞご痔遣い……いえ、ご自愛くださいませ……。がマルミミゾウを襲うつ!

「く……! 拳銃や手榴弾では援護できないっ! マルミミゾウに当たつてしまふ!」  
 『問題無イ! アノ程度ノ攻撃ジャ、ゾウノ皮膚【ゾウの皮膚】動物のゾウの体の皮膚は非常に分厚い。鼻や口の周囲や脚、背中などは2.5〜3cmもの厚みがあつて、採血したくても注射針が通らないほどだ。この硬く厚い皮膚が、ゾウの重い体重や内部からの腹圧を支えている。だが、耳の後ろや目の周り、腹側や肩の皮膚などは1〜2mm程度ととても薄い。とくに耳の皮膚は薄くて血管が目視できるほどで、獣医さんが採血をするときは耳の血管から血を採るぞ。さらにゾウの皮膚はしわがあつて、これが肉食獣

のキバや植物のトゲへの防御力を高めている。そしてしわのおかげで表面積が大きくなり、熱帯での放熱用に役立つし、それにしわに水や泥がたまることでの冷却効果や、ツエツエバエなどの昆虫や寄生虫への衛生効果もある。ハ、ビクトモシナイヨ！ 彼女ヲ信ジテ、大人シク 見守ルンダ！』

「バオーンッ！ このまま突つ切るぞうっ！」

叫ぶマルミミゾウは鼻<sup>マフラー</sup>【鼻（そのー）】どうぶつ英語まめちしき：ゾウの長い鼻は英語では<sup>トランク</sup>trunkといひます。trunkは「木の幹」の意味があるのでそこに由来するとか（※ぶつうに<sup>ノーズ</sup>noseと呼ぶ場合もあるようです）。ちなみにイヌやネコ、ウマなどの「鼻つ面（鼻と口が突き出た部位）」は<sup>マズル</sup>muzzleといひ、ブタやイノシシなどの突き出た鼻のことは<sup>スナウト</sup>snoutといひます。を首にしつかり巻き付けて頭部を防御する！

ボクサーが肩でアゴを固定して脳が震盪<sup>ゆ</sup>れないようにするのは同じく……あれがゾウフレンズのファイティング・ポーズか！

さらに彼女のみみあげの髪の毛が……ゾウのキバ【キバ】ゾウやウシ、ヤギ、シカ、レイヨウなどの元になった動物がキバやツノを持つフレンズは、毛髪の一部を肥大化・硬質化させる能力……つまり「髪の毛をツノやキバに変える能力」を持っているのだ。な

おライオンやトラなどの肉食獣のキバは「犬歯」だが、ゾウ類のあのキバは切歯（門歯）——いわゆる「前歯」が長く発達したものである。この2種類のキバは、漢字では区別されないが、英語ではfang（狩りのためのキバ）と、tusk（狩り以外の目的のキバ）と、明確に区別されている。ワニやヘビのキバ（爬虫類の歯は同形歯性といい、哺乳類のように形状の区別は無い）や、「フクロライオン」ことティラコレオ類（かつてオーストラリアにいた肉食有袋類）の前歯なんかは、狩りのためのキバなので「フアング」と呼ばれる。セイウチのやイノシシのキバ（これらは犬歯）や、イッカクやハイラックスのキバ（これらは切歯）などは、体重を支えたり地面を掘ったりオス同士で力を誇示したり自衛用だったり、狩り以外で使われるので「タスク」だ。ちなみにあのアードウルフにも自衛用のキバ（犬歯）があるが、これも「タスク」か？のように変化している！！

アレもサンドスターのなせるワザなのかあっ!?

両腕と鼻マフラー【鼻（その2）】ゾウの長い鼻トラシク（鼻と上唇がくっついて伸びた器官）は、100kg以上もある物体を持ち上げて運ぶことができる。そして転がす場合なら、もつと重いものでも運ぶことが可能だ。実際に、繁殖期の気の荒いオスのアフリカゾウが1トンはあるうサイを鼻で転がして殺してしまった、という事件もあるぞ……。また、何気なしに鼻を軽く振り払っただけで、大人の間人が数mも吹っ飛ばされたという事故も

起こっている……。このものすごいパワーのゾウの鼻だが、実は骨が無く純粹に筋肉のみで動かされている——その筋繊維（骨格筋を構成する細胞）の数は、昔の研究では約4万個とされていたが、最近の研究ではおよそ10万個と言われている！なお筋繊維は、持久力が高い遅筋（赤筋）繊維と、瞬発力が高い速筋（白筋）繊維の2種類に分類されるが、ゾウの鼻の場合は「遅筋」が9割を占めている。遅筋は「赤筋」とも呼ばれていて、文字通り赤色なのだが、それはヘモグロビンやミオグロビンといった赤色のタンパク質が多いため。遅筋は小さい力でゆっくり収縮する性質があり、遅筋が多い筋肉は瞬発力では速筋に劣るが持続力スタミナがあつて疲れにくい。※なので、マグロやカツオなどの外洋で長距離を泳ぐ回遊魚には遅筋が多い——それがいわゆる「赤身」の部分なのだ。さらに遅筋は、力加減や力を加える方向などの微細な調整が可能で、我々ヒトの腕や脚の筋肉も遅筋の割合が多い——手先を使う細かい作業や、高度な筋力バランスを要する「直立二足歩行」の際に大いに役立っているぞ。つまり遅筋の多い「ゾウの鼻」って、文字通りヒトの手足のようなものなのだ。とキバで、上半身をガード【上半身をガード】両腕を下げて腹部を防御！（この際、手首を回して内側の動脈を斬撃から守っている）鼻マフラーを首にまわし、頸部の動脈を保護し、アゴを固定することで脳震盪を防ぐ！耳を平たく伏せて、正面からの攻撃への投射面積を最小限にして被弾を抑える！さらに2本の髪の毛のキバを顔の前で交差させて、顔面を防御しているのだッ！この体勢

ならば、上半身の急所をすべて防御できる！これはボクシングの防御技術「クロスアームブロック」と同様の原理で、名付けてこれゾウフレンズ技「クロス牙<sup>タスク</sup>ブロック」と呼ぶ！前述のTIPで述べたとおり、ゾウフレンズは動物のゾウと同じく、目の周囲や耳、胸や腹など皮膚が薄くて、大きな弱点となっているが……その急所を、分厚い皮膚の腕（前脚）と硬いキバ、筋肉質の鼻<sup>マフラー</sup>で完全にガードしているのだ！（実際に実験されたわけではないが）計算の上では、この腕とキバとマフラーでの防御によって、ふつうの9mm拳銃弾ではキズ一つつけられないし、ライフル弾ですら弾いて無力化するほどである！している！

あのクロスアーム・ブロック「クロスアーム・ブロック（その一）」胸の前で両腕を重ねるボクシングの防御法。別名アルマジロ・スタイル。クロスアームブロック（十字ブロック）は、両腕での強固なガードが可能となる。とくに下からのアッパーやボディブローへの防御に有効だ。空手や少林寺拳法にも、上段突きや前蹴りを防ぐ「十字受け」というよく似た技法がある。このクロスアーム・ディフェンスは、アメリカのヘビー級ボクシング王者——「ゾウをも倒すパンチ」と言われたジョージ・フォアマンが駆使していたことでも有名。彼はその大柄な体格と器の大きい人格から、通称は「ビッグ・ジョージ」で、ちなみに引退後は牧師さんになってます。このフォアマンのクロスアームは、彼のトレーナーであり同じくヘビー級王者であったアーチャー・ムーアゆずりのワザなの

だ。ムーアは身長は180cmとヘビー級としてはかなり小柄ながら、戦績はオドロキの219戦185勝131KO！（サイキョーすぎるだろ……）通称「不死身のマングース」だ。また「モハメド・アリを倒した男」ことケン・ノートンもこの防御方法を使っていたぞ。のような防御姿勢（クロスアーム・ブロック（その2））だがクロスアーム・ブロックには、組み付きに弱いという弱点がある。パワーのある相手に内側の腕を片手で掴まれて下げられると、そのまま両腕を封じられてしまうのだ。こうなってしまうと、敵にもう片手でガラ空きの顔をボコボコにぶん殴られてしまう。総合格闘技でクロスアーム・ブロックを見かけないのは、この弱点のためだろう。というわけでクロスアームは組み付き制限ルールの、ボクシングならではの防御方法と言える。そして他にも、ジャブが使いにくい、フットワークしにくくアウトボクシングに向かない、視界が悪くなる、などの欠点も多く、現代のボクシングではあまり見かけないのだが……ではゾウフレنزズの場合は……??で強行突破するつもりかッ！

「ずおおおおーっ!!」

あの程度の銃撃では重戦車は止められないッ！

ひるまずにセルリアンまで強行突破だ！

「ぽおおおーっ!!」

十字にクロスさせたキバを払いのけ、肛門寄生セルリアンの長い首をキャッチ【長い

首をキャッチ」中世ヨーロッパ武術の短剣術ダガーにこういう技法がある。十字受けクロスアームで敵の攻撃を受けて、相手の腕を絡ませて極めて極めて投げたり、自分のダガーを掴むことで相手の手首関節を固める、などの実戦ワザだ。さらに空手などの「十字受けの型」もこのような意図があつたと思われる。「型」は一見すると組み手や試合では使えないように思えるが……型として残されているということは、本来は同様に投げ技や関節技に繋がられる実戦的なつかみワザとして使っていた名残りなのかも。……あるいは棒やサイ、トンファーなどの武器を持って十字受けすることで、相手の腕や脚を武器で破壊するという古流のワザだったのかもしれない……。そして、ゾウフレンズの場合は……本編のように「象牙十字受クロススタック・プロック」で頭部を守りながら突進し……相手に触れると同時にキバの硬質化を解除し、腕や触手や頭部をキバで絡め取ってつかみ、キバを支点として「テコの原理」を使い、鼻のパワーで固めたり投げ飛ばすという、攻防一体のフレンズ技もあるぞ！ このワザ名付けて「エレファント鼻ブリーカートランク」と呼ぶ！ 大木の幹ですら真つ二つにヘシ折る超スゴイ威力だつ！ ※なお「テコの原理を使って鼻とキバで木の枝を折るゾウ」は、日本の動物園に実在する！（【参考資料】のURLをご参照下さい）したッ！

空や地面に弾を撃ち続ける寄生セルリアンの首根っこを、キバに鼻を絡ませて押さえているッ！

「そりゃああーっ!!」

と、鼻のパワーでウツボセルリアンをぶっこ抜いて後方へ投げ飛ばす!

「フィ、フィツシャーマンズ・スープレックス」「フィツシャーマンズ・スープレックス」相手の頭をわきの下に抱え込み、もう片手で膝裏をつかんで、後方へとそり投げるプロレス技。モーションがちよつと似ている「捕獲<sup>キャプチャー</sup>投げ」(開発したのはプロレスラーの前田日明選手)というワザもあるが、なにしろ相手はセルリアンなので……まあ、名前はどっちでもいいのでは? (だって膝裏とか肩つてどこなの?) だつ!

『ゾウハ、鼻デ ワニヲ 投げ飛ばスト 言ウケレド……』

「これはそれ以上のパワーだよ!」

『名付ケテコレ「鼻釣りスープレックス」(鼻釣りスープレックス)英国の小説家ラドヤード・キップリングの童話『ゾウの鼻が長いわけ』には「ゾウの鼻は、ワニに噛まれ引つ張られたから、あんなに長く伸びてしまったのです」と書いてある。この童話は、実際に起こるゾウの鼻にワニが噛みつく現象に由来するのもかもしれない。ワニに鼻を噛みつかれると、ゾウは水中に引きずり込まれてしまう、ということではなく……ゾウがそのまま鼻でワニを釣り上げて引きずり回す姿が撮影されている。しかも、母親ゾウだけでなく、仔ゾウですらワニを一本釣りする写真が撮られたこともある! 生まれた時の赤ちゃんゾウですら100kgなのだから、まさに数字<sup>バツ</sup>がケタ違いの動物! そんなゾウ鼻パワーを持っているこのマルミミゾウの「鼻釣りスープレックス」は、髪の毛

のキバを絡ませた鼻で、釣り針のように敵を引っかけて逃げられなくしてから、鼻の筋力とキバのパワーで数トンもの物体ですら投げ飛ばせる大技だ！」ダヨツ！」

ウツボのセルリアンはサバンナ地方から退場【サバンナ地方からリングアウト】こうして十数km以上もブン投げられたウツボセルリアンが、この後どうなつたかと言いますと……。ゾウのパワーで海まで投げられた彼は、そのままずっと海中を泳ぎ続けて……。次の日の朝、さばんなちほく近海に浮かぶ「サンドスター発掘施設」に到着します。その時そこでは、ハダカデバネズミのフレンズと尻尾の無い謎のフレンズが、オウサマペンギンのフレンズに謁見している最中でした——彼女は『オマエがヒトだと申すのなら……。ヒトのする「釣り」という習性を見せてみるのじゃ！』と、ハダカデバネズミに無茶ぶり中です……。そういうわけで、ハダカデバネズミが海に釣り竿（※尻尾です）を垂らしたところに、問題のウツボセルリアンが引っ掛かって『ギャワーツ！ 魚じやなくてセルリアンだあゝツ！』という大騒ぎ！ また遠くの海に投げ捨てられるのでしたとき。このウツボセルリアンは再び海を漂い始め……。海上を航行する「とあるすてきな3人組」に偶然拾われて「なんでしようか、これ……。？」『カバン、ソレハセルリアンダヨ！』「危ない、かばんちゃん！」などと言われて、あやうく中型ネコ科フレンズのツメで3枚に下ろされそうになるのです……。そしてその後、さらに数奇なる運命が彼を待ち受けているのですが、それはまた別のお話……。だゝゝつ！！

「ヤッター！ さすがゾウの子ねっ！」

「マルミミゾウツ！ ほんばいえ『ボンバイエ』フレンズ語。感動詞（感嘆詞）の一種。「いけいけー！」「すごい！」「がんばれ！」「ガッツだ！」などなどの意味で使われる。私たち人間界では、『燃える闘魂』ことアントニオ猪木氏の入場コールとして有名。だが実は「ボンバイエ！」とは、アフリカのコンゴ民主共和国の共通語のリンガラ語で『ヤツを殺れ！』を意味する “Boma ye！” に由来している。実は物騒な意味です。このフリーズは元々は、コンゴのキンシャサでジョージ・フォアマンと戦ったモハメド・アリに贈られた声援で、さらにコレがアリと戦った猪木に贈られた、と一般に言われております。というわけで、ダンゴムシのセルリアン vs ゾウのフレンズという異種格闘技戦にはピツタリ、かも？っ！」

カラカルとキリンも歓声を上げているぞ！（だがなぜ猪木……??）

こうして邪魔なお尻のセルリアンを排除し、戦車セルリアンへ追い打ちだ！

「よーしー！いくぞうっ！」

……ダッシュで踏み込んでの高速刻み突き【刻み突き】「最速の攻撃」であるジャブのことを、空手ではこう呼ぶ。「前手突き」とも言う。※ボクシングと空手という全く違う格闘技なので、実際のところ両者は結構違い、「手打ち」のジャブに対して、「刻み突き」

は重心が載っているので威力が高いと言われている。そしてオーソドックス（一般的なファイティングポーズ）で構えた場合は左手が前に出るので、ジャブと言うとふつうは「左のすばやいパンチ」のことを指す。そしてキリンやゾウなどの有蹄類（ヒツメのあるもの）フレンズは、ヒツメで陸地を踏みしめるかのように、このようなジャブやストリートなどの「前足を突き出す攻撃」を得意とする。この「ゾウ足刻み突き」は、あの陸上一巨大な動物の踏みつけ攻撃を、ヒトのカラダを使って前方に繰り出しているかのごとき破壊力だ！だ！

攻撃を喰らって巨体を数mも吹っ飛ばされるセルリアン！

「突<sup>パンチ</sup>き一発であの威力ッ！」

よく見るといつのまにかマルミミゾウは、手に厚いオーブンフィンガーグローブ【オーブンフィンガーグローブ】ボクシンググローブより薄く、五指の指先が露出したグローブ。総合格闘技のほかにも自転車競技やゴルフなど、拳の保護に加えて器用さとグリップ力も重要となるスポーツで使用される。指先が自由に使えるため、格闘技においては打撃のみならず組み技にも適している便利な防具。MMAグローブとか、グラップリンググローブとも呼ばれる。コレを発明したのはあのブルース・リーだとされており、確かに映画『燃えよドラゴン』では、冒頭のサモ・ハン・キンポーとのスパarringでそれっぽいグローブが使用されている。この映画をヒントにして佐山聡（初代タイ

ガーマスクの中の人)氏が改良版を試作——それを師匠であるアントニオ猪木が対チャック・ウエブナー戦で正式に使用したことでも有名になりました。のようなモノをつけている!

あれもフレンズの持つ超物質「サンドスター」により具現化したモノなのか!?

とくに手首の部分がクッションのように分厚くなっていて、今の攻撃はあの特別製のゾウ足グローブ(ゾウ足グローブ(その1))哺乳類には3種類の歩行法がある:i.)手足の掌全面で歩く蹠行性(クマやサル、ネズミ、モグラなど。アライグマやハクビシオンもこの歩き方)、2.)ヒツメで歩く蹄行性、3.)かかとを付けずに歩く指行性(趾行性)(イヌ、ネコ、タヌキなど)だ。完璧に3種類に分けられるわけではなく、イタチやアナグマなど半蹠行性(半指行性)動物と呼ばれるものもある。で本題だが、ゾウは一見したところカカトをつけて足裏全面で歩く蹠行性に見えるが……実は指行性動物だ。つまりゾウは「指先立ちの動物」の一種なのだ。ゾウの足は、骨格的には指先のみが地面と接触しており、カカトのように見える部分は実は分厚い繊維質の塊(この部位を蹠枕せきちんという)で、体重を支えるクッションとなっている。この動物の特徴を、フレンズの手の部分を受け継いでいるのであろう……ゾウ足グローブは、一般的なオーブンフィンガーグローブよりも手首の部分が分厚くなっており「手首の骨(手根骨)での掌底」打撃に適している——ゾウフレンズのパワーはものすごいため、普通のパンチング

のように<sup>ナックルパート</sup>拳で硬いものを殴ると、自分の指の骨を骨折してしまうほどだ。それを防ぐための掌打なのだ。での、掌底【ゾウ足グローブ（その2）】このマルミミゾウの繰り出す掌打には、拳の重さにグローブの質量が加わってパワーアップ！ さらに上述の蹠枕クッションのために接触時間が長くなっているのも地味にポイント。それによって重く押し込む打撃になるため、固い目標へ力積を与えるのに最良の攻撃となっている（なお「力積」とは、力と、力の作用時間を掛け算したもの）。パワーアップ×接触時間増加＝超破壊力！ つまりこの「蹠枕グローブ」は防具の役割だけではなく、パンチを重くして長時間接触させるという「武器としての役割」もあるのだ！ このような重装甲のセルリアンのボディへの攻撃には、バーバリライオンのツメ斬撃やキリンのフリッカー・ネツキングのような「速いが軽い攻撃」よりも、ゾウフレンズの「遅いが重い攻撃」の方が、接触時間が長いために内部に大きな衝撃を与えることができる。ヒトの格闘技でも、ハイキックやジャブなどの素早く弾く鋭い攻撃は頭部（軽いためすぐ動いてしまう目標）への攻撃時に有効で、フルコンタクト空手の中段正拳突きやスネで蹴るローキックなどの重く押し込む攻撃はボディや脚（目標が重く動きにくい）のために接触時間が長い）への攻撃に有効なのと同じ原理だ。※逆に、ヒラヒラと素早く動く軽量級セルリアンには、ゾウフレンズのパワーは「のれんに腕押し」で効きにくい。……こうしてゾウ足グローブは「蹠枕<sup>セキテンショウテイ</sup>掌底」が強力な反面、手首部分が分厚すぎてちよつと敵を掴

みにくいという欠点があるが……ゾウフレンズは「もうひとつの手足」である鼻マフラーによってその弱点をカバーしている。というわけか！

「すごいちから！ さすがゾウのフレンズ！」とカラカル！

『イヤー！ アレハ、多脚デ 跳ビ上ガツテ着地シテ 衝撃ヲ吸収シテイルンダ……！』

戦車ノ「さすべんしよん」【懸架装置サスペンション】自動車自動車の車輪や座席などに備えられた、走行時の衝撃を吸収する緩衝装置のこと。操作の安定性や、乗り手の安全性・快適性を向上させる機構だ。だが無限軌道キタダレトラはサスを組み込むと製造コストが激増するため、建設機械や農業機械などのキャタピラは一般的にはサスを備えていない。しかし戦車の場合には不整地を走破するために、色々な形式のサスペンションが導入されている——昔の戦車はシンプルなボギー式や、コイル・スプリング（巻きバネ）式、リーフ・スプリング（板バネ）式、ボリユート・スプリング（渦巻きバネ）式などであったが、現代の戦車ではトーションバー（ひねり棒）方式が主流。ちなみに自衛隊の戦車は、74式戦車以降はハイドロニューマチック油圧式サスを採用している。ノヨウニ……受身バンブシテイル！』

「ヒカリ……そ、それってつまり、どういうこと……？」

「セルリアンハ ワザト 吹ツ飛バサレテ【わざと吹つ飛ばされて】打撃がヒットする直前、セルリアンはキャタピラ状の脚を動かして、自分から吹つ飛んで、威力を受け流している。衝撃力で巨体が宙を舞って吹つ飛んでいる、ということは……言い換えれば、

攻撃の与えたエネルギーは、その大質量を移動させる運動に使われていることになるのだ！ 一見ゾウが押しているように見えるが……実は殻の内部や寄生体へのダメージは薄い！ これでは、ゾウパワーの無駄使いになってしまふ！、内臓ほでいへの衝撃力だめえじヲ 逃ガシテイルンダヨ！」

「え、えー！ まじかにや?！」

「セルリアン、なかなかやるんだぞう！」

「くそくつ……。じゃあやつぱり戦車セルリアンじゃなくて、背面のあの寄生セルリアンを叩かなければ！」

『デモ、アノ高所ノ寄生体マデハ ゾウノ鼻デモ 攻撃ガ届カナイシ……脚部ヲ狙ウタメノ 側面攻撃ハ、例ノ「セルリアン爆発反応装甲」デ 自動反撃サレルヨ!』

「そ、それじゃ、どーするのよ!? これじゃ事件はめいきゆういりじやない! なんとかして逆転する方法はないのかしら……!」

「いや、キリン! ここは発想の逆転が必要だぞう! わたしに逆転の考えがあるぞうつ!」

こめかみ〔こめかみ〕ゾウの皮膚には、オスメスともに目と耳の間あたり、ヒトで言うこめかみにあたる部位に「側頭腺」という分泌器官が存在する。後述の「マスト」の

時期や、ストレスを感じたり、興奮したときに側頭腺からの分泌物が増加し、他のオスやメスたちへのアピールとなる。のあたりからサンドスターの粒子を放出させながら、マルミミゾウが叫ぶ！

『マスト【凶暴期】25歳ぐらいまでのオスゾウには、年に1回マスト（must/musth）と呼ばれる発情期が訪れる。マスト中のオスは非常に攻撃的になるので危険だ。動物園の飼育員さんも、視界に入ると鼻で水をかけられたり、物を投げられたりなど脅かされるため、なるべく接触を避けるんだとか。しかしマスト期間の長さや行動変化などは個体差が大きく、まったくマストにならないオスもいるそうです。『マスト』は、自分にばふを与えるゾウフレンドズまほーですぞー』by マルミミゾウニヨル  
 身体能力強化ダツ！ ヤル気満々ダネ！』  
 「で、でも、いったいどうするつもりなの!？」

「そりやあーっ！ これがセルリアン攻略法！ ヒトのワザだぞうっ！」

マルミミゾウは鼻でセルリアンの口吻をしつかりと掴むと……!？」

くるりと身を反転させて……鼻を叩き降ろし、セルリアンの巨体を上下反転させて地面に叩きつける！

『フォ……四 方 投 ゲ  
フォー・ディレクション・スロー  
 【四方投げ】合気道の基本のワザにして、色々な入り方があつ

て応用が利くという重要なワザのひとつだ。相手の腕を折り曲げ、肩関節を固めて後方へ投げるといふハデな動作の大技で、見栄えも良くアクション映画や特撮作品でもよく使われている。だが使いこなすのはとても難しく「実戦で使えない技」とも言われている。※実際、試合のある流派（合気道 S. A.）では、試合で決まったことが一度も無い技である。だが、マルミミゾウは絶妙な鼻の筋肉操作により、このように実戦で見事に使いこなしている！ 鼻でつかんで投げる「鼻取り四方投げ」だ！ 一見するとチカラ任せのワザに見えるが……戦車セルリアンの口吻はカメの首のように内骨格があり、この骨格を可動方向の逆関節に極めることで、その巨体を地面に転がす……という合理的な原理があるワザだぞ！ セルリアンのほうは、投げにへたに抵抗すると関節が破壊されて口吻がオシヤカにされてしまうため、このように大人しく投げられて受身を取ってダメージを軽減するしかないのだ。もともと腕力が最強すぎるゾウフレンズが、こうして武道までたしなむともっと最強になり、まさに鬼に金棒……。いやステイブン・セガールに合気道といったところか……。なお、動物のゾウも、仲間同士で鼻を絡ませた力比べをする「鼻組手」を行うことが知られている。 ジャパニーズ・アイキド 日本ノ合気道ノてくにつくダ！』

「どこで覚えたのか？【どこで覚えたのか？】前回のTIPでも触れました、お隣の「じゃんぐるちほー」在住のチンパンジーの武道家フレンズから習ったワザです。彼女はヒト

の文化の集大成とも言える格闘技や武道のワザから、セルリアン戦でも使える実戦的なものを選んで日夜研究している。その改良したワザを「じゃんぐるちほー林冠道場」にてフレンズ達に教えている師範的存在なのだ。ゾウの子はもともと鼻先が器用である上に、ワザの入り方をミスっても、腕力まかせでそのまま強引に投げ飛ばせるので、シンプルで応用の利く「四方投げ」はピッタリのワザだと言える。このチンパンジーのフレンズいわく『ヒトはなんといいっても……練習が上手いことが素晴らしいッ！ ことばや本があるし、農業によつてヒマな時間があるからだよ！』『マルミミゾウ、私の「フレンズ・ドー」のワザも、練習こそが大事だよ！』『どんとしく……ぶらくていくす！』ということだが……マルミミゾウも、のんびりしてるが根が真面目なので『そうですねえ、げえむも練習が大事ですぞう』と同意して、平時に木や岩をブン投げて、けっこう繰り返して練習しているため、このように実戦でも見事にキマるわけです。知らんが、なんと器用なっ……！ ウォー！ 超すげえ！

「ば、ばりっ！」

「高い所の寄生体<sup>ア</sup>まで攻撃が届かなければ、逆にセルリアンのカラダを上下逆にしてしまえばいいってワケねッ！」

「いいえ、カラカル、それは発想の逆転っていうか……セルリアンが逆転してるだけじゃないかしら……？」

「同じじゃない！ キリンはカラダがおおきいのに、細かいことを気にするわね〜」

ひっくり返ったセルリアンの上にジャンプ！ ガラ空きになった多脚部に向けて、マルミミゾウは髪の毛を硬化させた真つすぐなキバ「真つすぐなキバ」オスゾウが成長してキバが伸びてくると、オス同士でキバをぶつけ合う「フェンシング」でおたがい格付けをするようになる。長い時は1時間以上も戦い、キバ同士がぶつかる轟音がサバンナやジャングルに響き渡るという……。だが大ケガに至ることはなく、そして一度力関係がはつきりするともう本気の戦いは避けるようになるんだとか。このキバ攻撃やマスト現象からすると、このマルミミゾウのフレンズは元はオスゾウだったに違いない。ちなみにマルミミゾウのキバは、アフリカゾウに比べ短く真つ直ぐなのが特徴です。なお、動物のゾウのキバは500kg〜1tの重量を持ち上げることができると言われているが……フレンズゾウの場合は、その10倍の10t以上の荷重をキバで支えることができるのだっ！を逆手持ちに持って突き刺す！

そのキバをフオークリフト【フオークリフト】油圧によって昇降可能な爪と支柱を搭載した車両のこと。「車両系荷役運搬機械」の一種だ。一般的な乗用車と違い、ハンドルを切ると後輪が動く「後輪操舵」な点が特徴。なんと、荷物を積まずにナンバープレートをつけて、さらに色々と条件を満たせば公道も走れます。だが運転するには「フオー

クリフト運転技能講習修了証」が必要となり、荷物を運ぶ車という性質上、バック走行やブレーキングの技術が求められるぞ。実は色々種類があり、一般的な「カウンターバランス式」フォークリフトのほかにも、積んだ荷物を前後に動かせる「リーチリフト式」などがある。なお諸々の理由（1回の使用での移動距離が短め、屋内での運用が多い、深夜での使用が多いため騒音問題を防ぎたいなど）により、フォークリフトはEV（電気自動車）が普及しており、小型フォークリフトの半分以上がEVだ。ちなみに歴史は意外と古くて、1920年代に欧米で発明され、1939年には日本輸送機製作所により初の日本製フォークリフト「腕昇降傾斜型運搬車」が誕生し、戦後になってパレット（荷物を載せる台）とともに普及していきます。フォークリフトちゃんと、パレットちゃんって、いいコンビだよね。のようにして、セルリアンをテコの原理で持ち上げると……!!

重さ10トン【重さ10トン】参考までに……アフリカゾウのメスは約3t、オスは6〜7t。さらにオスの大きい個体だと10〜13tにもなるぞ。このダンゴムシのセルリアンはそれに劣らないサイズ感なのだ。だが、ジャパリパークには「セルリアン三倍段」なる経験則があり……「セルリアンは同重量の動物の3倍強い」と考えてよいため……こいつは実質「30〜40t以上の動物」（現代の地球の陸上には存在しない）に相当するパワーを持っている計算になる！ 中生代の大型恐竜に匹敵する重量だ！

さらにヒトの戦車と比べると……陸上自衛隊の「10式戦車」が約44tなので、本物の戦車に劣らぬパワーということになる……。なお10式戦車は、欧米の主力戦車<sup>M</sup><sup>B</sup><sup>T</sup>（約63tの米軍M1エイブラムスや約67tのドイツ軍レオパルト2）と比べると軽めなのだが、これは国内の多くの橋を渡れるように設計されているから。旧式の90式戦車（約50t）よりもさらに軽量化されていて、日本の国土防衛においては「国内の橋の利用」がとても重要視されているのだ。このジャパリパークも橋が多く、かつて軍が駐屯していた際は戦車の重さがネックだったそうだが……。ところでこの戦車セルリアン、本物の戦車ほどではないがこんな重いということは……。橋に誘い込んで水に落とすなんて作戦も……。もし橋が近ければ有効かもしれない。はくだらないうであろう怪物の巨体を抱え上げ<sup>リフトアップ</sup>！

上体をブリッジで反らして、キバと鼻の力でセルリアンを力任せにブン投げる！

『オオー！ 投げッパナシじゃーまん【投げっぱなしジャーマン】German<sup>ジャーマン</sup>は「ドイツの」という意味の英語の形容詞だが、ここではプロレス技「ジャーマン・スープレックス」のこと。背後から両手で相手の胴を抱え込み<sup>クラッチ</sup>して、背中をそらして後ろへ投げ飛ばすワザだ。今回のゾウのフレンズの場合は、鼻のものすごいパワーを使う必殺技であり、しかも投げて鼻つかみを離す「一ホイップ（投げっぱなし）式」なのだ。※ちなみに、なぜ「ジャーマン」なのかと言うと、「プロレスの神様」ことカール・ゴッチが、ド

イツのハンブルク出身だからと言われている（でもベルギー出身説もある）。なお、そり投げを意味する「スープレックス」の語源は諸説たくさんあって、由来は全然わからん。ダツ！』

投げつ鼻ばなし式ジャーマンを喰らって、放物線を描いて宙に跳ぶセルリアンの体！

さながら横転した重機のようなだ！ 地面をえぐりながら転がり、夜空に土くれを巻き上げながら横倒しになる巨体！

「あの体勢アなら脚部あしもとが、ガラ空きだぜっ！」

が、ヤツはすぐさま、ハコガメのように口吻や寄生体を体内に収納し、背中の装甲の関節部の皮膚を伸ばす！ 体を丸めて「体を丸めて」節足動物ではダンゴムシやヤスデやマルゴキブリ（の幼虫と♀）、哺乳類ではアルマジロとセンザンコウなど、背中を丸くして柔らかな腹部を防御する生物は何種類か存在する。このように全く異なる分類の生物が、同様の身体構造や習性を持つていることを「収斂しゅうれん進化」と呼ぶ。パークのセルリアン達も、一般的な生物に似ている部分が見受けられることから、こいつらも収斂進化していると言えそうだ……。 「収斂」は一見すると不思議な現象だが、「地球」という同一の環境に暮らす生き物同士なのだから……。 『インテリジェント・デザイン』だと言ううつもりは毛頭無いのだが……。生き残り子孫を増やす（＝後世に遺伝子を残す）ための、

種の起源に関係なくどの種でも「その形を作るコスト」に対してメリットが大きいという、一定環境に適した「共通の進化形」……いわば「ちようどいいデザイン」というものがありうるのかもしれない。※余談ですが、球形に丸くなるアルマジロは実は2種類しかいません——ミツオビアルマジロ属のマタコミツオビアルマジロ (Tolypeutes matacus) とミツオビアルマジロ (Tolypeutes nactus) です。追撃に備える防衛体勢！

マルミミゾウはセルリアンのもとへ走っていき……！

ゾウ足ブーツ〔ゾウ足ブーツ〕ヒトの履く安全靴のような構造をしており、4本のヒヅメ（アフリカゾウよりひとつ多い）のような硬質のカバーでつま先が保護されているブーツだ。ゾウフレンズのモノスゴイ脚力によってこの硬いつま先を当てれば、なんの変哲も無いただの前蹴りトキキックでも、鉄筋コンクリートを砂糖菓子のごとくいともカンタンにプチ砕けるほどの超必殺技と化す！ また、グローブと同じくかかと部分にある蹠枕セキデンクッションを叩き込める後ろ蹴りやカカト落としを使っても、尋常ならざる威力を誇るのである！の爪先での、セルリアンの装甲の薄い関節部分を狙ってのサッカーボールキック！

……い、いや、鼻を後ろへ回して蹴り脚を掴んでのキック〔蹴り脚を掴んでのキック〕  
伝統派空手において「裾掴み蹴り」や「弓蹴り」と呼ばれるワザによく似ているが、ゾ

ウフレンズなので「鼻掴み蹴り」なのである！ 空手においてはタイミングをずらしてガードを下げた所を狙う変化技だが、ゾウの場合は「鼻のばね」の反動による「ため攻撃」で威力向上を兼ねたワザとなっている！だ！

巨大<sup>メ</sup>ダンゴムシ<sup>ポ</sup>のような数トンの巨大球体を、アカシアの低木林をなぎ倒してシュートオオツツ!!

超！エキサイティン！

フレンズの小さな体に<sup>ジャンボ</sup>大きなパワー！ 巨大なるフレンズ山脈！ ひとりジャパリ大移動！ 人類最強の男がアレクサンドル・カレリンで、人類最強の女が吉田沙保里選手なら……陸上フレンズ最強はゾウさんなのだ！

女の子やぞ！ 森林の小さな巨人、マルミミ・ザ・ジャイアント！

「まだまだだぞう！」

おお！ まだまだマルミミゾウの猛攻は続くぞうっ！

## 第22話 ハンニバルの戦車猟兵



ダンゴムシのセルリアン v.s. 「戦象〔戦象(その1)〕ゾウを戦鬪用に使役し始めたのは紀元前1、100年ごろのインドだと言われている、紀元4世紀までに成立したインド叙事詩『マハーバーラタ』にも、アスワサンマという名前の戦象が登場する。また旧約聖書の『マカバイ記』にも戦象に関する記述がある。世界史においては、アケメネス朝ペルシャのダレイオス3世が戦象を前線配備した逸話があるし、マケドニアのアレクサンドロス大王もインドにて戦象と戦ったこと(ヒュダスペス河畔の戦い)がある。古代ヌミディアやカルタゴでも使役され、名将ハンニバルの第二次ポエニ戦役でのゾウを連れての「アルプス越え」も有名である。このアルプス越え戦象部隊はアジアゾウとマルミミゾウ(の一種である絶滅種サヘルゾウ)の混成部隊だったという説がある(※ちなみに……当時のサヘル地帯は砂漠でなく緑生い茂るサバンナや森林地帯であった。その証拠に、サハラ砂漠にある砂岩台地「タツシリ・ナジェール」の岩窟壁画にゾウが描かれている。このサヘルゾウは当時は「ゲトリア象」と呼ばれており、その末裔は1950年代まで生きていたらしい)。さらに、古代ローマ軍でも地中海ちほくのゾウが使役され、歴史書には『東方のインドゾウは大柄だが、地元のアフリカゾウは小柄』な

どと一見動物学と矛盾することが書いてあるが、この『アフリカゾウ』とは実はマルミミゾウのことらしい。紀元前55〜54年のカエサルのブリタニア侵攻のときには、「装甲戦象」がブリテン人兵士をびつくりさせた（と歴史書に書いてある）。そして体高が高くて「乗ると見晴らしがよい」ことから、ムガル帝国などでは司令官が搭乗する「戦闘指揮車」としても運用された。あの元朝モンゴル帝国のクビライ皇帝も、自らゾウに乗って戦場指揮をしたと伝えられている。―！ 陸上最強ヘビー級同士の戦い！

セルリアン重戦車【重戦車】大型！大口径砲！大重量！という分かりやすいコンセプトの戦車。おもに重さ約40t以上の戦車のことを指し、多くは第二次世界大戦中〜冷戦中にかけて作られている。とくにナチスドイツのティーガーI（タイガー戦車）や、ティーガーII（キングタイガー）などが有名。そして世界最大の重戦車は、ドイツ帝国の試作戦車「Mauss」である！自重188tというアフリカゾウの20倍以上の重量で、シロナガスクジラの体重に匹敵する超重量戦車なのだ！ ※開発当初はMammuth（ドイツ語でマンモス）というコードネームだったが、情報の隠匿のためにあえて逆に「ネズミ」と名付けられたという……。しかし、現代においては「重戦車」という区分は存在しない。というのも現代の戦車は重装甲化が進み、米軍のM1エイブラムスや、イギリスのチャレンジャー2、ロシアのT-90、ドイツのレオパルト2などの各国のMBT（主力戦車）は重量50〜60t以上に達している。つまり、かつて

は「重戦車」と呼ばれた基準が、すでにあたりまえになっているためだ。を狩らんとするマルミミ、ゾウ〔戦象（その2）〕戦象のおもな攻撃方法は、巨軀を活かした突進、大きな足での踏み潰し、筋肉隆々の鼻での掴み攻撃、鋭い牙での串刺し、背中に搭載された櫓やぐらに隠れた兵士による弓矢や槍での攻撃……などなど。全身鎧や剣や鎌、鉄球などで武装することも。戦場ではとても強力な存在であり、とくに重装歩兵の強固な隊列を崩すのに有効であった。また、ただ突進させる以外にも、戦場の壁として敵の歩兵や騎兵を足止めする移動要塞として配置されたり、重機のようなパワーによって敵城壁を破壊する攻城兵器にもなったり、その巨体で川の流れをせき止める工兵エンジニアにもなったり……うーん、大活躍！ 近世以降は、大砲を背中に搭載して突進しながら撃つ「自走突撃砲」として活躍したり、車や飛行機の牽引といった仕事もしたとか。しかしデカいために小回りが利かず、銃火器の標的になりやすく、育成と運用に金と手間がかかり、そもそも臆病で神経質な性格のゾウはおびえたり傷ついたりしてパニックになると制御できない……などの大きな欠点がいくつもあった。そのため戦闘車両の発達にもない、戦場からしだいに姿を消していった……。だが現代においても、トラックの入れないジャングルちほくを進軍するのであれば……足場の悪い密林をガンガン進めるし、歩きながら葉っぱや果物などの燃料補給ができる「象の兵士」が重宝されている（おもに物資運搬用やパトロール用）。はまさに、月下のサバンナの駆逐戦車〔駆逐戦車〕対戦車用に重装

甲化された自走砲のこと。ドイツ語では Jagdpanzer、英語では tank destroyer などと呼ばれる。砲塔タレット(車体の上部のぐるぐる回るアレ)を取り外して、より大口径の砲身を搭載した戦車なのだ。駆逐戦車は砲塔が無いゆえに、動きながら狙う戦闘はニガテ。かわりに、待ち伏せして大口径砲で「一方的に奇襲攻撃」するのが得意だ。ふつうの自走砲よりも装甲が厚いので、「多少は戦車に撃たれても平気」という設計になっているのも特徴。余談だが、第二次大戦中のドイツで「エレファント重駆逐戦車」という、なんだかこの小説のシチュエーションにピッタリの戦車が開発されたという。欧米では「ゾウはネズミを怖がる」なんて迷信があるけれど……はたしてジャパリパークの駆逐戦車エレファントは、この超重量戦車マウズに勝てるのか?! だ!

「ばおばおするぞうっ!」

騎兵隊の突撃ラッパのように、高いうなり声を上げるマルミミゾウ!

セルリアン戦車にぶちかまし「ぶちかまし」技撲やプロレスで使われる、おもに額でぶつかる体当たりスピアータックル。顔がでかくてえ、首が太くてえ、鼻が長くてえ、ちよつとずんぐりむつくりな感じに進化した、頑丈な体をしているのがゾウだが、その「ゾウのデカイ頭」での突進頭突きなのだ! (ゾウと同じく「高いところの葉っぱを食べる」と「低いところの水も飲める」を両立するために、小顔で首と脚が長く進化したキリンとは目的は同じだが真逆の方向性だ) 名付けてこのゾウフレンズワザ! 「エレファントブチカマシ」!

(そのまんま)を一発!

だがこれに対して多脚で跳びあがることで、内部への衝撃を逃がすセルリアン!

「あの巨体であのジャンプか! またわざと後ろに跳ばれてダメージを逃がさ  
るっ!」

『アノ 多脚式懸架装置サスペンションガ 厄介ダヨツ!』

「ばおーっ!」

マルミミはさらに……まるで弓兵が弓をひくように……拳を大きく振りかぶってセルリアンに突進!

「あ、あんなバレバレのテレフォンパンチ「テレフォンパンチ」ストレートなどのパンチを出す際、予備動作として拳を顔の横に引いてから殴るといふ、隙だらけのフォームのパンチ攻撃。簡単にタイミングを読まれてガードや回避やカウンターをされやすいため、ボクシングなどの格闘技では非常によろしくないパンチとされる。このネーミングは、拳を耳のあたりまで持つてくる「電話をするようなモーション」に由来するとも……あるいは、相手にこれから攻撃することを「お知らせする」から、とも言われている。なお英語の格闘技用語では、テレフォンではなくテレグラフ(電報)です。”telegraph a punch”(電報パンチを打つ)などと言います。じゃ、また……」

「いいえ、よく見て! 違うわよっ!」と夜目がきくカラカル。

確かによく見ると、ゾウは振りかぶった拳を鼻のマフラーでつかんでいるのだ!!

跳び上がるタイミングがズレたセルリアン! その装甲に、ステツプインしながらの弓引きストレート……いや、鼻引きストレート【鼻引きストレート】プロレスラー・アントニオ猪木氏の技「弓引きストレート(ナックルアロー)」によく似たモーシヨンの掌底パンチ。本当に弓を引くように、背面に回した鼻マフラーで掴んでパワーをためている! 前回のラストで繰り出した鼻掴みキックと同じ原理で、タイミングを外すことによるフェイント効果と、そして鼻の筋肉の弾性力によるちからだめ効果があるぞ。「裾掴み蹴り」ならばヒトでもできるが、この鼻で腕を掴む動作はゾウのフレンズでもないといけない……。古代の戦象に乗った弓兵の放つ矢のごとき、フレンズパワーによる「ハンニバル・ナックルアロー」の威力を見よ! が炸裂だッ!

「ばおーんっ!」

さらに豪快なケンカキック【ケンカキック】プロレスラー蝶野正洋氏の得意技。顔面などに足裏を押し付けて蹴り倒すキックだ。旧名「ヤクザキック」(命名 by 故・橋本真也氏)だが、こっちは放送コードに引つかかるので使われない。いわゆるビッグブーツと言われる前蹴りフロントキックのフォームに似ているが、ケンカキックは体が横に開いて「横蹴り」にちよつと近い動作なのが特徴だ。一見すると隙が大きいフォームに見えるが、この体重を乗せた蹴りは左右への捌きやキャッチがしにくく、万一ハズしてもそのまま

半身立ちになって次の動作に繋げられるという、合理的なワザなのだ。だっ！ ゾウ足前蹴り〔ゾウ足前蹴り〕ジャイアント馬場氏のビッグブーツは「16文キック」、アンドレ・ザ・ジャイアントのものは「18文キック」と名付けられていた。ちなみに、1文 $\parallel$ 8分 $\parallel$ 0.8寸 $\parallel$ 約2.4cmだ（これはかつての中国・日本での「一文銭」の共通の直径）。そしてゾウの足の裏は直径は、最大記録が48cm（仙台市八木山動物公園のオスアフリカゾウ「ベン」の場合）なので……ゾウフレンズのこの蹴りワザを「20文キック」と呼ぶことにしよう！ 体重を乗せたゾウ足ブーツの足裏の、蹠枕<sup>セキチン</sup>（脂肪球）の柔らかい部分をブチ込むキック！を重装セルリアンの側面装甲に叩き込む！

体勢の崩れたセルリアンの巨体！

そこへ走り込むマルミミゾウ！

さらにもう一発キックか……!?!

「ばおおーっ！」

と、蹴り技と思わせてからのフェイントだ！

なんて高く飛び上がるジャンプ！

「ゾ、ゾウが跳んでるうっ！〔ゾウが跳んでるうっ！〕哺乳類のなかでジャンプが得意なのは、（大人の）ゾウだけ！……この場合の「ジャンプ」というのは「4本の脚が同時に地上を離れている状態」という意味。ゾウは走る（※意外と速くて短距離なら時速

40kmで走れる) 時でも、必ずどれかの脚が地面に付いている唯一の哺乳類なのだ。さらに、ジャンプどころか、3本足で立つことすらニガテだ。みなさん、ゾウの足のことを『うおおっ! 強そうな足だなあ!』とお思いかもですが……実は立ったり座ったりですら負担が大きくて、結構やつとのことなのです。デカイのも大変なのです。だが! ゾウのフレンズの場合は「そんなことかんけーねえですぞう!」とばかりのこの大ジャンプ! しかし、人類を遥かにしのぐ跳躍を見せるものの……ゾウフレンズは、やつぱりジャンプはニガテなため動作のスキが大きく、脚部への負担もキツイ……。だからこそこのジャンプ! 苦手なくせにあえてジャンプ! 敵セルリアンも、この行動には驚いているハズ! 意表を突くこのジャンプ奇襲攻撃こそマルミミゾウの狙いなのだ!! 世界広しといえども、ゾウが空を飛ぶなど、こんな光景が見られるのはジャパリパークだけ! ……いや、カリフォルニアとかフロリダとかパリとか香港とか上海とか千葉県浦安市舞浜とかのてえまばあくでも見られるかも……?」

「じゃんぷりよくには、じゃんぷりよくかつ!」

空飛ぶゾウの姿にカラカルとキリンもオドロキ!

そして! 上空から叩きつける飛び込み! 戦車セルリアンの背面にある、例の透明の殻【透明の殻(その1)】ロケットランチャー砲撃後の「戦いの中の進化」によって、寄生セルリアンが新たに身につけた例の「増加装甲」のひとつだ。戦車長を守るシール

ドのごとく、ダンゴムシセルリアンの背中に鎮座している。金魚鉢をひっくり返したような透明の丸い外観で、セルリアンの触手が丸い殻の中にみつしりと納まっているその姿は……ガラスのたこつぼにタコが窮屈に入っているような、間抜けなルックスであり強そうには見えないのだが……。をまとった寄生体を狙って、足を大きく振り上げ

……！

「ふ、踏みつけストンピング〔踏みつけトランブル〕「ゾウによる踏みつけ」はインドや東南アジアでは一般的な拷問・処刑の方法であり、古代ローマやカルタゴでも行われていた。ライオンやクマなど、処刑用に使役される大型獣は他にも存在したが、ゾウはとくにその知能の高さが重宝され、ただ踏み潰すだけではなく、力加減をしたり多彩な拷問・処刑方法もできるように訓練されていた。その巨大さや強力は「王権の偉大さ」を象徴し、これを民衆に知らしめるという効果もあつた。また、とくに南アジアにおいてゾウは「神聖な動物」でもあつたから、ゾウによる「神判しんめいさいばん（神明裁判）」も行われていたそうだ。これは「ゾウに殺されなかつたら無罪だ！」という、現代人にはちよつと理解しがたい裁判システムだが……しかしこの「神判」は、科学的な捜査方法が無くかつ多くの人間が神を信じていた時代には、人間心理的に自分を引き出しやすいため非常に合理的であつた、とする説もあるのだ……単なる「無知蒙昧な暗黒時代の残酷で不合理な迷信」だとは、一概には言えないかもしれない。かつ!？」

『イヤ……アレハッ！』

「ばおおーっ！」

キックと見せかけて、打ち下ろし鉄槌<sup>パンチ</sup>攻撃！

『すーぱーまんぱんち』『スーパーマンパンチ』パンチの方と同じ脚を振り上げてから、着地する足を切り替えてのジャンピング・パンチ。ボクシングのジョルトブローや空手の飛び込み突き（どちらもステッピングしながらのパンチ）のようなパンチ技。ポーズがアメコミヒーロー『スーパーマン』の飛行している姿っぽい事から名付けられたとか。近年のキックボクシングや総合格闘技やプロレスでは、キック技と見せかけたフェイントとして時々使われ、逆に蹴り技が無いボクシングではあまり使われない。相手の意識はどうしても振り上げた脚の方に行ってしまうため、意外と当てやすい有効なワザだと言われている。この技の使い手としては、元UFCの総合格闘家「ジョルジュ・サンピエール」氏や、WWE所属のプロレスラー「ロマン・レインズ」選手などが有名。……イヤ「すーぱーふれんずぱんち」ダッツ!! 軽量級ノ フレンズ<sup>ほでい</sup>身体ヲ 生カシタ攻撃ッ！」

「最強すぎるだろー！【最強すぎるだろー！】これまでのフレンズの戦闘法をおさらい——尋常ならぬ動体視力とジャンプ力に、ツメ連続斬撃や掴み攻撃をつかうネコ科動物は、スピードとテクニク型（げえむ的に言うところぞく）タイプ）だ！ 長いリーチのマ

フラー打撃技とすばやい蹴り技の連携を駆使するキリンはパワーとスピード型（「ぶとうか」タイプ）！そして、このゾウフレンズは強力な単発打撃技と鼻での投げを使いこなす、いわばパワーとテクニク型の「せんしタイプ」なのだが……しかし、このように「フレンズのカラダ」の身軽さを生かした素早い動きも意外と得意なのである！おまけにゾウは頭も良いのだ！ さつきからフェイント攻撃を多用している理由も、攻撃の当たるタイミングをずらすことで、セルリアンが「ワザと吹っ飛ばされて内臓ダメージを軽減」されるのを防ぐためだ。ヒトの格闘技においてもそうなのだが、「予期せぬタイミングで攻撃が当たる」と、回避も防御も大変しづらいからだ。かしこい。ゾウの駆け引き力う、ですかねえ……。」

ついでにドロップキック「ドロップキック」プロレスでの基本中の基本技だ。だが基本ワザだけあって、見る人が見ればそのレスラーの力量が一発で分かると言われている……寿司ネタでいうと玉子みたいなものか？ マルミミゾウのドロップキックは「スクリュー式」と呼ばれる、現代で主流のフォーム。ジャンプして両足で蹴った後、カラダをねじり、うつ伏せになって受身を取るぞ。名付けてコレ「40文ロケット砲」とか「フレンズ・エグゾセミサイル」と呼ぼう！……ネコ科の華麗なドロップキックほどではないが、ゾウもフレンズのボディを活かしてなかなか軽快で器用な動きをするもの……。じゃんぐるちほーの「チンパンジー道場」での修行の成果だろうか？を一発うつ

!

「だ、だが……? どういうわけか、セルリアンのあの『爆発反応装甲』をうまく避けて攻撃しているが……!?!」

「にやー。そう言われれば、そうねー」

「ゾウさんは、なぜ『セルリアン地雷』の位置が分かるんだろうか……?」

『マルミミゾウハ、足裏デ 音ヲ感知〔足裏で音を感じ(その1)〕ゾウは、5 Hz から数十Hzという「超低周波音」を発生させて、鼻やとくに足の裏でこの振動を受け取ることで、離れた場所の仲間同士で無線通信をする。※低周波：周波数100 Hz以下の音波のこと。「音波」というのは「空気の振動」だが、これが高密度の地面を伝わって「地面の振動」になれば、空気中以上に長距離まで音が届くぞー 私たちでも、地べたのコンクリートやアスファルトに耳をあてると、遠くの何かの振動音がよく聞こえてくるのと同じだ(※アブナイ場所で試さないでくださいネ)。そして、低周波数の音波であれば、岩や木をすり抜けて遠くまで届きやすく、空気吸収や地面による超過減衰がされにくい(※可聴域の音では、障害物にあたると拡散しやすいのだ)。そしてゾウの足の裏の「蹠枕(脂肪球)」（これ、ヒトの手のひらと同じぐらい柔らかいそうだ)には、地面からの振動を増幅させる「アンプ」の働きがある。そしてゾウの足裏には「パチニ小体」という、圧変化と振動を感知する受容体(つまり振動センサー)があつて、これで微弱な

音でも感知できる(※「パチニ小体」は哺乳類の皮下組織に一般的に見られる器官で、ヒトがカラダを触られた時に、その場所がわかるのもコレのおかげ)。このキャッチした音が「骨伝導」により耳まで伝わっているというワケだ。(つづく) シティルンダヨ!』

「ええっ! あ、足裏で音を感じ「足裏で音を感じ(その2)」——話をまとめると、広大なアフリカサバンナの野生ゾウ達にとつては、「足の裏」こそが有効な、遠距離にいる仲間とのコミュニケーション手段なのである。動物園のゾウ達も、その必要はなさそうにも関わらず、この「無線通信」を行うことが観察されている——私たちでの例で言うとは最長で36km先まで届いたという記録がある。また津波や地震などの大災害の時には、ゾウ達が安全地帯まで一斉に逃げ出す現象が知られている(マグニチュード9.0の「インドネシア・スマトラ沖地震」など)。これは、それらの大振動をいち早くキャッチしているからだと考えられている。ゾウの足裏つて「緊急地震速報」や「津波警報」みたいな能力もあるのですね。いっつ!?! そ、そんな能力「足裏で音を感じ(その3)」として余談だが……西アフリカの部族には「トーキングドラム」奏法という伝統的な太鼓の打ち方がある——低音がよく響く太鼓を鳴らして、音の高低やリズムを変えることで遠距離通信を行うという技術だ。単純な合図だけでなく、相手をバカにしたり、商取引までできたりと、複雑なコミュニケーションも可能だという。あるフランスの人類学者

が現地を訪問したとき、このトーキングドラム通信によつて、行く先々の部族に前もつて存在を知られていたというエピソードがあるが——それだけでなく、名前や、どこの村で何をしたかまで、カンペキに伝わっていたらしい……。でもこのトーキングドラムつてもしかして……ヒトがゾウの真似をした、のかも……?? さらに、他の低周波を出す楽器としては、ニューギニア高地の「トンボツク」(アイヌの「ムツクリ」に似た楽器)や、ラバウル島のバイニング族の使う竹の楽器など、世界各地で様々なものが知られている。こういう楽器が演奏される儀式では、その頭蓋骨にガンガン響く低周波を聞いていると、精神が一種の恍惚状態トランスになつて、焚き火の中に裸足で入つても火傷しなくなるんだとか……。そして、作中のゾウフレンドズの出す「超低周波」の場合も、そういう麻酔効果や、闘争心を増加させる効果があるのかもしれない。「げえむ的に言うところ、味方全員にばふこうかのあるじゅもんのえいしようですぞう」by マルミミゾウ(職業:まほーせんし)がっ!」

『ハナコノ「ヒトノ聴覚」(ヒトの聴覚)ヒトの可聴域(聞こえる音の範囲)の周波数は20〜2万Hz程度だ。それに対してゾウは16〜12,000Hzと、低音域の聞き取りが得意だ(逆に、小鳥の美しいさえずりといった高音は全く聞こえないようだ)。ちなみに、イヌの可聴音域は40〜6万Hz、ネコは60〜65,000Hz(※最大で10万Hzとも)、ネズミは1,000〜10万Hz、昆虫食コウモリは1,000〜12

万Hz、イルカは70〜15万Hz……などと言われている（※諸説アリマス）。イヌ・ネコの場合は、低音域については「ヒトの耳」とそこまで変わらないが、「高音域」の聞き分け能力は非常に高い。この聞き分けの差を利用したのが、イヌにだけ聞き取りやすい波長の「高周波」を鳴らせる笛——いわゆる「犬笛」である。ちなみに上記の可聴周波数を見れば分かる通り、「犬笛」はその名前に反して、ネコやネズミやコウモリなど他の動物にも聞き取らせることができる。」二ハ 聞コエニクイ ダロウケド……マルミミゾウハ 低周波音ヲ発生サセテ、殻ノ内側ニ 小型セルリアンガ潜ンデイル「地雷部屋」ノ位置ヲ 大雑把ニ索敵〔索敵〕前述べのゾウの低周波の「無線暗号通信」能力を、ここでは探査装置として利用している。マルミミゾウは低周波音を発生させて、その音の反射を足裏でキャッチして、サンドスターのパワーによりノイズを除去して聞き取り、装甲の下に潜む盗刺胞地雷（トウシホウ）の殻の内部の中空の小部屋に取り込まれた小型セルリアン）のだいたいの位置を見極めている。そこをハズして打撃攻撃を繰り返しているというワケ。これは人間の「アクティブ探知機」や「超音波検査」や「ドップラー・ソナー」といった科学技術と同様の原理だ——また、「低周波レーダー」なる装置もあつて、低周波は遠くまで届くという利点により、軍用ステルス機の早期探知用に研究されている。またコウモリやイルカ・クジラ、トガリネズミ、テンレック、アブラヨタカなどといった動物たちの使う、超音波での「反響定位」能力の原理との類似点もある……。ちなみ

にヒトの場合でも、聴覚障害者の方の中には「クリック音」という舌打ち音を使って「可聴音による反響定位」ができる人もいるそうだ……。だが、ゾウの使う波長が長い「超低周波」の場合は、物体を透過しやすいために、精度の高い探査はできないという欠点がある。しかし図体のでかすぎる戦車セルリアンの「爆発反応装甲」は殻の全面をカバーできていないため、おおまかな位置さえ特定できれば、あまり問題は無いのだ。それにマルミミゾウは（自慢の耐久力があるから、間違つて『ぢらい』が爆発しても、急所でなければ1、2発なら食らつても大丈夫だろう！）という、決死の覚悟で闘っているのだっ！ 「勝利とは、リスクと等価交換で得るモノである」ということを彼女は知っている！ ※なお、実際の動物のゾウが超低周波音でエコーロケーションを行っているとか、精神をトランス状態にしているとか、そーいう観察や調査の記録はありません。フィクションです。シテイルンダヨ！』

「ぞ、そうなのっ!? すげえっ!」

『コレデ、アノ厄介ナ「セルリアン地雷」ヲ ニユートラライズ 無力化【セルリアン地雷を無力化】他にも、サーモグラフィ 熱源探査能力である「ピット器官」を持つ一部のヘビ（ボア亜科・ニシキヘビ科・マムシ科）や、一部のワニ（クロコダイル科）や、超音波による「エコーロケーション」能力を持つ一部のコウモリや鳥類や齧歯類などのフレンズなどは、その「セルリアンサーチ能力」を使えばこの「爆発反応装甲」を無力化することが可能だ。一見すると「最強

すぎるオート反撃兵器」のように思えたセルリアン地雷だが……このようにタネがバレちまえば、たいした危険ではないということだ。『どういう風に危険なのか分かれれば、それはもう危険ではありません』と、あの「かばんさん」も言っていたそうなのだ！ さらに！ 無力化されたどころか、盗刺胞爆発装甲が追加されたぶんだけ重くなつて、もともと遅い動きがさらに鈍化しているうえに、重心が高くなつてバランスが悪いという、進化により新たに生まれた弱点を突くのだ！ がんばれフレンズ達！ デキタネ』

「にやるほどー。そーいえば、ゾウの鼻からぶんぶん音がしてるのは、そういうわけなのねっ！」

と、さつきからなぜか首と耳をかしげて「なぜか首と耳ねこみみをかしげて」カラカルは別に不思議がつているわけではない。動物のイエネコやイヌなどが首をかしげている場合は、聞きなれない音の発生源を探っているという場合があり、それと同じだ。これは耳の高さを変えることで、気になった音をよく聞こうとしているとか、音源との距離を測っているのだ、と言われている。なお、ネコの「音源方向の聞き分け誤差」は、ヒトの約8分の1——ヒトが16°の誤差ズレで認識している音源を、ネコは2°の誤差で認識できるのだ、ちなみにイヌはヒトの2分の1の精度（約8°の誤差）だ（※諸説アリ）。それにネコは聴神経の数じたいもヒトよりも多く、ヒトや、イヌ（ヒトの4倍程度の聴力）よりも、ダントツに聴力が優れている——ネコの聴力はヒトのおよそ8倍と言われ

ている！ なぜなら、ネコは夜間に単独で「待ち伏せ型の狩り」をするからだ——暗闇で、獲物や外敵の位置を正確に探るために、聴覚を進化させてきたのだ。とくに高音域への反応が鋭いのは、小型齧齒類（ネズミとか）の鳴き声の周波数の違いに、敏感に反応するためだと考えられている。さらに、ネコの耳（耳介）には、筋肉が20個以上もあり、左右別々に、自由に耳介を動かして音をうまくキャッチすることもできるし、逆に、耳を倒して不快な音波をシャットアウトすることもできる。そしてネコの耳介はデコボコした形をしているが（ヒトの耳も同様だが）、このくぼみの形には、微小な音を集め共鳴させる「集音パラボラ」の役割がある。※この原理を確かめる実験：ヘッドフォンやイヤホンやスマホの「スピーカー部分」を、手のひらをおわん型にして囲んで集音すると、とてもよく聞こえます、試してみてネ。なお、デコボコが無いゾウの耳介にはほとんど集音機能が無いが、かわりに大きな表面積による放熱器官ラジエーターとしての役割があるぞ（後述）不思議がっていたカラカルも納得の様子！

「うもおーっ！ マルミミ、ゾウ！ すげーいぞーっ！」

「アンタのワザ、効いてるわよっ！」

カラカルとキリンの言う通り！

戦車の上に陣取ったセルリアン寄生体も、目玉をひん剥いてビツクリしているっ！

見よ！ 触手に付属した多数の目をグルグル回して「目をグルグル回して」こう言われると、まるでカートゥーンアニメのように「グルグルうずまき目になっている」みたいに聞こえるが……寄生セルリアンは本当に眼球を反転させている。これは、ダメージを受けた際に眼球を裏返すことで、眼球の裏側の丈夫な「強膜（つまり白目）」を外側に出してゐる。以下でヒカリの言っているとおり、角膜を保護するという生理的な反射行動であり、セルリアン一般に見られる習性だ。白黒させている（目を）白黒させている」これも「動揺している」という意味だけでなく、上述のTIPのとおりで、セルリアンは実際に白目を剥き出しにしている。現実世界の生物では、一部のサメ（ホホジロザメなどの「ネズミザメ目」のサメ）も同様に、獲物に喰らい付くときに眼球を裏返す習性を持つてゐるぞ。また、別の眼を守る手段としては、「瞬膜（第三眼瞼）」と呼ばれる白い膜で「目を覆う」ことも、多くの陸上動物（鳥類や霊長類を除く哺乳類など）や、メジロザメ（まさに名前の由来だ）の仲間などに、広く見られる行動だ。他にも3000本の歯を持つウロコで目を守るジンベエザメや、眼球ごと体内に引っ込める生物（ゴソんじカタツムリやナメクジといった無脊椎動物や、カグラザメ、それにジンベエザメも）……などなど、ふしぎな眼球保護の方法が自然界には存在する。ではないか！

『イヤ、ぐるぐる眼ハ タダノ 生理的ナ反射ダネ……。アノ「透明ノ殻」透明の殻（その2）この「透明な殻」は、硬い曲面装甲による避弾経始（砲撃を逸らす防御）効果が

ある。これはボクシングで例えるなら、スリッピンングアウエイ（パンチの当たったときに顔を背けて威力を受け流すという緊急回避技術）と同様の原理！ 丸い殻で、銃撃・斬撃・刺突などを、ななめに弾いて無効化するという恐ろしい防具なのだ！ こういう装甲を持った敵には——中世ヨーロッパの戦争では、全身鎧を装備した敵には、棍棒や連接棍棒フレイムで叩いたり、投げ技で地面に倒したり、関節技で固めたりなどのワザが有効であつたように——内部へと威力が浸透する打撃・組み技が有効なのは定石だ……。ゾウもそう考えて、そういう攻撃を繰り返しているのだが……軟体の触手のみで構成された寄生セルリアンだからか衝撃ダメージも思ったより効かない様子！ さあ、この「蝟壺に潜むタコ」を、ゾウはどう攻略するのか!?」二守ラレタ状態デハ、裸足デ、びー玉ヲ踏ムヨーナモノ……。ばんちモ きつくモ 滑ツテシマツテ、内部へ衝撃ガ 上手ク伝ワラナインダヨ！」

「マジですかっ!? やべえ！ あ、あの『透明な殻』をどう攻略するつもりなんだ……。ゾウさんは……?？」

「ぐ、ぐおー！」「ぐおー！」ゾウの声はマンガなどでは可愛く「ぱおーん」と書き表されることが多い。※英語だと「barag」という擬音オノマトペで鳴く。ゾウの鳴き声というものは、近年までどういふうに発声されているのか不明であつたが、我々ヒトや他の

哺乳類と同じく、声帯を震わせることで発声されていることが分かっている。そして、分かっているだけでも80種類以上の鳴き声を使いこなすことが観察されている。興奮したときの鳴き声は、よくあるイメージの「パオーン！」という「トランペット音（ラッパ音）」と呼ばれる甲高い大音響。驚いたときや怖がっているときは「グオー！」という低く大きな叫び声。警戒しているときは「ブルルル……」という、低く小さなうなり声。「ランブル音」「グリーティング音」「ゴロゴロ音」「キーキー音」などなどあつて、ゾウつて、意外とおしゃべりな可不是。※ちなみに、世界初のゾウ語翻訳サイトの「Hello in Elephant」というサイトがありますので、興味のある方は【参考資料】のところを見てみて下さいネ。よおーしっ！ならばこれだぞうっ！」

ダンゴムシセルリアンの外骨格を相手に……強力な鼻クラッチ（鼻クラッチ）  
 clutch<sup>クラッチ</sup>とは英語で「ぴったり噛み合う」「しっかりと掴む」「固く組み合わせる」といった意味。レスリングやプロレスにおいては、とくに両手をしっかりと組み合わせる「強力な指組み」のことを指す。なお乗用車やオートバイの場合は、エンジンと変速機<sup>トランスミッション</sup>との間にある「動力伝達機構」がクラッチと呼ばれ……そしてMT車<sup>マニュアル</sup>でのその手動（足動？）遮断装置（ペダルやレバー）が、やはりクラッチと呼ばれている理由も、内部で歯車同士が精巧に組み合っているためだ。※ちなみに「crutch」とつづりを間違おうと「松葉杖」になってしまうので意味が全然違う。プロレスラーのガチのクラッチ



背中から落ちて、地面に埋もれたセルリアンの巨体を……さらに引っこ抜いて！  
もう一発、後方への反り投げだっ！

グラウンド状態での連続スープレックス「連続スープレックス」アレクサンドル・カレリン選手（後述）の必殺技「カレリンズ・リフト」を思わせる、セルリアン連続投げだ！ 「カレリンズ・リフト」は、サイドスープレックスパーテールポジション（レスリングでのグラウンド状態のこと）の相手に、俵返（別名：大砲投げ）を繰り返す……というだけのシンプルなワザで、そういう光景は軽量級や中量級アマレスではごく一般的に見られるが……重量級の試合では、現在も過去も未来もカレリン選手しかできなかった超必殺ワザである！ このワザを恐れて、対戦相手はわざとフォール負けを選ぶことも珍しくなかったという……。作中では、アフリカゾウ並みの体重を誇るダンゴムシセルリアンへの、連続グラウンド・リフトアップ・スープレックス！ ゾウフレンズの「大砲」が重戦車に炸裂だあっ！ これはまさに38億年の生物史上初！ 前代未聞！ 空前絶後の光景だあっ！ こんなのジャパリパークでしか見られませんよ！ このゾウフレンズ技に名前をつけるならば……アフリカ大陸を南北縦断する大地溝帯グレートリフトバレーから名前を頂戴し、何度も深い谷を転がるが如き威力の必殺技「ゾウさんズ・グレートリフト」！ だあっ！

投げが地面に着弾するたびに大きな爆発音！

「あ、あれはセルリアン地雷の暴発だ！」

『ナルホド……アアヤツテ、爆発<sup>E</sup>反応<sup>R</sup>装甲<sup>A</sup>ヲ 地面ニ叩キツケレバ、「地雷除去」デキルツテ ワケダネ……。アノ爆発ノセイデ、投ゲノ衝撃力ハ 下ガツテイルヨウダケド ……』

とはいえ「下がった威力は数で補う」とばかりの、スープレックスの連打連打連打の出血大フィーバー！

深夜のサバンナを揺るがすほどの投げ技の投げ売りバーゲンセールであつ！

ロケット爆撃でできたクレーターが、さらに数が増えていくぞつ！

人類最強の男がアレクサンドル・カレリン（アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・カレリン）身長191cm！ 体重130kg！ 背筋力400kg以上（ゴリラ並みにスゴイ）！ ベンチプレス320kg！ 13年間無敗！ 公式試合300連勝！

……という、圧倒的フィジカルを誇るロシアの伝説的レスリング選手。通称「霊長類最強の男」「オリンピック2千年の歴史で最強のレスラー」。「生まれたときに体重が6.8kgもあつた」とか「引越して120kgを越える冷蔵庫やタンスをアパートの8階までひとり運んだ」などという超人的な逸話も数多くある。そしてオリンピックレスリング・グレコローマン130kg級で3連続金メダル獲得という超偉業により、日本人にも広く知られている。また「格闘王」前田日明氏の1999年の引退試合で、そ

のパワーで前田氏に圧勝したことも格闘技ファンには有名な話だ。前田氏いわく「ダンブカーの正面衝突」「鉄の塊と試合」「えつ、こんなクラッチあるの?」「競走馬と同じ筋肉」であつたという……。※ロシア語まめちしき・カレリンの「アレクサンドロヴィチ」というミドルネームは、「父称」と呼ばれる、父親の名前から取られる名称だ——つまりこの場合、カレリンのお父さんも同名でアレクサンドルということ。「父称」をつくるときは、父親の名前を変形して、男性の場合は—<sup>オ</sup>Ви<sup>チ</sup>や—<sup>エ</sup>Ви<sup>チ</sup>、女性の場合は—<sup>オ</sup>В<sup>ナ</sup>や—<sup>Е</sup>В<sup>На</sup>などの形になる。父称システムは日本人にはなじみが無いが、ロシアなどのスラヴ語圏や、アラブ・イスラム圏、アイスランド、モンゴルなどでは一般的に使われているぞ。で、人類最強の女が吉田沙保里選手【吉田沙保里選手】女子レスリング個人世界大会（五輪＋世界選手権）16連覇（カレリンの記録を更新）！ 個人戦206連勝！ 通算成績333勝15敗！ 「霊長類最強の女」や「女カレリン」の異名を持つ日本人女子レスリング選手。三重県津市出身。オリンピック女子レスリング・フリースタイル55kg級で、2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドンと3連覇を成し遂げている。必殺技の予備動作の無い「超高速タックル」が有名。カレリンも「彼女には素晴らしい技術とタックルと経験がある」とべた褒め。獲得したのは金メダルだけではなく、国民荣誉賞や紫綬褒章ほか色々な賞ももらってます。2019年には現役引退をしたが、2021年の東京五輪の聖火リレーの津市区間の走者とし

てお母さんと走っていたことも記憶に新しい。(ホントに言ったか知らないが) 吉田選手はこんな名言も残している『女に生まれてよかった。男に生まれたらきつと試合で人を殺してた』……うーむ、強い！ 絶対に強い！ なら……！

フレンズ類最強は、ゾウフレンズなのかあ……っ！

「セルリアンをコピエに誘い込む作戦」「セルリアンをコピエに誘い込む作戦」正式名称：にやんにやんおっぱいファイアー作戦。読者の方もスツカリ忘れてそうなので、おさらい——ネコ科フレンズがセルリアンを弱らせてから火を使って追い立てて、岩地<sup>コピエ</sup>まで誘い込んで岩を落として封印する、という作戦です。だいぶ予定と違う感じですけど……。それにしても、コピエの「岩設置組」や草原の「ファイアー点火組」のフレンズ達の準備は、まだ時間がかかるのだろうか……？」なんて、初めから要らなかつたんじゃないのか……？

「こ、こいつはすごい戦いだぜえッ！」

「ハナコ、よだれすごい垂れてるわよ〜」

「やややつ！ これは人間的に失礼！（ずびっ！）」

「ぱっ……おおくん……」

「あ！ ゾウさんっ！」

このまま一気にセルリアンを葬ってしまいそうな勢いだったマルミミゾウだが……

急に息を荒げて、攻撃のペースが落ちてきている！

「んはあつ、はつ！ はあ、はあつ……！」

丸い耳をぱたぱた打ち付けている！

『コ、コレハ マズイ！ 大型動物ノ フレンズガ アレダケ激シク動ケバ、おーばーひーと【過熱】<sup>オーバーヒート</sup>小型の日本車の軽よりも、デカイアメ車のほうが、当然エンジンがあつたまりやすいのと同じで、大型の動物ほど暑さに弱い。どっちも工学や生物学における「2乗3乗の法則」によるものだ——カラダの大きさがたとえ2倍になると、「生み出す熱」は体積に比例するから $2 \times 2 \times 2 \parallel 8$ 倍になるが、「放熱能力」は表面積に比例するから $2 \times 2 \parallel 4$ 倍にしかならない。つまり、サイズが大きくなるほど、車も動物もオーバーヒートしやすくなるのだ。それにゾウは汗をかかないので暑さがとてもニガテな動物だ——というか、ヒトやウマやカバなど汗をかける動物のほうがじつは少数派だ。イヌ・ネコなんかは汗がかけない代わりに、涙や唾液や鼻水の蒸発による「気化熱」<sup>マズル</sup>や、鼻先や舌などの毛細血管で放熱し、体を冷却するぞ。だが大型の動物……たとえばアジアゾウの場合は、気温 $31^{\circ}\text{C}$ の日中では4時間で致命的な体温になる計算だという！ 夏場の動物園でよく水浴びしているゾウさんを見かけるのは、そういうワケです。

「デカいのも大変なのです。たとえフレんズの小さなカラダであっても、大型獣のパワーを発揮すれば、熱がこもってオーバーヒートするのは必然！ 軽自動車に「大排気量エンジン」をムリヤリ搭載したようなものだからだ！ 深夜の熱帯草原の低温外気の対流効果や、大きな丸い耳をあおいでの毛細血管からの放熱や、サンドスター気化による冷却作用などで熱を逃がしても、それでも長時間は活発には動けないのだ！ダヨツ！」

「な、なにいつ！」

疲労の色濃いマルミミゾウ【疲労の色濃いマルミミゾウ】（セルリアンにもなかまにも今まで隠していたけど、限界かも……。」「ひとつぼいんど」がちよつとやばいですぞう。こうなつちやう前に、もんすたあを攻略するつもりでしたが……。こ、ここまで強いとは……。ミスったかも……。りあるって、げえむのようには、上手くいかないものなのですなあ……。） by マルミミゾウ……。！

「も、もうフラフラじゃない！ あんなに無理して！」

マルミミゾウの攻撃が止んだそこへ！ すかさず戦車セルリアンが超信地旋回しながら、殻のエッジを利かせた回転体当たり！

マルミミはこれを両象牙十字受で防御せ

だが！ 疲労困憊で反応が遅れてガードしきれない！

「ばっ！ ばおおおーっ！！」

ガード越しに、大質量の衝撃をまともに喰らってしまおう！

『直撃<sup>くりんひつと</sup>デハナイケド、アノ巨体<sup>ふいじかる</sup>デノ威力ダヨ！ ハナコ！』

「くそっ！ セルリアンの野郎っ…………… あんなに攻撃を食らったのに、まだまだ元気いっばいじゃないか……………!!」

『モシカシテ…………… セルリアンハ ワザト 攻撃ヲ受ケ続ケタノカモ……………!』

「そ、そうか…………… 意図的に隙を見せて、効いているふりをして、ゾウさんに大技を出させることで、彼女の疲労を誘ったっていうのか……………!?!」

『ダトシタラ、アノ寄生体ハ、想定以上ノ 知能ノ高サダヨ……………』

「うももも……………マルミミゾウ、あんなに無茶するからよ……………!」

「それも、アタシ達のためにね……………」

『大型動物ノフレンズハ、空气中サンドスター固定ニヨル「自然治癒」ガ 遅イ！ 短時間<sup>間</sup>デハ、十分ナ回復ハ 無理ダ！』

「くっ……………」

『アンナノ、モウ一発 喰ラツタラ、マズイヨ!』

「なんとかしなければ!」

「こうなったらカラカル！ 病み上がりのところ悪いけど、あなたとキリンわたしが出るわよ！」

「ヨシ！ 病み上がり、のぞむところ！ まかせとけ！」

「いや！ ふたりともさっきのケガでは、ヤツを相手するのは無理だ！ ここは、私にいい考えがある！」

「えっ！ ハナコ！ いい考えって!?!」

「ぶ、ぶるるるっ……」

と弱弱しいうなり声を上げて、とうとう地面に膝をつくマルミミゾウ！

のろのろとしか走れない動けない彼女を引き潰そうと、助走して突進をしかけるセルリアン！

「おお、ヤバイツ!! ゾウさんっ!! カラカル、場所代わってまたバイクこのうんてんこを頼むっ！」

「え、えーっ！ またこの子をくっ!?!」

「さつきもやったんだから大丈夫っ！ ツノを振って、マルミミあゾウこに向かって走らせてくれっ！」

「にやにくっ！ うう、ニガテだけど、やるつきやない！」

マルミミ、ゾウとセルリアンへと突進する、ジャパリサイドカーバイク！

私はその側車の上で立ち上がってアンテロープの角と骨と腱と皮で作った「クロスボウ」を構える！ キリンの肩にクロスボウをマウントさせての、長距離射撃姿勢！

「あ、ちよい待て……」

「なによ？」

「ボウガンを……こう、『あなたのツノ』にはさんだほうが、しつくりくるな……高さ的にも……」

「そ、そこはあ……！」

「おお、ぴったり安定するッ！ キリンのツノ【キリンのツノ】よく「じつは5本ある」と囁かれているが、海外の専門書では3本と言われている。キリンのツノのうち、頭頂部の高く出っ張った2本と、その間の真ん中の額の盛り上がり部分は、皮膚（真皮）の中に骨格から独立して形成される「皮骨」という骨が発達したモノだ（※ワニのウロコやアルマジロの甲羅の中身なども、同じく皮骨だ）。これらのツノは、はじめは頭蓋骨と離れているが、成長するにつれてガツチリと骨格と癒合する。なので、あのポンポンしたかわいいツノだが当たるとめっちゃ痛いとか……。そして個体によつては、まれに後頭部にも2本のツノっぽい部位があるが、こちらは頭骨の一部が変形したものだ。ほかに

も大人のオスキリンの場合は、目の上で同じく頭骨が変形して、たんこぶみたいなツノっぽい外見になることもある。ってこういう使い方が!! 新発見!!」

「そ、そんなところにいく!」

「へ、変な声出すな! 真面目にやれっ! ゾウさんがピンチなんだぞ!」

『ソウダヨ。キリンノ 筋肉質ノ首ヲ活カシタ 依託射撃ダヨ!』

「も〜!」

「ヨシ、ヒカリさん! 照準援護頼む!」

「了<sup>あふあーまていぶ</sup>解<sup>F C S</sup>! 射撃管制系、作<sup>あくていべいでつと</sup>動! 僕ニ マカセテ!」

柄付焼夷手榴弾に、シマウマの大腿骨をダクトテープで巻き付けてつくった矢<sup>ボルト</sup>だ!

これをクロスボウに装填!

『「ぐれねーどらんちやー」 トイウ ワケダネ……!』

「そうです!」

『ダガ、ろけつとらんちやーノ砲撃ニ 耐エタ相手ダヨ? 手持チノ焼夷手榴弾<sup>ハンドグレネード</sup>1個程

度ノ 装薬量<sup>いりよく</sup>デハ……!』

「ここはいちかばちかだつ! 弱点を狙う!」

『……君ノ ヒトノ本能、僕ハ 信ジルヨ!』

「アタシもだ!」

「わ、私の脳細胞も信じてるわよ！」

「よし……！ セルリアンが、あそこの木に近づいたときに……！」

「加速！ 加速！ もつと速く！ 慣性ドリフト使うんだっ！ カウンターステア！

あそこクリッピングポイント！」

「うにゃ〜！ 全然分からん！ こうなりややけだ！」

ヤツを誘って！ もつと加速させるんだ！

そしてセルリアンが蟻塚に生えた大きなアカシアの木に最も接近した瞬間！！

ボーガン発射だっ！！

矢はゆるい放物線を描き……「セルリアン戦車」の上部の、寄生体めがけて飛んでい

く……。

寄生セルリアンの触手についたたくさんの眼球が、その投射体に視線を投げかけている【視線を投げかけている】ヒト・フレンズ・セルリアン、そして、イヌやウシなどの一部の家畜や、ゾウなどの一部の野生動物——これらの生物は「白目（強膜）の面積が広い」という共通点がある。この眼球の解剖学的特徴が何を意味するかと言うと……視線によってコミュニケーションがしやすいということだ。視線の方向が分かり易ければ、味方同士の意思疎通や、敵対者への威嚇などの「視線での誘導」が可能となる。た

たとえば、集団で狩りをするオオカミの場合、白目の面積は少ないが、代わりに虹彩ひとみの色が薄い——おかげで瞳孔での目くばせでの意思疎通がやりやすく、ハンティングに役立つているという調査結果がある。逆に黒目の大きいチンパンジーなどは、知能は高いが、こういった目くばせ行動がまったく理解できないという。そしてパークのセルリアン達は、多くが視力に優れており、家畜のように他種セルリアンを従えることもあるため、この「視線での誘導」能力はとても有用なものなのだろう……。だが「白目」にはデメリットもあり、作中のように攻撃や逃走、注目の方向が視線でバレやすいこと。この寄生セルリアンの場合ほとんどに判断力・知覚力の高さが裏目に出ている。※セルリアンのものである超記録再現物質「サンドスター」の「記憶し保存する」という性質によって……見慣れない動くモノに対して、その動きを記憶しようとしてつい気をとられてしまふという習性がセルリアン全般にはあるぞ。つまりセルリアンに対しては、さっきのマルミミゾウの攻撃時のようなフェイントが有効！ ヒトの格闘技での「読み合い」での陽動やブラフなどといった、「かけひき」を使うべし、フレンズ軍団……！

そして矢は、寄生体の「金魚鉢」……よりも、大きく下へと……！  
 『ハ、外シタカッ……？』

「よし！狙い通りだ！ セルリアン装甲のあの場所へ爆風を！」

私は銃トカレフを引き抜き、安全装置ロツクを解除！

「ヒカリさん！」

『ナルホド！ 地雷ヲ 逆用スル ツテワケカ！ 照準ハ マカセテ！』

マルミミゾウがさつきから攻撃を避けていた場所のひとつ！

パンチやキツクの跡に囲まれてキレイに形が残っているから、分かりやすいぞつ！

戦車セルリアンの殻に焼夷手榴弾が着弾！する同時に、手榴弾を銃撃で狙撃する！

一発で火薬部に命中し、炎が巻き起こる！

その爆炎の巻き起こす風圧でセルリアン地雷が自動起動！！

「や、やったぜっ！！」

寄生セルリアンの意思と関係無く、勝手に炸裂した「爆発地雷」！

それを構成する小型セルリアンどもの、大アゴや注射針といったワイヤートラップが

飛び出し、トゲだらけのアカシアの木に喰いつく！！

高速走行時にワイヤーに引っ張られ姿勢を崩し、曲がり切れない！

木にからみつき、さらに岩に衝突するセルリアン戦車！！

「その姿は、『効いている演技』じゃないようだな……」

「みんなーっ！ やったーっ！」

「わとすんみたい！」

『ファイアーホルト じゃっくほつと』  
 炎ノ 矢ガ 大当タリダ！ セルリアンノ地雷ヲ処理シタヨ！ ソレニ、アレデ シバ

ラク 動キヲ封ジラレルヨ！」

「単車での流鏑馬やぶさめだったけど……ふー、なんとか上手くいってくれたか……。」と私は一息つく。

「その場しのぎの進化が逆にアダになつたみたいだな……自分の能力ワイヤー触手で、自分の足を引つ張るとは……。」

『引ツ張り合ツテルネ、手モ 足モ「引つ張り合つてるね、手も足も」言葉どおりの状況。爆発反応装甲のセルリアン触手と、戦車セルリアンの歩脚が、ものすごい勢いでこんがらがっているぞ。、文字通りネ』

「もお！ あれぞ、みすてりいで言うところの“地上のもつれ”状態！」

「しかしセルリアンめっ！ 乗りこなせてないな！ カラカルやライオンさん達に切られて、脱皮再生したとはいえヤワになつたグリップ力が低そうな多脚あしまわりで、あの大重量だ！ なのに……なんたらかんたら（理屈が長いので省略）（理屈が長いので省略）「ハナコ」——なのに、このオフロードのサバンナの摩擦係数ミューが低い土砂ダートで、あんな急に減加速すればバランスを崩すのは必然！ それに、あの前部の殻まへのふち部分のフロントスポイラーみたいな増加装甲や、後部の逆に取り付けたウイングみたいな増加装甲は……何かにひっつかかれば、後ろがはねあがってしまう形だ！ で、ワイヤーに引つ張られたま

ま、進入速度が高いコーナーだけでもの段差ギヤツプを拾ってスピニングしてコースアウトしたってワケ！」カラカル（……??）にや……にやんだって？ よーわからんことばはヒトのつかう鳴き声かにや？）キリン（私のたぐいまれなる推理力でも全然分らない……！ でもたぶん『ますぐれーぶけのぎしき』や『ぐろりあすこつとごう』といった、ヒトの使うあんごうの一種よね！）」

「ハナコ、にやんだそりや??」

『ツマリ「重イシ、ばらんすガ 悪クテ、コケタ」ツテことダヨ』  
「にやるほど」

「あのセルリアンには……ABSがついてないみたいですねえ！」

『ハハハ！』

「ヒトの言うことは、全然わからんにや〜」

しばらくして、砂埃が止み、満月の光の下でよく見ると……セルリアンの砲身の根元くびねつこがひしやげている！ 戦車の砲塔キユゴラに相当する部分だ！ 今の高速度衝突で、前部の殻はひどく潰され、ハコガメのフタのような蝶番機構もオシヤカだ！

「今の攻撃で！ ……いや、キリンやゾウさんの猛攻で、装甲が劣化していたおかげか……」

これでもう「砲身」で射撃することはできないっ！

ヤツの「遠距離攻撃」を完全に封じたぞ！

そして！

セルリアンから無事に距離を取るマルミミゾウのもとへ、ジャパリバイクで接近して救助だ！

私は彼女の頭に水筒の水をかける。

「これだけしかないけど……ここでちよつと水浴び休憩！」

「ちべたくて気持ち良いっ！ ハナコさん、ありがとう！」

『シカシ……今ノ戦力デハ、コレ以上 セルリアンヲ食イ止メルノハ 無理ダヨ！』

「うもく。岩場コピエでの『岩落とし作戦』の準備は、進んでいるのかしら……？」

「ヘビクイワシから『知らせ』が来るはずだけど、来ないわね……」

『ぱーくがいどノ「らつきーびーすと」達カラモ、僕ニ 通信ガ入ル 手筈ダケド……。』

サツキカラ 定時連絡ガ無イヨ……』

「何か、あつたのかしら……??」

「だが……もう予定通りコピエに誘い込むしかない！ 私独りで、このバイクで行きま  
す……！」

「アンタ独りじゃ、無茶よっ！」

と、私達と話している所へ……。

びよこん！

と、突然！ 灌木の影から飛び出してくる小さなシルエット!?

「うお！ 新手のセルリアンかっ!?!」

とつさに拳銃を抜いて構える！

「ヒ、ヒイーツ！」

むむむ、人影!?